# 續群書類從

第參拾參輯上

東京

續群書類從完成會

# 續群書類從第參拾參輯上目次

## 雜部

續群書類從第參拾參輯上目次終

# 續群書類從卷第九百五十九

總撿挍保己一集
男　源　忠　寶　校

雜部百九

## 貞德翁乃記 目錄ニハ貞德翁筆記トアリ

一玄旨法印は年比いたくわつらはせ給ひし間。ことしはいかに老させ給らんと心もとなくて。晧月のはしめつかた。吉田の御庵室へ參侍しに。おもひの外こまかへらせ給て見へさせ給けれは。人しれぬ心の中にうれしくするたのもしく思侍る。さて御試筆のものなと尋侍しかは。

七十にみちぬる鹽の濵庇久しくなりぬわかの浦なみ

御自筆の詠草を見せさせ給ぬれは。やかて申うけ懷中し侍る。例のことくみつからのをもたてまつらしめ侍。

散た花疊るをやかて霞にて雪けの空に春はきにけり

三首の中に此歌をふかく興せさせ給けり。その次に卷頭のよみやうなと尋ね奉りてまかり歸けり。みつから十八年このかた。このはるのやうに心のまゝなることは覺へ侍らす。いかさま何事も初から成ものなれは。ことしは思ふやうに歌をもとひ奉るへしと心をこりして悦けるか。そのことくかの御庵室も都へうつされて。ほとちかくなりけれ

は日々に參かよふこそ。住吉の御はからひとありかたく覺へ侍れ。みつからの宅は三條衣のたな。かの御舘は姉小路の通。烏丸と東洞院の間。西は場町。北は車屋町と當時申なり。

一古今序の清濁を尋ね奉りし中。治世は。チイセイ。乞食は。キツショクトヨムヘシト云々。

一假名序のふかくさの御門を。フカウサトヨム。如此のよみくせは古今の時はかりにて。自餘の本にてはよむ間敷かと尋侍しかは。いつくにてもさやうによむと云々。

一霜のふりはもは。フリワトヨム也。モハ付字云々。

一短歌と長歌とは同しもの也。長けれともはなして見れは短けれはかよひていふ也。これ正說也。かやうの口傳別に猶錄之。

一能登の伊藤といふもの。稱名院殿に八の木の煙たへてと。もてわたらせ給おりふし百貫つみて古今傳受の望をかけしに。物こしに見給ひて。あれは俗人なから禪衣にてくはらかけしものなり。何とおほしけん御承引なかりしと語給ひけり。

一紹巴にも稱名院殿は御傳受なし。そのいはれは既に貫之乞食の客は活計の媒とせむとかきたり。是をもちて世わたりのためにせ〱心たてあるものなりとの給しと語給ひき。

一紹巴身まかりたりと語侍しかは。あはれかはかりの者出來ましとのたまはせける間。さやうに後生にも有かたきほとの者にてや候らんと申侍しかは。いやさにはあらす。心もふつゝかなる所おほく。かくもんなともこもやかには見へさりしかと。仙覺ほと成人なけれは。か程なる者出來ましきなりと

のたまふ。
一袖ひちてとはよむへからす云々。むへ山かせ。花とや見らんなとはくるしからぬ詞なり云々。
一櫻ちる木の下風。月やあらぬの類もかやうにつゝくるを制するなり。此歌を本歌にとるは制するにあらす云々。
一あらすといふは非の字也。無の心にはかはるへし云々。
一昌叱法橋日ころわつらひしか。このころ舟いでたりと及以法師かたり侍。さては煩は何にてか有しとゝはせ給に。膈といふ病也といへば。それかや家船といふはと秀句ありて。後々あはれかり給。
一旋頭歌。混本歌はいかやうの時よむ事そと問侍しに。いやいつよむといふ事もなし。只歌の一ツの體也云々。

一ある人古今集の大事とて。かきたるものをみつからうつして見せ奉りしに。よろしきもの也。此うへに傳受とは少つゝの口傳はかりある事もこそ侍れと。ありのまゝにの給ふ。世の中の人のならひ。さやうの秘密あることをは。よきもあしきやうにのみいひかすむるを。さらさらさやうのわたかまり(こカ)もなく。よろつの事すなほにみえさせ給とそ。つみなくありかたく思はれ侍なれ。
一さくらあさとは。葉のあかき麻をいふなり。
御國忌。ミコツキトスミテヨム。
一やよひのころくらまにて。
おりたつとあなたこなたの花にきて猶心ひく鞍馬山哉
一百人一首御講釋は。忝もみつからと朝加法師か爲に五月十四日にはしめ給て。同廿二日によみおへ給ぬ。烏丸殿。阿野殿も御出座あり。松下民部少輔。守田撿挍等聽聞。

廿八

一詠歌大概は烏丸弁殿御發起にて。同五月晦日よりよませ給て。六月八日によみはたし給。是又聽得せしむ。信仰し奉るゆへにや。殊勝きもに銘す。老後の御かう釋枯木に花の咲たるかことしと。みな人感涙を催する日本國の神そ。猶三光院殿御講談。其外御才智には四分一も不及と。度々みつからの給ふこそ。彌御心の中難有おほへ侍る。

一川社とは水のあつまる所をいふ。惣て社の字示片に土也。人の參詣しけき所は社といふ。

一亡父に具して文祿二年十月十三日に玄旨法印へ參（聚樂御殿。）所に。奥の間にて一ノ箱を開き。御傳受の秘本悉みよとて見せ給ふ。傳心抄と外題のある本。大小四卷。（青へウシ。）皆三台亞槐と奥書幷御判あり。コレハ三光院殿ノ奥書也。玄旨御聞書ノ淸書の本也。

一七夕に扇といふ題にて。をの〳〵よみ侍しに。

（みな）世の人の星に手向の扇もや雲井にあまる秋の初風

坂田吉右衛門之昌といふもの丶其座に居侍しか。よくよみける。

入月のほの名殘とも見ゆる哉星に手向て置し扇は

一太皷のかしら。觀世今春のかはりめ。てん〳〵〳〵。（今春のは初のてんたつよく大ニうつ。觀世のは初のてんたよはく後のてんを大ニ。）

一面にフカイオモテと云は作者の名也。越前深江と云者ウチシト也。

一以上といふ字のよみやう。筭用等のおはりにあるは上文字をにこる。其外コレヨリ以上ナトいふ時は上文字をすみてよむ也。これ三光院殿たひ〳〵仰られしこと也云々。

一慶長九甲辰

ことしは元日に車屋町の御館へまいる。御

試筆のもの なと尋侍しかとも。世に聞しる人もなしとやおほしけん。又はおほしめしめくらすひまやなかりけむ御うたはなし。みつからのを見そなはし。うかゝひ奉りし中に。

をしなへて大宮人の外までも櫻かささむ春はきにけり

天の戸の明る朝日もけふこそと神代の春や思ひ出らん

これらやしかるへからんとの給はせけり。

一さる所に古今の切紙の有しをみせ奉りしに。有代といふことを御相傳あり。

一龍山(近衛禪閤)元日の御歌とて。大くさとのかきうつしてもて參給ふに。

霞む共霞まぬとても春のくる空の氣色や隠れなからむ(世にしるからんイ)

轉傳書寫の あやまりもや侍らん。この結句いかゝと尋侍しに。二五とてきらひ侍るとのたまふ。

一すきひたいのかうふりは。ひたいをすかす也。若年は血氣つよきゆへなり。

一さゝらをとゞりは。めしろといふ鳥也。

鶯の梅の花笠ぬひをれはてちたいしけりさゝらをと鳥

一さいたつま。虎杖也。

一八條宮より風にまたゝく波のとをしま。この清濁御尋有しに。まだゝくをしまとにこり侍るよし御返事あり。

一しらはやしといふは三輪にあり。はうゐの舞とは。たふのみねにてある事なり。今の世にもならひ置たる人は侍るへけれとも。この法印は似我與右衛門。彦右衛門らの なといふ名人共をあつめて。そのゝゝか中にてはやしおほへ給けり。すへて大鼓の大事共をは。たかやす忠右衛門といふものよく傳へて聞書せられけり。連歌なとの ことをは多阪吉右衛門と いふもの よく聞書をせし也。

一古今序をよませ給時たつね侍し。大内記紀友則。大ノ字すむへし。秋の月の夜ことにさふらふ。月のよと切て。ことにとよむへし。なからの橋もつくる盡字也。

一石はしる瀧なくも哉の注。瀧の景氣手折れぬ程に。みぬ人のためいかゝといふ。いかゝと尋侍れは。それもよき說也。非不用也。

一卯月十日たつね侍し條々の内に。はしたかのつ。萬心みし翅といふことを。紹巴。昌叱と幽齋として。百首ッ、同題にてあそはしける歌の中に。御詠に候いかゝと問侍しに。是は鷹のたいかせうををふてみると也。そのつよきを。わかをつとゝさたむる云々。

一卯月十三日出條あ所にてさゝいといふ小貝の肴に出けるを。これさいはらにいへるさたい也との給ふ。あはひさたいかいよけんと云々。

一五月七日事の次に尋侍る。國主に日向をは日にむかひてもなとゝよみ。加賀をはよろこびくはへていそくなとゝよみけり。今も先例なき國所の名なりとも。よろしくはやはらけつゝ。いはてかなはぬ時は申へきか如何。くるしからす。

一五色のほめやう。青。見事。黃。けつかう。赤。うつくし。白。うや〳〵し也。黑。くすみたり。備中屋一噌かたりけりとて。其門弟笛吹矢野道九申されし。慶長十乙巳六二

一觀世又次郎に枕拍子の事とひ侍しかは。歌にあそはされ候まくらこと葉とやらんとひとし。後に打つきたる先うつ拍子を申也。跡にはしらかすへきとて先うつ乙を枕乙と名付たりとて。打て聞せられし也。乙巳六廿九秋

右一冊櫻木何某所持貞德自筆ヲ。以所寫也。
卷物。長八寸五分半。軸長壹尺半。

元祿二年五月二日

# 寒川入道筆記

歌連歌同詩聯句之事。

一。三十一字の歌のはしめは。さらに申もことふりにたれとも。そさのをのみこと出雲國にいたりて。宮つくりしたまふ時。やいろの雲のたちけるによみたまへる歌。

八雲たつ出雲やへ垣妻こめにやへ垣つくる其やへかきを

あまつかむのみむまこ。わたつみのひめにすみかよひたまひけるを。うのはふきあへすのみことをうみをきたてまつりて。わたつみの宮にかへりたまひけるときによみたまへる御歌。

沖つ鳥鴨つゝ(とく)しまに我いれしいもは忘しよのこと〳〵に

かくよみたまひたれは。とよたまひめの御返事。

吾玉の光はあれと人はいへと君かよそひし尊くありけり

となむありける。これらはみな神代の事なるへし。人のよとなりては。おほさゝきのみことと申ける。みこにをはしましけるとき。おなしみおとうと。宇治わかこと申けると位をたかひにゆつりたまふとて。なにはにおはしましけるを。猶位につきたまふへきこと近くなりける時。王仁といふ人いふかりおもひてよみて奉りける歌。

なにはつに咲やこの花冬こもり今は春へとさくやこの花

このことは。應神天皇と申は人のよと成て。神武天皇より十六代にやおはしますらむ。この應神天皇と申は宇佐宮八幡大菩薩にをはします。其御皇子このかみをおほさゝきのみこと

申。其御おとうとを宇治若子と申けり。御門宇治若子をやことに御あひしにをはしましけむ。東宮にたてたてまつらせたまひにけり。其後みかとかくれをはしましにけれは。東宮くらゐにつきたまふへきを。いかてかわれこのかみをきたてまつりては位につかむ。おほさゝきのみこはやくらゐにつきたまへと申たまひけるを。又われはこのかみなりとも。宇治若子を先くらゐにとおほしけれはこそ。太子にはたてたてまつらせたまひけめ。いかてか父の御心さしをたかへたてまつらん。宇治若子はやく位につきたまへとて。われはなにはにをはしましにけり。又宇治わかこも宇治にこもりたまひけり。其ほとに國々のあまともも。御調物を持て宇治にもてまいれは。われは天皇にあらす。難波へもてまいれと仰られけれは。難波にもてまいれは。又宇治へもてまいれと仰られけれは。こちかちもてまいる程に。なにもくちそんしけれは。あまともゝおのか物から。袖をなむぬらしけるといふことも。此御をりの事なり。かくて三とせをへけるほとに。宇治の若子のたまはく。われこのかみの王の心さしをむはふへからす。ひさしくいきて天下をわつらはさむやとて。わさとなるやうにてかくれたまひにけれは。おほさゝきのみこ聞たまいて。難波より急おはしまして。いかてわれをすてゝ。さきにはたちたまふへきそ。いそきいきかへりたまへと棺にむかひてかなしみたまひけれは。宇治若子いきかへりたまひて。おきゐたまひて申たまはく。是は天命なり。かきり有事也。いかてかとゝまらむと申たまひて。又棺にふしてうせたまひにけれは。おほさゝきのみこ不斜かなしみたまひて。宇治やまの上にみさゝきなとしたまひてけ

り。さて其後に大さゝきのみこと終に位につきたまひにける。是を仁德天皇と申也。其後たかとのにのほりて民の家々を御らんじつかはすに。民の家にけむりたゝす。ちかつくにだにかゝり。まして遠津國々いかならん。いま三年は國々のみつき物なたてまつりそ。御膳御服御殿の事たゝかくてありなむと。三年過て又たかとのにのほりて御覽するに。民の家にみなけふりあつくたちけり。御らんして。民とめり。われすてにとみぬと。きさきわらひて申たまはく。とめりとはのたまへと御膳御服御殿しか〳〵あり。何事かとみたまへると。御門のたまはく。いまたきかす民とんて君まつしといふ事をと。さてよみたまへる御製也。

高きやにのほりてみれは煙たつ民のかまとは賑ひにけり

扨民ともまいりて。今は三年すてに過にたり。みつき物そなへたてまつらむと。みかとおほせられていはく。猶いま四年はみつき物なたてまつりそ。七年をすくしてたてまつれと。七年過にければ。國々の民老たる若きをいはす。材木をかたにかけてきほひまいりて。宮作ほとなくしけりとなむ。

此御門はくらひにおはしますこと八十七年なり。すへて御年は百廿七年なむおはしましける。みかとの第一の御いのりは。民のうれへととめさせたまふへきとの御事のみなりとぞ。

一。連歌濫觴者仁王十二代景行天皇御宇。連東夷蜂起し邊境さはかしかりしに。退治のため日本武尊發向ありしとき。

にゐはり筑波をすきていく夜かねつる

と尊仰出されければ。火とほす翁付て申さく。

夜にはこゝの夜日にはとをかを

と侍し也。其後萬葉第八尼か句に。

佐保川の水〔を〕せき上て植し田を

と侍るに。

かるはつ(ひイ)いなはひとりなるへし　家持。

とするを續たまひしなり。上古には上の句をいひかけて下の句を継せ。下の句をいひ出して上の句を付させ侍し也。五十韻百韻といふ事は梵燈庵主の比より出來也。漢の一句の尾の字を韻と云。例して和にも。とまりの字を云也。百句を五十韻と云へきを誤て百韻と云來る也。後普光園御名乘は良基。園とは院の心ナリ。

一。連歌新式追加并新式今案等。

先本式と云を建治二暦於鎌倉藤谷爲相卿被編云々。同比又大納言爲藤卿新式被編なり。對本式新の字をゝかるゝなり。本式の連歌いまに清水寺に殘て有之。毎月十八日に法樂執行之由。代々宗匠一度有興行事也。宗祇も執行有。則發句

何人　宗祇

水かほり花いさきよき深山哉

龍もひとつにさくらさくかけ　快勝

天津風雲におつれは長閑にて　兼載

と侍しなり。紹巴も永祿の比於六波羅普門院百韻成就畢。懐紙は面ニ十句。名殘の裏に六句書之。面每ニ花一宛八本也。初折之面ニ名所一句。賦物之事百韻ニ取之。今は不然。應安五年新式後普光園攝政殿下作也。追加并新式今案。享德元年後常恩寺關白殿御作也。一條禪閣と申せし也。文龜元辛酉年彼是を一冊に編之事。肖柏の作なり。柏原院御宇奉行は兼載也。肖柏。宗碩三人の談合なれとも。肖柏發起の故に彼作と云也。奥書ニ應安以來新式今案追加之條々。并近代用捨之篇目等彼是勤以爲云々。從建治二年應安五年迄九十七年也。應安六ヨリ享德元迄八十年也。享德二ヨリ文龜元年迄四十九年。文龜二ヨリ慶長十八年迄百十二年也。以上從建

治二年慶長十八年迄・三百十二（三八歟）年也。應安新式之事。後普光園攝政殿之時一人の老翁來て。十七ヶ條の双紙。號立水臥水を告しらしめたまふ。歸るさをあやしめ人を付見せたまへは北野寶殿ニ入たまふ也。依之天神御作と知たまふ也。新式は十七ヶ條目の双紙なりとそ。則攝政殿自筆にあそはし。北野寶殿にいまに有之ト云々。

一。北野裏白の事。毎年正月三日に必執行之連歌也。此元來と執筆誤て。一の折の裏をかゝすして二の面にうつり候。其誤をあらためす。余の折をも面計にかきて以上八枚に書之也。是を裏白といふ。此外ニ說有といへとも略之。

一。歌も連歌も勿論かなつかひ句ぎり清濁にて事の外にちがふ事シヤ。

忘らるゝ身をは思はす誓てし人の命のおしくもあるかな

此歌のよみやうを兩人してあらそふた。其故はこのちかひてしを。一人はちがひてしとよむ。又一人はぢがひてしとよむ。此せんさく終不果。爰に歌道究タルト云人あり。兩人同道して其人のモトヘゆきてしか〳〵と問。答曰。是は是ちがひトよみたるがよく候。其ゆへはこの歌の下句人ノ命ニのをしくも有かなと候。是にて分別候へと。何時も歌道不審事候ハ尋ニきたられ候へと。利口をいふて兩人なからをカヘサレタ。

一。俊成卿九十一にてはてさせられたと。八十一の歲の暮に此歌よませられたと。有人かたられし程に。書付申候。其分か猶可尋。

古の鶴の林のけふりにもたちおくれぬる身こそつらけれ

一。仁治二辛丑年八月廿日。八十一にて定家之卿卒。

仁治二ヨリ慶長十八年ニ至て三百七十三年歟。歌道執心の人は右ノ忌日ニハ花香ヲ摘燒し。佛前ヲ拜シ。一首一句ヲモ手向ヘキ事也。

一。嘉禎元年乙未卯月九日家隆卿卒。嘉禎元ヨリ慶長拾八年に至て三百七十九年也。此忌日ニモ精進潔齋シテ跡をしたひ可申事也。

一。紹巴常に申されしは。歌には定家。連歌には宗祇。御心を添られし物には。別而心をとめ拜見再吟專用と申サレタ。

一。宗祇辭世。

移しなくもわかゝけなから世のうさな知ぬ翁そ羨れぬる

同發句。

世にふるはさらに時雨のやとりかな

一。昌休辭世。

かゝらんと思ひし物の身のきえは夕のかれに哀もそそふ

同發句。

月のみと苔地ことゝふ霜夜かな　法眼

一。紹巴ハ辭世ノ歌モ發句もなるまひ事シヤト。常々物かたり候つる。其通シヤ。

一。昌叱法橋辭世。

誰も誰世は憂ものとしりなから限あるにや任せ來ぬらし

同發句。

朝かほはうき世の外のさかりかな

一。心前辭世。

數ふれは數多の人になくれこしわか身の消な何思はまし

紹巴右の歌をひらき落涙。中々無正體て。

無跡に數られんと思身な世に殘しつゝ消ぬるか憂　紹巴

同發句。

うきは人さかさまにゆく年もなし

一。詩之始者毛詩也。論語云。子曰。詩三百一言。以蔽レ之。思無レ邪。詩云。緡蠻黃鳥止ニ于丘隅一。子曰。於レ止知ニ其所一レ止。可ニ以人而不一レ如レ鳥乎。私云。詩者所志云出コトバ也。天竺ニハ伽陀ト云。震旦は翻譯偈云。又頌ト云。又詩ト云。日本ニテハ歌云。去程源氏ヲマラウドノ相人相シ奉ル時ニ作リケル詩ヲモ。モロコシノ歌トカケリ。

一。

戀詩　　葉苔磯
長安遊子誤二皈期一　懶繍回文錦字詩
約黄金寛一寸　逢レ人猶道不相思
又　　劉媛
雨滴二梧桐一秋夜長　愁心和レ雨到昭陽
涙痕不レ學二君恩斷一　拭二却千行一更萬行
又
工夫若有二思レ君意一　成佛須二光老釋迦一
戀詩
若向二天涯一吐二胸露一　三千日月可レ無レ光
又
君看一夜游泥水　是不清波月亦沈
一。聚樂關白殿御月次之聯句御興行初。
詩客尋レ梅到　遣野賢似レ求　燃春和尚
聖皇焚レ栢祝　宜レ越副齢仙　有節和尚
右御會。文祿二癸巳年正月廿五日也。
一。如月小喝食之時。悪狂カシマシケレハ
小喝口如鵙　佳月　老僧形似レ牛　如月
一。昔或人ノ句ニ。

水清清水水　川白白川川
又　八坂五重塔　三條六角堂
又　花東山地主　梅北野天神
右喝食達ノ句也。後皆名匠ニナラレタソ。カヤウナル文字者アルニ是御覽候へ。
諸行無上常　是生滅法　生滅滅已　寂滅爲樂
此四句の文誠ニ犬ウツワラベモシル事ジヤゲナニ。扨々笑止事ノ。殊大寺ニ此傍ニ。なに物哉らん。たんさく一まい卒都波ニ押付て出ゐたト。
無上(常)とはたかかきなせゐ諸行そや
そとははつかし内にたておけ
一。女房なとにさへ文學廣才の人のあるに。出家の身となりて無學にては曲有間敷事也。
一。伊勢物語之事。伊勢筆作とは無紛事なから。家々の説々不レ同。しかはあれとも今師説に用ハ。伊勢カ書ト云儀也。古キ説ニ伊勢ノ二字にをとこをんなと云字訓アリ。をとこをんなの

物語なれは伊勢物語と號するといへり。不足信用。又此物かたりに十くわんの注有。又知顯集とて經信卿の注ありといへとも。いつれも一としてまこと有事なし。此等の注をは後成恩寺殿よく破しておきたまへり。

一。昔をとこ。むかしとは大古をも云。近古をもいへり。又今朝はあすのむかしに成。明日は今日の昔に成。今のことを昔とも書へき事也。源氏にはいつれの御時ニかとかくも。むかしとをかん爲也。尙書爾。古者伏犧氏之王(タリシトキ)天下也とかくも。古といふを上にかふふらしめてり。男とは業平也。むかし男と古注につゝけて。業平をむかしをとこといふなといへる儀はわろし。昔とよみきつて。をとことよむへし。

一。うゐかうふり。禪閤はうゐかうふりは叙爵の事とあそはせり。しかれとも師説にはただ元服の事とす。元服は人の出身の始也。俗體の定る所也。元服初より終焉の夕までの事をこの物語にはかける也。

一。奈良の京かすかのさとにうゐかふふりは初事也。かりするは其後又いつにても有へし。奈良の京は平城天皇もおはせし也。業平は平城の御跡なり。しるよししてとは業平の知行ありし也。奈良の京ははや此京へうつされて舊都になれとも。いまた業平の舊宅もあり。領知もありし程にゆきてあそふなり。

そのさとにいとなまめいたる。なまめくは最媚とかけり。うつくしくゆうけんなる體(カ)也。

はらから。兄弟の事也。古注に有常女兄弟あることをいふと也。不レ可レ用。

此男かいまみてけり。かいまみは源氏におほき詞なり。日本紀より出たり。かきのひまよりのそきみる心也。是はのぞくとは見るへから

す。物こしなとにほのかにみる心成へし。
ついに行道とは兼て聞なから昨日けふとは思はさりしを
昨日まては今日とはおもはさりしと云儀は大にきたなし。たゝきのふ今日とはおもはさりしとみるへし。是則一切衆生の辭世也。かくとはしれとも。其きはにならては おとろかさるなり。大和物語には。中將此歌をよみてなん扱果にけるとかけり。此物語業平の始終をあくるほとに。元服のはしめより 獲麟の夕までにして書とゝめたり。京極黄門の 常に見習へきは古今伊勢物語とかゝれたり。業平は元慶四年庚子五月廿八日 五拾六歳にして卒す。慶長十八年に至て 七百卅四年也。
一。朱雀院御在位の時也。
源氏物語之事。 紫式部筆作勿論之儀也。 しかしなから。女房の胸中 一分として。書出せる物とはみえすと 不審ある事。 尤いつれの抄にも其端ヲかきけり。しかはあれ共式部廣才のうへ。紫日記にも。今朝は里に出て史記と云文よむなとゝ載たれは。外典の事は中におよはす。天台六十くわんをも伺。一心三観ノ妙理をさとりうる 程の人なれは。疑を殘すへからさるなり。物語の時代は一條院の御宇也。御在位ハ廿五年。永延二。永祚元。正暦五。長德四。寛弘八。此六年號都合廿五年。 物語作り初比寛弘年中歟。寛和の比より天か下に流布歟。寛弘元ヨリ康和元年迄九十六年歟。 寛弘元年より慶長十八年迄七百年也。准據之時代。醍醐。朱雀。村上三代ニ准スル也。醍醐の天皇ノ 御卽位ヨリ村上ノ御卽位迄五十年也。 桐壷ハ延喜。朱雀天慶。冷泉院天暦。光源氏ハ西宮左大臣。 如此相當スル也。上東門院ハ一條院ノ后。一條院御卽位ヨリ慶長十八年迄ハ六百廿七年歟。紫式部此時代人也。いつれノ御時にか。題號の事說々

（多カ）たといへ共。只源氏の事をしるせると也。猶口傳にあり。古今の序に山シタ水ノ終すといへるか如ク。水ノ源をいへる也。泯江濫觴入楚の無レ底（山谷第四句刑敦文詩）ト云ガ如シ。是は女ノハカナク書タルヤウナレトモ其心淺からす。發端ハ伊勢ヵ家集に。いつれの御ときにか有けん。おほみやす所と聞えける御つほねにとかけるにもとつけり。いつれの御ときとさす事は。簡要は醍醐ノ御ときをさしていふ也。高明公左遷の事をもつて須磨の事を書也。惣而此物語のならひ。人獨の事をさしつめてかくとはなけれとも。皆古事來歷なきことをはかヽさる也。好色の人をいましめんかために多淫亂事ヲ載也。盛者必衰の理り。則出離解脱の緣も此物語の外にはあるへからす。又夢のうきはしの事。たヽ夢の儀也。はしは言葉のたすけ也。よろつの事をゆめとしらせんとのためなり。惣而源氏のはしめをはる事は。皆夢といはむか爲也なるへし。紫式部は觀音の化身にて。人に世の中の有さまたヽかりそといひしらせむ夢の物語なるへし。

千句法度
一一句一直（附）雪月花
一出合遠近（但）聲先次第
一諸禮停止
右如件
年號
月日

是紹巴の傳也。必如此可書。眞草行は筆者次第也。呂叱は右定所如件トかヽれたソ
一。發句賦物の取樣。面の仕樣。千句の時の口傳有。愚癡文盲者口狀之事。
一。我等下人ニ天下無双ノウツケモノアリ。當年正月事ナルニ庭前掃除ス。彼者ひとりことに連歌士や又數寄者ナトは。此樣なる雪ノ

朝夕ヲ心ヵヶ數寄ヲモ出シ發句ヲモ思案スルコソ本意ナラメ。扨々大寢哉ト云ヲ聞テ枕を上け。雪はいか程フリタルトとへは。中々申されぬことじやといふ。洛中ニは昔より左樣ニ大雪はふらぬがキトクナル事哉。先いかほとふりたるそといへは。彼うつヶもの申やう。上へは一寸にタルタラズ候が。横へはいかほとともかきりが御座なひと申タ。

一。右ノウツケヲ風呂へつれて入かゝせんと思ひ候へは。たびをはきなから風呂へ入ル。又ウツケヲヒログヨトしかり候へは。御めんなされ候へ。石風呂のかつてをつかまつり。面目ウシナヒ申スト云タ事。

一。又此うつけニはかまかたきぬをこしらへとらせんとおもひ。色は何いろかよきそ。このめと申候へは。とかく老少不定ともにかちんかよひと申タ事。

一。われら近所に。はなし居申候内ニ。俄ニ雨降出候あひた。笠をとりにまゐれと申付候も。はやとりてまゐるへきとおもてへ出尋候へは。いまた取にまゐらぬと申ス。なせにと申せは。あまりに大ふりにて候程に。やうでから取にまゐらふと申シタ事。

一。此ヤツメ宿に居たひと申。いとまをこひ候程に。小家をもとめとらせ。宿にしかと居申事に候。折ふし我等ノ隣より火出候てやけ上り申候處ニ。カノウツヶ宿近キゆへに。はやくかけつけ精を入。水をかけて火をけし申事に候。扨やけ候はぬ目出度とて。かけつけ候ものともに酒をのませ。今夜はウツケなから。われにかはりタト申候へハ。カノウツケカツニ乘て申やう。今夜はとなりの家なれはこそ大かたに火をけしたれ。今度是のがやけらふときはこつれに精ヲだいてはをくまひと利口し

タ。

一。右のあはうにましたる程のウツケモノ近所にあり。をのれか家の井戸へ入て居ちた。皆皆出合。さて〳〵笑止といふて。のほりはしを井戸へ入てあかられ候へ〳〵といへは。かのうつけ申やう。皆々しはし御まち候へ。そのゆへは無案内ナル所ニテなれは不及是非候が。おや先祖の屋敷の井戸へ落て。もはや男はならぬ。是からすぐに高野へはしる。さらは〳〵といふた。

一。高知行とる人の内ノ者に一段と文盲ナル人あり。乍去無油斷奉公人たるに依て。人か馳走する□間。よき數寄しやの所に茶にようだ。會過て主のもとへゆく。則會席の體を主のとはれたれは。其にわかう樣やかみ樣の御座候程に申スまひト斟酌せらる。くるしからぬ。はやはや申され候へとせつかれた。さらは申さう。汁は一段と見事なか。わらひと申さるゝ。さて其わらひか愛のさし合か。中々。なせにととはるれは。先わらびのわは。わかう樣のわの字。らはとの樣のらの字。びはかみさまの彼びのぢシヤト。いらぬ事に氣をつけたの。

一。さてあはうはつきぬ事ジヤ。有家六尺ニ風呂たけといひ付たれは。風呂をはたかれぬと申。なせにと問へは。それにかみさまの御座有程に分は申スまひ。なせに。くるしからぬ申せとせつかれたれは。さらは申さう。かまわれまうした。それかかみ樣にかまふ歟。中々かまひまうする。なせに。たつに五六寸程われまうしたといふた。

一。いかにも文盲なる人。人をたのみ。文をかかせて江戸へやる。その文體。

ぴんきよろこひ一筆とりむかひまいらせ候。其方には何事なく候こ此方にも何事なく候や。何樣一夕□□□參可申

承候。判ともかなにかいてたまはれといふてれんを入た。
都からは□□一夕所にてはなひの。

一。又右のやうなる人の所へ。余所から折紙が到來シタ。此折紙を見るかほにて。中通リノ折目をもかまひなくひろげて。是々御らん候へ。當世はいろ〳〵の事がはやる。ふみを跡つがふてかいた。めつらしき事の。

一。都に又似たる人なき文盲者あり。されともはや一兩年已前に身まかりて。名のみはかりのこつた。今いられたらは。よきなくさみにてあるへき物をと皆々をしかる。此人もんまうならは。文盲なるていにてよかるへきに。物每にさし出たがる。有時せいくわん寺へまゐり。六字のみやうがうの額を見て。事之外なむる。人是ををかしがる。此名號は一遍上人の御筆也。いつれも見事ジヤ。其中にてもそなたの目にはどれが見事に候ぞ。かの者申やう。一遍御筆などに。いたらぬわれがとかく可申にては候はねとも。とりわき南無阿彌陀佛のつの字が見事シヤ。唯よき事にてなくはいらさる事シヤ。

一。光源院殿の御時。磯谷とて一段と文盲なる人あり。しかしなから才覺人にすくれ。武道によはからぬゆへに出頭せられた。有時國大名へ御使ニまいられた。其御下知にも委細使者口狀ニ被仰含由也。大名ヨリ御奏者兩人出合。こなたへと賞ス。扨大守ヨリ御請をも可被申上候。先ッ御使者の御名字はトとふ。磯谷と申候。磯はいつれにて候ッ。はたト失念ト申された。もし水邊の磯にては候はぬかト申され候へは。それ〳〵と申された。扨がひハト尋られけれは。是もはたと失念ト申サル。爰にテ兩人の奏者のいはく。しりがひのがひにては御座なひかといへは。さふらひ程のものをしり

がひはあまりにて候。せめてむなかひにせられ候へト申された。是程なる人なれとも。をとこ儀がよさに人かませたゾ。しぜんのときも一方の陣頭をかためられたに。一度もふかくをかゝなむだゾ。

一。武家の内をまかなふものあり。一段と文盲にて十石廿石百石千石ト云所にて。竹にきざみをして物をすます。此者のむすこ是をみて。おなしやうに竹にきさみをする。親是をみてしかる。手ならひしててをきるな。

一。有入道。すかたは人かましけれとも。かたことはかりをいふ人あり。しかしなから身をはきれいにたしなむ。かみもひけもうつくしくそりて數寄やへ入ル。路地にてうつくしきそりやうとて。あひ客の人はむる。しかる返事に。是はけさ六角堂の上人様の手ぞりにして被下たといふた事。

一。加茂の社人近江守に受領した。同名親類知音衆内目出度とて皆々あつまる。其後江州御内に御座候かと出入の人云。此江州ト云事をしらす。何事そと思ふて知音の人にとふ。此知音の人ひようげた人にて。色々の事をいいきかされタ。先ツ六十余州の内にも大國を名につく事は規模也。人による事也。しかるに近江國は廿四郡大國之内也。貴所に御似合ぬ名をつかれた。物しらぬ只犬シャトいふ事シャ。江州トハ犬トいふから名シャト。事こまかにまことのやうにかたられけれは。近江守實にもト思ひ。今度から江州トいふてきた者には。返事のしやうかあるといひもあへす。江州は内にかといふてキタ。江州は門にくそをくらふてゐると返事した。さて〳〵あはれな事の。

一。京の町に賣家あり。門に札をたてゝおい

た。此家うり家也。但たゝみやにうらふト書てあり。皆人是を見て不審する。家をうる程ならは誰に成ともうれかし。たゝみやをこのむは何事そトいふ人おほかりけり。さて此うりての心をとへは。たゝみやにうらうトは。くづいてうらうと云事シヤ。

一。俄ニ不弁して京をうせた人あり。家をも捨て門戸を閉て。門柱にたんさく一まひはり付て置。其書やう。

皇帝臣下也。

是を公家。武家。寺院。庵。軒。町衆に至ルまて見る人毎に不審をたつる。大かたかぶきははづれぬ□聞々タ。

くわてきトいふ事シヤ。

只人は其分々に家をも身をももちてこそあるへきに。おもひの外に結構に家をたて。身ヲかさりたるゆへに。

一。三方論儀を借リニやつたれは。卒都婆小町ををこされた。さて〳〵物はしらぬ人の。

一。うつけたる人。わき指をうしろへ押まはしてをいて。爰かしこト尋ル。ソバナル人是を見て。ソナタノ腰ニアルハト云へハ。てをまはしていらふてみて。扨々けんにようもない所にあつた事シヤト。

一。むかしからあはうはつきぬ事シヤ。今程世上ニつぎ木かはやる。あれは何トしたる事ゾ。ミレハ大キナル木を切て。やうじ程なる木をつぐ。少も合點ゆかぬト云。是を人聞て。あれはしぶかきなとをきつてツゲバ御所柿にもなる。又は木ザハシニモ成候ト云へは。扨々ちやうほう成事かなとて。其儘ふたかい程ある柿をきりてついだ。人是を見て。いかなる木にて候ぞととへは。あなたこなたともらひにやるも六ヶ敷シさに。やかてあの木の本をついたト

いふタ。さて〳〵をしい事の。
一。われら九州へ下りさまに。去人のもとへいとま請にゆきて。しか〳〵といふたれは。亭主出合て。扨々遠國。殊海上御太儀シヤト云。自筆ニ御くたりかトとふ程に。心安思召候へ。迎舟か伏見まてまいつて候ト云へは。扨は心安存候。總別あの舟の車力が造作な物シヤニよき御事や。
一。右同前ノ樣成人の方へ。筑紫へ下りかけにいとまこひにゆきたれは。文盲者出合て。いつ比迄の御逗留そトとふ程に。一兩月の間と申候へは。隨分いそき御歸朝候へと申された。をかしさはかきりなし。
一。九州に御座候大名衆に逢て。文盲なる者の申やう。東（アツマ）のはてに御座候ゆへに。存知なから御見廻も申あけぬトいふタ。遠キ所はあつまと心得タ。さて〳〵せうしの。

一。九州衆は一段ト心かふかひ。そのゆへは。いつかたへ御座候そト問へトモ。小風呂の口へは入さまにもちとよそへトいふ。さて〳〵氣のどくの。
一。櫻の木の間にもる月の。雪のふる夜嵐を。櫻のこの馬にのる月のトうたふかよひト。兩人色々にあらそふ。とかく爰にて問答して埒はあくまいほとに。都へ上りて實否を決セントテ。兩人同道にてのほる。有人にゆき逢て。此うたひはいかにと尋候へは。答ヘテ曰ク。昔も今も櫻の木の間にもるトうたひ候は皆文盲なる者ノ事。只櫻のこの馬にのる月のトうたひ候かよく候。そのゆへは。おもしろのはるひや〳〵とうたひ候程にト。京にもろ中ありとは此やうなる事歟。
一。中にもつらゆきは。御しよところをうけたまはりて。いにしへ今迄を。御酒所をトうた

ふたかよひといふ。此問答落着せぬ。さらは物しりのかたへとひにゆけとて。ふたり打つれて學文者の室に入てしか〳〵ととふ。此者しりだうけたる人にて。是はこれ御酒所かよく候。其故は中にもト盃(と)の事をいひ出し。御酒所をうけたまはりていふて。はてによろこひをのみし君か代と。皆酒の事シャ程に。御酒所がよひト打つけた。さて〳〵なにともいははいはるゝものゝ。

一。人にすくれてたのしき人あり。しかしなから又人にすくれてしはひ人シャ。此人將碁をすいてさすす。大かたまけト見ゆる。しかれとも金をあひにすれはかゝゆる。しかも金の二まひまてもつ。金ヲせねはなに馬にてもかゝへぬ。さる程に金をあひにはるかトみれは歩兵をはる。わきから皆々云やうは。金を御はり候へ。さなけれはなにもあひ馬はきかぬトいへは。かのしは者申やうは。たとひ王はつまろふトまゝ。當座先ッ物のいらぬがよひト云タ。

一。右のやつめ散々にわつらひ。今をかきりとみゆる。しかれとも藥代をいやかりて。かつてもつて藥をのまぬ。女房子供親類共あつまりて是を笑止かる。とかく道山を申請。脉をはたゆる。口をふさぎて一口ものまぬ。爰にて親類共分別して。此御藥は道山のおもたせシャ。まいれと云たれは。大口をあきてのうだ。さてさてしはひやつの。

一。右のやつめにましたる程のしはひ者あり。され共道具。ひやうしき。屛風。しやうじ。太鼓殘る所なくこしらへてはおけとも。取出してつかふ事か嫌ひシャ。用の時は必知音の方へかりにやる。是を皆人聞傳。にくひ事とて物をかさぬ。又有方へかりにやりたれは。是も

こなたに入候とてかさゞりければ。さて〳〵人ちくしやうなやつどもかな。さらはこれのを取出シテつかへト云タ。

一。西浄石の見事成を見て。さて〳〵くくんでもつやうなといふてほめた。物をほむるも事ニより。所によりての事成へし。せいじやうの石を見て。くくんでもつは不似合。

一。西浄をかうやトいふ事に二説あり。一にはかみををろすト云事シヤ。又一ニハにほふトいふ事シヤ。

一。閑所有様。




家は南むきノ物シヤ。しかる間南は風西なれは後架ナシ。後架トいふも北ニある閑所ノ名也。

一。京の六尺共二八月ノ出かはりによりあひて。此さきの季にそらは。何方にゐたそト問フ。をれは二條のをならやにゐたトいふ。さてさてくさひ事を云。ならやならはならやとはいはひで。おならやのおノ字は何事そトいへは。おの字をつけたがそれほとはらがたつならは。をれがゐる所をとうこようはトいふた。さて〳〵よくをりやうたる對の。

一。沈香めすまひかトいふて。あき人ありく。いづくの者そトとはすれは。さかいの者ト答フ。さかひはトとへは。くそのしやうしのきはへのまちのばゞやの隣にて。はこやの分左衛門と申者にて御座候。御用のときは道ふん所まて仰られ候へと申タ。扨々是もよくつゞいた事の。

一。や中にありくとて。なにやらんふんだ。あらむさやちやくト。ちやうちんもつて來れは。いやちやうちんにをよはぬ。ねぶつてみたれはあかつちジヤトいふ。むさいねぶり事の。

一。鹽斷之菜ニハ梅干ガ何ヨリヨヒモノシヤ。あはうをいふものハせう事かない。

一。凉敷道ならは唯心の淨土なるへしといふ程に。極樂は夏しらぬ所にてこそあるらめ。されとも足はいかうひゆると聞タ。なせに。死ぬるほとの者が跡とふらひてたひ給へト。いかなものもたひをほしがる。

一。昔から死にぞんはなひ事シヤ。なせに。若キ人しぬれはをしひと云。年寄死ぬれは目出度事シヤトいふ。にくひもの かしぬれはうれしきといふ。とかくわるいふ事はなひ事シヤ。されともしんてはいらぬ事シヤ。

一。此五六日以前にかぶきの大將が死ニまうした。何としてはてタツ。此春から夏秋かけて散々に煩候て。五六日さきにとん死シタ。

一。何角といふて死ぬるは必定シヤ。堺の八萬貫屋身まかりて。あたし野へおくる。遺言ニ。われを野へ送るときに。乘物より兩のてを出してをけ。其ゆへは。さすかにさかひ南北にてかくれなかりし八萬貫屋も。死ぬれはてをうちふつていなるゝよと。諸人に見せた事。大導師なりとかんせぬ人はなかりけり。上代にも末代にもあるまひ禪法シヤ。

一。老少不定とは經にも說をきたまへとも。大略は老がちしや程に皆々御用心。

一。古句古歌。

生死去來　棚頭傀儡　一線斷時　落落磊磊

いつの日のいつまて爰にてくるばうまはしくてはてはかつたり

一。色々に利口は いへとも。死ぬるはすかぬ事シヤ。

しにたきと云は浮世の捨言葉まことの時は願はさりけり
世の中にひとり止まる者あらは若我かはと賴みもやせん

一。とにかくに右のやうなる事共をきけは氣ノ毒じや。きかぬかよひ。かやうに治リタル御代には。太刀をは鞘に納め。弓をは袋に入ておいて。其身々々の數寄々々にしたかひ。日を暮しよをあかしなくさむへき事シャ・千も萬も不入。當時無敵ハ若衆樣ト。腎をはたらかし討死せう事シャ。不然は若衆樣ノ御袋樣ト。

一。不文字なる人。醫者振リテシテ病者ノ脉ヲトリテ。次ノ間へ立て。我等ノ手柄にては成申間敷候。いちだんと惡キ脉出申候。殊足ノ裏迄上氣シタト云タ事。

一。聚樂にて武家ノ右筆入道。掛硯をもたせて登城するを見て。ある若黨たちより。卒爾なからそれさまは歌道者にては御座なひ歟。なせにといへは。歌道者ならは虫藥を申うけたいさ〳〵にはらかこわりまうする。

一。武家ヨリやりノ鞘を百本程あるぬしやへあつらへられた。さい〳〵せつきにゆく。ぬしやの亭主御使者に逢て。隨分いそき進上申さう。牛馬の家には何時しらずに。かやうの御道具は入物シャ程ニ御急御尤じやト云タ。

一。ある大名の前にて座頭平家をかたる。くまかへかいち二ノかけシャ。くまかへ平山かれ是五崎(騎カ)にてひかへたりとかたれは。右ノ大名文盲にて。いかに座頭。平家は歷々の前にて語物じやに。五崎にてひかへたるはいかうむさひ程に。せめてわんにてひかへるやうにかたれト申されたれは。尤ト申タ。さて〳〵きゝてとかたりてト似合たる事ノ。

一。鵜に南殿の大□に伺公スト云事を。しとをストかたるかよひと兩人僉議ス。右ノ大名是を聞て批判せられた。此平家末ニ賴政矢を

二ッたはさみける事は。源中納言雅頼卿其時はいまた左少弁とかたる程に。せうべんならは。しとがよからふト申された。文盲にてはあれ共よひ作ノ。

一。又ある座頭助音して平家をかたる。一門ノ都落ト所望シヤ。あるひはとをきをわけ。さかしきをしのき。駒に鞭うつ人も有。舟にさほさすものもあり。思ひ〳〵心々に落そゆくといふを。大名ノ御前たるに依て。はひもうして駒にさほさし。舟に鞭うつとかたつたれは。是も平家ノあはてさは。ひたるゆへ成ト付タ。きとくしやト皆ほめた。座頭はみな利根な物シヤ。

一。大坂太閤様薬院所に御座ノ時。杉原連一撿挍御禮ニ罷出かへるさに。御縁にて箒ニけつまづひてころんだ。太閤様御同朋衆御しかりなされた。よくてを引て歸さてと御意シヤ。連一是をうけたまはり。御同朋衆疎略にても御座ない。罷立時は必これがてちだう物か。いなばはうきト申ト申あけたれは。太閤御笑止成。きどくを申たるとて御小袖を被下タ。

一。落書附誹諧之事。

昔さかひに柳屋とて身をもちたる人あり。一段と連歌執心のあまりに。宗祇老をまねきよせ。柳屋父子三吟をとのそむ。則祇公。同心にてはやはしまる。いまた賦といふ字もかゝさるに。柳屋門前にかくはかり。

三吟によひ茶一斤ましりけり殘る二斤はくらはれもせす

まことに身をもちたるといふとも。にげなき事をはせまひ事ジヤ。

一。天下にかくれなき初花の茶入立賣。大文字屋榮甫所持。是を三好方にて出頭の松山殿へ申て。權柄にてさかひ衆拜見する時に。其路地口に。

物しらぬ人のしわさよ初花にまつ山風をふかせ來ぬるは

一。をそ櫻の茶入は立賣。篠屋宗久所持。をそ櫻と名付る事は。

夏山の青葉の（マヽ）ましりのをそ櫻はつ花よりも珍らしきかな

一。昔いかにもちいさき茄子の茶入もつ人アリ。人はさ程におもはねとも。主は天下一と思ひて。さひ〳〵に數寄をせらるゝ時に。

二服さへいらぬ茶入の生なすひあへて其身の顔よごし哉

一。中むかしの事かとよ。都に公事聞の奉行あり。一段と正路に批判せられタト。しかしなから女中方より耳へ入ル事は皆理になる。ときに。

かみ様の御前て公事かすむ成はまうのやう成批判成へし

とかく女房には。たかきも いやしきも心かとらるゝト。

一。多賀豐後ニ 所司代被仰付候時ニ。女シャモノニ談合仕リ御返事申上ウト云タ。尤シャ。此女シャモノニ談合申スト云ニ。説々多シト云ヘトモ。只女公事取次ナト究メテト思ヒ。右ノ如ク申上タ事シャ。此人上代ニモ末代ニモ有間敷。公事ノ批判中々其數を不知。豐後記トテ名譽ノ 批判せられた事を。しるし置たる書物。法花經程なる卷物五くわん。多賀の家に傳り有之由及承候。拜見申度願ひ迄也。抑此人ハ後花園御治世ノ末。寛正年中ノ人也。將軍ハ慈照院殿ノ御代の所司代也。慈照院殿は 普廣院殿ノ御子也。准三后贈大相國一品 喜山大禪定門。御名乘は義政。文明五年正月七日御歳五十六ニテ御他界。天下之御主タル事卅一年也。此間ニ色々樣々之御遊興。筆ニハ 誰かつくし侍らん。數寄ナトモ 此時分ヨリ別而盛ナル山ニ候。武道にも又歌道にもすくれたまふ御所とそ。あるとき八幡より千句之御發句申上ル。則

千世かけてさけや鳥居の花かつら　義政

又大原野花見御成御發句。三月六日。

遠く來て見るかひありや花盛

則御會御人數。

公方樣義政　一條太閤樣　二條關白樣

三條權帥殿公綱歟　日野殿勝光歟　飛鳥井殿雅親歟榮雅歟

細川右京大夫殿勝元歟　山名殿右金吾入道宗全

一色殿左京大夫義直歟　京極殿大膳大夫持直歟

小笠原美濃入道殿宗元歟歌道者ト聞之　杉原伊賀守殿

蜷川周防守殿　能阿　行助　專順

御連衆十六人。上古ニハ如此多人數ニ而御座之由候。此時分ハ萬事ニ名匠出現シヤソ。寛正元年ヨリ慶長十八年ニ至テ百五十四年歟。

一。同正月十五壬子。細雨。今出川御判始。御名乘ハ長清歟一段ト弓始。仕付者ト聞之タ御馬乘始。此兩條御師範小笠原備前守長光御劔拜領。此段蜷川新右衛門親慶日記ニアリ。則自筆也。右新右衛門ハ廣澤ノ歌。又釋迦モ達磨ノ歌詠人の子歟跡歟可尋。是程ニ歌道を我かまゝにシタル程作者ナレトモ。集ニハ只一首入タルソ。抑新續古今集ハ後花園院ノ御宇。永享十年撰之。卷頭。

春來ぬといふより雪のふる年を四方にへたてゝたつ霞哉　權中納言雅縁

此集えらはれし時。此人は一休和尚ニモ逢フタルソ。蜷川新右衛門親當。歌道にやさ男なれは。撰集ニ御免可被成トノ事ニテ侍リシカハ。主一代に一二萬首モ詠てコソ侍るらめ。其内にざつつへき歌をぬき三百首上ケ奉ル。其内に一首もなし。扨々と又一日ニ百首詠候て又上奉ル。其裏み紙にもかく計。

書すつる藻屑なり共此たひはかへらてとまれ和歌の浦浪

さて此百首の中に。

遠からぬもとのさとりの都鳥言とふ人のなきそかなしき

此歌一首入られけり。歌道の冥加誠不至して。高位にましはるとは。げに尤と京わらんへ申傳タソ。新續古今集被撰永享十年ヨリ慶長十八年ニ至テ百七十六年歟。

一。江州佐々木四郎殿入道させられて紹鼎ト號。都の主にと寄々望みを御かけ被成候へ共。終に御てにいらさる時に。

都をはやう（脱アラン）〳〵とのそめとも白川まてもせうていはなし

一。田舍にて都のことくにとて精を入。饅頭を菓子ニ出されけれ共。風味もすかたもよくあらさりけれは。取あへす。　宗祇

まつ黑てしかもかたふて人くはぬ此饅頭を馬になさひで

一。山門東坂本ニ等養とて連歌士あり。一段と口かこはかつタト。又いにしへおとこの時。てをそい足をちとひかれた。あるとき御前ノ御會にめし出された。右如申句毎にこは口なれは。近衞太閤。

馬ならはのられん物か等養か口のこわさよすそのわろさよ

一。妙心寺に金藏主とて。一段トとひやうなる坊主のありけるか。五月の節句に賀茂へけいば見物にゆき。かへるさにもどり橋にて印地を見る。我がゐる方まけになるとみて。衣の下より六尺八寸ノいか物作の大脇指をぬいてきつてかゝる。むかふよりやかてやりにてつきころす。時に落書。

五月五日競馬歸りの金藏主鑓に突れてひしやト社ナレ

一。一とせ信濃國善光寺如來御在京とて。御のほりのとき。則本田善光御供也。是を粟田口にて雄長老御見物なされ。とりあへす。

つみをきる彌陀の劔や是ならん粟田口より出るよしみつ

一。かくれなき藤戸石を。上京細川殿御屋敷ゟ室町昌山樣御屋敷へ信長公御引なさるゝ。數日御手間入けれは。いたつらもの。

花よりも團子の京となりにけりけふも石々あすも石々

此年の御普請には。江州衆別而精を入られけれは。又いたつらもの。

なまなりのすしとそみゆる近江衆おもせの石を持ぬ日はなし

一。丹後國主一色殿。實相院殿ニ知音なされ。夜も日もあけぬ程の御事也。あまりに御心よき見たるにより。落したてまつりて。わかむこ

にと思ひかけられ候へ共。御同心なけれは。なに者のしわざやらん。
圓頓者實相院をおとしかれ一色一香面目もなし
一。下京に文臺の淸介といふものあり。文臺の箱をは精ニ入すして狂言をすく。方々あそひありき。人にすくれて不弁なれは。
文台やいらぬ狂言せうよりもうちのくつろくはこを淸介
一。京のぬしや堺へ下り。さつまやにて數寄道具いろ〳〵品々ぬり候へ共。てまちんをそく出けれは。たんさく一まひ紅(細カ)工所にをきて京へのほる。
薩摩屋は薩摩の守かおほつかな其は忠度これはたゝぬり
一。そのかみ八すみとて無官の侍あり。しかしなから萬事才覺ゆへに都の奉行をせらる。堂上堂下御馳走不ㇾ斜。そのゆへに身の程をもかへりみす。子供をあつめ禁庭にて御能仕られタ。時に。
八角めは將碁の馬にこそ似たれ位もなふて王に近つく
此返歌に八角方より。
位なくて王に近付ためしには歩兵もなれは金トこそいへ
一。此六七十年以前の事なるに。元理とて誹諧の上手ありと聞えタ。三好修理大夫殿にて御會の過に誹諧の發句御所望。折節御前ニ有合候人々は皆々入道なり。御俗體は大夫殿計。此は十月なれは。そのまゝ。
お座敷を見れは大略神無月　元理
ひとりしくれのふるゑほしきて　大夫殿 長慶朝臣
此百韻誹諧の手本ト沙汰あるソ。則此内に。
なにト見れともさきの近さよ
日をえらふ暦はしはす廿日比　元理
一。ある女房賀茂川の邊にて。すそをからけて物をあらふ。その足もとに。ちいさき子よれまとはれて。またくらよりかほのみえけれは。有人。
くろきかほしろきもゝより如トてゝ
お兒を肩にのする辨慶　元理

さて〱頓作なる事かな。あまりににくきほとのはや口なるにとて。又。

しろきかほくろきもゝより如トてゝ
お兒の肩にのれる辨慶　元理

右前句兩句なから。大夫殿のかけさせられたト老人のかたられ候を。則如此書付候也。

一。細川の幽齋ある時紹巴所へ御尋ある。折節紹巴ちんすひにて無正體平臥也。幽齋是をみたまひて。いかに紹巴。いかに紹巴ト二三度四五度おこしたまへとも。枕をあけてハ又寢。まくらを上てはたそ〱と候へ共。目も覺す。むく〱としてゐられたれは。

むく〱とあたまもたくる　幽齋
こころもちありともしらす野へにねテ　紹巴

かくいひておきられけり。

一。又玄旨紹巴同道にて鞍馬寺へ花見ニ御出ノ時ニ。岸より下へとひおりんとせられけれ共。老足心のまゝにならぬをみたまひて。

とはう〱とするそあふなき　玄旨
人玉はやまふの床の休らひに　紹巴

一。江州山さき源太左御家中人ノ。俄かこひ座敷にて一折興行連歌半ニ。かりニしつらひ候天井落けれは。いつれもあたまをうたれぬ。中にも昌叱にあらけなくあたりけれは。取あへす。

おもひきやかりてん井のをちかゝり
あたま板手をかふむらんとは　昌叱

一。上古より世間にかくれなきみのゝ國落書。

ときはれとのりたてもせすよのはかま
みのはやふれて人のにそなる

右の返歌。

ときはれはのりたてそするよのはかま
みのはやふれてひとのたそしく

一。昔山門と三井寺と不知の儀ありて。三井寺へ山門より亂入して。三井寺鐘を山へ亂妨之時。

三井寺の兒は齒白に也にけりつくへき鐘を山へとられて

一。山城之國山崎宗鑑一段と不辨にて。正月用意も無之。歳暮に。

としくれて人ものくれぬこよひかな　宗鑑

此發句をあはれかりて。正月の用意方々から數々もちつとふタト。

一。甲斐國武田信虎の御女を。菊亭殿へ御祝言の御約束あり。いまた往來もこれなき以前に。先聟殿みにとて案內なしに菊亭殿へ信虎御出の沙汰ありけれは。一首かくはかり。

婿入もまたせぬさきの舅入菊亭よりもたけたふるまひ

一。惡逆せられたる明智日向守。めしつかはれけるやりかたけの中間あり。六尺ゆたかなるおとこなり。あまりに大きなれはとて。人皆おふほとけと名を付た。此者日向殿へ何やらん不足をいふてあたまをそりてひつこむ。向州是を聞たまひて。ひさしきものとて不足をかなへてよひかへされた。又やりをかたけ供する。人是を見て一首つらねた。

おふほとけあたまをそれは又佛これそ二佛の中間といふ

謎詰之事

一春夏秋冬ヲ昆布ニ裏タ　何ソ　小式部

一ふすへぬかわ衣打きせた　何ソ　北白川

一燒亡打けした　何ソ　人丸

一股藏のたぬき　何ソ　枕

一むらさきの袈裟すみ染の袈裟　何ソ　ささ

一山からの山にはなれて去年ことし　何ソ　唐錦

一山山ニ風ガ入タ　何ソ　嵐山

一わたましのあした　何ソ　すみ染の袈裟

一くささにさつた　何ソ　かいての木

一ほの〴〵とあかしのうらの朝きりにしまかくれゆく舟をしそ思ふ

此歌は字あまりにて候　何ソ　筆

一古今の序やふれて歌人の中終る　何ソ　きんかん
一酒の入物十　何　すゝむし
一あかぬわかれ　何　はなれうし
一田　何そ　もみじ
一花　何そ　なるみ崎
一はらから　何　鏡臺
一太山路屋深山かくれの薄もみしもみちは散て跡形もなし　何　茶磨
一驕過タ　何　花瓶
一ぼつ　何　酒壺
一紙帳のおなら　何ソ　かみくさ
一蚊帳のやふれ　何ソ　かいる
一天狗の土藏　何ソ　まくら
一とりの中へくゝたちが入た　何　隣
一太刀刀皆失て果なたを包タ　何　花立
一法事の中ニりんがなつた　何　法輪寺

一宇治橋ノ半はついた　何　うし
一風呂の中に床がある　何　懐
一無理にそり　何　をし鳥
一五輪のばけ物　何　袴
一からすのかしら白成タ　何　尾羽黒
一かけこの中ノ毛抜　何　籠
一寒に囊　何そ　看經
一二つ　何そ　四半
一まん丸　何ソ　すみとり
一海のむかひ　何　鳥居
一櫻ノ明神　何ソ　涕巾
一廿一　何　八くし
一露　何　かさくるま
一たち　何　うつぎ
一女　何　こふくろ
一もろこしのはてはあらしと立歸る　何　衣
一禪ノつとめはしむる僧は十六　何　ゐのしゝ

一ひやうごのきしま　何　うみ梅
一にし　何　ひと丸
一近江　何　かなあふみ
一ひつじ　何　馬の尾
一二ヶ國の宿　何　かゝしの家
一いろは四くたり　何　くまて
一ようがいめせ　何　白爪
一東には風もなし　何　うなき
一千手觀音　ナニ　ておほい
一坊主とわれ　ナニ　しとみ
一堂のすみ　ナニ　塔
一けふは子　ナニ　いさりめ
一三とせ一とせ　何そ　色紙
一宮つかひかひこそなけれ身を捨てしはさか
さまにひくよしもかな　何　八はし
一產ダ馬ニ血ガ付タ　何　小町
一香爐ころんダ　何　獨寐

一練に松を包タ　何　ね□(まカ)つり
一くわの木まくら　何　まら
一なにもかもいらぬなりけりわかつまは此は
るはかりそはんとおもへは　何ソ
なつめの木
一ききやうかゑかやをみなへし　何　みくさ
一しゝとらのとをきつてかん中の用にたゝす
何ソ　十六らかん
一水にかきませタ　三ヶ月
一きつねなかてかへる　月
一連歌ははしまつたへたの下ノ句水邊よし
何ソ　ふすべかわ
一四つ五つ時は武士のき物　何　馬よろひ
一しゐしは皆きつてさかさまにたつる
何　いしはし
一きりかさねたるなますなまとり　きり／＼す

一いくかへり茶磨ニ入て茶をひく　何ソ
うくひす
一まさかりのくわいにん　ナンソ　小野小町
一にしの海あさし　ナンソ　鳥ひしほ
一うしろにあかもなし　せきれひ
一みやこはいつもしめりこそすれ　何ソ
ゐひもせす京
一くわんとうの藤内がすゞを一ツおとひタ
何ソ　くわんす
一戀のほりきもすます　あふき
一つはき葉をちてつゆとなる　ゆき
一あの花はなにはなそ　すいせんくわ
一くわんせか世をすて丶あすかみをそる
何ソ　くわんす
一つゆしもをけははきの葉もなし　何ソ　月
一宿をだに枕たにもならへぬ□□
なにとなみたのさきにたつらん　何ソ

ねすなき
一あをがひのくらをけかけは尾をとれははぬ
る　何ソ　らかん
一四ツ／＼の時日は入にけり　三井寺
一ち行はなし　はいたか
一てんくのらくるい　まめしる
一やすき事わすれた　なにそ　あんどん
一おやのけうくんかなはす　なにそ
こもちいぬ
一むようのへたて　よしかき
一えつじ　むまの尾
一よりまさはいねともうゐかふりをぬいてぬ
へのしらをつく　何ソ　いりこ
一うをのめいわく　何ソ　水引
一坊主がいせよ　何ソ　しされ
一木をきり竹をきりて入よ　木つ丶き
一とり居の中のからくさ　いぬたて

一さくらのあを葉　花かたみ
一いのちはふえのあひだ　ねこ
一ひがしの女房はさる　梅の木
一うらのとまや　あまがいる
一左のあふみ右にして左はなし　あふき
一五月五日つきの間なし　丹後つむき
一みがきじゆす　しゆす
一瀧ノ響ニ夢ヲ驚ス　アイサメ
一ゆあかりのやうしやういきかたし
　ききやう
一のほりくたりのてひやうじ　さかはやし
なすのよ一　せんすい
一無始無終佛ヶ塵ニ交ル　何ソ　千鳥
一黒白（クロシロ）シクハナシ　ナラフロ
一かへしてく□しもゝの木のしゆす　何
　尺八
一夏冬のうへのきぬかへさははりをそへてか
へせ　何ソ　ゆつかは

以宮内省圖書寮本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百六十

雜部百十

## 月刈藻集　人語隨筆時代不同

### 月刈藻集上

人語ニ云ク。昔イツノ比ニヤアリケン。春日大明神ニイツクトモナク白頭ノ翁一人來テ。社人ニムカツテ申ケルハ。此大神ハイカナル身體ニ御座ケルヤラント問ケレハ。社人ノ中三人カ申ケルハ。事新敷申コトニヤ。四社ノ神靈所謂。第一建甕槌命（タケミカツチノミコト）。是常陸國鹿嶋大明神一夜ノ內乘レ鹿（テニ）來給フ。第二齋主命（イハヒヌシノミコト）。是下總香取（カントリ）。第三天兒屋根命（アマツコヤネノ）。是河內國平岡。第四姬太神。是天照大神ナリ。イヤシキ翁カトヒ奉ルモ恐アルコト也ト。翁笑テサモコソアルラン。トテモノコトニ神形ヲ一々拜セントイヘリ。社人彌コレヲアサムク。翁神殿內陳ニハシリ入タリケレハ。社人コレヲトヽメントス。一人曰マヅマヅサシヲキ。神罰ノホド見タマヘト云ケルウチニ。此翁ムズ〱ト神トビラヲ明テ內ニ入。スハヤトカタヅヲ呑テコレヲ見ルニ。中ニ一ツ箱アリケルヲ開テ。亦內ニ重々筥二ツアリ。中ニ衣（キヌ）ニ包タルモノアリ。開テ見ルニ一紙書文アリ。翁シハシマモリ高ク讀テ曰ク。

靈如二明鏡一乃以レ貴有レ神以レ信現レ形
翁コレコソ誠ノ神體ヨトテ。如レ元フカク納封
テ。社人ニ一禮シテ退出ス。社人大キニ驚テ跡
ニツキテ追タリケルニ。此翁三笠ノ杉樹上ニ
登リテ不レ知ニ行方一。是誠神靈信ヲアラハシ。凡
人ウタカヒハラサントノ御事ニヤ可レ信云々。
人語ニ云。大和國ハ日本。惣名ニシテイヘハ大
和國一國ノ名ナリ。日本ト云ハ。大己貴幸魂
奇魂日本三諸山ニ住給ハント宣フ。則彼所宮
建テ居。神體痛處有。以二三輪一結レ之。仍號二三輪一。
又耶摩止書ハ。或山ニ住止ノ故ナリ。アメツチ
別テ未土カハカズ。山ヲ住カトスレハナリ。
伊勢國風土記ニ曰。夫伊勢國ハ神武天皇天日
別命ニ　勅詔アリテ曰。天津方宜アリ。其國
印標劒ヲ賜フ。天日別命勅ヲ奉リ。東ニ入ル
事數百里ニシテ其村ニ神アリ。名テ伊勢津彦
ト云。天日別問テ曰。汝カ國ヲ天孫ニ奉ラン

ヤ。答テ曰。吾此國ヲ求メ居住スル事久シ。敢
テ命ニ隨ハシ。天日別兵ヲ發シ其神ヲ戮ント
欲スル故。畏伏啓シテ云ク。吾國コト〱ク天
孫ニ獻ラン。吾敢テ此所ニ居ラジト。天日別命
又問テ云。汝カ去ルノ時何ヲ以テカ驗トセン
ヤ。啓シテ云ク。吾今夜ヲ以八風ヲ起シ海水ヲ
吹。波浪ニ乘シ方ニ東ニ入ントス。是則吾却ナ
リ。天日別兵ヲ整コレヲ窺フ。中夜ニ及比大風
四ニ起テ波瀾ヲ擧。光耀スルコト日ノ如シ。陸
海共ニ朗ナリ。遂ニ波ニ乘テ東ニ去ル。神風伊
勢國ハ常世波重浪寄國トハ蓋此謂ナリ。詔テ
曰。宜ク國神ノ名ヲ伊勢ト號スベシトナン。
難波トイヘルコトハ。神武天皇日向國ヨリ發
シ給ヒ。吉備國ニ三トセオハシマシテ。舟檝ヲ
ソロヘテ兵食ヲソナヘ。遂ニ東征シ給フ。舳艫
ヲ揃接テ難波ノ御崎ニ至ル時ニ。奔潮太急ニ
會ヌ。因テ以テ名テ此所波速國トス。浪華ト

云。今難波ト云ハ訛レリ。
蜻蛉小野トハ。雄略天皇吉野ノ川上小野ニ御幸シ。獸ヲカラシメ給フ。躬射ント欲給フテ待給フニ。虻疾來テ天皇ノ臂ヲ嚙フ。コヽニ蜻蛉タチマチニ飛來テ虻ヲ齧ヒ去ル。天皇喜ビ給フテ歌ヨミタマフ。此所號テ蜻蛉小野ト云也。
同帝ノ御時ニ。小子栖輕ト云人アリケル。參內シテ太安殿ニ入ル時。帝后ト戯玉フ。栖輕ニ見ラレン事ヲ恥。其折雷電スルニ會フ。因テ勅シテ曰ク。卿雷神ヲ取來レト。栖輕馬ヲ驅テ阿部山田ヨリ追テ豐浦寺ニ至ル。天ニ仰テ大キニ呼テ曰。雷神トイヘトモ何ソ詔命ヲ背ンヤト云テ止ス。又頻ニ呼叫テ曰。吾朝ノ虛空ナリ豈我朝ノ君ヲ無センヤト。迅ニ隨テ追。其雷果シテ豐浦ノ飯岡ノ間ニ墜。其形如ニ火玉。則コレヲ輿ノ中ニ抑入テ還リ參テ奏ス。帝恐テ幣帛ヲ供ス。火玉異光室照ス。終雲分テ至レ空。其落タル所ヲ雷岡トイヘリ。
孝靈天皇ノ御時ニ。駿河國白雲富士山ニカヽリ。不見事一月。雲ハルヽニ隨テ此山アザヤカニ見ユ。凡此山高キコト直立シテ二十五町トイヘリ。木花開耶姬住處ナリ。
醍醐天皇神泉苑ニ行幸ナリシニ。池ノ汀ニ鷺ノ居タリケルヲ。六位ヲ召テアレトリテ參レト勅諚アリシニ。承リテ爭カトラヘラルヘキト思ナカラ綸言ナレバ步ミ向フ。羽ツクロヒテ立ントスルヲ宣旨ゾトナン申。鷺ヒランデ飛不去。則抱ヒテマイリケレハ。帝ナヽメナラズ御感有リテ。汝宣旨ニ隨テマヒリタルコソ神妙ナレトテ。頓テ五位ニナセトテ。鷺ノ首ニ札ヲ付テハナシ給フトイヘリ。サレハ此帝サムキ夜ハ御衣ヲヌギテ。夜ノ御殿ヨリ投出サセ給ヒケルトナン。
聖武天皇神龜十三辛巳年十二月。橘諸兄爲

勅使伊勢大神宮參詣。是則南都金銅盧舍那佛像爲二安置一告使也。此時如レ幻顯二御形一有二御聲一曰ク。

實相眞如日輪照二生死長夜暗一
本有常住月輪掃二煩惱無明雲一

諸兄感歎シテ歸テ此由申ス云々。

仁德天皇四年十二月。群臣ニ詔シテ宣ク。朕高臺ニノボリテ遠ク望ムニ烟域ノ中ニタヽズ。以爲ニ百姓スデニ貧ク家ニ炊ク人ナキカ。朕キク古聖王ノ御世ニハ人々詠德ノ音ヲ誦テ。家々康哉ト歌アリ。今朕億兆ニ臨ミテ三年ニ成ヌ。頌音キコエス煩烟イヨ〳〵疎ナリ。卽知ス五穀ミノラズ百姓セマリトホシ。畿內カクノゴトシ。況ンヤ畿外ヲヤトテ。三月二十一日詔シテ曰ク。今ヨリ後チ三年ニ至ルマデ。悉課役ヲ止メテ百姓ノ苦ヲ息ヘ。此日ヨリ始テ御衣鞋履ヤフレツキザレハ更ニツクラズ。溫飯煖羹スヘリクサラザレバカヘズ。心ヲ削志ヲシツカニシテ御座ス。是ヲ以テ宮垣クヅレトモ造ラス。茅茨コボルレ𪜈以テフカズ。風雨ヒマニ入テ御衣ヲウルホシ。星ノ光モレリ。是後風雨時ニ隨ヒテ五穀豐ナリ。三年ノ間ニ百姓ユタカニ頌德スデニ滿テ。炊ク烟シゲク。七年夏四月。天皇臺ノ上ニ居マシテ遠ク望給フニ。烟氣オホク起ヲ喜バセ給ヒテ。

高キ屋ニ登リテミレハ煙タツ民ノカマドハニギハヒニケリ

是日皇后ニ語ラセ玉フテ宣ク。朕既ニ富リ。豈愁アランヤ。皇后對テ諮ク。何ヲカ富ト謂フ。天皇曰ク。烟氣國ニミテリ。百姓ヲノヅカラ富ルカ。皇后且言ク。宮垣ヤブレテ修事ヲ得ス。殿ヤブレテ御被露ニシホル。何ンソ富リト宣フ。天王曰。ソレ天ノ君ヲ立ル事ハ是百姓ノ爲ナリ。然レバ則君ハ百姓ヲ以テ本トス。是ヲ以テ古ノ聖王ハ一人モ飢寒ル則ンハカヘリミテ

身ヲ責。今百姓貧キ時ハスナハチ朕カ貧ナリ。百姓トメルトキンハ朕カ富ルナリ。イマダ百姓富テ君ノ貧キト云コトハアラジトノ御コトバナリ。

人語云ク。此帝未大鷦鷯尊ト申奉ルトキ。御弟菟道稚郎子ト御位ヲ譲アヒタマヒテ。攝州難波ニオハシマス民ノ獻リモノヲタカヒニ辭シタマヒシ。コヽニ於テ皇位空シク三年ニ及フ。終ニ稚郎子尊菟道ニテカクレ給ヒキ。今宇治離宮社祭ルコレナリ。ヤムコト得ズシ(テ脱カ)大鷦鷯位ニツキ給フ。此時ニゾ。

ナニハヅニ開ヤコノ花冬籠リ今ヲハルベトサクヤコノ花

トヨメル歌モ。此君ヲ祝シ奉リテノ詞ナリ。此君四十三年九月申ケルニ。百舌野ト云處ニ御遊アリケルニ。東道人ト云モノ鷹一モト奉ル。是鳥ヲ取ル事與アマリナリト奏ス。則百濟酒君ヲシテ。此野ニテ雉鳥ヲトラセラル。コレヨリ鷹狩始マリ代々ニコレヲ奏ストナン。

一條院ハ極寒ノ夜ニ。御衣ヲ押除ケヲハシマシマシケレバ。上東門院ナドカクハセサセ給フゾト問奉ラセ給フニ。日本國ノ人民イカニ寒カランニ我アタヽカニテ寢タル事無慙ノ事ナリトゾ仰ラレケル。有ガタキ御心バヘナリ。此御志ノ心ヲヤヨマレタリケン。後京極攝政ノ歌ニ。

ヲホフベキ袖コソナケレ世ノ中ニ寒ケキ民ノ冬ノヨナヽヽ

桓武天皇長岡ノ都ヨリ此平安城ニ遷ラセ玉フ。宮城ヲ經營シ給間。時々行幸アリテ見給フニ。羅生門漸クナレリ。御輿ヲトヽメテ詔シテ曰。門能建リトイヘ尼。此所風烈キ處ナリ。獨立ノ門至ツテ高キハ風ニ倒ルベシ。柱ノ根一尺ツヽ切ベシト仰ラレケリ。工匠心ニ思フハ。門ヲカマユル事甚タ堅固ナリ。何ゾ風難アランヤ。シカレトモ命ニ應シテ半五寸ヲキル。二

度御幸ノ日又詔シテ曰ク。始惡見テ一尺キレト仰ラレキ。未タ高シ五寸切ルベシトナリ。工匠大ニヲドロキ天眼ノアヤマラザル事ヲ懼レテ申シケルハ。始メ一尺キレト仰ラレシカドモ。無下ニヒキヽハ見物モイカヽト存シ五寸切テ候ト申ケリ。帝宣ク。遷都ノ日スデニ近シ。ソノマヽ置ベシトナリ。ハタシテ三度バカリ風ニ吹倒サレケルトナン。圓融院ノ御時倒レテ其後造ルコトモナカリキ。

粟田讃岐守兼房。年頃和歌ヲ好ミケレ圧。宜キ歌モ讀サリケレハ。心ニ常々人丸ヲ念ジケルニ。或夜ノ夢ニ。所ハ西坂本ト覺シキ處ニ。木ハナクテ梅ノ花バカリ雪ノゴトク散テ。イミシク芳シカリケルニ。傍ニ年高キ人アリ。直衣(ナホシ)ニ薄色ノ指貫紅ノハカマ著テ。ナヘタル烏帽子ノ尻イト高クテ。常ノ人ニモ似ザリケリ。左ノ手ニ紙ヲ持右ノ手ニ筆ヲソメテ物ヲ案スル氣色ナリ。アヤシク誰人ニカト思フホドニ。此人云。年比志深キ信ニヨリテ形體見スルゾトテ。カキケス樣ニ失ルト覺。夢サメテ後朝繪師ヲ呼テ此アリサマヲ委シク語リ書セタリ。度度書直シ〳〵ケル中ニ。似タルヲ寶ニシテ常ニ拜シケル。其驗ニヤ前ヨリモ宜キ歌圧詠シ出シタリ。年比經テ死ナントシケル時ニ。白河院ニ進ケル。帝喜バセ給ヒテ御寶ノ中ニ加テ鳥羽ノ寶藏ニ納メラレケリ。其後六條修理大輔顯季(アキスヘ)。サマ〳〵ニ度々申テ信茂(ノブシゲ)ヲカタラヒ。書寫シテ敦光ニ贊作ラセ。顯仲ニ淸書サセテ本尊トシ。始メテ影供オコナハレケル。年毎ニ怠ラスシテ。後ニ長實家保ナントヲサシヲキ。三男顯輔コノ道ニ堪タリシカバ。此影ヲ讓得タリケルトイヘリ。其讚ニ。大夫姓柿本ノ名人麿。蓋上世之歌人也。仕ニ持統文武之聖朝ニ遇ニ新田高市之皇子ニ吉野山春風從ニ仙駕ニ而獻レ壽。明

石之浦之秋霧思ニ扁舟ニ而綴レ詞。誠是六義之秀逸。萬代之美談者歟。方今依レ重ニ幽玄右篇ニ聊傳ニ後素新様ニ。固有レ所レ感。乃作レ讃焉。其辭曰。

倭歌之仙　受ニ性于天一　其才卓爾　厥鋒森然　三十一字
詞華露鮮　四百餘歳　來葉傳レ風　斯道宗匠　我朝前賢
湿而不緇　鑽レ之彌堅　鳳毛少彙　麟角猶専　既謂ニ獨歩一
誰敢比レ肩

續日本紀ニ云

天平九年三月十八日。石見國ニ卒スル由。諸國ヨリ一等ニ奏スト云ヘリ。死期ニ及テ歌ヲ詠ス。

石見ノヤタカツノ山ノ木ノ間ヨリ浮世ノ月チミハテツル哉

サレハ古今集序ニ。人丸ハ赤人カ上ニタ、ンコト難ク。赤人ハ人麿ガ下ニタ、ンコト〔カタ〕クナン有ケルトイヘリ。飛鳥井殿云ク。赤人ハ人丸ヨリハ少ヲトレリト見ユ。恭ニトラハ半バ日カリヨハカルベシ。

天滿天神筑紫安樂寺於寺内搆ニ一室ニ。或時一眠夢見給フコトアリ。所々廣野シテ熱烟立登リテ。山ニハ風烈シク川ミナギツテ。樹上響ク一人有テ曰ク。コレ黄泉道也。此處不レ非レ可レ行テウセス。于時ニ如レ幻。サレハ古杉老松蓋レ天。霜雖星砧地包。行方不分ト。詠給フト覺テ夢サメヌ。亦或時ハ夢中渡唐シテ徑山無準ニ逢給。無準曰。何人歟。答テ曰。

カラ衣ヲリテ北野ノ神ソトハ袖ニ持タル梅ニテソシレ

人語云ク。コレラハ皆後人説ニテ實説ヲキカズトイヘリ。抑天神ハ菅原ノ家ニ生レテ。朝庭賢臣タリキ。本院大臣讒言ニヨリテ。昌泰四年正月廿五日筑紫ニナカシツカワサレ。延喜三年二月廿五日於ニ配所ニ薨去シ給フ。御年五十九歳。葬ニ安樂寺ニイヘリ。同九年時平薨ス。三十九歳。此大臣病ヲウケテ身心トコシナヘニ惱。其比天下ニ效驗ノ僧淨藏。貴所ヲ請シ加持セラレケルニ。大臣ノ左右ノ耳ノ内ヨリ少青キ虵頭ヲサシ出シ。貴所ニ向テ我菅臣カ靈ナリ。無實讒

言ニシヅミタル恨ヲ散センタメニ。此大臣ヲトリ殺サントト思ソ。祈ルモ療術アルヘカラスト云。如ニ人言ニ。貴所驚テ暫休ニ加持ー。時平忽死ス。此青虵耳ノ中ヨリ出テ屋上ニ登リ失ヌ。息女ノ御孫春宮二男八條大將敦忠中納言。熱痛請テ打續テウセ給ヌ。同十四年ト申ケル五月二日。京都數多燒失ス。是彼忿猶不止云々。天德四年大内回祿シテ新シク建ラレケル。庇ノ板ニ虫ノハメル歌。

建トモ亦モ燒ナンスカハラヤム子ノ板マノアハン限リハ

人語云ク。菅家得意詩春姓無氣力詩序ニ曰ク。

羅綺之爲ニ重衣ー妬ニ無レ情於機婦ー
管絃之在ニ長曲ー怒ニ不レ關於伶人ー

世人云傳テ。コレヲ吟スレハ菅靈メクミアルヘキトナン。亦十一歲ノ御時ニ月夜見ニ梅華ートト云事ヲ。

月耀如ニ晴雪ー　梅華似ニ照星ー　可レ憐金鏡轉　庭上玉房馨

亦天安二年。于時十四歲。臘月獨興。

氷封水面聞無浪　雪點ニ林頭ー見有レ華

元慶六年渤海國ノ使者來テ。菅家ノ詩ヲ見テ白樂天カ風情アルトナンイヘリ。

人語テ曰ク。主計頭都貞繼文章博士タリキ。其子良香延喜ノ御代ニツカヘタリケルニ。或時東寺羅生門ヲスキケルニ。比ハ春ナレハ柳ミダレテ。面白ク池水ニタレケレハ。氣霽風梳ニ新柳髮ート詠シ。アト句ヲアンシケルニ。樓上ニヲソロシゲ成聲ヲ上テ。氷消浪洗ニ舊苔鬚ートイヘリ。フリアフギテミレハ。カラ〳〵ト笑フ音シテ物ナシ。如何樣鬼魅ノ仕ハザニコソトテ。急キウチ通リケル。他日菅家ニカタリケルニ。菅家シハラク打吟シテ。コノ下句ハ人言ニ出ルニアラス。不思議成トノタマヒケルニ。良香恐テ後ニソ語ラレシトイヘリ。此良香近江國竹生嶋ニ於テ。三千世界眼前盡ト上句ヲ詠ラレタリシニ。カタハラナル女人有。十二因緣

心裏空ト付テ。社壇ノ中入ルト見ヘタリ。夢中コトクナリト語ラレタリ。

同人語云ク。此良香末孫都有仲作レ詩云ク。

白雲似レ帶圍ニ山腰一　青苔如レ衣負ニ巖背一

ト作ケルニ。時人感メ唐樂天カ來テ詠ストモ。コレホドニヤト申ケル。卽時和シテ云。

コケ衣キタル岩ホハマ白ケレキヌ着ヌ山ノ帶ヲスルカナ

其後。有仲夢中住吉明神示給フ。アツハレ此國ノ打聞哉トノタマフトミヘケル。

人語云。昔洛陽ニマツシク世ヲ渡ル若キ女房アリケリ。母ト具シテ八幡ヘ詣テ、。身ノマツシキコトヲ祈リ申ケルニ。娘ハアユミツカレテ。宵ヨリ通夜打フシテ休ミケリ。曉母オドロカシテ。イカニヤサシモ思ヒタチテ詣タルニ。思フ事モ能々祈申タマヘカシ。心ヤスク打トケテ休給フモノ哉ト。云ケレハ返事ニ。

身ノウサハ中々ナニト石淸水思コヽロハクミテシルラン

下向ノ道スクルニ。時メキタル殿上人。見想テ同車ノセテヲハシケル御利生ノホドコソ。

コレモムカシ。加茂ノ上宮ニマヒリテ。身ノホドヲ祈ケル女アリ。年月怠コトナカリケリ。アル時内陣ヨリ一枚書紙風ニシタカヒテ出タリ。取テミレハ。

イツク共サタメカネタル海士小舟同シノリ行人ヲ待ヘキ

其後ヲモハザル人ニグシテ。サカヘタリトナン。

元久年中比。山城國譽田八幡宮ニ參リケル人ニ御示現アリケル御詠歌。

慈悲佛スクナルハ神マガリ人同シ心ヲ三ツニ分ケル

或人云ク。筑紫安樂寺ノ飛梅ノ枝。アル人折タリ。其夜ノユメニケシタル上﨟。彼御殿ノ緣ニテ詠タマフトミル歌。

ナサケナクオル人ツラシ我宿ノアルシ忘レヌ梅ノ立枝ヲ

此人驚テ。外ニ梅木一本ヲコノ處ニウヘタリトナン。

人語云ク。小式部内侍病重クナリ。心ヨハクヲ

ボヘケルトキニ。母ヲ見テ聲ノ下ニヨメル。

イカニセン云ベキカタモ思ホヘス親ニ先立道トシラ子ハ

天井ノ上ニ感スルコヘアリテ。病早速愈タリ。神明ノ御助ニコソ。

又云。赤染衞門カ歌ニ。

カハラント思フ(イノルイ)命ハ惜カラテサテモ別レンコトソ悲シキ

頼ミテハ久シク成ヌ住吉ノマツコノ度ノシルシミセナン

千歳ヨトマタミトリ子ニアリシヨリタヽ住吉ノ松ヲ祈キ

是ハ江ノ擧周和泉去レ任之後。病重ク惱テ住吉ノ御タヽリ也ト云ヘルヲ聞テ。三本ノ幣ヲコシラヘ。此歌ヲ一々書テマヒラセケルニ。其夜社内ニ社人アリケルカ。白髮ノ老人出テ。取テ見テ悦フ氣色ミヘケル。其後病愈シケル。

又云。紀貫之(ル)カ紀伊國ヨリ上洛スト。俄ニ乗タル馬不行コトアリ。道行人ニ尋テ曰。カヽルコト侍ル。若コノアタリ舊社ノアトモヤ候ト云ケルニ。人云ク。コノアタリ年頃サシタル社モナシ。サレトソコノアタリニヤ。古神ノマシマストイヘリ。ハヤク馬ヨリヲリテヒサマツキ手水シテ。如何神ノ御名トイヘル。アリトヲシノ神ト申ケレハ。

カキ曇リアヤメモ知ヌ大空ニアリトホシ(チモイ)トハ思ヘキ(シヤイ)カハ

ソレヨリ駿馬ストイヘリ。

人語云。天下雨タヘテフラザリケルトキ。小町ニ雨乞ノ歌ヨマセラル。

千早フル神モミマサハ立サハキ天ノト川ノ樋口アケ給ヘ

三日過ルニアメ不止云々。

同云。能因法師伊豫國ニ侍リテ。三嶋明神ニヨミテ奉ル歌ニ。

天ノ川苗代水ニセキクタセアマ(イナシ)クタリマス神ナラハ神

コレハ數月不雨降。民ナゲキケレハ。人ノスヽメニテヨメルトナン。コノ歌ヨミ。三日三夜大雨ストイヘリ。

天下雨フラデナケキケルコロ。和泉式部神泉苑ニヨミケル。

コトハリヤ日ノ本ナレハテリモシツ天カ下トハ人モ云ズヤ

カクヨミケレハ。大雨フリテ萬民ヨロコビヌ。

弘仁年中閑院大臣。都ニ學所ヲシツラハレテ。良房卿イマダワカクテモノシ給ニ。此亭ニテ人々集リテ閑談アリケルニ。御庭ノカキニ小鳥トモ。イクラト云カズモシラテ。トヨミサハギケルニ。チカキ靑侍ドモイデヽ。ハラヒシリソケシニ。イトヾヤカマシクナリケルニ。御前侍ル童ノヲカシゲナルカホシテ。

白ラマダサメモセヌムラ雀垣ネアマタニマドシケルカナ

トナンキコエタリケルニ。ヲトモセデウセシトカヤ。是今洛陽三條壬生ノ西勸學院トモ申ナン。

人語云ク。仁明帝ノ御子人康親王。逢坂山ニ別莊ヲ建リヲハシケル。八歳ニナル童ノヨメル。

逢坂ヤ霞コメタル關ナレハアケテモツラキヨルノ旅人

人々フカク感ス云々。人康親王ハ仁明第四ノ宮ナレハ。コノ御座ケル跡號ニ四宮トイヘリ。

小式部イマダ幼童ノトキニ。母ニヒキワカレテ保昌ニグシテ河内國アリケルニ。秋ノコロ雨ノフルニ鴈ナキテ。フルサトコヒシク覺テヨミケル。

コト問ン鴈サヘ知ヌコヒシサハ涙ノ雨ヤフルサトノコト

アハレガリテ。母ノモトヘヲクリヤリケルトイヘリ。

ムカシ後ノ少將ヲサナキ時ヨリ。イミシウ歌ヨクセサセ給ヒシ。一條攝政ノモトニテ人々アツマリテ歌ヨミケルニ。

秋ハナチ夕マクレコソタヽナラネ荻ノウハ風ハギノ下露

トナンキコヘ侍リ。コノ年十三ニナラセ給ヒシ。イト有カタクカヘス〴〵モヲモハレ侍リシナン。

人語云。赤染衛門石山アタリニモウテケルニ。道ニ草フカキ家イトウアレテ侍リケルニ。サショリテ内ヲミレハ。十四五バカリノ童ウチ

ナゲキテ居ヌルニ。コヽロ細クミヤリタルニ。折カラ山ノ端ニ月ノアカク出シヲ見テ。此童ツク〳〵トマモリテ。

> 問人モタヨラン方モアラシ吹草ノ菴ニ月チコソマテ

トハカリ詠ス。人ヲ入テ樣子ヲ尋シニ。三トセハカリ先ニ。ヲヤナングシテ西ノ國ヨリマカリ。マタノ年ウセニキト云テ。ナゲキケレハカクゾヨミケル。

> 獨コソアレユクトニハ歎キツレ主ナキ宿ハ又モアリケリ

是匡衡衞門ニヲクレタルコロナリ。

> 私記。平兼盛女赤染衞門母。初兼盛ニ逢テ後通ニ赤染時用。是兼盛離別以後也。仍號ニ赤染衞門。平城天王御子阿保親王七代孫。大江匡衡嫁ス江侍從生ス。 上東門院女房。

人語テ云ク。信濃國ニ有人。京ヨリ人ヲ思テ具シテ下リニケル。此女京ニテモモノ申人アマタ有ケル。如此人ニ具シテクダリケレ𪜈。シノビテフミナドトリカワシケル。アマタニナリケレハ。カクシテ見ケリ。人アリテカヽルコトアリト男ニツゲタルニ。是ヲ男キイテ。心ヨカラズ。女ノ知ラヌ樣ニシテトリ出シ。男ハモノカヽザリケレハ。繼子ノアリケルニ戶隱ニ登テキタリシヲヨビテ。母ノ前ニテヨマセタリ。母色ヲウシナイテ肝心モ身ニソハテアリケルニ。此子心アルモノニテ。タヾヨノ常ノフミノヤウニ。アマタノフミヲヨミカヘタレハ。サテハ人ノサカシラナリトテ。ナニトモイハデアリケル。此母アマリニウレシク思テ。イタイケシタルモノトヽノヘテ。此子ノ許ヘヤリケルニ。此歌ヲ書付タリ。

> 信濃ナル木曾路ニカクル丸木橋文見シ時ハ危ウカリシチ

此繼子カヘシ。

> 信濃ナルソノハラニシモ宿ラネト皆帚木(ハヽキ)ト思フハカリソ

壬生忠見幼少時ニ。內裏ヨリ召サレケルニ。無乗物シテ參リカタキ由申ケルニ。竹馬ニノリテ可參トタハムレ仰ラレケレハ。進歌一首。

> 竹馬ハフシカゲニシテイト弱シ今イフカゲニ乘テ參ラン

忠岑カ子。本名忠實（マヽ）。號ニ攝津大目ト。天德二年比ナリ。從五位下ナルイヘリ。

人語云。天德歌合ノコロ忠見ヲ召テウタヨマセラルヘキ由。御沙汰アリテ尋ラレケルニ。難波ノ浦ニ蘆ヲ刈テ侘シケナル樣ニテ候ヨシヲ申ケレハ。イソギマヒルヘキ由仰アリケレドモ辭シテ不參。度々ノ仰ニコトニ天上ノ膳夫ニナシタマフヘキ旨ナリケレハ。隨レ勅參ス。朱雀門曲殿ニ至テ宿ス。田舍ノアヤシゲナル姿ニテ候キ。サテ歌ノ席ニ列ス。柹ノ小袴衣ヲキテウナダレテ歌ヲ案ス。ステニ二十番ニ至テ忠見詠テ云。

戀ステフワカ名ハマタキ立ニケリ人シレス社思ヒ初シカ

兼盛カシノフレハ少イヽツメダル哉ト云人アリケルニ。兼盛ハ拜舞シテ退去ス。忠見今日歌此一首ニコソ。無念ノコトナリトテ。又席ヲ出不レ知ニ行方ニ云々。

人語云ク。或書ミレハ小野小町髑髏ノ歌。說々アリテイツレヲ是トセンヤ。古老語テ云。昔北山邊市原野有ニ過人ト。夕日險暗而宿ニ異家ニ。一瓶見レ夢凄風甚却レ耳。野中有レ聲如ニ人物云ニ。秋風之吹仁付天毛阿那目穴目聞。求之果而髑髏目中一本生ニ徹芭芒細。件髑髏發レ聲我則小野小町屍也云々。彼人涕泣而附ニ下句ニ。小野土波不云薄出タリ云々。僖爲ニ恩句ニ者也。彼人語レ夢人ニ語ル。卽チ陸奧國過ル人以レ序至ニ八十嶋ニ。小野小町尸ヲ尋テ今市原野斂之有ニ今墓ニ云々。コノ人ハ則業平朝臣ナリトイヘリ。異記云小野小町ハ。出羽郡司良實カ。或民ノ女ニマフケサセケル娘ナリ。美人ノキコヘカクレナカリケレハ。十三ノ年ツレテ都ニノボリケリ。十五ノトシ内裏メサレテ歌ヲ詠ス。歌人キコヘカクレナクシテ。後ニハイカハカリ目出度サカヘ侍ルヘキ處ニ。ウチツヽキナゲキノミシテ病出タリ。終ハ

アサマシカリケル。小町闕寺アタリニ居タリケルコロ。日比和歌會ニ思ヨセケル人ノ中ヨリヨミテオクリケル。

雲ノ上アリシニ似タル隈モナキ月ノカホノミ影曇ルラン

若年比ヨリクルシカリケル身哉。

人語云。野相公トガニアタリテ。隠岐國ヘナカサレシニ。和田原ト詠出サレタルコソ。アワレフカク心ノ内サコソト思ヒヤラレタル也。此歌ヲ打吟スレハ。ヲノスカラ涙ウカヒ出ラルルヨト。定家卿モ仰ラレタリトイヘリ。野相公トハ小野篁ノコトヲ云也。敏達天王末峰守子也。此流人ノコトハ或人云。仁明帝ノ御時遣唐使藤原常嗣ニツキテ行ケルニ。篁副使タルヲウラミテ都ヘカヘリタルトガ也イヘリ。承和三年配ニ流隠岐國ニ同七年四月免許歸洛。同八年復ニ本位ニ云々。

人語云。人夢ニ篁乘レ車至ニ愛宕寺ニ。塔邊大地破割墮ニ入其中車共ニ永不レ殘レ跡見ル。

人語云。中將尼ハ父右大臣豐成。孝謙天王臣ナリ。母藤女百能ト號ス。中將姫其姿美麗ノヨソヲヒナリ。シカルニ若キ比ヨリ不淨相ヲハナレントテ。ツクロフコトナカリケルニ。自然ニ其姿ノ美ナルコトキコヘケレハ。カナタコナタヨリ心ヲカヨハス。此事ヲ聞テ彌面ニ烟墨ヲヌリ。目ニ藥ヲ付ナントシケル。不思議ナルフルマヒシタリケル哉ト。父コレヲイサムレドモサラニキカズ。然ルニ父豐成藤原押勝ト兄弟チナミナリケルニ。押勝謀叛ノキコヘアリシ故誅セラレタリ。豐成モシタシカリケレハ筑紫ニ流サル。中將女アナタコナタサマヨヒテ後ニ。當麻寺ニ入テ尼ト成ル。念佛三昧ニ入テ。以ニ蓮糸ニ織ニ曼多羅ニイヘリ。修行時ニ於ニ雲雀山ニ彌陀來迎引接ヲ見ル故ニ云々。寶龜六年ニ卒ス。

語テ云。三十九代帝天智天王退位七年。土佐國
於二朝倉一黑木御所建リ行幸ス。用二儉約一故歟。
號二木丸殿一。此時御歌。
朝倉ヤ木丸殿ニワレヲレハ名ノリヲシツヽ行ハタガ子ソ
十年ト申ケル九月。天皇山科ニ行幸ス。道ニ惱ニ
御心一忍テ歸リ給。會而不レ知二人終入一御寢所一
給。無二出御一給崩云々。近江國滋賀宮トイヘ
リ。サレハ御在位ノ中モ民ノクルシミヲカナ
シマセ給フ。秋田刈百姓ノ體ヲ御覽有テ。
秋ノ田ノ刈ホノイホノトマヲアラミ我衣テハ露ニ濡ツヽ
人語云。ムカシ延喜ノ御トキニ。大井河ニテ殿
上人ムレアツマリテ逍遙シケルニ。歌ナドヨ
マレケル時。貫之ヲソクマヒリケレハ。人々ホ
イナクモヘカヲハリ。又躬恒カロスサミニ曰ク。
チク山ニ舟コクチトノ聞コユルハ
ナレルコノミヤウミワタルベキ
トハカリ云ヒテ。イカニヤ〳〵トセメケレハ。
トナン付タリケル。此事内ニモキコシメシテ。
興セサセ給ヒケルトナン。
或人云。紀貫之爲二望行子一始號二實之一。小朝拜節
會初而出二階下一。謬而冠落。上達部戲而。實之落
レ冠爲二貫之一云。聯座笑レ之。實之靜落冠取而退
去。後日人々謂二貫之一無レ止云々。
私記。貫之孝元天皇末。武内宿禰十一世苗裔。六十代醍醐
天皇爲臣。元慶八甲辰年二月十一日生ス。天慶丙午九年冬
十一月十三日卒ス。
同人語云。左衞門督兼輔。夏比深養父貫之招而
有二當座會一。夕日隱二西山一。通レ夜促二管絃一于時深
養父彈レ琴。其聲爲二諍々一。兼輔感歎而讀歌。
ミシカ夜ノフケ行マヽニ高砂ノ峯ノ松カ　吹カトソキク
貫之此歌賞而流水曲准テ誦ル歌。
アシヒキノ山下水ハ行カヨヒ琴ノ子ニタニ流ルヘヲナリ
深養父流二感淚一。管絃畢而席去ル。息泰光ニ語ル
云々。
北野行幸ノ時。本院ノホトリニアル小河。コレ
ヲ何トイフ川ゾト問ハセ給ヒケルニ。折フシ

躬恒供奉ニ侍リケルニ。

イサ知スミツヲハ爰ニアリス川君カ行幸ヲ今日社ハ見レ

月ノアカヽリケル夜躬恒ヲメサレテ。月ヲ弓ハリト云ハ何ユヘニトカ。トハセタマヒシトキ。

テル月ヲ弓張トシモ云コトハ山ノ端サシテイレハ也ケリ

御感アリテ祿ニ白キ御衣ウチカヽツキテ。

白雲ノ此カタニシモチリイルハ天津風コソ吹テキヌラシ

後人語云。今ハ禁中ナトニテヲリイルトイヘル詞不可詠云々。

ムカシ實方中將コトニアタリテ。陸奧國ニ行テ歌枕シルシケルニ。アコヤノ松ト云ヲ尋カネテ。コレカレニ問ケルニシル人ナカリケルホトニ。如何セント思煩ヒケル。或翁來テ物思カウ〳〵ト語。翁笑テ曰。

ミチノクノアコヤノ松ノ木高キニ出ヘキ月ノ出ヤラヌ哉

トヨメル歌ハシリ給ハズヤ。ムカシ出羽陸奧一國ナリ。今兩國ト成。出羽ニ侍ルトヲシヘケレハ。則彼國ニマカリテアコヤヲシルシケル。

人語云。下野國ノ野中ニ嶋侍リ。其嶋ニ淸水ノ底キヨキカ流出タリ。是ハ實方ノ思ヒアリトモシラスヘキトヨマレタル。室ノ八嶋ノ煙ト云ハ此處ナリ。此水ニ氣ノ立ノボルカ煙ニマカヒテカク申侍ルトイヘリ。

宇治川嶋ヲコヘテ二里ハカリモ山ノ奧ニ。喜撰カスミケル跡アリ。名ノミ殘リテサダカニ知ル人ナシ。喜撰名利ヲタチテ折フシノ詠歌紙ニ書テ宇治川ニナカシケルニ。

我庵ハミヤコノタツミ鹿ソスム世ヲウヂ山ト人ハイフ也

此一首綱代ニ留リテ。外ハ聞コトマレナリ。

人語云。イニシヘ慈濟僧正鞍馬ノ奧ニ結二庵。毎日水ヲクンテ來ル女アリケル。秋モヤウヤウ夜サムク窓ノアラシスサマシク吹テ物サミシキコロ。此女來テ僧正ニ申ケルハ。カク年月

水クミテツカヘ奉ルコトニアリカタキケチ縁ニアツカリ申サン爲ナリ。シカルニ此ホド人ノ申アヘリシハ。僧正ワカキ女ヲチカツケ給フコトコヽロヘスコソ候ナト。御爲ノホドイカ計カナシクハベレハ。今ヨリハ參ルマジ。御慈悲ニ御衣ヲタマハリ。彌コヽロヨク終タク侍リト云ヘハ。僧正アハレニ覺テ。則衣ヲヌギアタヘラレタリ。女ナク〳〵持テ去リヌ。其後僧正フシキニ思テ人ニモ尋タマヘ𪜈。カヽル人アルトモ人知ラサリケル。マヘナル谷ニ行テミレハ。件ノ女ニアタヘラレシ衣杉ノ木枝ニカヽレリ。トリテコレヲ見ルニ不動明皇ノ靈像アリ。サテコソ常ナラヌフルマヒシケル人哉ト思ハレ。イトヽタノモシクヲコナヒ給ヒケルトイヘリ。此谷今不動谷又ハ僧正カ谷トイヘリ。

人語云。ムカシ淡海國勢多ノアタリニ。一人有年比ナレタリケル妻。シツト深カリケルニ。滋賀郡ニカヨヒナレタル女アリケルニ。常ニ此妻ネタミ侍リシ男イカニモシテウシナハントハカリテ。アル時ニ此男京へ行トテ僞テ滋賀行ケルニ。此妻シノヒテ跡ヨリ來ル。男シノビカタク又京ノ方ニ行シニ。勢多ノ橋ノ邊ニテ男アマリニイブセクテ。シハシ立トマリテミレハ。此妻來テ大キニ腹アシクシテ追來リ々レハ。此妻ヲトカクスカシテ橋ノ下ニツキ落テゾカヘリケル。此妻ノ念ニヤ夜々アヤシキコト侍ル。男スミ侘テ滋賀ノ女ヲツレテ京ニ行ケルニ。勢多橋ニカヽリス。此所ニテカノ妻ノ死タルコト思出テ。ソヽロニヲソロシクナリケルニ。一尺餘リ小蛇出テハヒカヽリケルニ。男心アシク行モヤラテアリケル時ニ。此蛇ミルウチニ大キニナリテチカツキヨリケルニ。彌ヲソロシクテ。又シガノ方ヘニゲ行タ

リ。跡ヨリヲソヒ來ルヲミルニ始ニコトカハリ。イカレル姿シテ來ル。カノ家ノ内ニ藏ノアリケルニカクレタリ。此蛇クラノ窓ヨリ入テ男女トモニ喰コロシタリ。此蛇ハ大キニヨロコンデ勢多ノ方ヘカヘリヌ。折々ハ橋ノ上ニ出テ往來ノ人ヲヲトロカシケル。其後アル名德ノヒヂリニ逢テ戒ヲ請テ不出トナン。今ニ小蛇ハアルトイヘリ。

人語云。或人女房鎌倉ノ將軍家ノトキ召ツカハレケルニ。ヤウ〳〵ウトクナリテ。カマクラヘカヘサントテ。庭ニ鞠ノカヽリアルヲ歌ニヨミ給ハヽトドメ侍ハント云ケルニ。此女。

櫻咲ホドハノキハノムメノ花紅葉マツ社ヒサシカリケレ

カクヨミケル歌ニメデヽ。ソレヨリ念比ニカタリシ。

又赤染衛門夫ノ大江匡衡。稲荷ノ禰宜カ娘ヲカタラヒテ相住ケル。久シクトハサリケル。此歌ヲヨミテヤリタリ。

我宿ノ松ハシルシモナカリケリ杉村ナラバ尋キテマシ

此歌ヲミテ匡衡恥カシク思ヒナン。赤染カモトヘカヘリスミテ。禰宜カ許カレ〳〵ニナリヌ。

又云。コレモ當國ノツカサシケル人。京ノ名人歌道ニシラレタル女房ムカヘ相住ケル。カレカレニナリテ。コレモフルサトヘ送リテ後。年月過テサスガムカシ名殘リヤアリケン。衣小袖ナト色々トヽノヘテ此女ノモトヘヲクリケルニ。返事ベツノコトハナクテ。

ツラカリシ涙ニ袖ハ朽ハテヌ此ウレシサヲ何ニツヽマン

コノ男。コレヲ見テアハレカリテマタヨビムカヘシトナン。

人云。ムカシ遠江國ニアル人ノ妻。夫ノ許ヲ出テ行トテ。既ニ馬ニ乘テ出ケルニ。人ノ妻ノ夫ノモト出ルトキハ。家内心ノマヽニトリ出ル

ナラヒナリケレハ。家内モ心ニマカセテトリ給ヘト申タリケルニ。女ノ曰。

思フ人ステヽ行身ノカナシサニ涙ハカリチ袖ニツヽミテ

トヨミ出シタリケルニソ。男イトヲシクナリテ終ニコトヤミニケル。

或人モトノ妻ヲモ家ニヲキテ。外ヨリ又女ムカヘテスミケル。今ノ女房一所ニ居テ。カキ一重ヘタテヽ本ノツマニ。アキ夜鹿ノ鳴ヲ。カレキヽ給フニヤト申タリケレハ。

我モ鹿鳴テソ人ニコヒラレシ今コソヨソニネチノミソ聞

コレモアハレニナリテ。今女カヘシ。本妻ネンコロニカタラヒシトナン。カヽルコトヲ以テ見レハ。タケキモノヽフノ心ナクサメ。男女中和クト貫之イヘル尤コト也。

人語云ク。中比下野國阿曾沼ト云處ヲ通ケルニ。スコシ高キ山ノキハニ沼アリ。ソノサキニカスカナル塚ノミヘケルニ人云。コレハ鴛塚ト云ト。イカナル故ニヤト聞侍リケルニ。ムカシコノ所ニ常ニ殺生ヲ好ムモノアリ。或時ニ鷹狩ニ出タリケルニ。鴛ノ雄ヲヒトツ取テ家ニ持來リシニ。其夜ノ夢ニ裝束尋常ナル女。姿カタチウツクシキカ恨タル氣色ニテ。サテサテトナケヽク。男イカナル人ゾト尋ケレハ。彼女涙ヲシヌグヒテ申ケルハ。フカクカタラヒ侍ル人ヲ。マサシクキノフソコノ手ニカヽリ。命ヲウシナハレ侍ルコトノ力ナサヨトテ。マタナゲキケル。シハシ有テ一ツノ物ヲ落テ。フツフツトタツヲミレハ鴛雌ナリ。ウチヲドロキテミレハ。一物ハ一首歌ヲ書付タリ。取テミレハ。

タクレハ誘シモノヲアソ沼ノマコモカクレノ獨子ゾウキ

アハレニ思テ。キノフ取タル雄鳥ヲミレハ。雌鳥ヒトツハシヲ喰合テ死セルアリケリ。彌哀フカク二ツノ鳥ヲ塚ニコメテ。男ハ發心ノ道

ニ入タリ。其塚ニ侍ル。近比モ人ニ尋タリシニ。今ハソノカタトテモミヘス。誰知ルアトモナカリキ。

人語云。ムカシ男山ノフモトニ一人アリ。年比アヒナレタル女アリ。又京ニモフカク語ル女アリシニ。度々京ニ行タリ。アルトキ京行テ久シクカヘラス。本ノ女フカクウラミテ遂ニ河水ニ身ヲナゲタリ。男ハ久シクナリシヲコヽロモトナクテカヘリケルニ。コノ川ニ人ノ形ウカミ出ケリ。フシギニ思ヒテ取上テミレハ我妻ナリ。大キニナケキテ久シクトハサリシ故ニ。カクハナリ給フニヤトテ。ナク〳〵カラヲカタハラニウツム。日カスアリテカノ塚ノウヘニウツクシキ女郎花一モト生ス。男ハナヲツク〳〵見テ。

ハカナクモカタミノ色ヲ女郎花恨ムル露ニ我モケヌヘキ

トナンヨミテ。終ニ男モ川ニ入テウセタリ。人トリ上テ是モ塚ニウツム。男塚女塚ト云ハコレナリ。ソレヨリコノ山ヲモ男山トイフナリ。

ムカシ平貞文ト申ケル人。思フ人フタリモチテカヨヒケルニ。アルトキ久シクトハザリケル女ノモトニ來テ。コノホドハ身ニカナシキウレイアリテ。トハズシテマカリ過ケルトテ。哀ナルコト云テナキケル。女ツク〳〵ト見タリケルニ。カタハラニ少キウツハニ水ヲ入テ。時々目ヲヌラシタリケリ。サテコソト女思ヒテ。硯ノ水ヲトキテヒソカニカノ水入タルウツハニ入タリ。コレヲシラテヒタト目ニヌリタルニ。面黒クソナリニケル。トバカリアリテ女鏡ヲトリイダシミセテヨメル。

我ニ社ツラサハ君カミスレ共人ニスミツク顔ノケシキヨ

貞文與サメテニゲテマカン出タリ。

人語云。中比アル上達部モトニ。九重トイヘルヤサシキ女アリケリ。其家ニ侍ル侍從ナリケ

ルカ。思ソメテフカクカタラヒケル侍従カ妻コレヲキヽテネタムコトナクテ。我フカク思フ人ノカク思ハン人ヲ。イカテアシク思ハントテ。或時侍従カモトニ九重ヲイザナヒテサテヨメル。

匂ヒチハイツレウツサハムメノ花我ニモ心タテスモカナ（マヽ）

九重ノ花シナヘテノ花ナラスオモヘハ色ヨ咲ナチクレソ

トナンキコヘタリ。ムカシハカヽル人モアリシソカシ。

## 月刈藻集中

神代巻曰。軻遇智（カグチ）埴（ハコ）山姫ヲ娶テ稚産靈（ワカムスヒ）ヲウム。コノ頭ノ上ニ蠶（カイコ）ト桑ト生リ。臍（ホソ）ノ中ニ五穀ナレリ。又曰。保食神（ウケモチノカミ）首ヲメグラシテ國ニムカヒシカバ。鰭（ハタ）ノ廣物鰭ノ狹物亦タ口ヨリ出ス。又山ニ向ヒシカハ。毛ノ麁物（アラモノ）毛ノ柔物（ニコモノ）亦口チヨリ出ツ。ソノ品々ノ物コトヽヽク備リテ。百几ニ貯ヘテ饗（ミアヘ）タテマツルト云々。唯シ其神ノ頂キニ牛馬化爲（ナル）アリ。ヒタヒノ上ニ粟ナレリ。眉ノ上ニ蠶ナレリ。眼ノ中ニ稗ナレリ。腹ノ中ニ稲ナレリ。陰（ホド）ニ麥及大豆小豆ナレリ。天熊人（アマノクマヒト）悉ク取持去テ奉ルトキニ。天照太神喜ヒテ曰。此物蒼生（萬民）食テ活ヘキモノナリト宣ヒテ。則粟稗麥豆ヲ以テ陸田（ハタツモノ）種子トシ。稲ヲ以テ水田（タナツモノ）種子トス。又因テ天邑君（アマノムラ）ヲ定メ。スナハチ其稲ノ種ヲ以テ。天狹田（アマノサナダ）及ヒ長田ニウヘ。又口ノカヒコヲ含ンテ糸ヒクコトヲ得タリ。是ヨリ始メテ養蠶ノ道アリ。倉稲魂命（ウガノミタマノ）稚産靈（ワカムスヒ）保食（ウケモチ）神ハ同神異名ナリトイヘリ。

人語云。稲荷神ハ倉稲魂神也。（伊弉諾伊弉冉二神ノ御子。）伊奈利山ニアラハレタマフ事ハ。和銅四年（元明帝御時。）地主ヲ荷田明神ト號ス。其地ニ祀ル神故ニ。改テ

號ニ稲荷大明神ト。
同語テ云。武藏國神田社ハ聖武天皇天平二年。大己貴命（オホアナムチミコト）ヲ祭ル。其後朱雀院天慶ノコロ。下總國相馬郡ニ平將門トイヘル者反逆ヲ發ス。此時俵藤太秀郷ト云モノ將門一味タリケルニ。忽心カハリシ。平貞盛ニ心ヲ合テカレヲ亡サントス。秀郷至ニ武藏國ニ神田社祈願ノコトアリシニ。夜更テ此宮ニ來テ見レハ。人頭ノイカレル者アリ。近クヨツテ見ルニ將門カ首ナリ。則太刀ヲヌヒテコレヲ切拂タリケルニ。如ニ夢中ニナツテ夜ヲ明シケル。サテハ神ノ御利生ニコソトテ深クタツトンテ。必此度打勝タランニ於テ。社ヲ新タニ造リ參ラスヘキトテ。フシ拜テ下野カヘリヌ。終ニ秀郷貞盛カ爲ニ將門亡サレタリケルニ。秀郷則此社ヲ造營ス。カタハラニ將門カ靈ヲ祭テ小社ヲカマフ。今ハ彼社破クチテアトヲウシナヒヌ。シカレハ本社ヲサシテ將門靈ト稱ス。後人其正統ヲシラヌ故ナルヘシ。秀郷ハ大織冠末。近江國俵庄ニ住ス。仍號ニ俵藤太ニイヘリ。

人語云。和泉式部カ熊野マウデタリケルニ。サハリニテ奉幣カナハサリケルニ。

ハレヤラヌ身ノ浮雲ノタナ引テ月ノサハリト成ゾ悲シキ

トヨミテナク／＼ネタリケルニ。如レ幻人來テ詠テ云ク。

モトヨリモチリニ交ル神ナレハ月ノサハリモ何カ苦シキ

マヅシキ女清水寺ニ參リ。行末ノコトナドイノリケルニ。サラニシルシモナカリケレハ。百日コモリケルニ。內陣ヨリ御聲トヲボシクテ。

梅ノ木ノ枯タル枝ニ鳥ノ居テ花咲ケ／＼ト云ソワリナキ

コレハスジナキイノリセシ故也トイヘリ。

近衞院御時。稲荷社人武成トイヘルモノ。シサイアリテ罪ニヲコナハレタリケルニ。其子一人アリ。コレモ召トラレタリ。コノ時ニ有馬トイヘル宮女一人アリケルニ。帝ノ御心ニカナ

ヒタルモノナリ。シカルニ武成カ姪ナリケル。日頃コレヲカクシテメサレタル故。シロシメサデアリケルニ。アルトキ帝寝殿ニ入ラセタマハントテ。此有馬御燈ニマヒル廊ヲ通ラセ給フトキニ。トモシ火キヘケル。帝タチカヘラセ給テ御覽アリケルニ。ハヤタヘ入テタヲレニケレハ。人ヤアル火トモシテコヨト御聲ニヲトロキテ。外ノ女房マヒリテ火ヲカヽケテミレハ。有馬ハモノモイハテウツブシテアリ。イカニナリケルゾト人々ヲシウコカシタレハ。ワナ〱トフルヒテ。モノニヲゾハレタル體ニテ申樣ハ。何トモナク御燈ニマヒル處ニ。オソロシキ白狐ノ來テイキヲ吹カクルトミテ。タヘ入タリトテハナ〱トフルイ。ソレヨリモノクルハシク成テハシリ出タリ。三條アタリニ知人アリケル方ヘヲクリツカハサレタリ。猶ヤマズト申タリシカハ。帝日比フビント思召タリケル故ニ。安部泰成ヲ召テカレシゾキテヤマセヨトノ仰アリケル。泰成彼モノヽカタヘ行テ色々加持スルニ。此女口ハシリテ曰。ワレハコレ山城稲荷ノツカヒタリ。一人ノ社人ハ罪セサセ給フ。ソノ一族タル身ノイカデツカヘ侍タルト神ノ御トカメ侍リトテ色々申タリケルニ。泰成色々ナタメテ此旨ヲ申上タリケルニゾ。帝ヲソロシク思召テ。神ノ信アルニマカセテ彼一子ヲバ御免アリ。女モ御ユウメンアリケルニ。仍本姓ニナリタリトゾ。此社人ノ子ハ東國ニ下リテ入道ストイヘリ。ムカシヨリ神ノ靈ハヲソロシキト申ツタヘヌ。

竹生嶋ハ近江國湖中ニアリ。其巖石ノ内ニ水昌寶珠多シ。本朝五奇異ノ一ツナリ。人語ニ云傳テ曰。孝靈天皇四年湖水晴レテ雲始テ見ユ。又景行天皇十年湖中ニ竹一本生ス。ソレヨリ次第ニ多ク生ス。登レ土テ爲レ嶋。此神ハコレ宇賀御魂

姫ナリ。聖武帝天平三辛未年出現イヘリ。
人語云。吉野山號ニ金嶽ト或金峯山又國軸山トイヘル。此神ハコレ少彦名命靈ナリ。勝手二社ハマサヤアカツ尊天照大神御子號ニ伊勢吉野神ト。若宮ハ山メクリノ神也。弓矢ノ守護ナレハ勝手神トイヘル。然ルニムカシ役行者ト云人アリ。此山ニ日數ヲ送ル。守護神ヲ祈リケルニ。空中數萬ノ聲有テ磐石俄ニサケ。其中ニ大勢忿怒ノ姿ヲ現シ右ノ手ニ三銘ヲニギリ眼ヲイラ、ゲ。左ニイシヲムスンデ腰ヲ押テ兩指高乘テ天地ケヰイノ德ヲアラハシ。一白眼マルク魔生カウブク相ヲシメシ給處ナリ。此姿ヲ寫ス云々。
人語テ云ク。庚申夜有ニ三尸蟲入ル人身ニ病瘵疾蓋儲ニ酒果ヲ明灯守ニ不寢事ヲ是以三尸蟲不レ能入ニ人體ニ。大寶元年攝津國天王寺有レ人庚申日童稚形出現寺內ニ于時云。則庚申日守神也。此所留跡除ニ災疾ヲ暫形爲レ寫。又云。是實形不非。重而以ニ此日ヲ可レ顯。此人信敬而又庚申日齋戒沐浴而待之從ニ酉刻ニ至ニ明旦ニ不寢而見之。如ニ夢中ニ有ニ物其姿。如ニ夜叉ノ持ニ六手ニ二足日月弓矢劔繩等ヲ是惡魔降伏具也。又蹈ニ二足獅子ヲ左右有ニ二人ノ童子ヲ或有ニ三疋猿白鷄等ヲ。則寫レ之建ニ一堂ヲ號ニ庚申堂ト。庚申日緣日云々。庚申セデヌル誦文歌。
尸ヤ蟲ハイヂャ去ヂャ我床ヲ子タレト子ヌソ子ヽトネタルソ
私記。庚申神是與玉命也。此神號猿田彦大神。常愛猿謂歟。
或人云ク。大和國水屋明神トテ侍ル歌ニ云ク。
カスカ山水ヤノミツノ末マテモ神ニ任セテ身ヲタノム哉
第一スサノヲノ尊。第二稻田ヒメ。第三南海神ニテヲハストナン。
人語云ク。四十八世帝。稱德天王ト申奉リケル女帝ヲハシケルニ。有時大乘經ヲ談セサセ御聽聞アリシニ。女人ノ婬犯ハオノコニスクレテ甚シキトアルヲ聞召テ。我女ノ身テ天下ヲタモツトイヘモマツタク犯心ナシ。經說ハ空

言ナリトテ御目ノマヘニテ燒ステラタリレシカハ。其後多ク婬亂ノ心彌マサリ給ヒテ。アラヌフルマヒシ給ヒケリ。河内國弓削ト云處ニ道鏡トイヘルアヤシキ法師アリケルカ。吒枳呢天法ヲ百日行ヒテ咒願ニ。我世ニテ無間ニ落ト云モ今生ニテ一度内裏仙洞マシハラント願ケルカ。ハタシテ幾程モナク内ニ召サレテ有難寵感入テ。後ニハ位ヲユツラントノ思召アリテ。先ウサノ八幡ニ勅使ヲ立テ神意窺シカルヘキトテ。和氣清丸ヲ以テツカハサレタリシニ神意不叶。清丸モ大隅國ニ流サレ。道鏡奢ツモリテ太上天王ニ准ラレシカ。終ニ光仁帝寶龜元年下野國ニ流サレシトナン。

人語云。安部仲麿中務大輔船守カ子也。イトケナキ時ヨリ才智イトカシコク侍ル。十六歳ノ時ニ遣唐使大伴山守ニ同船シテ入唐ス。終唐ニトヽマリカヘラス。號朝衡又至秘書監。撿按左輔闕ヲ經タリ。或時古里戀テヨメル。

アマノ原フリサケミレハカスカナル三笠ノ山ニ出シ月鴨

人語云。ムカシ天智天王ノ御時ニ河内國一人有工師。名號春日政澄。爲術功修行至宗國。カノ帝コレヲ賞シテカヘサンコトヲ惜。一人婦ツカワシテ搆住不出。改テ號稽文。空ク年月ヲ過シタリケル。或時ニ稽婦語云。我舊國有一人則母也。老身無心許處也。此事朝夕欝心哀ムトコロナリ。イカニモシテ舊里カヘラントスルニ。家邊結高垣如何不能出。婦云。カク遠國ノ人マミヘ侍ルコト不思議ナリ。時節コソ候ハメ待タマヘトナクサメタリケルニ。稽ソレヨリ寢屋ニ入テ出コトナカリケルニ。月ヲコヘテ大キ成木鳥ヲ作ル。コレ帝獻ルヘキ爲ナリト。大庭ニ出テ羽ノアリ樣心得カタシトテ登之高垣ニ休テ云。是本國カヘラン爲ノ鳥ナリ。婦カ胎内有子。殘一卷與之。離

別涙袖ニアマレリ。コレマテゾトテ此鳥登テ至ニ空中ニ。婦コレヲナゲキシタヘ𪜈不叶。稽ハ日本國ニ舊里カヘリ來テ母ヲ尋ルニ卒シテナシ。又悲コトカキリアラズ。時天子此由聞召テ大キニ感給フ。則春日部ノ邑ヲ以テタマハリケル。然ルニ宗國ニ殘稽カ子生シテ成ㇾ人。殘シヲキタリケル一書ヲ開テ父日本人タルヲ知ル。コレヲ朝夕學ビテ譽工ノ名得タリ。父ヲ戀テ日本ニ渡ル。至ニ春日部ニ謁ㇾ父。父不知云々。シヒテナゲキタレハ。誠我子ニアラバ殘處妙工アルヘシトテ。春日山谷ヲヘダテ、佛軀半片ツヽ造ル。三日三夜中出來ス。コレヲ合タリケルニ。諸々少モ相違アラス。シカレハ父子ムスヒナス。此子號ニ稽主勲ニ。今此兩人作佛ヲハ春日作トイヘリ。

私記。此佛ハ今洛陽誓願寺ニアリ。シカルニ此佛内ニ五臓ノ圖ヲ搭テ後ニ入タリ。イツレノ時ニカ佛ノ御頭カタブキタリ。ナヲセ𪜈〳〵不直。アルトキ僧侶コレヲナゲキテ寢タル夢ニ。イツクトモナク老僧來テ曰ク。我腹中ニ痛コトアリ藥ヲタマヘト。行方ナシ。目ヲサマシテ考ルニ佛御腹如何アルヘキヤトコヽロヘ開ㇾ之ミルニ如ㇾ案五臓ノツリ糸キレタリケル。大キニ驚テ良醫アツメ工師ヨンテコレヲツナキコシラヘタリシカハ如ㇾ元御頭ナヲリタリトソ。

人語云ク。安部晴明ハ大膳大夫從四位下益材子也。賀茂保憲ニシタカヒテ天文曆算推步ノ術ヲ究。始テ保憲ニ逢トキ。此術全ク邪道亂心ヲ嫌フ。心中正シクスヘシトテ三七日別居ス。于時三七夜ニ當ル夜有夢。一人老人來テ云。我荊山ニ年久敷ヲコナフ者也。心中ヤサシク侍ル哉。彌功ツモリ天下ニ名譽ヲアラハシ候ヘトテ一巻ヲ殘スト見ル。則ミルニ有ㇾ書開テシバシバ考之。一ツトシテ明ナラズト云事ナシ。深クコレヲ秘シテ出スコトナシ。ソレヨリ功ツモリテ名譽カクレナカリケル。讃州ヨリ上リ洛ニ住ケルニ其頃播磨國ニ。道滿ト云者都ニノボリテ六條アタリニ住シテ明ガ術ヲウカヽ

ハントテ此由申遣タリシカハ。明則心得タル由申ヲクリ來ル。何日ト定ム。此事洛中取沙汰ニ有ケル。コレヲ見ント論ス。或上達部ノ家會ス。殿上ノ雲客袖ヲ揃テコレヲ見物ス。內證ヨリ先長持ニ大柑子十五入テ鎭懸テ大勢ニテカキ出ル。此內占ヘシト。于時道滿曰。イツレニテモ勝タラン方ヲタノムヘキ約諾シテ滿イラツテ此內ニ大柑子十五ト占フ。明ハツト思。能ハウラナフタリト心中ニ忽ニ加持仕替テ。鼠十五疋有ト云々。シカレハ明占損ジタリトカタヅラヲ呑テコレヲ守ル。滿云。彌鼠相違アラスヤ。明別義ナシト云々。則蓋ヲ取無柑子。鼠十五疋有テハシリ出四方ヘ飛去ヌ。滿シホ〳〵ト成テ家ニ歸ル。晴明彌考占名譽ヲ人賞シアヘリ。終達叡聞後ニ天文博士相續ス。道滿彌腹アシク成テカレヲ亡サントス。或時晴明一條橋ニ至ル。兼テ明ハ十二神將ヲツカヒケルニ。此ハシヲ過ルトキ大男出テ。道滿法師アタヲナサント力者ヲタノンテ。此向ノ家待也ツケタリシカハ。ソレヨリ明道ヲカヘテ外道ヲ過テ難ニアハス。其後度々心カケタレトモ無恙ノミソアリシ。滿ハ堀川顯光ニタノマレテ。御堂ノ道長ヲ咒咀スルコト晴明占テ。終ニ道滿播磨國ヘ流サレシ。彼國ニテ死スナン。此晴明カ母ハ人間アラス。父明母嫁メ明生ス。三歲トキニ父コトカタニ心サシアル女侍リシヲウラミテ行衛シラスウセタリ。一首歌ヲノコス。

戀シクハ尋テモトヘ和泉ナルシノ太ノ森ノウラミクツノ葉

父不思議ニ思ヒテ和泉ニ行テ信太森ノ社ニイノリケルニ。何方トモナク老狐一疋來テ。コレソコヒシクハ尋テモト云ヘル我也。尋給コトウレシケレトテ失タリ。コレコノ神ノ化身トイヘリ。今此舊跡中村ト云處ニアリ。明十三歲ノ時ニ信太神ニ詣。明神如夢現。如水精玉ヲア

タヘ得タリ。此玉兩耳ニ蓋フ鳥獸聲明ニ通ス云々。アヤマッテ後明妻コレヲヤブルイヘリ。晴明一條院寛弘二年卒ス。

人語云。西宮左大臣高明日暮テ内ヨリ出給フ。二條大宮ノ辻ヲスギ給ケルニ。神泉苑ノ艮ノ角ノ築地ノ内ニ長タカキモノ三人立テ。車先ヲ追フコヘヲキヽテハ俯。追ヌトキハサシ出ケリ。左大臣ソノ意ヲ得玉フテシキリニ先ヲ追シム。築地ヲ過ルホドニ大臣ノ名ヲ呼フ。其後ホドナク大事出來テ左遷セラレ給フ。神泉苑競馬ノ時陰陽師識神ヲ堀シテ埋メルヲ。今ニ解除セズシテ其靈アリ。カノ所ヲスクベカラストソ。有行ト云陰陽師ハ申ケル。此大臣行幸セラレタルヲ。伴別當廉平カ未タカヽル人ヲ相セズトホメケルカ。過玉後姿ヲミテ。背ニ吉相ナカリケリ。恐ラクハ遷謫ノ事アラント申ケルカ果シテ其詞ノ如シ。

人語云ク。六十四圓融院ノ永觀年中。京都ニ盜賊多。民家商家ニ入テ盜之亦往來人畀ス。其許ヲ尋ルニ丹波國千丈嶽トイヘル所ニ數十人盜賊集會ス。洛夜陰ニ巡テ人ヲ追之取處具。東寺羅生門ノ上ニ置タリ。其姿異體ニシテ頭ニ覆ニ束毛。顏面以朱赤塗。腹手足以皮包帶弓箭刀杖云々。不殘挫之云々。世人以是鬼トイヘル歟。

人語云。朱雀院御トキニ。貞信公忠平宣旨ウケ給ヒテヲコナヒニ。陳ノ座ニヲハシマス道南殿御帳ノウシロホド通ラセ給フ。ホノクラカリケルニモノヽケハイシテ。御劔ノイシヅキヲキトトラヘタリ。イトアヤシク思召テ。サグリテ見給フニ。毛ムク〳〵ト生タル手ノツメナガクシテ。刀ノハノコトクナリ。イトヲソロシクヲボシテイカニセマシトウチアンジヲクレタルサマ。ミセジト念ジサセ給ヒテ。ヲホヤ

ケノ勅定ウケタマハリテ。サダメニ參ル人トラフルハ何物ゾ。ユルサスハアシカリナントテ。御太刀ヲヒキヌキテ。コレガ手ヲトラヘサセ給ケレハ。マドヒテウチハナシ。艮(ウシトラ)ノスミニマカリケリ。

又云。仁和三年八月十七日亥時或人行人ニ告テ云。武徳殿ノ東ノ松原美婦人三人アリテ。東ニ向ツテ行。容色瑞麗ノ男出來リテ。カノ婦人ノ内ヲ一人カタラヒ。相携テ松樹ノモトニ共ニ精感タリ。シハラクシテ音語キコヘス。オドロキ怪ミテ是ヲミルニ。其婦人ノ手足落テ地ニアリ。其身首アルコトナシト。是ニヨリテ右兵衛右衛門ノ陳ノ宿居ノ武士行テミルニ彼女ノ屍アリ。其所ノ男ハ忽然トシテキヘウセタリ。鬼物ノ變形タルノ間。翌日ヨリ諸寺ニ課セテ讀經ノコトアリ。ヨツテ諸僧朝堂(テウタウ)院ノ東西ノ廊ニ宿シテ讀經スルニ。夜中覺ス騷動ノ聲ヲキク。僧侶房外ニキソヒテ出ツ。須臾ニ事謐ル。各ソノ由ヲ問フニ知ス。何ニヨリテ房ヲ出タルヤラン。カレコレアヤシ。此時京中不思議ナルコト多シトイヘリ。

人語云。此時七月廿五日帝御心アシク。御藥ノコトアリシニ。弘徽殿ノ北(キタ)燈花殿ノ艮(ウシトラ)ノスミヨリ長(タケ)高キ人眼ハカヽミノ如クナルガ出テ。后町アタリ二足三足アユ　テ大聲ニテ。ハヤ御命ハアラズト云テ行カタナクウセタリ。宮女兩人　レヲミテ大キニ驚テタヘ入タルヲ。人々立サハギテ藥アタヘナントシケル。翌日帝ハカナク崩シサセ給ヒシ。其後モ此二女ハ煩ヤマデ。親(シタシ)キ家ニツカハサレシニ後人ニカタリシ。

私記。此帝五十八世光孝天王云々。

人語云。花山院御卽位ノミギリ。關白頼忠ノ女。爲平親王女。大納言朝光ノ女ヲ女御トシ給

フ。又大納言爲光女恒子ヲ女御トシ弘徽殿ニヲカレテ。甚タ寵愛アサカラテ。先ノ三人女御アレトモナキカコトシ。恒子懐妊シテ八月ニ及フ。三人女御コレヲ子タンテサマ〳〵ノアラヌコトシ。若ハ皇子ニテワタリ給ハヽ彌威情ヲトリ。イカ樣ニカナルラントテ。呪咀シナトシ給フ。ハタシテ俄ニ病出テウセ給フ。帝御ナゲキアマリ狂シクナリ。世ヲステ給フ御心アリケルニ。粟田關白道兼。藏人辨ト申ケルトキ。扇ニ悲華經ノ妻子珍寶及王位臨命終時不隨者トイヘル文カキテミセ奉リ。御出家ヲススメ。我身モ御供シテ剃髮イタスベキヨシ申。ヒソカニ大内裏ヲシノヒ花山寺入。落飾マシマシテ入覺ト號シタマフ。コレニヨツテ東宮懐仁親王即位アリテ一條院ト申。先ノ三人女御内ヲ追出サレ。アサユフ子ヲナキ給フトイヘリ。

人語云。一條院ノ御時。堀川右大臣顯光女ヲ女御トシタマヒ。終ニ御子イテキ給ヒシニ。後ニ御堂殿女彰子ヲ女御トシ藤壺ニヲカレ。後ニ上東門院ニウツリ給フ。ソレヨリ堀川女御カレカレニ成セラレ。威情モヲトロヘタリシカハ。女御フカクネタンテ。父ヲトヾニ此由ウラミナゲキケレハ。ヲトヽモ腹アシク成テ。イカニモ時節コソトナタメラレケレ𪜈。思ヒツモリテ病出來シテウセタマイシ。ソレヨリ顯光コレヲウラミ給處ニホドナク卒セラル。其後上東門院ノ御方ニサマ〳〵不思議怪異アリケル。人ノ恨ヲソロシキコトコソト申傳ヘタリ。

又民部卿宰相齊信カ才幹スヽメル故ニ。兄ノ誠信ヲコヘテ中納言ナリヌ。常々中惡敷アリシニコトニ同腹ニアラス。齊信ヒソカニ才智官ハ前後ニヨラストクチヒロクイハレタリシ

ヲ聞ツタヘテ。誠信我身不遇ヲワスレ。サシアタリタル恨ニタヘス。七日ト云ニ恨死ケル。手ヲニギリ給ヒケルガユビノ爪皆甲ニトヲリケリ。帝王臣下ヲハシメ。弟ニコヘラル丶コトソノタメシ少ナカラズ。忽ニカクシモアルベキカハト。ヲソロシキコトナリ。然レトモ齊信無恙アリシ。非道ノ恨ハムクヒナシトイヘリ。

人語云。住吉禰宜カムスメ。アル上達部ヲ戀テ京ノユカリノ人ニタノミテ。タヒ〳〵フミヲカヨハス。コノ上達部道アル人ニテ。今妻ネタミフカキアリケレハ。スコシモ返事ナカリケルニ。ソレヨリフミノ數カサナリケル。アルトキ此女文ヲタノミテツカハストテ。此度コソゼヒ〳〵御返事取テ見セ給へ。サモアラスハタチマチ身ヲモウシナイ惡靈トモナリ。マツソノカタヲコソ恨ミ侍ラント申送リタリケルニ。此人ヲソロシク成テ此由申送テ。ヒトヘニワレヲ不便ト思ヒ給ヒ候ハ。マツトカクカヘリコトタマハルヘキト申タリ。此上達部イトトサヘ物ムクツケクテ。此文ヲヒキヤブリテソステタリシ。此人大キニハラ惡シク成テ。ヨシヨシ此上ハ我身ハイカニ成㪽。ソノカタ御爲アシカルヘキニトテカヘリヌ。コノヨシ申ツカハシ。ソレヨリ此人ハ京ヲ出テ行方ナクウセタリ。ソレヨリ此女彌イカリテ。住吉神ニヲソロシキ人形ヲツクリ。クギナント討コミアラヌフルマヒシタリ。其後ハ物狂(モノクルハシク)ナリテ終ニ死シタリ。コノ靈上達部サコソト申アヘリシニ。或時ニ此上達部夢ニ。アヲサメタル女年頃十六七計ナルカサメ〳〵ト鳴(歎歔)テ居タリ。何方ヨリカクハ物シ給フゾト問ケルニ。此女涙ヲヲシヌクヒテ語ル樣ハ。我コソハソノカタヲ戀奉リテ度々文ヲ參ラセタリシ住吉ノモノナリ。アマリナルマテノ御ツレナサニ。ウラミ

ツモリテ住吉ノ神ニマヒリ。ソノ方ヲ咒咀シハンベルニカク死ウセテモ御ウラミ申サントコソ思ヒシニ。住吉ノ神ニ非道ノイノリセシトテ。今ハ我身ニセメ來テクギヲ討コマレ侍ル。アマリノツラサニセメテ住吉ニ參リタマヒ。社內ノスミノツヒジノ下ナル人形ヲ取出シ。クギヲ打ヌキテ我アト御弔タマハリ候ヘ。トマタサメ〴〵トナケキケルヲ見ルニ。涙ハクレナヰノ如シ。ツイニ夢サメテヲソロシクナリテ心チアシカリシ。カヽルコトキヽテステヲカンモイカヽトテ。住吉ヘ詣ト云テ京ヲ出テ行テ。住吉ノ社ノ下ナル人形ヲ取出見ルニ。ゲニモカレカ申ニチカハズ。大キ成クギヲウチコミタリ。ソレヲ拔テフカクウツミ。跡ヲハ念頃ニトブラヒケリ。間一年アリテ又夢中此女來テ。今コソ成佛シ侍ルトテ喜フ體ニテウセタリト夢ニミヘケル。コレモ非道ノイノリナルヘシ。

私記コレハ中頃事歟。

人語云。遠江國笠原莊ト云處櫻カ池トテ侍リ。今海道一里計左方ニアリ。誰人ノ詠ニカ。

東ナル櫻カ池ニスム月ノイクメクリテカカゲナミユラン

トヨメル歌アリ。コヽノコトニヤ。ソノカミ比叡山ニ肥後ノ阿闍梨源光トイヘル法師三塔無双學者ナリ。黒谷ノ源空始テ比叡山ニ登リタルトキノ師匠ナリ。然ルニ源(マヽ)ツラ〴〵心ニ案シケルハ。佛法ノ深キコトハリヲ今世シレル人サラニナシ。ミロクノ世ヲマチテ。三會說法ノミギリニ問奉ルヘキ。ソレマテノ命タモチカタシ。魂魄ハ蛇身ニ過ヘカラストテ。弟子法師ヲ以テ諸國ヲ巡ラシ住所ヲ尋ラレケルニ。東國ニ下リシ注記トイヘル僧皈ヘリ來テ曰。遠江國笠原莊櫻池ハ。右ハサウカイマン〳〵トシ左ハ青山峨々タリ。ソノ間此池タヽヘタ

リト申ス。源光座禪床ニ水一滴ヲ手ノ中ニニギリ。ヲコナヒテ終ニ入滅セラレタリ。然レハ魂魄此處ニ來テ。池中ニ蛇身ニナリテ居ラレタリト。人ノ夢ニ見ヘシトナン。此心ナリ。

人語云。逢坂ニ蟬丸トイヘルアヤシキ人アリ。モトハ攝家宮ナントニツカヘタル童ナリ。アダナリシ世ヲ思ヒテ。髮ヲモスラデ桑門（ヨステヒト）（ソウモン）ノ身トナリ。往來ノ人ヲ見テ。

コレヤコノ行モカヘルモ別レテハ知モ知ヌモ逢坂ノセキ

ヨノ中ハトテモカクテモ同シ事宮モ藁ヤモ果シナケレハ

或老人云。蟬丸若キコロツカヘタル主人ニトガヲ請テ。東國ニ流サレタルカ。年ヲヘテ今逢坂ニカヘリスムトイヘリ。

人語云。良峯宗貞ハ若カリシトキ。好色ナラヒナカリシ。或ルトキ帝女ノ姿ニ出立給ヒ山吹色ノキヌヲ引カツキ。御簾ノ中ニヲハシケルヲ。女ソトヲモイ懸想シ奉リテ。詞カケタレ𪜈御返事ナカリケレハ。

山吹ノ花色衣ヌシヤタレ問ヘト答ヘスクチナシニシテ

トヨメリケレハ。帝御顏ヲサシ出シ玉ヘリ。宗貞カ心中イカナリケン。然リトイヘ𪜈少シモ勅勘ナクテ。イヨ〳〵御氣色ヨカリケリ。憚リアル故ニ此歌ヲ素性カ歌トセリ。仁明帝嘉祥三年ニ崩シサセ給ヒケルカナシミニタヘス。ヤカテ法師ニナリテ笠置ト云所ニカクレタリ。サテ殿上人月日過テ墨染ナドヌキテ色メキタル姿ニナリケル。サテヨメル。

ミナ人ハ花ノ袂ニナリヌナリコケノ衣ヨカハキタニセヨ

カクテ所々修行ス遍昭僧正コレナリ。

又上毛野峯雄ト云ケル者。御別ヲナケキケルカ年比スミタル家ニ櫻アリシニ。ウチナカメテ帝ノ御事思テ。深草陵アタリ花ヲ。

深草ノ野邊ノ櫻シ心アラハコノ春ハカリスミソメニサケ

草木心ナシトイヘ𪜈御別レヲナケキヌ。此歌ニメテ、コ、ノアタリクロク花ナリシトイヘ

リ。
又云。南都興福寺内ニ櫻ノ色フカキアリ。コレムカシ此寺ニ玄宗法師トテヤサシキ僧アリシカ。フカク愛セシ木也。名ニヨソヘテ楊貴妃トナツケタリ。今此ノ花種所々アリト。

チルヤウキヒトヘニ花ハ辛カリシ眺ニアカヌ色モ殘サテ

コレヤウキヒトイヘルヲカクストナン。

或人云。嵯峨ノ有栖川ニアル野宮ハ伊勢齋宮ノ御所ナリ。賀茂齋院ノハ紫野也。一年打過ル序ニミレハ。今ハヒサシク見ヘワタリ。昔ノ事ナド思ヒ出サル、ナリ。嵯峨野宮境内十間四方社少キアリ。黒木ノ鳥井カウ〳〵シクト云シモ。今ニクヌギノ皮付木鳥居アリ。廻リムカシコソハ小柴垣ナルラン。今ハ松ノ木生シケリ。近所ハ藪ニテコト外淋シクミヘワタリヌ。ハルカニ賤カトモシ火ヲヒタキヤノヒカリカトモ思ヨソヘタリ。

同云。南都興福寺アタリニ猿澤池トテ侍ル。今ミレハ一町四方計圓池ニテ際ハ石垣ナリ。イニシヘ天智天皇ノ御時一人ノ上童アリケリ。其姿形ウルハシカリシホドニ。人々ヨハヒシタヒケレ𪜈帝ノ御寵愛カキリナキニヲソレテ人ニモアハズ。コレニハラ黒ナル人アリテ帝ニ申テ曰ク。此女コト人ニモ通タルヨシホノカニキ、侍リト申ス。ソレヨリミカトカレカレニ召サレサリケレバ。此女フカクウラミ。夜ノマニシノヒ出テ此池ニ身ヲナゲタリ。後ニ帝此由キコシメシテアハレカリ給ヒテ。池ノホトリニ行幸アリテ。フカクトフラヒ給フ。御歌ニ。

猿澤ノ池モツラシナ吾妹子カ玉モカツカハ水ソヒナマシ

又人丸カ歌ニ。

ワキモコカ子クタレ髮ヲ猿澤ノ池ノ玉モト見ソカナシキ

コノ上童ハ近江ノ釆女トナンイヘリ。今社朱

ヌリニテ少キアリ。廻瓦築地アリ。後向ニ立衣掛柳トテアリ。

人語云。葛城ノ王（カツラキヲ、キミ）橘諸兄ノ非歟。未姓不賜トキ葛城王ト云也。陸奥國ニ遣ハサレシトキ。國主御モテナシアシカリケレハ。王大キニ怒テ。雖レ設二飲饌一ヲコレヲ喰シ給ハスシテケシキアシカリケルニ。コヽニ前ニアル釆女ノ風流ナルカ左手ニサカツキヲ持。右ノ手ニ酒ヲタツサヘテ歌ヲ詠テ云。

アサカ山カケサヘミユル山ノ井ノ淺クハ人ヲ思フ物カハ

コノ歌ニメデ王ノ心トケテ宴樂ストイヘリ。

人語云。在原中納言行平。阿保親王御子ニテコトニ俗性タヽシキ故ニ奢ツヨカリケレハ。攝州須磨ノウラヘ謫居シ給フ。三年マデアリケルニ都戀シクテタヨリニ付テ京ナル人ニ。

ワクラハニ問人アラハスマノ浦ニ藻鹽垂ツヽワフト答ヨ

終ニ御免アリテ都ニ登リケルトキ。

立ワカレイナハノ山ノ峯ニ生ル松トシキカハ今歸リコン

コレハスマノ浦ニテ或女ニタビ給シウタナリ。

人曰ク。下總國ニ眞間トイヘル所ニ繼橋トテアリ。今葛飾郡ニアリトイヘリ。コレ慈圓ノワスレス渡ル春霞トヨメル所ナリ。昔弘法大師東來ノ時カケ給トナン。今ミレハワツカ一間ニ過ス。中ノホドツギタル石橋ナリ。弘法師寺ト云寺アタリ。今弘法寺トイヘリ。

又人曰。信濃國ニ布引ト云處アリ。山ノ形布ヲハリタル樣ナリ。後峯ケハシク水流テコトニ面白處ナリ。西行法師詠ニ。

ミトセヘテ時々サラス布引ヲ今日立初テイツカキテミン

コレ三年コモリ居テ。フルサトコヒシトテ行トキ歌ナリ。

又越中國ニ躑躅山トイヘル處。色ヨキ花多ク咲テ山河ナカレニ移紅葉ノ心チアリ。紅葉川トイヘリ。

誰モミナキツヽシラナン色ニノミ秋ソトウカフ紅葉川哉

コレ西行ノ歌トイヘリ。コノ歌ヲ以號ニ紅葉川一トツヽシトイヘルヲ歌ニカクス。

人語云。ムカシ洛中ヲアヤシキ法師ハシリアルキテ。コヽカシコニテモノナドコヒテ歌ヨミナトスルアリ。アマリ色クロキニヨリテ鼠法師トヨバレタリ。良暹法師ノ室ニ來テ歌ヨム。

憂事ノマトロム程ハ忘ラレテサムレハ夢ノ心地コソスレ

此歌ヲ考ルニ千載集ニ入ヌトヲホヘ侍リ。此法師誰ニヤ。

白河院御時近江國ヨリシロキ鳥ヲ奉リタルトテ。女房ユカシカリケレモミセサセ不ㇾ給。ウタヨミタラハミスヘキト仰ラレタリケレハ。少將ノ内侍ヨメル。

類ナキヨニ面白キ鳥ナレハユカシカラスト誰カチモハメ

コノ内侍ハ藤原定方付輔親女ナリ。

又二條院ニ侍ル讃岐ノ局トキコヘシ女ハ。スクレタル歌ヨミニテ。君モ臣モ賞給フ人ナリ。内ニテ戀ウタヨミケルトキ。

我袖ハ潮干ニ見ユル沖ノ石ノ人コソシラネ乾クマモナキ

此歌詠ス時殿中深感ス云々。此讃岐深入ニ佛道一講ニ十三經一。源三位頼政カ女也。幼童時伯父顯行養ㇾ之云々。

人語云。菅家日記ニ曰。

ミル石ノ面ニ物モカヽサリキフシノ楊枝モ使ハサリケリ

ムカシヨリ硯ニモノヲカヽヌコト、ミヘタリ。源氏物語ニモ姫君御硯ヲヤヲラヒキヨセテ。手習ヒノヤウニカキマセタモフヲ。コレニカキタマヘ硯ニハカキツケサンヌリトテカミ奉リタマヘハ。ハチラヒテ書給フトミヘタリ。硯ハ文珠ノ眼ナリ。號ニ異名眼一トイヘリ。又天神御詠ニ曰ク。

カキナカス筆ニ心ハナケレモモノ云如クナクサミニケル

筆法才葉集 宰相入道教長作云。蒙恬始作ㇾ筆禁園ニ以曰ㇾ聿。呉國以曰ニ不律一。燕國以曰ㇾ弗。秦代始曰

筆云々。

人語云ク。四條大納言公任ハ小野宮太政大臣孫。三條頼忠公子也。一年道長公大井河遊覽ノアリシニ詩歌ノ人分テ各堪能之人ヲノセラル。御堂殿被仰云。四條大納言ハ何(イツレ)ノ舟ニ可被乗哉。大納言和歌ノ舟ニノルヘキトテ則彼舟ニノリテ詠云ク。

朝マタキ嵐ノ風ノサムケレハチル紅葉ハチキヌ人ソナキ

後日ニ大納言イツレノ舟ト仰ラルヽコソ心驕セシカ。アツハレ詩ノ舟ニテコレホトノ詩ツクリタラハ。名ヲアケマシヲト後悔アリシ。

人語云。師民部卿經信ハ又公任ニヲトラザル人也。白河院西川ニ行幸ノ御時ニ詩歌管絃ノ三ノ船ヲウカヘテ。其道々ノ人々ヲワカチノセラレケルニ。經信卿遲參ノアイタ。コトノ外御氣色アシカリケルニ。トハカリマタレテ參リタリケルカ。三事カネタル人ニテ汀ニヒサマツキテ。ヤヽイヅレノ舟ナリトモヨセラレ候ヘトイハレタリケリ。時ニトリテイミシカリケリ。カクイハレンレウニチサンサ(セ)ラレタリ。サテ管絃ノ舟ニ乗テ。詩歌ヲ奉ラシタリ三舟ニノルトハ是也。又或時師賢ノ朝臣海津ノ山里ニ人々マカリケルニ。秋歌五十首ハカリアリシニ。田家秋風トアルニヨメル。

夕サレハ門田ノ稲葉チトツレテアシノマロヤニ秋風ソ吹

人々感心ストイヘリ。定家近代秀歌ニモ書ノセラレタリ。

人語云。中務卿重明親王梅津別莊ニヲハシタルニ。人々物語シテ曰。ミノカル人侍リシニ。山吹花一枝ヲリテトラセタリシニ。心得スマカリテ侍ル。ケフナシ。如何仰ラルヽトテ來レリト申ス。則親王人ニカハリ歌ヲ詠シタマフ。

七重八重花ハ咲ケトモ山吹ノミノ一ツタニ無ソアヤシキ

殿下師通公ノ家ニテ人々アツマリ酒宴アリシ

ニ。殿下扇ヲ開テ遙ニ山ノ櫻ヲノソムト云コトヲイハレケレハ。一座興サメテ詠出サントスル人モナカリキ。匡房落縁ノカタハラニアリケルヲ。實政ヤヲラ引タテヽ。今ノ仰ニマカセラレン人ハ貴卿ナラデハ。トタハムレナカラ申ケレハ。早ク師通タチテ扇ヲワタシタマヘハ。セヒナク座ニツキケルニ。人々ニセメラレテ詠テ云。

高砂ノ尾上ノ櫻サキニケリトヤマノ霞タヽスモアラナン

殿下ハシメ人々カンシンスルコト不レ成大形云々。

私記。大江信濃守成衡男也。正二位權中納言。母橘孝親女。天永二年十一月五日卒ス。七十一才。本朝軍衛濫觴大宰帥ナル故江帥トイヘリ。是大江氏也故也。才智達者ナリシカハ人問事答ヘスト云コトナシ。又能辨舌也シカハ過言モイハレタリ。時人口キヽタルチ江帥ナル人哉云々。末代モロキヽ過タル人江帥ト云。

俊頼朝臣皇后ノスケカ許ニ行ケルニ。カクト申入タレ𪜈。イザリケレハ人出ズ。ホイナク思ヒテカヘリケル道ニテ。フトコロ紙ヲ出シカキ付テツカハシケル。

ヤリ水ノ心モユカテカヘル哉

女房コレヲ見テイカヽセマシト案シケルトキ。顯國カヘリテ此事ヲキヽテカクセヨトテ。

タテナラヘタルイハマホシサニ

人語云。大中臣能宣殊ニ歌ヨクス。アルトキ禁中ニテ雨中ニ歌人ヲメサレテ歌ナトヨマセラレタリシニ。此能宣病氣ニテアリシヲタピタビメサレテタ(マヽ)レハ罷出タリ。人々ト同シク案スルコト甚痛ム事也トテカヘラレントス。于時ニ内ノ御屏風菖蒲軒ニフキタル形ヲ書タルヲ開テ。コレニセメテタヽ一首ト袖ヲヒカヘラレテ。

キノフマテヨソニ思ヒシアヤメ草ケフ我宿ノ妻トナル哉

イツレモ感シテカヘサレシトナン。又式部卿ノミコノ子日ノ歌ニ。

千歳マテ限レル松モケフヨリハ君ニヒカレテ萬代ヤヘン

トヨメリ。コレヲ父頼基大キニ腹立テ。主上ノ御子日ニハ如何ニヨムヘキカトテ以レ枕打レ之ナン。

人語云。堀河院御時年中行事ノサウジノモトニ居サセタマヒテ。人々連歌ナトセサセテアソハセタマフ。今參リタル人ノ殿上ニ居テ申ケルヲキヽテ。國信下ニヲハシマスハアシウモ居タルモノ哉ト申サレタリケレハ。此ヨシキコシメシテ御口スサミノヤウニ。

雲ノウヘニクモノウヘ人ノホリケル

國信ツカウマツリテマシトアンシケルニ。俊頼朝臣參ラレタレハ。コレ申タマヘトテ立ケルニ俊頼云。

下モサムラヒニサフラヒカシナ

又語云ク。待賢門院ニ侍リシ堀川トイヘル女房ハ。神祇伯顯仲カムスメナリ。アルトキアフラワタヲサシアフラニシタリケルニ。イトカウハシク匂ヒケルヲ。上西門院ノ兵衛カミカ歌ヨマントテアンジケルニ。トモシ火ハ五文字ヲ出ス口ヲヲサヘテ。

燈火ハタキ物ニコソ似タル哉丁子カシラノ香ニ匂ヒケル

清少納言中后定子ニツカヘタル頃。ツホ子ノ內ニ忍タルモノアリトテ。アケカタ雨ノフルニ出行（マヽ）ケルヨシ申ス。中后繪ヲカヽセ給ニ。カサヲ人タセテ姿ハナク手計カキテソノウヘニ。

三笠山ヤマノ端アケシアシタヨリ

ト書セタマヒテ。清少メサレテミセサセタマヘハ。イトハツカシクヲモイケルカ。ツホ子ニ行テ又繪ヲ書。雨ノイトフルカタ書テウヘニ。

雨ナラヌ名ノフリニケルカナ

トソ書テマヒラセケレハ。コトニ與シサセタマフ。才智ナル女ニテ。此定子ツカヘシ時ノコト共カキアツメテ。枕ノ許ニ置テナクサミシトイヘリ。

人語云。不可得望ノ歌トテ清原元輔。

秋ノ野ノ萩ノ錦チフルサトニ鹿ノ音ナカラウツシテモ哉

中原時致歌。

梅カ香チ櫻ノ花ニ匂ハセテ柳ノ枝ニサカセテモカナ

又ヨミ人不知。

大空ニハヽカヲルホトノ袖モ哉春咲ハナチカセニマカセン

## 月刈藻集下

人語云ク。ヤマトヽ云訓ハ。世間流布スル處山戸山留山跡ナトイヘリ。是常ノ說ナリ。吉田家神書ヲ見ルニ。國中仁成出留種々乃產生留物者彌益。死留物者少之。故國中仁成出留顯見蒼生於天乃益人止云比。國於彌益戸止稱布。如此ナレハ日本ノ和訓ハイヤマストノ國ト云ナルヲ。略シテヤマトヽ云トソ殊勝ナル節ナリ。又云。ヤマトノ三字則天地人ノ三才ソナハル。ヤハ開クヲンニテ陽音ニテ天也。マハ間ニカヨフ人也。トハトヅル音ニテ陰也故ナリ。國ヒラケシモ。人ノ生スルモ。皆ヤノ音ナリ。サレハヤトヒラケシヨリ。マコトニマトカナル國ト云心ナリ。マトカハ圓成就セントノ義ナリ。ムカシ天地開ケ始リテ。伊弉諾尊伊弉冉尊天浮橋ノ上ニ立給テ共計曰。此底下ニ豈國ナカランヤトノ給ヒテ。天瓊矛ヲ指ヲロシ探給。滄溟ヲ得タマフ。其矛ノサキシタヽリ。潮凝一ツノ嶋トナル。是號ニ磤馭盧嶋ニ。二神彼嶋ニ降臨マシマシテ。夫婦シテ國土ヲウマント覺ス。于時一鳥來ル。嫁セントスルコト。此鳥ノ尾頭ヲタタキケルヨリ知給處也。此鳥則號ニ鶺鴒ニ。說ニ曰。諾尊冉尊嫁セントスルトテイナトノ給フ。ケシキ惡カリケルトキ此鳥來テ尾頭チタヽク。イナト云處彼鳥イヘルナリトテ。二神會メ此鳥ハイナ負セ鳥トイヘルコト是故云々。則ヲノコロ嶋ヲ以テ國ノ中柱トシ陽神左ヨリメクリ給ヒ。陰神右ヨリメクリタマフ。國ノハシラヲ分レメクリ。同一面ニ合給時。陰神先唱テ曰。喜哉遇ニ可美少

男。次ニ陽神唱テ。喜哉遇ニ可美少女ニ。トシカルニ淡路シマナト出キシユヘニ。御心ニコヽロヨカラズ。コヽニ於テ高天原ニ至給テ。天ノ神ニ事ノヨシ申給テ。天ノ神ヲ以テフトマニトテ神代ノウラヘヲ以テウラヘ給テノタマハク。陰神ノ云先立之故也。アラタメタマヘトノ事故。亦降臨マシ〳〵。此度ハ陽神先トナヘタマヒ。次ニ陰神トナヘタマヒテ。ミトノマクハイ有テ。大八嶋山川草木ヲモ産タマヒ。天照大神モアレマシタマフ。此二神ノトナヘ給フ御詞今ノ歌ノ始ナリ。故ニウタト云訓ヲ付ルコト。ウツタフト云心トウラツタフト云心トニテ訓セシナリ。シカレハ我國ニウマレシ人タレカ此道ヲマナバザランヤ。可レ信可レ貴穴賢云云。

又云ク。素盞烏尊出雲國ニアマ下リ。山田ヲロチ討テ山ニ登リ八色ノ雲ノ立ケルヲ御覽アリテ。御歌。

八雲立出雲八重垣妻籠ニ八重垣造ル其八重垣ヲ

是和歌三十一字ノ權輿ナリ。此歌ニ有ニ四妙ニ。所謂字妙。句妙。意妙。始終妙ナリ。委細ハ外ニ記ス。

二條爲世卿曰ク。天竺ニ佛ノヲシヘアリ。異國ニハ孔子出テ儒ヲ述タリ。我國ニハ伊弉諾伊冉弉ノ二神ヨリ天照大神ノ御國ナレハ。神道第一ノ國ナリ。コトニハ和歌ハ。二神ノアナウレシノ御詞ヨリ。スサノヲノ尊ノ八雲立ノ歌マテモ。皆神代遺風和國ノ風義神明ノ妙意ナリ。サレハ末代マテモ。ヲソラク歌道スタレタランハ亡國ノモトナルヘシ。又此道アザムカンヤカラハ。日本神祇ノ靈體ニ血ヲアヤシタルニ同シ。神罸タツトコロアランコトナリトノ給フ。凡和歌ハ此國ノ風俗ナリ。シカアルニ國ハ和國ニスミナカラ此道シラヌ士人ハ禽獸

ニヲトリタリ。花ニ鳴ウクヒス。水邊ノカハヅ歌モ申ツタヘタル。日本紀云。高謙(孝)天王御時大和國高間寺ニ一人ノ僧アリ。サイアイノ兒アリケルニカノ兒俄ニ死ス。悲歎スルコト限ナカリシニ。月日スキテナケキモヤウ〳〵ウスクナリヌ。年頃ヘテ後或春ニ庭前ニ開タル梅花ニウクヒストヒ來リテナク聲ニ。

初陽(ショヤウ)每朝(マイテウ)來(ライ)不(フ)相還(ソウゲン)本栖(ホンセイ)

ハツハルノアシタコトニハキタレトモアハデソカヘルモトノスミカニ

トナケリ。文字カキテミタリケレハウタナリ。此兒ノ鶯ニナリシヨトテ。哀傷思ヒヲナシタリ。又貫之カ四代祖壹岐守紀良貞(ヨシサタ)ト云人アリ。ワスレグサヲ尋テ住吉ノ濱ニ行タルニ。思カケズウツクシキ女ニアヘリ。種々ニ云カハシテ後チギルホトニ。マコトニ我ニコヽロサシアラハ。必コノハマヘ來リタマヘ。ユキ合ントテサリヌ。後カノタノメシコロ。又住吉ノハマヲタツ子テ思ミシ所ヲミレハ。ヲモイカケス大キナル蛙ノ。居タル前ヲハイテトヲル其アシヲミレハ。アトニ文字アリ。ヨミテミレハ。

住吉ノ濱ノミルメモ忘子ハカリソメ人ニマタトハレヌル

トイヘル歌ナリ。シカハカノ女ノ蛙ノ化シタルト思ヘリ。鶯カハヅノ二首トモニ萬葉ニ入タリトキヽ侍ル。誠ナル哉。五輪五常ニカナヒ萬端五行ノヒヽキモルヽコトナシ。可レ信可レ習此道云々。

人語云。五條三位俊成卿元名顯廣トイヘリ。是六條顯輔ノ子トナル時ノ事ナリ。後ニ六條家歌風體ヲミカキリ。金吾基俊ノ弟子ナリ。古今傳授セラレタリ。コレヨリ和歌一流ヲタテタマヘリ。今二條家祖トアフキ申ナリ。俊成ノ家ハ五條室町侍リ。今ノ新玉津嶋ハ此卿ノ舊跡ナリ。シカルニ俊成老後ニ至テ思給フハ。人ニハ必一大事アリ。此道ニノミフケリテ只今ノ到來ヲワスレヌルコト忘想ナルヘキトテ。此

道ニナツム心出來セリ。其後夢中ニ住吉大明神アラタニ現シタマヒテ。ウチヱミテノ給ケルハ。歌道ハヲロソカニ思ヒタマフコトナカレ。此道ニテ必往生トゲ成佛シタマフヘシ。歌道則身直露ナリト。アラタニノ給フト見タマヒタリ。

俊成法名釋阿云。元久元年十一月卒ス九十一才。

人語云。歌ハ神明意述ナリ。代々御示現ウタニテシメシタマフコト多シ。又佛心敎化モ歌ニテコソ見ヘタリシアマタ侍リ。サレハ代々ノ神司儒門學子釋氏僧侶モウタヨマヌハアラシ。本朝儒者ハ神明ヲ引テオノレカ黨（トウ）トシ。神明ヲヲノレカ護神トス。只是一個ノ神道ヲ二氏爭ヒ引クコト。恐クハ破裂シテ兩段トナラントイヘリ。

神ハ天上ノ一輪月ノコトシ。二氏ハ東西兩行船ニ似タリ。西ニ行ク人ハ以爲（ヲモヘラク）月吾（ワガ）船ニ隨フト。東ニ行（ク）人ハ以爲（ヲモヘラク）月吾カ船ニシタカフト。明月依然トシテ青冥ノ上ニアリ。破裂ヲヲモンハカルコトナカレトイヘリ。

人語云。大僧正慈圓ハ法性寺入道忠道ノ息ナリ。延暦寺六十二世ノ座主ニテアリシ。釋子ノ身（ニ）テ和歌ノ道ニ思ヒ入ルコトカナシケレ𪜈。此一ツ身（ニ）オヒテノクセト思フヘシトテ。

人トシテ一ツノクセハアルモノヲ我ニハユルセ敷島ノ道

後鳥羽上皇フカク此道ノ寄人ト思ヒ給ヒ。折折御會ニモメサレケル。修行ノ心ザシアリテ。ソノムカシ遁世ノ時ニ上皇御歌ニ。

キミカクテ山ノ葉深ク住居セハヒトリ憂世ニ物ヤ思ハン

此僧正法華經法師品ノコヽロヲ。

オフケナク憂世ノ民ニヲホフ哉我カタツソマニ墨染ノ袖

コレ傳教アノクタラ三ミヤク三ボタイノ詠ノ心モ思ヒヨソヘタリ。

人語云。圓融院ノ御時ニ慈恵僧正ウチヘマイリタマヒ。女ニ五ノ障ノ經文イトトフトク講

シタマフ。御廉ノ中ヨリアル女房詠テ曰ク。

後ヨリ無漏地ニ通フ釋迦タニモ羅睺羅カ母ハ有ト聞ナリ

トナンキコヘシニ僧正返シニ。

否ヤイナンキテモ見ヘキカイカグリノヱメハ一度落モ社セメ

人語テ云。雲居寺ノ瞻西上人說經間。雨モリノ頭ニホト〱トカヽリケレハ。高座ヨリヲルルトテ袂ヲウチハラヒテ。

古ヘモ今モ傳ヘテ語ルニモモリヤハ法ノカタキナリケリ

同云ク。良喜法師六波羅蜜寺ノ講ノトキ。導師ニテ聽聞ノ中ヲワケテ高座ニマカルホトニ。アル女房ノ良喜法師ノアシヲオサヘテ。イタクツミ侍リケレハ。サテ高座ニアカリテカクゾヨミケル。

人ノ足ヲツムニテ知ヌ我方ヘフミチコセヨト云ニソ有ヘシ

人語テ云ク。一遍上人ワカキ尼ニカサハキモタセテ通ラレタリシヲ。關白殿御覽アリテ。シハシ。ト御車ヨリ雜仕シテイハセラレテ。御タトウカミニ書タマフハ。

上人ハカスミノ衣キリシキミアサケワスレヌ空ヒジリ哉

スナチ上人ソノカミニ。

水鳥ノ水ニ入テモ羽モヌレシウミノ魚トテ鹽モシマハヤ

トナンカキ付ラレタリ。

私記。一遍者河野四郎通信弟。別府七郎左衛門。爲ニ出家一號ニ智眞房一遍一。本性無智 雖レ無ニ才能一。一心念レ佛。熊野權現蒙ニ靈想一弘ニ一宗一。相摸國藤澤搆ニ一庵一。生涯不レ離ニ一遍念佛席一。又國々巡禮 依之號ニ遊行一。及ニ末世一宗派可ニ發建一思所々弘レ之。漸今盛也。號ニ時宗一。一遍伏見院正應己丑二年寂。

又云ク。不淨相ノ心ヲヨメル。夢想國師。

アルホトノ不淨ヲツヽム皮衣色ニマヨヘル人ソキタナキ

又アルトキ。

出ルトモ入トモ月ヲ思ハヽ心ニカヽル山ノ端モナシ

人語テ云。一休トイヘル禪宗ノ和尙アリシ。節分ノ夜ニ入テ。人ノ頭ノサレタルヲ取テ枝ニカケテ人ノ門々ニサシ入テヨメル。

カクナレル用心ハセテヤキ頭思ヤヨラハン人ヤキラハン

又或時ニ黑谷ニ行テ本尊ヲミテ。

道ヒカン頼ミモアヤナミダ佛誰ヲキラヘルツマハジキ哉

私記。一休自號ニ酒肆婬山狂雲子ト。應永元甲戌ニ生メ文明三辛丑年八十八才寂ス。諱宗純トイヘリ。或云。後小松院落胤ト云如何可尋歟。

折フシニカナイタル歌ヲ吟センハヨムニハ增ルト俊頼モイヘリ。ナマナカジヨロシクモナキ歌ヲヨマンヨリハ。古歌ヲイ、タルカヨシ。耳トヲク人不知ウタヲワヅカ計ヨミカヘタルハ。此道ノ盗賊ナリ。アル所ニテ月クマナキ夜ノイトヲモシロカリケルニ。人々アツマリウタナンド讀ントス。一人カ詠云。ソラ行月ノ末ノ白雲トイ、タリ。コトニヨロシクキコヘタリ。一人カ讀タル歌ニ。

クマモナキ月コソサユル秋ナカラ空モサムケキ月ノ色哉

ハジメノ末ノ白雲ハ家隆ノ歌ナリ。古歌ヲイハンコトアマリホイナシ。我歌アシクモヲモシロカルヘキトイヘリ。一人カ曰。ソラモサムケキ月ノ色トヨマンニ。上句月コソトアリ。同心ノ歌ニ候トイ、タレハ。大キニ腹アシク成テ。コレハワザトヨミタレハクルシカルマシトイ、タレハ。一座興ヲサマシテヲカシカリシ。

人語云。古歌ヲソノマ、アソココ、少計ヨミカヘタルハ。ヨムトハイハレズ。過シ頃或人歌ニ。

コヘハセテミチコソコカセ夏虫ノ云ヨリ勝ル思ヒセシ哉

コレヤウ〳〵ニシテ詠ス。コトニヨリ詠シタリナト。一座トリ〳〵興シテ感ス。予是源氏物語歌ニ同シ本歌ヲヨミカヘタルモノナリ。螢ノ巻ニ云ク。コヘハセテミヲノミコカスホタルコソ云ヨリマサル思ヒナルラメ。トアル由申タリ。

長明カ。ツマヤチキリシサホシカノト。イマコントノ歌ヲ取テヨミシヲ。定家當座ニナンジ給フ。サレドソレハ秀歌ナリ。歌ノ取様ハ定家

ノ詠歌大概ニハンベリ。
人語云。人歌書テ見セタランニ。ムサト評スヘカラズ。ソノ故ハサスガノ基俊琳賢ニアザムカレタルコト長明カ記ニ見ヘタリ。コレヲ以テ思フニ。予サイツ頃アル人櫻ヲ繪カキタル扇ニ歌カキテト云人ニ。

山櫻霞ノマヨリホノカニモミテシ人コソ戀シカリケル

トイヘル歌カキテアタヘタルニ。此人此歌予カ歌ゾト心得タルニヤ。ヲカシゲニウチカタフキ詠吟シテ持タリシニ。或時人來テ此扇ヲ取テコノ歌ヲ吟曰。イトチジメヲトリサマナル歌哉トテナゲステタリ。此人サモコソ何トモ能モキコヘヌ哉トテ。兩人笑テ申タリ。其時予シラヌ體ニテ居侍リシ。此歌ハ古今集ニ紀貫之カ歌也。撰者ノ自歌ヲ入ル、ハサコソ自讃ウタナルヘシ。此人ハサスガノ上古ノ貫之カ歌ヲアシキト申ス。サコソスクレタル歌仙哉トテ。人ニ後語テ笑ヒ侍ル也。此兩人ハ歌道スコシモ不知人也。物シリカホニイカメシクフルモフ人也云々。

或人云ク。今川貞世會ニ。湾崎ト云盲人タヒコトニ參リ歌ナントヨミタリシニ。或トキ爲邦朝臣ノ給フ様ハ。盲人ノ歌ハ心モシツマリテ。趣向面白カルヘキト思フヘキカサアラヌナリ。ナニガ眼ヲ開テ趣向モトメ。所々遊行シテモヨキ歌ナラヌコトナリ。マシテ盲ニシテ面白シユカウアラヌ物ナリ。サレハ彌メツラカニ云ハン。シユカウ面白センナト、スルホドニ。古法ニソムキ式法存フルメカシテ詞ノトリヤウ悪クナリ。新シクノミナリテヨキハイカヒ連歌トコソ存ル。歌人トイハンモノ連歌ハイカヒイラサルモノナリ。風情モムゲニアシク成モノゾト云ハレタリシニ。此盲キ、テソレヨリ出ザリキトイヘリ。コノ事予或所ニ

テ語リタリシニ。一人ノ盲人アリテ。サテ〱ヲカシク侍リ。イニシヘノ蟬丸ノ。コレヤコノナドハ。コレモ趣向アシカルヘキト。カラ〱ト笑タリシカハ。一座カヘツテ此盲人ヲアサムキ笑タリシソカシ。今ノ世ノ人歌ヨムヲミレハ。ミナ花ヲ先トシ。誠ノ式法ニハツル、コト多シ。末世ニナリクタリ。ケリヤウノモテアソビトナリヌルコトノ悲シキ。東野㕮宗祇ニ御相傳ノ中ニ歌ノ見樣三品アリ。所謂古體流水。感情隨風。花鳥證景トイヘリ。委外ニ記ス物アリ。

人語云。良選カマクリ手ト云コトヲヨミケルヲ。住吉國基カ難シテ後ニ閉口シタリコト袋艸紙ニ侍リ。タトヘイカナル田舍ノ云コトハニテモヨキ詞アルヘシ。近頃吉野ヨリ京都ニ來テ葛ヲウル者アリ。或人ノ所ニテ人々ヨリ合テ。ハイカヒシテ居タリケルニ此葛ウリ來レリ。ハイカヒスミテ後ニ皆物語シタル席ニ。此葛ウリニ問ケルハ。吉野ノ櫻ハ如何ト申タリケレハ。今花コソハシリボツタシ候トイヘリ。一座手ヲ討テイナカ者ホドヲカシナルハナシ。花ニハシリボトハ云コトメツラシ。稻ニコソハシリボハアリト又一座笑ケレハ。葛ウリ大キニ腹立シテ。サテハハイカヒト申ハアマリ廣ク學バストテモ可然歟。證歌アルコトヲシリ給ハストイヘリ。人々サテハ證歌アル哉終ニキカス。イツレノ歌ソトナヲアザムキ申ケレハ。葛ウリ詠テ曰。

ヨシナル山田ノ櫻サカリニテハシリボワタス比ニ成ヌル

如何ト申ケレハ。一座閉口シテ重而此葛ウリニ參會セサリケリトナン。コレ清輔朝臣ノコノモカノモノ論ニ同シ。

人語云。兼題ニモ當座ニモ隨分禁忌ノコト。サシ合ノナキ樣ニ可心得ナリ。芹河行幸ニ行平

ノ翁サビ人ナトカメソカリ衣ケフハカリコソ(トイ)タツモ鳴ナル。トヨミシモ我身ノ上ヲコソヨミタレ共。帝ノ御年五十七才ニナラセ給シナレハ。コトノ外ニ御氣色アシカリシ。又禁裏御會ニ行路柳ト云題ニテ定家卿。

道ノベノ野原ノ柳モヘソメテアハン思ヒノ煙クラヘヤ

此歌不吉ナリトテ勅勘アリシトナリ。新宅祝言ナントノ時ハ別テ心得アルヘシ。西三條逍遙院定家正筆天福本伊勢物語ヲ今川氏親ノモトヘツカハサレシトキ。

此チタニ今ハ離レテ伊勢ノアマノ舟流シタル心チ社スレ

トイヘル歌ヲソヘラレタリ。是ハ古今ニ伊勢カ七條后ニヲクレ奉リシトキノ哀傷ノ長歌ノ詞ナリ。後ニキヽタマヘハ。氏親ノ母ハ北川殿ト云テ。京ノ伊勢伊勢守ノ娘ニテ。其頃シカモ尼ニテアリケリ。伊勢海士ノ舟ナカシタルカタカタサシ合ノコトナリトテ一生後悔アリシ。

幽齋蟬ノコヘイツレ高ケンミ子ノ松。此句専雲院ノ曰。ナミタノ瀧トイツレタカケン。ト侍ル哀傷ノ句也。如何ト申サレタリ。幽齋サシアタリ閉口アリシ。トカニ本歌ハ哀傷ノ類ハヽカルヘキトイヘリ。

玄旨法印語テ云。秀吉連歌ヲコノミ給シ比。或時御前紹巴ナト有合ケルトキ。太閤ノ連歌ニイツレノ句ニテアリケン。宇治川ニ花舟ナカストアソハサレタリ。サテ人ニ問給フハ。カヽル川ニモ花ハ有コトニヤト尋タマヒケルトキ。何茂古キ證歌モヲボヘス。何トモ申人侍ラサリケルニ。玄旨イハレケルハ。撰集ハヲホヘス。證歌ハ候ト。人々ウチ案シタリケルニ思ヨラス。何ト申歌ソト問ケルニ。

水上ハ櫻谷ニヤツヽクラン花舟ナカスウチノ川チサ

ト云ヘル歌アリト申サレケルニ。太閤コトニ

御喜悦アッテ事スミタリ。其後紹巴玄旨ニ會セシトキ。日外ノ櫻谷ノ歌色々考ヘ侍レト。イツレノ内ニモアラス。若ハ思ヒタリ給フニヤト尋タリシニ。玄旨サレハコソ。ソレハ上ノ首尾アハスルマテニテ。卽席ノ愚ナレハ何ニカハ侍ラント申サレタリケルニソ。紹巴モ大キニ感シ人々ニモ申語リテ賞シヌ。此歌ハ叡聞ニモ入タリ。身ニトリテ面目コレニスキズトノ給シト人カタリシ。又云ク。當代和歌花ヲ先トシテ。此道ニ達シタル人ノ歌モ打吟。ミヽトヲキヲハ人コトニ心ニ不入思フ末學ノ人其正道ヲシラスシテメタト申スヘカラス。烏丸殿ニハ撰集ニハ古今新勅撰ヲ以テアサユフ見給シ。淸輔カ萬葉ヲステス見シニ同キ心歟。人語云。今川貞世云。歌道ハ武士タル人モテアソハヌコト、思ヘリ。コレ大キ成アヤマリ。和國ノ風儀ナレハタレ人カコノマサラン。昔聖主ハ月ノ夜。雪ノアシタ良人ヲアツメ。歌ヲ詠シ。天下國家治亂ヲサトリ。政道ノタスケトナシタマフ。末世ニ至。ケリヤウノモテアソヒ好色ノナカ立ト思フ。カタ〱シカラス。歌ハ公家歌人ナラテヨマヌワサト思フニヨッテ心得チカヒナリ。歌ニカキルヘカラス。何事ニテモ思入レテ其身ツトメヲコナヒモアシク。政道アシクナルコトハ。モッテノ外アシキコトナリトイハレタリシ。思フニ此頃源氏物語ヲアルカタイヂナル人曰。紫式部人ノ敎ノタメニ書タリトイヘ𪜈。內ニハ淫婦ナリ。一部好色ニシテ見ル人カナラスアシカルヘシ。女童ミスヘキニアラストイヘリ。コレ道ヲシラヌ愚人ナリ。人間陰陽ノ精氣ニテ天地萬物生スルコトコレ同シ。ハシメヨリ賢ニ入人マレナリ。サレハ勸善懲惡ノ心ニテ。上ニハ好色ノ樣ナレ𪜈。誠ノ仁義五常ノ道ニカナヒテヨキハヨク。

アシキハアシクナレルヲ顯タリ。孔子春秋ニモアシキコトアラハシコラシメタリ。左樣ノ申サル、人コソサコソ嫌(キラ)ヒ給フヘキト申タレハ。コノ人申コトナクテ去リニキ。ヒトヘニ狂氣無智我儘ト云人ナルヘシ。

人語云ク。源三位頼政。近衛院仁平三年ニ御モノ、氣ニテ御惱(ナヤミ)アリシ墓目ノ役ヲツトメシニ。御氣色平愈アリケリ。此時獅子トイヘル名劍タマハル。家面目コレニスキストテ。ヒサマツキテ頂戴ス。ヲリカラ夏ノ空郭公ヲトツレタリ。關白殿ロスサミニ。

ホトヽキス名ナハクモヰニアクル哉

頼政カシコマリテ月ヲ見カケテ。

弓ハリ月ノイルニマカセテ

トナン申タリ。此頼政ハ歌道ニ達シタルモノニテ度々秀歌アリシ。二條院御時ニ。ヒダリマキノフチフチ。ヒヲケヲコメテ。河ニヨセテ歌ヨメトアリケルニ。頼政ウケタマハツテ我名ヲコメテヨム。

水ヒタリマキノ淵々落增リヒチケサイカニヨリマサル覽

サレハ清輔朝臣ノ頼政ニ參會。折フシハ例ノ上手コソマヅ聞度侍リトイハレシ。

人語云。神泉苑ニマカリテ。有家朝臣ヨメル歌。

ツキヌ世ノタメシニクマハイカ計神ノ泉ノ池ソツレシキ

定家コレヲ聞テ。天下カンハツ頃モ。此歌ニテヲノスカラウルホフヘシトホメ給タリシ。

人語云ク。後深草院御位ノハシメ。黒木ノ屋ヘムカヒテ侍リケルニ。カミアゲクシヲトリ落シテ官廳ノ局ヘコヒニツカハシケルニ。コレモサシアフヨシ申侍リケルホドニ。コトモヨクナリヌト度々セメラレケレハ。辨ノナイシカモトヘ。ヨミテツカハシケル。少將内侍。

シハシマテウチタレ髮ノサシ櫛チサシ忘レタリ時ノマ計

トナン侍リケレハクシヲツカハストテ。辨ノ內侍。

サシ櫛ノサシアフ程ノ時ノマハウチタレ髮ソ我ソ亂ルヽ

光明峰寺入道白鳥ノカタカキタル屏風ニ。春ノ野ニ鷲ノカタ書タルヲ高辨上人ノ。

春ノ野ニサナカラ笛ノ聲冴テトヒマフ空モノトケカリケル

入道前太政大臣。弘安元年百首ウタマヒラセラレケルトキ。熨斗ヲスヽキニ露カキタル杉ヲシキニノセテ。內ヨリ出サレケルニ。ミナ給テフトコロニ入テスヽリヲ乞テ。

忘レスヨツユノ下ナルハナスヽキチシキ形見ノ秋ノ面影

寄柳筥ニ戀ト云ヲ。藤原重家。

タノメコシ柳ノ筥ソ中々ニノセテモ靡クコトノ葉ハナシ

私記。左京大夫顯輔子淸輔弟也。大貳正三位云々。

和泉式部フカク佛道ニ思入タリ。南都西大寺ニ過去帳現在帳トテ二ツアリシニ。過去帳ニハウセタル人ヲ付テ廻向ス。現在帳ニハ生タル人ノ名ヲツケテ存生ヲ祈念シケリ。和泉式部此寺ニ詣テ。現在帳ニハ付カデ過去帳ニ付タリ。不思議ナシケルニ一首歌詠ス。

アツサ弓ハツルヘキトモ思ハテハ兼テ無名ノ數ニ入ル哉

又或トキ式部カ家ノマヘヲ。女郎花ヲ折テワカキ法師モチテ通ケル。何方ヘ行ゾトトハセケレハ。比叡山ノ念佛ノ立花ニナンモテマカルト云。先マチタマヘトテ硯ヲトリヨセ詠テ云。

名ニシヲハヽ五ツノ障アルモノヲ浦山シクモノボル花哉

トカキテムスビツケテツカハシタリ。

又御堂關白道長東北院ノ門ノマヘヲ。法華經譬喩品イトトフトクヨミテ。車ヲシツカニ通リ給フ。式部コレヲキヽテ。深ク感歎シテ詠ニ云。

門ノ外法ノ車ノヲトスレハワレモ火宅ヲ出ヌヘキカナ

イカナリケルトキカ女人五障心ヲ。

二ツナキ三ツナキ法トキクトキハ五ノ障アラシトソ思フ

又性空上人ノモトヘ。

クラキヨリクラキ道ニゾ入ヌヘキ遙ニテラセ山ノ端ノ月

又地獄繪御屏風ノモトニテ。

淺マシヤツルキノ枝ノ撓ムマテコハ何ノ身ノナレル成覽

人語テ云。此道ニ深ク思入タル人ハ普光院殿ナルヘシ。ソノ故ハ富士ヲナカメントテ。序ニ美濃國ニテ不破關屋ノ歌ヲヨマントヲモイテ。東國ニ下ラレタリシニ。美濃國ニ至リ何方關ヤアルト尋ラレタリケレハ。ソコナンセキ屋トコソ申タリシニ。都ニテ思シケルヨリハモノ調(トヽノウ)テイトキレイナリシカハ。イト興モナク侍リケレハ。イカニト問ハシメ給フニ。國守ヨリイト見苦敷トテ新(アラタ)ニツクリカヘタリ。コレ旅館ノ御モテナシナリト申ケレハ。コトノ外氣色アシク關屋ノ亭ノ會ニ。

フキカヘテ月コソモラ子イタ庇トク住アラセフハノ關守

此歌ヨク出來シタリケル故コトナク侍リ。

人語テ曰。昔大隅守ナル人サクラ嶋忠信カ。國ニハヘリケルトキ。郡ノ頭カシラ白翁ハヘリ。トガ人ナリシ故。ヒキ出テシモトヲモフケ。ウタントセシトキ翁ヨメル。

老果テ雪ノ山ヲハ戴ケトシモトミルニソ身ハヒヘニケル

此歌ヲ聞テ免ス。

人語テ云。木津川寺三町ハカリ行テ田中ニ柿木アリ。昔平將重衡ト云人。源氏ノタメニトラレテ此所ニテキラレケルニ。此寺ノ本尊ヲ拜テ後世ノコト念頃ニイノリテ。サテキラレントテ座ニ向ヒケルニ。郭公ノ西方ヘ鳴テ飛行ケレハ。

思フコト語リアハセン郭公ケニウレシクモ西ヘ行カナ

亦菓子ノ柿ヲ取テ給テ。其實ナゲタリシニ。則コレヨリ柿木生ス云々。

又文治頃八嶋大臣。武士ノ手ニトラレテ鎌倉ヘ下ラレケルニ。遠江國池田宿ニ付レケルニ。

アスハマタシラヌ野原ノ露ノ身モケフハ池田ノ宿ニ置覽

トヨミタマヒケルニソ。タケキ武士モ皆涙ヲナカシ念頃ニイタハルト云々。

人語テ曰。後鳥羽院鎌倉ヲ成敗アラント思召タヽセ給フ。ツヰニ官軍討マケテ。法皇遠嶋ニウツサレ新嶋守トナラセ給フ。此時ニ中御門入道宗行前中納言。小山左衛門朝長ニツキテ下向アリケルニ。遠江國菊河ニイタリヨモスカラ子ムルワザモセス。來方行方思ヒツヽケテ。法華經ヲヨミテサテ硯ヤアルト乞請テ。

昔南陽縣菊水　汲ニ下流ニ而延レ齡
今東海道菊河　宿ニ西岸ニ而終レ命

トカキテアリシヲ朝長アハレニ覺テ。色々ニイタハルトイヘリ。

民部卿成範(シゲノリ)ハ少納言入道カ子ナリ。櫻町中納言トイヘリ。イサヽカノ事有テ配所ニヲモムカレタリ。年ヘテカヘリケルニ清輔ノモトヨリ。

鳥ノ子ノ有シニモ似ヌ古巣ニハ歸ルニツケテ音ヲヤ鳴覽

返シ。

カタ／＼ニ鳴テ分レシ村鳥ノ古巣ニタニモ歸リヤハスル

サテ内裏ニ參ラレタリケルトキ。ムカシハ女房イリタチニテアリシ人ニテ。今サモナクテ侍リシ女房ノ中ヨリムカシ思ヒ出テ。

雲ノ上ハアリシ昔ニカハラネトミシ玉タレノ内ヤ戀シキ

トヨミ出シタリシニ。返事セントテトウロノキハニタチヨリケル時ニ。小松内府重盛マヒラレケレハ。イソキ立ノクトテ。トウロノ火ノカキアゲ木ハシニテヤ文字ヲケシテ。其ソバニゾ文字ヲカキ。ミスノ中ニ入テ出ラレタリ。女房トリテミルニゾ文字ニテ返事セラレタリ。人々後ニキヽテ深ク感スイヘリ。

人語云。後醍醐帝。御謀叛ヤウ／＼露顯シテ。公卿アマタカマクラニトラレシ中ニ。二條爲明此人ノ中ニアリケリ。事委細ニ問ケレドモノ給ハザリケレハ。ヤカテセメテトヘトテ色々ヲソロシキ事カマヘケルニ。近側兵ニ向テ硯ヤアルトコヒテ詠テ云。

思ヒキヤワキ(マヽ)敷嶋ノ道ナラハ無世ノ程ニトハルヘキトハ

武士フカク感シテ此由申アヘリケレハ。ユルサレテ京ニカヘルトイヘリ。

人語云ク。辭世ノ歌ハイカホトアシクトモ。コレハ志ノホド可感。ナニガ苦痛身ヲ責テイカニ心ノ中シツマルマシキニ。末期歌ヲ殘サントハ志シフカキコトナリキ。貫之カシナントシケルトキ。

手ニ結フ水ニ宿レル月影ノ有カ無カノ世ニコソアリケレ

拾遺ニハ此歌ヨミテホトナク死タルヨシ。家集ヲ引テカキタリ。此歌公忠ノモトヘツカハストカケリ。コレラハ秀歌モ可申歟。和泉式部辭世。

水ハ水火ハ本ノヒニ返シケリ思イシ事ヨサハサレハコソ

後京極良經公ハ詩歌ニ長シ才智廣太ナルニ。寛弘寛治ノアトヲ尋。建永元年ニ京極殿ニテ曲水宴アラント定メ給フ。三月六日左府家實(イトナミ)參會アリケルニ。良經ノ曰。今度樣々營侍リシコト心ニ思フニタラズコソ侍リトテ。御庭ノケシキサマ〳〵御物語アリケリ。又云。ヲヽヤケノツトメヒマナクテ侍レハ。今ハコヽロニ思フコトナクテコソアランモノヲトテ。四方山物語アリシニ。御ヱボシ落テ家實ノヒサノ上ニトマリタリ。人々イマハシク思ヒケルニ。フカクツヽミテアリシ。ハタシテ同七日夜。良經寢殿ノ天井ノ上ヨリ。イカナルヤシンノ者ノセシニヤ。長キ竹ニ刄(ヤイバ)ヲカラミツキコロシ參ラセタリトソ。後人カタリケリ。コヽロヱヌ落冠不思議ナリシコト也。家實ハ攝政ヲタマハリケレハ。御ヒザノウヘニトマリシモカヽルコトニコソ。此トキ良經ノ御年三十八歳トソキコヘシ。定家此コトヲ歎キテ家隆ノモトヘ。

キノフマテカケトタノミシ櫻ハナ一夜ノユメノ春ノ山風

萱齋院ハ後白河院第三皇女ナリ。年頃京極黄

門ニ歌ノコトナド問給ケル。定家此歌ハサスカノ和歌所ノ人立モ。及カタキ風情アルト感シタマヒシ。此歌ノ中ニ。

玉ノチヨ絶ナハ絶ネ長ラヘハ忍ブル事ノヨハリモゾスル

コレマタ末代忍戀ノ手本ト。ノ給シトイヘリ。

人語云。物名隱題イカヤウノコトヲモヨメリ。コレハ當座ノ興ニノミイヘルコトナリ。シイテ好ニ及ハスト玄旨法印イヘリ。イツレモハイカイノ體ニナラテキコヘス。拾遺集アマタ侍リ云々。

內臺盤所ノウシロノカタコホチタルニ。鼠アマタ出タリシニ。コトノハラノアリケルヲ引入テ。ソレニ子ヲウミ付タリ。人々アナヲカシ。コレミタマヘト出タリシニ。スケミノヌシ歌ヨム。

年ヲヘテ君ヲノミ社ネスミツレコトノ腹ニヤコチハ産ヘキ

同人コニヤクト云ヲ。

野ヘミレハ春メキニケリ青葛(ツヾラ)コニヤクマヽシ若菜摘ヘク

人語云。雪ノイトフリケルニ。藤原仲文ヲメサレテ。御粥ヲタマハリテ後歌ヨメト仰アリシニ。

白雪ノフレル朝ノ白粥ハイトヨクニタルモノニハ有ケル

人語テ云。宇治入道殿ニ候ケルウレシサト云ハシタモノヲ。顯輔卿チサウセラレケルニ。ツレナカリケルニツカワス。

我トイヘハツラクモアル哉嬉シサハ人ニシタカウ名ニ社有ケレ

此秀歌ニメデ彼女宇治殿ツカハサレシトナリ。

和泉式部保昌ニスサメラレテ。或カンナギヲカタライテ。貴舟ノ社ニテ敬愛ノマツリヲサセケルニ。カンナキ曰ク。敬愛ノ御祈ニハ神前ニテ陰口ヲアケテ出シタマヘ。サナク侍スハカナヒ候マシト申シタリシニ。イトカホアカメテ。

千早振神ノ見ルメモ恥シヤ身ヲ思フトテミチヤスツヘキ

保昌ハシメヨリ木陰(カゲ)ニテ。コレヲ見聞シテフカク感シ。ソレヨリ念頃ニカタラヒシトイヘリ。

人語云。西行法師カ詠テ云。

スルカナル富士ノ煙ノ空ニキヘテ行衞モシヲヌワカ心哉

此歌俊成ニミセ奉リケルニ。フジトイヘルニスルカナルト侍ル。口惜キ名所哉ト仰アリシニ。西行如何置ヘキ歟。俊成又云。冨士ハ日本ノ寶跡ナレハ。スルカトイハデモヨシ。風ニナビクトアリタキニコソト申サレシカハ。西行大キニヨロコンテナヲシ書付置タリ。或時御子定家ニ此歌ミセケルニ。定家打吟テ曰。アッハレ面白風情侍リ。シカシ風ニナヒクノ五文字ソコノ云ヘル詞ニ似ス。若俊成ナントノ口中ヨリノ詞ト云ルニ相似タリト申サレシニコソ。道ノカシコカリシヲ感シケリトイヘリ。

顯照法師綱位ヲノソムトテ。

ウラ山シイカナル人ノ渡ルラン我ヲミチヒケ法ノハシ守

コノ歌故ニ法橋ニナサレニケリ。信光法印ノソムトテ。

ヒキタツル人モナキサノ捨小舟サスカニ法ノ印ヲソマツ

定家卿小倉三首ト云ハ。

忍ハレンモノトハナシニ小倉山軒端ノ松ニナレテ久シキ

時雨スルコスヘノ秋ニナリヌレハ軒モル水ヲ哀トソキク

露霜ノ小倉ノ山ニ家居シテホサテモソデノ朽ハテヌヘキ

人語云ク。二條太閤ノ許ニテ月歌會アリシトキニ。皆ヲハリテカヘルトテ左中將爲邦。馬上月ト書テカタハラニサシヲカレシヲ。按察僧都フトトリケレハ。歌ヨメトセメラレタリ。イト急ニウチアンシナドスヘキニモアラス頃ハシケレハ。頓阿法師是ヲカハリテヨメル。

フル雨ノハレマニイソク馬ノウヘノ露ニ光ヲヤスム月哉

人々コレヲ感スルコト不少云々。

私記。頓阿號ニ蔡花院又泰尋或感空ニ小野宮能實六代孫仁與法師子也云々。

人語云。後嵯峨院辨内侍トキコヘタリシ女房。閑院内裏ツクラレタル頃。人ノ庭ニ梅ノ色香スクレタルヲ乞取テ。寝屋チカクウヘタリシニ。或時人アラハコレヲモ見セテタマヘトテ。

人シレス思ヒシ事ヲ契ヲカテ浮名ヲトメンアトノ悲シキ

トカキテ殘シタルヲ母返事カキソヘテ。

通ヒケル心ヲシラテイトハセテ後ハ悔シキネヲノミソ泣

イトアハレニ覺テ。隆信モヲリフシ訪フイヘリ。

人語テ云。兼好法師ハ慶雲トハ中惡敷シテ度度イサカヒケル。御子左御許ニ而何レノ歌ニヤ慶雲カ歌ヲ兼好難シタリケルニ。色々論シ。兼好大キニイカツテ。慶雲カ頭ヲハリタリケルニ。ケイウン物モイハテ立アカリケル。人々コレハトテト、メケレハ。アルシ殿。兼好イカナレハ慶雲ヲハルソト。ノ給ヒシトキニ。兼好ウチハラツテ。

氣ノノボルカシラノ山ヲ春ト云ハ霞ヤ腹ヲタツト思ヘヨ

コノ歌ニテ興ニナリヌ。

人語云。三月三日雛遊シタル處ニテ。飛鳥井榮雅卿。

都ニハ彌生ノ空ノノトケクテヒナノアソヒモ思ヒヤル哉

女子。三月三日小偶夫婦形作。是號雛對其外大小人形各並置座上。供酒食。爲人間玩之。名謂雛遊。是往古有女童業。凡女子幼童時身添人形號尼兒。遂爲負惡氣也。今拂子一説作。是尼兒類歟。又祓之時撫物是以同意也。然雛遊幼童三月三日遊事此謂歟。可尋云々。

西三條殿ハ若年ノムカシヨリ佛道ニ深ク思入テ。詠歌ニモ其心ザシアマタ侍リケル。永正十三年夏廬山寺ニ於テ剃髪シテ逍遙院堯空ト號ス。今ヨリヒトヘニ往生ノ勤ヨリ外ハノソミナシトテ。ザレコト歌詠云ク。

人ナラハウキナヤ立ンヨヒ〳〵ニワカ手枕ニ通フ梅カ香

後ニ此梅ハウチヘ參セタリシトイヘリ。見家集。

人語云。大光院亞相ヤンコトナキ人ナリケルニ。モノヽ多キコトヲチヤウニトノ給ケルヲ。人コレヲアサマシキコトニ思テ。コレハイヤシキ諺ニテコソ候ヘト申タリシニ。亞相ウチウナツキテカヽルコト云マシカハ古歌ニ。

大和ナルツチノ郡ノ戶タテ山チヤウニヲリタルカキハラヒ哉

トフル人モヨミタマヘレハ。丈ニト云コトハアシカルヘキ歟。此人閉口ストイヘリ。

人語云。家隆ノ子祐隆。キヒツノ宮ニ年頃ノチカヒ有ケルニ百首ノ歌ヨミ奉リケル。其夜ノ夢ニ一人神子白キ裝束ニテ見ヘテ曰ク。

玉タレノミスノアミメノ糸マテモナチキソ道ノ末ハ行見

大キニコレヲ信敬シテ守ニストイヘリ。

同人子禪師隆尊モ歌道ニ卽秀歌度々アリシ。東國修行ノ時。或地頭ノ家前栽ノ櫻花ヲ一枝ヲリテニゲタリ。アルジ見付テアノ法師トラヘヨトテ。アマタハシラセテトラヘニケル。禪師待タマヘトテ。

白波ノ名チハタツトモ吉野川ハナ故シツム身チハ恨ミシ

此歌ヲ見參ニ入タマヘトテ。フトコロ紙ニカキテワタシケルヲ。アルシニ見セタリ。此ウタヲミテアルシ。ソレアシクナハカラヒソトテ。人ヲイサメイタハルトイヘリ。

隆信朝臣モノ申ケル女ノ母ナンイサメ一ツラクノミアリケルニ。カノ女ミマカリヌトキヽテ。ハヽノモトヘツカハシケル。

君タニモ有テイトハヽ侘ツヽモミノ浮ノミヤ歎クナラマシ

カク申遣タリケルニ。此女ノカキリニ。ハラカラナルモノヲヨヒテ。我ナカラン折ニ尋ル歌ヲヨミ。詩ヲツクリテモ何カセウ。ヨウ隱居シテ子フツ申サントナンヨミタマヒシトイヘリ。

私記。正二位内大臣實隆父三條公保次男。母左大臣房長長女。永正十三年四月十三日出家。天文六年十月三日薨

ヽス。オ智歌人。

清巖和尚正徹。始メ書記タルノ故ヲ以テ世以號徹書記トイヘリ。東福寺居シテ和歌ヲ好ム。或時歌ニ。

中々ニミヌモロコシノ鳥モ來シ桐ノ葉チトセ秋ノ夜ノ月

此歌ヲ帝聞召テ。時世ヲ諷スルノ意アリトテ逆鱗(ケキリン)アリテ。山科ニ謫セラレテ其居ヲ招月ト呼フ。七月魂祭ノ歌トテ。

中々ニナキ魂(タマ)ナラハ古里ニカヘランモノチ今日ノユフ暮

此歌ヲキコシメシ。御感アリテメシカヘサレ。東福寺ニ召返サル。

人曰ク。雅經卿後德大寺左府ハ近世無双歌人。毎度(イツモ)秀歌計多クミヘ侍ルトノ給フ。アル時會アリテ終ニ狂メ詠テ云。

實定カ歌ヨムコトソコトハリヨ紀貫之カ冠キタレハ

實定如此カケハナリ一座興シ侍ルトイヘリ。人語云ク。伊勢物語ニ。ナリハシホシリノ様ニナン。トアルコトイカナルコトヽモ不知トテ。人ニ問侍ルニ。彼人語テ曰。此事物語ノ第一難儀ナリ。一年妙法院仰ラレテ曰。ナリハシホシリト云コト。近江ノミカミ山ヲサシテイヘルナルヘシ。三上山ハ冨士ト似テアレハ。都近キ名所ニタトヘテ比叡山ヲ二十(ハタチ)ハカリカサチテト云。又ハナリハシホシリト。ヨクナリノ似タルヲサシテイヘルナリ。赤人カ歌ニ。

サヽ浪ノ三上ノ山モ海ナレヤ月ニサシヒクシホヽリノ山

此歌ニテミカミ山ヲ云ナラン。或説ニシホリ山ト云ハ冨士山ナリ。此山ニ多名アル中シホリ山ト云一名アリ。此名ニ付テ二義アリ。一ニ海士ノシホタルヽ沙ヲタレハテヽ後。ウチコホシタルヲハシホリトナン云。彼山ノ姿シホリニ似タル故ニ。シホシリ山ト云ヘキヲ。キ(シホリ)ラヒハヽカリシホリ山トナン云。二義云。枝折山ト云ヲ。クラブ物語ト云モノニ。ムカシ此國一向タケクシテ家々ニモノヲ忌コトカキリナ

シ。依之家ノ中ニ一人死スレハ。其内ノ人ヲイミテ一期人ニ交エス。コレニヨリ年闌テ死期近クナル人ヲハ生ナカラ山野ニステケル。爰ニ冨士ノスソ野ニ住人アリケリ。姑(シウトメ)ナル女年老テ煩ヒケレハ。男コレヲステント思ヒテ姑ヲスカシテ。冨士ノ奥ヘ入ニケリ。山フカク入ホトニ。姑道スカラ木ノ枝ヲ折カケテトヲリケリ。男思フ様此枝折スルコトステ置テカヘリタラハ。枝折ヲシルシニタツ子カヘラントスルゾト心得。ソノ枝折サアラヌ様ニ折ステテケリ。姑ヒソカニミテヨメル。

オク山ニシチル枝折ハ誰タメソ我身チ分テウメル子ノ爲

其時大地破裂テ聟男落入死ストイヘリ。コレラノ說々侍レ圧。ステニ定家卿モ不知トノ給ヒシウヘハ。實說ト申カタシトカタリ給ヒシ。

人語云。後嵯峨法皇熊野詣ナサレタリシトキ。伊勢國ノ夫ノ中ニ本宮音無川ト云處ニテ。梅花ノ盛ナルヲミテヨメル。

音無ニ咲ソメニケリ梅ノ花匂ハサリセハイカテシラマシ

夫カ歌ニハイミシキ秀歌ナルヘシ。此事御下向ノ道ニテ自然聞召テ。北面ノ下郎ニ仰テメサレケリ。馬ニテカケメクリ本宮ニテ歌ヨミタリツル。夫ハイツレゾト問ニ。コレコソ件ノ夫ニテ候トソバニテミナ人申ケレハ。仰ナレハトク參レト申ケレハ。

花ナラハ折テゾ人ノトフヘキニ戍サカリタル身社辛ケレ

トイヘリ。

彌以此由聞召御感アリ。彼所公事御免アリシ

古月宿ト云額ヲ履脱ノアタリニカケタルヲ紹巴ミテ。コヽニ此ガクカナラスカクヘカラス。主云。イカナル故ニカ。紹巴曰。

ミチノクノ道ノチマタノ駐(ムマサクリ)ウタテノ月ノヤトリ所ヤ

トイヘル歌ノ心ハイカニト云ケレハ。アルシヤカテハツシケルトイヘリ。

松下民部語テ云。玄旨法印艮席口(クチ)アイハタラ

キタリ。先年和歌會ニ一人云。

椀ノ内ニテヨハル虫ノ音

ト云ケルニ。

飯ノ湯ノアツサハスルヽ秋ソ來テ（フケテイ）

ト申サレタリ。一座興シヌ。于時語テ甲府ニテ宗壽云ハ。

ハナニハツラキ吹上ノ風

ト云タリシニ。

雪隱ノ腹春ノ來ル匂ヒコソ

トザレコト申タルニ同トテ笑ハレタリ。

人語云。逍遥院物語セラレタリケレハ。長柄橋（ナカラノハシ）ハ推古天皇御時。スイタト渡邊ノ間ヲワタサレタルナリ。然ルニ彼橋成就シ侍ラス。上下ノ人ヲ留テ橋渡スヘキ樣ヲ尋サセ給ニ。アル河内ノ國ノ者夫婦年六十ニ及フカト覺タル。トヲリ侍ルニ尋サセタマヘハ。彼者申ケルハ。カヤウノコトハ龍王ノ納受ナケレハ。タヤスクカヽル事ナシ。人柱ヲ立テ御覽候得ト申。サモ侍ラントテヤカテ今ノ夫婦ノ者ヲ取テ。人柱ニタテ給ヒ則彼橋カヽリテ煩ナシ。カノ者カタチヨキ娘ヲ一人モチ侍リ。或侍ノトリテ妻トサタメ給ヘリ。サレ共カノ女物ヲ云コトナシ。人申ケルハカ樣ノ人ハ三病ノ内トテ人ノ數ニモ侍ラスト申セハ。サラハトテ。コシニノセイツクトモナク送ラルヽ。ヤカテ男モ馬ニ乘。人多クトモナヒ行道ノカタワラニ。雉子ト云鳥ノ鳴侍リケレハ。人々アノ鳥イタマヘト申セハ。男弓ヲ取テイケルトキ。コシノ内ニ聲アリ。不思議ニ思テキクニ。

物イヘハ父ハ長柄ノ橋柱ナカスハ雉子モイラレサラマシ

トナンキコヘケレハ男キヽテ泪ヲナカシ。モトノ宿所ヘカヘリ侍リテ。夫婦ノ契アサカラストイヘリ。

人語云。井手ノ下帶ト云ヘルコト同云。昔ウト

子リノ大神ノ祭ニ。ミテクラヲ持テ春日ヘ下リケルニ。彼井手ノ玉水ノ邊ニテ。六歳ハカリナル女子ヲイタキテアリ。形チ世ニスクレ侍リテケレハ。カノウト子リコレヲ見。汝ヲトナシク成タラハ我妻トナスヘシ。別ノ男シタマフナト色々ニタワフレ侍リテ。帶ニ文ヲソヘテ出テ。女ノ帶ヲ取テ立サリヌ。其後ハタヘテ音信モナクテ打過ヌ。人々此事ヲキヽテ姫ノトノヽ方ヨリハ。イカテ久シク音信モナキヤランナトヽ度々申アヘリ。是ヲ女キヒテ世ニ本意(ホイ)ナキ事ト思テ。井手ノ玉水ニ身ヲナケムナシク成。其後ニ七八年アリテ。モトノウト子リ又春日ヘトヲリケルトキ。彼ノ女ノメノトウト子リヲ見テ。アノ御方ニヨクニタル人ノ。七八年サキニ此處ヲ通リ給ツルヨトイヘリ。ウト子リ聞テ。フシキノ事中女カナトテヨリテ子細ヲクハシク問ケレハ。始リヨリノコト念頃ニカタリテサメ〲トナキケレハ。ウト子リ是ヲキヽテ。サテハハカナク成給ケルニヤ。タハフレコト云シハ我ニテコソ侍レ。夢ウツヽトモシラヌ世中哉トテ。ヤカテ其玉川ニ男モ身ヲナゲ死タリ。コレヨリシテ井手下帶引ムスビトヨメリ。サリナカラ悅言歌(ヨロコビコトノウタ)ニアラズト云々。

同人語テ云ク。聖武天王ノ御トキニ佐野ノ近世ト云人筑前守ニテ下リタリケルニ。京ヨリ具シテ下リケル妻。國ニテ死タリ。サテ其國ニアル女ヲ妻トシケルニ。今ノ妻ニムスメアリ。又父カ本ノ腹ニムスメアリ。今ノ腹ノ女(ムスメ)ハミメカタチ惡シク。父モコレヲモテナサス。本ノ腹ノムスメハミメカタチスクレタリケレハ父是ヲアナカチニモテナス。繼母此事ヲホイナク思テ。マヽ娘ヲウシナハントタバカリテ。海(マヽ)人語ラヒ云。海此曉來テ云ヘキ様ハ。此京ノヒ

メキミノ。此ホドヨナ〳〵我〔カ〕モトヘマシ〳〵ツルカ。ツリキヌヲ盗テオハシツルタ〔衍カ〕ヘ。トイヘト種々財寶ヲトラス。海人來テ約束ノコトナレハ。其云マヽニアカツキコハ高ニ云ケレハ。父コレヲ聞テハラヲ立テ行テ見ルニ。娘ヌレタル衣ヲ引カヅキタリ。ヨク子タリケルニマヽハヽノキセタルヲシラテ。父大キニイカツテ。ツキニ娘ヲウシナイケリ。又海人ヲモトラヘタリ。サテ夢ニ娘ノ來テサメ〳〵ナキテ。

ヌレ衣ノ袖ヨリツタフ泪コソ永キ世マテノナキ名成ケリ
ヌキキスル其タハカリノヌレ衣ハ永キ浮名ノ例ナリケリ

此歌ニ父ヲトロキテヨク〳〵人ニモ聞タリシニ。繼母カシハザヲシリテ。カノケイボヲモウシナイ。其身出家シテ松浦山ニスミシトナン。サレハヌレギヌノナキ名立ト歌ニモヨムナリ。

又云。末ノ松山コスト云事ハ。ムカシ男女ニアヒテ末ノ松山ヲサシテ。彼ノ山ニ波ノ越ヘシ時コソ。コノ人ニ思ヒカユルト思フヘキゾトイヘリ。然レハ男女トモニコトフルマイアルヲハ。末ノ松山ナミコユルトヨムナリ。

人語云。西行俊成ノモトヘ行ケルトキ。頃シモ秋ノスヘナリケルニ。庭前ノクチナシノ木ニ。葉紅葉スキテアルヲ西行トリテ。

ロナシニキハノアルコソフシキナレ

ト申タリケルニ。俊成ナントナク座ヲ立テ。前栽ノ殘菊ノ枝ヲヲリテ西行カヒサニ置テ。

キクノ花トテミヽモアラハヤ

西行シラケテニゲ出タリシトナン。カヽルコトモ其道ニ熟シタル卽時歟云々。

本奥ニ云　是モ亦アマノシハサノハカナサチ月ニ刈藻ノ影ニ殘シテ

于時寶永庚寅春書寫之。件本寛永午春トアリ所々後人追加アリ可考。

以宮内省圖書寮本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百六十一

雜部百十一

## 桂川地藏記上

蓋聞。地藏菩薩者釋尊摩頂之高弟。最勝同聞之上衆。忉利付囑之大士。娑婆遺勅之導師也。誠是誓願廣大。而慈悲甚深者哉。肆漸凝識根。則現四十九種之變身。而敎塵類遠迷雲焉。頓振神力。則破一百八箇之地獄。而使罪徒離苦海矣。是則無佛世界渡衆生。今世後世能引導之謂也。因玆致恭敬供養。而至心信樂之者。願望速疾成就之故云爾。爰應永二十三年 次丙申秋七月四日。當甲午之日。故平安城。今西宮之御緣日也。乃各若欲致終夜之參籠。南往北來游子。梯山如雲集焉。東山西海旅人。航海而水如交矣。凡當社午日禮奠者。御々供。御神樂。湯立。腹鼓以下。臨時相撲。法樂連歌等也。而后半夜灯前之讀經。瞻禮以後之敬信。群集之參籠衆於拜殿。互說古今之間眞俗之事。而語話未止。旣及曉天之時。自寵殿之傍而巫女一人出來。坐刷衣裳。謂庶人曰。余此夜半子刻計感靈夢矣。忽然之間有一客。甎無而示余曰。客天上之星宿也。爲人間濟度之故。於方里之間而自明日可出現。云了去矣。驚覺占之。七月四日甲午日子時夢。先甲

九午九子九。共三九二十七。幷十二宮算次。余之歳數四十七。已上八十六。目錄而勘見之者。宮算九尼金王也。司西方。余算五鬼士孝也。正非眞土而塊石類歟。破算亦九尼金司秋也。是知塊石類現于西方。從秋化可嶐象也。又指明日給七月五日也。仰勘二十八宿。七月五日當宿元宿也。元宿則本地地藏也。定明日可現于西方給。石體必可爲地藏菩薩化現歟。果翌日在桂川上。而一石地藏尊俄然而示現給。殆放光明而徧照世界焉。屢有神通而益現靈德矣。或以偈贊曰。

旻天桂水淸　　恠石放光明
度盡底何物　　六凡與四生

諷贊曰

救世誓堅石佛指桂川於光也

巫女又曰。曾承聞。天智天皇之初。昔富士麓有取竹翁。就于竹林中而儲赫奕妃了。彼上界之天女也。忝奉見今上皇帝之。而今　西岡邊有賣竹奴。行桂川上而獲石尊像了。此下界之地藏也。彼此靈驗不可勝計之者也。於昭明々堂々哉大士靈驗焉。煌々穆々哉薩埵之尊容。誠靈德奇瑞日新又日々新也。夫地藏菩薩堂者。在乎帝城之西南桂川所經也。旣夏花尊卑之倫。歸依者銷殃而致福。都邑貴賤之族。回向者去危而獲安。仍大車雷加而轟動而回轅。則小車籠共闐遶焉。官馬龍如飛騰而並轡。則騎馬客者相從矣。而稚子嬰兒爲風流。則老夫壯者致驚（警カ）固而舉囃。所詣物萬般也。

先有御所歸之役人。調出仕之儀式而詣高門。則朝夕覲庭上奏之。

次有賀茂祭之廷尉。刷路次之行裝而渡於大路。則行列集車中辨之。

或學地藏菩薩遊化六道。而衆生濟度之体相。

或學釋提桓因巡狩四州。而庶民撫育形。　或有居苗於地塲　壙之苗代之者。　或有千稻　於天喰

田之稻場之者。　或學上宮太子降伏守屋逆臣
之勢。　或學鎮府上將追伐安部貞任之勇。　或
有越王勾踐之諫臣范蠡。誅吳王夫差。名遂而
掉扁舟。帶五湖之雲而去。　或有唐帝玄宗之使
者方士。謁大眞王妃。宣旨奉命。而賜金釵淩三
島之渡而來。　或學漢李廣君之射虎。　或學源賴
政卿之射鵼。　或學漢楚爭。　或學源平之戰。
或有虞姬之閨中押數行之晴(暗カ)涙。　或有昭君之
馬上彈一面之琵琶。　或學老子出關。則應尹喜
之請。而彰道德五千餘言。　或學仲尼閑居時。對
曾子之問。而解孝經二十二章。　或學樊噲入鴻
門。而脫頂羽之勢。　或學張良望鳳闕。而諫漢王
之忠。　或有顯和泉牽船之力。　或有舊朝稻破
門之威。　或學那須與一之射扇。　或學新田四
郎之乘猪。　或學衞懿公愛鶴。　或學源成賴使
鷹。　或有役鬼人而筑紫上洛之勇夫。　或有變
山臥而奧州下向之廷尉。　或學夜響引牛車之

戀女。　或學礒廻盪鵜舟之桂男。　或有漁村垂
釣之漁客。　或有漁畔燒鹽之海人。　或有三十
三所順禮行者打簡。　或有六十六部回國之經
聖負笈。　或有入肆之布袋和尚。　或有渡江之
達磨大師。　或有學放下者。　或有學發露之者。
或有重利商人。賣茶於浮梁去。還忘潯陽之舊
婦兮。　或有沉狂山臥。傾傘於京師來。剩儲水
昌之新妻兮。　或有刈難波江葦之叟。　或有擔
伊勢濱荻之奴。　或有慕役優婆塞。而入于大嶺
之山臥。　或有尋大聖文殊。而臻于五臺之信
人。　或學瓢簞屢空。草滋顏淵之巷。　或學藜藿
深鎖。雨濕原憲之樞。　或淵明爲長壽。尋菊而
至南陽縣。　或實盛爲捨命。著錦而往北陸道。
或學花山法皇之那智籠。　或學建禮門院之大
原住。　或學香爐峯雪挑簾見。　或學遺愛寺鐘
欹枕聞。　或學周人伯叔互讓孤竹。入首陽山而
賢見于千古。　或學曾我兄弟共討工藤。行富士

野而名聞於十方。或有大原大道鬻薪女。或有小野小路賣炭翁。或學空也上人敲鉦鼓而唱念佛。或學自然居士之摺編木而說觀經。或學到淸水寺而掛三重瀧水之壯女。或學登大華山而弄十文藕花之大賓。或有高野出入之頭陀聖。或有江湖往來之行脚僧。亦學從漢土而勤官使奉稅。來本朝而詣闕下捧篚。或學萬歲樂。皇帝。團亂旋。喜春樂。鶯囀。蘇合。胡飮酒。泰平樂。甘州。賀殿。採桑老。散手。蘇莫者。還城樂。陵王等左舞。或學地久樂。新鳥蘇。古濱。退宿德。進走禿。胡德樂。狛桙。林謌。延喜樂。新靺鞨。貴德。蘇志摩。拔頭。納曾利等之右舞。

一。凡吉野山之花白波。龍田川之筏紅葉。明石浦之朝霧。難波江之夕鹽。長柄之橋。富士之烟。世尊寺梅葉。鷲尾山花觀。筥崎宮松操。平等院柳絲。春日野之春日影。秋月鄉之秋月光。無物而不學兮。無人而不詣者也。誠是寰中塞外。人家民屋。在々所々。風流囃（禮記囃擾有末記。）物品々區不可勝計者也。彼風流所用之具。是等次第不同絹布類。

一。金羅。金紗。段金。金襴。耶鄲發絹。木綿。綿子。花綾。纐纈。段子。繻子。細古素紗。梅花平絹。蜀江錦。吳郡綾。靑繙羅。黃草布。花繙羅。顯紋。三法紗。小布衫。金裏幷銀錠。沉盡殊香。麝香臍。孔雀尾。鸚鵡盃。鴛被剔。紅剔金。堆朱。堆紅。堆漆。桂皮。桂漿。犀皮。靑漆。金絲。金絲花。九蓮枝。紅花。綠葉。香合盆。柁子印籠。食籠。骨吐肉指法物。此外魚腦。檉梚。象牙。引盃（反カ）。頗黎庖。瑠璃壺。珊瑚枕。琥珀盤。照臍鏡。凡魂香。滄溟九穴鮑。海岸六銖香。馬融之硯。薛稷之墨。蒙恬之筆。蔡倫之紙。明月珠。夜光珠。合浦珠。赤水珠。驪龍珠。玄鶴珠。昭王之玉。卞和之璧。水心劍。巨闕劍。子書劍。昆吾劍。漢皇劍。季札劍。

于將莫耶劒。班婕妤之扇。李夫人釵。香匙。火筋。臺琴。碁書。畫繪。金。寶。瑠璃。七寶。琉璃。胡銅。象眼。仙人銅。博陽山三具足。

一。鎧。腹卷。筒丸。腹當。袖。甲。涎懸。鍬形。鷹角。籠手。膸當。脇楯。脛楯。胴金。鎧者緋威。小櫻綴。卯花綴。縹威。黃皮絲。黃薄紅絲。淺黃絲。赤絲。赤皮。白綴。白綾絲。紺絲。黑皮。紫絲。紫皮。紫裙濃。白鹿皮綴。櫨匂。逆萠鵯威。取妻。取肩。取中裙。繩目綴等也。此外總角。袖緒。高級。表帶。金吐。差縄也。笠驗。小旗。大旗。

一。弓者重籐。節卷。眞弓。鏑籐。白木。赤漆。小節卷。腹眞弓。本重籐。塗籠籐。三人張。五人張。弭打弓。

一。箭者筋切府。妻白。中黑。白尾。糟毛。高鵯尾。鶴本。白鴈。鵯鳥羽。而作之。鉾矢。蟇目。鴈俣。征矢。中指。箙。胡籙。弦卷。弣。彇。尻籠。握。闕弦。笮。鈿。天鼠。礿。鏃者乘學。紀次。直海。甘露等作也。

一。馬者連錢葦毛。柑子栗毛。黃鴾毛。佐目。駮。糟毛。驄馬。背筋通。河原毛。髮白。雪踏。月額。眞鬥。伊郡多久佐里之本牧立名馬。有生得須彌定非幷彥間立。杣立。井立之馬。悉尾髮俺足駿長地拘强肢爪發多。而太逞。動進退任意。而甚有馬楔。無付甘。恰如穆王之八駿。誠似太宗之十驥。𧄍。雜色。舍人。御廐者等有之。

一。鞍具足者。唐鞍。吳鞍。大和鞍。水干鞍。伴野鞍。大伴鞍。白橋。黑漆。蒔繪。金具。金覆輪。豹。虎。野牛。海豽。水豹之鞔(ツクラヒ)鞍。轡。鞚。龓(オモヅラ)。鞮(チカラガハ)。鐙。鉸(フクロ)。韁(オモツラ)。鞶(オホナヒ)。鞅(ムナカヒ)。鞦(シリカハ)。緌(シタゲラ)。韉(ムチ)。鞭(カ・ミ)。鞢。鞦。褐。障泥。鞍抱。玉井轡。木塚沓。伊勢切付。播磨力皮。上總與那波鐙。兒玉與倉谷韆等也。

一。太刀者金銀圓作。鞆鞘。青具(貝カ)。蒔繪鞘。塗鞘。塗(衍カ)鞘。鋮作。七金八虫兵具鐶。鳥頸等。皆鑄物也。粢鍔。車鍔。練鍔。金鍔。金覆輪。鮫鞘。

一。刀者金銀。鞆鞘。髮搔。小刀。下緒。燧嚢。生歸。栗形。鯉口。呑入。鞆口。鐺。同金木鞆。樺卷。琴緒卷。世良田刀。聖鞆。

一。長刀者銀鞆。具（貝カ）鞘。目貫。石築。逆鍔口。皆金裝束等也。

一。長鉾者朱鐔。黑塗。銀裝束。實天九郎也。

一。上件一々之太刀。刀。長刀等之實者。以往鍛冶天國。神息藤戶。菊作。栗田口。藤林。藤次。林次。林三。國綱。國吉。三條小鍛冶宗近。來國俊。國光。又法師鍛冶定秀。雲秀。了戒。備前國長光。景光。三郎國宗。五郎守家。長船之一黨。備中國貞次。盛繼。葵作。伯耆國貞綱。築紫三家。田多鬼神。大夫行平。波平。谷山。石貫金剛兵衞。奧州舞房光長。鎌倉新藤五。彥四郎。五郎入道。九郎次郎。南都千手院。文珠四郎。一文字中次郎。尻懸當麻作也。後鳥羽院番鍛冶等。亦當世作者。信國國重。達摩有來。藤島出雲鍛冶等也。但此中有可及缺而濫朽實也。彼太刀。刀。目貫。金具之鑿（鏨カ）物者。日月星辰。天象地儀。風雲草木。鱗甲禽獸。山龍花虫之類也。載此書跋也。此時路次三行客爲見物止往。覆難辨夕日之傾焉。田頭之農夫爲風流忘工夫。不學時尅之移矣。總京桂間之棧敷。幷步行見物衆無量無邊。不可思議筭數。譬喩所不能及也。彼權屋買賣之食物少少記之。自餘載跋也。

一。道德興米。遁世粽。高野蕗。坐禪納豆。法論味噌。御形。佛座。

一。菓子者南嶺蒲桃。北溪甘麁（蔗カ）。河東紫鹽。嶺南丹橘。燉煌八子奈。青門五色瓜。大谷張公之梨。房陵朱仲之李。東王公之仙桂。西王母之神桃。南燕牛乳之椒。北趙雞心之棗。千名萬種。不可具論。

一。酒者下若村張騫葡萄酒。菩提山洞庭春花酒。塔尾之梨花竹葉酒。宮腰之桑落菊花酒。柳

屋之觀伯九夏酒。杜江之儀狄三冬酒。
一。茶具足者南蠻銅瓶。胡銅風爐。建盞。天目。槿花盆。菱花臺。官窰油滴。羽盞。饒州容變花椀。茶壺。磨茶坏。茶箋。茶柄杓。樞茶茶杓。眞壺洞香。淸香納於深瀨逆園。外畑藤淵小畠捴山茶。宇治森澤。及上葉之茶。又香香登信樂瀨戸壺。入於伊賀。大和。松本。粟津之不前簸屑等。
一。屏風繪者。
竹林七賢。阮籍。嵆康。劉伶。阮咸。向秀。山濤。王戎。
商山四皓。東園公蘇晋。角星里先生李白。夏黄公張旭。李里期焦遂。
飲中八仙。賀知章。如陽。蘇晋。李白。左相。宗之。張旭。焦遂。
瀟湘八景。
九眞之麟。漢書曰。宣帝詔曰。、、、獻奇獸。麟色牛角ナリ。
大宛之馬。又武記曰。師將軍廣利斬大蜿王首。得汗血馬。
黄文之犀。又曰。黄文自三萬里眞犀云々。
條枝之鳥。又曰。條枝國臨西海大鳥卵如甕。

鳥宿池中樹。僧敲月下門。鶯歌聞大掖。鳳吹繞瀛州。繡戸香風暖。紗窓曙色新。夢裏君王近。宮中阿漢高。雲藏神女館。雨到楚王宮。千年丹頂鶴。萬歳綠毛龜。掬水月在手。弄花香滿衣。春潮帶雨晚來急。野渡無人舟自横。蝴蝶夢中家萬里。杜鵑枝上月三更。簾捲青山巫峽曉。烟開碧樹渚宮秋。長樂鐘聲花外盡。龍池柳色雨中深。壺中天地乾坤外。夢裏身名旦暮間。潼關百萬之軍兵。中宮三千之侍女。樹隔五陵秋色早。水連三晋夕陽多。東山樹色蓮花頂。北野梅花映白河。都府樓纔看瓦色。觀音寺只聽鐘聲。胡角一聲霜後夢。漢宮萬里月前腸。夕殿螢飛思悄然。秋燈挑盡不能眠。晝棟朝飛南浦雲。珠簾暮捲西山雨。遲々鐘樓初長夜。耿々星河欲曙天。不明不暗朧々月。不暖不寒漫々風。
文集嘉陵春月詩之句
一。漢高三尺之劔。坐制諸侯。張良一卷之書。

立處登師傅。上句々意無一不描者也。

一。漢家本朝近來之畫圖。繪色紙屏風。此道風之經手。金岡之靈筆少々有之。

一。繪本尊者

和尙達摩。思恭釋迦。東坡之竹。甫之梅。日觀之葡萄。月山之馬形。月湖之觀音。君宅之樓閣。王摩詰之水。氷岸鷹芳汝牛。用田之栗鼠。蘿窓之驢(盧歟)雁。文與可之竹。李堯夫之羅漢。吳道士之觀音。馬遠之花鳥。夏圭之山水。論法師之阿彌陀。超昌子之花枝。印陀羅之布袋。玉澗子之山水。王元章之梅花。高然輝之山水。門無關之達摩。胡直夫之禪會。李安虫之田獵。陳世英之觀音。子郎之百馬。陸淸之山水。周丹士之十六羅漢。子昭之山水。業公之龍。仲忠之十三。禪月之十六羅漢。啞子之觀音。大玄之飛龍。趙子昂馬形。圓須平之山水。舜擧之花鳥。雪菍之花蘭。顏輝之仙人。月舟之觀音。芳叔之牛。所翁之龍。可山之觀音。牽翁之布袋。馬麟之人形。韓幹之青草馬。戴嵩之綠楊牛。太白之巨爐瀑。和淸之孤山梅。列子之御風。琴高之乘鯉。許由之洗耳。巢父之牽牛。白樂吾友之竹。秦皇太夫之松。

一。懸字者

仁宗皇帝。牧溪和尙。王羲之。虞世南。趙子昂。張郎之。黃魯直。蘇子瞻。張旭。歐陽。一山國師。西澗禪師。

一。亦於路頭見物衆之場。年齡漸不惑餘之桑門。長高色黧黑。面靦顏面。鼻皺歷瘍。形頑心嚚。而少頃甚訛兮。著唐布入袺帷與薄裋袢强炮(袍カ)衣。以柹團扇。麁煎物賣。高聲喚寄。泥顏而問曰。汝所調煎物者。其藥種何々耶。彼煎物賣返返餘爲不祥云々。而敢不得意乍思答曰。藥種摠雖萬端。今少々言之。先

一。天南星。地骨皮。檳榔子。高良香。人參。鬼

箭。甘草。苦辛。丁子。貝母。山梔子。紫胡。桂心。玄參。黄老(耆カ)。川大黄。金牙銅鼻。龍腦。虎膽。五味子。陳皮。川芎。鶴虱。烏頭。三稜根。白朮。黄連。白焚(礬カ)。紫檀。赤芍藥。胡椒。茯神。檳益智。青木香。白芷。栝樓。烏梅。龍齒。虵床子。杏仁。鹿茸。鱉甲。石斛。雞舌香。前胡。阿魏。澤瀉。防風。赤銅屑。白石脂。蜜陀僧。訶梨勒等也。

一。彼桑門重問曰。自餘藥且置訶梨勒。更細々不用。何用之乎。賣者益(答カ)曰。夫訶子具六味。故爲藥中之王。自餘藥種纔具一味二三四五味。故可謂臣藥而已。桑門曰。汝所言之藥種雖種々。正令推察之。不可過三四種。然則何有用耶。賣者答曰。萬病一藥也。夫古有賣藥翁者以一藥與萬人。無二病トシテ不レ愈ルハ。若然何因藥種之多少耶。猛將以滅敵爲勝。良藥以愈病爲驗矣。

一。我竊窺良醫。藥性之根源。夫百藥從神農起。嘗百草一日遇七十毒。作赭鞭鈎製。而以隨方。陰陽與大一草木石肉毛羽萬種千類。以彼鞭打悉。其主治答於五味溫冷。是皆雷公註置療治驗不虛。白字藥用驗多焉。勝元發申之本經藥。殊可用哉。一種當一歲數三百六十五種也。是神農本經也。爾後經三千七百年。齊時陶隱居又加三百六十五種。其後唐高宗顯慶二年丁巳歲。蘇敬等副一十五種。新修本草二十一卷是也。同唐仁宗嘉祐二年丁酉歲。禹錫等副新補八十二。新定十七種。嘉祐補注本草二十三卷是也。宋太祖開寶之比。盧多遜一百三十寸種。開寶本草二十一卷是也。同宋徽宗大觀二年。艾晟以前代々本草藥種加副載。新舊之藥一千六百七十六種。證類本草三十二卷是也。代々本草藥種如斯云々。但某曾未知寸口關上尺上中下三部。各浮沈中。畢竟九候之脉所者更不得診。七表之浮芤滑實弦緊洪。八裏之微沉緩濇遲伏濡弱。九道之長促短虛結牢動細代。已上二十四脉之度數。只隨春夏

土用秋冬之當季。而因陰陽之浮沈。任五行之增減。而付干肝心脾肺腎之五臟。同膽腑小腸胃腑大腸膀胱三焦等之六脉。而勘藥種之寒溫平之藥性。而如形廻思案之了簡。每朝調味仕御煎物聞食。不可爲御隨意云々。其時桑門餘無面目而。捨笠著物携揥團扇許。顚而如電光去。見之者啞々然。低頭而笑矣。既都鄙遠近噺手之倫。與老若群集警固之衆。何若以衣裳偏愛荏苒而相輕。調謔端仰因循一心。而諸共按合。若相交。我不劣或彈於蜀郡之鶴瑟兮。或吹於秦樓之鳳管兮。簫。笛。琴。箜篌。琵琶。鐃。銅鈸。合調拍子而擊小鼓諄々兮。擊太鼓百々。若調宮商角徵羽之盛聲。而爲入耳之娛兮。互錯靑黃赤白黑之麗色。而悅目之翫兮。各自摺編木。振手棒掉頭敲胸。數々勇叫喚響訇。而唱地藏名號。自狂雞三更唱曉之頃而至病鵲夜半驚人之時。更無斷絕。稍如春蛙夏蜩。更嘈蜩。雜經曰。若人散亂。心入於塔廟中。一稱南無佛。皆已成佛道云云。矧於至心稱名之人耶。各爲結緣法樂之故。野老村夫彈囃。則嬰兒稚子舞樂兮。乃是黃左彈。則嬰兒起舞之故歟。亦或時擊羯鼓者。若夫翁伯之子歟。然者母濁其身質也。既經營而出所張李之家。其衣裳著辨轉疑星兮。膚服紅羅飄纚。而綺組繽紛兮。著纐纈袴而著紆陶脚絆。著唐綾素襪兮。腰纏般。顏覆如楊貴妃。李夫人之面兮。表重靑褂於朱袙。而令折服之兮。露結寥々朝。先立羯鼓執二撥左右用。而左彳于右徘徊兮。蓬累飛楊跋扈。若遊日於天表似無依之洋々兮。重衣綵緻。而靑熒梟委袖飄零。溶々洋々。而極樂。樂云未成曲調先有情。低眉信手續々擊々了。而聲暫歇。此時無聲勝有聲。漁陽鞞鞁動地來。驚破霓裳羽衣曲。傳聞開元楊貴妃愛花。明皇擊羯鼓催杏上。曰不喚我作天公可乎。奇哉云云。亦愕胎日眩轉兮。彷徨而重擊羯鼓兩三聲。

如聞仙藥(樂カ)耳。暫明洋々乎盈耳之哉。誰三月不忘
宍味耶。不圖爲樂至於斯矣。彼風流之興言之不
足。故嗟歎之踏之也。將夫或老母曰。頂何時因
此地藏菩薩訪風流 尊卑庶人云。集而永將狀不
分勝古刺史儀也。然尋彼里名諸人。答曰。古光
和語會五源氏詞法花音儀
大將之雨夜考選。漸々在以來。明石 上島 隱行
源氏
船。難波方住吉詣後久住抑給。桂里者。此夕顏
宿。月雲隱無樣 調葉及樣々 語侍。眞聞之目出
度矣。猶從其尙者。伊登內親王住家。此桂里。在
原業平母御母 柏原天皇之皇女。阿保親王之夫
已上四字伊勢物語
人。威德內親王。是抑靡懇語侍。假借閑熟覩焉。
或男或女或風流女學大丈夫互袖打通戲遊狀眞
神代　日本紀
成空甚强面浮浪哉。皆悉生憎不知。外目低頭。
遊仙窟　杜詩　日本紀　萬十六　日本紀
訃會此光儀化耶見物之 貴賤共震懼觀哉。彼見
物之人流若箇哉。亦有覽兮。 或橫陳有待者。 或
遊仙窟
遷延。或向來有騷合者。或薄媚有拂人者。 或有

遊仙　遊仙窟
摘人者。或有齡人者。有劣人者。勢者。有靈者。
有躟者。有摩人之頂。有顚。有攊人者。有損人
古語拾遺　其四十三天台釋
者。既從七月初日之比而。向南山之空暗陰而。
暴雨閒烈降閒。桂川漲流而。優嚴榮花貴。天生
麗質自難弃。廻眸一笑百媚生。而幽玄渡生女房
達。花容婀娜。玉體逶迤而相亂。方便靑女房達。
泣淚衣柔爲服而。深沉露狀混無關。心難忍而。
戀水與 雨共絞袖狀。蒼茫兮何雨。今日計 不忍
萬九　杜詩
乎。初歡引返而。今更不可取捨。無爲方便 又出
日本紀神代一
顯之佗言。不分腸也。流草難捨。生身者雨少龍
萬又文集　朗詠
間。亦恐爲瀟湘夜而。還迷原憲樞。若自脫衣露
髮。亘脇腰高迁而。泥足袒肩而。人目不織結。强
襤褸形苟不有而。淊漾所々者。此辻堂神府道祖
小神也日本紀
神。彼樹下橋緣夜行屋木体多集。悶而悲吟噇狀
者。如孟子言額有此睨而不視夫泚也。非爲人。
伊勢物語
此中心達於面目者也。彼面睟而心安忍。貪生甚

倫徒纏身於綾羅錦綉。面施白粉朱鉛兮。紅顔雜(綠カ)緣黛而。素齒付黑漥兮。別様化人費萬錢。(蒙萬ノ上)嗚呼老身無生驗無因之命流經。見彼等無狀惜者也。然質形有好。心肝腰而戲不知人誘呼而。聞白地誓言。誠愚人淸行未不知身。而衆語始終言瑞。(日本紀仲哀卷)樂連枝比翼之契。羨偕老同穴之睡。而應答擧新暗疎者也。各鬩喁々姦相語亦愚也。這莫久代傳(古語拾遺)亦然神業。未聞盛 御代之様。難有御事共可愛哉。

# 桂川地藏記下

同應永丙申七月中旬之比。參詣于桂(川脫カ)地藏之時。於西七條松尾御旅所。北野伏拜之邊而 有奇異老翁。著立烏帽子。爲白張裝束而携鳩杖。獨言耳。夫轉輪王出世。則輪寶現。先陀到而千子園遶焉。亦聖賢主踐祚。則賢主仕。鳳鳥來而萬民謳歌矣。其地守正則合浦珠還也。今如是靈像出現。誠有所以哉。

一。夫當大厦。高祖之御代者。式觀元始眇覿玄風道光九野。而治普天之下焉。德被八埏而化率土之濱矣。剩御善政世務之餘暇者。新卜白善地而爲靈場焉。鮮布紫磨金而建梵宇給。乃安十萬體地藏尊而爲本尊。屈一千指之比丘衆而爲淸衆。本尊常居等持王三昧臺。淸衆鎭修解脫門大禪定。加之御自筆自贊畫像之地藏薩埵。每日課案無御闕怠之故。天長地久海晏河淸者也。因之金枝玉葉嗣世振威風。於閻浮十方界齊壽域。於須彌百億山正謂如。周易曰。積善之家必有餘慶矣。既大厦有御信敬。於薩埵則薩埵彌守護於大厦給。併天下太平武運綿延。而崇禮官考文章。溫故知新。興廢繼絶。潤色鳴業。可謂至德也。已

矣歌讃曰。

久方ノ月ノ桂ノ石佛賢クモ守ル君カ御代哉

云畢去。不知誰人之耶。巫女曰。此地藏菩薩。一天之歸依。四海之尊崇。陽々哉。巍々哉。惟何日何時給乎。汝達若述其懷耶。彼席五行子。字訓子。月令子。三士之倫侍光。五行子曰。吾倩念薩埵之靈驗。至于當年十一月中而化緣當治給也。次字訓子曰。按彼尊像。從當年七月五日而相當于七月十一日之比奇瑞須盡給也。又月令子曰。竊勘之。自當年丙申歳七月五日。至于明年丁酉五月下旬之比而。宜善盡而如元藏給也。巫女重問。其旨趣如何乎。五行子答曰。桂地藏者桂則月也。地則土。土員五也。藏則治也。以是五月雨當化權收給也。巫女又問。地土一體之謂聞之。桂字月之意何乎。五行子答曰。桂月之體也。杜詩曰。斫却月中桂。清光應更多。李嶠曰。桂生三五夕。古德曰。桂輪孤朗於碧天云々。皆是桂月之證文也。巫女問。字訓子云々。答曰。驗過桂地藏三字之體。桂字木篇十八作。圭字十一十一。地字除作之也字。土篇十一。藏字取艸甲則二十。畢竟七十一也。亦被除艸甲所餘之臧字玆郎切善也。因玆七十一日而可善盡化戢給也。但於彼日限之間。付地下之奴婢而必可相爭者也。巫女請益。字訓子又曰。古人曰。臧獲奴婢云々。臧字善也。厚也。獲字爭取也。定境內奴婢。以私欲恣可有爭取之義歟。此時宰不制。必科歸已耳。巫女又曰。上七十一之義者暫置如何。是日字之意。字訓子答曰。經每日晨朝入諸定云々。故謂之七十一日也。巫女問。月令子云々。答曰。觀桂地藏之三字。其員七十一者。眼前之事也。但愚慮之至者。曾以七十二候三百六十日爲一年。今勘七十一者乃七十一候三百五十五日也。然自當年丙申年七月五日而至于明年丁酉歳五月下旬。而亦加一閏。宜相當三百五十五日也。彼時

節必當靈德休給也。吾暫按蜜敎之義。乾方在愛深爲善事。則巽方有荒神。必成障(碍カ)得給也。是故知。今般自京都於坤兌之地而。靈像出現給。爲顯臧故也。亦在艮震之天而。妖星見給爲示否故也。誠彼方可大愼者也。妖星則二星合也。夫妖不勝德。仁能却邪云々。隨而尤可被修天地灾變之祭者也。不然者於其方而必有否歟。語曰。君子不語恠力亂神云々。今是薩埵與妖星何曰恠。何曰神耶。恰以不可思議也。若兌地之靈像爲臧者。必震天妖星成否歟。以是自七月五日而於一百箇日之中。必當有大過。大過者有也。片臣動戈而必可犯上象也。

一。竊以從彼地藏字之所除遺也。臧二字詳勘見也。字亦也。臧字書片臣戈爿左字也。當作片字也。片臣者禮曰。天子一位。公一位。侯一位。伯一位。子男同一位。凡五等也。天子之制。地方千里。凡四等不能五十甲(里カ)不達於天子。附於諸侯曰附庸也。夫附庸則陪臣也。陪臣則自公臣。其地方臧。故曰陪臣。陪臣地方臧。故曰片臣也。又以諸侯曰國君。國君稱國謂之上也。于上所謂也片臣動戈。而必可犯上象。但遠聞震旦三皇五帝之後。三王初夏后相之臣羿(人名)僭上而。殺夏后相彼羿還爲巳家臣寒浞殺。亦魯季子家臣陽虎(人名)驕佹。滅季子。終以自滅矣。近見我朝。天神七代。地神五代。後人皇三十二世。用明天皇御宇。有守屋逆臣。而亂憲法。破佛法。滅王道。故爲上宮太子被降伏焉。爾來人皇九十六世。後醍醐天皇御時有平高時者。一類蘩蔓而。毀式目。自專朝議。懐如萬人之間。元弘三年之夏。爲源大相公被追討畢。今若於東方有犯上之片臣者。積惡果而如和漢惡逆之倫。則犯上以後於十旬之中。速疾可自滅之條。不可廻踵。可知指掌之者也。

後勘

一。應永二十三年丙申歲十月六日。於關東總

州管務上杉金吾好作亂。而來犯上之猥藉以外也。自七月五日妖星出現。而相當于一百ヶ日也。卽明年丁酉春閏正月十日。金吾一黨於鶴岡八幡宮之別當坊自殺畢。丙申歲十月六日。自金吾惡逆之日而相當于九十日也。夫人而無遠慮必有近憂。天作灾可遁。自作灾不可活。嗚呼不可不愼也。戒之出乎爾者及(返カ)乎爾者也。巫女又問曰。三子之倫。智辨回乾。文才轉坤。大弘儒教諦。屬釋門給也。隨而箇々名字言五行子。字訓子。月令子者何故乎。先五行子答曰。夫五行者木火土金水也。廼其位者亥卯未寅午戌巳酉丑申子辰也。未辰戌寅申巳亥也。其員者一六水。二七火。三八木。四九金。五土。已上四十五也。仍一德。二儀。三生。四殺。五鬼。六害。七陽。八難。九厄。及相尅。相生。相死囚。總五行。五季。五方。五色。五音。五根。五味。五臟。五體。五常。乃至五經。五字。幷乾。兌。離。震。巽。坎。艮。坤等三經一論之儀。隨分解脫。故號曰五行子也。次字訓子曰。夫子(字カ)訓者古逮乎伏羲氏之王。天下始畫八卦造書契。以代結繩之政。由是文籍生焉。周易曰。觀乎天文以察時之變。觀乎人文以化成天下矣。

一。爾來。犧文籍姫孔之書。與日月倶懸。與鬼神爭輿矣。是故文字則載道之器也。隨我終日弄六書八體之文。而遊无何之鄕焉。意夜諳四聲七韻之義而養浩然之氣矣。仍號子(字カ)訓子也。亦月令子曰。夫月令者先以三十日爲一月。以三月爲一季。乃春夏秋(冬脫カ)之四季。畢竟三四十二月。三百六十日也。但月有大小。乃大盡三十日小盡二十九日。堯典曰。朞三百有六旬有六日。以閏月定四時成歲云々。因茲三千(年カ)一閏。五年幷閏。七年三閏。十九一章云々。又以一年分五季。則春夏土用秋冬等。一季各七十二日。都合三百六十日也。廼以土圭而知晝之時。又隨斗柄而定夜之

刻。既從正月建寅。而至臘月丑。只勘十干。十二支。三辰。七星。九曜。十二宮神。二十八宿。二十四節。上弦。下弦。晦朔。晝夜十二時。孟仲季三十六禽。當于月建月將之時刻。而轉六壬之盤。而諦音帝。知時之吉凶。故云月令子者也。乃三子之倫共問巫女曰。巫者何之謂耶。巫女答曰。夫巫昔先以心身内外清淨。而自正顏色。斯近敬信矣。已出辭氣而。斯鄙倍矣。恭奉致天下太平御願圓滿之御祈禱矣。次應人々問來忘而。於我意工之中占之。故曰巫也。語曰人而無恒。不可以作巫修醫。又曰不占而已矣。是以我不占不正之人之事也。三子問答了。同席有難者。進出曰。我才智辨説難及三子之倫。但深有疑心。今爲懺悔演説之誠。釋尊付囑之地藏菩薩者可靈驗分明者也。今作石地藏。不審有甚奇特耶。亦有義者。答曰。天竺育王造立之塔婆。漢家眞人變化之黄石。我朝狗盧尊佛率都婆。日光山寺不動尊。出流下野國後野庄之觀音。岩船下野國之地藏寺。皆是靈驗奇特之石像也。今古雖異靈石是同。何疑乎。難者重曰。誇曰。指愚人曰木石何謂也。義者重答曰。草木國土悉皆成佛。文。爾時有行脚僧。判曰。難者之問。自心雖不欲之。爲釣他語之問頭也。義者答者。於心中雖不行之。爲止難問之答話也。二者三子之問答。底尋常六議分別之話頭也。凡諸佛菩薩之内證。善巧方便。恢々焉。晃々焉。廻出思議之表也。凡慮難及之境界也。抑我祖西來之大意。作麼生道。敎外別傳不立文字。直指人心。見性成佛。文。汝等諸人。徒向鬼窟裏論是論非。莫埋沒一生焉。光陰可惜。時不待人矣。古賢曰。若向今生不度此心。更向何生可度此心云々。若於祖宗門下無趣向。豈得一面目耶。這箇且置爲隨。宜説法爲摸爲樣。只要汝等諸人放下萬事。而偏歸依於地藏菩薩奉造立於尊像。而致禮拜恭敬供養者。所得之功德不可思議也。先對尊像可祈

一天太平武運長久之隆基。次當發二世悉地自他成就之願心也。方今當于應永丙申歲。自釋迦如來鶴林涅槃之夕。過二千三百六十五年焉。待彌勒菩薩龍華下生之朝五十六億七十萬歲矣。彼二佛中間者釋迦如來於忉利天宮。親付囑地藏菩薩衆生給。偈曰。末世現在未來天人衆。吾今慇懃付囑汝。以大神道方便度勿令隨在諸惡趣。仍爲六道能化之導師也。最惟可仰。可信之者哉。就中功德廣大無勝造像供養之德者也。夫造佛像之始者。增一阿含經曰。佛昇忉利。二王憶佛因成大患。大臣白王應當造供養。於是優塡王用栴檀彫佛像。此彫像之始也。波斯匿王聞之。乃用黃金鑄眞像。此鑄眞像之始也。內典錄云。漢明帝遣秦景。往月支國得優塡王彫像。尋至洛陽。勅圖聖相。即此土畫像之始也。又造像功德國曰。造像功德有十一種。一者世々眼目清淨。二者生處無惡。三者當生貴家。四者身如紫金色。五珍玩豐饒。六者生賢善家。七者生得爲王。八者作金輪王。九者生於梵天壽命一劫。十者不（墮カ）隨惡道。十一者後生還能敬重三寶。又曰。若人臨命終時。發言造像乃至大如棗蘱。（大麥也。）普廣。能除三世九十億劫之罪。地藏本願經曰。是地藏菩薩。於閻浮提有因緣。如文殊。普賢。彌勒等諸大開山。亦化百千身形。度於六道。其願尙有。畢竟是地藏菩薩敎化六道。一切衆生所發誓願。劫數如千百億恒河沙。世尊我觀未來及現在衆生。於所住處。於南方淸淨之地。以土石竹木作其合龍室。是中能塑畫乃至金銀銅鐵作地藏像。燒香供養瞻禮讃歎。是人居所卽得十種利益。何等爲十。一者土地豐樂。二者家宅永安。三者先亡生天。四者現在壽益。五者求遂意。六者無水火災。七者虛耗辟除。八者杜絕惡夢。九者出入神護。十者遇聖因金。口所說誠哉是言矣。然者敎主釋迦大師稱揚讃歎。而說三權一實之敎法。顯法華

之妙理焉。導師地藏薩埵者。哀愍隨順而化六道衆生。悟般若之勝因矣。難報敎主廣大齊(濟カ)度衆生之恩也。難謝導師悲願解脫群類之德也。善哉。薩埵之靈德。仰之彌高。鑽之彌堅。瞻(衍カ)之在前。忽焉在後。循々然能引導。迷徒者也。彼論談之砌。七十有餘老尼侍而對僧問曰。我年來奉信敬地藏菩薩。故今亦一七ケ日參籠言侍也。而我偏奉唱地藏菩薩尊號之處。自餘之參籠人者。或有唱南無阿彌陀佛。或有唱南無妙法蓮華經。或有唱南無大悲觀世音菩薩者。向其尊像而可奉唱其名號歟。存侍之處。加樣各何故耶。僧答曰。嗚呼欲問疑者。君子之所好也。但付種子三摩耶形之義。最有密義矣。夫中人以上可以語上。中人以下不可以語上也。卽今爲汝以尊形之義大綱說焉。大本朝南都興福寺。南圓堂。藤氏深秘之本尊者弘法大師御制作十二臂不空絹索觀音。寶冠則頂戴于立像地藏菩薩給。是則法相擁護之靈神。春日四所明神第三之御本地也。阿彌陀地藏卽同一體。故卽爲頂上佛也。其故。蓮華三昧經曰。地藏菩薩在天現三佛。日光地藏多寶佛。月光地藏釋迦如來。明星地藏無量壽佛。文。三光一體而三佛同體。摠體地藏菩薩也。明和地藏本來阿彌陀也。爰有少沙彌。問曰。蓮華三昧經未度經也。何以爲支證乎。僧答曰。夫於經度未度義。最難辨者也。所以者。何世尊拈花迦葉微笑。時有付囑文。卽大梵天王問佛法疑經之文也。然亦縣州三餘深秘之稱未度經。嗚呼旣王荆公之所知人焉。庶哉々々。亦於此蓮華三昧經中。有三世諸佛隨身之偈。一切衆生成佛之文也。所謂

歸命本覺心法身。　常住妙法心蓮臺。
本來具足三身德。　三十七尊住心城。
普門塵數諸三昧。　遠離因果法然具。
無邊德海本因滿。　還我頂禮心諸佛。

文。是也。不空三藏於四威儀之間誦之。仍作略釋而以秘之。次弘法大師引此經文。諸經之文。造隨求陀羅尼經之儀軌給。古來亘和漢兩朝。即成佛之人師不可稱計者也。若此經謂之未度。何因有如是等文乎。若既謂度何疑。予所引之文證耶。汝饒舌沙彌莫瞞老僧好矣。亦北嶺之說者。原夫南瞻部州大日本國秋津洲水穗中津國。名之曰扶桑國。爲葦原之始。爲國中而有天神七代地神五代之尊。彼天神七代之第一國常立尊。第二國狹槌尊。第三豐斟渟尊。此三代爲陽神。開始天地給。第四埿瓊尊。陽神。沙瓊尊。陰神。第(五脫カ)大戸道尊。陽神。大戸間邊尊。陰神。第六面垂尊。陽神。惶根尊。陰神。亦此三代雖有陽陰形。混合不知隱所也。第七伊弉諾尊。男神。伊弉冉尊。女神。此二神將合交未知其術。時有鶺鴒。飛來學混合之翔而始有遘合給也。次地神第一天照太神。一神伊弉諾伊弉冉。一尊所生之御子也。第二神正哉吾勝々速日天忍穗耳尊。男神。天照太神有田儲給子也。第三天津彥火々瓊(々)杵尊。忍穗耳尊御子也。第四彥火火出見尊。第五彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊。男神。所詮自天神七代而至地神第三代天津彥火々瓊瓊杵尊。而天地畢竟十代也。受十代之禪給。故言十禪之尊。今現圓宗擁護之尊神給。日吉社十禪師是也。御本地者地藏菩薩也。地藏則菩薩號也。阿彌陀則如來號也。謂菩薩則因位也。謂如來則果滿也。仍地藏則阿彌陀也。亦曰。阿彌陀則觀音。觀音則法華也。舊記曰。昔在靈山名法華。今在西方名阿彌陀。娑婆示現觀世音。三世利益同一體。文。其實皆一法也。凡諸佛菩薩者隨衆生願。現種々身。而爲說法。汝信地藏所願成就出離生死頓證菩提云々。老尼重問曰。自身出離且置我幼少之時早亡失父母而不知乳哺懷抱之思。成長之時爲五障三從女人之間。雖育我子未得報慈父悲母之恩。又老大之今。我家因先考先妣遂成等正覺給耶。梵網經曰。考順父母

師僧三寶。考順至道之法。孝名爲戒。亦名爲戒。(衍カ)亦名制止。文。世間所謂戒行門何耶。蓋孝行之道也。其故佛已說孝名爲戒。亦名制止給。最我等爲所生父母。竭其力致其孝。而當願彼菩提者也。但今彼尊靈等不知落在何處耶。僧答曰。有其謂矣。地藏本願經曰。或三歲五歲十歲已下亡失父母。及亡失兄弟姉妹。是人年既長大思憶父母及諸眷屬。不知落在何處。生何世界。生何天中。是人若雖(能)塑畫地藏菩薩戒像。乃至聞名一瞻一禮一日至七日。莫退初心。聞名見形瞻禮可奉供養。是人眷屬假因業故墮惡趣者計。當刧數承斯男女兄弟姉妹。塑畫地藏形像瞻禮功德。尋即解脫。又曰。一心瞻禮地藏形像。念其名字。滿於萬返。當得菩薩現無邊身具告是人眷屬生界云々。誠是則大慈大悲甚深廣大之薩埵也。即於發心門。成東方藥師瑠璃光如來。四面八臂降三世明王地藏尊忿怒形也。又於修行門。成南方寶生佛四面八臂軍陀利明王地藏尊忿怒形也。又於菩提門。成西方無量壽佛六面六臂六足大威德明王地藏尊忿怒形也。又於涅槃門。成北方天鼓雷音佛三面四臂金剛夜叉明王地藏尊忿怒形也。又地藏尊內證成中臺大日如來大磐石上。現迦樓焔。右取利智劍。左持金剛索。大聖不動明王地藏忿怒形。夫六地藏者蓮華三昧經曰。第一檀陀地藏導地獄道。第二寶珠地藏導餓鬼道第三寶印手地藏導畜生道。第四持地地藏導修羅道。第五除蓋障地藏導人道。第六日光地藏導天道云々。若有化方賊來刀兵刧起。則勝軍地藏頓現威神力。以弓矢摧滅怨敵。僧戌(戎カ)類襲來。還覆船失命乃神力之所致也。夫弓矢由來者。禮曰。男初生時。則使人執桑弧蓬矢。射天地四方。示其有事也云々。彼弓則扶桑之桑。矢則蓬萊之蓬也。最是我朝弓矢本國也。隨而忝因神明之擁護。君臣上下勢力勇猛。而以弓矢爲家業。恐於

閻浮界有誰亦敵。我國耶。是神明佛陀本跡雖異。不思議一之大日本國弓矢無双之靈地也。又現延命地藏。延衆生所願壽命給。今有西方淨土現阿彌陀如來。一切衆生臨命終時來迎引接。安置極樂。偏是地藏菩薩今世後世能引導廣大恩德。幸汝元來奉信敬地藏菩薩。專爲緣佛。即忘自讃毀化之念。而向不思善不思惡之處圓陀々地閒。不容變勇猛精進。一心不亂奉念地藏菩薩者。速畫此一報身。必當生極樂國决定無疑矣。以偈讃曰。

强喚石頭號石頭。　大悲心眼發靈光。

神通自在甚奇妙。　億々分身滿十分。

聞此偈。已一會緇素異口同音稱名讃嘆。信受奉行作禮而去。

弘治二年二月六日誌之。

右地藏記二卷以歌城主人所持之古寫本書寫一校畢

以內閣文庫本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百六十二

雜部百十二

## 鹿嶋問答

破邪顯正義目錄

第一。鹿嶋大明神緣起之事。付日本開闢之事。付遘合之事。付神前鳥居之事。付忌返矢之事。付旅始云鹿嶋立之事。
第二。鹿嶋大明神御本地之事。
第三。念佛行者可誡神明參詣義乎之事。
第四。念佛行者不可祈現世福樂之事。
第五。限往生一門何偏令欣慕乎之事。付卞和玉之事。

第六。於得悟人奇特有無之事。付融禪師座禪之時。百鳥供百味之事。付臍禪師座禪之時。諸天供華之事。付外道與佛子。依無生問答害佛子之事。付成覺房圓戒之至極奉問空師之事。
第七。於十方淨土中。西方最易行道之事。
第八。夢相國師以說教多少判難易二道之事。
第九。以聖德太子自二菩薩專可令安置乎之事。付宗有三義之事。
第十。以本迹高位聖德太子可仰本尊之事。付天照大神不見出家因緣之事。付應神天皇

八幡之垂迹之事。付空師先祖光公本地觀
音之事。付聖德太子誕應日本因緣之事。
第十一。念佛行者精進潔齋或重數遍云自力之
事。
第十二。念佛行儀有三種之事。
第十三。躍念佛行儀背文義之事。
付三衣之事。
第十四。日蓮法師指於念佛難無間業之事。
付信行禪師依破法之罪墮地獄之事。
第十五。夢想國師以淨土判屬小乘之事。
第十六。有相人者不知實體故不可往生乎之事。
第十七。明九品差別故可非一乘世界之事。

破邪顯正義上　　　沙門聖冏述

余髫年當初。偏心講肆留。五五歲末。專限其扉掛。自爾已來南北往還。東西偏歷。而只徒旋打行纏費スノミニシテ。猶未修洛浦笠子。云內云外迷助道方便。云禪云敎失出要徑路。適負葉落歸根次。參詣常州鹿嶋社頭。卽安居寺寄宿。一夜懇念致サント欲。於是向晚陰。時一人女參社。形最アテナレトモ。年スデニ老。華ヤカナルチハヤニ若女カシキ。ヒタチ帶殊不似合體覺。笑有樣哉見居。ハテハ浦浦タル音。千磬破神代ノシルシ是ヤコノト。高打詠。神前磨磨入。法施奉聞。打雜事無。但彌陀名號ノミシテ唱居。猶不相應所作哉見侍。其後暫有。一人翁參宮。其形最醜陋。其年亦朽邁也。煤色水干。破レカチナル立烏帽子。殊ケシカル樣トシテ見。是神前指入。金切タル音。稽首唯識性滿分淸淨者指擧カクニ。タカラカニシテ三十頌誦ジケレハ。姿不似事是不思議覺ケル。

[第一]垂迹夜深　間間。彼女人件翁問ケルハ。抑此御神天神地神。又皇御代始後宗廟カト申ケレハ。翁云。忝當社大明神申奉。是日本開闢神渡

ラセ給フ也。其レニ付テ。當社中樣。普通少違樣有也。未レ知ニ由來根元ヲ語聞奉云々。我不審ナレハ。此次テニ聞カント思ケレハ。打忍ツヽ拜殿傍ヘ寄リヌ。爾時女云。年比未審カリシハ只此事也。然ルヘクンハ。神明法樂爲備以語給ヘ。承ラント思ヒタマフト云ヘハ。翁云。夫終明事必其始察在。事濫觴ヲ知ラザレハ。殊ナル方ヘ聞玉フ事有ヌヘケレハ申侍ラン。抑此國天神七代。地神五代。人王百代也。先其天神者。第一國常立尊。第二國狹槌尊。第三豐斟淳尊。已上三代陽神也。第四埿土煮尊。第五大戸之道尊。第六面足尊。已上三代陽陰相並。未ニ其設一。第七伊弉諾尊。此御時女神伊弉冉尊。稻負鳥教依始テ遘合シ玉ヘリ。仍一女三男產玉フ。所謂日神。月神。蛭兒。素戔烏是也。是前伊弉諾尊。下界地ヲトメンカ爲ニ。二神天浮橋出議曰。豈此下國無ランヤトテ。則天瓊矛指下探玉フニ。

但青海原也。矛滴一嶋成殿馭盧嶋淡路是也。二神彼嶋下玉フ。國ノ柱ヲメクリ、姸哉與言ヲトメヲトコ行相。稻負鳥教依遘合シ玉ヘリ。仍產ニ大八洲國一。亦一女三男產玉フ。所謂日神。月神。蛭兒。素戔烏是也。サテコソハ。此國細鉾千垂國申ナリ。凡五畿七道皆彼玉鉾光指任タリケルトカヤ。サレトモ。天神御座下玉フ事無リケル中間。地祇等久此國領。八百萬邪神此國充滿。其時天神高皇產靈尊。以ニ御孫天津彥彥火瓊瓊杵尊一爲ニ此國君一下奉爲ニ。邪神ヲシヱタゲント思食。先遣ニ天照太神御子天穗日尊一。然此神大己貴神佞媚。三年成マテ不レ報。聞。仍其子大背飯三熊之大人遣。是又久須不レ報聞。故天國玉命御子天稚彥命召言ケルハ。汝天鹿兒弓ト天羽羽矢與。下界平時。天稚彥命下リ玉ヒタリケレトモ降伏不レ能。終國神大己貴尊ノ婿成。下照姬相具留玉ヒ了。八年成マテ不レ報

聞。又高皇產靈尊怪思食召無名鳥言。汝下界下天稚彥行方見參云々。時無名雉飛降。天稚彥宮前湯津杜居鳴事シキリナリ。神門鳥居名是緣也。是天探女命言。此鳥音鳴惡覺。是射玉ヘト。時天稚彥命則是射。其矢血塗天宮上。時高皇產靈尊言。此矢我子天稚彥與所矢也。名無鳥失ケルニヤトテ。其矢取玉ヒ咒言。下界我爲惡者有此矢返中ヘシトテ指下シ玉フ。則天稚彥肩胸崎立終。世人返矢忌緣也。是委事アレトモ神前憚有。サテ高皇產靈尊尙此國打取思食便召軻遇突智神四代御孫磐烈根御子武甕命。幷同磐筒男磐筒女御子經津主神（香取明神）言。汝天劒（鹿島明神）與。下界邪神ヲシエタケヨト云々。此時高皇產（靈脫カ）尊五代孫熯速日尊御子武甕槌命進出曰。豈只經津主神獨大夫我大夫非。其詞劇。仍經津主神副木。葦原中國平。是二神出雲國天降リマシテ。田中宮云處劒立。其上坐神會シ玉フ。今世劒御座云。祭當社アルハ是也。其時大己貴尊事代主命父子共此國奉。天靑柴指。海原底國沉玉ヒヌ。仍邪神悉伏。是則魔國神國成始也。尙東夷邪魔防爲。當國（常州）住玉ヘリ。サテ始八百萬神達國國神集爲。當社立故。何旅始鹿嶋立中也。但實說神嶋立。是ノミニアラス。釋穗垂槌維那師心氣莊ナント申詞。當社祭有事也。又動揻ヌケセヌト云事。當社アリ。凡我國萬語。萬業皆悉我此社頭出。其故此御神。日本開闢神御座故也。其後天津彥尊天降時。我此三處明神共一津速產靈尊四代孫市千靈命與居登魂神第四御子天津兒屋根尊御手代國政コトヲ司玉フ。但此神標玉フ事始。神武天皇元年云々。次神功皇后三年依東太神廟札云々。其後孝謙天皇御宇神護慶雲二年八月七日。白鹿乘大和國移玉フ。則御笠山鎭留奉。今春日大明神是也。

〔第二〕。女云。垂迹御事委以承了。抑神ハ本地顯喜玉フトコソ申傳侍リヌレ。然アラハ。當社明神。御本地何佛菩薩渡玉フヤラン。事次承思玉フト云ヘハ。翁云。機欲既異。聖應一非申タレハ。和光本意。但結縁者攝セン爲也。何一佛二菩薩滯ランヤ。サレハ昔萬卷上人當社參籠。本地御事祈玉ヒシカハ明神御夢想曰。

本地觀世音　常在補陀落　爲度衆生故　示現大明神

仍上人補陀落渡リ玉ヒテ。椎木三箇伐海水浮ヘ玉フ。其木此浦打寄。還玉ヒテ此取三尊觀音造玉フ。其内一體今神宮寺本尊十一面是也。又藥波山空淨聖人祈誓申サレシニハ。卽夢中告曰。

我ヲシレ釋迦牟尼佛ノ名ヲ出テサヤケキ月ノ夜ヲ照トハ

ト。聖人返歌云。

世ヲ憂ト思入ニシクロカトニナニユカシサニ立歸ルラン

ト。又明神御歌云。

皆人ヲ憐ム心フカケレハナヲクロカトニ返ルトワシレ

ト。仍空淨聖人釋迦堂造玉。今安居院是也。又有人大日告ケ玉ヒケレハ。大日堂作。又藥師示玉フトテ藥師佛造。根本寺是也。何本地號面面機應玉ヘリ。但萬卷上人御建立神宮寺本尊右脇少宮殿。中打付奉在之。上人搦草以來未開之。上人曰。此是正明神御本地也。佛菩薩得名。皆機宜應不可一准。然開之諸機利益背故。堅秘藏所也。不可開之。自釘以御戶打付ケ玉フ。仍今人見ルコト無シ。サレトモ昔ヨリ習傳知人少少在之。愚老重代社官故所知之也。御志切マシマセハ語申サン。（低聲）。此是阿彌陀三尊御座也。然則諸佛大悲集觀音號。諸聖大智束勢至爲。悲智不二本分名無量壽申ス。サレハ此三尊一不可混。如鷲鷺立雪。三不可別。如波浪轉海。彼一光三尊（善光寺）豈非此意耶。

〔第三〕。女云。本地御事承。殊以有難覺侍。其故ハ

自從童女昔至老嫗今。專歸西方。偏行念佛。サレトモ形神女借。住瑞籬ト。故朝巡夕拜更怠無。然了トハ云ヘトモ。今生祈所無。只以明神爲主君。後世憑處有一仰彌陀爲本尊。凡入堂社參出沒。公私唯念佛外他事無。然近年念佛者稱人中。宍賢。神明參詣事誡。經論中其理有乎。若又漢家本朝念佛知識中其誡有耶。次以承自已修行指南トモナシ。又同志同業龜鏡備ヘタク思侍ルト云ヘハ。

翁云。不知當社御事。我當道間。僶俛所存知少少申侍リツレ。佛法商客患官業スル處非。爭短舌動窄喉轉。其上圓通皇太子御言。無智男女佛法邪正判。此時及王法威輕。七難世起ラントノ玉ヘリ。然今時盛佛法淺深評判。擬欲男女貴賤。於聖道淨土不知其數。故其義勢頗他人失笑セラルル事多カルメリ。最可斟酌事也。然ト云ヘトモ。念佛修行人承。是同修業好有。既是彼此同心行人也。何心中殘奉。委申侍。大凡是末代濁世無智無行人等ニ。ソレホト誡メラレ嫌玉フ程神明御體。何トテ阿彌陀如來垂迹化現玉ハンヤ。長長事ナレトモ。一理法界根本萬法縱橫枝末至ルマテ委申侍。眉潛聞キ玉ヘ。先本覺明妙元淸淨體。人人本分實理。生佛不分極位中也。然四根二智萬像森宛緣時。可度衆生有見。仍衆生緣慈悲催サレテ。或淨土。或穢土。尋所被機根。現能化佛身。種種法說。箇箇悟得セシメ玉フ。是一重垂迹也。加之尙妙覺果滿高位辭。菩薩卑劣修行趣。或十地或三賢。衆生近付與物結緣シ玉フ。觀音正法明如來。文殊龍種王如來等。如是二重垂迹也。剩普現色身三昧力能難思普門示現應用無窮時。度生心無足期。故或權現。或明神。各各境應。面面機利。深生死忌。妙精進詣悅ヒ玉フ。是第三重垂迹也。サレハ若和光同塵。且結緣爲事ヲタニモ解

リナハ。强神明以正トセンヤ。若又內證智德。唯佛與佛境界、平等平等悟リナハ。本高迹下菩薩何必歸。但本佛歸スヘシ。若又大法洞朗人ナラハ。極佛內證何ニカセン。サレハトテ本分透得底人、何作意佛智嫌ハンヤ。方便門中最大切者、若佛因佛果解者。何强菩薩修行捨。其菩薩界常修常證、其意殊深。若菩薩等信輩。爭神明背奉ルヘキヤ、和光同塵結緣始。深重慈悲。殊難有乎。無智者物聞。片端計聞。片因入云此等也。サレハ光明大師勸念法門、天曹地府等歸依云ヘリ。又同師禮文、天龍八部等敬白釋シ玉ヘリ、但法事讚幷臨終要决等。鬼神歸事誡メ玉フハ。是實者鬼神嫌也。此則此間六算招魂等外法ナルヘシ。文言分明也。何大聖權化背給ト云ハンヤ、若摠權實共背給フト云ハ、自何天曹地府八部龍神等歸依敬白シ玉ハンヤ。加樣申セハトテ。念佛往生期人。强神明歸。淨水浴。行詣重幣帛捧クヘキニハ非ス、只是誠謙奉ラヌマテ也。其故神明本意。未知出離生死者。如幻如夢今生福樂祈ランカ爲ニスル其禮奠散供功力以。常住常樂後生菩提因トシ玉ハンカタメ也。今已出離生死志有、豈和光本意非。縱今和光同塵悲願有リカタキ事感、頗參詣事有。心中不可有祈請。神德莊嚴奉ランカ爲ナルヘシ。所以愚老重代社宦ナレトモ。念佛修行者ナル間。淨不淨非如尋常人。何時任心參詣也。

〔第四〕。女云。夫往生極樂、最後臨終時也、現世存程。今生福樂神明祈請、何失有ランヤト云フ人アリ、此事如何。

翁云。此事不可也。其故念佛門大綱、厭欣摠安心。三心別安心見。其厭欣者穢土厭。淨土欣心也。若厭云欣ハスンハ、纜解不撑如。若欣云厭ハズンハ、繫船撑如。纜解撑時。クルシキ海渡

リ。ススシキ道入ルベシ。若厭心切ナラハ。何今生福樂祈凝ラサン。若欣心眞アラハ。何後生引接疑懷。若心行具足眞實人ナラハ。不レ祈神明冥加隨逐シ玉フヘシ。是故北野天神御歌云。

心タニ誠ノ道ニカナイナハイノラストテモ神ハマモラン

其上五增上緣中現生護念增上緣有。追可レ尋レ之云々。

〔第五〕。女云。如來敎法無量也。何往生一門限。偏是欣慕スルヤト云人有レ此事如何。

翁云。如來敎法無量何。衆生根器異ナレハ也。一器一門依出離故。無量機無量門依得脫也。譬一目之羅得レ鳥不レ能。得レ鳥之羅唯是一目如。疑難ナスニ不レ足。就レ中上代利根人。難行道得益惟多。末代愚鈍人若易行道不レ入。恐幽途溺。故往生門所期也。然ト云ヘトモ。上代ナレハトテ一向利ナラス。末代ナレハトテ一向鈍ナラス。而末代ナレハトテ。聖道門修行。偏其得益不レ可レ有念佛者僻タル者也。故光明大師釋。種種法門皆解脫判。諸法門皆サトリヲ得ルトノ玉ヘリ。ナレトモ無過念佛往西方釋。念佛往生機得時當勝判シ玉ヘリ。昔卞和ト云人。於楚山麓一靈璞此奉文王。文王令レ磨。磨更無レ光。文王言。汝何哈朕耶。便剪一足。卞和知此璞寶。懷哭楚山。文王崩後武王卽位。卞和奉レ之。武王又琢カシムルニ如レ前無レ光。武王言。汝前哈我先君。今亦欺レ吾又切一足。卞和猶懷レ璞泣于楚山。武王崩後成王卽位。又奉此璞。卽琢得明珠。仍賜半國云々。此豈文武二帝德成王負。此等少分事也。多分上代利。末代鈍也。所謂世理亂人賢愚。觸レ目皆然。今隨多分。往生門爲レ宗也。

〔第六〕。女云。末代云トモ。諸宗得道少分可レ有旨。委以示賜了。然近年淨土學匠立人中。難行易行配立以。廣諸宗利益抑欲人有。殊禪門手

段難云。若內證實理叶。外用同時。然者如佛神通妙用施。衆生ヲシテ信取ラシメヨカシ。サレハ上代禪門祖師中奇特事諸錄多記置キタリ。今時禪侶。語得法如嚩。神通奇特佛祖師不及。爭悟明眞信。然則一向大悟發明云事不可有也云々。此事有其謂乎。

翁云。是亦世人常也。尤冷笑スヘキニ堪。是但習積宗。未大理窮明セサルカ致所也。可哀可哀。如此麁語無義語不可愛。語出我是修學功依法門知。論議堪思。恐是可云法悶。不可云法門。可云論僞。不可云論議。夫優婆捨者。於一味法水。且顯萬瀾差。假立賓主問答往復。終明深理。卽名論議。所謂如法相離有離無。三論不一不異佛華六相。圓融法華三諦。卽是等互相論。勝劣不改所解。共顯一理是也。然如今所言非佛法中論談。實是童男童女可謂事也。此云俗難也。昔外道佛子論議。外道無相冥諦爲宗。佛子當體無生爲義。外道云。汝卽今當體無生云。然者無生者不可有滅耶。如是卽今無生故。當體無滅也。外道手取劔云。若無生無滅。卽時證據云。卽觸殺佛子云々。此豈異汝所解。若爾者內證得無生無滅故。觸殺サルヘカラスト云フヘシヤ。又可言觸殺故不證得無生耶。此則禪門宗旨不知故。不能論所解淺深。如是生戲論長妄覺。上宮王云。然今學者論議不取其經論所詮實義。但取戲論雜言。是謂實義。或著名聞。或呑貪欲。專發瞋恚。鎭吐妄語。敢非智者類。皆是天魔伴黨云々。誠乎此言。先內證外用云事廣。大小乘互其義不同ナリト云ヘトモ。且依天台圓宗意。內證者性德也。外用者修德也。然則內證性德修德顯現時。始內外修性同時ナリト云ニハアラス。內證全外用。外用全內證也。故云全性起修全修在性。サレハトテ一切圓頓行人。皆神通妙用施サ

ズンハ。圓宗得道處事ナリト云フヘシヤ。彼小乘羅漢如。空飛地沒。火入水行。於十八變悉自在也。汝彼小聖圓人勝云フヘシヤ。若爾云者殊不知。小乘極果劣大乘初心。若又言劣小聖猶神通自在。勝圓人初心何不施妙用。故知是虛事者。彼小聖設經三生六十劫。不知色香中道義。然直達法界圓人。雖未成就羽翼。正果地如來絲毫無隔者哉。譬栴檀纔萌地。香秀群木。迦陵未出鷇聲押衆鳥如。豈是文字妄解以。圓頓實理疑。圓頓若有實。別傳何怪。何況彼西來宗旨。敢內證外用不立。何神通妙用論。云內證云外用。云神通。云妙用。悉是佛邊事也。祖宗事非。豈不見云。向上一路千聖不傳云々。夫立宗習。皆他宗所談如是許而得益邊至。猶自宗通人勝立學匠云義也。俗難若實義。佛法所詮修學何ニカセン。只世間假名戲論習フヘシ。然則若彼宗意神通妙用得以。悟道見

性云者此難尤有謂。若彼宗意大悟大徹。奇特神變非云。此難頗圓底方蓋似。豈是戲論俗難非乎。次上代禪門祖師中奇特事多。近代西來宗匠於曾此事無。故知今時悟道見性云義虛事云事。殊以無其理。抑上代祖師中往入人有。直入人師有。其往入人於。別意樂以本業修德玄妙帶タルハ。如是奇特玄妙事在之。若於巧盡拙出底人者。亦無之。若直入師始末共直下無味漢不滯光影邊事。近代偏直入師多故。如此事無之。何疑之。例淨土宗師中。上代有智高德師多。是本業聖道門學知故也。近代但淨土一宗學者也。此本業無故也。然云上古先德如。四論涅槃等學惠無。他力往生事虛談也云フヘカラサルカ如。自本淨土得脫佛願他力故。智人愚者共無疑。禪門亦如是。自本見性悟道。不假方便故。神通直下同無疑乎。然往生但他力也。聖道門解行有亦可捨。何況本無。禪門亦

如此。見性但直下也。神通妙用有亦可捨。何況本無。若自他宗所詮トスル所ヲダニモ知リナハ。縦深理不知云フトモ。比量疑朦ヲハ可散者。サレハ昔日牛頭融禪師入山座禪。百鳥啣華落碧岩前供養。後四祖見法得後。百鳥不來。也華不落也。又雲居膺禪師洞山傍庵。諸天來以百味供養。後本禪師諭サレテヨリ後。諸天不來也。供養不展也。如此等之事不可勝計。又傳錄中奇特事載セタルハ。强此規模トスルニ非。但是一師始終擧爲也。乃至持戒不律嗜酒食肉講敎修定等載スルモ亦復如是。見性悟道事。神通奇特持律兼行等預ラサル事知ラシメンカ爲也。然汝等其一片取難致。殊是理性通未タシキノミニ非。智眼明亦闕爲也。若是志堅固人ナラハ。雖不知不可疑乎。又直入師中於。用心味劣人。彼宗底失人可有之。所謂纔座禪云名字聞。卽意根下向度量念止想亡時。內

外淡怕也。此時於淨相了然佛境現前。盡空法界不可說。不可說此淨覺心。體一不離也。學人不了。此中頓在奇異瑞相現也。所謂或闇夜明相現。或明室靈光備。眼目光發。或鼻孔香聞。或見諸佛。或感諸天等也。此可云佛境。不可云禪道。又或聞云放捨諸緣。事事天然任運得意倒臥横眠任心自在計故。心甚縱逸也。所以五神位亂狂亂發者多。是可云魔道。不可云宗門。幷是用心朦昧喘息不調也。如此等一一對治心委如瑩山禪師座禪記。此外或一念不生云聞。一陰一陽霧咽。生佛以前云事聞。混沌未分闇迷。加之神我折空唯識眞如圓融相。卽無礙卽佛等種種觀念落在飜打事不著併。是心路不絕之所致也。云一著不到處萬般用心眞者此等也。其上神境通者。上界依地發得處一分一寸等念想運心觀也。而內道外道若大若小共修之。各隨分其通力得也。然則息慮凝心運思念

想定禪門所談ニアラス。然上古祖師中。彼定兼修頗奇特玄妙顯。向上宗規助發。又上代祖師中云滯心路一線縷。堅是嫌玉ヘル事有。然見性悟道何神通妙用施ササランヤト云ヘル。豈是彼宗意ナランヤ。譬異門鑰以。異門開カントシテ其門不開毀ランカ如。豈亦當乎。上士一決一切了。中下多聞多不信云々。誠乎此言。余近年奥州下有。然或淨教學處寄宿。彼主人云。我諸方偏參。禪門亦無疑。所謂眞如法性離言談故云々。余其說迂。嫌而以難無對牛彈琴事惜故也。既云教外別傳。何以經論詮明深理推向上一關玄路。其智惠未通于神。更以無疑。昔大唐大智德僧。廣諸宗源底達。便曰。我講賢首天台唯識三宗。卽會之歸一趣云々。仍天下衲子雲集。時禪者座末居。問曰。賢首高祖爲誰。答曰。杜順禪師是。禪者云。杜順有法身頌曰。

和州牛喫稻　益州馬腹脹　天下求醫人　炙猪左膊上

是唯識天台兩宗何會。彼答不得。禪者云。何不行脚去云々。便破講偏參。後智解逸群道眼洞朗也。惠明禪師是也。杜順既有法身向上神守。惠明亦在英傑參透志氣。今時學者若忘情知耻。偏教隻禪過アランカシ。豈不見云若欲學解者。從凡至聖一切無礙學之。若要學行者。須依有緣要法。少用苦勞多得益也云々。然今以無才不學身。好高談闊論事故。如是戲論雜言吐。數穢淨土宗義。凡其悟不悟至。若是手眼具足人ナラハ。未跨門曉行履。未下口辨知音。擊石皂白閃電龍蛇。亦非分外事。設有千變萬化神用。而於其中。參與不參不可雜亂。設無五雙十箇伎倆。而於其中徹與不徹不可混同。若但事偏執諍論。無瞞自他手眼者。恐可罪業因緣乎。有心之者尤可謹事也。大凡論宗義源。起於彼小乘上座部大衆部幷

大乘護法宗清辨宗。及至于此南三北七與南都北嶺。各以所解淺深玄論半滿權實。未聞如是以俗難爲學解。此則時及澆季。人爲乾慧。何況不起于座。動威儀底。實可謂內證外用同時。枯木華開別迎春色者。亦非是神通遊戲底乎。雖然非如汝輩所云內證外用神通妙用也。又彼眞如離言說與向上一著子爾耶。何耶。如雲如泥義。是智者所知。非文外所及。今且周公云。一陰一陽之謂道。陰陽不測之謂神已上。神者何。妙之稱也。妙萬物而爲言。寂然不動。感而遂通天下故也。夫有必始於無。且今天地萬物昭昭然皆在空中。人人具見。是爲有也。此有從無而生。此無始不可原極。謂之無極。無極太極。大極動則生陽。動極而靜。靜則生陰。靜極復動。一動一靜互爲其根。分陰分陽兩義之立。焉然後轉展變化。皆由二氣交感化生萬物人畜品類。此則以道能包陰陽。非唯能包。

嘗謂充塞萬類。而豈唯陰陽云道而已哉。道也者何。無之稱也。無不通也。無不由。猶如虛空無所不破。是卽儒家大綱也。又老子曰。無名天地之始。有名萬物之母。有物混成。先天地生。常德不忒。復於無極已上。莊子曰。有物先天地無形本寂寥。能爲萬衆主不逐四時凋。夫道在大極先而不爲高。在大極下而不爲深。先天地生而不爲久。長於上古不爲老已上。此外顏子。曾子。程子。思子等言。其旨甚深。若爾者汝諸人當謂彼等異見與佛教詮則眞和如佛性虛空不動之理全同耶。其上五箇大乘皆以眞如法性爲極則。雖然豈無其所解不同乎。何況敎外則傳題目。寧以解知心有計之耶。但至如云智者見之謂之知。仁者見之謂之仁。亦非是汝等所云理云々。昔法然上人御時。成覺坊幸西申云。此圓戒諸法至極以禪トストノ玉ヘリ。若爾者禪門與此戒合否。上人決

言。此教內理法也。彼修心教外也。何以合。但得禪人此戒說。彌正理叶フヘシ。禪人說教教文隨禪。教人說禪。禪門隨教。凡眞言止觀以禪推スヘキニアラス。況法相三論。何況自餘小乘宗云々。聖覺法印擧此言讃上人云。更是教者言ニアラス。實繩短シテハ深泉至難。翅弱シテハ大虛翔無。智淺心拙クシテハ宗門達スルコトアランヤ。サレハ禪宗旨論セラレタル上人自筆書今在。末學疑莫云々。此兩師御言。今淨教學者。智解淺深詣以可量。然則今愚宦所解。上人御言以爲本。諸教其益不虛。但是機感純熟難有而已也。禪門其理甚深也。承當非無。只是無知人。敢神通等以非可疑。眞如等以非可齊。サレトモ末代濁世我等爲。緣因催所。淨業尤相應。難行易行自力他力論藏分明。故從教神通有無任他悟道淺深。但憑小因大果法。望凡聖齊入願。若非此人莫悟此事

云々。

〔第七〕。女云。易行門者。但信佛因緣以淨土生願スルヲ云。所謂十方淨土皆易行道修行也。何西方極樂局。是無下心狹事也云人。此事如何。

翁云。此尋念佛修行人不可問。一代教主釋迦牟尼如來可奉問事也。所以者。何一代聖教盛西方極樂事ヲノミ說キ玉ヒタルコソ佛心狹又妙樂大師故以西方而爲一准同シ玉ヘルコソ尚心得難。摠方極樂宗心狹云人還心狹。一代聖教廣見玉ハサル故也。此事昔普廣菩薩云人釋迦牟尼佛問奉。佛答樣。娑婆世界人多貪濁信正者少。信邪者多。心亂志無。十方淨土實差別無。衆生專心コトンアラシメンカ爲。是故彼國土讃嘆ストノ玉ヘリ。玄忠大師置槽櫪牛牽如シトノ玉ヘリ。又南岳大師光明大師同佛果廣海差別無。未離我執時本願依釋シ玉ヘリ。然彌陀世尊光明名號以十方攝化。一形十念共

佛願力以。易往生得故。此一土歸。此一佛念。誰心狹云ハンヤ。加様申セハトテ。十方淨土易行道非スト云ニハアラス。同易行道中。西方極樂易行道。弘願別意。餘佛超ヘ玉ヘリ。サレハ十住毘婆娑論易行品。擧善德等十方十佛世自在王等一百餘佛已至阿彌陀章。慇懃讃嘆之。此事廣如論文云々。

〔第八〕。女云。近代禪門ノ名匠ノ中。夢想國師ニシテ難西方業曰。修念佛計。萬善萬行名難行道。徒事云フコソ僻事ナレ。其故見一代聖教。念佛者名難行道嫌所法。多念佛往生説コトハ。纔淨土三部經名ケタル經計也。如來無智加様徒事多説置玉フト云フヘシヤト云々。此事如何。

翁云。我昔此事記書見大驚笑今不休。先以多少相對狹量。佛法不足言次第ナレ。抑談大乘實惠時。無計小乘修行。然六百八十卷小乘經。四百四十一卷小乘律。六百九十五卷小乘論在之。佛菩薩賢聖等。無智加様徒事多説玉フト云ヘル大乘修行人可有之耶。又講圓頓一乘日。四十餘年説法。皆隨宜方便云。然二千八百八十三卷大乘經中。法華經纔八卷也。餘多爾前經也。五百五十五卷大乘論中。法華論號只一卷。其餘彼經意非。佛菩薩無智。如是枝葉等事多説キ玉フト云圓頓修行人可有之耶。可哀不得文大旨故。暗昧宗元由。縱念佛宗難爲ニコソ加様ニモモフスラメトモ。殊不知含血吐人其口先汚ルルコトヲ。痛哉誰佛道修行人恭以本師釋迦如來。假奉屬無智人乎。今此宗意。麁語申。一代佛教廣多ナレトモ。大分爲二。一聖道門。二淨土門也。初聖道門者不論大乘及小乘三乘幷一乘。期此土入聖道得果。摠名號聖道門。既是今時難證行故。亦名難行道也。依何難行道云ヘルトテ。纔徒事申ランヤ。次淨土門者當宗修行也。就之萬善萬行悉往生願。皆得

生スレトモ。十方淨土通因三乘人天通行ナルカ故云雜行也。雜者通義故而雜行云ヘハトテ。聽徒事不可得心也。次正行者純西方行也。正者純義ナルカ故。於此正行中即有其五種前三後一助業也。助者資義也。第四正定業也。是正彼佛本願行ナルカ故也。然則難易二道中捨難行歸易行。正雜二行中雜行爲劣正行爲勝。助正二業中助業傍。正業而此則本願正定業故也。然一代佛教有此二門意。サレハ華嚴二門說。乃至涅槃二行明。摠五十餘年三百餘會。在々處々皆說聖道淨土二門。雖然華嚴法華楞伽深密等諸大乘經。聖道爲表。淨土爲裏。故上根者以聖道門利之。下根者聖道門力度難叶者以淨土門益之。次隨願等經盛往生淨土一門說云ヘトモ。兼十方故。其義縱容也。今此三部經中。始自五濁惡世煩惱成就凡夫至十四佛國法性生身菩薩皆悉西方淨土往生說。純一淨土教不兼餘事故。云彌陀三部云淨土正依經。其餘華嚴法華等皆是淨土傍依經也。凡宗立習皆具三義。一獨尊義。謂如世無二佛國無二王。二歸趣。謂如星必拱北水定朝東。三統攝義。謂如曳綱綱者諸目舉。取裘頸諸毛動。取今此淨土宗裘襟雜行易行說所華嚴涅槃等諸毛動。何必狡念佛往生說事。纔淨土三部經名ケタル經計也云ハンヤ。云見一代聖教自稱言恐未在。

上卷終

## 破邪顯正義下

沙門聖冏述

〔第九〕。女云。當宗意。專修正行可捨雜行之由。經釋分明上。非可疑之處。然近比念佛者中。聖德太子以觀音勢至是正本安置輩少々在之。有其理耶。

翁云。此條殊以自他宗匠失笑所也。我見聞度

笑滿腮。而世人唇怒。呰胖コトヲ痛今舌頭轉スルコト無。先願往生人各隨其意樂。修萬善萬行廻向發願。悉往生得信。是一重就行立信也。然華嚴法華等所說修行。各彼宗行。彼宗觀也。其以機意樂橫廻向用時。往生業成云ヘトモ。所行法體通因故。直初彌陀意不係。係念不相續故䟽遠行也。正行者本極樂彌陀事故。初一念修行憶想不間斷。直親近行故。機意樂廻ラサ子トモ。任運係念相續行也。信是二重就行立信也。其正行者。一讀誦正行。二觀察正行。三禮拜正行。四稱名正行。五讃嘆供養正行也。於此五種中。第四口稱正定業親中之親。近中之近ナルカ故。十即十生。百即百生信。是第三重就行立信也。然四修作業中。於恭敬修下有五種恭敬中第二番。云敬有緣像敎。敎者彌陀經等也。像者彌陀變像也。故光明大師淨土變像畫三百餘幅ト云ヘリ。若廣造不能。但一佛二菩薩像作恭敬供養スヘシト見。其一佛者阿彌陀佛也。二菩薩者觀音勢至等也。然當世人見。悉淨土宗行人號シナカラ。觀音勢至等雜行云堅誡之。結句十人八九人。新堂建立。阿彌陀ヲサヘ背クマテコソ無ケレトモ。不本爲本尊。專以太子安置本尊。我是正中爲正專修正行人也云。豈是爾耶。可笑可笑。眼見東南心在西北。

〔第十〕。女云。今此太子中奉。是忝其垂迹訪。推古天皇儲君日本佛法開基也。十善高位誰不仰。其本地尋。彌陀覺王上足。極樂補處薩埵也。十地滿心誰歸セサラン。本迹共佛法深恩御座故。此ヲムネト安置奉。最其謂有覺。此事如何。

翁云。先垂迹王位タルヲ以。最本尊トセハ。伊勢太神宮是日本主始御座故。天照太神宮號。隨初此國降リ玉ヒシ時。此神佛法弘メ玉ハン事

地祇兼知見。中途追還奉。其時天照我佛法者
不見誓言シ玉ヒシ時。地祇念言。既佛法修行者
ヲタニモ不見言上。佛法ヲハヨモ弘メ玉ワシ
ト思。神璽與奉リヌ。サテ其後天照太神宮。先
日向國千崎峰下リ玉フ。次淡路國千光山渡リ
玉フ。後大和國宇多郡宮居シ玉フ。垂仁天皇二
十五年。伊勢國神路山麓遷リ給フ。內佛法守護
シ玉ヘトモ。昔約束不違。今出家人御覽セヌ
ナリ。カクハカリ忝誓言シ玉ヒテ。隱レツヽ佛
法守護シ玉フ。重恩云。又此國主云。又神明云。
旁以有難。代々帝乃至聖德太子ニテモ。皆彼御
子孫。佛法崇敬事。先祖思食シタル御本望ナ
レハ。流受源推。天照重恩也。サレハトテ堂作
本尊居奉。正行念佛義叶ヒテンヤ。是一。又人皇
十六代帝應神天皇號。即是八幡大菩薩御座。亦
是彌陀如來化現也。故念佛守護願殊深。垂迹王
位云。本地彌陀云。旁以重恩也。是亦堂立本尊

安置奉ランハ。是專修念佛行人ナランヤ。是二。
又法然上人中。是西三條右大臣光公後胤盛行
朝臣五代末孫也。件光卿是人皇五十四代帝仁
明天皇御後也。仁明天皇申奉。是梅宮大明神本
地觀音御座。垂迹王位云。本地觀音云。又高祖
上人御先祖云。旁以似可重。然堂造。彼像本
尊安置奉。正中爲正行人可云乎。是三。又彼人等
云。本地救世觀音御座。故專爲本尊云々。此事
尙難得意。既垂迹形像依本地觀音。是爲本
尊。然本地觀音專爲本尊不可嫌乎。然彼人
等觀音造。雜行云此誡メナカラ。太子造時。本
地救世觀音御座故。可爲本尊也云。既自語相
違。尤堪可笑。是四。若又觀音造雜行也。太子作
正行也可云乎。然者祖師先德定判有之乎。一
佛二菩薩正行云釋有。太子俗形本尊トスルヲ
專修正行釋文未見之。請出其證。是五。又太子我
朝誕應シ玉フ事。達磨大師敎也。所謂思其濫

觴彼衡山有思禪師。相看達磨大師。時云我七生間不去此山。雖行佛法。未明大法。願師令我開悟。達磨云。汝將心來。令汝開悟。思禪師於是廓然大悟。廼曰。此重恩者爲何可報。達磨云。大乘佛子無佛世弘通爲報師恩。汝欲報我恩。從此東方有日本國。大乘純熟境界也。汝彼受生流布佛法。我亦往彼助汝化導云云。是我朝佛法最初也。凡建四十六箇伽藍度一千三百僧尼。是依達磨敎誨也。若非大師爭得太子。爭得佛法。酌流尋源。在影覓梢。大師恩德。隨而師弟共是觀音應現。如華開萬樹。和漢同亦薩埵大悲似月浮千江。可謂一河兩流。可謂兩鏡一面。若亦可崇敬佛法濫觴達磨大師御影可安置本尊乎。豈是廢立爲正行人ナランヤ。六。是又不知彼人等思太子是念佛一宗祖師御座。設一宗祖師雖御座。佛殿奉安置彌陀三尊。或其傍安置。或各別影堂立可安置之。此則所宗本佛爲正。報恩謝德爲傍顯義也。何況太子一宗祖師非可申。廣弘通諸宗在家檀那御座。依彼衡山約諾弟子便生鵤皇子。師亦現片岡山飢人。爰知師弟本意。共弘禪法思食シケルニヤ。然而悲時節末。太子御誄飯飢テ臥セルトアルハ。無受法喜禪悅食機也。可憐恭無機根末熟故可憐無恭人也。仍大師則富小川不絶末寂滅シ玉ヒタル所以太子成諸宗外護檀那。サレハ說法明眼論廣學法相三論華嚴天台等諸宗事。皆其宗々言マヽニノ玉ヘリ。學禪門事。卽南天祖師示朕云。速欲出生死須慣根本一乘當知一乘正義佛心是也云ヘリ。故別被學師資相承而受口決言。サレトモ以佛事門前不捨法道理。廣興行諸宗中。讃嘆彌陀名號。何云一向念佛淨土眞宗祖師耶。凡夫奉申彼太子。是忝雖立東宮。爲忝弘佛法。無卽王位。自講

法華經摩勝鬘等三經。幷製義疏。直降伏守屋之邪見。守護如來之正法。惣是造寺起塔安佛度僧轉經念佛講敎修禪。併是太子外護恩力也。抑又佛法是初檀越也。若爾者爲報恩謝德。奉安置彌陀觀音等。傍奉勸請之。隨分供養。隨時恭敬。最可殊勝。若爲往生淨土。偏奉仕此君。卽是雜行也。尙不足爲助業。何況專修念佛行儀。是。倩案之。不明正雜二行配立。不辨助正二業分別。只是無智頑鈍之所致也。縱令近代念佛行人中。雖有奉讃。只是可知存報恩。此勵正業大僻見也。須放萬代勝。亦是止膠柱。

〔第十一〕。女云。近代念佛者中。或精進潔齋。或重數遍。同修業人中是名自力念佛。有穴賢嫌。此事如何。

翁云。大僻事也。先淸淨念佛通佛法大道也。有何失。誡之耶。本願文卽云至心十念。不云淨與不淨。何取不淨毀淸淨耶。又曰乃至十念。上人云乃至平生。十念臨終也。然從多至少願文也。若平生壽命長存人重數遍。最爲宗本意。何因毀之。此則聞云不論淨不淨。誡淸淨好不淨故也。聞云不擇一念多念。毀多念好懈怠故也。若淸淨數遍行言自力念佛者。宗家大師祖師上人行儀可云自力念佛耶。又觀念法門云。日別念一萬遍佛。亦須依時。禮讃淨土莊嚴事。大須精進。或得三萬六萬十萬。皆是上品上生人。已上。選擇集云。當知三萬已上是上品上生業。三萬已去是上品已下業。已上。是亦可云自力念佛耶。隨而上人示禪勝房法語云。聖道門修行。智惠極生死離。淨土門修行。愚癡還極樂生。罪十惡五逆生信小罪犯サシト思。行一念十念足知一形勵ムヘシト云ヘリ。汝諸仁能可思量。其上自力者難行道意。聖道門修行也。何淨土修行還云自力耶。

〔第十二〕。今此念佛三味以幾行儀勸之。以次

承恩。此事如何耶。

翁云。念佛行儀揔有三種。一尋常行儀。是不論淨不淨。不擇時處諸緣。心念彌陀口唱佛號。云行住坐念念不捨是也。二別時行儀是精進潔齋行也。別定日時故云別時也。小阿彌陀經七日念佛。大阿彌陀經十日行法是也。若有別意樂人一平生間用此行儀。殊本意也。故法事讃云。七日七夜心無間。長時起行倍皆然。已上。然念佛者中。多有嫌別時行儀者。彼云一日七日精進ナリト云ヘトモ。トテモ一生涯然ルヘキニモアラス。本佛願不捨不淨。何用暫時別行耶。若用別行即成捨不淨時念佛云々。是亦大僻事也。先一生涯不淨念佛修上暫時別行ナニカセント云。此事殊以愚癡也。抑汝諸仁一生涯垢穢ナレトモ。而何暫時好色欲也。一生涯麁食ナレトモ。而何暫時美食欲。悲哉於流轉色味中。雖暫時而深愛著之。於往生行儀中謂少時堅棄置之。又寄事於佛願不捨不淨。嫌清淨好不淨者。設雖行念佛亦不可往生。邪見一分故。又言用別行成捨不淨念佛事。殊以不思議也。抑光明大師惠心僧都等。不淨時念佛捨。此行儀立テ玉フト云ヘシヤ。殊不知。一入再入之紅隨染增色。千顆萬顆之珠因磨增光云事。三臨終行儀是無別行儀。用別時行儀委旨在觀念法門往生要集并臨終要決等。見彼等可得意云々。

〔第十三〕。女云。近代念佛行者中修躍念佛人在之。是何行儀。

翁云。大抵彼人中平生修尋常行儀也。定日時者別時行儀也。臨終修臨終行儀ナルヘシ。但見彼門人行持奇怪第一也。欲謂此沙門闕三衣一鉢形體。將謂此於白衣無夙參夕拜奉公。一等扣金擧聲不同振頭斜躍。金與足拍子調。面白聲與頭體裁笑輕忽。頗如江魚餌

渚。又似山猿拾梢。悲哉究竟一乘專作乞兒幻術。痛哉果號三字。偏成愚夫渡世。釋迦牟尼佛在大乘海會。普告衆人言。我滅度後五百歲復有愚人形作比丘。而無法衣。身爲沙門。而無學惠。擊銅鈸酒春野馬。及於此時。佛法頗滅沒。王法漸損減。已上。而無法衣者更誰人トカセン。夫三衣者。一安陀衣。此云道行衣。此即五條也。二欝多羅僧。此云受食衣。斯則七條也。三僧伽梨衣。此云轉法衣。是則九條也。已上廿五條至九品有。惣合名大衣。於此三中。五條一長一短也。從七條至十三條。二長一短也。十五條已後三長一短也。此外又有縵衣屈眴衣相傳。又梵僧祇支。此云覆腋衣。左合右開體裁也。然魏代於大內令梵僧安居。宮人見沙門右肩顯露事。而以爲不好。仍作覆肩衣。以覆右肩故。即具足兩袖。幷前三衣名爲五衣。又梵炎僧此云裙裳。衫裙本是二物。連綴上下名爲直綴。俱是如來之法衣也。然彼門人其形體不可思議也。或無兩袖。或沒裙裳。適具足袂袖。猶是大帷墨染計也。又名袈裟物殊以轉輕忽也。豈是沙門之法衣ナラン乎。故上宮王言。然吾滅度後及七百歲。或有異形裸形之僧尼。穢神社佛寺。滅如來正法。及此時王法威輕七難世起。已上。豈是非彼黨類乎。又言躍如春馬。專當彼門人。但言擊銅鈸。未知是何者。信之者輕正說念佛宗義者。言佛法頗滅沒無疑。敬之者亡方辨佛法邪正人。可王法漸損減。有誠。剃不喫酒肉。以思持戒。妄欺禪律之僧侶。不著絹綿。以稱行人。恣誑男女之檀越。無智男女不幸尼俗信之重之可謂傍者無人者歟。有遊行聖人送山居禪師。其和歌云。

ミネ照ス月ハ里ニモアルモノヲ何トテ人ノ山ニスムラン

返歌云。

チトリシテ里ニ穗ヒロウムラ雀鷲ノ峯ヲハイカテ知ヘキ

然若彼人等以經云踊躍大歡喜。釋云身心皆踊躍作出此行儀。是大僻見也。若如彼義言毎日千遍來住處踊躍歡喜無譬喩。彌陀如來騁躍リ玉フト可得意乎。然佛行住座臥皆住定。是云那伽定。若騁躍者輕忽至極ナルモノヲヤ凡踊躍歡喜言殊不局當宗經釋。廣在大小乘經論。而彼天竺二十餘部小乘有相無相大乘又大唐南三北七百家。我朝南都北嶺八宗何宗有如是行儀乎。就中擧淨土祖師異跡奇修。大宋高僧傳。續高僧傳。新修往生傳等未載一人如是行儀。此則文字ヲトルト讀故可躍得意愚癡甚也。只是踊躍歡喜者。身心共ハネヲトル計ニヨヨコフト云ヘル意也。然則不知其意學其言故作出此不思議。又有人不審躍念佛行儀。聖人歌云。

跳ハハネ踊ラハチトレハル駒ノノリノ道チハ知人ソシル

返歌云。

ハル駒ノ乗ノ道チモ知ラネハソ踊ル心ハヤマスアルラメ

余昔下石州住之。然有念佛道場七日別時行躍念佛。立寄聞之エモミエホウ〳〵ト唱ヘテ躍。作不思議思。能々聞ケハ。ハテハエモミエホウエホエホウエモミエホウト申面白躍。余其時耆老時衆其由問。彼答云。故聖人御時風奏法師時衆アリキ。彼加樣唱往生。故學之願往生也云々。余其時言語道斷事思。中々可々笑ヒケレハ。彼時衆世ニアハズゲニソ思侍ヘリケル。然則彼風奏時衆念佛。心南無阿彌陀佛トコソ唱ヘケレドモ。病依舌不端不好エモミヱホウトコソハ聞ヘタリケメ。其往生念佛エモミエホウト心得如此唱ケルコソ。愚癡之中大愚癡。邪見之中大邪見ナレ。此則如外道鷄狗等學成思天上業因至同也。豈得往生乎。但彼門人中若以不僞心。深信本願願求往生。無如是等諸邪見者。行儀設雖輕忽可得往

生。

〔第十四〕。女云。今已願行具足行人。不論淨不淨。不撰一念多念。往生佛土不可有疑由委以承了。然近代號佛法者輩中。難淨業曰。念佛行人地獄罪人。念佛卽是無間業因故云々。此事如何。

翁云。近代此邪義興輩。都鄙間少々在之。卽借名於法華宗。稱徒於日連義。先佛法修行者直押云地獄罪人。本願正定業卽亦曰無間業。此則恐天魔變作歟。亦此宜外道伴黨。若不爾者自障々他。何如此甚。言語道斷次第也。昔大唐有信行禪師。大智德僧。立三階法。判一代敎。卽破滅後衆生往生信。故成等活地獄肉山。信其化導之定衆生同墮彼獄食件肉山。今日連門徒亦應如此。若非地獄未來生處云何所所。既念佛行人被破無間因。失順次得脫。日連門徒依謗法業因招當來苦果。自門他門共惱害之。自宗他宗同毀損之。無智人中無說。此經經誡。非汝輩者。又曰誰矣。醍醐還殺人喩。最當彼門徒耳。先念佛往生者。卽是彌陀如來昔法藏比丘時。爲令一切衆生平等出離。故所發深重願也。故云超世本願。云無上大願。云別意弘願。然若如汝所云未審。法藏比丘一切衆生爲令墮地獄故。五劫思惟シ給フト可云耶。否。是豈爾乎。是一。次復如來一代佛敎。多在彌陀西方之事。若念佛是無間業因。如來大師何勸無間地獄因。是二。又十方恒沙諸佛。各證誠念佛往生義。是亦無間地獄業言衆生當信是誠實言乎。是三。又汝所修行法華。是釋迦大師所說也。多寶如來證誠也。今此念佛往生法。亦是釋迦大師所說也。十方如來證誠也。念佛若無間業者法華亦然。法華若出離因者。念佛亦然。同是一佛所說。他佛證誠。彼此無別。是四。摠西天二十四代四依付法藏東土百八十人三藏翻譯師

并漢家本朝正法傳持諸大德。皆悉造論譯經。製疏多勸念佛。此皆不知無間業。如是叮嚀勸之可云乎。五。何況如來敎法。其品無量也。此則所被機不同故也。所謂若有衆生。深厭自苦樂涅槃樂。爲如是人者。說生滅四諦。此云聲聞乘。復有衆生樂獨禪寂欲得涅槃。爲彼等者說因緣法。是云緣覺乘。若復佛子。深知入我有空之義。境亡心存。體達離有離無理。發起廣大菩提心。以利他爲本。觀察中道心。明地地增進。云大乘中道敎。亦名菩薩乘。并是三乘敎也。又有深智修行最上大乘之法。所謂一心無義二乘不共悟。三道隔境四果不入席。五性互具。六相圓融。七處事々無礙。八會理々圓通。九世平等十身一源。是云根本不共敎。又號佛華宗。或亦有修。十界常住九識圓備。八敎擇法。七喩調根。六即究竟五住頓斷。四智圓滿三乘開會。二諦無別一心本妙。是云萬善同歸敎。亦名法華宗。又有行門。一法句淸淨二報別非無。三心横竪四助勸正。五乘齊入。六凡同會。七樹傳德風。八池揚波水。九品引接無生生。十萬億刹一念念。是云別願不共敎。亦稱淨土宗。并皆佛乘也。亦是一乘敎也。然汝何法華一乘專信之。淨土一乘堅毀之。淨土云究竟一乘至于彼岸。法華何異。法華云卽往安樂世界阿彌陀佛。淨土何異。但三宗雖同一乘。所望不同互相勝劣。所謂佛華說法界勝。開會往生且劣也。法華說開會勝。往生法界且劣也。淨土說往生勝。法界開會且劣也。雖然共唯一佛乘法故。不期權方便果。同圓頓速疾敎故。不假久々長遠因。譬如一顆淨摩尼珠相映五色。隨方而現。愚人見之。是已所見非他所見。法本無異法。唯有一乘法。然則汝謗淨土者。卽謗法華也。我信淨土者卽信法華也。汝不信淨土卽不信法華。我不謗淨土卽不謗法華。

天台但專以彌陀爲法門主。智證云觀自在王如來密號宜哉。此言一向專念無量壽佛一佛外不念餘佛。但樂爲受持大乘經典一乘之外不受餘乘。既是一佛。亦是一乘。行者因何生迷惑乎。六。就中法體無差自力一乘約機根時。攝物尙不多。他力一乘會佛願故。得益亦不少。宜思量之乎。七。愚哉汝輩。但誦其文不知經旨。還如食木虫不知是非字。彼誡誦文之法師。尙勝汝之黨類乎。可愍々々。

〔第十五〕女云。既是圓頓佛乘教者。大乘窮極之法門也。然近代有禪門名匠(夢想國師)中。評念佛往生宗義。頗似判屬小乘。所謂彼義云。穢土外欣淨土。凡夫外求佛故。大乘云フヘキニアラス。淨穢凡聖差別存人。大乘題目ヲタニモ不知者也。此事如何。

翁云。我亦昔讀彼義時。至此段即嘆息。殊知。彼人不能偏覽夫小乘者或聲聞乘。或緣覺乘利鈍雖殊。身心都滅無餘涅槃以爲所期。或三生六十刧。或亦四生百刧遲速雖異。共不知三界外有淨土。不談釋迦外有他佛。凡教理行果有分有量。故云界內教也。次大乘者或菩薩乘。或一佛乘淺深雖殊。同無上大菩提以爲所期。或三祇百大刧。或一生入妙覺。漸頓雖異。皆知三界外有淨土。談教主外有他佛。俗諦恒沙法門無量無邊故。云界外教也。若爾者應謂三界外談淨土。凡夫外求佛故非可云小乘。存淨穢凡聖差別人。知大乘題目者也。是通大乘性相故。然彼義頗足怪。若夫將謂存淨穢凡聖差別人非禪門題目。如是題乎。爾者何直不云如然耶。是理不盡言也。大乘名言淺深不定。或權或實。通教通禪故。一。然後又見彼人之書。即轉計曰。非大乘云。聽小乘云思事不可然。上﨟云一人。其以下皆下﨟云フヘシ。サレトモ分々重々上下無非。乃至武士上

薦云時、其以下百姓等對言也。今亦如是。分
分大乘名事不妨、至極大乘非故、大乘題目非
云也云々。我見此書時不覺呵々大笑、不見
云陳防在科、然初雖被存立淨穢凡聖差別
小乘也、依諸方詰可如是陳、又有遮詮必有
表詮。既遮非大乘。知是表小乘。理任絕言也。
若意不存小乘而口云非大乘。殊不知遮表
甚。若亦非至極大乘。云非大乘題目義者。
何不添至極二字。書理不盡義耶。故知依後
日陳防。即是彌露顯先日越度可笑々々。是二。
又至極大乘非大乘題目非云云々。所云至極大
乘者是何大乘耶。若以佛華法華維摩涅槃等
思至極大乘耶。是最應然。而彼等經亦三界
外說淨土。盛明往生宗旨。若如所立義。是亦
可非大乘題目。若爾者至極大乘、是應何宗。
耶。是三。若復以禪門將謂至極大乘耶。然禪門
或云法身向上人。或云無爲閑道人。或云一乘。

而非儒道向上閑道。非佛教大乘一乘。但借用
彼家々爲至極之名目。計意懸異也。然見彼
義以淨穢不二凡聖一如義、云至極大乘。此即
教內第二未了教遮情空觀門說也。未及俗諦恒
沙法因陀無礙談。況別傳宗旨乎。是四。若彼陳言
如雖云大乘幷一乘。既異教內所談、雖云淨
穢不二凡聖一如。不同第二未了教。是即別傳不
共宗旨者。既對穢土外求淨土號至極大乘。
所對既有起盡。能對何無一差。彼三十二菩薩
不二法門。既是非眞實義。文殊以有言顯無言。
尙是如增金以黃。居士日瞪口呿四陵蹈地。雖
正是全體露顯。奈停機知何。設云威音那畔
猶同迷路今。何況云淨穢。云凡聖。云不二云
一如。云幻化。云夢中。豈非若干蹊徑乎。若然
者所云至極大乘義。更非禪教至極。是何之云
能破既不立。所破何中矣。是五。抑亦淨土教門非
至極大乘者。此事殊不知宗大意。故被致胸臆

難者歟。夫本來寂滅廣大妙心。即是諸佛出世本源衆生入理本宅也矣。眞如佛性爲體。無相泥洹爲相。如々平等爲用。然則以五乘不測眞如。而網蠢々之心內。以十聖難究法性。而談元來不動耳。縱令究竟證果於刹那。尙未曾本覺。圓滿悟道於一念。亦是第二月深廣無涯底。何淨。何穢。高大無巓頂。誰聖。誰凡。此則極佛內證。彌陀密意也。釋迦牟尼佛開名號所具五智。說此名佛智。天親菩薩釋願往生信號如實修行。玄忠大師判之云實相身。光明大師擧之云佛密意。祖師上人講此義。立他力實體。然彼義者思淨土一宗如此道理不談乎。嗚戯隔墻見角末。見煙須問里。六。又豈不見云實際理地不受一塵。佛事門前不捨一法云々。依之於無塵法界上。施恒沙功德妙用。法體寂默故應用天然也。寂而當照。用而獨湛。故云寂用湛然。然則於無淨穢上立淨土名。其相如因

陀羅網故。混同無二也。於佛密意上開弘願因。其義如一大圓鏡故。照用同時也。極樂不遠至十萬億西也。彌陀非外全一座無移形也。二十九種莊嚴歷々明々。而歸入一法句之理性。一法句之理性妙々寂々。而開出二十九種莊嚴。即是如全波全水。亦是如全水全波。廣略相入事理一致也。猶如水波混同無別。去來本非也物。故來即不來也。出入全自爾。故生即無生也。無生之生即云往生。故亙三世無嫌往生。不來而來即云來迎。故通十方無遺來迎。大機圓應。故大用無方也。此則我宗所盛談也。釋迦牟尼佛說此名不思議智不可稱智大乘廣智最上勝智。又宣於無爲泥洹之道。天親論主判第一義諦妙境界相。玄忠大師釋相好莊嚴即是法身。光明大師述淨土無生亦無別究竟解脫金剛身。若解此意。或現世證無生。或即身得往生。何況順次得脫。總諸宗修行中雖明無塵法界一

理。但執著其清淨光明情。更不知恒沙功德大用。失無礙自在大解脫道者在之。今此弘願宗底密意上敎門。理性上事相故。雖言淨穢。不背無淨穢。雖得往生。不違不往生。千生萬生但此無生生也。千理萬理但此一理理也。堪笑彼義者雖談夢幻泡影空觀於理事縱橫深義。驢年未見。若於九帶門。令參透者。豈亦有疑。不知宗極致止判。敎是非。七。

〔第十六〕女云。如今被仰。無上甚深法門也。可謂至極大乘。然但著有相人不知生卽無生。不辨他力實體輩。爭得往生。何云易行道。云末世相應法。此事如何。

翁云。此條尤余所本望也。靜意聞之。夫他力大道無邊故。凡聖齊通入。弘願敎門深高故。諸宗未插手。先體達生卽無生。辨別他力實體人。往生不可有滯之條如向所云。然煩惱具足凡夫。五障三從女人。五逆八重謗法闡根廻心。皆悉得往生。此則彌陀如來大願業力爲增上緣故也。不改凡夫實我實法住生見。直契當無生本分智。不捨衆生虛妄虛僞亂想念。速歸入涅槃常樂理。偏酬法藏因願。亦依彌陀果德。斯乃四智所成深理也。亦是三業不離妙德也。玄忠大師云。譬如氷上燒火火盛則氷消。氷消火還滅。於無生寶國氷上。燒衆生實生火。見生火盛無生氷融。無生氷融則見生之火自然而滅。已上。上機穢土達無生理往生。下機見生當體而依佛願。得生。旣往生已見生之火忽然而滅。混同無生智水。サレハ持戒破戒。有智無智。五逆十惡。謗法闡提。無生見生。凡夫聖人齊往生淨土。同契當無生。只是應一世修行。因弘願信樂。豈非難思本願乎。凡諸宗意妙解上修妙行故。或云今依妙解以立正行。或云所言如所行所行如所言。今此宗者遙懸諸宗。所以者何。無生者如無生。通入得生。願其信癡直仰

信分。尋其行一形十念功。言其益往生佛土報。論其悟無生本分智也。總凡夫善惡不得一念解惠同安住平等本際。會自力分別不知處也。譬如萬川歸大海成一味潮。可謂超々大超大々超。故釋迦牟尼如來說必得超絕去橫截五惡趣。天親菩薩判能令速滿足功德大法海。玄忠大師釋不斷煩惱得涅槃分。光明大師述直爲彌陀弘誓重致使凡夫念卽生。至極大乘題目在淨土宗旨。此時殊分明者哉。

〔第十七〕。女云。若依佛願可五乘齊入浴一味法水。何因往生後明九品差別。所謂華開遲速。得益前後。既以不一準。若爾得道無二。得果若數多。何云一乘清淨世界。此事如何。

翁云。見九品說相。且約初生時。若爾者終契當平等本際。豈非佛願不思儀乎。既處蓮華內時。如比丘三禪天樂。何不欣求耶。何況九品差別得益遲速。皆且依附行者局情。因順穢土敎門者也。於淨土中非實可有如是差別。譬如百川在流則各々別異而歸入海水。諸水失本名。同一無差。故云自然流入薩波若海。然則於淨土中。或云菩薩。或云聲聞。或云天云人。或云三輩。或云九品。並是附謗穢土說敎門一往假說也。實非淨土中可有各々別異名體因果不同。減同一類皆等證得無上菩提。莫以一往敎門窺淨土之實義。故釋迦牟尼如來曰。彼佛國土清淨安穩。神通洞達。減同一類形無異狀。但因順餘方故有天人之名。顏貌端正。超世希有。容色微妙。非天非皆受自然虛無之身。無極之體。已上。天親菩薩云。遠得成就。阿耨菩提。第一義諦妙境界相。已上。玄忠大師云。彼國菩薩或可不從一地至一地。言十地階次者。是釋迦如來於閻浮提一應化導耳。他方淨土何必如此。本則三々之品。今無一二之殊。亦如漕澠一味。焉可思議。已上。光明大師云。就行

差別分三品。上。已既就能行人分別三品。非淨土明矣。故祖師上人云。言往生者諸宗悟道得法異名也。上。已既云非天非人。非菩薩聲聞等明矣。若爾者與彼涅槃經云佛非天非人故能天能人。是何異耶。又言自然虛無身無極體。全不說地地增進修行。所得道又云何之。云同一念佛無別道故。而佛道外無餘道。云不覺轉入眞如門故。而不作意得妙理。當知一超直入如來地非淨土者。又云何。必得超絕去昇道無窮極大聖金言乎。然世人或誹謗。或輕賤。此則未盡佛法源底之所致也。嗚呼鼴鼢妬日光螢火競須彌誠矣。

女云。カクハカリ忝承。深御法道値。是彌季葉色不改永御情也。然常此處見奉。何人不覺コトシ。御名承後マテモ語傳度思給云へハ。

翁云。歌云。思カネイクタヒカクハ出テヌラン

待ツニシヲソキ月ノクロカト。又翁云。多年愚蒙頗疑問セシメ玉フ處依。一時傾出了。此則洪鐘雖響待扣正鳴之謂歟。抑神女誰人ソト云へハ。

女歌云。ツカイトハ此ヲ去ル事トヲカラヌ月

ノイルサノ西ノ名シテ

破邪顯正義終

上衍極致鷄距蹈開　無生一曲鳳味吐來
東父西母撫稚撫孩　廣除枝葉高擇樒機
生佛緣大如陳如雷　無願不往無善不廻
一念清淨一座華臺　直入淨拭攜聖徘徊
百千萬世不處胞胎　乃至滅度豈不快哉

于時永和丁巳夷則己丑

孤子聖冏誌之

上衍極致。上最上。衍乘。極至極。致旨致。言最上乘智之敎窮盡深奥。故鷄距蹈開。鷄音溪。距

音去。今言鷄距者筆名也。言最上乘教點露紙上猶鷄距蹈開也。無生一曲生即無生故云無生。此義不落陰陽生殺曲調。故云一曲焉矣。鳳味吐來鳳鳥名。味音沖鳥觜如鈎也。今言鳳味者硯石也。一云崑崙山有別峯。形如鳳味。取彼石作硯。故爲名。一曰崑崙山陰有石井。鳳凰常來飲水。故云鳳味池。取彼池畔石作硯。故爲名。今言無生一曲。翰墨所指託猶鳳味吐來。云如此也。焉西方便有一蓮生。又云一是元也。初也。其東父老翁釋迦。西母嫗女彌陀撫稚撫孩。稚是幼稚。孩嬰孩。言二尊撫育衆生。猶父母慇念幼嬰。廣除枝葉破邪。高擇禧機顯正。生衆生。佛彌陀。緣大如淨土本緣經。如陳如雷。陳是陳重。雷是雷星。並是晋代賢臣也。互有深盟共苦樂。時人呼爲陳雷膠深。今言衆生與佛因緣甚大如彼陳公雷公焉。無願不往。無善不迴。言三心既具無行不成。願行既成若不生者無有是處。今往迴不次爲音韻。一念淸淨一座華臺。言一念立定淸淨願生心。但信稱名西方便有一蓮生。又曰一是元初也。其一念本來淸淨不染著濁泥。此則一座華臺也。直入淨域攝聖徘徊。頓生云直入。觀音勢至爲其勝友。此云攝聖。又曰直入即立地淨域也。來々去々長養聖胎云攝聖徘徊。攝亦造攜。百千萬世不處胞胎。此則生後得益也。又曰塵々刹々一靈不昧。乃至滅度豈不快哉。不生不滅大家定門。已上。十韻恢台之韻。

以宮內省圖書寮本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百六十三

雜部百十三

## 旅宿問答

關東武藏國波羅郡別府鄉ニ。彥右衞ト云大夫アリ。元ハ是同郡毘尻鄉ノ所生也シカ。先年長享年中ニ。後土御門上杉棟梁山內顯定。同名修理大夫定正ト發波瀾。然ニ將軍左馬頭政氏。顯定爲合力引牽一萬餘騎。村岡如意輪寺ニ有發向。其時來天動搖メ萬民是ヲ不立。郡鄉一片ノ炎トナル。然ニ別有譜代ノ一老長賴內匠助家次。鎌倉八幡宮ノ社家弘尊僧正ノ蒙御扶助。別府一鄉ヲ安泰ニ收ム。此時彼大夫一類越送春秋。此大夫ハ利根最上ニテ。得辨舌宏才博覽トシテ。好雜談希代不思議ノ居士辯變第一ノ者也。然者表ニ陰陽ノ裏ニ兼諸藝。晝夜行體二時ノ看經スヘテ懈ルコトナシ。然モ煩惱ハ家ノ犬。ウテトモ門ヲサラス。菩提ハ山ノカセキ。招クニ不來ト云先言有之。此ハ臘月ナルニ。逐吹梼ニ開堀江ノ梅ニ心ヲ吳竹ノ一ヨノ契。夢ウツヽイトトタニ重キカ上ノ小夜衣。我妻ナラヌ妻ヲカサヌル離別ノ思色顯レテ。倚紅ノ一入ヲ語ル者コソハカナケレ。家ノ女房聞之。胸ノ煙ノソノヒマヨリ。嗔恚ノ炎外ニ出煥焦姬キメラシ

テ憂ヲモヒノミ。二月ノ中ノ五日ノ比ナルニ。米山寺ニト思立。恨侘ソハシ。今ハソ妻ナレト思馴ニシ袖ノ露。積ヲハシ在明ノ月ニ村雲。コレヤコノ。迷ノ蝶一筋ニ。思切ツヽ中々ニ。憂世中ノ今市ニ。タツヨシニテソ出ニケル。廳ノ鼻和深谷藥師堂ヲ通リテ。岡ノ谷ノ原ヲ過レハ。山ヲコシ風ヲ便ニ行程ニ。其月(日カ)白井ニ着ニケリ。偖次ノ日ハ。槿ノ花ヨリモロキ旅ノ袖。心細クモ唯獨リ。命ナリケリ小夜ノ中山ト。西行法師ノ詠セシヲ。思出ツヽ小夜中山。露ノ消ヤラテ。池ノ原ヲモ打過テ。須河ノ湯ニソ着ニケル。旅クツロケノ湯ニ入テ。又調ヘテ行程ニ。早日モ西ニ傾ケハ。イツクニカ今ハ宿ヲカリ衣。日モ夕暮ノ峯ノ嵐ト打詠メ行處ニ。齡廿餘リノミコノ。ハタニハ紅ノ帷ニ。イタノ物ノ小袖キ。何トナク淺黃布子ニ。檜笠三粒裝束ノ小珠數ヲ持タルカ。形ヲ見レハ。秋ノ月ノ山ノ端ヲ出ルヨリ麗シク。顏ハセハ夏ノ蓮ノ月ヲ待テ。色ヲマスニ似タリ。髮黑ク。眉細ク。愛敬ノ眸。丹花ノ唇。白雪ノ膚。摠テ姿尋常ナルニ。相俣宿ニテ一目見ショリ。心雲井ニ浮宕レテ。胸ノ聞屋ト長井坂。後レ先立別レテ行ク。唯折々ハ梓弓。引テミルトモ强シ清水。意ツヨシト打流シ。誠ニ契淺谷ノ宿ニテ。何カ立分ル。サテモ我何ト鳴海ノ浦ナレハ。思方ニハ遠去ラント。安嘉門院右衞門佐ノ詠セシヲ。今ノ身ノ上ノ理ト思シラレテ。露ノ命モ消ハツルハカリ也。アラレサルマヽニ手ヲ合。南無ヤ東方淨瑠璃世界ノ藥師如來。醫王善逝。日域ノ衆生ヲ爲利益センヤ。忝モ米山寺ニ垂跡シ給。某毎年致參詣事十餘年懈コタラス。或時ハ祈ニ衆病悉除。或時ハ雖祈二世ノ悉地ヲ。今度ハ更ニ無他事。唯願クハ此程相見ミコニ又逢。一夜ノ契ヲ籠サセ給ヘト。深ク祈念仕リ。二夜留ニ宿

シケリ。五濁ノ世トハ申セトモ。諸佛ノ惠不失。又此命婦ニ三保ノ宿ニテ合コソ不思議ナレ。譬ヘン方ナク又爰ニテ祈誓ヲ成ケルハ。南無ヤ西天星ノ宮。漢土若去來。ワカ朝ニハ望夫石。忝クモ欲トノ發。敷嶋ノ道ニ心ヲツクシテ。松浦ニ跡ヲタレ玉フモ。今ノ思ノ爲ソカシ。願ハ宿世玉フ身トナシテ。比翼ノ契淺カラシト。祈ルシルシノ報ヒ來リテ。終ニ重ヌルキヌキヌノ。契ト成コソ嬉ケレ。春ノ日ナレハ永ケレト。アカヌ色ニテ山鳥ノ。宿ニ程ナク着ケリ。爰ヲモ過テ鎰係ノ、。町ヲ通レハ戸ヲ閉テ。人音モセス。徒然。レニ心アレカシ時鳥。ヤキ澤ノ音モ荒戸ト傳ヘ行。ミコノ足ヲモ息タシト。爰ニ四五日ヲ送リ。湯澤玉ホト打過テ。大現寺ニソ着ニケル。茶屋ノアリケルニ。床ニ腰ヲヤスメテ居ル處ニ。齡卅ハカリノ聖ノ顏細ク。面疲レタルカ。白キ布子ニ長衣。文篋腰ニ付タルカ。足ヲヤスム。大夫ハ一禮ノ。御聖ハ何クノ人ト問。關東上總國ト答。上總ハ何郷ト問。袛原行願寺ノ住僧ト答。御名ヲハト問。心玄ト答。大夫問云。行願寺ハ眞言カ天台宗カト問。心玄答曰。表ハ眞言。裏ハ天台。大夫問曰。御坊ハ台宗カ密宗カ。玄。愚僧ハ表天台裏眞言ニテ候。大夫問曰。天台宗ト申ハ如何樣ノ宗ニテ候哉。玄答曰。於天台依報ノ天台。正報ノ天台。依正不二ノ天台候。何ヲ問セ玉。大夫同ハ。三種モニ聽聞申度候ト申ス。心玄ハサラハ大形判聞セ進セン。先依報ノ天台ト申ハ。唐土ノ台州ニ一萬八千丈餘ニ漏現スル靈山アリ。是同(周カ)ハ八百餘里也。是號ニ依報ノ天台。正報ノ天台トハ。此山ニ居玉フ天台大師ノ事也。是ハ陳隋二代之臣家ニ顏呂公(孟陽公カ)ノ次男。御母ヲハ徐氏ト申也。偖依正不二ノ天台ト者。大師得道ノ一念三千ノ法門是也。一念三千者。生盡二千爲正國(因カ)

一千屬依メ正ノ萬法ヲ一身一念メ得功德玉リ。是ヲ三種ノ天台ト申也。夫問曰。其ヲ天台ト名故如何。玄答曰。日(曰カ)天ト者非天地相對ノ天。指巔名天。荆州ノ湛然大師後助覽引三五略記。彼判時天ハ巔也。元氣未分ト。久メ天台ノ天ハ巔指ヲ。此ミコトハ天地未分ノ時ハ。形チ如鷄子也。此一ノ峯ヨリ。清ルハ登テ被謂天ト。濁ハ留テ謂地ト。問。天台ノ天ハ天地未分之天也。サテ台トハ星ノ名ト釋メ。星ノ名也。此天台山ニハ花頂佛龍唐溪トテ三ノ峯アリ。三ノ峯ニ當テ。唐星。曲精。六淳星トテ三ノ星出候。此三ノ星下(四カ)地ノ王臣民ヲ守護ス。星ト云文字ニハ。宿曜星台ノ回(マヽ)。東ヨリ出テ西ニ入星ハ宿曜星ノ三ノ書キサテ不論書候。三世常恒星ニハ。台ノ(ニカ)字ヲ書也。今ノ天台山ニ出ル星ハ。三世常恒キメ無往及遊行之義。故台ノ字ヲ書候トノタマフ。大夫申ケルハ。能々致聽聞。何

宗モ心ニクカラハ(スカ)ト申ス。心玄聞テ癖スル居士カナ。何ノ宗モ心ニクカラスト云ハ。一ツ心アル者哉。又者馬鹿者哉。何樣口ヲ貪リ見ント思ヒ。心玄問云。其邊ハ何ク人矢(マヽ)。答曰。關東武藏國ト申。武藏ハ何ク地ト問。波羅ノ郡西別府ノ者ト答。其邊ハ在家歟山伏カ問。某ハ大夫ト答。玄問曰。於大夫神職モアリ。舞ニ猿樂ヲモ大夫ト云。何ニテ渡玉フヤ。答曰。我等神職ニテ候。問曰。神職大夫ト。舞々ノ大夫トハ一ツ位歟。各別歟。大夫小嘆テ。舞々大夫ハ近年ノ者ニテ候。神職大夫ハ神代ヨリノ者ニテ可例無類申ス。玄問曰。サテ舞々ハ何比ノ者ニテ候哉。夫答曰。傳承ニ今ノ舞々ト申者。世間ヲ往來スル聲聞士カ。佛菩薩ノ因緣ノ唱テ人ヲ勸ル字ノ源平已後(マヽ)。兩家取合ヲ非(悲カ)テ。是喝(マヽ)人ノ心ヲ喝。一人ノ心ヲ慰ル。是今ノ舞々也。有說ニハ。多武峯ニ源瑜僧正トテ。宏才有智ノ貴僧御

座ス。此僧正保元平治。源ノ義賢ト與義平一亂ヲ作出シ玉フ。實是聞事也。然ルヲ勘解由ノ小路烏丸久兒若ト曰因緣舞ノ上手アリ。此久兒若ハ五條ノ橋邊雲若ヨリ捨子ト云説モアリ。又北野ヘ化生シタル童ト曰義モ有之。如何樣權化ノ者也。朝夕佛菩薩ノ因緣ヲ舞テ叡慮ヲ慰。雲ノ上ニメ送日月。彼久兒若此由ヲ聞及。登多武峯。源瑜僧正ニ彼双紙ヲ申給ハリ。種々ノ曲節ヲ付。先大納言藤原ノ經實卿ニテ申之。經實主上ノ内祖父也。經實卿　天奏ス。二條院諱守仁有御叡感。任權大夫申ス。是モ二條院ノ御宇ニ樂ノ前ト云内裏ノ女房アリ。十二ノ依（メカ）樂老ナルニ。得其名ヲ。宿習難遁。猿來テ結契。男一人生。此子面猿。五體ハ人也。最上利根ニメ。聞一字覺十字。受一度不聞二度。就中物ノ學ヲスル事ヲ得タリ。仍久兒若禁中ニメ舞ヲ申時ニハ。其ホ（マヽ）ソ理聞テハ立テ其體ヲ學ル希代不思議者ナレハ。所詮ソレ〳〵ノ面ヲ懸可躍ル。面ヲ被恒ニ朝廷躍蒙叡感。サレハ父母ノ一字宛ヲカタ取。其名ヲ猿樂ト申。サレハ猿樂ヲハ庭ノ者。舞々ヲハ緣ノ者ト申是也。サテ猿樂ノ家ニハ神職ヲ蔑ニシ。天照太神天ノ岩戸ニ逃入玉フ時。八萬神達引去申サン爲ニ。チハヤノ袖ヲ翻ス。今ノ時代ニ最初ニ躍ル三番猿樂也ト申。何ノ義本ニ候哉。家々ノ事ニアラザル故ニ。勝負ヲハ不令存知語ル。心玄ノタマレケルハ。所詮能々神職ノ大夫ヲ見及ヒ。全體蝙蝠ニ似サセ給候。其故ハ蝙蝠ハ欲捕鼠入穴ニ鼠ニ成。欲捕鳥飛空ヲ鳥トナル。實ニ非鳥ニモ非鼠ニモ鳥雜亂ノ物也。是ハ大經破戒ノ有說候。時破戒ノ故非僧。比丘ノ故非俗。此譬ヘヲ取候。如此神職ノ大夫ヲ見ルニ。口ニハ唱咒陀羅尼。手ニハ持念珠。故ニ俗ニアラス。又指刀着袴結髪。故ニ非僧。全體唯蝙蝠ノ振舞也ト嘲

玉フ。大夫申ケルハ。ソレ道理ニテ候。我等ハ性徳萬類ノ父母。十余(宗カ)ノ頂ニテ候間。更ニ一方ニ定ヘカラスト申。心玄曰。我等カ宗家天台宗ヲ號テ諸宗超過ノ宗ト云事無其隱。未聞神職ノ大夫カ諸宗ノ頂ト云事。其上宗ヲ立ル事非私。經論ヲ見ヒラキ成佛ハ如斯ソト心得落シ得悟旨意一天ニ無陰。節ヲリ帝王ニ奏聞スル時有御納得。以勅使一宗一宗トハ立ラレ候故ニ。沙門雖多。八宗十宗ヨリ外無之。未神職カ宗ノ内ナリト云事前代未聞也。大夫聞之申ケルハ。先我ホカ(等カ)立ハノヤウヲ勢ヲ靜メテ聞玉ヘ。我等申ハ。天神七代ノ尊ヲバ國常立ノ尊ト申。是生類ノ始也。三千大千世界一ケノ空界ナリシ時。天地ノ中ニ一ツノ物アリ。形葦茅(芽)ノコトシ。便チ化テ神ト成。國常立ノ尊是也。我等ハ此時ヨリ宮仕ノ者也。サテ十宗八宗ト申ハ。數百億歳以後。地神第五代鸕鷀葺不合尊ノ末ニ當テ。釋迦如來出世シ玉テ。五時半滿ノ經教ヲ説玉フ。此經教ヲ見テ。此有靈見付。八宗十宗ハ起候。去程ニ宗々ハ對神代。只昨日今日ノ事也。我等ハ俗形ニ候ヘトモ。若輩ノ時有智者達ニ近付。八宗十宗樣體ヲ大概承候。御存智ノ前ニ候ヘトモ。對神代何モ近年ナル旨趣ヲ。大形語テ聞セ申ン。先花嚴宗ト申ハ。釋尊入滅以後一千五百七十餘年過テ。唐土ノ禪門ノ花嚴和尚始テ此宗ヲ被立候。日本ニ渡事ハ。人皇四十六代ノ御門。孝謙天皇ノ御宇天平勝寶六年甲午ニ。東大寺ノ沙門朗辨僧正入唐シテ。此宗ヲ被渡候ト承及候。サテ法相宗ト申ハ。如來滅後一千五百七十九年ニ。玄奘三藏渡天ノ。天竺ノ那瀾陀寺ノ戒賢論師ニ値。瑜伽唯識等請歸唐シ。此宗ヲ立。我朝エハ四十代ノ御門天武天皇御宇。新羅國ノ智鳳法師渡候。三論宗ハ佛滅後一千三百九十年ニ。龜茲ノ國ノ羅竹三藏

始テ此宗ヲ弘ルト見タリ。我朝エ渡事ハ。仁皇卅四代推古天皇御宇。百濟國ノ沙門勸勒法師渡之候。サテ倶舍宗ト申ハ。佛滅後四百年以後。世親菩薩ノ所立也。漢土ニ渡事ハ。太宗皇御宇玄奘三藏渡之。我朝へハ仁皇四十代ノ天武天皇御宇。新羅國智鳳渡之。成實宗ヲモ此時ニ被渡候。サテ律宗ハ佛滅後一千三百五十二年以後。罽賓國ノ沙門佛多羅三藏。又曰ニ掬多。是ニ五人ノ弟子アリ。四分律五分律ヲ製作ス。唐土ノ修南山ノ道宣律師見之立玉フ宗也。我朝へ越事ハ。孝謙天皇御宇勝寶六年甲午ニ唐土ノ鑒眞和尙來朝メ弘之。眞言宗ト申ハ。佛滅後一千六百六十四年ニ。大日所說ノ三部ノ秘經ヲ。中天竺ノ沙門善無畏三藏被（披カ）見メ。始テ此宗ヲ立ツ。日本ニ正ク弘事ハ。五十代御門桓武天皇御宇延曆廿三年傳敎弘法ノ二人渡唐メ。傳敎ハ善無畏三藏ノ弟子順曉和尙ニ値テ此法ヲ受。弘法ハ惠果和尙ニ値傳受。同廿四年ニ歸朝メ弘玉フト見テ候。サテ禪宗ハ滅後一千五百九十年ニ。漢土梁ノ武帝ノ御宇ニ。香子大皇ノ太子達摩出世シ。初テ立給宗也。我朝ニ來事ハ。傳敎大師入唐ノ次ニ歸朝シ玉フ。雖然如何トシテカ不弘之シテ。横河ノ鐵輪塔ノ下ニ深埋之。然ルヲ八十三代ノ御門阿波院ノ御時。建仁寺ノ榮西黃龍八也（世カ）嫡孫虛庵ノ弊禪師値。此宗再受テ衣體ヲ弘其法。自ニ山門ニ被責成末寺山承及。偖淨土宗ト申ハ。佛滅後一千四百四十餘年ニ。齊代ニ玄仲寺ノ曇鸞法師淨土ノ三部經披見メ。此宗ヲ立給。我朝ニ渡事ハ。四十五代ノ御門聖武天皇ノ御宇ニ。南都ノ玄昉僧正入唐メ被渡之候。（始カ）サテ天台宗御事。唐土ノ陳隋二代ノ御宇ヨリ治リ來朝スル事ハ。傳敎大師五十代桓武天皇御宇以後被渡候。御存知之前候。聞其ニ不及申候。如期（斯カ）十宗八宗。何モ從釋

尊逢以後ノ取立ニ候。我等カ宗ハ。從神代事候
間。不及例。サレハ我等カ宗ニテハ釋尊ヲハ伊
奘諾ノ化現。大日ヲハ天照太神ノ示現定候。ケ
ニト大日與天照其義明候歟。サレハ神ハ本也。
佛ハ無迹(垂カ)ト云事。爰元ヨリ起リ候ト申。心玄一
一閑テ。サテモ才覺過タル大夫哉。我等カ宗ハ
八宗兼學トイヘ𪜈。加樣ニ達者ニ口ヲ聞タル
者マレナルヘシ。今大概ニテ居テラハ。神職
ハ十宗八宗ヨリ向上ト可ニ思極ニ事也ト思ニ耶。
大夫殿。聞玉ヘ。諸神權現ノ成佛ヲハ。龍樹制
作ノ大論ニ。和光同塵結緣ノ始。八相成道利物
ノ終ト云文。三國ニ無隱明文ニテ候。御身ハ知
タマハヌカ。家々ニアツテ主ヲ不知云コトハ。
神ニ仕ヘナカラ此文ヲ知シヌ事コソ所存ナケ
レ。大形判テ聞セ進セン。先和光同塵ト申ハ。
諸神ハ何モ元ハ因圓果滿ノ如來ニテ。寂光眞
如ノ都ニ居シ。無上士無所作ニテ御座ガ。衆生
利益ノ爲寂光ノ和光同居ノ塵ニ交リ。我等ニ
結緣玉フ。是ヲ和光同塵ハ。結緣ノ始ト說候。
譬ヘハ帝王ノ土民ニ交事ナキコトク。果滿ノ
如來ハ只迷衆生ニ同シ玉ハヌ故ニ。神ト下テ
衆生交リ。種々樣々ニ教化教導メ。終ニ上天下
天ノ令ニ唱ニ八相。遂ニ成佛ノ素懷ニ玉ヲ所ヲ。八相
成道ハ利物終ト說候。去程ニ(白然)神ハ佛ノ內證ヨ
リ下ルト云事。此文明曰也。故ニ常途ニハ。天
神七代ヲハ過去七佛ノ垂ト云。地神五代ヲハ
現在五佛ノ應迹ト申。サレハ佛ハ本地。神ハ垂
迹ト曰事ハ。任家出家人非人迄ノ唱ニ候。但
釋迦ハ伊奘諾ノ示現。大日ハ天照太神ノ垂迹
トイハレ候カ。其分何ナル經論ニ見候哉。無證
據如何。又大日ト云。又天照ト云義分ハ少似ツ
カハシク候ヘ𪜈。天照太神ハ大日ニテ被渡候。
其故ハ小日物ノ陰ヲ照ス事ヲエス。世間ノ日
光是也。大日ハ周遍法界ニシテ。一塵無殘所照

玉フ。故ニ大日ト申也。サテハ八宗ノ時代ヲクトキ立ノ玉フカ。大夫カ國常立ノ時ヨリノ者ナラハ。サテ我等ハ佛ニ仕フ故ニ。過去七佛ノ時ヨリノ宗ナルヘシ。其上日本ニ神ノ始ル事ハ。以天照太神爲始。此太神ヲハ。人皇十代崇神天皇御宇ニ始テ笠縫ノ里ニ奉祝サケ。伊勢ノ國ニ奉移事ハ。十一代ノ御門垂仁天皇ノ御宇也。崇神天皇ノ御時始テ國々ニ社ヲ造リ神ヲ崇ル。熊野權現ノ本宮モ此御代ニ始レリト宣フ。大夫申ケルハ。以時代申ハ。假令教門ノ一節ニテ。後實儀ヲ申候ハン時ハ。諸宗皆手ヲ御拂玉フヘシ。家ノ大事ニ候ヘトモ。一端語テ聞セ申サン。所詮神ト云字ヲハ何トカ思食ス。タマシヒト讀候。鬼畜人天有情非情。何物カ神無物ノ候哉。サレハ三世ノ諸佛出(テカ)ノ衆生ヲ利益シ玉フ事ハ。說法利生ニシクハナシ。其說法ト申ハ。心地ノ所作也。心ハ神也。タマシヒハ神也。故ニ說法利生シ玉フ事ハ。佛モ神力ヲカラテハ叶ハヌト見テ候。サレハ釋尊難解難入ノ經王一大事之法華ヲ說玉フ時モ。先現六瑞ヲ。一會ノ衆令所信玉フ此瑞相ヲハ。而有此瑞神通ノ相ト說リ。サテ神道ノ言如何。是ノミナラス。法華一部ノ肝心本門壽量ノ眼目ヲ被說時。如來一切自在神力ト說キ候。一切神力ノ言ハ。彌奇特ニ覺エ候。如此之法花一部之內ニモ。經ノ肝心。佛ノ內證顯サル丶時ハ。神通神力ト丶カヌ品無之候。就廿八品ノ內ニ神力品トテ有之。此文ニ曰。諸佛救世往於大神通爲悅衆生故現無量神力ト云リ。諸佛モ世ニ出テ。衆生ヲ救玉フ時ハ。無量ノ神力ノ現セテ叶ハスト云事明鏡ニ候。サレハ諸佛內證ノ密語ハ。諸經ノ內ニ皆神咒ト說候カハ。佛咒トモ法咒トモ說タル所候哉。去ハ我等カ宗ヲ八宗之頂ト申モ此分ニテ候。其上雖有十宗八宗。當時國々

ニ流布スル眞言。天台。禪宗。淨土宗盛也。先眞言宗ト申ハ。阿字本不生ノ觀ヲ凝シテ。心月輪ノ本意ト沙汰シ候。サテ其心月輪ノ心ハ。神ニテハ有間敷候哉。天台宗又一心三觀。一念三千ノ宗旨。是又心念迄ノ修行也。禪宗ハ佛祖不傳。以心傳心ト立テ。修多羅ノ敎ハ指月ユヒト行シテ。心ノ一理ヲ尊ト見テ候。淨土宗又依稱名念佛功德。顯唯心ノ彌陀己心淨土ヲ云是候。宗ノ本懷迄ニ候。此等ノ四宗ニ不限。何ノ宗モ以此心第一ト沙汰シ候間。心カ神ヒ。タマシヒカ心ナラスハ。神ニ仕ル我等ハ。サトリテハ諸宗ノ頂申レニ。誰人カ可有凝乎。心玄聞之。サテモ大事ノ問答哉。キケハケニト理也。所詮此時ハ心ト念トヲ分テイハス。理不盡ナルヘシト思食。ナウ大夫殿。涯分才覺ヲハ咄シ玉ヘトモ。心ト念トノ不同ヲハ。一向心得玉ハスヤ。去程ニ調レ候事カ。只生盲ノ黑白色ヲ如語テ。

更評カ不合候。所詮心念ノ二ヲ判テ聞セ進ン。先心トハ不生。不滅。不增。不減ニメ。動傳去來モナク。生滅起動ヲ謂候。念ト者慮智分別シ。黑白ノ色ヲ分ケ。是事非事ヲ理ルカ念ニテ候。譬ヘハ心ハ水。念ハ波ノコトク也。去程ニ。タマシイハ念ノ分際ナレハ。神一念起動ノ念ニ立。佛ハ不生不滅ノ心ノ位也。サレハ唐土ノ人師モ。心ト者無來無去ノ法。神ト者周遍法界ノ理ト。心與神不同ヲハ被分候。十玉經ハ經中ニハ心性ハ。三身法報應ノ性。本覺ノ如來。念相者。三魂七魂也。隨善惡業。因流轉生死。受苦受樂也ト云リ。我等カ宗體ハ佛ヲ爲元祖。故ニ心性ノ位ニ立候。御身達ハ神ヲ祖師ト敬故ニ。念相ノ位ニ立。常住不滅ノ心性ト。生滅起動ノ念相相對セハ。何カ可勝候耶。世上ノ批判可被聞候。如斯心得レハ。前々ヨリノ雜說ハ。誠ニ媒祿千ニ搥一ニテ候トアリケレハ。大夫ハ道

理ト手ヲ組。今トナレハ心ト念トハ水波ノコ
トクナラハ。元ヨリ水カ浪トハ立候ヘハ。サテ
ハ御宗體ト我等ハホウ(頬)ヲツラト如申マテ候
哉トテ。狂言ノ止ヌ。拵テ茶坊主ハ近比殊勝ノ
聽聞事ヲ仕候トテ。一入上品ノ茶ノ建盞ニ立
テ出ス。心玄請取。大夫ニ一禮メ呑之。大夫狂
言シケルハ。那申茶坊主。我等ハ家々ノ立派ヲ
語申候。御亭ハ茶ノ立所何時代ヨリ起リ。又ハ
何ナレハ都鄙𪜈ニ諸人是ヲ賞翫仕候哉。少承
度候ト申ス。茶坊主ハ。某ハタテ候ヘ𪜈。新來
ノ事候間。一向爰元不辨ニ候。乍去家事ニ候ヘ
ハ。大方語テ聞セ可申。凡茶ハ是源山家ヨリ起
テ。漸吾朝ニ渡ル。萬飯ノ祖百茶ノ宗也。喫之
者孤問破リ。啜之聰敏ヲソフ。玉泉ノ七境既ニ
淸風ノ氣ヲ。故ニ仙ノ三盃又殘更ノ睡驚ス。
サレハ山谷ニ(云カ)聽之。地神靈ヲナシ。人輪摘之
ヲ。其人長命々々。三國ヨリハ天笠ヨリ始リ候
中天竺摩竭陀國ニ耆婆扁鵲トテ。三國ニ無隱
醫骨人アリ。耆婆ハ扁鵲カタメニハ親也。耆婆
ハ藥數ヲ知事八萬四千也。扁鵲ハ六萬二千數
傳テ。二萬二千數殘テ。終ニ焉タル此殘藥。後
悔ノ念力カ成茶木ト。耆婆カ茶毗所ニ生ル也。
サレハ茶ト云字者。茶毗ノ一點ヲ殘テ讀セタ
リ。或又耆婆一生ノ間一寸二分ノ藥師ノ靈像
ヲ。身不離終栴檀ノ煙ニ埋ム。此靈像茶木ト化
生スト云說モアリ。何邊五臟調和ノ秘藥。無病
息災ノ靈物也。サレハ蘇莫童子經ニ。服スル者
十種ノ德ヲ明ス。一ニハ諸天加護。二ニハ五臟
調和。三煩惱微薄。四壽命長遠。五睡眠自在。六
孝親憎長。七息災安穩。八天摩遠離。九臨終不
亂。十ニハ往生佛土ト云リ。播磨聖空上人茶ヲ
御用意アル時。化聖來テ病卽消滅。不老不死。
天甘露。悉地成就ト唱去由承及。漢土本朝ノ茶
ノ名所ヲ申ニ。於唐土ニ羅漢洞初番。天台菩

薩ノ復一。建溪ノ秋萠。浮梁ノ小雍。此等ハ漢朝四前ノ本所タリ。我朝名茶ト申ハ。於梅尾千金黃金燒香雨カ前。大和室尾寺ニハ。風肝皐盧白雲春雪也。般若寺ニハ緣山尼牛後烟。伊勢ノ小山寺ニハ雲映雀舌鷹爪。丹波ノ神尾寺ニハ鎗鎮小葉。此外宇治ノ朝日山ノ葉。室戸ノ走摘。仁和寺ノ初番。醍醐脇萠。武藏ノ茲光茶。駿河ノ闕茶。伊賀ノ八鳥。伊勢ノ河非。近江ニハ比叡茶也。遠所ニハ深瀨。小畠。天狗ケ谷。一ノ瀨。外煙。岩傳門。不見橋返ナト、申テ。於本朝太多茶モ候。大概手ニ係候。但茶ハ揉(スリ)ノ遠近。茶ノ大小。擧火ノ多少。壺ノ善惡ニヨリ。烟香ノ淺深。口味ノ善惡替リ候。久(ヌカ)湯ノ涌樣立柄ニヨリ候。湯ノ涌ニモ。六調子候。其次第。蚯音。車聲。松風。魚眼。遠浪。音無也。此音無ノ時立レハ。一入口味出來テ茶ノ勢候。今兩度進スル茶ハ。二方ニ候。如何食召分候哉。前ノハ宇治

ノ山茶。今申タルハ梅ノ尾雨カ前ニテ候ト語ル。兩人長物語ハ仕タリ。喉ノ乾クマヽ。分別ナクシテ呑候ヘモ。我等モ二方ニハタ(マヽ)ヘ分候トキ出ント催スカ。日元ヲ見ルニ。日々早西ノ山ニ傾ク故ニ。大夫カ申ケルハ。那申候。御坊一樹ノ陰ニ宿スルモ多生ノ緣ト承候。早及晚日候ヘハ。今夜ハ茶屋ヲ一宿申。御坊ノ雜談承度候ト申ス。律師尤ト領掌ス。茶坊主申ケルハ。是ハ餘ニ床モ狹ク候。是ヨリ少隔リ。親キ方渡地可然御宿ニ候間。同道可申トテ伴フ。至テ見レハ。ユヽシキ所也。座席ハアマタアレモ。四間ノ座ニ請ス。奧ニ二間。桿板ノ唐繪ヲ書レ係リ。中尊ハ思茶三尊釋迦。脇ハ蜆子カ龍虎梅竹。其外見廻スニ。牧溪カ達磨。靑黃カ牛。郁山正カ鵲領(寒イ)。日湖カ觀音カ。郎婦カ栗鼠。堪殿三カ布袋。漢山拾德等也。店屋坊主對主人申(本ノマヽ)ケルハ。客殿ニ同道中。旅人兩人ナカラ殊外タ

覺ノ人ニテ被渡候。先刻種々ノ雜談モ實ニ肝ニ染ニ面白覺候。御出御雜談候ヘカシト申。亭主ハ法理ノ雜談ヲモ被成ケルヤトノタマフ。ソレノミト申。亭主悅テ。我多年念佛ヲ申トモ彌陀尊ニ謂レヲシラス。イテヽ致見參。加樣ノ雜談ヲモ承ントテ出ツ。六旬ハカリノ入道也。旅人ニ一禮シテ。何地ノ人ト問。大夫カ云ク。御出家ハ上總。某ハ武藏ノ者ト答。亭主ノタマヒケルハ。關東ノ人ト承レハ。御馴敷候。某ハ相州鎌倉ノ者ニテ候カ。親ニ候者ノ時ヨリ。此方ノ成住人ト候。大夫何共緣據ニテ。此方ニ御住宅候哉ト問。亭主ノタマヒケルハ。聞召及候哉。禪秀亂ト申時。親ニ候者。上樣御供申罷越候。ソレヨリト申ケル。大夫ハ禪秀亂ト申ヲ傳ヘ承候ト挨拶ス。何トナク尋常ノ雜談過チ有。遙々先刻被仰出候禪秀亂ト申ケルハ。關東ニハ候ヘトモ。亂ノ發ノ不存候。御存知候者御物語承度候ト申ス。亭主某モ其比ハ未生以前ニ候間。不致存知候。乍去親候者。當々物語申サレケルハ。其時ノ鎌倉殿ヲハ持氏將軍ト申ス。是ハ仁王五十七代ノ御門。淸和天皇ニハ十三代ノ後胤。足利治部太輔尊氏ニハ五代ノ末孫ニテ御座也。上杉安房入道大全死去。後同名右衛門入道犬懸ノ禪秀ニ官領職ヲ給リ。四五ケ年ノ間政道ヲ改ム。途ノ亂ル丶事ヲ直處ニ。良藥口苦ク。忠言耳逆ル習ナレハ。連々背上意ヲ既ニ多。然ニ應永（稱光院）廿二（三イ）年四月末ツ方。常陸國ノ住人。越幡六郎無差罪科。所帶ヲ被沒收候程ニ。禪秀再三不便之由被申候處ニ。上意以之外ノ御氣色ノ間。禪秀被思ケルハ。道ノ爲フヲ道悅（マヽ）セ。法ノ背不陳申。居職ニ有何益乎トテ。五月二日ニ上表被申畢。上意連々其（申カ）逆ル義。上意ヲ非介輕乎ト思召間。收上表畢。同十八日ニ。大全ノ嫡子安房守憲基ニ被仰付。去程ニ秋

ノ半ニ成ヌレハ。金吾禪門ヒソカニ氏滿ノ三男滿隆。新堂小路ニ御座ス新御堂殿ト申ヘ參被申ケルハ。抑關東ノ樣體如何ニ思召候哉。上樣御政道違給處ヲ。入道折々依申御氣色惡候。結句御外戚ノ人々依申掠。御不審ヲ罷蒙候ヘモ。無誤故ニ鍔淵ヲ道候畢。身ハ爲恩仕ヘ。命ハ依義輕ト申ニ。加樣ニ無情御沙汰積ウハ。落着如何。又如今御無政道ナラハ。定謀叛人可令出來候。內々承及子細モ候カ。憖ニ他人ニ世ヲ被取給ハン事。爲御家ノ歎ニ有餘。將又君ハ御忘候哉。先年佐介大全カ依讒言。憂目ヲ見給事。今ノ樣ニ覺エ候。所詮此時御運ヲ被直候ヘ。入道走廻候ハヽ。サリトモト被申。新御堂殿ハ滿隆モ內々存子細アリ。但甥ニ候持仲。猶子ニ立上ハ。是ヲ可取立由被仰。禪秀喜悅ゞ眉（披カ）ヲ開異議畢。八月末ヨリ病氣ノ由被露シテ。其支度ヲナス。國々ヨリハ犬懸ノ郎等モハ。兵具ヲ悉裹隱シ。粮米ノコトクニ馬ニ付。或ハ人ニ負セ上ル間。敢テ知人ナシ。新御堂ノ御書入道ノ副狀ニテ廻ヲ遣ス。御請申方々ニハ。先千葉（一カ）新介。新田ノ岩松。澁河左馬助。舞木太郎文類。倉賀野。武藏ニハ。丹黨ノ者モ。其外在原。蓮沼。別府。玉井。瀨山。甚尾。甲斐國ニハ武田入道。小笠原一族。伊豆國ニハ狩野ノ一類。相州ニ曾我。中村。士肥。土屋。常陸國名越一黨。上總入道。佐竹一族。小田太郎平治。大極行方。小栗。下野ニ那須ノ越後ノ入道。宇都宮左衞門尉。奥州ヘハ篠河（サヽヘ）申故。蘆名。白河。田村。石河。南部。葛西（カサイ）。海道四郡ノ者モ。皆同心ス。大御所ノ内ニハ。木戸内匠助伯父甥。二階堂者モ佐々木一類ヲ爲初。百餘人同心ス。カクテ國調義畢テ。十月二日戌刻ニ新御堂殿。并殿御所西御門寶壽院ヘ御出アツテ。被揚御旗ヲ。犬懸ノ郎等。屋部埴谷ノ兩人ノ手ノ者モ打ツレ。其夜塔

辻へ下。所々ヲ堀切。鹿垣ヲ結ヒ渡シ。矢倉ヲ比次ト揚ケ。持楯ヲツキ。思々ノ物具。家々ノ幕モ。一揆ノ旗ヲ打建タリ。禪秀ハ御前ヘ參。持氏ヲ可奉懷捕支度仕ル折節。上樣ハ有御沉醉。寢所ニ御寢アリ。木戸將監近ク參リ。奉驚世ハ更ト申ス。上樣ハ不審哉。中務太輔（禪秀一男）ハ今朝迄出仕ス。又犬懸入道ハ以外違例ノ由聞物ヲト被仰。木戸將監。ソレハ虛病ニ候ト申。木戸將監申ケルハ。唯今御所中ヘ敵亂入可仕。內狹クシテ馬ノ懸引不可叶。一間途也モ可有御出トテ。御馬ニ被召。十二所ニカヽリ。小坪ヲ打出。前濱ヲ佐介エ入給。御供ニハ一色兵部太輔子息左馬助。同左京亮故讃州舍弟ニ掃部助。甥ニ左馬助。龍崎尾張守嫡子伊勢守。品河左京亮內下總守父子。梶原兄弟町東次郎左衞門尉。新ニ田中木戸將監。那波掃部助。嶋崎大炊介。海上筑後。同信濃守。梶原能登守。江戶遠江守。三浦備前。高山信濃守。今河三河守。同氏修理亮。板倉式部丞。香河修理亮。畠山伊豆守。筑波源八。同八郎。藥師寺ノ常陸佐野左馬助。二階堂小瀧。實（宍カ）戶大炊。同又四郎。小田宮內少輔。高瀧次郎爲初。御供ノ人不過五百騎ニハ。安房憲基努之不知此事。酒宴ニ着給。上杉修理大夫卅騎計ニテ馳來リ。犬懸入道新御堂殿。幷殿御前ヲ取立申シ。御所ヲ奉執籠。唯今是ヘ可指懸。如何悠悠渡候哉呼給。房州ハ小嘆テ何條去事アラン（マヽ）ヤ。滿隆（マヽ）先年親候者蒙恩柄命ヲ扶リ玉ヒテ。イツクテニ左樣ノ事可忘給ヤ。又犬懸入道奧州伊達ヘ罷下。赤舘ノ戰ノ時。兩國ノ奴原ニ被見限。今更何者カ値過（遇カ）仕リ去事可有ヤトテ。會テ不驚。然處又藤ノ藏人大夫。十四五騎ニテ出來リ。門ヲ扣キ。敵味方トハ不知。何樣前濱ニ軍勢衆充滿ス。打立給ヘト呼ル。其時房州實ニ心得。着物具。手ノ者ニハ先長尾出雲守。大石

源左衛門尉。羽繼修理亮。舍弟彥四郎。安保丹後守。惟助五郎。長井藤内左衛門尉。其外木部。寺尾。小幡。日倉。加治。金子。金田。力石爲初。宗徒者𪜈七百餘騎打ッ立。房州被申御所へ參。上樣未恙ヲハシマサハ御供申。是へ可奉入。若又御所中敵取卷申サハ。大藏西御門ニ火ヲ係。寶壽院へ推寄可一戰由申合處ニ。上樣是へ入玉フ。皆人色ヲ直シ。一同ニ悅ヒ合テ。翌日ハ依爲惡日。從犬懸不動佐介ヨリモ不寄。明ル四日ニ未明ヨリ佐介ノカタへ御勢ヲ被差向。先濱面法界門ニハ。長尾出雲入道爲初。房州手者𪜈圍ム。海士繩小路ヲハ佐竹左馬助。藥師堂面ヲハ結城霜臺。無量寺口ヲハ上杉侍中。氣生坂ヲハ三浦相摸人々。扇谷ヲハ霜臺父子。其外所々方々馳向陳取ナカス。同日新御堂殿ハ寶壽院ヨリ打出玉。御馬廻都合一千餘騎。若宮小路ニ御陳ヲ被召。千葉大介嫡子修理大夫。

同陸奥守。相馬大炊。賀原圓城寺爲先八十餘騎。米町面ニ扣給。佐竹ノ上總入道嫡子刑部大輔。次男ニ依上三郎。舍弟ニ尾張守。親類ニハ土佐美濃守。三河常陸。郎等ニハ河井ノ淡路。長瀨駿河。西ノ宮爲初百五十餘騎。濱ノ大鳥居ヨリ極樂寺口ニ着寄陳ヲ取。サテ犬懸ノ手ニハ入道ノ嫡子ニ中務大輔。舍弟ニ修理亮。郎等ニ千坂駿河守。子息ニ三郎。岡谷ノ豐前守。嫡子ニ孫六郎。次男ニ彌五郎。秩父大部大輔。埴谷入道。舍弟ニ平次左衛門尉。蓮沼ノ安藝守。石川助三郎。加藤將監。矢野小次郎。長尾信濃守。同帶刀左衛門尉。坂田彈正忠。小早川越前守。甥ニ彌六。矢部伊勢守。嫡子三郎。其外臼井小櫃。大義水口係。太田。神田。秋本。神崎。曾我。中村者𪜈和具ヲ爲初。二千五百餘騎ニテ。鳥居前ヨリ向東鉾(トカリ)(鋒カ)矢形ニ張陳。恪テ國々ノ諸勢集間。六日十萬餘騎ニテ。六本松ニ推寄ル。

上杉霜臺屛谷ヨリ出向テ攻鬪。岩松。澁川。入替入替戰間。上田。上野。匹田ノ右京進討死ス。霜臺モ自身深手負引退玉フ。禮部彌得力。氣生坂へ推寄。時ヲトツトアク。其時上樣ノ御馬廻ノ人々。梶原但馬守。海上筑後。同信濃守。推津出羽。園田四郎。飯田小次郎。其外卅騎計。氣生坂へ打上防戰トモ。敵ハ多勢ニメ。荒手ノ者モ馳重間。梶原但州。推津出羽討死ス。飯田海上。園田四郎。痛手ヲ負。無量寺へ取入。サテ禪秀方ニハ。二階堂尾張。同山城。其外駿河下總同名成一手ニ。二百騎計馳向。上杉侍中ノ手者モ。大庭爲初不淺手負テ引退ク。所々軍味方打負間。岩松。澁川者モ走散ヲ。國淸寺ニ係火。軍兵モ弓ノ本來(末カ)ヲ失ヒ迷ヒに(本ノマヽ)江戸ノ江州。今川近依。畠山ノ伊豆。其外宗徒人々卅餘人討死畢。佐介ニモ火係レハ。凪卷炎煙。奪日光。分不叶。上樣ハ極樂寺口へ引玉フ。房州モ御供申。

肩瀨腰越汀ヲ遙ニ打過テ。落玉フ程ニ。小田原ニ着玉フ。戾御運ノ極メカ。土肥土屋者モ。奉防戰。無勢ナレハ不叶。兵部大輔父子。今河三州爰討死。箱根別當案內者申。箱根坂ニ係リ。伊豆ノ桑名屋ニ落玉ヒテ。二三日忍ヒ御座處。狩野介伊豆ノ奧ノ者モヲ相語テ。同十日ニ推寄。走湯山ノ大衆少々馳加リ。寺中ヲ攻ム。御擧(奉歟)公人ト佐介手者。都合不レ過ニ二百餘人ニハ。矢軍時移ル計也。其後持楯突寄。武士大衆成一手ニ攻入間。寺中ニ係火ヲ。高矢倉ニテ木戸將監一同ニ廿一人自害畢。其間ニ上樣安房守ヲハ。箱根別當案內者申。駿河大森カ舘ニ落。ソレヨリ當國へ御越候。其時親ニ候者ハ。上樣御供申罷上リ。當國ノ住人ト成候。サテ岩松殿ノ御家風等。餘ニ奢テ志。國人御家人ニ依有緩怠。聽テ替國中九十日ト申セハ有御再興。親候者地盤老者ト申。依有世外ノ志。其儘此山家

候ト語ル。大夫ハ承リ。禪秀亂トテ。古老ノ申傳候ヘトモ。今始テ懇ニ承候。國ノ事ヲ他國ニテ存知候事。誠ニ燈下必闇トハ此事ニ候ト申ス。亭主宣ヒケルハ。親ニテ候者ハ。關東ノ者ニテ候ヘトモ。某ハ當國ニテ致所生候間。鎌倉殿ノ立所ヲハ不致存智候。今關東古河公方様ハ。正ク賴朝將軍御末ニテ御座候歟。大炊大夫申ケルハ。都鄙ノ將軍ノ主所ヲハ。檀那ニ候。西別府左衞門尉宗重。對赤松窂人物語候ヲ承留候。今ノ古河ノ公方様ヲハ。政氏ト申。尊氏ヨリハ七代ノ末孫ニテ御座。賴朝モ同源家ニ御座トモ。系圖少シ替候。源氏ノ姓ハ王胤ニ必可親カル。其才覺ヲ申ニ。源氏トハ先源ハ河泊野原之儀ニ候。海童娘。鵜羽葺不合尊ヲ生給シ故ニ。白海中出玉シカハ。三水トテ三ノ水ヲ篇トセリ。其三水ト者。白水。黄水（白カ）。赤水也。赤白二派ハ天地ノ二種。黄水ハ赤白合。是天地一體

ノ姿也。作ニ原ノ字也。海ノ面ハ春ノ燒野ニ似ル故ニ。原ノ字ヲ寄タリ。仁王始神武天皇マテ御座鵜羽葺合セス尊ノ嫡男也。仁王始テ此姓ヲ武家ニ下事。仁王五十六世淸和ノ御門ヨリ始レリ。ソレト申。（マヽ）淸和天皇ニ六人皇子御座。第一陽成院。第二貞ノ親王。第三貞景親王。第四貞保親王。第五貞平親王。第六貞純親王也。此第六ノ親王始テ源氏ノ姓ヲ玉ル。此貞純親王ノ御子ニ。六孫王經基源氏ノ姓ヲ繼ク。經基ノ嫡子ニ多田新發滿中ノ一男ニ。攝津守賴光。次男大和守賴親。三男多田法眼山法師。三塔一ノ惡僧也。四男ニ河內守賴信。是滿中繼跡。賴信ノ子ニ伊與守入道賴義。嫡子八幡太郞義家。義朝ノ嫡子對馬守義親。次男河內判官義忠。三男式部大輔義國。四男六條判官爲義。此爲義義家ノ繼跡。サテ爲義一男ニ左馬頭義朝。二男帶刀先生義賢。義賢御子木曾冠者義仲。サテ義朝

嫡子鎌倉ノ惡源太義平。中宮ノ大夫進朝長。二男右兵衛佐頼朝。四男九郎大夫判官義經也。此頼朝ハ不珍事ニ候ヘモ。平家ヲ追討シテ。天下ヲ捧(提カ)手ノ輪。相州鎌倉ニ御座ス。世治廿年。土御門御宇正治元年己未正月十三日。御年五十三ニテ御逝去。嫡子左衛門督頼家。是ハ五年治世。御舍弟右大臣實朝ニ世ヲ渡玉フ。此實朝ハ歌道ノ名人ニテ御座ス。十七年治世。承久元年正月廿七日戌刻。八幡宮有御社參時。社内ニテ。御年廿八ニテ被誅玉ヒ候。是ハ頼家卿ノ御子。若宮別當公曉阿闍梨ノ心得ト承及候。實朝ニ依無御子。藤原朝臣攝政道家卿ノ御子(大岳殿)頼經卿。受將軍宣旨有下着。御母ハ太政大臣公經ノ女也。頼經御幼少ノ間。北條四郎平時政女頼朝ノ後家二位ノ尼公御代官トメ。七年計ヒ給ヒ。頼經有御成人任權大納言。廿ケ年治世。寛元二年四月嫡子左中將頼嗣ニ世ヲ渡玉。翌年御上洛。祇園小路若松殿二十年御座。卅九ノ御年隱玉フ。今ニ至テ人皆申傳ル最明寺殿ハ。此頼嗣ノ御後見。最明寺ハ平時政二男ニ義時。義時一男武藏守泰時。泰時嫡子修理亮時氏二男也。舍弟ノ經時ニ被護跡成御後見。俗人ニテハ相摸守時頼ト申セシ也。天下ニ無隱屆直ノ人也。頼嗣ハ九年持世ヲ。建長九年四月有御上洛。於京都御年十八ニテ頓死シ玉フ。仍都鄙有調談。當帝八十七代後嵯峨院第二皇子。一品中務卿宗尊親王十一之御年。於仙洞有御元服。受將軍ノ宣旨ヲ。鎌倉有下着。十五年治世。御子左中將惟康親王有御遺跡御上洛。土御門ノ御所ニテ御年三十三ニテ隱玉フ。サテ惟康親王ハ。文永三歳ノ御時蒙將軍宣旨。廿四年治世。正應二年九月有御上洛。同十二月六日逝去シ玉フ。依無御子。本院九十一代持明院皇子一品式部卿久明親王ト申御年七四歲ニテ有下

着。廿年治世。御子守邦親王ニ世ヲ渡玉ニ御上洛ト云々。扨守邦親王ハ廿五年。元弘三年迄。始賴朝ヨリ至于此守邦ニ九代ノ間ヲ先代ト申也。此赴ハ東鑑ニ具ニ注セリ。是先代九代ノ間ヲ記ス書也。六十卷有之。自宗尊至守邦宮ノ將軍ト申。關東諸侍ニ綸旨院宣ナト、テ被持。大途ハ宮ノ將軍ヨリ被成候ヲ申候ナル。此守邦將軍御時。元弘三年癸酉五月。足利治部大輔尊氏出世メ。北條ノ末孫平ノ高時ヲ追伐メ。天下被召。仍二位尼時ヨリ守邦迄ハ關東モ京都モ兩奉行也。其時ノ關東ノ兩官領ハ相摸守高時。一人ハ右馬守義時也。元弘三年五月十八日高時於山内自害シ。義時ハ廿二日於殿中自殺ス。此時東一返シテ成御當家ノ代ト云々。仍御當家ト申ハ。足利治部大輔尊氏將軍以來ヲ申候。是ハ同源氏ニテモ。八幡太郎義家ノ三男。式部大輔義國ノ末ニテ御座。其レト申ハ。

義國ノ一男ハ矢田判官義淸。次男足利上總守義包。赤御堂殿ト申。是世ヲ渡シ玉フ。三男ハ近江守義助。桃井殿先祖是也。サテ義包一男ニ。長氏ハ吉良殿ノ先祖。次男ニ足利左馬頭義氏。義氏一男河内守泰氏。足利平右殿ト申。御子四十三人御座。泰氏二男ハ家氏。是志和殿先祖。次男澁川次郎義顯也。三男足利治部大輔賴氏御子伊豫守宗時。宗時御子貞氏。貞氏御子足利治部大輔尊氏。尊氏一男直冬。是ハ依父子不和北國ヘ忍御座ヲ。故相國引寄御扶助有之。二男左大臣義詮洛中ノ將軍也。義詮ノ御子ニ太政大臣義滿。鹿苑院殿ト申。此御子太政大臣義持。勝定院ト申。此御舍弟太政大臣義敎。普光院殿是也。以上京都血脈也。サテ尊氏ノ三男ニ四位中將基氏。是關東ノ將軍也。瑞泉寺殿申。基氏嫡子ニ左馬頭氏滿。永安寺殿是也。此御代ニ關東十ケ國悉歸伏。氏滿ニ御子五人御座

ス。嫡子ニ左馬頭滿兼。關東御遺跡勝光院殿ト申。二（マヽ）男滿貞。陸奥ノ大將トシテ有御下向。篠河ノ御所是也。三男滿隆。新御堂。四（マヽ）男勝長壽院。五男滿秀。大御堂殿是也。サテ滿兼御子左兵衛督持氏。長春院殿ト申。是ニ六男御座。一男賢王殿。二男春王殿。三男安王殿。四男永壽王殿。次四人ハ御出家也。五男社家ノ上弘尊僧正。六男長春院殿也。一男賢王殿ハ永安寺ニテ御自害アリ。春王殿安王殿ハ美濃國ヘ御落候ヲ。大井殿扶佐アリケルヲ。以後ニシテ長尾左右衛門入道昌賢引小奉成將軍。四位少將成氏是也。乾亭院殿ト申。成氏獨（嫡カ）男左馬頭政氏。是當公方ニテ御座ト語ル。亭問曰。何トテ兩三人若君ハ御生害候哉。答。其事ニ候。傳承ニ京都將軍義持依無御息。關東ノ持氏ヲ成猶子。御重書御重代□渡御申候。義持死去ノ後。御舍弟ニ二位公靑蓮院殿叡山ノ座主御座ヲ引下シ奉

仰ニ將軍。依之內々持氏京都ト御氣色惡時分。賢王殿御元服ノ事。於天下可爲冠親者。官領安房守ニ有御談合。憲實ハ都鄙御一統ノ以操。於京都御元服可然由ヲ申サルヽ。依之御氣色惡ク。御元服ヲ安房守ニ不被知。去程ニ上下ノ御間如水火。王ニ有雜說間。憲實ハ山內ヲ白井ヘ引籠。京都ヘ訴ヘ被申。軈テ義敎有ニ御勢仕。永享十一年二月十日。於宅間永安寺。持氏御自害。永享ノ亂是也。春王殿。安王殿ハ日光山ヘ御落候ヲ。結城七郎重代ノ君ニテ御座トテ。御迎ニ參。結城ヘ入申處ニ。憲實重テ都鄙ノ軍勢ヲ催シ。結城ノ館ヲ押落シ。若君兩人奉虜籠。輿ニ乘申。長尾因幡守御供申致上洛處ニ。京都上意下テ。濃州垂井ノ道場ニテ。嘉吉元年三（四イ）月御生害アリケルト語ル。亭主一々聞テ。サテモ利根如此覺サセ給フモノ哉。年來望ニ候ヲ承候。扨又上杉殿ノ御先祖ノ樣體ハシ。御存知候

哉。大夫是モ擅那ニ候老大方雑談被申候ツル。上杉殿御先祖ヲハ。勧修寺ノ左大臣重房ト申。是ハ宗尊親王鎌倉御下向ノ時。介錯トシテ下着アリ。其時丹州上杉庄ヲ玉リ。武家ニ下リ。修理大夫ヲ任。左衛門督ニ御供アリ。此重房ヲ足利治部大輔頼氏聟ニ取御巾（マヽ）候。伊豫守家時ハ。上杉修理大夫殿ノ御孫子也。サテ重房嫡子ニ大膳大夫頼重。法名聖尊。文武二道ノ達者也。偖頼重嫡子ニ兵庫頭意（憲カ）房。法名道欽。道號雪溪。丹州ニテハ瑞光寺殿ト申。於京都揚名殿ト申。尊氏將軍依爲御親類者御同心。四條河原ノ合戰ニ討死シ玉フ。彼嫡子ニ民部大輔受領。安房守憲顯。法名道昌。道號佳山。此御代ニ上州豆州越後三ケ國御知行アリ。關東官領職ノ始也。應安三（元）年戊申九月菩提所トシテ。伊豆ノ國清寺ヲ建玉フ。國清寺殿ト申是也。憲顯無御子故ニ。御舍弟宅間ノ伊豆守重能御子兵部

少輔能憲ニ官領職ヲ渡玉フ。敬堂道謹報恩寺殿是ナリ。其次ニ安房守憲方。康暦元年己未四月廿日官領職玉リ。始テ山内ニ御座。應永元年甲戌十月廿四日六十歳ニテ御逝去アリ。道號天樹。法名道合（令イ）。明月院殿是也。其次ニ安房守憲走（定カ）。應永十二年八月十七日官領職玉リ。同十九年壬辰十二月十八日卅八歳ニメ死去。大全長基先照寺殿也。次ニ右衛門佐氏憲。一兩年爲官領職。法名禪秀。次ハ安房守憲基（アキ）。應永廿二年五月十八日官領職玉リ。露憲想奉行也。同廿五年正月四日卅四歳ニメ逝去シ玉フ。海中（印カ）（心イ）信元宗德院殿是也。次安房守憲實。是ハ越州民部大輔房定二男海印猶子也。六歳時關東ヘ越山アリ。對主君被犯重罪（ヲ）間。御子四人御座。三男ノハ伊豆奥ニ捨置。德丹清藏主兩人引（ニ）州上方ヘ被成行脚。應仁元年丁亥於（シ）周防國逝去玉フ。高岳長棟庵主是也。次右京亮憲忠。是

ハ長棟ノ三男。享徳三年十二月廿七日。於鎌倉西御門御生害有。大詔長釣興雲院殿是也。次ハ憲忠御舎弟。兵部少輔房顯。文正元年丙戌二月十二日。於五十子病死。清岳道純大光院殿是也。扨當屋形樣ヲハ顯定ト申。是ハ當國ノ相摸守房定二男ニテ御座。語後而書之。顯定ハ。御年十四歳時關東有越山。四十三年御座越州御舎弟九郎房義臣家臣長尾六郎爲景ト有鋒指鋒楯歟終雨溝ト云地ニテ被召御腹候。依之顯定爲散欝憤。永正六年七月廿八日。武州御立。翌月越州有發向。國中大概屬御本意。爲景越州境雖追越西濱ヲ。翌年士一揆代リ。六月廿日御年五十七ニメ有御生害。法名咕峯可淳ト申。亭問曰。憲忠ハ依何ノ義於西御門御生害候哉。大夫答。根本ヲ申ニ先大方如申候。持氏生害上ハ。永壽王丸迄信州御落候。憲忠ハ龍若子トテ。伊豆ノ奥ニ御座候ヲ。關東無主ニテハ如何ト被

思。長尾昌賢永壽王丸龍若子ヲ引出申。一質ニ奉補佐。受天氣。嗣テ有御宮御元服。成鎌倉入天下一統ニメ。國家豐饒也。而ルニ成氏持氏御生害ノ挿御野心。憲忠ヲ生害サセラル、。此時又上杉相分テ。日夜朝暮ノ合戰也。然ハ上杉御一家。長尾一類者有調談綸旨ノ御旗ヲ申下シ。御人體マテ被引立間。成氏終ニ不叶。古河エ被入御馬。至今御座アリ。近年越州民部大輔殿顯定ニハ。御親父ニテ御入候。且ハ爲國家且ハ爲諸人。若干ノ以煩御合體ヲ被成御申。今ハ關東一統ニ候ト語ル。亭問曰。禪秀亂ヲハ親候者語候ヘトモ。禪秀ハ何ナル流ト云事ヲ申サヽリシ御存知候哉。答。禪秀ト申ハ國清寺殿佳山ノ御舎弟ニ中務少輔憲賢。憲賢ノ嫡子ニ彈正少弼朝房。此朝房ハ信州上總兩國知行候。攝州渡邊河原ノ合戰ニ討死候。彼御舎弟ニ中務少輔相宗。法名禪序山内德泉寺殿

ト申是也。此御子ニ右衛門佐武意法名禪秀也。亭問曰。上杉殿ハ源平藤橘ノ中ニハ何氏ソヤ。答。上杉殿ハ藤原氏ニテ御座ノ。四家ノ起ヲハ定可有御存知候ヘトモ。藤原ト申ハ。仁皇卅六代皇極天皇（中大兄御母）ノ御宇。豊浦大臣ノ子入鹿天下ヲ恣ニスル故ニ。中大兄ノ皇子與鎌子廻謀。入鹿ノ誅ヌ。鎌子ト申ハ天津兒屋根命ヨリ廿一世ノ末孫也。中大兄ノ皇子ト申ハ。舒明天皇ノ皇子。天智天皇ノ御事也。天智天皇位ニ卽玉テ。鎌子ニ改中臣。初テ藤原ノ姓ヲ玉ル。鎌足（是ヨリ丸ニ）大臣大織冠是也。（テ不足信用可用日本紀説）今ノ藤原氏ハ皆此末也。亭問曰。何トテ鎌子トハ付給候哉。答。字ヲ鎌子ト曰事。鎌子ノ親中臣。依入鹿讒言。常陸國鹿嶋ノ宮中ニ被流。送二年懷姙誕生ノ砌ニ。狐鎌ヲクハヘテ來テ曰。以此鎌ヲ可レ治ニ四海ヲ。任此瑞相號鎌子。中臣不思議ノ成レ思ヲ。此鎌ヲ不レ離レ身。其秋暮中臣ハ卒シ玉フ。然ニ上代ハ自ニ國々一八内カ

裏ヘ傍仕ノ勤ム。鎌子十六歳ノ時。當傍任仕參内ス。其時母曰。汝カ亡父中臣ハ。元於ニ禁中一宮仕申タリ。依ニ入鹿讒言一此國ニ被レ流。入鹿ハ爲レ汝カ親ノ可レ敵ナル可得其意敎。又此鎌ハ幼少ノ時。如此靈鎌也。懇ニ語テ與之令上洛。然ニ入鹿天下ヲ恣ニスル故ニ。中大兄皇子入鹿ヲ擬レ誅ッ何ノ叡覽アリケルヤラン。鎌子ニ被密議ヲ勅玉テ。鎌子自元心懸ル故ニ。速ニ返答仕リ。時節ヲ伺フ。入鹿モ權化ノ者ナレハ。無ニ心靈一者ト奏聞ノ。位ニ直シ見其色引寄成聟。一生一子。鎌子謀ニ化盲目。入鹿有時聟盲目ノ爲レ試ニ實否ヲ炎上ヨリ當方ノ子ヲ懷玉ヘトテ與ル。態取ハツシテ炎上ニ落ス。其時入鹿急キ孫ヲ取上思樣。人倫ハ不及申。鳥類畜類ニ至迄子ヲ思ハヌ物無之。サテハ實ニ盲目ニ成ケルヨ。哀也トテ心ヲユルス。然ハ入鹿酒宴ニ戲ル丶得レ時ヲ。件ノ靈鎌ニテ入鹿ヲ誅ス。酬ニ此賞一藤原ノ姓ヲ

玉リ。號ニ鎌足大臣大織冠ト。如レ意達ト思。故ニ與足ノ字ヲ。想(惣イ)メ不レ限ニ入鹿追伐ニ。從祖ノ業先功無比類ト申ハ。天照大神イマタ大宮ニ御座時。御名ヲハ天ノ孫ト申。此時天津兒屋根ノ命(ミコト)ニ對メ神勅アリ。我下界ニ降。蘆原ノ主ト成。國家ノ衆生ヲ利セント思。汝補佐セヨ。兒屋根答曰。君ハ天子ノ相御座々。急彼界ノ成主ト玉ヘ補佐申ント約諾メ。下界ニ下玉フ。今ノ春日ノ明神是也。此天津兒屋根ヨリ。中臣ハ廿一世也。先功ト曰。當忠ト云。旁以願ニ此宮ヲ也。問曰。大織冠(冠ノ名アリ)ト申ハ何程ノ高官ナレハ被レ下忠功ニ乎。答曰。北畠ノ大納言親房卿ノ紀ニハ。冠ノ名トアリ。正一位程歟。正一位ハ橘諸兄公。藤仲麿。藤永手三人叙之。今ハ神ヨリ外ニ正一位ニ上ル人無之。故ニ其後ハ神位ニ極ル。贈位人之大織冠ハ。織物ノ緣立入タル是ヲ着スル人ノ袍ハマキ紫也。問云。於藤原四家ノ流ト申ハ何

ナリヤ。答。鎌足男不比等一男左府武智麿是ヲ云ニ南家ト。次男相公從三位房前是ヲ云ニ北家ト。三男三木從三位式部卿宇合此流ヲ式家ト云。四男左京大夫麻呂是ヲ京家ト云。式家京家ハ絶タリ。南家モ今ハ儒胤僅ニ相續ス。今攝政殿下及ヒナルヘキ藤原氏ノ人々ハ皆北家ノ流也。是併佛法ノ威力。大師空海効驗也。其次ハ淡海公ノ玄孫々閑院左大臣冬嗣ノ御時。藤氏ノ哀フル事ヲ歎キ。弘法大師申合。興福寺ニ南圓堂ヲ建テ。氏族繁昌ヲ祈申サレケルニ。明神役人ニ交リ。補陀洛ノ南ノ岸ニ堂タテ、今ソ榮ヘン北ノ藤浪ト。其時ノ御詠歌也。北ト云北家ノ御事也。上杉殿我等カ檀那別府又ハ玉井(奈)業良。成田モ皆藤氏北家ニテ御座候。亭主問曰。元々藤原ニ十三流ト申事ヲ承候ツル。如何。答。左様ノ一説モ候ツレ。ト申ハ上ノ四流ニ第五ニ大納言眞楯(淡海公孫ナリ。)第六正三位内麻呂。(眞楯)

子。第七明院左大臣冬嗣。内麻呂子。仁明天皇ノ御后ハ此御子也。第八中納言長良卿。冬嗣一男。陽成院ノ御后ハ此御子也。第九太政大臣良房。又忠仁公トモ申。冬嗣二男。文德天皇ノ御后御子也。第十昭宣公基經。良房御子。延喜御門ノ御后ハ此御女也。第十一攝政關白忠平。昭宣公御子。第十二九條右大臣師輔。第十三太政大臣兼家號ニ法興院。或說ニハ御堂關白道長兼家御子。加之。十四流ト云也。問曰。御檀方別府玉井殿四家ハ。武藏ニ聞候七黨ノ内候歟。答曰。各別ニテ候。位ノ高下ハ不存候。何樣上代ヨリ公方ニテ。八黨之者モ四家ノ面々ト被召候。是ハ持氏卿ノ御代ヨリ於殿中ニ。日々記ノ役人法界坊ト申人自言ニ申サレキ。亭主問。四家ノ藤氏ト云引付候哉。答。西別府ノ郷ニ犬六ト申大伽藍候。此住持ニ周亂藏主トテ。及八十所翁被渡候。此傳被申ツルハ。當寺伽藍初ヨリ一尺五寸ナル大黑候。此被負候袋ノ中ニ一卷ノ書アリ。取出シ見レハ。當寺開基ノ樣體。又ハ四家ノ由來ヲ具ニ注シ置候。其書ノ赴四家ト申ハ。淡海公十代ノ末孫。關白道長孫子式部大輔任隆。武州ノ大守トシテ御下向有之。幡羅ノ郡御座ス。郡從稱之號幡羅太郎。此曾孫ニ成田三位式部大輔助隆。是藤氏ナレトモ。八幡殿ノ伯父ト申傳タリ。安部貞任宗任爲御追伐。奥州ヘ御下向ノ時。助隆ハ時ノ大將軍ニ御座トテ。八幡殿ヘ有ニ御出仕。八幡殿ハ伯父ニテ御座トテ。助隆ハ御出仕アルトテ。中途ニテ行合御申。互ニ下馬アリ。サレハ至今迄。成田下馬カ橋トテ有之。諸侍當時モ下馬ス。此助隆ニ有四人子。次男ニ左衞門督侍從三位行隆是別府也。三郎ハ奈良。四郎ハ玉井嫡子次男云々。

旅宿問答上下元一巻ノ書ト見ユ。
此紙ヲ挾ミ申候處ヨリ下巻ニナル帳數六
十丁計リユヱ一巻ニ仕立。御見合ノ爲ニ
仕切紙ヲ入置申候。

サテ別府ニハ。東西名字ニテ候。亭問曰。何レカ惣領ニテ候哉。答。ヲレ委クハ不存候。何様檀那ニ候西別府ハ。代々左衞門ニテ候。サレハ代々先祖ノ墓モ並立候。何ノ墓ニモ甲斐ノ權守左金吾ト切付候。誠ニ宏才覺候。上卿四條ノ中納言藏人頭左大辨藤原仲房御名所ニテ。文和二年四月九日日付。靭負尉宣旨被成之候。靭負ト申ハ左衞門尉靭負役人ニ候間。爾カ申也。或郷ノ相(惣)鎭守伊殿モ西別府ニ御立候。九體丈六。又代々先祖ノ菩提所西ニ立候。肝要祖父助隆東西ノ至四傍示書テ被讓。行隆讓狀モ。西別府ニ候。至今西別府ニハ北南西トテ。三人ノ庶子候。東ハ是カト見テ候。亭問。何ノ頃ヨリ東西ト分候哉。答。行隆ノ子ニ左衞門督行助。治部少輔義行トテ兩人候。義行。東行助繼跡(トカ)候。攝州一谷ナトヘハ爲代官。東小太郎立テ見テ候。其時小太郎西國ヨリ一筆モ。至今旦那文書ニ被副置候文書モ。古別府ト書候ハ。助隆以前ヨリ別府ト云者有之事ヲ顯テ。古ノ字ヲ置レ候歟。亭問。九體丈六ト申ハ佛歟。菩薩歟。答曰。應身佛果長サ一丈六尺ノ佛ヲ丈六ト申候。九體御座候事。九品ノ敎主阿彌陀如來ト申說モ候。又過現未ニ各釋迦。彌陀。藥師御座候。三佛ヲ顯スト云說モ候。大途阿彌陀ニテ御座候。其故ハ本尊妙觀察智ノ定印物ノ八體ハ皆三身說法ヲ結列レテ被渡候。此堂ニ昔ヨリ袋佛トテホテイノナリシタル物ヲ懷。龕面第一ノ年寄佛。一體被渡候。是ヲハ頭陀上手ノ迦葉ト云人モ候。又布袋ト申モ大途加葉ニテ被渡候。

此堂當初ハ三佛大佛ニテ御立候。ソレハ淡海公ノ開基ト注候。九體ニ造副候事ハ。行隆ノ再興ト見ヘテ候。亭問曰。玉井殿ト申ハ。權現カ明神カ。答。大明神ニテ御座候。惣ノ波羅ノ郡惣鎮守伊殿トテ。彼郡內ニ所々ニ御立候。是ハ春日第二王子。神形ハ武具立テ蘆毛馬ニ被召。本地ハ大聖文殊也。亭問云。天下大キニ分テ。源平藤橘ノ四家ト申ハ。何頃ヨリ初候哉。答曰。橘氏ト申ハ。仁皇卅一代敏達天皇ノ御末。平家ハ五十一代ノ御門桓武天皇ノ末。藤原ハ卅九代天智天皇ヨリ。源氏ハ五十六世清和天皇ノ御末。小野在原ハ五十一代平城天皇ノ末孫ト承及候。尋云。サラハ藤原計臣家ノ流レニテ御座候哉。答。此氏餘家ヨリ尙々高位ヲ顯候故ハ。鎌子以直勅異敵ヲ平ケ酬ヘテ。其賞ニ所給氏宮(宦カ)也。サレハ大織冠ト申。先刻申顯候主宮ノ最頂也。神官ニ司リ候。去ハ至今ニ此官侵者無之。是天下無双ノ名官。朝家賞翫ノ姓氏也。殊ニ藤原ハ天津兒屋根命ノ末ニテ。人ノ非按量。問云。先刻御檀方西別府哉覽。以宣旨成下靭負尉。代々左衞門ナレハ想跡ト候。左衞門ノ唐名ヲハ金吾ト承及。靭負ト申事珍敷候。如何。答。御不審尤候。靭負ノ司ハ。ヱヒラニ靭ヲ負役官ニ候。サレハユキヱハ靭負書候。惣ノ靭負羽林ノ唐名ハ六衞三將ニ可宜ル候。先六衞ト申ハ。左近衞。右近衞。左衞門。右衞門。左兵衞。右兵衞也。三將ト申ハ。大將。中將。少將也。是ハ何レモ帝王守護ノ武官也。內裏ニ有事時。此六衞三將。各靭負六列タルヲ見レハ。全體羽ノ林ノコトクナレハ申也。去程ニ。羽林靭負六衞三將ニ可宜モ。以左衞右衞武勇ノ爲最官。故ニ靭負ノ主サニ立以中將少將ヲ弘張ノ官ニ名付。故ニ羽林ノ主サニ立候。問云。左衞門ノ位階昇進ノ樣承度候。如何。大夫カ申ケルハ。且

那ニ候宗重。今ノ通ヲハ雜談被申。位階昇進ノ方ヲハ不致存知申。心玄阿闍梨聞之。某於武州仙波ニ致學問候時。近衞殿ノ御子ニ少將殿ト申候。同學仕 智音仕。常ニ官位ナトノ雜談承候。左衞門下官ハサウクハンニテ候。是ハ田舍ニテ節々不聞官ニテ候。於此志大小候。小志ハ從八位。大志ハ正八位ノ下ニテ候。志ト申ハ縦郡士ナトノコトクニ。其司ノ内ノ何事ニモ有之。ロヲ副成綺ヲ使官也。サレハ物ニ綺顏ヲスル者ヲサウクハンクスルト邊土ニ申ハ是也。サテ其ニハ尉ニ進ニ候。於尉大小候。小尉ハ正七位。大尉ハ從六位下ニテ候。今時分田舍ニハ不レ分二大小一ヲ。只尉ト計成ト見テ候。其上カ佐ニテ候。是ハ從五位上將軍ニ肩ヲ入ト見テ候。此司ハ督ヲ補佐仕候。其上ニハ督ニ成候。是從四位下。當官ノ家督ニテ候。此時大將ニ肩ヲ入候。疑曰。大將々軍ハ同位ト存候ニ。別位ノ樣ニ聞ヘ候如何。答曰。既ニ大將ハ四位。將軍ハ五位ニテ候。大將ノ唐名ヲハ幕下ト云候。是ハ幕一帖ノ下ヲ領ス。其軍徒ノ棟梁迄ニテ御座候。サテ將軍ト申ハ。大將ノ詞ヲ受テ軍兵ヲ令下知候。疑曰。於關東御所ヲ將軍ト申。官領ヲ大將ト申ハ逆義候哉。答。官位相當ノ抄ヲ可有披見候。三將ノ時ハ大將ヲ從三位ト注シ。中將ヲ將軍ト注シ。從四位上ト書候。サテ六衞ノ時ハ督ニ大將ト注シ。位ヲ從四位下ト云。佐ニ將軍ト注シ從五位ト書候。但坂東ノ習ハ如何。サテ左衞門大夫ト申ハ如何。答。大夫ハ官務ノ司ニテ候。サレハ大夫ノ唐名ヲハ二千石ト申。是官德二千斛ニテ候。斛ヲ石ト書候事。一斛日ノ石ニテ令科量故ニ候。亭問曰。親ニ候者ヲハ大膳大夫ト申。某ニハ被下彈正忠。此兩官ノ高下如何。玄曰。大膳ハ内裏ノ膳部職。彈正ハ掌糺彈ノ事云テ。洛中ノ糺非違官ナレハ。彈正高官ニ

テ候大膳ト申ハ膳部ニ取ニ麁末供御ノ獻候。サテ味食ノ供御ヲハ内膳職ヨリ奉候。麁末供御ト申ハ。三杵米トテ。如何ニモ麁穀ニ候。是ヲハ紫宸殿ニ朝餉ノ間。夕餉ノ間トテ有之。上代ハ日三度宛是ヘ行幸アリ。此時奉是御祭膳也。當時ニハ朔日。十五日計ト承ル。職原抄大膳者掌所ニ饗膳云。是ハ公卿大臣節會ヲ行時。其儀式ヲ大膳知之也。其時大膳ニ過分ノ引物等有之。節會ト申ハ於大裏大饗ヲ設ケ。公卿大臣ヲ饑（モテナシ）也。是ヲ節會トモ饗トモ申。毎年五節ニ供之勤之。太政官ノ成大臣其儀式ハ。公卿。妃達。如天女出立舞之。誠見事也。此節會ノヲコリハ。天智天皇ノ王子ヲハ大友ト申。天武ハ天智御弟也。然ニ依天武御器用讓位給。雖然大友ニ心ヲ兼。憂世ノ無望トテ有御出家。吉野ノ奥ニ引籠。玉ヲ爲レ露。此意天ニ訴リ御座ス時。天理リヲ感シ天女ヲ降。五節ノ袖ヲ飜シ玉フ。

其ヨリ吉野ノ奥ニ袖振山トテ有之。學之五節會毎年有之。是ヲ遍照僧正歌ニ。天津風雲ノ通ヒ路吹トチヨ乙女ノ姿シハシト、メン。今乙女ノ姿見ル樣ニ遊シ候。サテ大膳下官ハ屬ハアマタ候。但依官文字替候。其上カ進ニ候。是ハ六位ノ侍任之。助丞ナト、同位ニ候。其上ハ亮。是ハ從五位下ニ相當ス。諸助一位昇候。其上大夫。是ハ正五位下ニ候。是者名家人任之。花族殿上人强ニ不任之。左京右京大膳三職ノ中ニハ。大膳職ヲ沙テ爲下職。此三職ハ位階ハ同之。サテ彈正ト申ハ職原抄ニ掌ル糺彈事ヲ禮義位階等ヲモ能ク糺。公卿大臣法印僧都ノ會合。威義法度迄モ知之。洛中洛外ノ順道非道ヲモ能能糺ス職也。サレハ彈正ノ二字ヲハマサシクタ、スト讀候。サレハ唐名ヲ號ニ霜臺ト事ハ。霜ノ萬草（サクワン）ヲ枯スコトク。爲犯人ハケシキ義ニ候。此職ノ下官ハ疏ニテ候。此疏ノ字ヲハワクル

ト讀候。此司ノ者京中ヲ疏テ。善惡ノ犯否ヲ糺シ。忠尉ニハ其々ニ被行候。其上ハ忠ニ候。此忠ノ字ヲハマツリコト、讀候。其上ハ小弼ニ進ミ候。是正五位下ニテ候。弼ノ字ヲスケト讀候。助スケハ六位ニ候ヘトモ。此弼ハ五位ニ候。其上ハ大弼ニ昇リ候。是ハ從四位下ニ候。其上ノ極官ハ尹ニ候。是從三位ニ候。忠ハ正六位上ニ候。隼人正ナト同位ニ候。亭問曰。兄ニ候者ヲハ玄番允ト申。其被官ニ圓曰(ツフラタ)ト申者ニ治部少輔ノ官ヲ與ヘ候如何。玄曰。是ハ大ニ越度也。被(彼歟)玄番諸陵(ミサヽキ)雅樂助治部少輔ノ被官ニ候。上下混亂ニ候。誠ニ官位御不知案內ノ故歟。サテ唐名鴻臚卿トモ又鴻臚寺トモ申意如何。答。鴻ハ喉ノ廣キ鳥也。此玄番寮ニ居ル者ハ。廣才人也。廣才有智ノ者ハ口內廣ク。辨舌自在也。サレハ異國ノ人來時ハ。必玄番寮人問答スル也。此居ニ任スル者ハ。四書。五經。三史。十三經。異朝。本朝。天竺。天上ノ事ヲモ廣ク知候者ノ字ヲハエヒスト讀候。異國胡(エヒス)ト云意也。サテ鄕ト云ハ。都ノ意。寺ト申ハ寺ノ初。此玄番寮ニ立候。其ヲ申ニ。後漢ノ明帝ノ時。天竺ヨリ初テ摩騰伽竹法蘭ノ二人ノ聖人佛教ヲ白馬ニ負來玉時。此玄番寮ニ始テ白馬寺ト云寺ヲ建。佛教ヲ奉安置。是唐中(土歟)寺ノ初也。日本ニハ仁王卅四代。推古天皇ノ御宇ニ。百濟國ノ清明天皇御教ヲ越玉。此時聖德太子初テ漢土移ス儀式。玄番寮ニ初テ四天王寺ヲ建玉。此下官屬其上允。於之大小有之。小允從七位上。大允ハ正七位下。次ニ助。是ハ正六位下。其上頭。是ハ從五位上也。寮ノ頭助允ハ皆位階此分ニ候。問云。諸陵ナト申ハ如何。是ハ庿廟事ヲ知官也。若賀茂ノ陰陽師ナトハ不知。自餘不任官ニ候。雅樂寮ニハ音樂歌ナトノ十七リヲ直チニ律等ノ調子ヲ知官ニ候。問曰。治部ハ何程ノ位ニ候

哉。答。治部ハ八省中ハ非上官モ。非下官モ。中官ニ候。問曰。八省ト申ハ如何。同位階ノ淺深承度候。答。八省ト申ハ第一ニ中務。第二式部。第三治部。第四民部。第五兵部。第六刑部。第七大藏。第八宮內ニテ候。此八省カ內裏左右ニ四人宛搆テ。官仕被申候。左ノ首申中務省ニテ候。此中務ヨリ七省ヲ被省候間。省ノ字ヲ置候。此省ノ字ヲハク、ムトモ讀申候。サテ右ノ首ハ式部ニテ候。此八省ハ何モ位階ハ錄丞少輔卿ト次第ニ被昇進候。先中務ト申ハ。職原抄ニ宮中ノ事當省ニ可統領也ト矣。禁中ヲハ何事ヲモ中務ノ所知也。仍唐名號中書。萬端宮中ノ事ヲ書注刷故也。或又天子皇后ノ中立ヌ。兩公ヲ刷申故ニ中書ト云。サレハ抄ニ。以尙書爲南衞。以中書爲北司矣。尙書トハ太政官ノ唐名ナリ。南衞ト申ハ天子ノ御殿也。內裏南面也。此南衞ニ太政官ノ公卿集テ。奉守護天子。以中書爲北司者。北司后ノ御座也。中書居シテ皇居ヲ守護ス。故ニ八省ノ中ニ爲上首。サレハ鳳閣トモ唐名ヲ申。是ハ鳳ハ鳥也。衆鳥ノ中ノ王ナル故也。仍圖書。內藏。縫殿。內匠。陰陽。天文。漏尅等ハ皆中書ノ被官也。圖書ノ唐名ハ秘書ニ候。是繪像。佛像。經卷。四書。五經等。其外ノ書籍等圖シ書文官也。是モ位階。頭。助。允。屬。玄蕃。雅樂等ノゴトシ。內藏寮大藏ハ。廣ク六十六ケ國ノ財納知官。內藏ハ禁中ノ御藏ヲ知。御服類ニ御膳穀物等計也。サレハ唐名(マヽ)ヲ倉部ト云。倉ハ藏也。又小府トモ申。府ハヲタ也。是藏ノ簡要也。縫殿掌裁縫事官也。是モ位階。屬。允。助。頭ト進候。六位ノ侍任之見テ候。陰陽寮ハ無邊土官也。唐名ヲハ號大吏。是ハ天臺天文曆數等司。天文トハ日月星辰慶雲壽星也。曆數トハ天地開闢以來ノ事ヲ勘。(昔カ)者ハ兩道ヲ一人シテ傳之。然ニ賀茂ノ保憲天文ノ道大切

ナル故。任器用ニ弟子ノ安部ノ晴明ニ傳ヘ。曆道ヲハ其子光榮ニ傳。從是兩道分タリ。內匠寮モ位階昇進如前。是ハ禁中ノ一切事ヲ知テ。委細ニ注禮ニ置官也。內ハ禁中ノウチ。匠ハタクムト讀。從莚ヲハ草ニテ匠ミ。家具ヲハ木ニテタ(クカ)ヽミ。竈鍋ヲ鐵ニテ匠ム。此等ノ類悉ク知官也。唐名ヲ中尙ト云。尙ハクハシキ義也。又ハ田舍ニハ小府トモ云ナラハス。府ハフタノ心也。漏尅博士ノ事。是ハ田舍ニ一向不用官也。時ヲ守ルヲ司ル。漏ノ字ヲモルト讀。刻字ヲハキサムト讀。是ハ時節ヲハカル時銅ニテ壺ヲ作。一時ヲ十二分ニ刻。一日六時ヲ七十二ニ刻ミ。是ニ水ヲ入テ。一ノ刻モル間ヲ一刻トシテ點ヲ打也。惣メ漏刻ト云事ハ。源候時守ノ廬山ノ遠法師ヨリ始候。其ト云ハ。遠公爲知時。蓮花漏トテ蓮花ヲ作リ。中ニ身ヲ立刻ミ。水ヲ漏テ時ヲ知也。仍唐名ハ司農。農ハホシ也。又挈壺トモ云。ツホヲヒツサケルト讀候。第二式部省。唐名ハ吏部也。吏ヲハ外典ニ式也法也ト注ス。サレハ抄ニモ國家典皆此官所統也矣。典ト云ハ法ノ義。章ハ文義也。所詮義或法度ヲ司ル官也。サレハ中務ハ文武兼帶ノ官。此省ハ偏ニ文官也。サテ八省何モ錄。丞。少輔。卿ト進候。但式部以下ハ何モ同位ニ候也トモ。中務ノ一省ハヒト位充上候。其ト申ニ。中務ノ卿ハ正四位上。大輔ハ正四位下。少輔ハ從五位下。丞正六位下ニメ一位ツヽ下カリ候。大學。記傳。明經。助敎。直講。音博士。文章博士。筭博士等ト皆式部被官ナリ。大學ト申ハ抄曰。大學寮ハ四道儒士出身ノ所ニ和漢最モ爲重職矣。四道トハ記傳。明經。明法。筭道中。此大學寮ハ公卿公達儒者ノ學問所也。此寮ニ東西ニ有二曹。東ハ菅家。西ハ江家也。曹ト者局也。位階ハ八省ノ被官ニ皆同位也。サテ以博士是世上ニ走廻非

筭置ノ天地闢ノ事ヲ勘ヘ知也。大學ノ唐名ハ國子也。大途國ヲハ以文治ルカ長久也。記傳。明經等ノ沙汰邊土ノ非所用。第四民部省。唐名戸部也。國中人民ノ數以下。此省ノ所知也。抄云。國郡。庄保。鄉村等。四至牓示載以明白也。謂是民部省圖帳矣。是國々鄉郡等境也。四至牓示トハ。タツサマ境。牓ハフタ也。町々ノ辻ノフタノコトシ。本朝ノ圖帳ハ。安元元年ニ內裏炎上ノ時燒失ス。主計。主税。民部被官也。主計ノ唐名ヲ常主計ト申人候。是ハ其名ノ音エニシテ非唐名。唐名ハ度支ニ候。度ヲ計ルト讀候。國々戸口員數ヲ筭勘メ知之官也。主税ノ唐名ハ倉部。是ハ兗田倉也。仍税ヲハヲホチカラト讀ム。田ハ身命ニメ。大力ナリ。サレハ抄ニモ當寮ノ頭助爲重任。給爵ノ後任爰領矣。省ノ被官ハ階級同位ナリ。兵部唐名ヲハ號兵部ト。是ハ　向武官ト。抄云。武官籍皆是當省所掌也

矣。武官籍ト者何時ハ如何樣ナル高名メ。任何ナル官。如此名譽ヲシテ被官ニ任ルナトノ事ヲ記シ注ス官也。隼人ハ此兵部被官也。隼ノ字ヲハハヤフサト讀候。是ヲ禁中鷹上ト申人候。是ハ非ニテ候。是武ノ威官ナル故ニ其威鷹如。凡鳥ヲ打カ。譬ハ唐名ハ布護。此司人天子行幸ノ時供奉ノ糺シ。行列ノ御供ノ道ニ布ヲ鋪。道ヲ警固スル官也。是ハ官ノ字少シ替候。元ニ佑カミニ正也。佑從六位。正六位下也。刑部々々也。刑ノ字ヲハツミト讀。國々糺犯過ノ人官也。サレハ抄ニモ撿非違使ノ後。刑部職掌有名無實ト被書タリ。大判事囚獄。此司被官也。是等ハ田舍ニ不用官ナレハ不及其沙汰。大藏ハ唐名大府。內藏ハ禁中計寶物ヲ知。大藏ハ從國國納寶物知也。常陸ニハ紬。武藏ニ鐙等也。昔ハ國々六十六箇所ニ有ト藏見タリ。其證據ニハ。中殿ノ常陸ノ御藏開置ケ。今日御器物ヲサ

メ置ヘシト云歌アリ。此官ヲハ。可然殿上人ハ不望之。名家ノ殿上人及地下諸大夫仕之。織部ハ此官也。殿上ノ御服ノ事ヲ知。天子御服十二章文有之。其ト申ハ日月星辰山龍宗彝火粉米黼黻等是也。職原抄見タリ。宮内省唐名ハ司農也。是ハ國國ノ農業穀數ヲ知司也。又ハ工部トモ云。工ハタクムト讀。内匠如沙汰。宮中ノ大小務雜具家阿(何カ)物ニテモ有之。禁中ニ可入程ノ物ハ。此省ノ所知也。抄云。宮中大小此省知也。其職以中務矣。大膳。大炊。主殿。典藥此省ノ被官也。大膳ハ如前申。大炊寮申ハ。炊字ヲハカシクト讀候。主計ヨリ公米ヲ請取。供御ヲカシク司也。獻佛神御供ト仕帝王ニ備ルヲハ供御ト申也。日々ニ土器ニ充用意ス。二度ス。二度ノ爲試大膳ニ准ル司也。抄被掌諸國ノ稻田。及公稅。熟食事矣。諸國稻田ト者昔ハ供御ノ八木國々有之。今ハ幾内計也。私曰。公ハ公卿大臣也。唐名ヲハ主饗ト云也。饗字ヲハイヒカシクト讀。此職ヲハ抄ニ溫職中ニハ尤膏腴也矣。是諸職中ニハ利潤ノ司也。溫トハウルハシキ義也。潤宮ノ義也。膏腴トハ油コユルト讀也。六位侍任之。主殿司ハ抄。掌殿上殿下滴(洒カ)掃事矣。是モ六位諸大夫任之。禁中落花ト曰題ニテ。殿モリノ伴ノ宮ツコ心アラハ此春計朝キヨメスナ。惣メ典藥。醫博士。女醫。針博士等皆此官内被官也。惣メ治世ニハ文武醫ノ三道ヲ爲本。一醫ニ云ハ。男女腑臟各別故ニ別メ用之。此中ニ入侍醫博士。禁中ノ小板迄參奉拜龍顏ヲ。是ヲ半昇殿ト申。此侍醫正六位下。典藥ハ従五位下。醫博士正七位下。針博士従七位下ノ官ナル故ニ。雖無用也ト。田舍ニモ醫者外境ナト有之故ニ。爲知其階級申之也。一掃部寮。唐名ヲハ洒掃ト申。抄ニ掌鋪設事。是禁中鋪ヲ設ル官也。頭ニ無權。頭ハ五位。助丞六位歟。左馬右馬寮唐名典

厩。是ニハ頭ニ有權。位階ノ高下如左右衞門。此官ハ禁中ノ御厩。諸國ノ牧ノ馬ヲ刷（アツカウ）司也。奥刕其外從ノ國々牧 八月十五日相坂迄參ル。此司相坂ヘ出合請取給フ也。歌云。相坂ノ關ノ清水ニ影見ヘテ今ヤ牽ラン望月ノ駒。又定家彼司ニ居玉フ時歌ニ。嵯峨ノ山千代ノフル道跡トメテ又露分ル望月ノ駒。關東將軍御元服ノ時ハ必先任左馬頭ニ。京都將軍ハ先任兵衞督。唐名ハ武衞。左右ノ近衞ハ親衞ニ候。六衞ノ中ニハ帝王ヲ親ク守護申司也。サテ左京。右京。唐名ハ京兆トモ馮翊共申候。抄云。掌京中事昔宅地以下京職所知也。近代移撿非違使廳矣。昔宅地トハ大内裏ノ時ハ。九條悉宅地也。其地ヲ都ヘテ司ル。左ト者大内東京 田地名籍王貢以下。此司所知也。撿非違使ト者。撿斷守護ノコトク。非違ヲ糺ス司也。位階如大膳職也。サテ修理職。唐名匠作也。宮中修造ノ司也。

新造ヲハ造營ト云。舊ヲ修ヲハ修造ト云也。左右京修理大膳ハ。三職トテ位階同之也。サレ𪜈京ヲ爲重。其次修理。大膳職頗ル劣也。勘解由使事。是ヲハ勾勘ト云。强非ニ唐名ニ取義曰也。諸國ノ公分等此勘解由使前ニテ勘也。勾勘ト者。六十六刕事廣故。一年四季ニ四度勘ル也。四度勘レハ無紛不明ノ事ヲ世語ニ無四度計仕是也。サテ勘定畢レハ一點ヒク也。サレハ勾字ヲハヒクト讀候。亭問曰。大夫イニ大夫ト云何ノ替候哉。心玄答。大夫ハ五位ノ異名。大夫ハ官也。仍進官事輙トイヘリ。又問曰。八省ハ大輔。少輔。丞。屬ニハカリ進ムト候。何トテ宮内左衞門ナト申人ノ候ハ如何。答。ソレハ成宮内預レハ左衞門府ヲ。爾カ申候カ。藏人ト申ハ。嵯峨天皇弘仁（ハカ）年中初置之。摸（モスル）ニ異朝侍中ニ彼職ヲ尤爲重。頭ハ四位。佐ハ七位也。但五位六位ノ藏人有之。亭問曰。大納言。中納言ナトハ何

程ノ位ニ候哉。答。大納言ヲハ唐名亞相ト申。取分凶民哀天下義官也。サレハ亞相也。可昇大臣人任之。三位也。中納言ヲ號黃門。是ハ上下ノ中間ノ高下通(マヽ)達シ。諸言ヘヲ刷也。黃門者中央ニ司ル。沖央ハ黃色也。少納言侍從ハ內意也。サレトモ少納言ヲハ唐名ヲ給事中ト云。侍從ヲハ號拾遺ト曰。必兼侍從拾遺補闕ノ任矣。拾遺トハ拾遺ヲ。補闕者補闕讀。是中納言ノ義ノコルヲ拾ヒ取テ刷司也。サレハ給事中ハ事ヲ中ニ給ル云々。是當從五位下。辨目於禁中有七人。左右大辨左右中辨左右少辨。權ヲ一人加テ七人也。大辨ハ從四位下。中辨ハ正五位上。小辨ハ五位下也。唐名ヲハ尙書ト申。太政官唐名同也。抄曰。尙書ト者管轄ノ任。權衞ノ職也。管轄ト者車ノクサヒ。權衞ハ秤ノ鍾ナリ。是於禁中肝要ノ義也。宰相ト云。參議云ハ一ツ官也。是諸官ヲ中ニハ四位以上ノ人有其才。奉勅參リ官中ノ政ヲ議ル也。又是參議共號ス。大貳小貳ハ唐名共ニ都督也。大貳大夫ハ從四位下。小貳ハ從五位下候。大進唐名ハ內給事。從六位上。小進ハ從六位下也。サテ補高官ニ候。唐名ハ都督當從三位ニ。多ハ有品ノ親王任之。有品ヲ親王ト申ハ四位ヨリ三二位ト次第ニ上申也。別當唐名ハ大理卿也。四位以上人撰其人任之。此大理卿ニハ備七德人任之。其七德ト申ハ譜第一。器量二。才幹三。有職四。近習五。客儀六。富有七也。譜第ト云ハ靈末代ノ德。器用諸國ノ可撿器用。才幹ハ文才也。職ノ事ヲモ知。近習ハ天子親近メ上下ノ是非ヲ習。客儀ハ顏ヨシ。天子ヘモ顏ヨキ事ヲ奉シ。臣下ヘモ顏ヨク申付ナトスル也。富祐ハ困窮ニメハ不叶。先ニ武官ノ時全失念候。將監ノ事。唐名ハ按尉。是ハ當從六位上候。諸大夫或ハ舞人。樂人等任之云々。亭問云。關東侍ニ千葉介。上總介。三浦

介ニ何用介スケヲ候哉。答。親王御知行ノ國國ハ用介字。其餘國ニハ用守也。親王國ハ關東。上野。常陸。上總地三ケ國也。新詮（所カ）三浦（介脱カ）相摸守。千葉介下總守也。玄ハ此三助唐名ヲハ號別駕ト。駕ノ字ヲハノリモノト讀。唐土ニハ國ヲ守ル時。必扈從ト云物ニ乘テ國ヲ廻リ。方域ヲ見ル也。サテ親王ノ守ハ扈從ヨリ別ノ駕ナル故ニ爾云也。上野守ニ用介字此意也。惣メ親王知行ノ國ノ守ニハ可用介字云々。就中上野。上總。常陸三ケ國。關東親王知行ノ始也。亭主云。連々望ニ候官途ノ樣體承候テ本望ニ候。同ハ百官ヲ具ニ承度候。心玄。彼官途ノ沙汰ハ一段ノ稽古候。是ハ仁王九十五代。後醍醐御門ノ御時。北畠大納言一品親房卿職原抄ヲ製作メ。官位ヲ沙汰シ給ヒ候。是ト申モ非無據。於異朝周禮月令等ヲ爲本官位ニ六卿ヲ被立候。其六卿ト申ハ。春官。夏官。秋官。冬官。天官。地官也。サテ本朝ニハ律令六卷。格式六卷爲本。八省百官ノ被立候。萬一遂住山罷下候ヲ以。十日ノ滯留承分ヲ聞セ可申早也。邊土ニ用候官途ヲハ。大概彼職原抄ニモ愚僧今無如語申候。大方ニ候。其ハ禁中鍛錬ノ納言ニ知音中如此承也。從宵色々雜談候程ニ。夜モ早三更ニフケシカハ。亭主ハ若黨ヲ呼耳呵ケレハ。內ヨリ柳樽ノ酒ヲ青磁茶碗ニツキ。青漆ノ臺ニスヘ。如茶モテ成テ。律師ト大夫トニ與。言語道斷ノ美酒哉トホム。主人ハ三月三日ノ節供ノタメニ。少シ介用意候ヲ。一ツ申候。本望候ト會釋。サテモ御酒ハ何頃ヨリ始候哉ト問フ。心玄答云。亙リ三國。其本記書タル物候。先天竺ニハ昔世ノ最初末陀羅藏王ヨリ十九代大轉輪王ノ第二ノ王子。養轉輪王ノ御宇ニ。自天甘露フル。是今ノ美酒也。其時ハ甘露水モ延命水モ名付タリ。然ニ小轉輪王御宇ニ。摩利須理夫人ト云女ア

リ。甘露ノ味ヲカタトツテ。是ヲ造出ス。其年癸ノ酉ナレハ。三水ニ日ヨミノ酉ヲ書字訓シテ酒ト付タリ。彼夫人此味ヲ造出ス事モ。非無據。胡地九百里ヲ過テ葱嶺云所アリ。當其南有雪山。此峯ニ小鳥常ニ住。王竹ノ切端ニ米子ヲ加ヘテ置。連々雨露ニ熟メ有馨味。是ヲ見テ取テ嘗ムルニ感ニタヘタリ。爰ニ知發メ酒ヲ造云ト云々。其鳥ヲハ鴬ト申傳タリ。サテ唐土ニハ三皇ノ第三ノ御門。黄帝ノ御宇ニ。蜀都ニ下若ト云林里アリ。此村ニ夫妻アリ。夫ヲハ康嘉ト云。妻ヲハ千杲ト云。此千杲子ヲ一人養。其名ヲ杜康ト號ス。繼母朝夕實子ニハ與細飯ヲ。繼子ニハ與麁飯ヲ。繼子食之事難叶。密々持行後ノ岩屈洞ニ捨置ニ。日來ノ麁飯雨露ニウルヲサレ。自然ニ今ノ釀ノコトシ。當時麁飯混合メ味馨ハ芬々タリ。取テ嘗言語ニ絶タリ。是ヲ實父ニ語ル。父非可秘トテ。天下ニ披露ス。

此年如西天癸酉ナレハ名酒。或義ニハ西天ニハ元馬ヨリ出タル故ニ三水ニ酉ヲ書ト云説モ候。日本ニ始事ハ。仁皇十二代景行天皇御宇。癸酉ノ年。新羅國ヨリ中嘉ト云者來朝メ造始。三國共ニ癸酉ノ年造始ル事不思議ニ候。呑之人ハ憂喜ヲ忘。若來（苦樂カ）ヲ不辨。五臓調和メ。秘藥諸病百藥ノ最頂成ナレハ。白樂天モ酒是百藥最頂ト云リ。貪樓經ノ中ニハ。若以酒供養衆僧。後證涅槃于反生天ト御説。後亭問。如是一旦于三國ニ酒ハ五臓ノ秘藥ナルニ。何トテ經論佛家ニ被誡之候哉。答曰。白居易ノ云。酒是百藥最頂萬失起リ矣。過レハ失起リ候。サレハ誡ノ付性戒遮戒トテ。二ノ意候。性戒ト申ハ。佛無出世以前ヨリ誡テ見テ候。遮戒ト云ハ釋尊御出世以後ニ不飲酒戒トテ被戒候。是ト申ハ天竺ニ有毒龍。降大雨ヲ。一天飢饉ノ萬民餓死ス。此時天下ノ諸人集テ。舍伽陀比丘ヲ憑ミ

祈ル也。其時比丘彼ノ龍ヲ取鉢ニ咒入。鐵圍山ノ北ノ腰ニ捨ル時大雨止ス。爲報此恩德。天下ノ者酒ヲ用意ス。彼比丘ニ奉ル。醉テ佛ノ所ニ歸時。田ノ畔ニ臥タルヲ。蛭是ヲ吸殺ス。三世了達釋尊是ヲ知見シマシ〳〵テ。被行以御手ヲ比丘ノ胸ヲ撫玉ヘハ。卽蘇生セリ。其時佛曰。非日ハ制シ三龍。今日ハ不制蛭蟆。是不飮酒戒ノ根本ニ候。問曰。於根上戸下戸トテ候ハ何事ニ候哉。臟ノシツラヘカ。虫ノ煩歟。答。匡房卿ノカヽレ候朗詠ノ注ヲ見候ニ。生熟二臟ノ間。心臟ノ下樣ニ酒壺トテ丸壺候。是暑虫ノ住ム所ト見テ候。此壺ノ口上ニ向タルハ大上戸。ソハニ傾タルハ中戸。下ニ向タルハ下戸ト見テ候。又問曰。サテモ五節供ト申ハ。日本國中普用之事。何比ヨリ始候哉。又如何ナル故候哉。答。五節供ト申ハ。魔亞(王カ)退治ノ表相。國家豐饒ノ祝言也。是ト申ハ。昔伊弉諾伊弉冉尊。天ノ浮橋ノ上ニテ。二神語テ曰。此海底ニ豈無國トテ。天瓊鉾ヲ差下搜給ニ滄溟アリ。其鉾ノ滴リ凝リ堅リ一ノ嶋トナル。下テ夫妻トナリ。嶋海河千草萬木ヲ作リ。サテ日神。月神。蛭子。素盞烏ノ一女三男ヲ産玉テ。天照太神ニ此國ヲ讓玉フ。其時第六天ノ魔王。定テ此國ハ可成佛法依地ト事ヲ悲。足那槌手那槌ト云魔民ニ數多ノ魔軍ノ指副下此國欲奪取。其時天照太神ノ謀ニ。神璽ヲ請。魔王介無爲成神國給。雖然魔界執心不止。動テ民下テ惱人民。殊以年中ノ伺五節ヲ。依成障碍。神武天皇ノ御宇ヨリ五節供ヲ被行。以後國ニ障碍無之候。人問曰。同ハ魔王退治ノ樣ヲ承度候。答曰。地神第二代天忍穗耳尊ノ御宇ニ。天曇王ト曰。釋迦如來御出世。可盛佛法事鑒テ。欲懷國土神達。撿義メ先是ヲ可降伏要治術ヲ玉。正月舞射トテ所々ノ神仕射的ヲ魔王ノ眼ヲ拔出シ。射表相也。年繩

引事ハ爲防彼。幕栴杜用事ハ魔王ノ舌ノ意。爲與短命ヲ以テ千秋萬歳ノ松祝之。爲障衆生七魂。以七草饘之。爲被五臓ノ以五穀ノ粥ヲ調之。サテ三月三日ノ粡。被肉ヲ食ル表示。五月五日粽ハ基譬。七夕ノ索麪ハ豚筋。九月九日菊水ハ血豚ヲ表ト云々。或一說ニハ。正月災難障碍ノ月ナレハ。息災延命ノ祝言ナリ。サレハ備鏡天照太神正體心月輪團圓也。故ニ禮之十方善神乘應テ食之ハ。任心城ノ諸佛威光ヲマス。サテ七日ノ七草ハ七難卽滅ノ表相。七福卽生靈瑞也。サレハ此草ハ在天七星。在地七草。在地七佛藥師。在神山王七社。在衆生七魂也。爰以食之。除災難得福祿也。依此七草朱雀院御宇ニ。加樣ニ事ハ定テ可有歌道。和泉式部カ所ヘ有宣下。其時歌ニ讀進奏ス。芹薺牛丑薹タヒラク佛ノ座ジユズナ耳白是ソ七草。サテ十五日糜。五穀成就ノ表相。五臓調和靈食。五鬼不入

謀也。又問曰。正月ヲ元三ト申ハ限一日候歟。將ニ亙三ケ日候哉。答曰。常ニハ一日一年ノ始。月ノ始メ。日始ナル故ニ元三ト申候。又比叡山ナトニハ。亙三ケ日見テナレバ。第三日カ慈惠大師命日ニ候ヲ元三大師ト申故也。又問曰。自餘ノ月ヲハ二月三月ト仕候ニ。何ソ一月ト不仕。正ノ字ヲ置候哉。答。限一月正ノ字ヲ置事其謂レアリ。其故ハ聽テ昔世ニハ。正月ヲ一月ト仕候。其頃ハ國士災難不絕。萬民苦身スル事無限。其帝王召博士占時。一月ト申故ニ災難多シ。其故ハ一文字ヲワサハヒト云ノ讀アリ。所詮一ヒヲ止ト云字ヲ付テ。正月ト呼玉ハハ不可有災難占。三月三日節供。是ハ息災延命ヲ祭ニ候。其ト申ハ蓬ハ蓬萊宮ノ靈草。無病自在ノ秘藥也。故ニ號禍ヒト用也。桃花ヲ吞事ハ。仙家ノ花ニテ服之者齡長久也。サレハ長生拾遺抄ニモ。磅磄山ノ桃ハ萬年ニ一度實成矣。

又ハ西王母カ桃ハ。三千年ニ一度花咲トイヘリ。有歌ニモ。三千年ニナルテフ桃ノ今年ヨリ花咲春ニアヒニケル哉トイヘリ。桃又息災ニ候事ハ。天竺伽毗羅衛國ニ有桃林。其下ニ一丈ノ鬼王住ム。其名ヲ物忌ト云。此鬼王ノ居タル邊リ四方九町ノ間。光明赫奕トシテ。他鬼曾以不得寄事ヲ。彼鬼至大誓願ヲ發テ曰。六趣ノ有情我名ヲ書付門戸ニモヲサハ。他鬼不可指影ヲ。我如影ノ隨形マシテ可守護云々。又呑桃花事。周公旦ノ曲水ノ宴トテ被始候。周公旦ト申ハ周ノ文王ノ子。武王ニハ御舍弟ニテ候。後ニハ魯國ノ主ト成玉也。サテ日本ニハ聖武天皇ノ御宇ニ被始ケルカ中絶シテ。延喜ノ御門御時有再興。于今不絶候。又問云。三月三日ヲ上巳ト申ハ如何樣ナル故ニ候ヤ。答。本說ハ不存候。愚意ヲ廻シ候ニ。五月五日端午ト申知ス。昔世ニハ正月ヲ卯月ト定候ヌル。其時ハ三月ハ巳ノ月ニメ。三月一日ヲ卯ニアツレハ。三日ハ上巳ナレハ。爾カ申候歟。仍正月ヲ寅ノ月ニ定ル事ハ。後漢ノ明帝ヨリ始候。其故ハ明帝寅ノ年ニテ御座候。取分唐土ニ天ニ御威光無比類故ニ。正月ノ卯ヲ寅ニ替テ。寅ノ月ト號ス。是ハ賀茂ノ保憲集ニ見ヘタリ。五月五日節供ノ事。此節供ヲハ號端午ト。是ト申モ正月ヲ寅ノ月ニアツレハ。五月ハ午ノ月也。五月一日ヲ寅ニアツレハ。端ノ午也。故ニ云端午ト。所詮三月三日ヲ上巳ト云ハ指昔ヲ。五月五日ノ端午ハ指當時歟。是衆病悉除ノ祭也。仍以蓬菖蒲軒ヲフク事ハ。荊楚歳時記ニ云。五月五日採リ艾ヲ懸戸上。攘毒氣ヲイヘリ。當時象之ヲ以艾葺ル軒也。用菖蒲事同書云。昔平舒王。有一人大臣巳ニ死ス。爲恨成毒蛇トモ。國々而爲降伏。求治術ヲ。智臣云。彼蛇ハ身青ク頭赤ク。似菖蒲。諸人以菖蒲結頭赤腹呑之。無成害。其蛇

ノ名ヲアヤメト云也。サテ唐土ニハ歳時記ヲ見ルニ。五月五日。以蓬作人形ヲ。立レハ戸ノ左右。其年無疾病。是ハ以蓬夫妻二人作。戸ノ左右ニ立ル也。實ノ人ニアラサレハ少シ身ヲアヤフメテ立トイヘリ。仍テ蓬ヲ用灸草ニ。是歳時記ニ宋則字文庚以五月五日鷄鳴時。艾見似人刷攬之。用祭有驗矣。唐ノ宋ノ御宇ヨリ用見タリ。摠メ五月五日ニハ。蘭ヲ煎テ可浴事也。サレハ金谷園記ニ曰。五月五日採蘭煮浴之。除カ兵難。攘ル君魂ノ災ヲ。仍用粽事ハ。楚國ノ屈原ヲ祭ル儀式也。其ト申ハ。屈原ト云者。五月五日ニ汨羅水ニ投身死候。國ノ人々哀之。至其日。筒ニ米ヲ入テ郷之也。其後屈原共云。祭我事怡快分絶タリ。但所得供物ノ爲鮫龍取不得之。願ハ八木ヲ楝(菰カ)葉ニ裹ミ。以綵糸纏之。令得鮫龍定テ去ナント告ル。其後楚人等如教祠之云々。日本ニハ糯飯ヲカツヒノ葉ニ裹。

號粽祭之。風土記云。仲夏初午進角黍矣云者今粽也。屈原事字ヲハ云平。楚ノ懷王ニ仕テ三閭大夫ト云司サシテ進ム。忠才ト無他異ヨリ。人々ニ嫉レテ申ソコナレ。終ニ被處流收ニ。屈原後疲衰シテ澤邊リニサマヨフ時。漁夫江邊ニ釣シケルカ云。汝ハ三閭大夫カ。何ノ此ニ居ル。原云。世擧テ皆濁レリ我獨リ淸。衆人皆醉我獨醒リ。此故ニ被放タリ。漁夫云。聖人ハ物ニ凝滯セス。世違リ遷ル上ハ世擧テ濁ラハ何ソ其泥ヲニコシテ波ヲ不擧。衆人皆醉ハ。何ソ其糟食メ其漓(醨カ)ヲス丶ラサル。原云。新ニ沐フ者ハ先冠ノ彈ク。新ニ湯ヲ浴者ハ必先衣ヲ振フ。何能身ノ以察々タル。受物ノ汶々タルヲ。詮シ起レハ淋流江。魚ノ腹ニハウムラル共。世俗ノ塵埃ヲ蒙ランヤト云リ。漁父莞爾トシテ笑ニ。舷ヲ扣テ歌云。滄浪ノ水淸ラハ以可洗我纓。滄浪ノ水濁ラハ以可洗我足トテ去。又屈卽至汨羅

水ニ投身ヲ。蒙求注ニ委ク見タリ。物語云。堀川院御時。大江爲武菖蒲ニ札ヲ付進上ス。其札ニ云。水邊菖蒲千年五月五日大江爲武ト文。是ヲ讀人ナカリケリ。其時殿上ニ弼ノ少將師頬ト云人アリ。是ハ江中納言匡房ノ弟子也。此札ヲ見テ讀リ。進上（タテマツリ）水邊菖蒲千年五月五日（アクルミキハノアヤメ草チトセノサツキイツカ）大江爲武（タヱセムト）讀ケレハ。才名世ニ聞ヘテ。白河院御宇大納言ト申ケリ。七月七日。是ハ取分衆人愛敬ノ祝言也。サテ七夕ト申星ハ。元ハ瓊州民遊子伯陽ト云夫妻也シカ。經年成宿曜。夫ヲハ牽牛（ヒコボシ）ト云。妻號ニ織女（タナハタ）。日本ニ天降ル事ハ。人皇十一代崇神天皇ノ御宇。治十一年七月七日夜半ニ。河州交野ノ郡岩舟山ニ天降リ。被レ祝ニ明神ト候。其後又第廿代允恭天皇御宇。治世二年七月七日。筑前國大崎山ニ奉遷。號星宮ト。日本貴賤周奉祭候此星ヲ供樣。唐土ニハ荊楚記ヲ見ルニ。以金銀銅鍮爲針ト。是ニ七ノ孔（アナ）アケ。貫綵縷又調瓜菓ヲ以乞巧スト云リ。爲蟢子瓜上ニ覆細（網カ）見テ候。日本内裡ニハ。清涼殿ノ竹壺ニ六臣集リ立机四脚ニ備買物。ソレニ燈ヲ九本立ル。是ヲ詩ナトニ九枝燈ト云是也。管弦ノ具明鏡ヲソヘテ置也。文官ノ女香焚備花。如唐針七孔ニ五色ノ系ヲ貫置也。亥ノ一點ヨリ至ル寅ノ四點ノ間ニ。或法施。或歌舞。管弦等。種々ニ祭之也。諸院如是。田舍ニモ檄菓類千置供之。所持ノ衣服一切物ヲ借シ申ト云テ懸置之云々。或比丘尼ノ歌ニ。物イトヒセスハカシナン七夕ニ我ヒトリ寢ノ衣ナリトモト云リ。

問云。此二ノ星七夕ニ會祝スト云事ヲハ。誰人知之傳候ヤ。答曰。濟記云。桂陽城武帝有仙道。謂其弟曰。七月七日ニ織女當渡河。弟問。有何事渡河乎。答曰。暫ク爲會牽牛。世人至今謂ソ。織女嫁牽牛云リ。サテ必供麵子事。是ハ仲尼遊方間緣ノ昔。高辛氏有小子七歳。恒嗜湯餅。以七

月七日死。故　以亡日作湯餅祝之。後人効之爲食之矣。湯餅者唐中ノ名。此國ニハ索麵ト云也。小子トハ織女嬰兒時歟。九月九日節供ヲハ重陽ノ祝言ト申。是ハ壽命長遠ノ祭之(也カ)。重陽ト云事ハ。月ヲ陰陽ニ當ル時。正月ハ陽。二月ハ陰ハ陰(マヽ)。乃至九月ハ陽也。一日ヲ陽ニ當レハ。九日又陽ニアタル故ニ重陽ト云リ。此日菊ヲ呑事。壽命長遠ノ表相也。ソレト申ハ。菊ハ元酈縣山ニ生タリ。此菊ノ流ニツレテ。漢陽宮ノ南ニ南陽縣ト云地ニ來テ。有此南陽縣ノ谷三千有餘ノ在家アリ。是ニ住ム人此菊流ヲ呑故。悉一千歳ノ壽命ヲ保也。サレハ有古抄ニ。黄花滿盃ニ計五百計。黄菊浮酒三ヒ期ト一千秋矣。壽命ヲ延ルノミナラス。斷感證理ノ靈藥ト見タリ。同抄曰。渡菊上ヲ飛禽ハ除結决ノ網ヲ。過菊下走獸ハ免煩惱ヲ矣。仍彭祖仙人ト云シ有ハ。元秦ノ始皇ノ愛臣ナリシカ。不計帝王ノ枕ヲ越シ科ニ。丸谷ノ官人一同シテ死罪ニ可行由ヲ奏。帝王不便ニ思召。止テ死罪ヲ酈縣山ニ被流。此山ニシテ菊水ヲ呑故ニ。七百餘保テ。得彭祖仙人ノ名云々。亭主曰。日來不審ノメ事共。御雜談承候。今一ツ大事ニ存事相殘候。某ハ三十年離慈父ニ。ソレヨリ念佛ヲ申。至今夜不怠候。然ニ於諸佛ノ中ニ。爲後生善所道俗男女ニ彌陀一佛賴申故。何事候ヤ。又此念佛ト申ハ。何頃ヨリ始候ヤ。御利益ニ御懇ニ可被懸御意候。答曰。雖モ有御尋候ヤ。實ニ前々ノ雜談。皆有爲戯論事ニ候。念佛ノ意赴具ニ語テ爲聞可申候。元念佛ノ根源ハ。中天竺摩竭陀國ニ。月蓋長者トテ。五天第一ノ福者アリ。是慳貪ノ者ニテ。人ニ一粒ノ米ヲ與ル事ヲモ悲。一錢ノ施ヲ不知。三寶ハ世ニ無者。出家ハ世間ノ徒ラ者トテ。目ニモ不見。音ニモ不聞厭ニ。釋尊近所ニ御座トモ。一度モ無參事。佛弟子滿

國ニ。門戸ニモ不入。不當不善ノ族也。佛實ニ。彼者阿毗大城主ト鑒給テ。不便ニ思召。方便ニ如此護王ト云獨姬。五種ノ重病ヲアタヘ給フ。其五種トハ。一ニハ兩眼ニフトキ赤筋出。少モ不能見事。二ニハ兩ノ耳ヨリ濃血流テ。音ヲ無聞事。三ニハ鼻ノ穴塞リ。物ノ香ヲ絶聞ニ。四ニハ舌根強食一粒不叶。五ニハ全身ニ惡瘡出。偏ニ如癩人ノ。耆婆カ醫術モ不叶。晴カ祭力モ不入。仰天ニ伏地ニ歎悲ム外無他事。月蓋餘リニ無爲ン方儘案シ出シケレハ。實ヤラン佛ハ有慈悲心。哀一切衆生ヲ。萬ノ願ヲ令叶玉フト聞及。所詮釋迦佛ノ所ニ參。此事ヲ申見ハヤト。祇園精舍ヲ出。靈鷲山ヘ參。此事ヲ歎申。世尊ノ玉ハク。非可及我力。若自是西方過(十カ)千萬億土極樂ト云世界アリ。彼主シ阿彌陀如來ハ。愈三毒ノ重病ヲ給フ故ニ。奉賴可有平愈敎ヘ玉フ。月蓋申ケルハ。千里二千里ノ境ナラ

ハ可及其力モ候カ。篤過十萬億土。如何可申請候ヤ。佛曰ク。汝カ心趣クナラハ。ソレハ可輙。如何ニモ淨心正念ニメ。向西方可唱念佛。神道自在ニ御座ハ。彌(稱カ)名ノ聲ニ乘メ速ニ來迎シ玉フヘシト敎ヘ給。月蓋不斜悅。急歸リ宿所ニ焚香備花向西方一心不亂ニ南無阿彌陀佛ト唱ヘ玉ヘハ。誠ニ一念彌陀佛卽滅無量罪現世無比樂ノ誓ヒナレハ。祇園精舍ノ西門ニ三尊新ニ來迎シマシマセハ。姬ノ重病忽然ニ平愈セリ。月蓋ノ隨喜尊重不及舌端。然ハ遠歸本土ノ粧ヒマシマセハ。長者悲之。釋尊ニ歎申ス。釋迦勅玉フ。阿難ニ々々。閻浮檀金ヲ可求宣ヘハ。卽索メ捧之。彌陀佛ノ御長ハ西方ニテハ六十萬億那由。他恒河沙相好ハ。八萬四千ニテマシマセトモ。准小國ノ婆々一尺手半ニ現給フ。其長ニ鑄尊像。來迎ノ佛ニ幷玉ヘハ。所造ノ佛ハ西方ニ飛テ。來迎ノ彌陀ハ留リ。婆々給。依

之善光寺ノ彌陀ヲ立身ト申傳。サテ佛西天ニ經玉フ一千年佛法東漸ノ理リナレハ。百齊國ニ來給フ。宗算奉崇之給事無類。漢土四百年御座テ。有來朝可有日本化導由有勅。宗算王祝着申。不奉離。雖然佛勅重ル間。西平敏之等ノ七人ノ臣家ヲ指副申。王后共ニ舟ノ海岸迄御供申シ。奉渡日本。其時ノ仁王ハ卅代欽明天皇ノ御宇也。帝王大ニ祝(悦カ)玉ヒ。諸臣ヲ召テ此由ヲ勅シ玉フ。尾輿大臣進出テ申ケルハ。抑此國ト申ハ。天神七代。伊弉冉尊。天竺未多羅藏山ノ丑寅ノ角闕テ海底ニ沉ミケルヲ。攬浮ヘ。第二王子天照太神ニ與ヘ玉ヒシヨリ以來。號神國。至今奉神崇。何背國法儀。他國異形ノ者ヲ敬シ事。口惜次第也。殊以三韓ハ我朝ノ古敵トメ。及度々亡國。渡秘術。既ニ彼異形ノ者ヲ見ル(ヌカ)ニ。頭髮剃落シ。衣裳ヲ墨ニ染。アラス作法ノ異形也。如何樣此國爲調伏覺候。急可令流捨

奏。諸臣皆尾輿被押威ニ。無及異儀方。故ニ聽難波堀江沈申ス。則一天ニ惡瘡發。萬民苦惱ス。內裏モ無程炎上セリ。然厩戸王子(聖德太子御事)。蘇我稻日ノ大臣ハカリヲ同心メ。水士ヲ遣。堀江如來ヲ奉引出。尊給ヒケルニ。守屋聞此事ヲ。爲散亡父之欝憤ヲ。可致退治如來ヲ旨ヲ懸心。先氏神都府大明神ニ參祈此事處ニ。第六天ノ魔王欲勸之ヲ。民ヲ守屋カ館ニ下ス。其趣ハ廿計ノ女髮ヲ赤物ニテ裹ミ。白衣ヲ上ニ着シ。水精ノ珠數ヲ懸頸。檜扇ヲ手ニ持。占ヤ文ト唱テ至ル。守屋何人ト問。自ハ神垂童(巫カ)ニテ。何事ニテモ人ノ思召事ヲ占フ者ニ候ト申。守屋大ニ悅テ。內ニ請シ重々奔走シテ。爾思立事ノ候ハ。成就カ不然カト問。サラハトテ珠數サラサラト押揉テ。普天率土ノ神祇。冥衆ヲ請シ。上天ノ天狗。下天ノ小天狗ヲ驚シ。地ヲ打胸ヲ扣テ。一時心亂狂騷メ狂醒テ託シケルハ。抑此

國ト申者。伊弉諾伊弉冉尊ノ天浮橋ノ上ニシテ。滄海原ヨリ攪浮ヘ成國ト自ラ天照太神ニ與ヘ給シヨリ以來。名神國ト。神ノ領シ玉フ國土也。今既ニ改事ヲ他國ノ異形ノ者ヲ崇シ事。大以不覺也。急可退治之記セリ。其時守屋亡父申セシニ不違トテ。悦テ催大軍。奉輔。如來種々ニ呵責申コソ悲ケレ。先大石ヲ投懸投懸碎申セトモ。佛身堅國(固カ)ニメ。尊容モ無指事。其後ハタヽラヲモツテ奉迫御身。全ク鮮ニメ光明殊更遍滿セリ。守屋退屈メ不及力。又難波堀江ニ奉沈。サテ一兩年ヲ經テ。爲官仕信濃國ヨリ本田善光參內ス。其時ノ內裏ハ大和國礒嶋也。折節難波堀江ヲ通ル時。水ノ底ヨリ放光ヲ。如來ハ善光カ肩ニ乘移御座。善光大ニ驚騷。如來宣ク。汝莫驚。三國ノ檀那也。天竺ニテハ月蓋長者。唐土ニテハ宗算王。日本ニテハ善光也。我東國利生ノ望也。可奉供宣。善光大悅テ其マヽ奉負信濃國ニ歸ル。貧家ニメ可奉置所ナケレハ。先伏テ臼(チカ)ク。奉居上。善光寺如來ノ畫像ノ體是也。左ノ脇ニ居ル男ハ善光也。然ニ如來加持力ヲ以テ。軈テ彼家富貴圓滿ニメ。建御堂ヲ。善光カ名ヲ取テ。號シ善光寺ト。是極樂世界ノ東門ト云額。虛空ニ見タリト申傳候。仍中陰經文ニ。善哉。信濃國殊勝佛法。一度參詣諸者。必生安樂國文。實ニ我朝ノ國ヲ西天ノ金言ニ被載候。殊勝ニ候。亭主云。彌陀來迎ノ本緣ヲ具ニ聽聞申候。サテ諸佛菩薩功德カ何モ同可御座。爲後生善所ノ通俗男女共ニ。取分彌陀一佛ヲ賴申ヤ。答云。善導和尙釋ニ阿字十方三世佛。彌字一切諸菩薩。陀字八萬諸聖敎矣。天台大師ハ。與梅十方佛功德正等無異。但專爲彌陀爲法門主ト判ス。阿彌陀ノ三字ヲ唱レハ十方三世諸佛菩薩ノ御名ヲ唱ルニ同シ。又八萬經敎ヲ讀誦スル功德ニ等ト被釋候。或

一經中一萬三千佛十丈金色像十度造供養一念
彌陀勝矣。既以金一萬三千體佛ヲ造建供養ヲ
致十度功德ヨリモ。一稱彌陀ノ功德勝レルト
說給候。是ト申モ一文不通ノ大俗。極重罪ノ惡
人不知三寶ノ名ヲ。不結緣佛法ニモ功佛ヲ計
テ僧ノ殺ニ父母ヲ。堂塔ニ掛火破滅シ。神社佛寺侵
セシ五逆十惡者。不發一念之道心ヲ。不趣一分
ノ修行ニモ。不施一紙半錢ヲモ。不成一食一我
之功德ヲモ。一念南無阿彌陀佛ト唱レハ。譬ハ
所ノ申念ハ如日所作罪ハ如霜消。サテ臨終ノ
砌ニハ。紫雲現レハ底上絕思愛聲聖衆眼前ニ
來迎シ玉ヘハ。眼ニ隔人間ノ色ヲ。預彌陀攝取
ノ光明。觀音傾金蓮ノ臺。勢至差シ百福ノ蓋蓮
臺ニ結跌ヲ。廿五菩薩ハ妓樂ヲ調ヘ。前後ニ圍
遶ス。箏簫聲穿雲和琴方聲ヲ調ハ響砌ニ羯鼓
大鼓ノ音ハ生死ノ眠ヲ覺ス。至極樂世界ニ。見
(彼カ)波國以瑠璃爲地。以金繩道ヲ階。其地平正ニ

メ。無有高下。生七寶雜色樹。七寶ト者金。銀。
瑠璃。硨磲。瑪瑙。珊瑚。琥珀也。金樹ヨリ放黃
色ヲ乃至琥珀ヨリハ白キ光ヲ放チ。七寶雜色
寶樹ノ上ニ掛七寶羅網。羅網ノ間ニハ金銀珠
玉ノ垂鈴ノ(マヽ)。此鈴ヨリ出微妙聲微妙ノ鳴。法門
網ノ間ニ。五百億ノ有宮殿。諸天童子其中ニ極
戲メ。成百千ノ妓樂。底ニハ湛八功德水。清冷
ニシテ味ヒ甘露也。常樂我淨ノ風吹ハ。苦空無
常ノ浪立。池中ニ有蓮花。百寶摩尼ノ玉ヲ以一
莊嚴セリ。以毗楞伽寶爲座ト。以如意珠爲羅網
ト。是ニ阿彌陀如來座ス。三花獨迴下シテ(シテカ)寶幔
臨樞。眉間ノ白毫ノ右ニ遶テ。宛轉アメ如五
須彌山。六百萬億ノ光明ハ如億千ノ日月。八
萬四千相好ハ。端嚴ニメ微妙也。觀音勢至左右
ニ脇仕シ。無數ノ聖衆ハ前後ニ圍繞ス。諸天
童子奏音樂。引子星。サテ往生ノ其身ハ。蓮花
中ニ七日胎至メ化佛菩薩ト聞說法。開蓮花見

我身。紫磨黄金ノ成膚備卅二相。具八十種好。身ニハ着瓔珞細耎上服。口ニハ出青蓮花ノ息。内外清淨ニメ光明赫奕也。所居ノ宮殿ハ。以金銀瑠璃莊リ。眞珠摩尼ノ簾ヲ懸ク。幡蓋妓樂ノ風ニ鏘ケハ。曼陀曼珠庭ニ散。廿五菩薩ハ調妓樂。前後圍繞シ。觀音勢至ハ供奉左右ニ。萬事任意。百味滿會メ。不食飽滿。不求涌出ス。庭ニ寶池ヲ湛ヘテハ。八功德ノ波立ハ。青黄赤白開花鳥雁鴛鴦ハ戯浪。孔雀鸚鵡遊江。天人聖衆ハ龍頭鷁首ノ舟ニ竿指。諸天童子ハ。四德波羅密ノ成唱不去往彼ニ不至見十方世界。俄ニ丁知諸法。口ニハ辨才無窮也。心ニハ證得涅槃。身ニハ得神通自在。諸佛同時ニ讃歎スレバ。菩薩聲々ニ歡喜ス。依一念彌陀ハ功德如此。得大利事何事カ加之ヤ。サレハ彌陀ノ名號ヲ小因大果ノ名號ト申候。或人諸宗ノ修行ヲハ云難行道。念佛ノ修行ヲハ易行道定候モ。此分ニ候。

是ト申モ。ケニト諸宗ノ爲體見候ニ。先眞言宗ハ四度七度カ行法ヲ修シ。護摩灌頂ノ秘法ヲ行ヒ。瑜伽秘密ノ重位ニ進テ登ルト。大日覺王ノ位見テ候。天台宗人向一心三觀ノ窓。凝一念三千ノ觀門。斷最後微細ノ無明。顯得無作ノ三身沙汰シ候。禪宗ハ向佛祖不傳壁達心ノ本源。渡劒刃上踏高上ノ一路定候間。諸宗ヲ難行道ト申モ無餘義候。念佛ノ行者ハ。唱六字一念ニ現受無比樂。後生清淨土ノ遂本意候事。誠易行道ニ候。亭主曰。十宗八宗ノ修行ト曰モ。又僧俗男女ノ所期。現世安穩。後生善所可爲一大事候歟。所詮成餘宗難行苦行彼(彼カ)召方ハ鈍漢ニ御入候。只成念佛宗輙ラ現世後生ノ可被遂本意ノ事。簡要ニ候。某ハ多年信仰藥師候ヘトモ。打捨申。自今以後偏ニ念佛一三昧ニ可申由存候。如何。答曰。是ハ天台宗ノ先德云。(マヽ)衆生迷ル故。成多衆生。諸佛ハ覺ル故會成一佛。天衆

生ハ迷ノ□□□□太ノ衆生。人ヨ我ヨト分差別候。サテ悟ノ佛ハ。內證一體ニメ。釋迦彌陀藥師ナト、名ノ替迄ニメ。胴一體ニ御座候。譬ハ猿樂大夫カ爲一人ニ。ソレ〲ノ掛面。成男。成女。成鬼。成佛。如爲能。諸佛ノ內證ハ。一體ニメ。其々ノ隨機々利益給也。假令三毒ノ病ニヲモレタル者ニハ。現藥師如來與三德ノ藥。聞法受道シテ可利益爲機。現釋迦八萬經敎ヲ說給フ。嗔噫強盛ノ者ノタメニハ。現觀音施慈悲。後生善所ヲ願フ者ノタメニハ。現彌陀往生極樂ヲ觀シ玉ヒ候。只難波ノ蘆伊勢ノ濱荻ニテ。名ノ替ル迄ニテ御座候ヘトモ。自元信仰藥師候ヘハ。夫ヲモ不捨。可有御信仰候。又問云。種々ニ現シ給候其本佛ハ何ナル佛ニテ御座候ヤ。答曰。捴メ佛ノ捴名ヲハ如來ト申候。如來トハ如ヨリ來ルト書候。東土ノ藥師モ如ヨリ來リ。西方ノ彌陀モ如ヨリ來リ。北方ノ釋迦モ。如ヨリ來リ。南無無苦世界ノ觀音モ。如ヨリ來リ玉ヒ候。其如ト申ハ本覺眞如ノ都ノ事ニ候。サテ本覺眞如ノ城何レノ處ニカ有ソト申ニ。一切衆生ノ胸ノ間ニ尋入候ナレハ。惠心僧都ノ御歌ニモ。夜モスカラ佛ノ道ヲ尋レハ我心ニソ尋入ケルト云リ。或ハ蓮華三昧經文ニハ歸命本覺眞法身。常住妙法心蓮臺。本來具足三身德。卅七尊住心城。普門塵數諸三昧。遠離因果法然具。無邊德海本圓滿。還我頂禮心諸佛ト矣。既卅七尊モ住心城御說候。去程ニ藥師ヲ禮スト云テ。禮彌陀中モ(マヽ)還テ禮心ノ諸佛云處ヲ還我頂禮心。諸佛トテメラレ候。所詮我等衆生ハ本九識本覺ノ如來ニメ。無自他ノ異。不辨善惡ノ差別。平等無差也。爰ヲ無作ノ一佛トモ。心ノ本佛モ號シ候。此內證ニ迷テ。トコヤラ忽然トメ一念起リ候。此一念迄ハ佛果ノ起ル念メ苦シカラシヲ。白キハ紙カ雪カ。青ハ松

カ草カト第二ハ念ニ下ルヨリ。迷ノ成助ト。下來ヌ五道六道ニ沉淪セシ故ニ。住心城ノ諸佛モ迷ノ雲隱レ。受苦逼迫ノ衆生トナリ候。此等ノ衆生ヲ哀ヒ。釋尊出世ヌ本覺ヌ心佛ノ名。彌陀罪業ノ凡夫ニ令唱給ヘハ。自元三諦即是ノ名號ナレハ。凡夫ノ心本源本有ノ三諦ニクミシテ令願得本覺ノ彌陀。是ヲ往生極樂ト申候。サレハ惠心ノ先德ハ。唯心彌陀己心淨土ト被立候モ此分也。釋ニハ西方非西方ト被釋候。取分方ヲ指西方ト事ハ。西方ハ五知ノ中ニハ妙觀察智ノ方ニ候。妙觀察智ト申ハ。煩惱ノ揲ヲ切ル知惠ニ候。煩惱ノ揲タニモ切候ハヽ。北方南方モ可西方ナル。或陰陽ノ家ニハ。西方ヲ金ニ司リ候。金ハ陽ヲ切ル德ヲ備ル故ニ。サテ十萬億土ヲ過ルト申ハ。身三口四意三ノ十惡ヲ去所表也。此等ハ佛法クサキ事ニ候。但在家ノ御方ニハ。忘想虛覺ノ念發候ヲ打捨。我ヲモ忌テ不生ニ御申候ハヽ。佛モナク我モナク。南無阿彌陀佛ノ聲ハカリシテ。法界一味往生ヲ遂給フヘシ。サテ此念佛ノ功積テ以後ニハ。聲計スル。阿彌陀佛ヲモ被捨候ハヽ。實ニ佛モナク。南無阿彌陀佛。歩々聲々念々唯在阿彌陀佛。惡心モ南無阿彌陀佛。善心モ南無阿彌陀佛。風吹モ樹頭南無阿彌陀佛。浪打モ砂石南無阿彌陀佛。鬼畜人天其儘阿彌陀ノ振舞ニテ候。是ヲ本覺阿彌陀トモ。天台ノ天眞獨朗ノ念トモ申候。於此重ニ尙求西方極樂彌陀ヲ置心外生佛ノ異念流轉ノ根源トナリ。隨識ノ基ヒ不可有疑候。サレバ有方ノ歌ニ。極樂ヘユカント思フ心コソ地獄ニヲツル初ナリケレト語給ヘ。（リ脫カ）亭主一々聽聞シ。閇テ眼ヲ屢感入。良久ヌ開兩眼見レハ。聞シ我モ語シ人モ只松風ノ。彌陀賴ム人ハ雨夜ノ星ナレヤ雲ハレネトモ西ヘコソユケ。一遍上人

永正四丁卯年十二月八日覺重問。佳童語。唉名曰旅宿問答。

以宮內省圖書寮本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百六十四

雜部百十四

## 後鳥羽院御靈託記

曆應二年己卯七月十日。水成瀨三位家官女少病惱。託曰。保元亂以後。崇德院御靈平相國仁入天天下於惱須。承久乃後者。國家治亂朕力仁懸禮利。關東滅亡世志事八。先帝春宮乃御時祈願甚深那利上。大原乃法花堂數部頓寫乃經乎被送幾。如志此法樂乃力。朕加日來怨心仁加志故仁成就世志也。仍彼踐祚乃日毛二月廿二日也。朕加崩御之日毛二月廿二日也。關東滅亡日毛廿二日也。又鎌倉雪下今宮者。寶治元年朕時賴入道仁示告留旨有幾。仍卽日仁鶴岡神宮寺乃後仁寶殿乎造立世志間。八幡宮毛同御事奈禮土毛。朕毛又國主多利。他敷地不可居。別仁可奉建立幾與志重託須留依天。雪下仁奉遷幾。其後長日護摩。大般若仁王經轉讀。四季神樂以下法味不斷絕須。代々奉寄所領而。高時入道時有懈怠志間。寶殿炎上志幾。如形造立世志加土毛。成信無加里志故。元弘二年五月十七日未剋。此地乎遮志其驗仁者。寶前乃松無風而倒天後。水火兩難起天。關東忽滅幾。爰先朝治天以後有懈怠志故仁。於祇(崇カ)薗社壇小女仁託須土雖土毛。奏聞乃人无加利幾。朕加崇乎顯佐牟爲仁。隱岐御所仁奉迎取

利又於配國天肝膽乎摧幾。先非乎悔天祈請有志賀者。幷還幸有幾。抑去元弘三年潤二月廿五日。圓心法師京都仁攻入志日。六波羅與利頸四十八懸志。翌日廟院鳴動。俄大雨乎降志天抑流志訖奴。如此事仁依天。先津六波羅乎者追落志也。其後還幸乃時。適朕前乎過給仁。祈敬乎致佐須。寶積寺山崎御坐乃時。勅使一度毛不被立志事者如何仁。佐禮者南山仁奉移奴。今者謝申佐留土毛叶邊加羅須。來八月仁者可有其驗。急此由乎奏聞世與。此事不違者。何事毛不可違土志禮。又朝家仁仕臣下毛朕加恩力乎忘之間。洛中居所毛不安。庄薗乃土貢毛不入手也。將又入道左馬頭義氏。水無瀨御所仁參天。信成仁對志天述芳言。御廟地仁地頭於申退志事。希代忠功也。仍爲謝彼恩。今天下乃權柄乎暫授者也。又弘安年中仁。經方仁託宣世志事。人所知也。朕者聖德太子也。聖德太子毛二月廿二日崩。朕毛又此日崩。是其驗也。百王理亂。今古興亡。併朕加力仁依留。關東廣建禪刹大乘。朕爲大乘守護神故。然秋田城介入道覺心欲改禪刹土。時兼可加誅罰土示幾。永仁託宣志天。此地仁無佛閣之間。三熱乃苦難忍志。仍由良上人乎開山土志天。大興禪寺乎建天。大乘法味乎受土誓幾。仍雖及勅許。于今不事行。此事急屬洞院前右府可奏聞。彼公忠旨有利。承元年中法勝寺九重塔炎上有志賀。奉改。土御門院御在位於。順德院御時首尾五ケ年之間遂供養了。朕十善乃餘薰仁答。吾朝乃主也是程乃願望爭未達土。天下於知食君。朕菩提於不訪者。國家不可治。後白河法皇被仰置留々旨有仁依天。佛法興隆乃志連々相催之間。其驗乎顯加爲仁。度々勅願事毛有利。何與利毛山門乃御幸乎遮志多利事。六波羅沒落乃時事。又西薗寺承久仁朕於惱須仁依天。忽誅罰世良禮志事。旁可思食合事共也。加樣乃事者委久嘉禎置文仁載多利。云々。

曆應二年七月廿一日。此由申入洞院家了。仍

造榮（營カ）間事。同廿二日被經奏聞畢。

後鳥羽院御靈告記一段

永仁二年五月八日。石熊丸。青侍石見介入道子九歲記曰。水無瀨古宮仁無佛閣幾間。三熱乃苦難忍志。由良上人乎開山土志天建寺。號大興禪寺天大乘乃法味乎受土誓幾。此趣弘安仁以經方天託宣志幾。朕十善乃餘薰仁答天吾朝主也。此程乃願望爭不達乎。天下乎知食君。朕善提不訪者國家不可治佐留旨。又嘉禎置文仁毛載者也。抑彼上人乎信敬故者。紀州由良湊仁能茂入道西蓮建堂宇天號西方寺。朕加菩提所土須。彼寺仁上人住天。朕仁有因緣。仍門葉乎可守護幾旨誓幾。其後上人渡宋六年乎經天歸朝。又彼寺仁住世志時。天狗集會志天障碍乎成事有幾。吾與上人相談勤行以下長日法則乎定乎必。因茲魔界還天護法善神土成。故彼法流必可與者也。以此因緣如此誓約須。忩々奏聞乎經天離宮乃古跡乎改天。伽藍乎可建立也云々。

鐘事同有託宣。七條女院御願寺有之。

此旨奏聞之處。被下院宣了。

水無瀨殿跡可建立伽藍事。內々奏聞之處。此條有何事哉之由其沙汰候也。可被得御意之狀如件。

永仁四 十二月十八日 土御門明國 在判奉

水無瀨侍從入道殿

追申。今日參仙洞候之間。同申入候之處。同前候旁神妙候。

我は法華經にみちびかれまいらせ候て。生死をばいかにもいでんずる也。たゞしもし百千に一この世のまうねむにかゝへられて。まゐんともなりたることあらば。このよのためさはりなす事あらんずらん。千萬に一我子孫世をとる事あらば。一かう我ちからと思べし。それは我身にある善根功德をみな惡道に廻向し

てこそ。さほどの事をばせむずる。殊に身にとどまる善根もなくなりて。いよ〳〵惡道にふかくいらんずる也。この事社返々かなしきなり。さる事もあらんには。我子孫の世をしらせ給は又二毛神事佛事ゆめ〳〵おこなはるまじ。たゞ我菩提を一かうとぶらはれんぞ。なに事にてもすきたる御いのりにてあるべき。この樣は後白河法皇われにおほせられし事也。それ迄ふかくのいたりふかくもちゐず。その事となきいのり物まうでにて。かゝる世になりにき。ましてわかちからをもて。世をしらせ給はむ君。いさゝかも我菩提のほかの事をおこなはれんは。一ごに御身のたゝりになるべき事也。たとひまゐんになりたりとも。なにとなき事などはゆめ〳〵すまじき也。返々まれまれ身にとゞまりたる善根功德をうしないて。手をむなしくしてあらん事のかなしさはなにゝもすぎたらんずるなり。たとへばひんくなる物のおのづからもちたる財をうしないて。大事をいとなむがごとし。功德を廻向せでは魔緣のならひ。惡事をばゐせぬなり。この事のかなしきなり。これも返々よしなくおぼゆれば。たゞ妄念をすてゝ。生死をいでむとこそ佛にも申ともせめての事にいひおく也。おはりの時おほやうは見えむずる也。東大寺の大佛供養に二度あひたりし。一日の一切經供養摺本法華經。この三の功德はいかにも身にそへてもちたらんずるなり。これをゐむとして。よくとぶらはゞ。たとひ一旦魔緣になりたりともむなしかるまじき也。關白以下のさはりをば。ゆめ〳〵なすまじきなり。わかするといふ事ありとも。もちゐらるべからず。

嘉禎三年八月廿五日

後鳥羽院靈告記

後嵯峨院御時。建長年中。洞々邊仁久我禪尼土申人又櫛笥禪尼蓮阿土申。數月病悩須。其比京都仁歲廿許奈留女乃物狂奈留有計利。或夜房親中納言阿闍梨土云人乃宿所仁來天。門乎叩事普通奈良須。在地毛驚幾騷久計也。與會與利見計禮者。扉乃中心仁高久立天叩計利。何事曾土問仁申計留樣八。明日請志奉留人有邊志。穴賢辭退志給奈。必向波留邊志土云。又其夜久我禪尼乃宿所仁。彼狂女行天。此御病波水無瀨中納言阿闍梨房親土申行者有利。彼仁祈世波忽仁驗有留邊志土云々。不思議乃思乎成天。翌朝仁車於迎仁遣志天招請須。房親病者仁對志天著座須。病者起奈於利天。眼乎見開幾。嗔乎成天申計留波。汝加座籍高志。悞仁可退止云々。仍大床仁下天圓座仁着須。其後病者我者後鳥羽院也土被仰計留仁。房親心中仁先不審乃思乎成須時。病者被仰樣波誠仁不審其謂有利。但汝所持乃念珠波如何仁失多留。珠三毛我持多利土被仰天被取出時。身毛豎天恐乎成須。被仰念珠波烏梅木仁天引世良禮天。聊毛御身乎離多禮佐利志乎。故宰相中將信成卿仁給。仍孫房親相傳須。件念珠乎持天大峯三ケ度滿天通計利。或時峯釋迦乃多計仁天緖切禮天。珠三失志事也。彼念珠波。汝毛始終不可持。大原乃法花堂仁可奉籠幾與志被仰。又汝父祖幷權中納言局。金毗羅中納言等皆祗候世利土被仰志時。天井振動須留事於比多々志。汝等毛皆可召仕志。定天可參者也。佐天毛汝乎召事波。聊可被仰子細有天也。我在位乃時。御賀乃節會可被行御事有志賀土毛。遂仁不叶志天止志乎。當代可被行御沙汰有利。朕毛不叶利志事乎被行禮牟事。叡慮仁達須留由被示。仍禪尼此趣奏聞世良禮計禮波。御賀被止計利。

敬白　後鳥羽院御影堂

立願事

右今度。運命無爲。願望成就者。先々御願條々未被果遂事等。急速可令遵行也。仍立願如件。

延元元年六月七日　太上天皇々々

水無瀨殿地頭停止御下文案令進候。正文者令進女院御所給候也。此御文箱被進入候。御返事可被申下候云々。在京時又三度之仰難避存候。隨分申沙汰仕候也。可被處愚忠候歟。猶々此事心之所及令執申候也。每事期後信候。恐惶謹言。

仁治元
七月一日　前陸奥守在判

阿波宰相中將入道殿

後村上院御願
發願條々

一以水無瀨故宮跡。可建立大興禪寺事。

一以水無瀨御影堂爲社壇。獻甚深之法樂。致慇懃之報賽矣。

一於大原法花堂任
先皇御願條々。法樂可果遂事。

天子、、敬凝一念純淨之精信。百六代祖皇之廟靈。忝以　祖皇踐萬乘之寶祚一十五回。普天之下無不臣伏。親二席之政務二十三禩。率土之濱無不子來。殊恨遺承久之末。急有亢龍之反。又喜至寬元之初。豫遭興王之運。可謂枯鱗再肉。朽木由孽也。爾來數代之國主。貢追善之福。八州之黎民仰如在之威。眇身忝禀玉扆之正統。謬膺金鏡之寶籙。然而時當屯難。身跋艱嶮。朝廷之禮儀如忘。宗廟之享祀空廢。俯思仰思。時時摧寸心。朝眷暮眷日々耻薄德。登極之運命非冥助乎。向後之治亂須在廟鑒矣。傳聞永仁之昔嘗有靈告。改水無瀨故宮爲禪刹。號大興禪寺。附由良上人受大乘法味者。代々之主不果此事。冥慮叵測。靈鑒有恐。伏願天下歸正。皇家興復者。建立此寺安置禪法。寄附便宜之料所。定置永代之軌式。廟靈不空者。感應道交誓願可立者。悉地无碍。萬民休肩。爲比屋可封之俗。四海歸心。同嵩山不騫之風。寺門繼不朽之願。朝廷被圓極之福。敬白。

正平五年七月廿二日　天子某敬白
御手印記

伊王左衛門入道西蓮參隱岐於御前蒙勅宣記

勅宣云。故宮戀慕之餘。遠嶋徒然之間。奉作十一面觀音像。安置洛中之近邊。此像則一千日之間持戒淸淨。手自一刀三禮之　叡情所作之也。佛胸之間自取我二牙齒納之。佛左右手我切二小指納之。有深重之御願也。及末代必可有賢王之理政。當其時捧手印書申請料所。以物集女可成僧寺。傍々所領者新免寺戸之所領也。偏修眞言行。誦法華一乘。可訪菩提。捧手印書。奉近龍顏。冥有哀愍之　叡慮。此外俗體影一鋪。法體影一鋪。法華經一部。六字名字一鋪。皆共宸筆也。若一天歸昔。可與我靈廟。我可守國家。以當所之繁昌可辯國土。全夢々於當庄可絶他人之希望也。靈魂冥有知見。仰可至歸依也。今度下向。殊更神妙也々々。龍顏御涙只如雨也。謹記之。

御手印案

嘉禎二年甲子十月十五日沙彌西蓮記之

御所勞さりとも／＼と思へども。隨日大事に成ればおほやう一定とおもひてある也。日來の奉公不便に存れども。便宜の所領もなきあいだ力不及。於水無瀨井内兩方。御手印 無相違知行して我後生をも返々とぶらふべし。もちだは眞念すぐに親成にゆづりたれば。父もよもたがはじ。加賀は信氏にぞたばんずらんとおもへども。おほここにてとがなからんに。一方なりとても親成をおきながら。弟給べき道理なし。おなじく親成知行して御手印 わがこゝろと信氏にもあづけんは。そのかぎりなし。一の人家人などになりなば。信氏は官位もとゞこほらずあらんには。父もそれをこそもてなさむずれ。たとひさりともこのをしでをそむきて。この領々をもをしとるほどのことは。よもいかでかあるべきとこそ存ずれ。

御影御日記

暦仁二年二月九日　御判

建武三年十二月十五日。信慶向冷泉大納言仰

云。近日御祈禱事。殊可被致精誠。深所憑思食也云々。

故又於御影御前。一事別而可致沙汰云々。

申上云。御祈事參修可然之處。近日牢籠之進退難治之時分也。長日致精誠之條。可足上察。御影御前事者。時代不同御繪。　先皇殊被執思食之條。定被知食置歟。且御影堂御本尊。若不慮事令出來給者。以此御影可奉尊崇之由。憖承勅定二條局西御方所奉持也。所詮可進置此御繪。不離御所有御安置。自身御祈參修トモ被思食。御祈念可令渡給。於御要以後者。可被返渡。且於此奉公者。御影堂等事可預御計之由申入之處。所申入殊御本意也。彼間事不可有子細。但彼僧正之權威。近日之御沙汰。非無斟酌。可待申入必可被仰下云々。

十六日。被下勅書幷納物了。納物赤御手箱。蒔繪鞆繪緒赤納三卷進上了。

十七日付置冷泉大納言了。使者信慶持向了。

下預了　信慶判

龜山院勅書

昨日受戒。殊催信心候。於向後每月可爲恒式思給者也。兼又當寺事不可思放深思給候。此等子細以前大納言可仰候也。

正安三年
三月二日　御判

昨日理覺上人爲御代官勤御戒師。演說殊勝叡感尤深。出自藍青自藍。誠是末代之明師也。雖本向後御故障之時。每度可被差進候。歸敬之至不可相御氣色候也。恐々謹言。

乾元二
三月二日　顯相

正覺上人御房

當寺本尊事。二尊內釋迦者。　後鳥羽院初度御逆修御本尊也。院範作也。

又修明門院爲御願。　後鳥羽院。幷土御門院御影ヲ。被奉安置于當寺者也。

御室入室被賀申之事。不可說事候也。但中々不知之體一事候歟。

無爲之條先爲悅。每事無相違早々可被參洛候。就中仁和寺宮弟子事。中々子細存知無詮候。只今度さのみ相續之條。甚不可然事歟。爲大師正流。爭不被先鎭護國家。可有異心候哉。兩三代一向御一流。非當時治世之御子孫之條。事理背祖師素意候歟。況於今度者可爲此御流之旨。自伏見院御在世定了。今御室又以眞光院僧正被申定者也。所詮天下護持之太事。可被申立者也。種々奸曲沙汰候へとも。中々其段不可及申立事歟。

夫以南浮中天之秋月。鷲峯山之雲空隔。上界內院之春風。龍華樹之霞。猶遐。於其中間竊鑒未來思惟。衆生利益之方便不如敎法住持之因緣。其敎法者在世五十年之說。點滅後八百年之內證而已。敎法弘通者在僧寶住持。僧寶住持在寺院之洪基。寺院之久住非僧徒者不成。僧徒住持非戒律者不立。於是愚僧王位昨日所捨也。檀特山之修行欲勵。妻子去歲所別也。生死河之愛執永抛。因緣令然純熟。於斯。方今。先帝。皇居。仙院。故宮。自東洛。自南陌移佛閣。移僧房。凡此大覺寺者弘仁聖皇經始之皇居。弘法大師練行之師跡也。何況寬平祖皇瀉瓶水於此砌。傳印璽於嫡資稟。其裔絲傳此血脉。非此地者何處開寺院之基。非此法者何法竭弘通之誠。此內不壞化身院今新造立是也。移紫震殿之舊搆。安白象王之新像。屈信空上人爲唱導師。演開眼供養之梵席。祈令法久住之勝益專。至此院者。彫羯磨智之尊容。弘毘尼藏之敎行。古德云。依敎建立。定惠功莫等住持佛法群籍愛恩唱云々。寺院久住。敎法住持處焉此法也。抑立十箇條行願。以成人法利益矣。

一。秘密敎法令不斷絕願

諸宗最頂如來。奧地不如此法。而時世澆薄。祖師眇邈。執着事相ま。還涉法執。粗辯文籍

者。或近邪路。專立正旨。以覺深意高祖遺流。流派無盡。各傳血脉。不令斷絕。利國家。救蒼生。乃至未來際不退此願。

一。令一切衆生發淨菩提心願

若眞若俗當寺。他處隨力之所及。勸發其心。乃至未來際不退心願。

一。令諸學徒開正法眼願

顯密諸宗。邪正交錯。口雖誦經文。意存我執。動隨人情。頗背佛意。隨力之所及。以開正見。乃至未來際不退心願。

一。令諸學徒全持戒律願

入道之本。稟戒爲先。諸宗學徒已忘其道。戒行中興雖立。一門諸宗學徒放逸難禁。隨力之處及。令立戒行。乃至未來際不退此願。

一。令結緣衆生成无上菩提願

一切衆生緣。而雖無殘。无量刧來結。而有所(因カ)固。以一片土木。支寺門之輩。運一般之步。詣寺門之族。永離三途之苦域。終至萬德之尊位。乃至未來際不退此願。

一。令國家成熟五穀消滅諸災難願

廻當寺所修行業。祈國土太平。滅人民宿業。天地消災。風雨順時。五穀成熟。萬民豐樂。寺院基固。乃至未來際不退此願。

一。令人君歸正法固運命願

廻當寺處修行業。祈宰臣運命。令宰臣扶翼。今在東關。天下治安可在武威。專興正法。運命長久。寺院基固。乃至未來際不退此願。

一。令民庶歸正法无病患願

廻當寺處修行業。祈民庶安寧。一期人民消滅。道俗歸正法。人无病死。寺院基固。乃至未來際不退此願。

一。令結緣衆生現世離厄難願

廻當寺處修行業。遠祈无緣衆生。近祈有緣衆生。以一片土木。支寺院之族。運一般之步。詣

寺門之輩。離一切厄難。成一切處願。寺院基固。乃至未來際不退此願。

右所啓白十ヶ誓願。一切三寶悉知證明矣。凡功德所覃無有涯際。佛果廣海無邊際。而一善所起非無其因。今處移造殿舍者。在昔九重紫宸之玉殿也。王公相將拜趍禮儀之堂。如今九會金剛之寶閣也。五智四曼莊嚴加持之宮而已。無謂晏駕之雲永去。可觀常住之月在斯。功德廣大。利益無邊。敬白。

延慶二年八月廿七日　佛子金剛生

## 先代破裂集

序

凡談山鳴動者。吾朝希異也。其聲聞于三朝。其瑞傳於萬代。帝王理亂。國土安危。子孫禍福。當寺動靜。皆以此瑞。依之欲示恠異之時。御陵山大鳴動。神光廣輝四海。有御面破裂。鳴動次第者。古老傳云。先粟原。次大原。次當山。於當山鳴動方東邊國王。南邊長者。北邊氏人。西邊萬民。中央當寺。恠異矣。寺家言上子細於長者殿下即不論善惡日召御占。而被下御占形。然後發遣告文使。奉讀告文內。御體復本。靈異揭焉。誠是大權現之變作。極聖之示現者歟。是故維摩詰經問疾品。淨名大士云。衆生病則菩薩病。衆生病愈菩薩亦愈。又言。是病何所因起。菩薩病者以大悲起。又云得是平等無有餘病。唯有空病。空病亦空矣。誠哉。本迹雖殊不思議一者歟。

先代破裂集

後冷泉院御宇。永承元丙戌年正月二十四日酉時。宮仕法師久聖告云。尊像右御面四寸餘令破裂給云々。

次日寺拜二月一日。寺主賴春上洛。同二月十五

日告文使周防前司賴祐下向。拜謝事竟。同二月十六日歸洛。于時長者宇治關白左大臣賴通。撿挍春禪。令破裂者。永承六辛卯年。奧州夷賊安倍賴時子息貞任宗任起亂。源賴義子息義家受勅攻彼。十二年間合戰不止。終誅賴時貞任。生取宗任。彼等叛逆先兆也。永保元辛酉年三月六日御破裂。同三月十九日於關白殿被行御占。告文使式部大輔敦光。于時關白左大臣師實。

久安四戊辰十二月八日。御破裂。告文使美濃權守藤原有光。式部大輔敦光一男。于時攝政太政大臣忠通云云。

保元二丁丑年七月朔日御破裂。同七月二十六日告文使文章博士藤原長光下向。式部大輔敦光二男。于時關白前太政大臣忠通。

應保二壬午年二月二十三日御破裂。告文使大內記藤原遠明。大內記令明一男。于時關白左大臣基實

仁安二丁亥五月二十三日御破裂。告文使大膳大夫藤原範明。元名遠明子息三人相具下向。于時攝政前左大臣基房。

嘉應二庚寅年閏四月十三日御破裂。同閏四月二十二日告文使日向守藤原定長下向。權辨光房四男。于時攝政前左大臣基房。

承安二壬辰年六月九日御破裂。告文使兵部少輔光綱。光房三男。于時攝政太政大臣基房。

同四甲午年十二月四日御破裂。同五乙未年正月二十七日告文使式部權少輔敦綱。令明子息二人相具下向。于時關白太政大臣基房。

治承二戊戌年三月十九日。御破裂。同四月八日告文使兵部少輔光綱下向。于時關白前太政大臣基房。

同四庚子年七月二十二日御破裂。同七月二十九日告文使安房守定長下向。元日向守。于時關白內大臣基通。

養和元辛丑年月日御破裂。同七月二十四日告文

使敦綱朝臣下向。兼被告興福寺造營由。于時攝政內大臣基通。

元曆元甲辰七月二日御破裂。同七月二十二日告文使散位從四位上敦綱下向。于時攝政前內大臣基通。

文治三丁未年十一月二日御破裂。同十一月廿日告文使文章博士光輔下向。文章博士長房二男。于時攝政前右大臣兼實。

承元二戊辰年四月十四日御破裂。被遣告文使。于時關白近衞左大臣家實。

元亨二壬戌年二月二十九日御破裂。同三月二十二日被遣告文使。于時關白九條左大臣房實。

以下七箇度者。以鷹司關白信房公記錄寫之。

嘉吉元辛酉年二月廿六日御破裂。同廿七日申時。告文使藏人頭正四位上左中辨藤原朝臣明豐。十月十七日下向而。無平愈也。十八日歸洛。重而告文使正四位下神祇權大副卜部朝臣兼名。同二年十一月八日下向。奉幣三反。悉令平愈給云々。關白二條殿不審。于時參向。同九日歸洛。

長錄(祿)三己卯年歟不審年月不分明也。宣胤依服中不參向歟。顯鄉朝臣參向。于時關白敎房公。

私云或記錄云。寬正三壬午年十月廿八日御破裂。同四癸未年二月十七日御平愈。告文使治部卿顯鄉下向。于時關白一條前左大臣敎房矣。長錄之御破裂。年月日不分明云。寬正三年之考損歟。或又寬正三年御破裂別有之歟。

寬正六乙酉年九月十三日。同十一月六日使立。頭左中辨藤原宣胤朝臣參向 于時關白持通公。告文章繼長卿。淸書宣胤朝臣。

文明七乙未年二月十四日。同九月二日使立。元長宣秀少年之間爲代沙汰之。于時關白政嗣公。告文顯長卿。淸書殿下。左御目下鬢至五寸。廣一分。同左邊三寸五分。廣一分。

同十八丙午年十一月九日。同十九年三月二日使

立。藏人左少辨藤原宣秀。于時關白政忠公。告文在數。清書宣胤卿。左方從項上至眉。竪七寸。同自左御目下。竪三寸五分。
明應五丙辰年十月三日。同六年三月十一日使立。九日立京。左大辨藤原家幸朝臣。于時關白尙通公。自左眉上竪五分。同方自眉下竪四寸五分。御冠左方横六寸。告文章長。清書殿下。
同六丁巳年三月廿日。去年十月三日御破裂之後。當年三月十一日使立。御平愈。十箇日之內又御破裂。又卯月御破裂有之也。同年十二月廿三日。廿二日立京。使立。藏人頭左中辨藤原宣秀朝臣。于時關白冬良公。去三月御破裂之時。關白尙通公。六月七日辭職。同十八日尙基關白宣下。十月十日尙基公薨。廿七歲。未拜賀。當職五十日。同廿三日關白冬良公再任。告文大內記文章博士和長（マサナガ）朝臣。清書宣胤卿。七月九日參向。御使家幸朝臣歟。
以下八箇度者當寺記錄有之。
明應七戊午年正月一日。去年十二月廿三日御平愈以後十日內也。左御眉下横一寸。右御耳前竪一寸三分。同九月七日使立。勅使中御門家幸朝臣。同拜社大阿闍梨心藏院也。
永正三丙寅年九月四日御破裂。
同七庚午年三月四日戌刻御破裂。重而御破裂御痕三箇所。勅使清閑寺殿。告文九度御平愈。
同十一月廿五日寅刻御破裂。光物南飛。同廿六日戌亥時間鳴動。十二月六日神拜。御痕二箇所。拜社法印盛秀。
私云。或記錄曰。永正七庚午年三月四日戌刻御破裂。同七年十月十四日御平愈。于時關白左大臣正二位尙經。
永正八辛未年三月廿九日御破裂。勅使清閑寺殿。告文七反御平愈。
天文元壬辰年十一月御破裂。十一月廿四日神拜。十二月廿日注進。同十二月廿四日勅使四條殿。
同二癸巳年三月十七日御破裂。神拜。卯月九日注

進。勅使日野殿。拜社法印善祐。
同三甲午年八月向一日御破裂。勅使日野殿。山科殿。拜社法印善祐。上番幸秀。先上番法橋林舜。
私云。或記錄云。天文三甲午年八月十一日御破裂。同八月十五日御平愈。于時關白內大臣二位植通。
以下一簡度者上番手文有之。
天文十一壬寅年九月廿五日御破裂。午刻鳴動。同十一月十九日神拜。上番延慶。
慶長十二丁未年閏四月二日御破裂。巳刻前御陵山大鳴動。神光四海輝。光物國々飛行。六月晦日上番南之坊禪蓮房神拜。七月二十日戌刻大阿闍梨文殊院法印秀藝拜社。廿一日寺主賢聖院律師順藝上洛注進。八月廿九日占文。從關白下。翌年慶長十三戊申年正月二日。高嶽松自根至末悉裂。三月十一日戌刻。於京都關白庭上有御出向南遙拜。三月十二日勅使淸閑寺右中辨立京。同十三日登山。同十三日亥刻勅使出仕。護國院大阿闍梨昇殿。勅使庭上居跪讀告文。雖及七反無御平愈。勅使同十四日歸洛。同十六十七兩日寺務青蓮院御門跡尊純。於護國院被修法花八講。御門跡御精言々列殊玉句々盡深理。聽聞諸人感嘆落淚。于時御門跡年十七歲。六月十二日寺主賢聖院順藝上洛。重請告文使。九月廿二日勅使吉田左兵衛佐。私云。吉田左兵衛佐兼治事歟。立京。同廿三日登山。同廿四日從卯刻衆徒於護國院轉讀大般若。修不動愛染法。同廿四日從酉刻勅使出仕。護國院庭上居跪讀告文。而後勅修神道護摩。護摩一座訖。大阿闍梨昇殿神道護摩。二座目悉御平愈。其後有番論義。論義事畢勅使下向。次於勅使宿坊僉義。僉頭。同廿五日猿樂。同廿六日勅使歸洛。同廿八廿九兩日被修法花八講。今度御破裂誠以末代奇特不可勝計。于時關白鷹司左大臣從一位信房。撿挍十字坊尭盛。

從永承元年御破裂。至慶長十二年御破裂所載記錄三十三箇度也。

文明七乙未年御破裂之時。關白殿江注進狀之案文。

去二月十四日卯刻。御墓山高聲令鳴動。幷御體御面令破裂給候。任例奉伺取寸法之處。左御面御目下御鬢(滿天)五寸。(廣サ一分。)同御面左邊三寸五分。(廣サ一分。)以上如此御面破裂越先代候。急被行御占可御卜形下給候哉。御祈禱可抽精誠候。次又任佳例。可令御告文行給候哉。以此等之旨洩可預御披露候。恐惶謹言。

六月九日　撿挍三綱等

進上　中御門殿

右案文者。中御門殿ヨリ禁中江上ルヲ申請寫之。

慶長十二丁未年御破裂之時注進狀案文

去閏卯月二日巳尅。御墓山高聲令鳴動。幷御體令破裂給候。任例奉伺取寸法之處。御額一寸。(廣サ一分。)御頤一寸餘。(廣サ一分。)御胸七寸(廣サ一分。)已上。如此破裂越先代候。急被行御占可下御勘文給候哉。可奉抽御祈禱精誠候。次又被任佳例。可令告文行給候歟。以此旨宜預御披露候。恐惶謹言。

七月廿一日　撿挍三綱等

進上　南曹辨殿

右以文明案文書之。此時南曹廣橋辨爲貫。撿挍十字坊堯盛。上座地生院暹英。寺主賢聖院順藝。都維那師文殊院秀藝。

同時占文

恠異吉凶(去閏四月二日巳刻。多武峯大明神御額一寸。御頤一寸餘。御胸七寸破裂給事。)占。去閏四月二日甲子時。加巳太一臨寅。爲用將勾陳。中傳送白虎。終徵明太陰。

卦遇玄胎四北

推之。依穢氣不淨不信所致。上可有御愼。御病

事。口舌。鬪諍事歟。期惰日以後四十日內。及七月。明年四月節中幷庚辛也。兼被祈禱者無其咎乎。

慶長十二年八月廿七日

正五位下行天文博士兼左馬助安部朝臣久脩

右占文從關白鷹司殿來寺庫江納入也。

從關白鷹司殿告文使延引之時御奉書。

告文使御延引之子細候。頓而參向之儀可有御取沙汰候之間。御祈禱無油斷樣ニ滿寺江可被申觸之由。被 仰出候也。恐惶謹言。

九月廿五日　私云廣橋南曹辨殿　爲賢

多武峰撿挍三綱御中

右御奉書。御關白鷹司殿來寺庫江納入也。

從當寺右御請案文

今度就告文御使御延引。被成御奉書。謹而致拜見候。然者到御使御治定之節。使僧可令在洛之由申付候間。定而可得御意候。早速被成參向御平愈可爲珍重候。於神前御祈禱聊以不存油斷候。此等之趣御披露可忝存旨。御取成所仰候。恐惶謹言。

九月廿九日　多武峰三綱等

進上　南曹辨殿

重而告文使延引之時御奉書

告文使御參向之儀。依被辭退申。年內不相調候。來春者早々可有御取沙汰候。先使僧衆歸寺候樣ニ被 仰出候也。

霜月廿二日　爲賢

多武峰撿挍三綱中

右御奉書寺庫江納入

勅使參向日取之事

可被多武峰　勅使立日。

三月十二日　己亥　十九日　丙午

慶長十三年二月十六日

正五位下行天文博士兼左馬助安倍朝臣久脩

重而勅使吉田殿九月廿三日參向日取之事
可被多武峰　勅使立日。
　今月廿三日　丙午　廿四日　戊申
慶長十三年九月四日
　　正五位[上脱カ]天文博士兼左馬助久脩
右兩通寺庫江納入
後陽成院以勅筆。寫御破裂記錄。賜靑蓮院尊純親王。親王亦賜多武峰御記錄。
後法興院殿下御職。于時明應六丁巳年三月十五日丁巳時々雨下。家幸朝臣來。昨夕自多武峰上洛云々。御影御破裂之事。告文六度讀申間。悉御平愈云々。雖末代奇特相殘者乎。去九日家幸朝臣立京都。從八日晚景來此立了。九日未明關白有遙拜事。設座。於座上向南兩段再拜。其間有祈念事。五色幣五本。染紙裹薄絹。納小長櫃。引注連。兼日百疋御下行。吉田神主許。調進之。遙拜後家幸朝臣記作進云々。今度和長朝臣有憚神事子細云々。仍仰章長說書事手跡家。或執柄自筆云々。今度關白淸書也。告文如此。就御平愈。自多武峰殿下江進物千疋也。五百疋神供下行。仍殘五百疋進上。又當職御拜賀時。御禮三百疋。三荷可進上之處令無沙汰。今度幸拜賀之間。仰遣間。三百疋三荷進上也。惣而御職中進物事。中御門亞相江注進子細。注雜事要錄。今度禁裏江御禮物千疋進上。家幸參向出立分千七百疋令下行。其外輿舁人夫傳馬等致沙汰云云。就御平愈自坊中致禮節云々。翌日有猿樂云云。大明神御寶物御大刀長光。遣之由相談畢。以廣橋大納言兼勝卿家記錄寫之了。從神武百數代孫周仁廿八歳。
慶長十三稔仲春十五蓂。
右記錄者。禁裏御破裂事無御存知故。御尋有之時。自廣橋殿出者也。則寺庫江納入也。
就御破裂勅使參向之時護國院搟覺

唐棟從北東柱半間程。中三足灑水器。幷散杖置。唐棟東南方如常撿挍三綱等着座也。唐棟西南方一間重疊敷。其上讃岐圓座敷。勅使御着座也。唐棟西北方。從唐棟一間程西半疊敷。拜社人着座。其次少間置勸盃人着座。西南方西北方末番論義衆十人左右ニコマトリテ。臈次着座。平學侶堂方東方經所兩宿老。東透廊勅使御供衆。其外諸役者出仕也。

右上番手文披見候間寫之畢。

醍醐帝御宇。昌泰元戊午年二月七日戊刻御破裂。一條院御宇。永祚元己丑年六月六日御破裂。勅使中院殿。

右兩件委細不知追而可考。

以宮內省圖書寮本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百六十五

雜部百十五

## 後宮略傳（端及中間缺）

九條院

保元元年十月廿七日爲皇后宮。同三年二月三日爲皇太后宮。仁安三三十四號九條院。安元二八廿八崩。四十二。

上西門院統子。鳥羽院皇女。母待賢門院。後白川院准母儀。

大治二四六爲伊勢齋宮。卽被下准后宣旨。保元二二十一立后。卅二。保元三二三爲皇后宮。卅三。同四二十三爲上西門院。異本平治元十月廿。院號。卅四。永曆元二十七於法金剛院御出家。卅五。法名金剛觀。

文治五七廿崩。六十一。或本云。永曆元八廿三御出家。

八條院暲子。鳥羽院皇女。母美福門院。

久安二四十六准三后。

保元二五十八御出家。廿一。法名金剛歡。或本云。長寬元八十五出家廿七。

應保元十二十六院號。廿五。元姬宮。

建曆元六廿六崩。七十五。

高松院姝子（妹ヵ）。二條院后。鳥羽院皇女。八條院同母妹。

永曆元正月廿一立后。廿。中宮。

應保三七九院號。廿三。

仁安元八廿一御出家。廿六。法名實相覺。

安元二六十二崩。卅六。或本云。久壽三年三五入太子宮。保元二五廿三准后。同四二廿一

爲中宮。永曆元八十九御出家。應保二二十六(五イ)爲高松院。安元二六十二崩。三十六。

建春門院平滋子。贈左大臣平時信女。母中納言顯賴女。後白川院后。高倉院母。仁安三三廿爲皇太后宮。元女御。同四四十二院號。

安元二七八崩。卅五。天下諒闇。或本云。仁安二二十一立后。皇后宮。院女御也。嘉應元四十二院號。安元二年七八崩。

建禮門院平德子。高倉院后。安德天皇母儀。太政大臣清盛公女。母贈左大臣平時信女。承安元年十二月爲女御。同二二十爲中宮。養和元年十一廿五爲建禮門院。于時重服。重服之時院號之例。

文治元年出家。法名眞如覺。

建曆元崩。或本云。治承元二九入內。同二三十一立后。中宮。養和二十一二院號。壽永二七廿二御下向西國。元曆二八月御歸京。

殷富門院亮子。後白川院第一皇女。母高倉三位仲子。

壽永元八十四爲皇后宮。

文治三六廿八爲殷富門院。

建久三三十一九出家。法名眞性理。

建保四四二崩。七十。或本云。壽永元八月十四立后。卅六。元前齋宮。文治三六廿四院號。四十一。院御母儀。順德院御養母。

七條院殖子。高倉院后。後鳥羽。後高倉御母。修理大夫正三位信隆卿女。母大藏卿通基女。或本基隆女歟。

建久元年四月十九准后。元從三位。同廿二日爲七條院。

元久四年十一月八出家。法名眞如智。

安貞二九十六崩。或本云。文治六四九院號。卅四。去正月准后。元久二十一八御出家。四十九。

宣陽門院覲子。後白川院皇女。御母從二位高階和宗女。

文治五十二五准后。建久二六廿六爲宣陽門院。

元久二三十三出家。廿五。法名性圓智。

建長四年六八日崩。六十。或本云。建久二年十月廿日院號。十一元准后。元久三八月十五御出家。廿五。

宜秋門院藤任子。イ本娠子。關白兼實公女。母從二位藤兼子。正三位季行女。後鳥羽院后。

文治五年十一月十五日從三位。建久(以下缺)

月華門院綜子。母儀大宮院。

寶治元年十一月一日爲內親王。
弘長三七廿七院號。先被下准后宣旨。
文永六年六月一日崩。

今出河院藤嬉子。前太政大臣公相公女。母儀女房三位局。大外記師朝女。從二位藤敎子。太政大臣實基爲子也。龜山院后。
弘長元年四廿三叙從三位。同年六月十四日入內。爲新院御猶子之儀也。同月廿日被下女御宣旨。同八月廿日爲中宮。
文永五年十二月六日院號。
弘安六八八十三御出家。卅一。法名佛性覺。

京極院藤佶子。左大臣實雄公女。母法印從三位某子。龜山院后。後宇多院御母儀。
文應元年十二月七日叙從三位。同月廿二入內。大宮院御猶子之儀。同月廿五有女御宣旨事。
弘長元二八爲中宮。同年八廿轉皇后宮。
文永九八九崩。同日院號。同十三日御葬送山科。遺令。

靡殿
新陽明門院位子。關白基平公女。母少將源通能入道女也。龜山院后。
文永十一六月日入上皇宮高陽院。同三年二廿二日女御。叙品。准后宣旨。同三月廿八院號。

延政門院悅子。後嵯峨院皇女。母太政大臣公經公女。
弘安七二月十爲內親王。同月廿八院號。先被下准后宣旨。

玄輝門院愔子。左大臣實雄公女。伏見院御母儀。後深草院后。
弘安三正八叙從三位。
正應元十二廿六院號。先被下准后宣旨。
元德元八卅於持明院中園殿崩。八十四。

五條院懌子。後嵯峨院皇女。母刑部卿孝時入道女。
正應二十二月七爲內親王。同十日院號。先准三宮被下宣旨。

遊義門院姈子。後深草院皇女。母東二條院。
弘安八八十九爲皇后宮。
正應四年八四院號。元皇后宮。
德治二年七廿六崩。

永陽門院久子。伏見院御妹。母儀玄輝門院也。
正應四六月立親王。
永仁二二月七院號。先准后。
昭慶門院憙子。龜山院皇女。母儀三位雅平卿女。
永仁四八十一院號。元內親王。先被下准后宣旨勅書。
永福門院鐘子。太政大臣實兼公息女。母儀通成公女。伏見院后。
正應元八廿爲中宮。先女御。
永仁六八廿一院號。
正和五六廿三御出家。御年四十六。
康永元五七崩御。七十二。
昭訓門院瑛子。父母同上。龜山院后。
正安三三十六叙從三位。同十九日院號定也。
嘉元三九廿一御出家。法名遍昭智。
永嘉門院瑞子。後嵯峨院御孫。中務卿宗尊親王御女。當院御猶子云々。
正安四五月廿院號。
陽德院媖子。後深草院皇女。母儀從一准后。

正安四三十五院號。元內親王准后。
嘉元四九月一日御出家。
章義門院譽子。伏見院皇女。母儀權中納言公宗女。
永仁三八十五親王宣下。同日爲准后。
德治二六廿二院號。
西花門院基子。太政大臣基具公女。實內大臣具守公女。後二條院御母儀。
延慶元十二四院號。先被下准后宣旨。
廣義門院寧子。前左大臣公衡公女。母持明院殿一院御母儀。後伏見院后。
延慶二正十三院號。先爲女御。次爲准后宣旨也。
建武三三廿五御出家。二園太暦。皇紀。
延文二丁酉閏七廿一崩御。
章善門院永子。後深草院皇女。母。
正應四十二十五親王宣旨也。同日准后宣下。
延慶二二三院號。
朔平門院璹子。伏見院皇女。
正應六三廿四親王宣下。

延慶二六月廿七院號。先被下准后宣下。同三年十九崩。廿五。

長樂門院忻子。太政大臣公孝公女。母儀從三位喜子。三條内大臣公親公女。後二條院后。

嘉元元九廿八以從三位爲中宮。入内。

延慶三十二十九院號。

延明門院延子。伏見院皇女。

應長元年八月十日爲内親王。卽准三宮宣下。

正和四二廿四院號。

談天門院忠子。參議忠繼卿女。後醍醐院御母儀。後宇多院后。

永仁五年七月廿一叙從三位。

文保二四十二院號。元准后。

元應元十一十五子刻崩。五十二。

達智門院奬子。後宇多院皇女。母談天門院。參議忠繼卿女。前齋宮。

乾元元十二廿六爲内親王。

德治元年十二廿二卜定爲齋宮。同二年九廿(マヽ)三入御諸司官朝所。同月廿七入御野宮。

同三年八月廿六日自野宮御退出。依主上崩御也。

文保三三廿七爲皇后宮。一皇紀。女院小傳。

元應元年十二十五院號。同廿一御落餝。御母儀談天門院。去十五日崩御。今日當初七日給也。

壽成門院㛠子。後二條院皇女。

元應二年八廿二親王宣下。同月廿三日院號。

萬秋門院頊子。圓明寺攝政實經公女。

嘉元元五廿叙三位。

德治三年九月日御出家。

元應二三廿六院號。元尙侍。

建武五三廿五崩。七十一。

顯親門院季子。左大臣實雄公女。母。花園院御母儀。伏見院后。

永仁五年正月廿五日叙從三位。

正中三年二七院號。先准后宣下。

後京極院禧子。太政大臣實兼公女。後醍醐院后。

文保二七廿八女御。

元應元八七立后。
元弘三十月十二院號。元中宮。今日崩。此御事者正慶ニ禮成門院ト申キ。
宣政門院懽子。後醍醐院皇女。准國母。光嚴院后。
元應元年月廿八日內親王。
元德二十二十九卜定齋宮。
建武二二月二日院號。前齋宮。
曆應二年五卅御出家。廿六。
章德門院璜子。後伏見院皇女。母入道大納言實明卿女。
建武三年四月一日內親王。同二日准后。同日落餝(恂イ)。同日院號。先准后。
新室町院珣子。後伏見院皇女。後醍醐后。
元弘三十二七立后。
建武四正十六院號。元中宮。去十三日崩。
徽安門院壽子。花園院皇女。母宣光門院。

# 院號定部類記

目錄

左經記

上東門院

萬壽三年正月十七日乙未。天晴。余爲關白御使參右府。申云。來十九日大宮可有御出家事。院號幷被成別當。判官代。主典代之間。多有不審。又可有赦令事歟。先例如何。又明日賭弓可被延歟如何者。右府被申云。故東三條院。去正曆二年九月十六日。於職御曹司有御出家。仍有行幸。還御之後有其事。被所候僧（大僧都進（遍救）賀。山座主。僧都覺慶。律師觀修。阿闍梨嚴久。明豪云々）又左府於左仗座。被定申院號等事。則奉勅召大外記致時仰之。停太皇太后宮職爲東三條院。停進屬爲判官代。主典代云々。又賭弓是遊興事也。被延行宜歟者。參殿申此旨等。仰云。參御堂可申。日者依風病不參。但大宮御出家間事等案內。右府所陳如此。又尋外記。大略如右府相府示。但絹百疋。信乃布千段。爲宛諸僧料。自公家被奉之由注日記。依件可被行歟。又赦令事無所見。若是彼時不被行歟。又賭弓猶以後日被行宜歟者。入道殿仰云。大略承了。絹布任彼例可被奉也。賭弓尤可然事也。已後日被行宜歟。故東三條院御時。御出家日。別當三人。（亮二人。進時明。）判官代四人。（進等。此中六位進忠親。輔親。忽叙位補判官代。）主典代等被補。自餘人々後々被加。又雖被停后職。內膳御飯。御菜等。如元。主殿男女官供奉如元。但定殿上。被補藏人等之後被停供奉諸司。以此由等且可聞者。參殿申此由。召藏人可延賭弓之由被仰右府云々。又厨家納絹百疋。（太宰所進。陸奥之中。）卒分藏納調布千段整儲。依仰可奉大宮之由。承仰。仰大夫史貞行宿禰。又可延賭弓之由。自右府有仰。仍同仰大夫史了。

十九日丁酉。天晴。早旦參關白殿。（卽カ）召御供參大宮。今日可有御出家事。仍上達部多以參入。及未刻關白殿入內。則右府已下上達部引入內。着左仗座。關白殿候御前。（朝干飯方）召余被仰云。太皇太后宮今日可有御出家事。院號等事准東三條院

例可被行歟。將當可有可被加行之事歟。上達部相共可定申之由。可仰右大臣者。余進座下申右府。右府奉綸旨移着南座。上達部相共議定。令余覆奏之。院號等事。大略准故東三條院例可被行歟。則以御在所上東門院。舊名號。爲院號。停進屬可爲判官代。主典代歟。又内膳御飯幷御菜。御封。御季御服物等。如舊可奉宛歟。又年官年爵。彼時御出家次年之正月。如元可奉宛之由有宣旨。彼者依叙位除目程遠。忽無宣旨歟。於此度者除書在近。今日同可有宣旨歟者。則參御所奏此狀。仰云。停太皇太后宮職爲上東門（院脫カ）。停進屬可爲判官代。主典代。又封御（恐顚倒）幷御季御服物。内膳御菜等。皆以如元可奉宛。但内膳御飯者。自本宮被奏可停之由。仍可隨停止者。又年官年爵如元爲奉宛者。則進陣仰此旨。則奉御封幷御季御服物内膳御菜等 如元可奉宛之由。兼又奉可停止上内膳御飯之仰。歸陣腋。仰大夫史貞行宿禰。次右府召大外記頼隆眞人。於膝突被仰院號幷年官年爵等事云々。頃之右府率上達部歸參上東門院。入夜余爲勅使。令持絹百疋。廚家納絹内。以白絹裹之。各五十疋。調布千段。率分藏納内。但載渡文令請渡也。參院。令亮濟政朝臣申事由。在内藏寮渡之。則賜祿。白大褂一領。袴一具。須下庭拜舞也。而依降雪不拜舞退去。

水左記

陽明門院

治暦五年二月十七日甲寅。雨降。依可有院號。未時計參内裏。先是新大納言能長。宮内卿經長。左兵衛督顯房。權中納言祐家。權中納言經季。左近中將能季。右大辨經信。右兵衛督資仲。參議良基卿等參入。頃之關白參給。被候殿上。宿裝束。右衛門督忠家扈從。次右府被參入。被候殿上。右近中將宗俊扈從。此間大納言信長。民部卿俊家參入。右府下殿上被着陣。于時雨脚漸晴。西日隱山。頭中將基長朝臣來。仰右府云。太皇太后宮可有院號之事。前々以御在所之名所奉號也。

而件宮只今無指御在所。以何所爲名哉。宜定申者。良基。資仲。顯房。忠家。信長。右大臣定申云。元御領所枇杷殿也。只今雖不御座。以被可爲御號。經信。宗俊。能季。祐家。余。經長等定申云。只今雖無定御在所。定有可御坐之所歟。先以其所之名可奉號歟。能長卿定申云。枇杷殿元御領所也。可申枇杷院歟。又件所陽明門大路可申陽明門院。俊家卿定申云。大略同。經信朝臣申。但可依勅定歟。右府如此旨付頭中將奏聞。基長朝臣重仰云。陽明枇杷院之間以何可奉號哉。重可定申者。良基。資仲。顯房。忠家。余。俊家。信長。右大臣申上云。可申枇杷院。經信。宗俊。能季。經季。祐家。經長。能長等申上云。可申陽明門院。付此可申陽明門院之由被仰下。右府召大外記仰云。停太皇太后宮可申陽明門院。停進屬等可爲判官代主典代。但年官年爵如元。次召弁正家仰云。停太皇太后宮可申陽明門院。令停內膳供御。自餘事如例。公卿等起座參入彼院。於下官不參。仍不見彼院之作法。彼院御座能長卿二條院。

山槐記

上西門院保元四年二月十三日戊戌。天晴。今日皇后宮有院號事。號上西門院云々。是左兵衛督惟方卿定申云々。後日頭左大辨顯時朝臣談云。各被定申之院號等。南三條院。當時御所三條南室町東故也。四條院。依爲三條以南也。京極院。法金剛院爲御領爲西京極之故也。室町院。付御所也。上西門院。法金剛院當御門。六角院。般富門院。安嘉門院。永昌坊院。納言殿令獻給。等也。

十八日癸卯。深更小舍人來。告歟聽上西門院昇殿之由。院藏人來仰造廻云々。如此數多之時不賜小舍人祿云々。仍不給。高松院殿上始納言殿不給云々。任此事刑部卿憲方朝臣元亮。奉院宣書消息廻告之。小舍人者若內々催歟。不可然事也。小舍人者殿上始日可參事也。

十九日甲辰。天晴。今日上西門院殿上始也。未

剋着束帶。帶劔。隨身相具。參彼院。三條室町也。去夜被告聽昇殿之由也。于時無人寂莫。催時未剋者。申剋人々參集。公卿院司許可參云々。院司公卿權中納言實定卿。元大夫。別當信賴卿。元權大夫。等也。而別當不參。淸盛朝臣以下列立中門外。東上北面西禮也。可列殿上口歟。藏人仲重進出向淸盛朝臣。次昇中門廊。自外方昇。蹤寢殿西渡殿簾前。申事由於女房。次仲重歸出本路。自中門內可出歟。仰聞食之由。自庭中入殿上方畢。次淸盛朝臣以下舞踏。依爲上皇准母儀歟。次相尋昇殿。不知殿上事。余退出。是今夜可有御方違行幸。日影欲沒之故也。傳聞。實定卿幷淸盛朝臣以下四位七八輩。五位成賴一人着殿上有盃抄。初獻藏人源賴朝。元六位進。獻盃。二獻安房守經房。元大進。三獻右馬頭信隆朝臣元職事。補別當。云々。故待賢門院幷美福門院御時。殿上人數多兩度着之云々。然今度無其儀歟。不聞及。

院司

別當
權中納言實定。元大夫。右衛門督信賴。元權大夫。
刑部卿憲方朝臣。元亮。右馬頭信隆朝臣。元職事。
右少將實守。元權亮。五位也。
判官代
安房守經房。元權大進。
院號日被仰下。大進右中辨親範朝臣不補。前大進成賴依職事不補云々。藏人
主典代
撿非違使安倍資良。元屬。院號日被仰下。
左衛門府生同資成。元屬。同資弘。同。已上三人兄弟也。中原
兼能。
殿上人
修理大夫資賢朝臣。依熊野詣精進不參。大貳淸盛朝臣。
治部卿光隆朝臣。內藏頭家明朝臣。不立列。右中將實國朝臣。右馬頭信隆朝臣。不立列。頭權左中辨俊憲朝臣。不立列。左中將成親朝臣。右中將實房朝臣。不參。左中將成憲朝臣不參。左中將忠

親朝臣。大宮權亮實經朝臣。不參。左少將賴定朝臣。不參。左少將家通朝臣。左衛門權佐賴憲。能登守基家。藏人辨貞憲。中宮大進長方。中宮權亮實家。不參。左兵衛佐修憲。不參。右少將信說。不參。右少將實宗。不參。但馬守有房。兵部少輔時忠。

已上今日昇殿人也。

刑部卿憲方朝臣。元亮。右中辨親範朝臣。元大進。藏人大進成賴。同。左少將實守。元權亮。安房守經房。元大進。

已上五人院號日被仰下云々。可尋。

藏人

左兵衛尉源賴朝。元少進。藤仲重。

主殿司六人被渡云々。

小舍人員數可尋。

廿五日庚戌。天晴。今夜上西門院始御幸也。予着束帶。帶劔。隨身相具。秉燭參彼院。三條室町。頃之出御。圖書頭廣賢奉仕御反閇。給祿。次寄御車。權中納言實定卿寄之。公卿按察重。新大納言經。權中納言實定。別當信賴。源宰相師仲。宰相中將公親。右兵衛督公保。左京大夫隆季。中宮亮季行等也。殿上人十餘輩。出御西門。三條西行。町室歟北行。入御自高松殿東門。中宮御西面。出車五兩。檳榔毛也。女房不下。良久還御。及半漏歸私。

平範記　　藏人頭權右中辨正四位下

九條記

仁安三年三月十四日丙子。巳剋許參院。可有院號事條々奉仰。次歸參內。上皇御旨申殿下。晚頭公卿參着仗座。左大臣直被候端座。召官人被敷軾。次下官出軾仰左大臣云。皇太后宮職今定申院號ヨ。左府稱唯。下官退去。次參議右大弁實綱朝臣爲發語人。

右大臣經宗公。中納言實房。宗家。右衛門督實國。

參議親範。右大辨實綱等奉號九條院。

大納言師長。安嘉門院。坊門院。

參議家通朝臣。五條院。坊門院。
次左府召下官。於軾被示人々申趣。下官退去申殿下。令候朝餉御所給。九條院宣由有仰旨。此條須參啓上皇。而只申殿下。就宜直可宣下由。兼奉仰申殿下了。次下官於軾仰云。改皇太后宮職可奉號九條院。止進屬可爲判官代主典代。年官年爵如舊。御季御服御封被止了。仍不仰。內膳御飯可令停止者。次左府召大外記清原賴業眞人被仰云。其詞如下官宣旨。但內膳御飯事不被仰外記。次召右少辨重方仰云。改皇太后宮職可爲九條院。內膳御飯可令停止者。右少辨於床子座仰左大史隆職宿禰了。次公卿退出。下官宿侍。

引勘先例停后宮奉院號。萬壽以後今及十二代。

上東門院萬壽三年　陽明門院治曆五年
二條院延久六年　郁芳門〔院〕寬治七年
待賢門院天治元年　高陽院保延五年
美福門院久安五年　皇嘉門院同六年
上西門院保元四年　八條院應保元年
高松院同二年　今九條院今日

件代々御季如本仰イ御服御封併如舊云々。今被止件事於君候故不守其禮者歟。

吉記

建禮門院
養和元年十一月廿五日丁酉。自曉更雨降。臨昏屬晴。今日院號定也。依有勞事。申刻參內。此間公卿漸參集。左大臣相次參着仗座。先令置膝突。官人遲參。以掃部寮官人令敷之。諸卿各以着座。或又追參加。頭之殿下令參給。予申定可被宣下之趣。被相待左大將參入之間。暫以遲々。大將被參之後予着膝突。仰左大臣云。中宮可有院號。可奉稱何院哉。宜令定申。仰畢之後退去。次左府必被與奪可被定申之由。次自下﨟定申之。新宰相發語。

左大臣五條院。修明門院。春花門院。　左大將實定宣陽門院。建禮門院。坊門院。
藤大納言實國建禮門院。　堀河中納言忠親建禮門院。坊門院。
三條中納言朝方建禮門院。五條院。　別當實家建禮門院。宣陽門院。

右宰相中將實守。建禮門院。　宰相定能。建禮門院。

源宰相中將通親。建禮門院。宣陽門院。新宰相光能。建禮門院。聊有被申之詞。

定畢之後。左府被召予。仍參着膝突。左府被定申詞計示給之。人々申狀未聞歟。如何之由被尋之。大略奉之由申之。但少々依有不審。進寄奧座相尋之。次退去。昇殿中人々申狀於殿下。此次依被尋仰。申內議之趣畢。雖可院奏。不可然之由昨日御氣色候之由同申之。仍可爲建禮門院之由有仰。是人々多定申之上。聊有內議之故也。次予出陣仰左府云。止中宮職可奉稱建禮門院。改進屬判官主典代。年官年爵御季御服御封雜物等如舊。但內膳司御飯可從停止者。次予退入。次上卿召大外記淸原賴業眞人。被仰下院號幷年官年爵事。次官人出來告召之由。仍參進。上卿被仰云。御封等事可被奉行歟。有先例之由所覺悟也。予申云。可隨仰。但天治之例中辨奉行也。仍所催儲候也。許諾。予退去。於重事者大辨奉行雖有例。度度院號之時御封已下事大辨奉行。管見未及何說。天治之度。頭辨雅兼爲大辨宣下。然而官方事權辨顯賴奉行也。次召權右中辨光雅朝臣。被仰御季御服御封雜物內膳司御飯等事。次辨仰大夫史隆職宿禰。次諸卿卒參建禮門院。予又參入。每事有遲々之氣。依不可有指設退出。後聞。法皇中刻許臨幸云々。但其儀密幸也云々。召通盛朝臣下給院司交名。通盛朝臣申殿下。次召年預資成下知之。次判官代光綱參畫御座撤圓座小莚等。依御重喪。撤大床子以圓座爲其代之故也。次撤炬火屋陣屋時簡御膳棚等。次院司公卿已下於西中門之外申慶賀。通盛朝臣申次也。依重喪無拜。次申院御方。申次同前。一拜。次人々退出。院司交名。於院御前左衞門督書之云々。重服人尤可憚歟。何年例哉。

別當

重服人補別當事

左衞門督平朝臣時忠。元大夫。重服先例被憚之也。尤以爲奇。　權中納言

藤原朝臣忠親。

右衞門督藤原朝臣實家。元權大夫。宰相中將源朝臣通親。

元權亮。
五位別當不甘心事
前越前守平朝臣通盛。元亮。勘解由次官藤原
宗頼。元大進。五位。
判官代
散位藤原光綱。元權大進。出雲守藤原朝定。同。散位
藤原尹範。元小進。
主典代
右衛門少尉安倍資成。元少屬。右衛門府生同資忠元權少屬。
宗頼補別當。天治之例云々。彼時四位大進也。全不相似彼例歟。況不帶顯官。院號之日補之。何年例哉。頗聲聞者也。

玉海

殷富門院 文治三年六月廿八日戊戌。天晴。此日有院號事。停皇后宮職。法皇第一女。有當今國母之儀。御名亮子。爲殷富門院。申刻着束帶參內。先是公卿等多參入云々。仍以定經仰可定申之由。其詞皇后宮職可有院號事。何様可號申哉。可令定申者―。此間余候朝餉方。良久定經來申人々定趣。多是宣陽門云々。又殷富門。宜秋門。東一條院等相加云云。其人申其號云事。職事不分明之間。憶不聞及。大略只如此也。余重仰云。宣陽門者內裏之中門也。無例如何。又二條者彼宮御領歟如何。歸來云。宣陽門事人々多定申。且又陽明門院陽文字吉例也云々。中門之條定經不問歟。不足言。二條非御領。只當時御所頗寄東。仍隨宜所申出也。大途只宣陽門也云々。卽以定經奏法皇。御大炊御門歟。其狀云。人人申旨如此。愚案宣陽門不甘心。先院號者用御所號也。待賢門之時始被用無故之門號。然而猶是被准上東門。陽明門等之儀也。建春門。建禮門被用內裏。是偏新儀也。建春門院雖吉例。建禮門不吉也。何況於中門者已無例。仍被用殷富門。何難有哉。西面已有上西門例。其字文無難。若猶可被用內裏門者。宜秋門宜歟。秋宮頗

雖非吉。於后宮者長秋之號。仍女院之號强不可憚歟。但猶是不甘心事也。可被用門者。宮城門可然也。二條若又爲御領者。東二條尤可然。非御領者頗以無據歟。所存如此。此上可在勅定者。暫而歸來云。如此事一切不知案內。只左府(右イ)相計可被仰云々。雖須重取御氣色。已及夜漏。又猶不可分明之成敗。仍任愚案。仰云。停皇后宮職可爲殷富門院。停進屬可爲判官代主典代。年爵年官。御季御服。御封雜物。如舊奉宛。於內膳御飯者宜從停止者。是每度例狀也。定經向陣仰右大臣。余卽參大炊御門亭。法皇新女院同居。着女院御方殿上。以二棟廊南面爲其所。右大將已下公卿等着之。對座。余在奥。暫而右大臣參着端座。可補院司之人々之外。他公卿等皆悉退出了。其後經數剋。余持病發動雖不可堪忍。寬治。天治例。執政臣仰下院司。今度被遂天治例云々。仍强以伺(祗)候。良久之後。左中將公衡朝臣。權亮。參候寢殿巽簀子敷。賜院司交名折紙。來受余。須依重召參進中央間可給也。而御所在東第一間歟。可尋之。余一見了返給。仰可仰下之由。卽起座退出。依神心不快也。

今日參定公卿

右大臣。

大納言。實房。實家。已上三人。宣陽門院。

中納言。隆忠。殷富。宣陽。　賴實。宣陽。　定能。殷富。宣陽。

通親。殷富。修明。　經房。殷富。宣陽。　兼光。同。

參議。雅長。安嘉。東二條。　親宗。宣陽。宜秋。小六條。　通資。宣陽。殷富。

此外泰通卿雖參入。依遲參不定中云々。

院司

公卿

右大將實房。　新大納言實家。　從三位光雅。

四位別當

公衡朝臣。　定長朝臣。

判官代

定經。家實。光重。
主典代
景宗。

三長記

坊門院
建永元年九月二日庚辰。晴。今日皇后宮有院號事。頭亮奉行也。入夜公卿參集。内大臣。忠經 春宮大夫。公繼 花山院中納言。藤中納言。源中納言。左大辨。各着仗座。内大臣以下納言皆着奥座。 頭亮賴國朝臣進奥座仰云。(内府イ)皇后宮可有院號。何院可奉號哉。令定申。仰了退。内府被示。左大辨大丞定申云。院號事坊門院。修明門院間可宜歟。次源藤雨納言。同左大辨 但不同進同事。各々申之例也。花山院納言。修明門許申之。次春宮大夫。坊門。春花門等申之。次内府。坊門許被申之。頭亮參進聞人々申狀。參御所申殿下。可用坊門之由被仰下。頭亮又出仗座仰内府。内府移着端座被仰大外記師重。右少辨盛經等。予退出了。公卿可參本所而無參仕之人云々。

不知記

月華門院
弘長三年七月廿七日。今日可有院號定。仍秉燭之程着束帶參内。上卿右大臣基平被參。權大納言。予先着陣。次右大臣直被着端座。召官人令置軾。條事定事 二條大納言經光卿。九條中納言。平宰相。堀河宰相。源宰相等着陣。上卿以官人被召寄文書。上卿取之。被遣二條大納言許。以紙捻被結中。先解之。延紙捻披禮紙。引上下文書三通。押右禮紙奥上下引之。見文繆持續文本解□。見了一々置左。乍付地加禮紙卷之。如本卷之。結中上﨟參木讀文書事 片カキ。副笏目予。予取之披見。同二條大納言。次取下見了留堀河宰相之許一通讀申之。次自下﨟次第定申。其國司申雜事三ヶ條事。三通各別定申事 任續文可被裁許。人々申狀一同。又一通讀之。定申詞同前。下﨟參木書之事 又一通讀之。定詞同前。三ヶ國三ヶ條也。源

宰相一條定—書之。及深更之間上卿被命云。清書可爲後日。源宰相文書以下皆懷中了。次中宮大進賴親就軾。仰准后勅書事於上卿賴親退。次召內記仰勅書事。清書卽持參則付職事次持參草入筥。召賴親內覽奏聞。次返給內記。淸書內覽奏聞。次召外記。召中務大輔基長參。下勅書。乍入筥下賜了。次召外記。仰年官年爵事。次召辨。仰御季御服御封雜事。院號定事次中宮大進賴親付軾。無品親王院號事可定申之由仰之。上卿仰諸卿。源宰相退片足申云。月花門。五條院間可被用歟。次堀川宰相定申云。月華。玄輝之間可被用。平宰相申。月花。五條院。經光卿申同平宰相。九條中納言申云。月花。朔平間可被用。權大納言定申云。月花雖爲新儀。陽明待賢可被副新字歟申。予申云。月花。五條院等之間。可被用歟。一條大納言申。月花。朔平等之間可被用之由申之。右大臣申云。月花。五條院云々。上卿召賴親奏人々定申之趣。可爲月華門由被仰下了。上卿召外記。仰月花門之由仰之。又年官年爵事如舊由被仰歟。不聞。又召右少辨經任。仰御季御服事等。次撤軾。上卿被參本宮。關白以下祗候。予同着催侍—等以前不居饗。右辨忠方授院司交名於關白。披見之後返賜了。人々退了。院司於中門列拜歟。

月華門　准南子。月者大陰之精。又曰月—。一名夜—光クワウ。太平御覽曰。月者闕。宋韻曰。華者草—盛也。榮也。禮記曰。華。私ハナサク歟。又曰。華。

延政門　王延政相似天。前々不被用歟。

敷政門　不請通ストテ不被用候也覽。

達智門　前非優美之體沙汰候歟。

朔平門　朔ハ蘇也。—申候釋々六借や候へく候らん。

月華門　月ハ陰。女象候可宜候歟。華ハ訓不惡候。サルハ私常ノ歟ジト—說候。

吉續記

吉田大納言經長卿記

延政門院

弘安七年二月廿八日天晴。藤宰相來臨。今日院號定間事被示合。卽同車向春日宿所。自此蓬屋可參內也。上皇自龜山殿白地還御萬里小路殿。依院號定歟。仍參御所。帥已下人々參仕。予被召御前。院號間事有御尋。內裏門可然之號不候。八省門間候歟。雖未被號何事之有哉。八省（二八）永陽門字釋勅定。此外門號難等事申入。就御在所無便宜歟之由有仰。京極四條路雖有便不可叶。大炊御門雖爲便宜。淡路廢帝號大炊天皇御諱歟。可有憚之間斟酌之由申入。凡者正曆東三條爲院號之濫觴。被用御在所相續。上東門。陽明門等。皆以御在所之號也。自待賢門院以來被稱門號爲吉例歟。

御幸富小路殿可有御鞠云々。藏人少輔仲兼（兼仲歟）參會。院號定被殊忿。可早參。今日御幸龜山殿之間。定間事被聞食之後。可有還御之間被忿之由示之。先可有准后宣下云々。遂電退出。入夜參陣。仗下無人。昇中門。大炊御門大納言。花山院中納言被參。院號間事被談之。頃之各着仗座。大炊御門大納言（信嗣）。花山院中納言（家敎）。予。別當藤宰相（定藤朝臣）等着之。藏人少輔兼仲出陣。仰准后事於大炊御門大納言。次亞相被移着端座。行事次第如例歟。勅書事召內記仰之。（少內記參。）勅書草以辨奏聞。淸書入筥上卿進弓惕氏奏聞。復座。次召中務輔未被參之由申之。召外記下勅書歟。此間左大將春宮權大夫（具守）。中院中納言（具房）。加着。准后宣下了。兼仲參軾宣下院號事。（仰詞不聞。）次大炊御門大納言居直被氣色。藤相公次第定申。

藤相公逬足。無品內親王院號事。

藤宰相　延政門。玄輝門。

別當（雅房）　玄輝門。遊義門。

予（中納言）　延政門。永陽門。

逬足定申

取條々樣院號事。內裏延政門。八省永陽門

之間。可被計用不迯足也。此條取之樣申合亞相禪門也。

倩案。內裏字可略歟。古老相計之旨有子細歟。

花山院中納言。延政門。王延政五代時謀反之人歟。可謂不快歟。先申云。王延政雖尤吉。永明漢家年號不吉。永明門院吉例也。漢家例雖不吉 何事之有哉之由申之。

中院中納言具房 玄輝門可被用。八省者昭慶門之由申之。

大納言具守 春宮權大夫 就御在所可奉稱無便宜。就一坊可爲中御門。爲門號玄輝門。可爲八省者吉田中納言申永陽門之間可被用之由申之。

右大將 延政門。遊義。

大炊御門大納言 同前。

各定申了。上卿召職事。更又人々申旨令聞職事。職事退奏聞申仙洞歟。不經幾程歸於軾。可爲延政門之由宣下。次上卿召外記并辨信輔朝臣。仰年官年爵如元歟 次第事。封戶千戶被加之云々。令撤軾退出。

自上﨟退。左大將被退下之時。藤宰相起座。致家禮儀。無其役不參本所。京極准后等也。

延政門雖不甘心。故殿嘉禎被擧申。追彼例不可爲難之由。大納言入道被命。仍今度擧申了。永陽門字釋神妙打聞宜歟之由相存擧申。

延政難採(マヽ)門。王延政事不宜歟。政釋宜也。凡者女主以政可爲本歟。關雎之德尤可相追歟如何。

三條大納言實躬卿記

永陽門院

永仁二年二月七日戊子。今夕仙洞姬宮元內親王久子。禁裏御一腹。可有御院號事云々。於左仗人々被定申之。內大臣九條師―。右大將家教。權大納言實泰。中御門中納言爲方。吉田中納言俊定。滋野井中納言冬季。別當公顯。新中納言兼仲。鷹司宰相宗嗣。二條侍從宰相資高。花山院宰相中將師信。堀河宰相顯世。平宰相經親等參仕。面々被申所存。各不一同云々。可爲永陽門院之由治定。事了人々參本所。玄輝門院御同宿。

有御幸被行次第事。於本所公卿已下被補院司。公卿中宮大夫通重今夜不參。別當公顯。花山院宰相中將師信。四位右中將實任朝臣。右中辨顯家朝臣。今夜不參。判官代藏人治部大輔雅俊。藏人左衛門權佐定資云々。院司交名實任朝臣下之。而懷中笏。而持折紙出現。此條不可然歟之由人々有沙汰云々。申慶之時。申次同人勤仕。其作法自參入之路則歸出云云。此儀又非普通歟。予今夜依當番參候仙洞。仍每事不見之。人々擧申御號等。追可尋注之。頭右大辨賴藤朝臣申沙汰之。雖可被補院司依輕服。今夜無此儀云々。

同記于時藏人頭

昭慶門院
永仁四年八月十一日未。晴。着直衣參內。以中御門前大納言經任奏條々事。次參萬里小路殿。禪林寺殿御座。姬宮元內親王今日可有院號云々。仍如此事可承定也。今夜院號定也。予奉行。土御門大納言已下各着陣。實躬出陣。藏人尙繁取脂燭相從。上卿在奧座。予經人々後進上卿座下。仰曰。熹子內親王宜准三后年官年爵封戶千戶宛給。此員數宣陽門院准三后之時例也。今度一向被用被例之故也。上卿微唯。予退歸。次上卿移端座。召官人令敷軾。召內記仰勅書事。次內記持參勅書草。大內記在定昨日爲予奉行宣下。卒爾之間參陣定不叶歟。仍召勅書草下少內記忠弘。可草清書儲之由下知了。此間不見及。上卿進弓場之間予起小坂敷。着沓出逢無名門外。被奏勅書草。入筥令持少內記。上卿懷中笏取之。給予。予取之付內侍奏聞。卽返給。予又返授上卿。可淸書之由仰也。上卿被命云。綺已及深更可取替淸事也。仍予御畫日事。自本所別無被申之旨者。不可候之由有勅定。然者可被仰內記給之由命之處。披見已加之云々。此事內々先問答師顯之處。先例不定。寬元正親町院之時被加之。其後事所見不慥之由返答。又奏淸書卽返給。又授上卿。上卿歸着陣。召中務輔大輔永賢所催儲也。仰年官年爵封戶事歟。親族拜可爲何樣哉之由。上卿有命。予曰同夜院號之時略之歟。承元略之。近玄輝門院院號之時。又如

此可被略哉之由相存之由返答。上卿同存此旨云々。仍被略之。勅使之儀又無之。主上內々可有御聽聞之由被仰下之間。內侍所御局等事用意之間伺事之由之處。不可有其儀之由有仰。仍予又出陣。（尚繁相從。）上卿在端座之間。着軾仰云。熹子內親王可有院號事可定申。（此詞建久例也。可有院號事可奉號何院哉令定申ヨ。仰之又例也。然而今夜一向用宣陽門院例之間如此仰也。）上卿微唯。予退入。於立蔀外聽聞。上卿可定申由目平宰相。（其詞不聞。）

（經親）平宰相。（朔平門。昭慶門。）（在嗣）菅宰相。（昭慶門。永福門。）

（師重）萬里小路中納言。（昭慶門。永嘉門。）

（親定）土御門中納言。（昭慶門。永福門。）（通重）中宮大夫。（昭慶門。永福門。）

（雅房）土御門大納言（昭慶門。）

各御號之外他言都不聞。此間以官人召職事。予即參軾之處。上卿命曰。院號事昭慶門令一同。畢而猶有申加御號可奏聞云々。面々可被申之由被示。自下始而次第申之。無他詞只御號許也。予聞之參御所。內々以女房申入之處。有出御御尋委申入之處。昭慶門一同之上者。令一同可申之由。不及重被仰歟之由有勅答之間。於昭慶門者一同了。然而申加御號等可奏聞之由。上卿命之上者。誠不及此沙汰歟之由申入之處。然者可申合當磐井殿之由有勅定之間。禪林寺殿御座萬里小路殿。先可被申本所歟。由言上之處。尤可然早可參之由有御氣色。仍即參彼御所申入之處。法皇有出御。勅定之趣人々申詞委奏聞之處。一同之上者可爲昭慶門由有仰。仍歸參。以女房（辨內侍。）申入之處。早可宣下之由有勅答。即又出陣。（尚繁相從。）着軾仰曰。熹子內親王可奉號昭慶門院。年官年爵封戶如舊。上卿微唯。予退入。即參本所。（今度帶劔。可被補院司由被仰下候故也。）次上卿召外記。仰院號幷年官年爵事。召辨（右少辨定房。所歟）可催儲也。任建久例。右中辨信經朝臣日來雖相催。故障之間如此。）仰封戶事歟。不見及。

中御門前大納言經任。奉行左中辨經守朝臣。藏

入左衛門權佐定資等祗候。公卿兩三輩參候公卿座。各可被補院司人々也。公卿皆參之由。經守朝臣申入之處。被召予。予正笏參上。被下院司交名。置笏給之披見卽懷中。依爲折紙也。正笏退入。覽土御門大納言。大納言披見返給之取之。於中門內簀子召主典代下知。蹲居庭上承之。依爲宸筆不下之令讀聞了。此事卿有所存。殷富門院院號夜。依定長可諷陳公衡執臣不下之。尤有其謂。仍如此。次人々降立庭上。東上北面。此御所寢殿破損之間。於北小御所有此事。仍御所之儀非普通也。公卿一列。土御門大納言雅房。中宮大夫通重。萬里小路中納言師重。殿上人一列。立公卿後。實躬。經守。定資。各立定之後。經守朝臣離列進出向立大納言。大納言氣色相揖參上御所。自中門切妻出逢。仰勅答之後着沓。加本列之後一同二拜。女院御方也。次又如元經守朝臣出逢。申法皇御方慶。今度舞踏拜了人々退出。抑主典代列拜事有所見。然而今夜無其儀。

院司書樣。被染宸筆。折高檀紙書之。

別當

權大納言源朝臣雅房　權大納言源朝臣通重　權中納言藤原朝臣爲方

權中納言源朝臣師重　實躬朝臣藏人頭右中將

經守朝臣左中弁

判官代

定資藏人左衛門佐　資冬左衛門佐

主典代

資遠

同記昭訓門院

正安三年三月十九日乙未。雨下。依有瀰病之氣不出仕。御卽位部類記等披見。後聞。今夕有院號定。今出川入道相國息女。自去正月法皇御同宿。仍有此事云々。去十三日叙品。今夜先可有准三后宣下也。兼日有沙汰。參仕人々。內大臣冬平公昭訓門。大炊御門大納言良宗永嘉門。宣光門。權大納言實泰永嘉門。昭訓門。土御門源大納言通重昭訓門。右大將家平同。滋野井中納言冬季昭訓門。宣政門。萬師

重里小路中納言。中和門。昭訓門。花山院新中納言師信。談天門。昭訓門。押小路宰相。同前。御號可爲昭訓門院云々。五位藏人仲高奉行云々。本所事。日來定房朝臣申沙汰。而依所勞俄定資朝臣奉行。卽可爲年預別當云々。

院司

土御門源大納言通重執事。滋野井中納言冬季。西園寺宰相中將兼季。

四位

實香朝臣　實衡朝臣　定資朝臣年預。

判官代

仲高　資冬

主典代

安倍資世

爲如此之由。公秀去夜依當番參內之間。翌朝退出之時所相語也。

同記

永嘉門院
正安四年正月廿日乙卯。晴。今夜土御門姬宮故中書王御女。故院御孫。有院號事。孫女無立后之儀。院號事無先例云云。仍院爲御猶子之儀有此事。堀川大納言具守。二條堀川亭爲本所。仍法皇院乘燭之後御幸彼亭。予可參除目之上可被補院司之由。內々被仰下之間。着束帶先參內。有院號定。參仕人々。

堀川大納言具守。權大納言實泰。春宮大夫通重。萬里小路中納言師重。花山院新中納言師信。左大辨宰相有房。別當兼季。先准三后事有宣下。藏人大輔經世奉行也。御號永嘉門院云々。定之間予參本所。

小時堀川大納言。萬里小路中納言等參入。被下院司交名於雅俊朝臣。

別當

大納言具守卿　權中納言師重卿　參議實躬卿

雅俊朝臣　定資朝臣

判官代

經世　經宣
主典代
資綱
次各下立中門外申院司慶。先女院御方二拜。次院御方舞踏。申次定資朝臣也。次參內。除目已被始之間參候御前座。

同記

陽德門院

正安四年三月十五日己酉。陰。法皇御幸嵯峨殿可有御鞠云々。予雖有其催不參。朝間祗候仙洞。未尅參富小路殿御懺法如昨日。今夜法皇姫宮（媄子內親王准后。土御門准后御腹。）可有院號事。可被補院司之由。去夜內々以女房奉書被仰下之上。今朝右衛門權佐資冬相觸之間。亥尅着束帶參土御門殿。（土御門所東洞院東。）法皇已有御幸。（院新院御同車云々。）御車寄富小路大納言（實敎）。通藤朝臣。淸雅朝臣參御共云々。前右府（直衣）參候。每事申沙汰。及丑刻奉行藏人右京權大夫仲高陣儀已了之由參申。御號陽德門院之由一同云々。此事就人々議奏可被馳申歟之由。先度被申合之間。只可被決群議之由被申御返事云々。仍如此治定歟。卽內府（冬平）別當參入着公卿座。予同着座。（實躬爲別當被超越了。不經幾程參會甚雖不甘心。爲予上首。公茂。家定兩宰相中將。并大辨宰相有房等皆以被超越了。元六宰相也。予一身非可申所存。顧涯分不及出詞。於爲家督者不及左右。爲末子不便事歟。）此間法皇召實任朝臣。實任參進寢殿南面。被下院司交名。（折紙資冬書之。）實任給之覽內府。內府披見之後返給。實任取之於中門內功書。下主典代資重。次內府退出。次別當。予相共起座列立中門外。（東上北面。）實任。定資。光方。資冬列立公卿後。申兩御方慶。定資朝臣共申。次之先女院御方二拜。次法皇御方舞踏。卽昇堂上。法皇還御之後謁女房退出。

參陣公卿
內府（宣陽門。陽德門。）萬里小路中納言（師重。陽德門。）別當（兼季。朔平門。陽德門。）左大辨宰相（有房。延明門。西華門。）

無人過法者歟。臨期少々申子細云々。尤不便。

且院四人定申條無先例者歟。
院司交名内々乞請資重披見之處。折高檀紙書
之。其書樣

院司
權大納言藤原朝臣實泰卿事云々。
權中納言源朝臣師重事
左衞門督藤原朝臣兼季　勅別當
右近衞權中將藤原朝臣實躬
實任朝臣右中將
定資朝臣
判官代
光方右少將
資冬右衞門權佐
主典代
資重

同記
章義門院
德治二年六月廿二日乙卯。晴。今夕譽子内親王元准后院御女。持明院殿。御母中納言公宗卿女。同自御年少爲永福門院御猶子有御同宿。可有院號。依藏
人右佐資冬催促。戌刻相公羽林着束帶蒔繪細太刀。紺地平
緒。參内。隨身二人。在共。
後聞。參仕人々幷御號。
鷹司左大臣。章德。通重春宮大夫。廣義。家定花山院大納言。宣政。
中御冬基春宮權大夫。章德。廣義。經繼帥中納言。談天。宣政。定房吉田中納言。
章善。章德。實任朝臣。義（章カ）義。數政。實前朝臣。章德。宣政。公秀朝臣。
章義。宣政。
章德。宣政。擧奏人多歟。兩御號之間。可一定中
之由被仰下之處。共以有難。仍可爲章義門之由
治定云々。公秀朝臣初度參。擧奏御號治定之條
尤神妙也。然而事外聞惡者哉。宣政門聞能。其
難又無殊事。何如此令治定哉。重難委細事以傳
說不違委記定。公秀卿記之歟。凡院號定不似年不與
號定。其難不盡委細之由。古人之口傳也。尤可存
故實歟。實任朝臣一向加難。實前朝臣以外確

執。頗爲比興之由。後日或人語之。公秀可被補院司之間忩參。持明院殿。左府。春宮大夫元勳別當。吉田中納言。公秀朝臣參入。各着公卿座。而左府。吉田中納言則退出。上皇渡御寢殿。召通顯朝臣下給院司交名。國房朝臣書之云々。通顯覽大夫之後。於中門內切妻給 主典代資重云々。次院司申慶於兩御方。先女院。次院。申次各國房朝臣。

院司事

別當

右近衞大將源朝臣具守卿不參。

春宮大夫源朝臣通重卿

中宮權大夫藤原朝臣

公秀朝臣

頭中將 通顯朝臣

左馬頭 國房朝臣

判官代

藏人中宮大進 雅任不參。

藏人右佐 資冬

主典代

資重

今夜儀一向被用 建久宣陽門院例。件度野宮左府公繼公。爲四位宰相爲院司。尤可祝着歟。

同記

西華門院 延慶元年十二月一日丙辰。天晴。今日賀茂臨時祭也。庭座以後有院號定事。後二條院御母儀。右大將具守卿息女。 此事法皇被執申之間。俄有其沙汰。尤尼以後院號事御存日可有此事歟。依舊主御事遂素懷尼體也。先規少々上女體之時無名字仁也。前新陽明門院雖爲官女。不及名字之沙汰歟。 就院號沙汰稱基子。此事實泰卿計申云々。後三條院女御。參議基平女爲同名也。於彼卿者女御同名不可有苦之由存之歟。於繼體女御者猶可憚之由。前右府稱之。尤有其謂者歟。 其次敍品事。爲爲藤朝臣奉行被宣下。今夜先准后事宣下之後。有院號定。沙汰之次第於事出規希也。

珍重事歟。所詮舊主御存日頻被申此事。而前遊義門院御座之間。若違彼御意歟之間。自然被閣之。御終焉之時懸叡慮事。只爲此事。仍今日及此御沙汰之由或人語之。可謂前後參差之時宜歟。如何。藏人右佐長隆奉行也。

參仕人々

按察使大納言。（顯親門。西華門。）春宮大夫。（宣政門。朔平門。）
殿大納言。（廣義門。西華門。）大炊御門中納言。（宣政門。西華門。）
權中納言。（押小路。西華門。）高倉宰相。（章德門。西花門。）
公秀卿。（猪隈。西華。）

御號事。御所々遼遠之間。一向可爲攝政計之由被仰下云々。而法皇叡旨西華可宜云々。仍人々（院號下光事）臨期擧申歟。且公秀猪隈顯親之由兼存之。然而就下光改西華。雖無指由緒。門號皆又如此。權中納言爲勅別當參北白川殿。此外院司按察使大納言。堀河三位中將云々。本所事。右大辨經世朝臣奉行。而稱所勞儀雖被仰。他人無領狀之間。及酉刻都護所相語也。始終不審。

裏書云

件女御 新院 御脫屣之後女御也。前右大臣（公衡）公息女。爲院御猶子儀。永福門院多年御同宿。此兩三年以密儀有御同宿。無立后之儀人如此院號事。先例希歟。近昭訓門院如此。當代爲新院御猶子儀之間。可爲國母之由歟。且今夜先有准后宣下事。職事仰詞母儀 准后院號仰也。定爲時儀歟。

同記（廣義門院）

延慶二年正月十三日丁酉。晚頭降雨。今夕女御殿可有院號。內府可奉行之間可有條事定云々。其間事予不參仕之間不審。仍午尅相伴公秀卿向今出川第。此間事受口傳國解。且尋取官務伊綱所散蒙也。次參院。小時退出。戌尅相公着束帶參內。（隨身二人召具之。）後聞。內府（道平公。）西園寺大納言公

顯。春宮大夫師信。花山院大納言家定。殿大納言冬基。大炊御門中納言冬氏。西園寺中納言兼季。中御門宰相爲行。三條宰相中將公秀等着陣有條事定。攝津國司基言申請八ヶ條雜事云々。上卿仰爲行卿令讀申之。仰公秀卿令書之。但未書之間可有院號定。今夜不可書了。後日可書進之由被命。仍不及書了。國解共入懷中則有院號定云云。按察大納言實泰。此時參加云々。御號可爲廣義門院之由一同。公秀卿朔平門。廣義門等擧申。人々擧申御號等委可尋注。

今夜被補院司。西園寺大納言。西園寺中納言。別當家祐朝臣。俊言朝臣。國房朝臣。判官代長隆。祐時云々。

同記

章善門院

延慶二年二月三日丁巳。天晴。今夜永子內親王後深草院御女。御母二品故內大臣公親公女。可有院號定由仰。兼日催相公。亥尅着束帶參內。隨身一人召具之。後聞參仕人々。

二條內大臣。宣政。章善。春宮大夫師信。宣政。中宮大夫公茂。陽祿。光範。大炊御門中納言冬氏。宣政。高倉宰相經守。章善。宣政。中御門宰相爲行。延明。章善。宰相中將公秀。宣政。章善。

人々着陣之後。藏人右佐光經出陣。仰內親王可有院號事。可奉號何院哉可定申之由。退入內府移着端座。經守、爲行等着陣。仰可定申之由。公秀卿遁足發語。內親王有院號可奉號何院哉事。就御居所無其便歟。可爲門號者。宣政、章善等間可相計用歟之由申之。爲行卿猶取條申之。經守卿已上不取條。只院號事申之云々。參議逊足申之。納言不然云々。各定申之後。上卿職事聞面々申詞可奏聞之由稱之。仍人々重申之。今度院號事許申之。光經奏聞宣政。章善之間一決可申也由。重被仰下。此間不退軾。各重評定。面々申所存歟。同章善重奏聞則歸出。不及申仙洞、攝政被候衣冠。鬼間「雖爲輕服儀別勅參候歟」被斗申歟。以永子內親王可奉號章善門院。年官年爵如舊

封戸可加五百戸之由。光經仰之云々。次內府召外記良枝。仰年官年爵。召左少辨冬定朝臣仰封戸事云々。但無加字云云。如何。此後人々分散歟。中宮大夫元勅別當。大炊御門中納言。別當宰相中將可被補院司可參本所持明院殿。由。右少辨雅任相觸。兩人則參入云々。於公秀者有障不參。猶可謂自由歟。大理又申子細云々。不參又例多。抑十二月西華門。正月廣義門。今月又如此。年中兩度院號先例希云々。三ヶ月三人相續定無其例歟。

同記

朔平門院

延慶二年六月廿七日戊寅。天晴。今日休息。今夜院姫宮禁裏御一腹。可有院號事。元內親王。璹子。依兼日催。公秀卿戌剋着束帶參內。蒔繪太刀。駕毛車。後聞。按察大納言實泰。春宮大夫師信。高倉中納言經守。權中納言定資。中御門宰相爲行。宰相中將公秀等參陣。藏人右衞門權佐資名。以璹子內親王可爲准三后可令作詔書之由先宣下。次可有院號可定申之由又仰之。而面々可爲朔平門之由一同。少々雖相加他號。於此御號一同之間不及奏聞院治定云々。攝政依大納言所勞事不出仕歟。而詔奏之趣爲不同者可參申。院令一同者雖爲何御號可治定之由。上皇被仰含。奉行人資名仍如此云云。其後人々參本所持明院殿。被仰院司。本所奉行右中辨藤朝朝臣云々。仍女院再拜院兩御方申慶。申次藤朝朝臣云々。資親朝臣雖居夕郎之重補。頗爲不中用歟。如此事何又不參哉。尤不審。所詮近代之法。皆以自由之存歟。

院司

按察使勅別當　內親王之時別當。前大納言實教云々。何別有其沙汰歟。

春宮大夫師信

左衞門督通顯不參。

宰相中將

四位

資親朝臣　藤朝朝臣

判官代

長隆　親時

主典代

資重等也

園太暦

陽祿門院

文和元年十月廿一日天晴。抑師卿送狀。大内門號有不審事。有抄物者可借與云々。別抄無之。大内修理指圖。内裏者豊樂等門號注書遣了。息女三品院號事有沙汰歟。母儀不能左右哉。

廿二日天陰。雨下。今日大納言云。來廿九日可有陣定。可參仕之旨。藏人左兵衛佐忠光觸之。可有院號定云々。三品事歟。可謂珍重。及晩師卿送消息。院號推量附合了。大納言藥湯之間難出仕。門號事。光範。陽祿。無巨難哉之旨仰了。

勘下候哉。東福は無殊難候。東福寺六借候歟。陽祿如何。其外は何にて候へきやらん。新之字は不庶幾之樣候歟。倘々彼御參。何とも御奔營候へかしと乍恐存候。於事不貽心底啓上。其恐不少候。

三位殿院號有沙汰之由父卿被示事

昨日者申入被仰下候。悅存候。於事面上雖大切候。例持(マヽ)言許候。抑三品吉事之時尅到來候。(行イ)感悅之到仰高察候。先度弃捐斷思了。(今イ)可被引不可思議候。聖運縱退屈之心候之條。希代之宿運候。病患之體無其憑候。近日殊令增候。命中被承(已イ)定候心中過賢察候。院號定日次可爲來廿七九兩日候云々。今一日も忩存候。而出仕之卿相定難得候歟。依之(マヽ)一定延引候ぬと歎入候。御方御參事。此間之圖皆察申入候。然而踐祚御參雖季節相違候。近々候之間。猶其寄も見所候。推察御憑敷存候。以別御芳恩搆御參候者。就公私(マヽ)可畏存候。自公方被申候歟。懇切之餘令愚書候。恐入候。兼又門號令拂底了。撰くつの中ニ何候なん。雖非

私劬勞之限候。心中許候。是(そイ)なと義勢にても(たイ　まイ)候はし(はイ)と存候。何となきやうにて密々可被治定もや候はん(やらイ)と覺候樣も。ちと(そイ)手懸候ニ(ニ候イ)は。數政何とやらん。其難候て。度々被弃捐候。光範。東福。陽祿。何樣候なん。荒凉之申狀雖其恐候。議奏許ニ被打任候者。聞惡字出來候歟之間被怖畏候。通陽。開明。體物候者可爲比興候歟。執柄なとにも和談申候はゝやと存候間。密々奉申談候。可被

廿四日天晴。

一昨日委細貴報畏悅入候。先度無念候處散恨候。心中仰賢察候。但依議出仕人。雖一人無領狀候云々。然者不知其期候歟。實繼參難搆得候之間。口のあき所不候之樣にて。他人之事も被察候。然而世は廣事候へはと憑存候處。已自營盡候。左府被强寄候之由承候。

若被參候者。頭はかりにても何と候はんそにては。(候イ)さ候ともと存候つる。中院經廻久我云々。眞實候やらん。塗籠候やらん不審候。若實不被聞食運(途イ)や候はん。在京候はゝ內々も可愁申候ニ。せめての事と覺候。西園(寺脫カ)・自女院御方。重々雖被仰候固辭候云々。四條又同前候。術計不及候。門號事一昨夕粗申談候き。思樣御字不可有之條は勿論ニ候。其內(々々イ)爾一取所はんする撰御門可有御計候。光範は如何か。(候イ)いつかさたへも候はす候。別答は不候歟。昔幼稚之時祗候。仁光(マヽ)黨にて—。(候歟)如此不宮(審カ)有(きイ)候。其事被思出候。無御覺悟御程にてや候つらん。あととか奏文候き。只今之申狀頗比興候哉。此內何にて候なん。可有御計候。其外はくせ物ともにて候。

相似不請之詞歟。雖非巨難當代年號。宜候哉。但崇賢如何之由報了。
敷政。中和。文和重疊如何。光範。無巨難候。嘉喜。陽祿。兩號
執事別當器用誰にて候へきやらん。大上﨟は就品秩不庶幾人もや候はんすらん。先々有其寄仁候歟。今度可爲何樣候哉。定爲上被仰候歟。こま〲と御事候はてやと存候間。若御尋候者可申入候。便宜事定被尋申候歟。企參上如此事參申入候者。いかに能候はんと存候。誠恐謹言。

十月廿四日　公秀上

今度儀可被用何度例哉之由。奉行職事不審申候ッ。爲上きと難被定候やと存候。女主又勿論御事候。何とて縱令——なん。正應例可宜之由存候。其外如何。部類記候者可申出候。正應先公御記候哉。入道左府記は所持候。少々は候也。委細候はんするか大切候。

廿五日。天晴。今日自右府有消息。院號定條々不審等被示也。又帥卿送消息。院號門號等事也。

右府幷帥卿被談院號事

崇賢は宜候。嘉喜は餘に尾も無(之イ)之樣候哉。光範は雖無其咎候。六借候はんとは不申候へと讀(續イ)付候歟。不審候。嘉喜二字續候。達智門御時候。門とつゝけられ(き候ハヽイ)候。三字なる樣候當家安喜門喜字こそもらひ候て是又如何。

自是欲申入候之處。態仰畏入候。陣定公卿面面心强候。女院御方御沙汰候。御手をそろされ候て。無殘所御動勞候けに候。都護又無等閑馳走候か。公私御退屈之由。昨夕まては承候了。其後如何候はん。陽明御參事候。いた

く不事外候様推量申入候。實益と申仲媒逐電候之間。未承及分明之左右候。若無相違候者。彌大納言大切候間。自元雖無如(マヽ)在之儀候。今一重無術かり申候。大不定候。大略は依無人延引候歟。停止歟ニて所勞は有增無減不便事候。號事如仰議定許は大様候。ちと不用意有たく候。此兩門穩便候。陽祿は猶打聞能候哉如何。崇賢も誠宜候。崇聲は何と可讀候哉。シユにて候者。いかに能候はん。スウにて候者。ロのちとはねあかる様候。崇明門をはスウト申候き。如此事は人々心々候歟。所詮可有御計候。下作候(ニてイ)はん可有上棟(陳カ)候。聞能も申能も候ぬへきを御計候へと。可申入女院御方之由存候。若可被治定候。尙々今仰畏入候。

公秀上

是は可然事不候歟

一。院號事。以御在所爲其號本儀候歟。然而近來大略被用門號。今度又可然歟。

一。若可爲御在所者。以何所可號哉。今度無其所歟。可爲何様哉。或以御領號之。同前候歟 其儀今度又如何。

此内可有用捨候哉

一。門號事何門か吉候哉。崇賢門なとは可爲よく覺候。此外陽祿光範なと無巨難候哉旨存候。何様候哉。

本議ハ執柄已下參勿論候

一。仗儀之諸卿參女院。如此候歟 今度不可有其儀候歟。凡件參否事者可在人々所爲歟。今度本所ハ持ち院殿にてやと覺候。可尋聞合候歟。又參陣公卿必可參歟。聞食候歟。さ様ニも候ハヽ。御參何事候哉。國母之上。不可依其人品秩歟。但又可被勘先規候歟。今度は正應玄輝門院例にやと覺候。其は若春日殿にてや本所候つらんと覺候。

廿七日。天晴。入夜三條新大納言實繼卿來。無內外人也。仍雖服藥中。招入臥內謁之。院號間事。並院司已下事談合也。彼本人病氣以外也。

大略可有大事之體也。仍念有沙汰云々。

廿九日。天陰。及晩三條新大納言送狀。院號間事也。院司事。就本所儀被略。不可被仰云々。其間事示合也。時宜之上無力歟之旨仰(報イ)了。追引勘之處。先蹤少々有之歟。

（女院號定事）

（院號定事）今日從三位藤原秀子有准后宣下幷院號定。奉號陽祿門院。上卿右大臣殿。權大納言實繼卿。（勅別當）（勅別當參議事）權中納言隆持卿。參議公直卿。（左中將。）左中辨致光朝臣。職事藏人左兵衞權佐忠光。四位左大夫匡遠宿禰。大外記師茂。右大史高橋秀職等參陣。右少辨時光草進准后勅書。

一。夜參上。御心閑申入候之條恐悦候。今夕儀大略延引歟之由存候之處。公卿思外ニ出來。如今者必定候歟。喜悅不少候。實繼參事。昨日夕方より俄思企候。卒爾彌周章仕候。比興比與。御號事。昨日勅問候歟。御所存何體ニ被申候けるやらん。猶崇賢候哉。恐鬱候。可存知事等候者。爲才學相構可被示下候。別當公卿等事。（院司被略本所儀不被仰院司事）宣政。徽安。宣光門等御時。依被略本所方儀。不及其沙汰之由承候。今度可依彼例哉。凡者判官代等被宣下候。院司何無沙汰候哉。本所儀ハ一時一會事候。院司は御身ニ可付者候哉。暫猶雖略本所儀。於別當者可被補歟之旨存候。且宣政門院等御時被略候けるも。可不如何こと候けるやらん。無本所禮儀上者。不可入。其上者又無沙汰にてこそあるらめにて候けるやらん。此段も不審端多候。可爲何樣候哉。可被勘下候。實繼。誠恐頓首謹言。

十月廿九日　　實繼上

丹後守殿

院號定上卿被注送之事

陽祿門院

院號定（文和元年十月廿九日仗議。上卿右相府被注送。）

下官。權大納言實繼。權中納言隆持。參議左近中將公直等卿着仗座。藏人左兵衞權佐忠光來予座下云。從三位藤原朝臣可准三宮。令作勅書よ。年官年爵封戸五百戸給へ。次予移着端座令置軾。召内記仰勅書事。其詞如職事。年官年爵封戸事。可載勅書之由仰之。内記持參草。宿紙入筥。以忠光内覽奏聞返給。令内記清書。則持參之。黃紙入筥。以忠光奏聞返給。仰云。以左近衞權中將藤原朝臣爲勅別當。次余召外記問云。中務輔候哉。師茂云。錄陣外ニ候。仰可傳賜由給勅書。次余示勅別當事於公直卿。次召外記。(仰脱カ)年官年爵事。候召辨仰封戸幷勅別當事。忠光來軾。仰云。母儀准后可有院號。可奉號何院哉。令定申よ。予以此趣示諸卿。公直卿定申云。崇賢門。陽祿門。隆持實繼等卿同之。予申云。崇賢門。光範門。次以忠光奏群議。歸來云。崇賢門。陽祿門之間。一同ニ令定申よ。人々議定。實繼卿云。崇賢門崇字。崇明門院不快候。陽祿門無殊難候哉。予雖不擧申。是又無巨難可被用歟之由。示合人々。奏此由歸來云。以准三宮爲陽祿門院。年官年爵如元。本封之外可副給五百戸。以時光忠光爲判官代。以資爲爲主典代。召外記仰年官年爵。判官代主典代事。召辨仰封戸事。

勅。母以子貴。舊史之文斯著。封依功進。曩聖之典聿宣。從三位藤原朝臣秀子者。朕之母也。柔儀内備。淑貞外彰。欲厚之志。叡念最深。是以新分茅土之貢。將准椒庭之禮。宜授邑土五百戸。幷年官年爵内外官三分。主者施行。

文和三年十月廿九日

卅日。天陰。朝間微雨灑。或又晴。抑去夜院號定事。實繼卿示之趣續之。又右相府被示送。同續之。

院號賀申事如狀禮故實事

抑又院號珍重之由。卽賀申新女院之處。故申本

意候由被示仰。御不例以外之由雖聞及。被染自筆。如(女イ)狀禮以外也。被存故實歟。

去夜儀無爲被果遂候。悅存候。定儀早速不及議(マヽ)精候き。上卿崇賢光範。自余三人崇賢。陽祿一同候き。陽祿ニ令治定了。准后勅別當今出川。判官代時光。忠光。主典代資爲等被宣下候き。院司事は去夜猶無分明之治定也。定御不審候歟之間申入候。御記書寫在之間如何樣候哉。每事此間可令參上候。實繼誠恐頓首謹言。

十月卅日　實繼

丹後守殿

去夜院號定。深雨中被遂行候了。珍重候。陽祿門被用候き。崇賢門雖一同擧申候。崇字崇明門院不快候歟之由沙汰候き。本所之儀被略候云々。是近來事候歟。無何爲御不審令咎候。事々期後信候也。

崇賢門院

不知記 上卿一上左大臣右大將義―満公

至德三年四月廿五日。國郡卜定。次有院號定。職事頭左中辨資衡朝臣進軾奉仰上卿。其詞云。准后可有院號可奉號何門院哉。令定申ヨ云々。次諸卿定申趣。召職事御奏聞。各以崇賢門被擧申之。職事兩度就軾之後。一上有御早出。此時公卿悉起伏座令退了。直御堂上。西園寺大納言着端座勤仕。次上卿公卿悉又歸着之。職事進軾仰上卿。其詞云。准后可奉號崇賢門院。年官年爵如舊封戶本封之外加給五百戶云々。次上卿召大外記師香朝臣仰之。其詞云。准后可奉號崇賢門院。年官年爵如舊云々。判官代等事不及被仰。但四位院司資衡。隆信。季尹等朝臣。判官代兼宣。業俊云々。次上卿召權右少辨資藤。仰封戶事。辨於敷政門代邊。乍立傳兼治。其詞以准后藤原朝臣可奉號崇賢門院。封戶本封之外五百戶ヲ加給ヘ。次上卿退去。

通陽門院

同

應永三年七月廿四日。任大臣節會幷院號定也。上卿右府移着奧座。有院號定。位次公卿五人次

第參着之、職事藏人左少辨經豊進奥座仰之。其詞。母儀准后可有院號。可奉號何門院哉令定申ヨ。其後被評議、兩度以職事奏聞。職事參室町殿被申談之。頃之歸參、進仗座仰云。母儀准后可奉號通陽門院、年官年爵封戸事被仰之也。

同　北山院

同十四年三月五日。院號定、上卿花山院大納言忠定卿。位次四人着仗座、職事藏人右少辨家俊進奥座仰之、其詞。以母儀准后可奉授院號。可奉號何院哉可定申云々。各擧申門號歸出。仰云。以母儀准后可奉號北山院、年官年爵如元。以左少辨藤原朝臣定光、左兵衞權佐藤原朝臣資方爲判官代、以散位安倍資行爲主典代。御封本封之外奉加五百戸云々。次各退出。

薩戒記　光範門院

應永卅二年七月廿九日丙寅。天晴。右中辨俊國送御教書云。

今夕可有院號定可令參仕給者、依天氣上啓如件。

申可令參陣之由了。二位殿。今上御母儀。入道權大納言資國卿女。御名資子。可有院號之由。自內被仰遣。入道相府禪門被申院、院仰云。准后之事被宣下、追靜可有院號歟。卒爾難事行之故也者。入道殿令申給曰、仰尤雖可然事、當時勅定事及異儀者、定不可叶叡慮。猶可有院號歟、仍被行云々。卒爾之儀頗難治、然而無人于參陣云々。仍申領狀了、秉燭之程着束帶如常參內、俊國之外無人。公卿多申故障。汝參入神妙之由俊國所示也。右大將清通、德大寺大納言實盛。予。九條宰相外無領狀人、中納言一人不參云々。邂逅之儀重事。定無人尤不便也。俊國曰。各可擧申之御號、內々注給可申入之由有院仰者。予注折紙授之。他人皆如此、亥終剋人々參集。右大將先有着陣之儀。任大將之後未遇之也。隨身無一人如何。藏人方吉書許也。其後幕下猶在端座。俊

國就軾仰云。從二位藤原朝臣資子。准三后宣賜年官年爵并封戸五百戸者。後聞。仰 勅別當按察使藤原朝臣之由云々。此事不審。於准后者先例不被宣下。後日自本所被定仰可然人云々。可尋。大將卽又召俊國被仰封戸事云々。年官年爵事被仰外記歟。此後大將猶在外座。德大寺大納言。九條相公着陣。依人數少無着端座之一人也。大納言不伺氣色着座。同官之故也。予先於宣仁門外伺氣色着座。是上卿兼在座之時。追參着之時例也。九條宰相伺又氣色着之。此事不可然。相連着座之時。上﨟一人氣色。次々不然云々。次俊國着軾仰云。准后藤原朝臣猶可仰從三位藤原朝臣賁（稱カ）子也。可有院號。何ト可奉申哉。定申サシメヨ。將軍如唯。俊國退入。大將頗向九條相公方被示之。其詞如職事。相公迯足定申云。准后院號事。爲門號者。就以在所之號不申之時。爲門號者之詞無益歟。東福門。福來門之間。可被計用歟。不加院字。予退右足定申云。迯足事譜不勘家例。然近代人々所存了。追猶可勘知也。申詞一一直足重申子細之時。不可迯足是例也。院號事。參議女可取條也。而下﨟已發言。又申准后之條不思得。仍只申院號事之如何。（本定）嘉樂門院。東福門院之間。何事之有哉。凡初度仗議。一兩度申。可被免發言之由。不出詞只可定申之由。有上命之時申之例也。然而今日 公卿皆悉初參也。且不申免不能其儀也。

次德大寺大納言。不迯足。條取如常。於上﨟者不必申條取歟。

東福門　豐樂門歟

次大將定申云。

爲門號者。光範門爲八省門。殊有規模可被用歟。光範門者內々自院被定仰。然而非諸卿定申內者。如何之間。以此號上卿可定申之由被仰俊國。俊國仰將軍。將軍依無御在所幷御領等可然之便宜。各以門號所擧申也。

將軍曰。一同可申上歟。予曰。且可被奏歟。將軍諾之。以官人召職事。俊國着軾。將軍曰。可被問答。此事如何。先大概陳事子細。不詳之事如此可被命歟。俊國氣色于將軍。將軍示其詞。同前。次伺大納言氣色。亞相無被示候

旨。仍將軍被示彼定詞。次予申之。同前。今度只示兩門號許。不示院號事。又不加院字略。何事有同。次九條相公同前。俊國參御所奏聞歸來曰。一同可定申者。各申光範門可宜之由。自余號不能加難。以早速爲先々故也。將軍被奏聞之後。俊國歸出仰云。准后藤原朝臣資子。仰准后事可案。若猶可仰從三位藤原朝臣歟。若又仰准后者。可略姓朝臣御名字歟。可奉號光範門院。年官年爵如元。本封之外宜宛賜五百戶者。將軍召辨俊國。着軾被仰封戶事。次召外記。被仰年官年爵事。次自下﨟起座退出。抑今日之儀。每事卒爾。准后宣下之儀如右。是以院號爲本之故歟。仍作詔書幷勅使參向事等無之。依無御在所所及歟。又無親族拜。准后宣下院號同日宣下之時如此歟。可尋先例。將就御惱危急有此事。仍被省略歟。追可尋知之。先例親族拜人數等。奉行職事承申定事也。

本義一准三后之由仰內記。令作勅書內覽奏聞畢。召中務被下之也。則持參本所也。又勅使近衛將參向本所申此旨。各賜祿事也。

次予參院。女院御同前也。昇中門廊外入車寄戶。經中門廊入公卿座妻戶着座。端方北面。右中辨俊國。撤上皇院用也。來座下方授院司折紙於予。予補院司。今日上﨟別當等不參。仍被下。予爲下﨟奉之希事歟。先例可尋。予置笏右。取折紙披見。此間俊國在前。予見了則返授折紙於俊國。取笏氣色。俊國退下。於中門廊南切妻下。主典代定直。上皇主典代廳務也。次予起座。經本路降中門廊外着沓。立中門下舞踏。是申女院御方之慶也。彼院司今日予之外不參。仍不及申次。昇殿慶相混申之例歟。依爲國母舞踏先例也。拜了聊如退入更進立同所。又舞踏是申上皇御方之慶也。俊國申次之由也。但依怱劇不及進出。抑於同所申兩方慶也。先例多也。或更退入。又進出云々。然而予存異儀。御他所之時不可申慶於上皇歟。可尋。拜了退出可。予外新女院院司不參。仍一身拜舞太冷然。又希代事歟。即退出。于時丑終尅歟。

院司折紙曰。俊國以强紙書之。

別當

權大納言藤原朝臣。資。按察使資家卿也。猶可被載按察使也。御寫筆如此被遊下云云。

權中納言藤原朝臣。行。
參議左近中將藤原朝臣。予。今日被載名片字。予爲參議中將。第一不可然歟。
判官代
資宗。左兵衞權佐。經光卿子也。一院五位別當年預也。
政光。左兵衞佐。義資卿子。
主典代
定直
散狀云
院號定
公卿
右大將　德大寺大納言
中山宰相中將　九條宰相
嘉樂門院
親長卿記
文明十三年六月十五日。終日雨下。參內 依召也。准后東洞院殿。當今御母儀。就御所勞 有院 號事 度之由。種々有仰。予細注別記。
卅日。晴。院號定日次事。今日取上卿出立。九日難叶之故也。
七月九日。晴。右府來臨。院號事條々相談之。予借進之。悅入之由 被命。條事定事 猶不審云云。文書事。上卿相催歟。奉行職事相催歟云々。予又不審之間 可尋官之由返答了。女院號相殘分可注給云々。其外舊號注置 分入見參可借給云々。
十日。晴。日野中納言廣光來臨。院號定條事參歟種々雜談。文書難得可借與之由 申之。弘安經 卿記。弘長經業卿等記可借與之申了。
十三日。晴。參內。太閤九條。前關白。入道左府等。院號定內々申詞奏聞。其案在別。
太閤。入道左府。女院參。內府盃酌已下御進退事被召仰也。寫留別紙。
十四日。晴。勸修寺大納言送書イ狀云 院號定之次。任相國幷關白一座 宣下事可被付行。元長可申沙汰云々。一夜之中條々被行之由先規希歟。殊

元長蒙昧之質。不可有正體。一身之奔波難治。雖然仰之上者可存知歟之由返答。傍若無人之體。不可說。

十七日。晴陰。久我前右府院號申詞到來。日華。中和等云々。自今日有產行觸。仍院號申沙汰事。元長不可叶之由奏聞。改風記可申沙汰之由有仰。

廿五日。晴。官申云。可成條事定宣旨云々。無舊案幷文書可注給之由。先日申遣之處。永享十三年條事定宣旨。上卿左大臣于時普光院也。云々。予云。件條事定日御着陣也。然者可下宣旨事不審。又可副國解之由存之由存之。仰令勘例條目許載之。不審之由尋之。每度爲此分云々。所詮可爲尋沙汰之間。國解加續文可進之由仰了。今日先到來了。在別。

廿六日。晴。早旦詣右府亭。條々申談之。

一。條事定國解宣下事。此間不審條々幷件宣旨非献上。宣旨非普通宣旨不審。殊下大臣事近例無之。雖然於此宣旨者大臣事也。非可默止。職事可參申事也。雖然無御在所可爲如何哉。返答云。只以其由可有下知也。

一。一上事。關白可與奪申。仍每度其使爲家禮大辨但非家禮大辨有例。不然之時。爲藏人頭。但當時貫首頭中將出仕難治不具之間。急度不可叶。次元長藏人右少辨。可被申歟。藏人頭不參之時。五位職事勤其役事連綿之上者。當座雖不勘例。元長可參申歟之處。關白御命云。無其所。次參仕之由可申云々。此上之歟。返答云。此儀尤可然云々。無由緒大臣關白與奪事無之。其時以職事被仰云々。

一。條事定幷院號定畢。可被付行任相國幷關白一座宣旨。可有奉行歟。引勘例之處。近代大臣參陣宣下事。不勘得也。於當理爲一上爲公事之次。可有何子細哉。但可依上宣。返答可窮屈之間。條事定畢可起座云々。

一。右府云。官方吉書大辨不參事。中辨着軾。申其子細也。定其分歟。予云。此儀勿論也。但吉

書祝言也。其時大辨不候ト申事は。故存固實不申之由爲吉之由了。暫閑談之後歸畢。次參內參御前奏條々。

一。院號事。無下光之由。先度被仰下了。但每度人數多擧達號被治定也。今度兼日五人勅問。

太閤　中和　豐樂

九條前關白政基　開明　嘉樂

關白政家公　盛花　嘉樂

入道左府實量公禪空　嘉樂

前右府通博公　日華　中和

三人爲嘉樂。可爲何樣候哉。仰云。依群議擧奏之。多少可被定嘉樂。不可有詮云々。若今夜仗議他號擧奏多者難被定。

一。宣旨事年官年爵外記方。封戶官方。近年被略之。但郁芳門已來四五ヶ度也。近者北山院之時。成上兩局宣旨畢。今度官注進。文安敷政門之時。官宣旨許。後日內々付庭田云々。兼日仰云。於外記者不進宣旨云々。於官者後日進之云々。然者後日官宣許可進云々。爰外記申師富朝臣云。文安事任數之例。不進宣旨之由記置之間。先日此旨申入了。雖然官宣旨。文安度後日進之云々。於此事其時不存知。所詮今度官一人進宣旨者可歎存也云々。仍此趣奏聞。然者一向兩局宣旨可被略云々。

一。諸司御訪事。六位史參百疋。陣官人參百疋之由申之。各可爲百疋分之由問答。大藏省百十一疋。陣掌燈左近府陣疊。木工寮結燈臺。申之。可爲八十疋之由申使了。殿上掌燈三疋也。文殿御硯筆墨二十也。猶申違亂申狀者。可進請取之由申入了。次退出。諸司下行已上三百二十也。分可有御下行之由長橋局了。

凡如此之陣儀者。召官方硯也。雖然官方硯近代無之。可召渡外記局硯之由官申之。仍先日內々仰外記得其意之由申之。召渡了。

及晚頭。右府實遠公西園寺。來臨。今夜裝束事。予內々可仰藤侍從之由。內々被示之

間仰藤宰相了。永康事有若亡。永繼卿可參之由申之。尤祝着云々。及晩。人々來。中御門中納言宣胤。侍從中納言實隆。同自予亭可出仕云々。於元長方令着裝束。永康令着之。次右府令着裝束。裝束畢元長參進。持笏猶不取持笏歟。仰一上事。仰詞官中事行。勸修寺中納言。西川前宰相房任。四辻宰相中將季經。公夏朝臣等。爲見訪右府來云々。此間姉小路宰相。新宰相中將等申拜賀云々。次花山院大納言已告參仕之由。仍元長參內。小雜色一本。爲候申文也。床子座前云々。仍令答揖歟。有陣申文云々。不見其儀。次於予亭有一獻如形也。次右府出仕。持明院侍從基献沓出門。衞府長一人。如木雜色一人。前駈一人。殿上人一人。小雜色四人也。於四足門外暫停立。此間外記師富朝臣今度不合御訪參仕。元長等着床子座。卽上卿通床子座前給。向辨揖。辨答揖。外記蹲居直着陣。元長召史催申文。其儀如常。次元長着參議座。座揖之後不直足。可候陣之由仰含。大臣着陣之時如此。上卿申文史康澄持參申文。三通見了返給。

續文不持乎持之。不審云々。次史三通結申退入。次辨退下。更前歟進出軾。下藏人方吉書。辨結申退出。取笏於床子座下史。此間上卿堂上。暫上卿着陣端。花山院大納言政長。中御門中納言宣胤。日野中新納言廣光。侍從中納言實隆。姉小路宰相基綱。季宰相中將熈朝臣等也。次上卿右大臣召官人令敷軾。次召官人被仰可持參文書之由。官人於宣仁門外。白諸大夫取文書。於軾懸弓指進。不召文書之前。召外記可被問公卿參否歟。然今夜無其儀。上卿取文書。不及披見被傳花山院大納言。花山院大納言披見之次第見下。姉小路宰相見畢授新宰相中將。新宰相中將披見續文各纏持見之。畢。上卿被目姉小路宰相。可續申由歟。姉小路宰相置笏更取上文讀申。其儀如常。次上卿被目斷相公羽林。可定申由歟。新宰相中將定申云。遂足定申。

攝津國國司ノ申セル雜事三ケ條事。

任續文之旨一々被裁許何事候哉。

姉小路宰相。（遜足定申）
攝津國國司申ス雜事三ヶ條事。
同新宰相中將定申
侍從中納言（不遜足定申。是已下同。）
攝津國國司ノ申ス雜事三ヶ條事。
同右近衞權中將藤原朝臣定申
日野中納言
定詞同前
中御門中納言
攝津守藤原信直申雜事三ヶ條事
同右近衞中將藤原朝臣定申
此申詞予諷諫也。其謂者每度先賢如此。
何國國司ノ申スト定申。是又一說歟。
花山院大納言
定詞同前
右大臣（實遠公）
定詞同前

人々定畢。可書定詞之由。上卿被命。召史召硯。
其作法如例歟。（予不堪窮屈。暫休息高遣戶沓脫之間不見之。）條目許書之。
依上宣也。（但近例舊例有他公事之時。依斗會後日書之流例也。）新宰相中將懷
中文書。召史撤硯。次職事（元長。）進軾仰上卿云。
母儀准后藤原朝臣可有院號。可奉稱何院哉令
定申。上卿目許職事退入。上卿目新宰相中將。
院號可定申之由歟。
（新宰相中將）季熈朝臣（遜足。正笏。）定申云。
母儀准后藤原朝臣可有院號。可奉稱何院哉否
事。中和。嘉樂可被計用歟。
姉小路宰相（足）
條取之。大略同前。（嘉樂被用。新者新都芳門可被用歟。）
侍從中納言、
定詞院號事　中和　嘉樂
日野中納言
定詞　中和　嘉樂
中御門中納言

定詞　開明　嘉樂
花山院大納言
定詞　中和　嘉樂
右大臣
定詞　開明　嘉樂
爰多分之儀者。召職事可有奏聞處。上卿不及其儀。暫有被相待之氣色。若人々可申字釋等之由被存歟。人々又不存其儀之間。同日暫上卿各可有字難歟之由被命。猶不沙汰移尅。適有申出字釋等之輩歟。右府中和事。中字ヤフル、トヨム歟。不快之由被命。無殊事。
暫召職事着軾。上卿命人々云。各被擧奏號可被申歟。自下臈次第申之。今度擧奏之號許申之如例。
職事參御前。御坐御三間。申上卿擧奏號。仰云。嘉樂。中和。猶可定申一同。予仰元長已ニ嘉樂一同之上者。可申一同之由勅答無詮歟。申入其子細之處。猶如此云々。莫言。重着軾仰勅定之趣。上卿被尋。人々嘉樂一同之由申之。職事重奏聞可爲嘉樂云々。元長出陣仰上卿。仰云。以母儀准后藤原朝臣可奉稱嘉樂內院。年官年爵如舊。本封之外加賜五百戶。仰了退入。上卿以官人召外記師富朝臣。被仰年官年爵事。次召辨被仰封戶事。辨着床子座召史中原康澄。仰封戶事。如法前。
次上卿已下起座。

宣胤卿記

嘉樂門院文明十三年七月一日。甲戌。晴。院號定參仕之事。御敎書到來在左。

來十八日可有院號定可令參仕給者。依天氣言上如件。　元長謹言。
七月一日。左少辨元長奉
進上中御門中納言殿

來十八日可有院號定。可令參仕之狀。所請如件。
七月一日　權中納言

十四日。晴。都護狀到來。院號定部類記被借與事
之。（候イ）又弘長記被返之。十八日ハ大略延引可爲廿
二日云々。
十六日。晴。一通到來。
院號定延引。可爲來廿二日候也。仍言上如
件。　元長謹言。
七月十六日　　左少辨元長奉
進上　中御門中納言殿
（進言上）尅限可爲未一點候也。重謹言。
十八日。廿二日院號定。依產穢延引。可爲來廿
八日云々。此產穢ハ都護靑侍家事也。依爲都護
門内。俄儀不及相隔被穢了。院號定延引事。奉
行以折紙廻覽之。
廿日。晴。藏人辨折紙到來。披見之處。院號定廻
覽之文也。加奉字返遣候。
院號定事被改日次之子細。可爲廿六日候也。

七月廿日　　元長
花山院殿　中御門殿　町殿　三條西殿
姉小路殿　小倉殿以上列書之。
廿六日。己亥。天晴。今日當今母儀准后信子。「元穊子改名也。」實父故藤原孝長朝臣也。故和氣鄕成朝臣爲猶子。其後故保家朝臣猶子。後又故大炊御門入道前内大臣。「信宗公。」去年正月廿六日贈太政大臣十三回云々。沒後稱號可尋記。」爲猶子。依當今母儀也。先年御出家御尼體也。御歲七十一歲。新院御代被下號伊與。御在所正親町東洞院。「内々此間號東洞院殿。」自去年御新造也。内裏之北也。院號定也。
奉行藏人左少辨元長卿。爲今月十八日之由相催之處。依上卿之裝束不具延引。廿二日又依奉行產穢。可爲廿八日之由已以相觸之處。又被引上了。申了向都護許。自此亭今夜可令出立也。上卿右府同自此亭出立。先於予已來臨。又侍從中納言晩頭來同着裝束。秉燭之程各着束帶。衣紋事。藤原宰相「永繼卿」父子來着之。予侍從中納言同蒔繪劔。紺地平緒。次右府着座。元長仰一上事。其詞可尋。大略貫首仰之。五位職事例不見出。定而有例歟云々。次有身固事。土御門三位有宣卿勤之。則退下。次有盃酌。右

府亭主按察。勸修寺中納言。直垂。就右府知音見來云々。予。侍從中納言。西川前宰相。直垂。子細同勸中。公夏朝臣直垂。等在座。盃酌之後。予拾遺黃門相伴先參內。小雜色。二本取松明。花山院大納言着陣之程也。小時右(左カ)府被參。經床子座着陣。直端。依一上也。主殿大夫取松明。「宣仁門內。」召官人令敷軾。次左少辨出宣仕門外伺右府之氣色。着陣之橫敷。次第一參議座程也。沓座等揖有之。但中少辨着之。揖有故實不仰也。又着座不爲如公卿。可被屈歟。然今夜不然。可尋。次史六位盛俊。覽申文史持申文。有宣仁門外之時。橫敷辨見之。伺上卿之氣色作法。近年無沙汰。今夜又不然歟。始見史進立之時見足程。次受上卿之氣色。見史方之時見顏云々。如常。次左少辨下藏人方吉書。持手突左膝。退之時左廻。右府結申。左少辨仰仰詞。依マウシノマヽニ請此分歟。元長欲退。右府召歸被下之。辨結申如例。次右府起座。自高遣戶上。項之各下殿着仗座。右府直端。次花山院大納言政長。於宣仁門外請盃着奥。次予氣色次人。入宣仁門。先右足。位次上首一人請益。次無此儀之由。都護臨期被命。不及勘見。今夜各隨命。於參議座末左廻揖。懸左膝次懸右。則立於左足如行。疊上。先突左膝居

廻于東面。逆右足揖。仗之時以左手押疊。居定引寄裙三折刷衣袖先左。直平緒。折重。正笏。次日野中納言廣光。侍從中納言實隆。着之。各奥也。人數多之時。奥端相分着之。今夜無人不可及其儀之由。上卿兼有命。然新宰相中將硯置所頗以狹少。及拾遺黃門袖下。後悔之由。後日侍從中納言被語。次姉小路宰相基綱。新宰相中將季經。等着橫敷座。次上卿以官人召條事定文書。則官人持參。於陣小庭指彌(ユミハス)進之。上卿取之不披見。被授花山院大納言。言了。置笏取之。取副笏目予。置笏披見了被授予。予不取文以前。目日野中納言置笏。座下。取之置前。刷衣紋先左。解紙捻。解之時。以左手押結目邊。展之披懸紙。不持上。乍付板披之也。押懸紙之右方之上。次下方。次遣文於右。文不持上。又押左方之下。次上。次取之見之。繆持手。先見國解。後見端之繼文。次卷之。卷樣聊有故實。引當胸。文ノ頭ヲ左ノ方ヘ傾也。畢如元加懸紙如元結申。片端結事也。授日野中納言。以右手付板。後取笏。取笏授之條。尙可宜歟。姉小路相公同予。其外取笏之後授之。日野中納言不取文以前目。次人之外同之。新宰相中將見了返姉小路宰相。今夜上首讀之。下臈可書之由。右府兼被命。一人勤兩役事。又勿論也。姉相公

取之置前。已前披見之間。重又不及披見之。可讀申之由右府被命姉相公。氣色計也。次相公取副文於笏。氣色右府。可讀申由候。右府目許。次相公置笏披文讀之。續文不讀也。文胸ヨリ上テ火ニ透テ見也。至年號月日悉讀之。端ノ狀字カタチト讀也。讀了更授新宰相中將。次右府可定申之由氣色新相公。新相公迯足正笏申云。攝津守從五位下藤原朝臣信直。申請雜事三ヶ條事。一々叶續文被裁許有何事乎。次姉小路相公迯足申云。攝津國司申請雜事三ヶ條。新宰相中將定申同。次侍從中納言次日野中納言申詞同前不迯足。次予不迯足。雖爲參議。不迯足事當家説也。吉田大納言殿御記分明。以此御説經長卿所記分明之由。都護卿被命。雖爲納言迯足人有之云々。正笏申云。攝津守藤原信直申請雜事三ヶ條事。右近中將藤原朝臣定申同。此申詞事。於陣者其宰相ト稱之。不加姓尸。御前之時加姓尸云々。長房抄如此。兼日相談都護之處。猶此分可宜之由指南之間如此申了。尙不庶幾。又國司事下﨟尙以省略之上者。只攝津國ノ申請ル可然歟。同隨彼命―。　次花山院大納言申詞同兩黃門等也。次右府氣色新宰相中將可書之由也。新相公以官人召硯。外記持參置座傍。新相公搢

墨。染筆事如例畢書之。端一行書了時分。右府被命云。今夜公事計會。淸書可爲後日相公猶第二行書之。取副笏氣色右府目許。次相公置笏讀之。所書之二行計也。入懷中。以官人召外記令撤硯。次藏人左少辨元長進軾仰云。母儀准后藤原朝臣可有院號。可奉稱何院哉令定申。職事退。右府向下﨟。參議仰之。其詞如職事。次新宰相中將迯足申云。國母准后可有院號。可奉稱何院哉事。嘉樂門。中和門之間可宣歟。次姉小路宰相迯足申云。母儀准后可有院號。可奉稱何院哉事。嘉樂門新字被加者。郁芳門有便歟。侍從中納言申云。院號事。嘉樂門。中和門。字釋神妙被用有何事乎。日野中納言申云。院號事。嘉樂門。中和門―。予申云。院號事。嘉樂門。開明門之間可被計用歟。次花山院大納言院號之事。嘉樂門。中和門―。右府嘉樂門。開明門。次右府可有評議之由頻被命。雖然申詞奏聞以後之由存之間。各不

及出言上。右府云。中和ハ中字ヤフルト云訓有之。和スル事ヲ破。不可然。予申云。嘉樂門已以一同。中和計ハ不庶幾。殊八省豐樂院等門之外。始而被用之條如何。日野中納言申云。被用盡之。可及諸司八省之條有何事哉。可被准八省豐樂之由。侍從中納言同述所存。右府云。猶可有評議。此上無殊事者可奏聞云々。此條如何。先例公卿各擧申之後。則召職事。或自最初留置令聞之歟。奏聞。職事歸出。一同可定申之由仰時可評議也。今度初例歟。改元定同前。殊於院號定者。奏聞以後則被定下。不及評定事度々也。不可似年號定。德治二年六月廿二日實躬卿記云。凡院號定不似年號定。其雖不書委細之由。古人之口傳也。尤可存故實也。次右府以官人召藏人辨元長來軾。各可申聞之由被命。仍自下臈次第申之。予申云。嘉樂門。開明門。各如此。不加他言。正笏申之。次元長歸來。嘉樂門。中和門之間。猶一同可定申云々。嘉樂門各悉擧中之上者。不可及此仰事歟。上卿各可申所存之由被命。予申云嘉樂門者已以一同。中和門者兩三輩擧奏歟。雖好用之子細。已前言上了。以嘉樂門可被定申哉。各申詞不分明。次上卿嘉樂門一同之由。以元長奏聞。此間元長在軾。歸來仰上卿云。母儀准后藤原朝臣。可奉稱嘉樂門院。年官年爵如元。本封之外五百戶ヲ加給ヘ。次上卿召大外記師富朝臣。仰年官年爵事。召辨元長被仰封戶事。次上卿召官人令撤軾起座。

一。今度院號事。兼日勅問五人。二條大閤。中和。豐樂。九條殿前關白。開明。嘉樂。近衞殿關白。盛花。嘉樂。三條右府入道。嘉樂。久我前右大臣。日華。中和。雖各擧奏。兼不被定也。

一。中和門兩音事予ハ用了。

一。大臣仗議奉行之初度有條事定也。院號定ニハ不限事也

寶永七年孟夏　日　　内大臣(花押)

以宮內省圖書寮本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百六十六

雜部百十六

## 公宴部類記

公宴部類 于時辨官

○經長卿記曰。文永七年八月十五日壬午雨下。十五夜御作文也。予申沙汰之。秉燭之間參內。題月下命仙遊便字治部卿進之。文人參集之後。出御弘御所。予取人人懷紙置文臺上。予講師藤中納言披講畢。被講和歌。和歌事日來權辨奉行。依輕服今夕不參。仍予同申沙汰之。頭辨講師披講之後。有聯句連歌之興。

九月廿二日己未晴。藤翰林入來。一昨日自關東上洛。御作文題事。尤可撰進之處。妻所勞危急及大事之時。可籠居。然者出題事所猶豫。可得此意之由示之。次參內奏此趣可召左。

廿三日庚申。 題事今年有閏九月。然者九月盡御會若有傍難歟。昌泰閏九月盡有密宴。來月被行可宜候之由。俊國朝臣申之。此趣 奏聞之處。雖有閏九月有何事哉。適在匡朝臣祇候。可仰合之由有仰。盡日御會事雖有閏月。何事之有哉之由申之。猶可撰進之由仰遣京兆畢。

卅日晴。參內文人散狀 奏聞之。人々總可參之由相催。和歌御會事予同奉行。題前藤大納言撰進之。文人參集之後。詩披講。予講師。藤中納言

讀師。文人藤中納言。頭辨。資宣朝臣。光朝朝臣。在匡朝臣。定忠。棟望。經賴等。題菊芳秋景暮。各分一字。端書之樣人々所存不同。頭辨左京兆九月盡日同賦書之。在匡朝臣 九月三十日同賦書之。其外予等暮秋同賦之。

閏九月九日晴。參 內有御作文。權辨高雅。奉行也。題再酌菊花酒。各分一。文人如先々。和歌御會同權尙書奉行。題事嚴親眞觀上人撰進。爲桑門之身撰進之條。人々爲不審。詩歌披構畢。 端作之樣

閏九月九日同賦書之。

御製．後九月九日ト被書之。

○同記曰。于時前中納言。正安四年九月十三日癸卯 晴。參伏見殿。御幸遲々及晚。入夜披講權大納言。予。萬里小路中納言候之。隆長奉行。勤講師。詩歌御會也。先披講詩次和歌也。

○吉續記曰。建治二年八月十九日天晴。未斜參龜山殿。束帶。侍一人召具之。今日可有和歌御會御脫履以後初度。幷御遊。別當奉行也。予參御所方八王子遷宮。信輔本奉行也。而依所勞申身暇湯治。仍予申沙汰也。行事辨事奏之。內々被仰雅憲朝臣之由。有仰 自餘事等。御會之間 物總仍不奏之。歌仙等漸參集。以弘御所爲其所。御裝束如常。但被撤置物御厨子。敷高麗端二疊二行對座也。座末遣戶開之。爲參進之路也。 御所庇上南面三ヶ間敷高麗疊。同長押下敷紫端帖。爲殿上人座。此所立置物御厨子。本被立庇御所御厨子也。置樂器。入夜弘御所 上下立高燈臺。 大理被催沙汰之人々未參集。御隨身久則久賴下﨟二人候中門邊。頃之殿下御參。內府未參。頻被催。自餘公卿皆候東公卿座。座上下舉燭。人々皆參之後。大理申其由。出御。御直衣。攝政殿令參給。以大理告申出御之由。內々御祗候也。 次次大理召諸卿。前內府以下着座。攝政殿奧座。前內府端座也。奧端各相分着座。公卿各直衣。 次仲兼 持參(マヽ)切燈臺。元在高燈臺。燭居切燈臺。 次爲俊置文臺。御硯蓋也。 次顯家 敷同敷圓座。 次爲方 參進欲置歌。置序之後。可置早速。 此間前內府置序代於文臺上。 爲方留座中央。 前內府 置序之後。 爲方參進 膝行置之。經座中。 自下﨟次第献之。 爲世朝臣献歌退歸之時。大理授女房歌於爲世朝臣。更

參進置之。殿上人置畢。予以左右手取歌。以右手元本。以左手聊加末。前藤大納言敎訓也。不取笏。參進經座中膝行置文臺上。元直之。文本向御前也。逆行退歸。此所以奥座爲座上。獻歌之時可爲位次也。予上﨟爲世朝臣敎經朝臣也。可爲何樣哉之由。先相尋爲世朝臣。獻歌之時。隱藏人頭爭可爲位次哉。亂位次後ニ可置也。重服歟之時者。位次之內答之。仍爲世朝臣置之後予置之。次公卿自下﨟次第獻之。修理大夫卿膝行置之。於貫之時膝行不可然歟。如爲自余所膝行居之。攝政殿起座給令獻給。御復座次召講師。別當告召之由。實治攝政殿召之也。予持笏參進膝行。懸膝於圓座上一揖。座定引直裾。圓座上不可正座之由。亞相詠諫。仍圓座ヲ聊押出座上。此間前內府被勤讀師。取歌等。硯莒ヲウツフセテ被置之。佐兵衞督勤下讀師。先被披序。此間攝政殿可參進給之由。雖有御目無何參如何。予逃右足正笏切音讀之。藤中納言參進。依召參之。詠序五六反詠之。詠畢退入。次前藤大納言。春宮大夫等參進。歌等自下﨟重之讀申。但各字幽燭又不明之間。女房歌不讀之。忽ニ絕音字之時。頭不可動而不見字。不動者難讀仍無力動頭。不可爲例歟。攝政殿御歌詠吟之後。重女房歌。權中納言局「爲敎卿女」薄樣書之。文字不分明。不伏頭ハ不見。仍時メッツフセキテ見之。見苦作法歟。但無力事也。臣下女房等披講畢。予一揖。予座傍前大納言。春宮大夫被祗候。其所授又御近々之間。揖不深也。起座。次被撤臣下歌等。被置御製。攝政殿令置御製給也。次別當卿着同座。講之人々頻詠吟之後。被召返御懷紙歟。分明不見之。次本役人撤切燈臺圓座文臺等。御遊事略書寫了。今度被用元久實治例歟。歌披講之間。御隨身立明。實治候中門邊也。御遊之時候中門。

題。松色浮池。藤中納言出之。實治經光卿出題歟。

歌仙。

攝政殿。　前內府。師繼。　前藤大納言。爲氏。　花山院大納言。長雅。　春宮大夫。實兼。　一條大納言。實家。　殿大納言。兼忠。　別當。經任。　藤中納言。資宣。　前右兵衞督。爲敎。　二條宰相中將。經良。　左兵衞督。宗冬。　修理大夫。隆康。　西園寺三位中將。公衡。　權中納。爲敎卿女。

殿上人。

爲世朝臣。束帶。　敎經朝臣。同。　予。同。　隆

博朝臣。同。　爲兼。衣冠。　爲方。束帶。
予歌端書樣。如ニ藤亞相諷諫一者。太上皇不レ可ニ平出一之由示之。而故殿坊城殿平出令レ書給。守ニ家例一。侍侍字公宴可レ用ニ此字一之由。亞相示レ之。故殿御草陪字也。尤可レ守ニ御所爲一歟。而亞相示レ之。仍書ニ侍字一乎。猶可レ案事也。別當父子書ニ陪字一。
秋日侍。
太上皇仙洞同詠。松色浮池。
應　製和歌。
藏人頭造東大寺長官正四位下行左大辨臣藤原朝臣經長上
ときはなるまつの
みとりのいけ水に
君かや千代のかけそう
つれる
和歌道。予雖レ爲ニ重代末學一。而今度初度御會被レ用ニ實治例一。件度顯朝卿之時。爲ニ頭右大辨勤ニ講師一。予今爲ニ藏人頭大辨一。公私吉例也。且予外無ニ其仁一。早可ニ豫參一候由有ニ勅定一。仍所ニ勤仕一也。講師作法受ニ藤大納言爲氏。說一乎。故顯朝卿受ニ民部卿入道爲家。說一畢。亡父和歌事隨分入功。彼文書等令ニ相傳一。一向訪ニ民部卿入道一。予又受ニ前亞相之訓一。可レ謂ニ相傳之師範一歟。
追申。
可爲午刻講師事可存知給也。
松色浮池。
右和歌題。來十六日於龜山殿可被披講。可令豫參給者。院御氣色執達如件。
八月十日　右衞門督經任
頭辨殿
永和三年三月四日壬午雨降。今夜　禁裏和歌御會始也。出題御子左中納言松千春友。
奉行藏人權右少辨。資教。
參仕人
准后。直衣。下括。　太閤。同。　近衞前關白。同。
按察。兼綱。　民部卿。實遠。衣冠。下括。　御子左中納言。爲遠。直衣。下括。　兵部卿。同長綱歟。　左

大辨宰相。宗泰。束帶。二條三位。爲重。衣冠。下括。

殿上人

資康朝臣。束帶。爲敦朝臣。同。資敎同。雅氏同。等也。

出御之後。公卿次第着座。奥准后。太閤。民部卿。其外皆端座也。御硯蓋雅氏持參之。切灯臺知季持參。取替高灯臺如常。次講師圓座雅氏敷之。次讀師圓座知季敷之。御座左右敷。次奉行資敎置殿上人歌。次公卿自下臈置歌。讀師按察依准后召着圓座。召資敎爲講師。召爲敦朝臣爲下讀師。講頌人民部卿御子左中納言。左大辨宰相。二條三位等也。參議散三位一反。納言二反。關白以上五反也。御製讀師關白。講師御子左中納言也。今日准后灸所爛之間。兼被付懷紙於奉行。且又宿德之作法云々。

至德元年十一月三日丙寅。晴。今夜於 新院有詩歌管弦三席晴御會。脫履以後初度也。

詩題。聖猷天合德。

歌題。松樹契久。

文人公卿

攝政。准后。九條前關白。近衛前關白。右大臣。三條儀同。三司。別當。資康。日野中納言。資敎卿。坊城中納言。俊任卿。勸修寺中納言。經重卿。式部大輔。長嗣卿。新宰相。長綱卿。左大辨宰相。兼長卿。大藏卿。氏種卿。前右大辨三位。秀長卿。納言以上直衣。參議以下束帶。

殿上人

賴房朝臣。季尹朝臣。元範朝臣。言長朝臣。

歌仙公卿

攝政。准后。九條前關白。近衛前關白。正親町前内大臣。今出河前内大臣。四辻一位。善成卿。大炊御門大納言。家實卿。西

園寺大納言。公永卿。　別當師中納言。仲光卿。
二條前中納言。爲重卿。　中山中納言。親雅卿。
園前宰相。基光卿。
殿上人
資衡朝臣。　爲衡朝臣。　資藤。
御遊。御所作御笙。先々雖爲御笛。今度始而御笙。
拍子。綾小路前宰相。　笙。准后。　笛。三條儀同三司。
篳篥。兼邦朝臣。　琵琶。今出河前内大臣。
箏。四辻中納言。　和琴。大炊御門大納言。
付歌。信俊朝臣。
諸題。式部大輔。　序。前右大辨三位。
讀師。前右大臣。
講師。賴房朝臣。
御製讀師。攝政。
講師。新宰相。
和歌題。二條前中納言。　序。准后。
讀師。正親町前内大臣。
講師。資衡朝臣。
御製讀師。准后。
講師。二條前中納言。
兼作事執柄之外被停止之。而別當臨期依無講頌被召加之。

○二條太閤持通公記曰。寛正六年十一月廿七日。此日　禁裏兩席御會始也。御即位以前雖無先規。内々爲御會不苦由有沙汰。仍酉刻着直衣。自閑門參内。准后自御直廬御參。予御會所構樣。少々加下知之。此間大略被參着　鬼間。大間。近衞前關白。予。一條前關白在此座。准后御參當御所。有三獻云々。次出御。予候御簾。　主上御引直衣御出座。次太閤。前關白。予。一條前關白。以上奧。右府。一位大納言。以上端。前右大納言。奧。西園寺大納言。端。九條大納言。端。廣橋中納言。奧。式部大輔。奧。左中辨宰相。端。自余依無座不及着座。次五位殿上人重仲。持參切燈臺。爲

親持參文臺。六位兩人敷講讀師圓座。次第自下﨟置懷紙。披講之儀如例。事畢無益作人直退下。次准后自使(便カ)宜所御着座。於御座間御蹲居。公卿等動座。大臣無其儀。次帥飛鳥井前中納言三條宰相中將。右大辨宰相等着座。其外不着之。依無座也。次頭辨宣胤朝臣。殿上人懷紙置之。次公卿自下﨟置之如先。次准后置給之。公卿動座。御製讀師准后講師權師。披講畢各復座。次入御卿(公晄カ)退下。

○兼宣公記曰。應永十九年三月廿日。和歌御會也。頭右大辨清長朝臣奉行之。題禁庭花芳。民部卿爲尹爲題者。凝風情可令豫參之由。兼日被相催畢。

以議定所幷臺盤所。未間爲吟場刻限。出御。雲客懷紙悉置畢。後公卿爲先下﨟置之。予先入檜扇於懷中。取出懷紙聊披見。端作以兩手。文上爲左。起座參御前。一兩步膝行之後。及手置懷紙於文臺上。以右手也。聊逆退起揚右廻歸着本座。悉置畢後。依天氣西園寺大納言起座。移着讀師座。次讀師召尹賢朝臣。尹賢朝臣參候簀子。讀師及手取懷紙給尹賢朝臣。兩ヶ取之給之。尹賢重之先之。依天氣召講師。其詞清長朝臣。清長朝臣持笏參進。一揖着圓座。次召講頌人。讀師被合眼予。予起座進候講師之右方。次民部卿。次小倉宰相中將。次爲盛朝臣。次雅清朝臣等進候。此間以勅言被尋仰關白之。長遠卿被召加講頌歟云々。可然之由被申之。仍大藏卿令參候讀師。取盛光懷紙披置文臺上。講之民部卿發聲。雲客一反。納言以下二反。關白三反。但臨期依天氣五反。先之講師一揖起座退畢。披講畢讀師取臣下之懷紙。二重ニ抑折令置文臺之傍。起座歸着本座。次關白起座移着講師座給。次給御懷紙則令置文臺上。御懷紙畢下當講師方。給召民部。民部着講師圓座讀上之。起圓座欲退之間被召留。留着講頌座畢。講師讀上之後。予

發聲次第講頌。第二反之初民部卿發言御合。七反之後人々起座。前公卿者歸着座。次自下﨟起座。次入御。

禁庭花芳。民部卿爲尹卿獻之。

抑此起之端作。可有闕字哉否事。以詩之准據。不可有闕字之條勿論歟。仍文保。禁庭松久。正中。禁庭花。等和歌御會。一座無闕字之由見及者也。可爲何樣哉之由。相談飛鳥井中納言入道之處。此事誠有不審之間。內々申談關白之處。以詩之准據。不可有闕字之由有仰云々。仍雅淸朝臣不可闕字之由可諷諫。仍予不闕字者也。但時宜可爲如何樣哉之由。參內已後伺申入之處。不可有闕字之由有天氣。旁以令略畢。但西園寺大納言。新中納言。民部卿。小倉宰相中將。尹賢朝臣等有闕字云々。

○綾小路中納言入道記曰。享德二年十月廿五日天晴。今夜於後崇光院仙洞法皇。有和歌御會。始有俊爲披講聽聞。着狩衣內々令參。抑洞中初度時。御會始無御遊事今度初例歟。未勘得先規可尋記也。凡御法體之時例。未曾聞之由有謳歌歟。奉行頭右中將雅行朝臣。御次第關白作進云々。題者飛鳥井中納言。庭松久綠。

御會人數

式部卿親王。御直衣。下結。御指貫。雲立涌。　關白持通公。未拜賀。仍衣冠。下結。　三條前內大臣。公保公。直衣。下結。　大納言殿。義—。同御指貫。雲立涌。　帥大納言。實親卿。直衣。下結。　三條中納言。公綱公。同。　民部卿。親通卿。　治部卿。持爲卿。同。　飛鳥井中納言。雅親卿。同。　日野中納言。藤光卿。　右兵衛督。爲富卿。衣冠。下結。　敎秀朝臣。右大辨。宰相同。未拜賀。

殿上人

雅行朝臣。頭右中將。束帶。　敎國朝臣。左中將。同。　雅

康朝臣。左少將。同。
抑李部已令置懷紙給之時。公綱爲富等卿。致秀朝臣下座蹲居。帥以下動座。大納言殿之時。帥以下悉下座蹲居也。

○中山霜臺入道記曰。應永廿六年三月十六日辛酉天晴。早旦參院。同和歌御會參入許否。則被下女房奉書仰云。可付廣橋大納言者。仍遣彼亞相許。則文書奉書授。予使可付頭左中辨云々。件狀云。

中將定親朝臣被召加今日御會候。可令存知給之由被仰下候也。恐々謹言。

三月十六日　兼宣

頭左中辨殿

返事ニ

中將定親朝臣被召加今日御會之旨謹承畢。早可催仰候也。誠恐謹言。

三月十六日　經興

卽又相具和歌詠草參院。備叡覽。近臣等皆如此云々。仍予所持參也。

庭松添綠　定親

けふよりは御かき（やイ）の松のみとりまて
君かちとせのかすにそふらし（らんイ）

被直仰之旨如此。則退出淸書之。

今日禁裏和歌御會。當代初度非中殿儀。內大臣殿又初參御會給。藏人頭左中辨經興朝臣奉行之。兼日儀左大辨奉行之。昇進之後與奪之也。予申終許着束帶。不帶劍笏。參內。此間左大辨宰相義資朝臣。奏慶。藏人權辨宣光。先是申暫之宮慶云々。內大臣殿於直盧。權大納言典侍局也。祖父一位入道參入。盃酌三獻云々。又令着裝束給云々。御直衣。下括。此間人々參集。抑五位殿上人勘解由次官知俊一人參入。仍可役雜具之由被仰。侍從持和此事如何。頗不審之由人々有密語歟。予終許事始於議定所。御殿西南也。及臺盤爲其所。有此事。先出御。御引直衣。內大臣殿令候御簾給。着御座。

南面。次内大臣殿令着奥座給。次右大將。實永。衣冠。着端座。廣橋大納言。兼宣。直衣。着奥座。奥內府御座有絶席。左大將。將基。束帶。被着奥座。三條大納言。公光。直衣。新大納言。公雅。直衣。洞院中納言。滿季。一條前中納言。實秋。直衣。權中納言。實秀。直衣。日野中納言。有光。直衣。等奥端相分次第着座。參議散三位等依無座不着之。次勘解由次官知俊持參文臺。置御前板敷。謂御文臺者。御硯筥蓋也。如覆硯也時。以面爲上置之。或以內爲上置之。以面爲上爲善說之由。雅清朝臣所談也。次侍從(持脫カ)持和參講讀兩師圓座敷。此役兩人。各可持參也。而今日所役人無人。仍二枚持參之。先敷讀師圓座於御座前御左方。次敷講師座於文臺南方欲退之間。以讀師座可敷御(前脫カ)御右之由有仰。仍改之　次知俊持參切燈臺。移居燈取高燈臺退下。此事如何。人々置懷紙畢之後。可立切燈臺也。而不慮如此爲奉行計會之由。經興朝臣稱之云々。次經興朝臣殿上人懷紙悉乞取之持參置文臺。此事新儀也。爲早速奉行中沙汰之歟。後日中納言入道云。面々可持參也。今日義不可然者。次左大辨宰相義資朝臣參進置懷紙。次右衞門督爲盛置懷紙。參進之間。踏入足於指貫中。不及拔出參進。主上令含咲御也。次前右兵衞督基親置懷紙。自南妻戶參進退出。次着座公卿等。自下﨟次第起座。置懷紙復座。各右廻退。端座人猶可左廻歟。而內大臣殿御座在奥。仍右廻云々。左幕下座揖如常。內大臣殿起座給之時。諸卿下座前。御復座之後各又復座。次召講師左中將雅清朝臣。入南妻戶參進着圓座。直綴如常。次讀師右大將着圓座。次講頌人々參候講師左右并後方。廣橋大納言。洞院中納言。日野中納言。左大辨。盛光。宣光。爲光。持和等頌遲參頻召求之。參進不知其故云々。次召下讀師左少將雅永朝臣。參進候讀師後簀子。右大將顧座賜懷紙於雅永。又被取懷紙之時。同顧座上。此事不可然。自座下可進退之由。後日入道中納言所談也。雅永重之進右將軍退入。即依仰加講頌座云々。其儀不見及。先右大將取持和歌。最末也。被披置文臺上。以文下方向御前。雅清朝臣讀之。臣下歌講畢。雅清朝臣退下。右大將復座。次御製讀師內大臣殿移着讀師圓座給。諸卿下座前同前。次講師廣橋大納言移着講師圓座。自御前被出御製。內相府殿令披文臺上給。以文下方被向講師方。是一說

也。爲令無講師之失也云々。亞相讀畢退座。加講頌內大臣殿復座。次入御。御簾如初。次公卿自下﨟退下。

講頌反數

御製七反。內大臣殿五反。大中納言二反。參議以下一反。

此後內大臣殿參院給。盃酌及數獻。當座有御製。又相府令詠進給。一位入道又詠一首。中納言入道密々於地下見物。仍被召簀子。依仰詠一首云々。暫之相府殿退出給。此後被召雅淸雅永等朝臣於御前。依仰又各詠進云々。件歌等不聞及。

今日予懷紙。

春日同詠庭松添綠。

和歌。

左近衞權中將藤原定親

廿一日。右中辨盛光朝臣送　院宣曰。

鶴馴砌。

右和歌題。來廿八日可被披講。凝風淸。可令豫參給之由。

院御氣色所候也。仍執啓如件。

三月廿一日　右中辨盛光

謹上　中山中將殿

鶴馴砌。

請文

右和歌題。來廿八日可有披講。凝風淸。可令豫參之由。謹承畢。早可存知候也。恐々謹言。

三月廿一日　左中將定親　於請文者。可有披講書之由。亞相殿仰也。

廿八日癸酉天晴。今日於　仙洞。可有和歌御會。予可參入之由右催。仍未刻許束帶不帶劍。猶可帶歟。參院。人々多參集。內大臣殿漸可參給。各可早參之由。右中辨盛光朝臣奉仰。相觸人々云云。此間予竊見御裝束儀。

以寢殿東西北三ヶ間。爲其所。下北面御格子

西方北第一間懸覆御簾。自餘障子間無覆御簾。上東面御格子卷御簾。北第一間副西敷(大カ)北文高麗帖。南北行。同間副東長押敷同帖。同前。件中央副北方東西行并敷大文高麗帖二枚。其上中央二帖中間敷御茵。爲御座。北第二間副西敷高麗帖一枚。爲內大臣殿御座。同第三四間敷同帖。爲大臣座。有絕席。爲公卿座。間末方折東數同帖。爲末公卿座。北二三間副東長押敷同帖。南北行。爲公卿座。御庭前東方板上立高燈臺。供掌燈。御隨身三人着布衣候東砌。廳官二人於欄下奉仕。立明。及黃昏內大臣殿參入直廬。別當房。秉燭之程參御前給。盃酌及數獻云々。此間右中辨示予云。可勤下讀師之由有仰者。予答。可存知之由畢。亥刻許出御。御隨身發萬聲。內大臣殿令候御簾給。着御御座。南面。即內大臣殿令着奧座給。次右大將。端。廣橋大納言。奧。左大將。端。三條大納言。奧。新大納言。端。洞院中納言。奧。一條前中納言。同。權中納言。同。日野中納言。同。德大寺中納言。端。內裏御會不參。等各入南一間東西着座。參議散三位等依無座不着之。次勘解由次官爲清持參文臺。其義如去十六(日歟カ)。次左馬頭永基敷讀師圓座。侍從持和敷講師圓座。兵部權少輔治長持參切燈臺。移居燈取高燈臺退下。次侍從持和參進置懷紙。次少將爲之。次右中辨盛光朝臣。次左少將雅永朝臣。次予。次雅淸朝臣。次經興朝臣。彼朝臣位次在雅永朝臣下。而依有中談旨如此云々。雅淸朝臣有請。請氣於予者。經歷貫首之身也。何不庶幾哉。今日義强不可然歟。懷紙又此次第也。先例可勘知事也。次左大辨。次右衞門督。次前右兵衞督。次菅宰相。不參去十六日內裏御會。次德納言。次野納言。權納言。前納言。新大。三大。左幕。廣大。右幕等各置懷紙。次內大臣殿先取出懷紙。頗披見之。卷之起座。諸卿動座。右幕被下座。渡長押下去十六日內裏之義不然。兩度相違如何。置懷紙復座給。次右大將移着讀師座。次右中辨盛光朝臣參進着講師圓座。次右幕伺御氣色召講頌。先是可召下讀師也。

廣亞相起座候講師左方。洞納言着右方。野納言。菅宰相。右金。左大丞等進寄講師後方。雅淸。雅永等朝臣。宣光。爲之。持和等候其後。予參進跪右大將座下。頗居向艮方着座。綺寄裾候。右大將取進懷紙賜予。予總撰出持和最末也。歌。奉右將軍。次第披講。予次第撰重之。候下﨟爲下重之。末重終箭先。依大將命。且自下﨟一枚宛獻之。悉重畢。自中程折合。以右方爲上。抑寄讀師座下。左廻退下。次第披講。內相府御歌五反。大中納言二反。參議已下一反也。讀相府御歌之後。盛光退下。即加講頌。次右大將取直懷紙等復座。次內相府殿起座。着讀師圓座給。次日野中納言依仰着講師座。次上皇自懷中令取出御製。御被下相府云々。賜之被置文臺上。日野納言讀之。披講七反畢。諸卿自下﨟退下。次入御。相府殿則退入。其後參御前給。盃酌又數獻之後。御退出。人々又分散。予懷紙書樣。

春日侍　太上皇仙洞同詠。
　鶴馴砌應。製和歌。
從四位上行左近衞權中將兼參河權介臣藤原朝臣定親上
、、、、、、、、、、
、、、、、、、、、、
、、、、、、、、、、
、、、、、、、、、、

抑懷紙端作。於內裏者。以中殿爲晴。仍件時載應製臣上等字。不然之時只如去十六日。於仙洞者今日之儀晴儀也。仍如此。

○顯朝卿記曰。寶治二年正月十七日丙寅晴。今日外記政始也。申尅參衞門。事畢參內。陣申文儀如例。次新中納言畢其參院。今夜始有和歌御會。依應勅喚也。以廣御所爲其所。件御所東西八ヶ間也。座末方西方也。二ヶ間有中隔遣戶。座上二ヶ間爲長押上。長押上逼東障子敷大文高麗

疊二枚。南北行。東西相並敷之。爲上皇御座。其南北二行對座並敷高麗疊。南北相並二枚。爲一行也。長押下又二行對座同之。時剋攝政以下歌仙參集。頃之上皇出御。御冠。直衣。次公卿次第着座。侍從不及着座。次立切燈臺。便撤高燈臺。次敷圓座。次立文臺。御硯筥蓋也。已上役五位侍從勤之。開中遣戸爲路。經座中參進也。次内（府カ）座被置序。次侍從置歌。自下﨟次第置之。予位在光成爲氏等下。然而彼兩人先置之。予最末置之。但或任位次置之。先例不同也。其路同役人。予不持笏。次公卿置之。自下﨟置之。次依召予。持笏。勤講師之人。先例或不持。但於辨官者。雖殿上之所作必可搢云々。且建久祖父納言如此。又建仁資實卿爲大辨。藏人頭勤講師之時持也。抑讀師先參可召講師歟。然而依召參進之。於長押下突膝。卽懸膝於長押昇。膝行着座一揖。正不座圓座上。但文臺之間。不遠之程令座也。儲爲見文字也。座定之後。乍持笏先以左手引直裾。次取移笏於左手。以右手又直裾也。或乍退足候云々。御硯筥蓋自元ウツフセテ置之違失也。讀師取之。ウツフスヘキ也。次讀師左大臣。參進。被座講師左方。次依召殿下令詞御氣色給。下讀師別當。參進。左府取和歌留序一通。給所殘之歌於大理。此間依召。大臣已下可然之人々參進。是爲詠歌也。又侍從同。爲氏行家等朝臣依仰。各進候簀子。大理次第進之。此間左府披序被置文臺上。以下方爲御前方被置也。予先一返見終讀之。切音讀云。春ノ日太上皇ノ仙洞ニ侍テ。同ク松ノ色春久トイヘル事チヨメル。應製スルヤ未トウタ幷序「此南字微音ニヨムナリ。」内ノオ、ヒマウチキミ。「内字鑓ニ聞ヘテ。モウチキミ微音ニヨムナリ。」次讀序也。讀師隨讀。次第被披之。讀師讀之間。以不伏。仰爲是。或ナカムルト云々。是清輔說也。或エイスルト云々。匡房說也。今度予所用。基俊說也。且予讀祖父納言建久勤仕之時。受後成訓。ヨメルト講給也。（畢カ）平正笏候。新中納言吟詠。長句計詠之。小句ハ切音ニヨム之。二反詠之。可爲三反歟如何。次次第讀歌。讀師一枚ツ、被置之也。其讀樣。先一反見之。心得歌心之後。出音也。切音ニ一句ツ、。絕音シテ讀之也。序外不讀題。或題如前也。每度談之有說歟。五位名計。資平トヨムナリ。四位名朝臣ト。三位已上。官姓朝臣。有兼官人讀兼官。無官之人讀本官。左右大臣。左ノヲ、イマウチキミ。右ノヲ、イマウチキミトヨム也。左右字許鑓聞程也。別當卿雖多兼官。就顯職左兵衛督藤原朝臣ト讀之畢。又内府雖兼右大將。讀大臣ノ。又前藤大納言ハ正二位藤原朝臣ト讀之畢。凡六位官姓名。五位官名。四位名朝臣云々。今度平五位。只讀名許畢。早速可爲宜歟。且藤大納言敎訓也。御歌攝政ト讀之也。

人々詠之舊例。每人三反詠之。近代下﨟不過一

反也。今度如此。攝政御詠讀畢。卽起座退下。御製講師可爲公卿也之歟故也。次詠吟畢。讀師被撤臣下歌。次人々復座。次被置　御製。次依召權大納言實雄卿。參進。講頌之人々又參進。如前數反詠吟。以人々復座。次撤切燈臺。如元立高燈臺。又撤文臺圓座等。次御遊。五位侍從置件具。兼置廣御所北面。

拍子。內府。付歌。右兵衞督。笙。四條大納言。篳篥。少將兼敎朝臣。笛。花山院大納言。琵琶。大宮大納言　箏。二位中納言。和琴。右兵衞督宥資。付歌兼行。

呂。律。

新年。鳥破。席田。青柳。萬歳樂。嘉殿急。美作。胡飲酒破。三臺急。

歌仙公卿。

攝政。奥。左大臣。端南也。右大臣。忠家。奥。內大臣。實基。端。自東着庭。同。四條大納言。隆親。端。前藤大納言。爲家。同。花山院大納言。定雅。奥。大宮大納言。公相。萬里小路大納言。公基。權大納言。實雄。奥。當中納言。爲經。端。一位中納言。良敎。奥。新中納言。經光。端。題者。右衞門督。通成。奥。兵部卿。有敎。散信也。二位。別當。定副。相儲西方。端。次第着座。

已上直衣。

侍臣。

予。爲氏等朝臣。忠經等朝臣。左京權大夫經朝臣。前兵衞佐行家朝臣。少將資畢。

自下萠獻歌。臨則開遣戸。經公卿座中央。同日陽然記。相違相漏事計注之。

布衣隨身五六輩候東屏中門下。刻限出御。御冠直衣。攝政奥北也。着座。別當奉仰至西公卿座召公卿。三公許也。兼敎朝臣。篳篥。可着公卿後保而當御座間。居弘廂人以傾歌云々。

○後山階內府記曰。曆應二年六月廿七日天晴。今日仙洞晴御會始也。追正和佳躅詩歌御遊。三席可被連行云々。今度始。可載應製日上之由。有御敎書札紙。今度和漢兼作之仁。關白外皆不被許。兼作悉被相別也。嚴

闕和歌御參事。幷序代又御遊御所作等事。及實夏詩幷御遊參事。兼日奉行按察大納言經顯卿相觸之間。悉領之。仍酉刻許理藻鬢戴作皮。此間冷泉大納言入來。及亥刻予着束帶。無文玉□紋紺地。如例。次參嚴君御所。已令着御裝束御直衣給。卽御參嚴君以下皆步行也。前駈三人。光遠朝臣。光經。光熙衣冠。下結。半靴。取火。亞相同伴申。實夏同御共也。隨身二人。束帶五位一人。光遠。召具雜色長等也。人々大略參進之。執柄未被參。其間參集公卿。着上達部座。寢殿東面也。及寅刻關白被參。頃之先有諸御會。其所寢殿西面。日來評定所。北第一間爲御座間。大文高麗端二帖東西行敷之。次第二間妻戸間也。不敷疊。爲講頌所。東西高燈臺二本立之。自第三間以南三ヶ間南北行ニ相分テ敷小文高麗端疊。爲公卿座。先關白直衣。着奥座。次出御。烏帽子。直衣。後文人等可着座也。奉行內々示之間各參。

內大臣。直衣。奥。右大將。束帶。端。花山院中納言。直衣。奥。按察中納言直衣。端。予。束帶。端。式部大輔。束帶。奥。前左大辨二位。束帶。奥。等各着座奥端座。此外勘解由長官宣明朝臣等依無座不及着座。次成棟持參切燈臺。取替高灯燈。次讀師圓座二枚而之。經隆持參之。敷御座之右方。先々讀師同座。院中不敷之。非正義歟。仍今度任中殿例敷之。次藏人說房持參講師圓座也。一枚。敷之。次經隆持參文臺。御硯筥蓋仰而置之。置之。畢序者。勘解由次官公時卿束帶。參進。西簀子北行。入妻戸間跪膝行。聊披見序。置序逆行左廻經本路退去。次殿上人房範朝臣。在成朝臣。宗重朝臣。宗光。高嗣。等自下﨟次第參進。置詩。畢公卿宣明朝臣以上次第置之。予置詩之取出懷中詩先向座下聊披見。而取副笏深揖。下長押簀子北行。入第二間妻戸跪膝行。笏ヲ右膝ノ下ニ置テ。顧(顏ヵ)左テ聊又披見詩シテ。文臺ノ上ニ置之。懷紙トヲ御所方ニ置也。取笏テ逆行シテ左廻シテ。經本路復座。次按察中納言。自座中央參進。

次花山院中納言又經讃子。次大將已上自座前參進也。關白內府被置之時。予平伏。人々詩置畢後。依御氣色內府參進。被着讀師圓座。次宗光依召參進爲講師也。次內府文臺上ノ懷紙ヲ取下。此間宣明朝臣參進。兼可爲下讀師之由。被仰之故參進也。此間內府序ヲ文臺上ニ披展テ。宗光讀之間。宣明朝臣次第ニ重テ。進讀師傍退去。先之講頌人々參進。宗重朝臣依無人。今度被召加。十反許講畢。講師出頌聲卽退去。次講頌人々同退散復座。文人等又起座退出。關白猶着座依兼作也。次有和歌披講。其儀歌仙。

前右大臣殿。直衣。冷泉大納言同。春宮大夫。同。新大納言。同。鎌倉大納言俄申子細不參。獻懷紙。別當。同。二條前宰相。衣冠。九條二位。直衣。左宰相中將等也。束帶。侍從三位直衣。

二條侍從三位等依無座不着座。次家君先令置序給。次自殿上人爲明。雅宗。爲忠等朝臣。朝光。至公卿及關白。自下﨟置歌。別當以下經讃子。有披講。讀師前右大臣殿。下讀師左宰相中將。講師朝光也。序講頌者別當資明卿一人也。兩反詠之後。講頌人々被召之。冷泉大納言。二條前宰相。九條二位。侍從三位。二條侍從三位。爲明朝臣等也。臣下披講畢。讀師前相府殿。余復座給之處。隨御氣色。又令參候講頌座給。此間關白及着讀師座給。御製。召新大納言公重卿御製講師。御製讀畢。大納言卽退去。十反許講畢。歌仙等各退出。但家君。冷泉大納言。春宮大夫。新大納言。留者座爲御遊所作也。內府。予更知着之。次本役參進。高燈臺以下御會具等撤之。次持參御遊具。先御比巴雅宗朝臣持參。前右相殿被傳進之。此間冷泉大納言予等蹲居。次宗重。敦有。忠俊等朝臣着讃子。次成棟持參笛筥蓋。相子許盛之。次人々器次第置之後。取下笛筥蓋。至殿上人前々後。依　天氣前右大

臣殿日(目カ)許。御遊始。拍子宗重朝臣。付歌敦有朝臣。笙冷泉大納言。笛予。篳篥忠俊朝臣。琵琶新大納言。(御所作之有之)。箏前右大臣殿。內大臣。和琴春宮大夫等也。歌呂。

安名尊。鳥破。席田。鳥急。

賀殿急。律。伊勢海。三臺急等也。事畢又取上笛筥蓋。至家君御前。次本役人自末(本ノマヽ)人々器各撤。畢雅宗朝臣參進之間。家君又傳賜御琵琶於雅宗朝臣。此間冷泉大納言予退座。次家君御退出。大納言予等同退出。于時廿八日巳刻也。抑有大臣兼領狀之。俄依所勞不參。武相亞相參事。自元未被申拜賀之間。不及其催歟。然而內內別而及御沙汰被召加之。雖出仕不重可進懷紙之由。內々被仰武相歟。然而進之云々。今日晩頭。武家立使於私第。端作位署等事申談之。仍巖閤被注遣之不參。仍懷事。弘安仙洞御會。香園院入道關白右大臣時。不參進之。又故入道關白當職之時。有此事之由。右府內々被申云々。又不參之人懷紙事。誰人可置哉之由有沙汰。先規無分明所見。今度奉行人朝光。取副我懷紙置之。

實夏詩書樣。

夏日侍　太上皇仙洞同賦聖澤

遍於永應　製一首。(以情爲韻。)

參議從三位行右兵衞督臣藤原朝臣實夏上

聖化無私海內平。遍於水澤濟民情。

我君宸讌過逢日。詩是大明樂大英。

私云。詩定三行三字歟。頗不審。

巖閤御懷紙。高檀紙不深切。聊ソロヘテ讀。二枚書之。

夏日侍　太上皇仙洞詠松影映

他應　製和歌一首幷序

從一位藤原朝臣公―上

帝成北畔、、、本

歌二行七字書之。代々例也。序奥歌二行七字也如例。今度嚴君御懷紙。序代淸書事。實夏依嚴命書之。且爲先例云々。

今度御點。

詩。

關白。經。右大臣。道。久我前右大臣。長。內大臣。師。右大將具。押小路前中納言。雅纜。花山院中納言。長定。按察中納言。經顯。新中納言。實治。右兵衛督。實夏。式部大輔。長員。前左大辨三位。在。京極三位。行氏。勘解由長官。公時。新宰相宣明朝臣。文章博士房範朝臣。治部卿在成朝臣。右大辨國俊朝臣。宗重朝臣。左中辨雅頭朝臣。不參所勞。藏人右少辨宗光。左兵衛督高嗣。

歌。

關白。前右大臣殿。小倉大納言。實敎。冷泉大納言。公泰。春宮大夫。定信。德大寺大納言。公淸。新大納言。公重。洞院中納言實守。別當。資明。二條前宰相雅敎。九條二位。隆敎。左宰相中將。公蔭。侍從三位。隆朝。二條侍從三位。爲親。前右兵衛督爲明朝臣。左中將爲忠朝臣。右中將雅宗朝臣。藏人右衛門佐朝光。

此外鎌倉大納言依召進懷紙不參也。

御遊。

拍子。洞院中納言不參。仍宗重取之。付歌。宗重朝臣。敦有朝臣。

笙。冷泉大納言。左衛門督不參。笛。春宮大夫。右衛門督。

篳篥。忠俊朝臣。琵琶。德大寺不參。新大納言。

箏。前右大臣殿。內大臣。和琴。

今度御次第。草加勘物續之。但奏聞委細多之。被略之。

○故殿御記曰。應永十七年八月十九日癸丑天陰。入夜小雨。不濕地。此日三席御會也。舊院御在位之時。永德元年八月十五夜有此事。其外禁中儀先例不詳歟。中殿以前雖爲密宴。頗邂逅

嚴儀也。秉燭以後向陳家。式部大輔新亭也。自此所爲出之也。先可爲御遊之由。兼有其沙汰之處。先可有詩御會。可早參之由。題有其催。先是人々大略參集云々。室町殿內也。於地下被見物之間。別被忩刻限歟。中納言殿同被相伴云々。仍不及休息。則着冠直衣。平絹張之。同指貫。同下袴。同張單。打之例大帷。以上白。夏扇。出門步行參內。少將忠行在共前駈二人。季賢。周長。衣冠。下括。着半靴。經北陣入西兩棟門。自高遣戶代沓脫昇殿。內覽以後。初度出仕也。雖須着殿上奧座。今夜臺盤所爲御會。不可有御前召之上事儀。自無骨之間。內々自此所昇也。又可召具衞府長之處。不具略之遺恨也。爲之如何。於朝餉方暫休息。淸長朝臣來云。詩講師可勤仕者。御詩可一見云々。卽自懷中取出令見之。次關白參入。今夜直衣始也。內々自直盧出現云々。隨身一人モ無之。先代未聞事也。只殿上人一人尹賢朝臣前駈二人着布袴云々。又直衣文頗濃。指貫薄也歟。不審。持冬扇。待刻限之間。洞院大納言以下言談。又一位大納言相談云。詩讀師可令勤仕之。御製同可兼之由。被仰下之。但於御製讀師者。若可有御勤仕哉云々。予答云。永德三席御製臣下兼行歟。尤可然者。頃之於(出カ)御。南面。議定所西面三ヶ間幷臺盤所末一間也。大間也。相加爲御會所。臺盤所南妻戶放之。奧端對座儲公卿座。予參進着奧座。次關白端。以下奧端相分次第着座。端座人經簀子自可後可着歟。而關白以下各自座前着之。如何。後聞室町殿爲見物。被立堂下之間無骨也。仍如此云々。有限進退。不可依內義歟。且下讀師以下役人等。皆經簀子畢。何限着座。可有輕哉。頗不足言事歟。次爲淸立切燈臺。以宿紙爲打敷代。移々々灯盞。卽可撤高燈臺也。而更參進撤之。不可然也。次長政置文臺。御硯蓋獻之。次在直敷讀師圓座。次家長敷講師圓座。以上役人五位雲客也。經奧朝臣以下數輩有之。皆氏評勤役如何。次奉行頭幷有光朝臣取集殿上人懷紙。持參置文臺退下。內々御會大略如此。次式部大輔秀長卿序者置懷紙。起奧座於講師圓座南。聊膝行置之復座。次公卿自下﨟次第置之。關白置訖之後。予取出懷紙聊披見。起座如形膝行置懷紙。右廻復座。次一位大納言起座着讀師圓座。自奧座經座中移着也。於卿前不蹲居。次依召右中辨淸長朝臣。猶着講師圓座。先是讀師直此圓座。聊南方へ引去之。通文臺數之故歟。抑此講師事。長遠朝臣爲祭酒。爲翰林尤當其仁歟。而無故非道之翟勤仕。頗有物宜歟。雖爲非儒其才器拔群者。不能左右。而全無其儀歟。然者就儒官。題職可被仰長遠朝臣歟。且永能三席御會。父卿爲文章博士勤仕畢。旁以勿論歟。傳聞舊院御代。父大納言雲客之時勤之。追彼例

懇望云々。不可相似ミ。如何ミミ。更不甘心事也。一位大納言取懷紙。先取硯蓋仰テ置。常說初仰テ置之時。ウツフセテ置之歟。或只如元ニテ不置直之。伏タルチ仰事。頗不審。但定有其說歟。可尋之。召參議長親朝臣令重。先例大臣讀師之時。參議爲下讀師歟。納言之時大略四位雲客也。今義不審。差極位異他之故歟。御會以前。長親朝臣密々相談曰。下讀師事。可存知之由一位大納言相示之間。無所[illegible]辭退者也。就其於簀子。可重懷紙之由同示之。此段頗難治也。大臣讀師之時。於以爲長押上重之。然而是又無力次第也。莫言畢。先是講頌人々。兼宣卿。秀長卿。長遠朝臣。長方朝臣。在直。爲淸。依召讀師召之。參候。一位大納言取序展置文臺上。淸長朝臣讀揚之。取笏。講師讀畢後。各詠吟。儒卿一兩人可詠之歟。悉助音如何。又先例長句許詠之歟。今度至許一反皆講誦之。次人々詩次第講之。講師以外微音。不分明。而說作序者之外。不可讀也。而大納言以上至大臣。更讀之。又殿上人四位名朝臣。五位名字許也。常義如此。而官以下署[illegible]悉讀之。大臣三反。納言二反。參議以下一反詠之。未聞事也。但於五位者官名讀之。本義歟。仍非臣雅歟。凡讀師作法一切不存知歟。便之中後日式部大輔所相談也。講訖式部大輔復座。御製講師。或被召留常事歟。講頌人々留候。次讀師一位大納言兼之。賜御製置文臺上。召講師。式部大輔秀長卿更起座就圓座。讀揚御製。其音有曲折。永能叓內々義歟。今度可爲晴講師之由。兼被作定云々。七反講畢。講師出頌聲。人々助音。其後講師幷講頌人々復座。讀師卷御製返置文臺復本座。次公卿起座退下。兼作人留候。予。關白。一位大納言。新大納言。式部大輔等也。次右府以下歌人着座。次予起座置序於文臺。先取出懷紙聊披見。其義同前。或兼作人兩篇。爲不取亂見之云々。然者今度不可有此義歟。但是常作法也。抑如詩奉行取集懷紙可置之間。暫猶豫之處。一位大納言在予次座。竊不云殿上人等先可置懷紙之由。存之乞。予云。不可相替詩歟如何。大納言云。於和歌者各可置之由。被仰下云々。仍予卽起座置之。此事尤不審。晴御會之時。自殿上人置之。中殿以前依爲密宴不然歟。其上詩懷紙取集置之。至和歌何可有差思哉。如此事及深更之時。後々被略事也。今義首尾頗班駮歟。然而當時義。不能左右者也。次雲客卿相自下﨟置懷紙。其義如初雲客置也。異先度。凡置懷紙之時。人々所爲有不同之事等不能具錄而。次右大臣着讀師圓座。次講師左中辨有光朝臣就圓座。有揖。此間讀師召中山宰相令重懷紙。一位大納言密云。先可召講頌人々歟云々。此事強不可然。非失義哉。違我所爲之間。此不審歟。次召講頌人。一位大納言。新大納言民部卿。式部大輔。公種朝臣。爲盛朝臣。雅淸朝臣等次第參進。次講師讀序。微音。過法讀樣。又有相違事等。序許之序講誦畢。更讀和歌如何。異詩講師不審。一位大納言以下各詠吟之。一反。但民部卿大略不及詠之歟。先例有序也時者。歌人之

內屬文人。只應召參進。一人詠畢後。被召講頌人々歟。且仙洞晴御會。正和俊光卿。曆應資明卿。應安忠光卿等。應別召不可相替歟。今度一同助音如何。又長句之外。只小句サシ音ニ讀之由。見實治式記。皆是一人詠吟之時事也。次序讀揚更讀歌。其時人々講頌二反。是又不得其意事也。臣下和歌講畢。右府復座。講頌令不退。關白相替着讀師圓座。此間民部卿復座。爲侍其召御製講師。猶可被召留歟。讀師賜御製披置之。以天下爲御所方光。以下方欲爲講師方。思返畢。又向御所方。其作法頗見苦。此事兩說也。關白失禮之由後日一位大納言嘲之云々。若此事歟。依召民部卿爲尹朝臣。關白見遣之召之體歟。着講師圓座。讀揚御製。庭松契久ト云事ヨマセタマヘルヤマトウタ。人々詠吟。七反。講師退下。讀師卷御製返置文臺復座。次人々起座退出。御遊所。御人右用花山院大納言等留候。次主上入御。右府花山蹲居座前。御遊畢。可有入御歟如何。先是一位大納言問予云。御會畢卽可有御遊歟。勿論之由答畢。於簀子一位大納言示予。御所作御器關白可持參之由。兼被仰定之處。依損事被退出畢。然者可有御勤仕候之由。予云。所作人之內上首持參之常義歟。右府位候之上。不可御事闕歟。但宜隨時義者。亞相云。然者可伺申云々。卽參御所方。歸來云。右府位候不可有子細候。予又立入朝餉方。御遊儀聊依聽之志也。此間經數刻之間。右府以下面々雜談。良久出御。所作人次第着座。公卿奥端相分。殿上人候西簀子。絃管歌曲合奏。安名尊。鳥破畢。予退出。終夜之義窮窟之故也。自高倉西方逐電。向式部大輔亭于時兔影殘五更雲。雞聲報三拍曉而已。於陣家暫休息畢。

獻詩人。

下官。直衣。關白同。一位大納言。同。御製臣下讀師。甘露寺大納言。新大納言。直衣。下絬。吉田前中納言。衣冠。下絬。勸修寺中納言。萬里小路中納言。直衣。下絬。式部大輔。平絹直衣。下絬。序者御製講師。長親朝臣。長遠朝臣。束帶。以下同前。長方朝臣。有光朝臣。奉行。清長朝臣。臣下。講師。家俊朝臣。俊長。經典。時房。在直。盛光。長政。元長。爲清。家長。

獻和歌人。

下官。序者。關白。御製讀師。右大臣。直衣。下絬。臣下讀師。一位大納言。洞院大納言。直衣。下絬。花山院大納言。同。新大納言。民部卿。同。御製講師。中院中納言。衣冠。下絬。式部大輔。四條前宰相。衣冠。下絬。中山宰相。同。三條宰相中將。右大辨宰相。直衣。下絬。

兼日右大辨宰相商量云。今度可着直衣之處。參議不可然之由。粗有謬難事。然者束帶衣冠之間。如何云々。予答云。大辨參議雖聽直衣。如此之時冠帶故實也。文永頃雅言卿所爲如此。後日又云。候和歌府評者。如仰可着束帶。而御遊所作之時。進退不容易間。可着直衣之由存之云々。

公種朝臣。束帶。以下同之。公賴朝臣。有光朝臣。講師。爲盛朝

奉侍詩歌兼帶。頭中將實秀朝臣爲本奉行之處。依妻室輕服籠居。仍自先日頭辨申沙汰之。

臣。尹賢朝臣。雅淸朝臣。

御遊。奉行藏人左兵衛佐俊長。本奉行實秀朝臣依輕服也。子細同和歌御會。

笙　花山院大納言。兼爲御所作右大辨宰相。可爲御共行之處。此卿依懇望被召加之。

仍御所作俄被改畢云々。

右大辨宰相宗量卿。

篳篥　左兵衛督兼邦卿。衣冠。下絬。

笛　大炊御門三位。信經卿。衣冠。下絬。

琵琶　右大臣。五位。在直置之。

和琴　大炊御門中納言。五位。爲淸置之。

箏　御所作。子細注右畢。左少將。季保。六位等中子細不置器。仍自身持

參彈之。女房內々自簾中出之云々。此事度々相論。先例涉兩端歟。未不知可否者。於舊例者六位置之歟。但元亨三年禁裏妙音講之時。忠定朝臣箏六位不置之。仍遂以不彈之由。見或記。猶可勘之。以次雜記子細可。

拍子　綾小路三位。信俊卿。衣冠。下絬。

付歌　洞院三位中將。

呂

安名尊。鳥破。此殿。鳥急。賀殿急。

律

萬歲樂。伊勢海。五常樂急。

後聞。御遊樂等。以外錯亂。絃管曲調皆以不合。和琴以下殊散々。御所作許始終無爲云々。邂逅之儀頗遺恨事歟。抑詩歌序事。禁中之儀。中殿之外先規不詳歟。而今度綺起。自叡慮所被仰是其カ也。詩序式部大輔奉之。於和歌序代者予尤當モ

仁。傍若無人歟。必可存知之由。就內外度々別被仰下之間。愁領狀畢。納追建保祖風忽戀。淸撰勅喚之條。可謂當時眉目後代規模者乎。今日御次第。博陸作進云々。後日披見之處。御器以本書琴字等與琴各別物歟。注(往カ)古我朝ニモ彈之。箏八十三絃。琴八七絃也。事理旁不審歟。置絃於其人々前。以上殿上四位五位等位役之云々。所作人卿相雲客無差別之條如何。於非職四位雲客者。六位猶以中所存歟。如此次第者四位五位相義可役哉。是又不審無極歟。不足言畢。箏字當道上。用箏字云々。是後日勅定也。以竹作玉篇也。

○後照念記曰。元亨四年正月十九日丙午晴。今日余着直衣平絹直衣。同指貫同衣。始出仕。又可候詩御會幷御遊。酉時許參內。於北門西邊下車。入同門幷和德門恭禮門代等。經南殿御復マヽ不脫沓。神仙無名等門代。昇自小板敷着殿上奧座。御倚子下。頭中宮亮藤房朝臣未可參臺盤所之由示之。余起座經下戶候臺盤所。臺盤上。執柄祗候所也。出御朝餉。小可參萩戶御所之由有仰。仍參彼御所。經鬼間石灰壇也。又出御。有被仰下事等。次有御遊。於御仁壽殿代西面。御引直衣。御張袴打御衣。余。奧。幷左大臣。端。以下奧端相分着座。御座南面。公御座北上二行。頭亮藤房朝臣持參御笛筥。余取之參進置御前。次殿上人等置樂器。笛筥置余前。琵琶臺人少納言俊基置之。次下笛筥糸竹合音笛。御所作。前右大臣雖申領狀俄不參。笙。按察大納言親房卿。左宰相中將公泰卿。篳篥。右宰相中將光忠卿。琵琶。予。箏。春宮大夫。和琴。大炊御門中納言氏忠卿。拍子。左大臣。付歌。宮內卿冬定卿。呂。新年。春庭樂。藤生野。賀殿急。二反。地久急。三反。律。萬歲樂。青柳。依仰三反歌之。三臺急。五反。等也。其後朗詠。能是北辰。五常樂急。五六反。等有之。次撤樂器。笛筥取上之。笛左府前。御笛筥余給之給藤房朝臣。次文人等着加。給人起座。兩方兼帶人留座。藏人辨季房持參切燈臺。置御前座前左。移高燈臺灯。次置文臺。硯蓋初持參。是常文臺。可取替之由有仰。次敷講讀師圓座。讀師座御前右方也。殿上人等役之。次人々

置詩。殿上人詩。藤房朝臣持參置之。公卿自下﨟經座前次第置之。予欲起座〻間。先披見被於御前文。聊披見置之。次讀師中院大納言長通卿進着圓座。講師俊基同着座。讀師取下詩。下讀師參進重之。次第講詩。此間予幷左府。依仰居上座上。俊範。長員。在登等卿。家高朝臣。候賛子。等。依召參進講之。大臣二人詩有頌聲。臣下詩講頌畢。讀師以下退。左大臣依召參進。着讀師圓座。左府披御製下方向講師方。俊範卿以下更參進講之。數反之後。有頌聲。次講師以下退。左府懷中御製復座。有朗詠御製落向也。冬定卿助音。次人々起座畢。經南殿御後簀子。出和德門幷北門退出。今日予行粧。

檳榔毛車。下部不着下袴。弘安先公例也。

前駈。衣冠。半靴。五六人。雜色長武益。中將實益。忠定。公豐朝臣連車。抑弘安先公御直衣。始時庇御御車也。然而件車修理遲々之間。用毛車。是又不可有難歟。

文人。

余。左大臣。中院大納言長通卿。春宮大夫公賢卿。按察大納言親房卿。左衛門督公敏卿。萬里小路中納言宣房卿。右衛門督師賢卿。弼宰相實任卿。宮內卿冬定卿。平宰相惟繼卿。左大辨宰相公明卿。中院宰相中將光忠卿。左宰相中將公參卿。冷泉三位俊範卿。左京大夫長員卿。式部權大輔在登卿。頭亮。藤房朝臣。少納言。宗平朝臣。長冬朝臣。少納言。具行朝臣。中將。淸忠朝臣。文章博士。行衣朝臣。大學頭。家高朝臣。中將。隆資朝臣。東宮博士。在淳朝臣。左少辨。經躬。顯盛。藏人辨。季房。俊臺。藏人。大江宗房。

余詩如此。書高檀紙。

早春同賦　宸遊萬歲春

　應製一首以情爲韻

　太政大臣從一位臣藤朝臣冬平上

今日　宸遊春興成鶯

歌萬歲協歡情儀形
四海辨扶德新奏管絃
雅頌聲

抑今日余全彈琵琶。元興寺也。當時在禁裏。昨日可被下御琵琶之由依中（申カ）入也。件琵琶本仕（在カ）平等院經藏。而去々年歟被取出之處。其音拔群之間。暫可被置御所。其替可被納木繪於經藏。可爲何樣哉之由。被仰合之間。無左右難計申之由處。猶被取替云々。木繪攝家相傳之器也。元興寺又後朱雀院御時。納殿砂金被召置禁中。相傳有便歟之由。有沙汰云々。予十二歲時。於平等院經藏彈之。其後今日彈之。音聲珍重琵琶也。此琵琶依御秘藏。御所作之外。未被許他人令彈。然而余令彈之條勿論歟。叶冥慮歟之由有仰。今夜名物殊出其聲之間。曲調和合珍重之由。後日被仰下候也。

廿二日晴。禁裏和歌御會也。及晚被下題之間。付御使詠進畢。加懸紙書封字也。歌在裏。

春日同詠松爲久

反和歌

太政大臣藤原冬平

ちとせともえやはかきらん
にはのまつなをすゑ
とをききみかめ
くみは

密宴
○成恩寺殿（關白經嗣公）御記曰。應永十九年十一月九日庚申天晴。仙洞晴御會也。去頃予依所勞參仕不可叶之間。度々被延引者。又爲私申延畢。此間得小減之間。窮屈餘氣雖未快。相扶所欲參仕也。今日詩歌奉行。共以頭右大辨淸長朝臣也。而是又依所勞先者辭申之間。詩頭左中辨家俊朝臣。和歌右衞門佐盛光。院年（衍カ）預。奉行之。如先規者。執權卿兼日以院宣凝風情。可可豫參之由所相催也。今度一位大納言一切不申沙汰。只去月之頃。淸長

朝臣內々未觸許也。奉行相替之位。家俊朝臣詩事。同來申之。和歌奉行盛光更無申旨。不可說之。然而兼爲存知事之間。如形綴和漢瓦篇。所令參仕也。入夜先而陣家大藏卿亭。相扶歡樂。片時可參候之間。眞實刻院可告示之由。仰遣奉行家俊畢。亥刻許以使者示送曰。人々皆參被待申御參云々。仍着直衣。平絹。同指貫。同袙如恒。參仙洞。步行不叶之間。密々乘八葉車。於門前下車。橋車頭。殿上人左少將忠行。束帶。左官人。左中將云。前駈季賢。永重等參會。衣冠。下括。半靴。隨身三人。上﨟二人。下﨟一人。褐衣冠。召具之。舁自中門外沓脫。暫着公卿座。此間左府以下人々。多以徘徊中門廊。家俊朝臣來云。御詩密々可拜見。講師事被仰下云々。一位大納言。又以大藏卿。予詩可一見之由。相示之間。即遣也。見畢返給也。又小倉前宰相中將和歌下讀師事。商量之間。答愚存分畢。予自懷中取出之見之。予問刻限。答云。未被召御服云々。予又以家俊伺申云。出御以前先可參候廣御所歟。曆應度如然。次製讀師詩歌共以可勤仕哉。又和漢之間。一方可存知哉。就其御製披講之讀師。大略懷中御製。代々依例之上。曆應故關白所爲如此者。條々爲存知早可伺是由仰也。家俊朝臣則參御所歸來云。委細伺申入之處。仰云。先後イ可有出御以前着座。無如御簾所役之間。出御以前着座可然。次御製 讀師 詩許畢有 御勤仕。於和歌御製讀師一位大納言。臣下 讀師可兼行也。又御製御懷紙。只可被返置文臺。不可有懷中云々。予云。曆應度故關白爲當職參仕。自然相叶。公私佳例之間。每事守彼所爲。可進退之由。相存之處。今度御沙汰之次第。頗相違愚案。爲用定かしこくそ。伺申入らるゝと示畢。勘解由小路大納言相談云。御歡樂扶御參。御窮屈被察思食之間。御裝束着御以後。臨書御刻限。可告申之由。被仰奉行家俊朝臣之處。以外早速令申歟云々。予答云。所勞餘氣全分未快。種々相扶所令參仕也。經數刻之條。尤難堪。奉行譴責頗存外也。良久出御。此間御隨身三人。褐衣冠。候廣

御所南前庭。其所狹少無便宜歟。出御之時。發御前聲。先例强尤然也。今度爲此不召布衣。隨身着褐衣參進云々。如何々々。御座定之後。予參進着奥座。西。先跪座前。右廻着之。如恒。次一位大納言。直衣。不待召着座。東。端座。按察。直衣。奥座。吉田前中納言。束帶。端座。兵部卿。束帶。奥座。東行。大藏卿。束帶。端座。次第着座。次殿上五位侍從資興治部權大輔置文臺。御置之。次師仲敷講師圓座。次爲清敷讀師圓座。次師仲又立切燈臺。多分寢前立之歟。曆應先立歟。但兩說也。於御座右方。奥。郎撤高灯臺。次序者大藏卿菅原長遠卿起座。直參進膝行。置懷紙於文臺上復座。次雲客自下﨟。爲清以上。置懷紙。其路入南遣戶。昇長押參進。跪以前置也。作法各不同也。次公卿自下﨟次第起座。經兩座中央置懷紙。膝行各不必法歟。一位大納言置說(訖カ)之後。余取出懷紙。聊披見起座。跪文臺南如形膝行。置懷紙。爲御所方。置之後左廻。跪座前右廻復座。次依御目。一位大納言着讀師圓座。次依召藏人頭左中辨家俊朝臣着講師圓座。有揖。先是讀師召兵部卿長敏卿。令重懷紙。長敏卿起座。出南遣戶。廻東方自同簀子。昇長押經疊上。欲就讀師座傍之處。一位大納言度子細追歸之間。退簀子。重懷紙事之義。頗不便。彼卿元來經床中。直可進之由存之歟。而依讀師指南。自東簀子參進云々。長敏卿重畢退。一位大納言取序展置文臺。御硯蓋不伏也。上。家俊朝臣讀揚之。此間依召長遠卿。長方朝臣。爲清等參進。兵部卿先是早出畢。講師讀畢。各詠吟。於序者。長方朝臣。爲清只兩人(マヽ)講誦也。長句許可引聲也。而端句同長方朝臣引聲詠之。不知故實歟。不便〻〻。人々詩三儒講誦之。予詩三反講之。一位大納言許二反也。自余各一反。抑愚作備作利貞テ。貞ヲ利スト。講師讀揚之間。講誦人々隨之。云〻意共以相違畢。可謂不足言爲之如何。講畢。講讀師以下人々復座。讀師不撤臣下懷紙。作置文臺上。起座復大夫也。次依天氣。予起座着讀師圓座。先取臣下懷紙等。置文臺。讀師不撤之故也。是臨時之處分也。進寄突片膝。賜御製。被置文臺。召御製講師。大藏卿長遠卿就圓座。有揖。讀揚御製。先七言下讀之。其聲有曲折。長方朝臣。爲清依召參候。講之以外冷然也。御製講頌之間。一位大納言尤可被召加也。而無其沙汰之間。不及召。爲之如何。七反講訖之後。講師發頌聲。兩儒助言。其後講誦人々幷講師退。余卷御製返置文臺上。不懷中之。子細注右。復座。次人々起座退。

出。予并一位大納言留候。依兼作也。曆（應カ）戶故殿一人令留候給也。次西園寺大納言以下歌人着座。次一位大納言進置序。次殿上人公卿。自下﨟置懷紙如初。次依御氣色。一位大納言着讀師圓座。召前宰相中將公種卿令重懷紙。次依召左衛門佐盛光就講師圓座。持笏有揖。次勘解由小路大納言兼宣卿。一人依召參。講師讀師序畢獨詠之。彼卿雖非屬文。爲儒卿之間。如此。且曆應資明卿。應安忠光卿等例也。序講畢之間。民部卿。爲尹卿。小倉前宰相中將。公種卿。殿上人爲盛朝臣。雅淸朝臣等依召參進。各詠吟。臣下和歌講畢。一位大納言賜御製。披置文臺上。民部卿依召就講師圓座。讀揚御製。松ハ遐年ヲ友トイフコトヲ。ヨマセタマヘル。ヤマトウタ。人々詠吟。民部卿依仰留候。同詠之。十反許講誦畢。讀師卷御製。返置文臺復座。次自下﨟次第退出。今度御進所作人。左府以下不獻詩歌。仍無留候座之人。先例不然歟。雖不和漢兼作。於兩序者。依人可候也。左府幷花山院大納言不獻和歌。如何。御沙汰之次第。頗非無不審者也。次予起座。經本路退出。須候御遊座。傳獻御器也。而相扶所勞候兩席之間。依窮屈所早出也。且先是示子細於一位大納言畢。第二之人勤仕彼役。存度々例。左府貳公之上者。不可御事闕歟。可得其意之由示也。亞相諾也。又此分直密々奏聞畢。曆應度故殿。又依御不例御早出。自然叶彼例。不可說事也。

獻詩人。

下官。御製讀師。一位大納言。重光。讀師。臣下。按察。兼。吉田前中納言。家房。兵部卿。長敎。大藏卿。長遠。題者。序者。御製講師。家俊朝臣。奉行。講師。長方朝臣。時房。經興。爲淸。

獻和歌人。

下官。一位大納言。題者。序者。臣下幷御製讀師。西園寺大納言。實家。久我大納言。通宣。勘解由小路大納言。兼宣。民部卿。爲尹。御製講師。帥中納言。公雅。小倉前宰相中將。公種。爲盛朝臣。雅淸朝臣。藤光。盛光。奉行。

御遊所作人。相尋奉行家俊朝臣注也。

拍子。綾小路宰相。信俊。付歌。資興。笙。花

山院大納言。忠定。　篳篥。前左兵衛督。兼邦。笛。大炊御門前宰相中將。信經。　琵琶。左大臣。　箏。新宰相中將。實秀。季保。　和琴。大炊御門中納言。宗氏。　御所作。笙云々。

呂。安名尊。鳥破。席田。鳥急。賀殿急。

律。萬歳樂。伊勢海。三臺急。

三席宸宴者。千載良遇也。今日儀尤以珍重。微臣以短才。黷兩篇之條。可謂老後至幸。豈非祖跡餘慶乎。

抑一品亞相。和歌題者。序者。兩篇作者。詩讀幷歌讀師。御製臣下兼行。一身已須數ヶ巖(本ノマヽ)佊。頗希代珍事歟。但當時之重奇傍若無人。諸事不能左右者也。

○同記曰。應永廿年十月三日己酉天晴。仙洞當年初度和歌御會。幷御遊也。予兼日蒙別勅。所獻題也。鶴伴仙齡。先日兩三題内々注進。申出御點畢。其内也。此題建保三年正月禁裏御會題也。然而用舊題。先規連綿事歟。仍獻之。凡當家獻和歌題事。後京極殿。光明峯寺殿。以後無其例。於傍例者。貞治中殿御會。後普光園太閤被獻之歟。而今二代之毀躅。繼絶。興廢之條。可謂當時之眉目也。入夜着冠直衣。參仙洞。八葉車。前駈等參會。自去比目所勞以外。雖未得減。相當者。不參不可然之間。相扶所參也。先是左府以下人人參入。予同候公卿座。奉行盛光左右衛門佐傳仰云。今夜出御以前。先令着座。可候御簾者。申畏承之由。今度題鶴仙齡ヲ伴歟。又仙齡示歟。如何之由被尋下云々。可爲字之由畢。叡慮同其分也云々。此事元來可然事也。而先々禁裏御會以下。只自此障子出御之間。不及此義。尤不審也。且此子細示盛光畢。又云。此次予伺申云。御製讀師懷中御製常事也。而去年晴御會之時。伺申入之處。不許之間。加斟酌畢。今夜可懷中之由存如何。盛光歸來云。懷中事不可有子細。宜在所爲之由被仰下云々。如此事。可私進退之間。強雖不可伺申。近日義諸事難例之間。如此。盛光云。懷中可然之樣。有時宜云々。出御以外遲々。經數刻之間。面々言談良久。及深更漸出御之由。盛光來示之間。予先參着廣御所座。奥。則出御。予候御簾。御簾御座定後。復座。次左大臣。端。直衣。以下次第。奥端相分各着座。但依座狹參議洞院宰

相中將以下不及着座歟。次殿上也位置文臺。御硯蓋仰置之。次雲客卿相自下臈。次第參進置懷紙。其儀大略如恒。但二條大納言。束帶帶劒笏。揖起座。進御前之時。裾懸劔不引之。頗見苦。、懸裾無用心之故也。參進置笏之後。置懷紙前文臺。不揖復座。緣猶懸劔。凡中殿之外。如此之會。大納言以上冠帶出仕。不打任事歟。如末座參議。於不聽直衣人等。不能左右。於攝家先規最不審事也。座置之復座。次役人立切燈臺。御座右方。則徹高灯臺。次敷講讀師圓座。常義先立切灯臺。次置文臺。次敷講讀師圓座也。先是奉行盛光示曰。今夜先置文臺。次人々置懷紙。立切灯臺。可敷圓座之由存之。且先年一位入道中沙汰時。所爲如此。仍可隨彼例之由。內々伺時宜之處。可任所爲之由。被仰下云々。雖不甘心。是又一說歟。八雲御抄次第此意也。次左府依天氣起座着讀師圓座。次盛光着講師圓座。次讀師 召講誦人々。勘解由小路大納言。民部卿。小倉前宰相中將。前左大辨宰相。爲盛朝臣。雅清朝臣等參進。讀師披置懷紙。講師讀揚之。鶴仙齡チトモナフト云コトチヨメル。ヤマトウタ。各詠吟。自雲客至參議一反。大中納言二反。大臣三反歟。但反數忘了畢。臣下歌講畢。左府置懷紙等於文臺傍復座。講誦

人々猶留候。次予依天氣起座。經講誦人後移着讀師圓座。端御座左方也。仍自奧座移着也。賜御製披置文臺上。講師民部卿着圓座。予目之。讀揚御製。鶴仙ノヨハイチトモナフト。イフコトチヨマセタマヘル。ヤマトウタ。御製。山人のその駕の千代のつる雲井にちかく群よは（かけろイ）ふなり。と云々。而駕字不讀解之間。暫暗然之體珍事也。仍予密々示云。そののりもの歟。其時讀揚之。已以講師越度也。最不便々々。凡如此異字被遊之條。不穩便事歟。字讀直四季畢。講師讀畢。欲退之間。被召留之。次勘解由小路大納言以下各詠吟。十反許誦フ。人人退下。予卷御製懷中復座。子細注右。御遊所作人。左府以下同留候。次盛光參進。取懷紙退出。次役人等撤文臺幷圓座。次撤切燈臺。如元立高灯臺。巳上役殿上五位也。次所作人等次第。奧端相分着座。兼邦卿以外遲參。再三被責催參着。後聞。沈醉休息閑所々々人々笑之。次頭辨家俊朝臣 持參御箏跪候。予起座相跪取之。頭辨取廻于授之。予又取廻之置御前。聊膝行。脚病難治之間。大略許也。置御座前復座。次五位六位役人 置絃於其人前。次持參臣下笛筥置予座前。此事御笛筥之外。於臣下笛筥ハ。不可置第一人前哉。否出御以前有沙汰。奉行家俊朝臣ノ成不

審。仍相談左府幷綾小路宰相之處。雖非御笛筥臣下筥。猶先可置第一前。不可依無能云々。予云。先年　禁裏御遊之時。御笛許置座之間。持參御前畢。於臣下笛筥者。至已次人前取上不置。第一人前候之由所覺悟也。如何。左府云。其時儀不分明。所詮臣下筥置上首人前之條。定事也云々。綾小路宰相所存同前。此上者勿論。但猶不審。追可勘也。予取直筥押遣左府方。奥端座間程遠之間。以扇押遣之。左府又傳大炊御門大納言。奥座。次第如此取下。至前左兵衛督前。次教豊朝臣吹出雙調々子。次洞院宰相中將取拍子。出安名尊呂。歌樂各奏畢。予起座退出。經奥座後也。目所身難治之間。可早止之由粗詞御氣色畢。仍不見此後儀。

和歌御會參仕人々。

予。左大臣。直衣。端。按察。同奥。花山院大納言。同端。勘解由小路大納言。同奥。二條大納言。束帶。民部卿。直衣。端。帥中納言。同奥。中御門前中納言。同奥。洞院宰相中將。衣冠。是以下依座狹不着座歟。小倉前宰相中將。衣冠。新宰相中將。前左大辨宰相。爲盛朝臣。尹賢朝臣。雅清朝臣。

御遊所作人。

拍子。洞院宰相中將。付歌。綾小路宰相。笙。教豊朝臣。篳篥。前左兵衛督。笛。大炊御門宰相中將。束帶。帶劔。如何。

○中山霜臺入道記曰。永享十年二月廿八日。

禁裏和歌御會。

御人數公卿。

關白。前攝政。左相府。前右府。右府。大炊御門前内府。内府。按察大納言。公保。左大將。公忠。三條大納言。實量。等着座。自餘公卿。殿大納言。爲通。飛鳥井中納言。雅世。中御門中納言。宗繼。別當。實雅。予。大藏卿。爲清。依無座不着之。

殿上人。

頭辨奉行資親朝臣。雅永朝臣。持參〻〻。免衛。資任。雅親。爲季。公綱。

題者。飛鳥井中納言。松有春色。

読師　前右府。
講師　資親朝臣。
下読師　予役畢加講頌。
御製読師　關白。
同講師　按察大納言。
講頌人　按察大納言。飛鳥井中納言。中御門中納言。別當。予。大藏卿。雅永朝臣。雅親。
數反。
御製七反。　執柄大臣三反。
大中納言二反。　參議以下一反。
頭辨資親朝臣送消息之。
松有春色。
右和歌題廿八日。内々可被披講。疑風情可豫參給候。依
天氣執啓如件。
二月十五日　右大辨資親

謹上中山宰相中將殿
松有春色。
右和歌題來廿八日。内々可被披講。可令參仕之狀。謹所請如此候。
二月十五日　參議元親
應永廿三三廿七。於仙洞有御遊。傳奏奉行。
呂　安名尊。賀殿急。美作。
律　萬歲樂。三臺急。伊勢海。
笙　敎有朝臣。器大子丸。東帶。
篳篥　前左兵衞督兼邦卿。
笛　大炊御門中納言。信俊卿。琵琶無之。
箏　御所作。正親町宰相中將。貞秀卿。
和琴　大炊御門大納言。宗氏卿。
拍子　洞院中納言。滿季卿。
付歌　前源宰相。信俊卿。
應永卅二二十一。於仙洞御遊。傳奏一位兼宣卿 前大納言。奉行俊國右中辨於泉殿有此儀。東面。

呂 御所作 此殿。春庭樂。美作。賀殿急。胡飲酒破。
律 青柳。河洲。伊勢海。朗詠。三反能是。内府出之。五常樂急。
笙 中御門宰相。宗継卿。束帶。今夜參議再度云々。器太子丸。替器鑾絃。
篳篥無之。
笛 内大臣。満季公。衣冠。下絬。器燈サシ。
琵琶 園前中納言。基秀卿。衣冠。下絬。
箏 御所作。御烏帽子。直衣。御器。青海波。 權大納言。貞秀卿。直衣。下絬。器玉帚。 四辻宰相中將。秀保卿。直衣。下絬。器輪臺。
和琴 大炊御門中納言。信宗卿。衣冠。下絬。器ヨルノ浪。
拍子 前源宰相。信俊卿。衣冠。下絬。
付歌 三位中將。員傳。衣冠。下絬。
所役殿上人。御前御器 隆夏朝臣。持參。内大臣。請取參御前。次有雅御笛之箱持參。次有雅權大納言器 置イ 器。次盌長園前中納言置器。次

盌長大炊御門中納言置器。次橘以盛四辻宰相置器。御隨身兩人候云々。出御入御之時。同下﨟次第ニ放聲云々。平調々子。笙五句〆終イ歟。所相違之間。盤渉調聲所三反云々。頗失念歟。私委細ニ注置間。如此注ス。不可及外見者也。
同廿年十月三日。於仙洞被御遊云々。傳奏奉行。家俊朝臣。
呂 御所作 安名尊。鳥破。同急。胡飲酒破。
律 三臺急。御所作 伊勢海。宮花。正親町宰相中將。
笙 敎豐朝臣。器下太子丸。律糸卷。束帶。
篳篥 前左兵衛督。兼邦卿。衣冠。下絬。器鶯。
笛 大炊御門宰相中將。信經卿。胡飲酒破 綾小路宰相。信俊卿。衣冠。下絬。器置之。
琵琶 左大臣。公行公。—直衣。上絬。器宗取。
箏 玉章 御所作。烏帽子。直衣。正親町宰相中將。貞秀卿。器青海波。

和琴　大炊御門中納言。宗氏卿。衣冠。下絬。器ヨル波。
拍子　洞院宰相中將。滿季卿。
付歌　綾小路宰相。信俊卿。　敦豐　其聞之間候
簀子云々。
永德三年。
本拍子　八條三位。季興。催馬樂取拍子
末　綾小路中將信俊朝臣。
付歌　二條少將資守朝臣。
和琴　大炊御門前大納言冬宗。
笛　三條一品員音卿。
篳篥　兼邦朝臣。
笙　准三后左大臣右大將。室町殿。
琵琶　前右大臣宗長菊亭。
箏　四辻中納言季顯卿。
貞治六三廿九。中殿御遊。
笙　御所作。器二十石丸。御懷中。御替笙大唐丸。被納御笛箱。　前右衛門督。器太子丸。

ヒチリキ　前兵部卿。兼親。
笙　三條大納言。員秀。
琵琶　右大臣。員俊。
和琴　左宰將中將　員隆。
箏　室町中將文王朝臣。
拍子　綾小路三位。成賢。
付歌　中御門中將宗泰朝臣。

以宮內省圖書寮本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百六十七

雜部百十六

## 初任大臣大饗雜例

新任大臣勤內辨例。

昌泰二年二月十四日。有任公卿事。未三刻。天皇御南殿。內侍臨檻召人。權大納言菅原卿稱唯。於陣頭再拜。昇自東階着殿上座。、、、諸大夫位次退出。

任人右大臣進自本列。就大臣標再拜舞踏。其間諸大夫皆退出。次大臣獨又經宜陽春興兩殿西廂。出自承明門也。

大將還宣旨事。

承平三年二月十三日。有任大臣幷大中納言事。大納言仲平卿任右大臣。

十七日癸亥。大納言恒佐卿着左仗。召兵部大丞藤原茂實。仰云。右大臣如舊令。兼任左近衛大將者。

一。勅授人任大臣解敍事例。爲失。

承平三年二月十三日。以大納言仲平卿爲右大臣。是日新大臣不敍佩。是列勅所授。而今日昇進脫之。未知其由。

一。新任大臣無月殿宣旨時例。外記

承平六年八月十九日。左大臣從一位藤原朝臣

忠平。任太政大臣。仍天皇出南殿事。大臣令奏慶賀。乘牛車。入自上東門。依無昇殿宣旨。立飛香舍邊。瀧口陣下。次參中宮啓其由。出左衞門陣間。外記史前行。大臣留之。右大臣以下上官等參入。太政大臣家有饗祿事。
同日外記云。今日以左大臣從一位藤原朝臣任太政大臣。、、、諸司各退散。參太政大臣第儀。同日申一刻太政大臣參入。令奏賀之由。依去承平二年宣旨。乘牛車出入宮中。今日自上東門乘牛車。就職曹司。令奏郎入自建春門。經昭陽舍前參御所。飛香舍邊瀧口陣下。悦由。是依拜職之後。未有昇殿宣旨也。

一。机事。
承平六八十九。垣下四位每手取簀薦并机。次第立於大臣以下前。大臣前牙像脚二前。自餘各一前。
次々又諸大夫取榻脚机。立外記史前了。同日吏部王記。參講已上用黑柹牙象机簀薦。辨少納言用支佐木机無簀薦。以上用樣器。其尊者用兩案。史外記用榻足。用土器。饌無餛飩。

一。還宣旨事。
承平七正廿二。以右大臣。仲平。任左大臣。以大納言藤原恒佐任右大臣。
廿三日。左右大臣如故兼任左右大將之宣旨下也。
天慶七四九。大納言實頼卿任右大臣。
十六日。大納言師輔卿着宣陽殿西庇。召兵部。給右大臣如舊兼右大將宣旨。
康保四十二十三。以左大臣。貞頼。任太政大臣。非加冠由以右大臣。高明。任左大臣。以大納言藤原師尹朝臣任右大臣。
十九日。大納言在衡奉勅。召兵部少丞藤原師衡。給左大臣如舊兼左近大將。右大臣如舊兼右近大將宣旨。召式部丞藤原弘頼。給右大臣如舊兼皇太弟傅宣旨。
天祿元正廿七。以右大臣任左大臣。以權大納言伊尹卿任右大臣。

二月二日。中納言橘好古着左仗。召權少外記小野時通。仰云。右大臣如舊兼左近衞大將。權中納言雅信如舊兼左衞門督。權中納言朝成卿如舊兼中宮大夫者。

天祿二十一二。權大納言兼明任左大臣。權大納言賴忠任右大臣。

八日。左大臣兼任皇太子傅。右大臣兼左近大將。皆如故下宣旨了。

一。尊者事。

承平七正廿二。以右大臣。仲平。爲左大臣。以大納言藤原恒佐卿爲右大臣。

右大臣饗所尊者中納言實賴卿。

天慶七四九。以大納言正三位行右近衞大將陸奧出羽按察使藤原實賴卿任右大臣。尊者大納言藤原師輔卿。

天曆元四廿六。以右大臣實賴爲左大臣。大納言師ー爲右大臣。

右大臣饗所尊者中納言元方卿。

天祿二十一二。右大臣任太政大臣。大納言兼明任左大臣。大納言賴忠任右大臣。新任大臣以下參會太政大臣東一條第。次會左大臣第。次左大臣以下向右大臣第。

祿事。

天曆元四廿六。右大臣。師輔。五獻後給祿。使辨少納言座。右近權中將雅信朝臣。右近少將朝成朝臣。史外記座。前加賀守統茂朝臣。前但馬守俊連朝臣。件祿使初饗必不差仰云々。而上達部之近例。皆差仰云々。

康保四十二十三。太政大臣。貞賴。饗所。左近衞中將元輔朝臣。右近衞少將時中朝臣。大藏大輔爲忠朝臣。加賀介時文朝臣趁。出傳宣旨子。于時被仰元輔朝臣。時中朝臣爲辨少納言祿事。爲忠時文爲外記史錄事之由。共唯稱退出。

正曆二九七。太政大臣。爲光。錄事。春宮亮藤棟

政朝臣。江中將歟。可尋。
長和六三四。朝任朝臣。隆政朝臣。
一。昇殿公卿兩度拜事。
長德二六廿五。
一。祿事非羽林例。
寬仁元十二四。大殿任太政大臣祿事。民部大輔實經。四位殿上人。左少將經親。五位殿上人。
治安元七廿五。右大臣。實資。四位侍從經任。春宮大進義通朝臣。已上殿上人。
永承二八一。內大臣。賴宗。木工頭經信。左兵衛佐信房。
一。依入夜公卿不列庭事。
康保三年正月十六日。公卿參會右大臣高明里亭。入從中門。着寢殿座。
先例。公卿以下辨少納言外記史列立庭中。主人大臣出會庭前。共再拜着座。而今日入夜無其禮。

一。位階事。
天祿二十一二。謙德公記云。大相府雖一位官。明春加冠以正二位人補。非無其例。又以從二位人補時。加位一階。左右丞相雖二位官。以正三位人補。非無其例。若補從三位時。又加一階。奏聞此趣。當日早旦下官幷右府。各可加一階之由。可仰左衛門督。
一。里第裝束事。
天祿二十一二。殿下有大相國之御慶。自昨日令行掃除。敷砂。及寢殿西對御裝束等之事。
一。祈禱事。
天祿二十一二。殿下有大相國之御慶。——未明依仰。令修御諷誦於百箇寺。
一。座事。
小右記永祚元十二廿。法興院殿任太政大臣。主上明年御元服料。廂七間儲公卿座。大臣已下宰相以上南面。主人北面。先例。大臣在橫座。主人座上。此座違先例。

正曆二九七。太政大臣。爲光。非參議 大辨座加圓座。同日右大臣重信。饗所。公卿座席頗短。仍參議對座。

長和六三四日。同之。

一。着座以前立机居物例。

小右 永祚元十二廿。太政大臣饗。大臣以下 立机居物。先例。着座之後立机如何。

一。新任大臣直廬事。

正曆二九七。內大臣道兼。候御所。

長德二七廿。右大臣候御所。

一。勸盃作法事。

小右 正曆二九七。內大臣道兼。起座來參議座前。執盃進勸尊者。未知此例。

一。机面事。

正曆二九七。太政右同。公卿前机面白絹。辨少納言机面黃絹。三箇所如此之例也。

一。納言着座程事。

正曆二九七。太政大臣。爲光。納言 第三間半以西。

一。主人座事。

正曆二九七。爲光 太政大臣記云。前日內大臣 消息云。先例主人座納言座上南面着之。此事如何。可隨家定者。返事云。主人先例北面外方着。然間垣下親王勸盃之後着座。當大納言座北面。主人已爲親王上也。于時移北座南面着歟。而此間雖鋪座。可無勸盃。親王然則何更雖納言。着客上哉。仍可着北面者。後聞。右大臣。內大臣。主人座皆從之云々。

一。中納言參議對座例。

寬仁元十二四。大殿任太政大臣。今夜御裝束。寢殿南廂一連設座。客西上南面。下臈中納言并宰相相分南北着之。

一。酒部幄事。

寬仁元十二四。東對南庭立 酒部幄。又東西廊前庭引斑幔如常。

一。公卿座南北對座例。
寛仁元十二四。
一。大臣座加地鋪納言座直敷圓座事。
寛仁元十二四。
一。机絹面敷葦簾事。
寛仁元十二四。
一。饗所裝束事。
治安元七廿五。小野宮右府。
永承二八一。堀川。
寛治二十二九。時範記。
定。
[二]大饗雜事。
行事。　爲家朝臣。經成朝臣。有宗朝臣。
高實朝臣。賴綱朝臣。泰仲朝臣。孝業朝臣。師平。知綱。時範。廣貞。
一。殿上裝束所。
政所。　爲家朝臣。經成朝臣。泰仲朝臣。知綱。時範。
藏人所。　淸家。淸實。盛長。兼遠。重仲。
一。上客料理所。
政所。　爲家朝臣兼。經成朝臣兼。高實朝臣。賴綱朝臣。知綱兼。
藏人所。　行房朝臣。惟信。惟輔。
出納所。　泰仲朝臣兼。孝言朝臣。
盆送。
穩床。源大納言。
酒部所。　行事。廣貞。
史生饗。　敦基朝臣。季綱朝臣。
使部酒肴。　定俊。祐俊。
度殿饗。　左衞門督。
尊者陪從饗四十前。　家明。
諸大夫饗六十前。　賴仲。伊家。
召人衝重十前。
撿非違使饗廿前。　已上行實。

御隨身所饗三十前。　仲實。
尊者雜色饗八十前。　伊信。　經忠。
同車副饗廿前。　孝範。
同牛養饗。　宣基。　行事。有宗。　敦憲。
一。掃除。　經仲。　兼淸。　保成。
一。掌燈所。　行事。高實朝臣。兼。　業房。
一。庭燎所。　行事。孝言朝臣。兼。　則兼。
一。被物所。　行事。時範。兼。　盛長。兼。
一。祿所。　行事。廣貞。兼。
一。引出物所。　行事。行房朝臣。兼。　行綱。
寬治二年十二月九日
一。長筵。　一。御簾。
一。壁代。　一。四尺屛風。
一。几帳帷。　一。尊者地鋪。錦端地鋪。
一。尊者東京錦茵。　一。菅圓座。
一。公卿地鋪。高麗緣。　一。圓座。紫緣。
一。地鋪。　尊者靑地錦緣。大納言高麗錦。

中納言
一。長筵。　一。御簾。
一。壁代。　一。几帳帷。
一。四尺屛風。　一。地鋪。大臣。靑地錦緣　大中納言。高麗緣　參議。同
一。茵。東京錦緣。
一。圓座。紫緣。靑地錦緣。高麗緣。　一。兩面端帖。辨少納言座。
一。龍鬢筵靑地錦緣帖一。親王座。
一。紫端帖二。一世源氏座。　一。唐繪軟障。幷綱。
一。被物所綱。　一。庭幔。
一。纐纈幔。酒部所。　一。酒部所火爐。白木。有臺。
一。同鑵子。　一。二階白木。案一脚。
一。酒盞。　一。瓶子。白瓷四口。靑瓷二口。
一。折敷。　一。黑染漆。酒樽。床子。
一。御隨身所前纐纈幔。　一。幔門。
一。厚圓座。　一。讚岐圓座。
一。机。赤木。黑柹。朴。　一。簀薦。

一。燈臺。 一。盞。
一。瓶子。 一。折敷。
一。撿非違使床子。 一。史生祿案。
一。折敷高坏。 一。御遊具。
一。樂器。 一。置物御厨子。

## 任大臣大饗部類

〔首闕〕小右參。余歸里亭。入自東門。尊者未來。暫於其所相待。余家儀寢殿南廂爲上達部座。上敷東京錦緣茵。横座西面。其座後。并母屋西庇。北隔懸簾前。皆立四尺屛風。又尊者赤木机二脚。机面白絹。饗薦二枚。大納言已下座南面。從尊者之中歟次間中央敷之。上敷圓座。大納言參議圓座綠色。皆異大中納言。參議座不敷菅圓座。依苦熱也。正月大饗敷也。納言已下前赤木机机面白絹。一脚。饗薦。尊者及已下兼立机辨備。但不居飯。有議先所立也。蓋是正曆例也。辨少納言座西庇南上東面。錦疊黑柹机機面黃絹。不敷饗薦机面等。同色。依正曆例。天慶。辨少納言以上。尊者机面白絹。外記史机面黃絹。後案於可依天慶例。正曆例不愷歟。計宜所行歟。外記史座西對南庇東上對面。南北相對。綠端疊朴木榻足机面押紙。天慶例机面赤絹。不可依此例。座後引軟障。又副東面母屋簾。同引軟障。西對南東等庇不懸簾。但東庇北第一二間以渡殿爲限。從其南謂第一二間。懸簾。依有便宜。諸大夫座西中門北廊。又西對南廊庇敷座。立机。近代例云々。太無便。正月大饗不可立也。殿上人饗渡殿。史生饗儲政所。官外記史生多闕官掌召使四人等。合卅人。中門内南腋立酒部。平張高火爐中。取二脚床子等。修理職造進是。前例者也。又門腋自出同職塗。又例

也云々。職所申也。撿非違使饗廿前設廐廊。亦尊者前駈十人。幷垣下十人饗儲侍所。尊者雜色廿人饗垣下幷廿人饗設雜色所。謂垣下則是家雜色云々。又尊者車副四人牛童饗。但牛童饗異例。饗机二脚號强机榻足云々。飯幷菓太猛云云。僕隨身所饗廿前。雖未被下大將如元宣旨。隨身等任又立明。官人等着隨身所云々。皆是近代事云々。

尊者着座。余假居長莚。上。次上達部。辨少納言。外記史。次第着座畢。余起座自簀子敷西行。當其南歟庇西第二柱。居執盃勸尊者。四位侍從經任。從東方執菅圓座。來敷其後。立余前机一脚。不敷簀薦。撿非違。二獻。右近中將公成。畢居飯。三獻。民部大輔貿經。次汁物畢。下箸。四獻。治部卿經通。次召錄事。四大夫參進。四位侍從經任。春宮大進義通朝臣。殿上人外記史錄事。永信朝臣。範永朝臣。連居簀子。余仰云。辨少納言御酒給。稱唯退出。次仰。外記史御酒給。永信等稱唯退出。此間人々敷錄事圓座等。次五獻。大藏卿通任。巡行了。敷召人座於階前。卽著座。若狹守遠經四位。爲上首。總六人。近日或病或服。給琵琶和琴等。橫笛琴笙篳皆隨身耳。發絲竹聲。次居衝重。次給史生祿。書史典樂屬千平唱見參。祿布積中。取二脚於庭中。召賜之。次賜外記史祿。五位赤衾一條。六位各疋絹。次辨少納言祿。內赤色衾各一重。次宰相祿。大褂一重。三位烏子重。四位赤色一重。次中納言。白大褂一重。次大納言。同中納言。先是給召人祿。四位白褂一重。五位單重。六位疋絹。每座從上﨟給之。余執盃勸尊者。次尊者祿。白大褂一重。加黃朽葉織物褂。治部卿就簾下。南廂巽角間。執祿。余傳取之。次引出物馬二疋。引廻間。仰可騎之由。一兩廻了。下牽出。尊者前駈者進出取之。尊者下自南階。諸卿起座。按察公任。引出物。給立明官人等祿。諸卿余相共可向內府。入道相府上東門第。其儀如余饗。

大二條二東云々

延久二年三月廿三日甲寅。天晴。今日任太政大臣。仍未刻許參內宿所。中刻許被行節會。左大

臣爲内辨。左近中將能季卿爲宣命使。節會了。左大臣來宿所。諸卿同以來臨。則參弓場殿。令頭實季朝臣奏慶由。拜舞之後。依召參御前。次參東宮。拜後同參御前。次參陽明門院御方。拜後依日暮。不參御前退出。到大宮亭。暫之左大臣以下來。余下南階。當西柱前。立左府以下諸卿一列。辨少納言一列。六位史外記一列。如例列立庭中。拜謝了。余先上右衛門權佐季綱取沓。着親王座。左府從座東着奥座。次内大臣假着外座季參議座。大納言以下一々進著。但依内相□(無脫カ)座。中納言以下不正座。仍尋寛仁例。先令鋪圓座一枚。讃岐散位公定朝臣敷也。自長押上移着。次内府着奥座。諸卿一々着座。次諸大夫等舁机各立。大臣前二脚。大納言以下一脚。陪膳者。先取簀薦敷之。次立机。但兼辨備肴物。次一獻。余乍座執之。須下自長押取之也。而依寛仁例不下也。次二獻。皇后宮權大夫。此間撿非違使着床子。次羞粉熟。次三獻。民部大輔信宗朝臣。次羞飯汁。次四獻。右大辨。次羞雉熱物。次五獻。春宮權大夫。次召祿事。民部權大輔政長朝臣。左近少將道時。皇后宮權大進邦通定成等來南簀子。余仰云。政長朝臣。道時。辨少納言祿事。邦通。定成。外記史座祿事。各稱唯歸。諸大夫四人執圓座敷之。二枚辨少納言座。二枚上官座。祿事等。各着座巡行了之後。令鋪穩座圓座。卽下居。次羞肴物。民部卿所儲。藤中納言執盃。次伶人南階東砌敷座。賜衝重。民部卿執拍子。宰相中將笛。右大辨琵琶。公定朝臣笙。上下唱歌。一兩曲之後。内大臣執盃。右近少將家賢瓶子。次賜史生祿。次賜辨少納言祿。次辨少納言上官等。下立砌前。次參木祿。次中納言祿。次大納言祿。次内大臣祿。皇后宮權大夫取人。不加織物褂。次尊者祿。加紫色織物褂。皇后宮大夫於坤屏風下取出持來。余傳獻之。次牽出物馬。左相一疋。内相一疋。亥刻許牽了。各歸。此後令申吉書。右大辨申官方文。伊房朝臣申藏人方文。憲方朝臣家文。

今日裝束。寢殿南廂。除西三間。以東六間東廂

二間。爲公卿辨少納言等座。各卷庇簾。垂母屋
簾。其內懸壁代。座上下橫切懸。其內、、、帳
帷傍簾。立四尺屛風。第一二間敷尊者座。青地錦端地敷
二枚。其上敷茵二枚。下各敷讃岐圓座。自第三間至五間鋪納言已下
座。黄地黑地等錦端地敷。幷圓座。大中納言參議等各有錦色差別歟。各敷讃岐圓座。件座中納言
以下對座。南外座同敷地敷圓座等。須終始一行
鋪之。而近代以降諸卿員數甚多。座席不定也。仍
如此歟。當大納言座。階間。鋪親王座。錦端龍鬢疊一枚。第
六間簀子敷々一世源氏座。出雲蓙紫端疊一枚。東庇自南妻
戸北柱南北行敷辨少納言座。高麗端疊三枚。東透廊敷
上官座。繧端疊左右各三枚。北壁曳軟障。辨少納言上官座。
机豫居肴物。東廊前松洲上立酒部幄。東西廊前
東中門內外等。皆立班幔。又立篝火等。立池東
西岸幷南中嶋所々洲崎等也。
大右
承曆四年八月十四日甲辰。天晴。早旦行向大饗
所花山院寢殿。幷對裝束皆整了。
巳時許。關白渡給於寢殿南面。暫相談被歸了。
萬事皆具了。申時許。參內前駈八人。五位六人。六位二人。
惟信。俊宗。件二人關白被給。憲宗。能成。隆宗。信忠。順兼。輔久。入自東陣。待宣命之
間。在關白御宿所。已及數刻。是公卿昇進依議
定云々。漸臨亥時。熱氣難堪。子剋許別當告送
云。太政大臣信長。右大臣。予。內大臣能長。權
大納言實季。幷左大將權中納言師忠。伊房。參
元三位　元藏人頭右大辨
木家賢。實政等。被載宣命了。近衞陣立。內辨大
納言顯房昇堂上。召舍人。公卿列立。參木俊明
爲宣命使。實季。經信。師忠。俊明。家賢。任人之中。帶劒人不解
劒拜舞。未知其理。事了中慶賀之後。歸花山院
大饗。次行向內府大饗所。臨寅刻歸花山院。萬事不能委記也。
十五日。天晴。撤大饗裝束。歸大宮了、
庇大饗次第。
上達部座寢殿南庇。東上。副母屋簾立四尺屛風。
北邊敷大納言以下座。南邊敷下﨟中納言一人
宰相三人座。土敷上敷圓座。大納言紫端。中納言赤端。宰相繧端。西

廂敷辨少納言座。南上。東面。敷兩面端疊四枚。西對有
外記史座。北上。對座。副簾曳軟障。敷緣端疊。八枚。西
中門內立酒部所幄。高火爐中取二脚床子等。修理職等進之。晩頭庭燎
立燭。公卿赤木机。白面。簀薦。敷辨少納言黑柹机。白面。
外記史黃楊机。面赤。菓子。梨棗。干物。干鳥。蒸鮑。生物。
鱸。鮭。窪突物。海月。鯛醬。一獻。主人。巡了。敷菅圓座。次立
机。不用簀薦。二獻。三位侍從。三獻。二位宰相。次飯。次汁。汁鱠燒物。
小鳥。四獻。右兵衛督。次宇留賀煎。五獻。中納言。次蚫。次錄
事。辨少納言座。四位五位各一人。外記史座。五位二人。次鐽煎
物。鷄頭革。被止也。六巡。次穩座。次敷召人座。管絃之
間。賜史生祿。召家司取見參。召立姓名給之。布積中取二脚。當于
西對南庭立。次賜外記史祿。五位赤練衾一條。六位疋絹。從上藹給。次
辨少納言。未練衾各一重。從上藹。次下立。次給召人祿。四位白掛一重。五位單重。六位疋絹。此間立明。官人疋絹。次上達部祿。大中納言白大掛。宰相鳥子重。四位宰相赤練。
件次第。大宮殿御筆也。仍所押付也。

法住寺相國爲光記
正曆二年八月十一日。辛丑。天晴。、、
九月七日。癸卯。天晴。自朔比及昨日。陽氣不晴。近則云。夕微雨。而今日快晴。尤所感也。
申一剋參入。暫在淑景舍。
同二剋。中納言藤顯光卿令奏宣命草淸之間。尤
良久也。
宣命已訖。以予爲太政大臣。以大納言源重信
卿爲右大臣。以權大納言藤道兼卿爲內大臣。
以中納言源重光。權中納言藤道長等卿。爲權大
納言。以參木藤道賴。伊周。爲權中納言。以從
三位藤道綱爲參木。中納言顯光卿內辨參入。
上卿任人外。中納言源保光。藤公季。伊涉等
卿。參議源時中。藤安親。同時光。同懷忠。實
資等卿。誠信朝臣等也。顯光卿內辨。〻後早
退出。是先年、、
依臨秉燭。無御前到一條。〔闕カ〕
頭之大臣以下來集。
予降自南階。、、

予先昇着南廂西第三間。暫是垣下親王座也。
次右大臣昇着東第二間。西面。次內大臣同昇入
右府後着。西面。次納言以下昇同階。自南簀子進
入。自西一間着南廂第三間半以西。東上。南面。一行。先是家大夫十二人參進。鴈列立南庭。上官後客着座之後。近衞官人代舉。
右大辨平惟仲。左中辨源扶義。權左中辨藤忠輔
等朝臣。少納言源能遠。同道方。藤時方。右中
辨源俊賢。右少辨藤爲任。左少辨信順。依重病不參。昇自西
渡殿。着西廂。東面。南上。
大外記中原朝臣致時。大春日仲明。少外記小槻
善言。多米國定。左大史多米宿禰國平。宍太
受親。右大史肥田惟近。小槻奉親。左少史丹
波奉親。坂上是光。右少史安部歟、茂忠。阿蘇有
陟等。昇西對巽階。着東廂座。北上。對座如常。
卽山城守敎忠朝臣以右大臣前簀薦陪膳。
次越後權守元忠朝臣以內大臣前簀薦同陪
膳。各赤木机二脚。菓子。干物。生物。窪坏
物等各四種。
次納言以下料。諸大夫各執簀薦机等立。各赤木一脚。二種物。已上白絹面。
次辨少納言。黑柿机。赤絹面。無簀薦。
次史外記。槻木机。赤絹面。
共羞了。予執盃進勸右大臣了。着東第三間。北面。
前近江守親信朝臣以机立予前。當一大納
言机巽合角。前日內大臣消息云。先例。主人座納言座上。南面着之。此事如何。可隨家定者。返事云。主人先例。北面外方着。然間垣下親王。勸盃之後着座。當大納言座北面。主人已爲親王上也。于時移北座南面着歟。此而間雖鋪座。可無勸盃親王。然則何更雖納言着上哉。仍可着北面者。後
聞。右大臣。內大臣。主人座皆從之云々。
二獻之後。羞飯汁物等。
四五獻後召錄事。春宮亮藤棟政朝臣。右近少將
源理。辨少納言。散位藤原朝臣伊相。齋院長官紀朝
臣忠道。史外記。各自南簀子敷進候階間。仰。各可
奉仕錄事之由。奉仰退出。
數巡之後。降坐簀子敷。諸大夫以圓座鋪之。

次着穩座物。
一兩巡後。給史生祿。如例。
次史外記。大夫外記史。紅染衾各一條。六位各白疋絹。
次辨少納言祿。如常。
中辨以下給祿之後。列立庭中。
次納言以下祿。如常。
次尊者祿。細紫菀色綾細長各一領。
先日内大臣消息云。康保四年。淸愼公任太政
大臣之日。加平、、、
次牽出物。馬各一疋。
次近衞官人卅五人被疋絹。
尊者兩人降自南階。
事訖。引率到右府。次内大臣第。件饗已及明旦。
中右雨儀
天永三年十二月十四日。丁酉。殿下庇大饗也。仍巳
時許着束帶。有文帶。參東三條。人々多被參。御裝束
如例。南庇西六箇間爲公卿座。尊者座。納言座。
一行。南面。但臨末宰相座。二行對座。西庇三間
爲辨少納言座。西廊爲上官座。此外皆如先々。但
巳時以後。天陰小雨灑。仍被尋雨儀之處。比東三
條度々大饗。雨儀不見也。仍有議。東西廊前幔各
被引砌内也。又酒部所被立西廊。置酒具。有覆幔
等。未刻許殿下出御。有文帶。金作。紺地緒。螺鈿劔。但頗如節劔。代小金物具也。用面門
檳榔毛。前駈廿人。四位一人重仲朝臣。依無人數也。御隨身府生束帶。番長以下如常。無假御隨身。右
大將。左衞門督。予。中納言中將。別當。左宰相
中將。左大辨。大藏卿。殿上人宗輔。以下七八人
許。各連車扈從。經二條京極中御門。於高倉南
邊。下從御車入左衞門陣。依廻院御所及京極大路。休息御宿
所。大炊殿北對東妻。御直盧。南脚頻下。此間内大臣以下參集。
右仗座。頭辨示内大臣。大臣移着端座。令敷膝
突。頭辨仰。以攝政從一位藤原朝臣可爲太政大
臣之由。仰下歟。付寛治例。可被行之被仰也。但
彼時宣命文。天皇外祖父之由被作載。今度有
議。只無其文。奉仕二代朝之上。依御元服。被任
之旨被載也。先々必可付其例旨。不被仰歟。如

此沙汰之間。時刻推遷。召大內記敦光。可作宣命草之由。內大臣被仰下。則持參草。令大內記內奏。經數刻。頭辨下草云。早可淸書者。是殿下密々以頭辨。被奏院御覽了。殿下返給之時。頭辨不返給內記。直下上卿事。頗失也。尋大內記處。依不返給宣命草。猶在御宿所云々。尤可然。仍故遣召給宣命。令淸書則持參。被尋頭辨。有申事參院了。仍乍在座令頭中將通季奏淸書。則返給。此間雨脚殊甚。萬事懈怠。左右近衞陣引。中少將。壺胡六。縫腋。着靴。依雨儀。立左右中門。此間民部卿以下着外辨。少納言宗兼。藏人辨雅兼。外記則成。史季兼。同着。民部卿召々使令下式筥。召外記云。二省彈正候哉。大舍人候哉。刀禰乃列候哉。內侍臨西檻。內大臣取宣命。着堂上兀子。圍司着闈門。大臣召舍人。大舍人稱唯。少納言宗兼代參入。外辨民部卿俊。右大將。家。源大納言。雅。按察大納言。宗。左衞門督。能。右衞門督顯。予。中納言中將治部卿。基。別當。能俊。大宮權大夫。忠。右宰相中將。顯。左宰相中將。家。左大辨。重。大藏卿。爲。藤宰相。俊。新宰相中將。實。列立西中門北廊。東面。二行。依甚雨也。宣命版位。置砌內也。內辨。召宣命使右宰相中將顯雅。給宣命。立西軒廊。後內大臣下從殿加列宣命使付版位。宣制一段。群臣再拜。又宣制再拜。群臣歸出了。陣解。此間已及秉燭。雨脚彌甚。予以下參御宿所。殿下從東中門方。渡南庭令參弓場殿給。殿上人七八人秉松明前行。令頭辨實行奏慶之由。歸來仰云。聞食。此次有召由。殿下令拜舞給。令參御前給。主上御晝御座。直衣御裝束云々。東簀子敷圓座一枚。爲殿下御座。則歸出。殿下饗祿之事。被奏頭辨。仰下內大臣。大臣仰大外記。則外記仰撿非違使彈正也。此此殿下如本。渡南庭出從左衞門陣。從中御門大路西行。從町尻南行。入東三條東門給。但上達部被留了。殿上人扈從。民部卿被申御一條院之間。昔參內人。渡一方陣頭常事也。專不可及京極。仍歸路

之時。令渡中御門東洞院辻給也。此間內大臣以下。公卿辨少納言上官等。出從右衞門陣。於冷泉院東洞院辻乘車。引幔爲陽明門代也。於此處。雖可有出立儀。臨夜陰之上。雨脚盛。仍被止了。從二條西行。至東三條西門之間。當南方俄有燒亡所。故按察大納言實季卿後家也。三條堀川。予窺見之處。殿下着御親王座也。件旨密々告內府。內府以下昇自南透廊。西頭着座。件事內府內々被申殿下云。待仰可進座歟。將又直可參上歟。其路如何。殿下仰云。東三條度々大饗。全無雨儀宴。仍不知先例。但他所大饗。雨儀被昇中門廊。然者從西廊被昇何事之有哉。又殊無告申儀歟。只主人出居之後。可被昇者。或雨儀主人下立中門。引尊者昇也。是但尊者上臈之時儀歟。可尋知也。辨少納言上官等。昇從中門南腋。各着座了。酒部所人々參入。主人移着。實明朝臣從東方。取圓座敷之。次立尊者以下机。陪膳惟信朝臣取簀薦二枚。敷五位四人。永實。盛季。廣房。昇机二前立之。大中納言。三木陪膳。五位各簀薦。數枚敷之。又五位等昇机立之。宰相座。手長二人。依二行也。辨以下座兼居物。一獻。仲實朝臣被盃進之。右少將宗能朝臣被瓶子。主人取盃給最末參議。俊忠轉辨官盤。俊忠着端座。又

上官座有勸盃人。每度如此。次立主人机。陪膳重仲朝臣。與盛家昇之。無簀薦也。二獻。右中將宗輔朝臣入從一間。從奥座後。居大納言之上。勸尊者。五位取瓶子。頭中將通季朝臣。雖可勸盃。依燒亡忩出。仍宗輔勤之。居粉熟。尊者。家主別汁。大納言以下懸汁云々。此間雨止。火消。撿非違使等著座。看督長昇床子立南庭。西頭。大夫尉兼季以下六人。三獻。左少將忠宗朝臣如初。居飯汁。箸立。撿非違使等起座。早可退也。頗以遲々也。四獻。藤宰相俊忠。從簀子敷。獻殿下。取續杓瓶子資信。居雉羹。五獻。中納言左衞門督能俊從簀子進天。奉殿下瓶子。宗成居菓子。次召錄事。左少將顯國朝臣。民部大輔師俊。已上辨座。實親。永實。已上上官。參南簀子敷。主人仰之。各居辨并上官座前賜圓座。各二枚。昇史生祿案立南庭。下家司召立給之。但史生饗在便所也。次給上官祿。此間敷穩座。給辨少納言祿。人々下居。敷召人座於南階前。召人參着。孝淸。盛家。元輔。淸仲。兼定。時定。居肴物。勸盃左大辨重資。獻尊者取續

杓。羞子資信。置御遊物具。仲兼。永實。雅職。盛季。持參殿上人管絃。人々依召候座末。宗輔朝臣。師時朝臣。信通朝臣。雅定朝臣。伊通召人座。勸盃。有御遊。予執拍子。中納言中將彈箏。治部卿琵琶。伊通和琴。信通笛。雅定笙。宗輔。師時付歌。召人中時定篳篥。呂。安名尊二返。鳥破。此間二獻。源大納言雅俊卿。羞子師俊。辨少納言下立。殿上人取上達部祿。先宰相。次中納言。大納言。律。伊勢海。萬歲樂。次尊者祿。右衞門督能實進第六間屏風南頭取之。直奉尊客。次有牽出物。御馬二疋。人々起座。尊者從簀子西行。如初昇路被出。猶依雨儀歟。殿下於東對南面。御覽吉書。官頭辨(方脫カ)。美作國年料米。藏人方藏人辨雅兼。臨時公用。家司惟信朝臣。此間予以下。上達部五六人候座。今夜有宿申。女房打出色々。

今夜。藏人頭權右中辨實行朝臣。少納言宗兼。藏人左少辨雅兼。三人參也。左中辨顯隆依位階下﨟不參。右中辨爲隆退出。右少辨實光依所勞不出仕也。上達部不參人々。左大臣。藤大納言。經實。藤中納言。仲實。參議師頼。本不出仕。長忠。重服。

中右 天承元年十二月廿二日。乙酉。天晴。今日有任大臣事。於頭辨顯頼三條西洞院儲大饗。寢殿南庇四間爲公卿(座脫カ)。東庇三間爲殿上人座。東中門廊爲諸大夫座。車宿隨身所爲上客料理所。其中門内南腋立酒部所幄。南庭東西廊前引幔。各有幔門。東中門外至東門南北各引幔。

早旦相具頭中將着直衣。渡大饗所。沙汰萬事。屏風管絃物具。自關白殿借給。其外物具酒部所幄。從大殿借給也。又役諸大夫諸司官人等。從關白殿催給也。且又從院被給也。諸國所課辭之。國々皆從院催給也。仍國司不可向外。皆悉從院廳催下給也。凡朝恩之重萬事欣感。

兵部少輔知信從早旦來臨。沙汰萬事。又右大辨

實範朝臣被來。相議人役諸大夫。
未刻參內。有文帶。新中納言。宗輔。頭中將宗能。右少
辨宗成相具參內。入從西陣候。殿下御消息。御斟
酎事。
御宿所西陣南腋也。任人沙汰之間。先陰早暮已
入夜景。
戌時任人頭辨仰下。
右大臣轉左。內大臣轉右大臣。予任內大臣。
以治部卿能俊轉大納言。元權。中納言師賴。實
行任權大納言。權中納言雅定輔正。參議忠
宗。雅兼任權中納言。藤宗能。元頭。左中辨藤
顯賴。元右中辨頭。藤實光。□□大辨。藤成通。元左中將。任參議。
治部卿作陣座草奏。進御所奏清書。
左右近陣引。內辨治部卿能俊卿。召參議右中將
忠宗爲宣命使。今夜任中納言。宣命使宣制。諸卿二拜。
了退下。新任權大納言師賴。實行。權中納言
忠宗。雅兼等進昇標拜舞。了退。陣解。右少辨
宗成走來云。宣命了。
新宰相敷中納言宗能於藏人所直廬。用有文帶。從大殿
借給。若關白殿御下襲。只今下給也。來。
相具入從月華門。進立作合間。以頭右中將重通
奏慶拜舞。次以藏人少將公能。奏饗祿事。其
詞云。上達部御酒給。其後經階前弁宣仁門。
出從花德門。經北路進中宮御所。以權亮重通
啓事由。更歸入華德門代。出從敷政門弁左衞
門陣。於近衞烏丸辻。引幔爲陽明門代。雖然
夜無出立儀。又無留御前事。
入從大饗所。閑所方西門立南階西杜簷外庭。六衞府官人明南庭。
治部卿。能俊。新任大納言。實行。右衞門督。雅定。別
當中納言。宗輔。皇后宮權大夫。師時。新任中納
言。忠宗。雅兼。新任參議。宗能。顯賴。已上一列。少
納言。忠成。忠宗。左少辨宗成。右少辨實親。
已上一列。大外記信俊。大夫史政重。以下上官十二

人二已上一列。
二拜了。
予一兩度。揖讓治部卿離列之間。予進階前顧今
一度揖了。倚西檻獨昇。昇一階也。脫沓。行佐取沓。
着親王座。
治部卿已下上達部九人。次第着座。昇自南階。
辨少納言等。昇自東對着座。
上官等昇自中門廊南着座了。
酒部所役人參入。
予起座。於一世源氏座執盃。實房朝臣傳獻。侍從憲俊取瓶子。
入自東一間經上達部座後。於座上先揖傳盃
於治部卿。巡流之間。扳笏深揖。歸從本路間。
有成取圓座敷一間。予着之揖。
立于主人前机。實房朝臣不敷圓座。如本昇之。
五位一人勸盃。外記史座。不傳辨座。
二獻。左少將教長朝臣勸盃。瓶子。上官勸盃。五位
二人。居粉熟。

撿非違使等兩三人着座。
三獻。右中將重通朝臣勸盃。瓶子。五位二人。勸
盃上官居飯之間。次撤粉熟。居汁物本ノマヽ汁膾。
立箸。新宰相顯頼氣色。每度如此。
宗能上﨟也。可勸五獻。
四獻。新宰相宗能猶獻治部卿。自斯用土器。
雉羹。上官勸盃。五位二人。
召錄事。四位侍從顯親朝臣。治部大輔俊雅。雅
淸。盛國。一度候南簀子。
予仰云。顯親朝臣。俊雅。辨少納言座祿事。二
人先起座。辨少納言座前敷圓座。二人着座。
予又仰云。雅淸。盛國。外記史御酒給。二人起
座先敷圓座。祿事着座則座。
五獻。勸盃。參議顯賴勸之。予受之傳。治部卿傳
辨座。上官座勸盃。五位二人。
此間給史生祿。布積案二脚。下家司俊基召給也。
諸大夫撤一世源氏座。敷圓座於南簀子敷。令下

居肴物。
上官祿。次給辨少納言祿。
敷召人座。召人六人。雅樂頭元輔以下着座。此
中六人居衝重。勸盃二人。注也
皇后宮權大夫中納言師時卿勸盃。
置管絃物具。堪絲竹殿上人居座末。右中將重
通。季成。藏人少將公能。能登守季兼篳篥。
御遊。
右兵衛督實能琵琶。新中納言宗輔。箏。新宰相
家能。拍子。中將重通。笙。季成和琴。藏人少將公
能。笛。呂。安名尊。二返。鳥破。一返。席田。賀殿
急。律。更衣。有上達部。三臺。數返之間。
此間少納言一人。辨二人纒祿於頭下立。上官遲
出如何。殿上人取祿。先奉宰相。中納言。大納
言。事了令退出。及亥時歸中御門亭。見吉書。是
美作國封解文。米百石事。
字左
保延二年十二月九日。壬寅。陰晴不定。自朝至巳刻

霧下。未申刻之間日見。及申終又陰。
參內儀。申刻着束帶。蒔繪螺鈿。孔雀金作劔。大殿紋平緒。孔雀別當。有文帶。畢
先參大殿御前。頃之大殿着烏帽直衣。御座寢殿
南庇東向妻戶前。予并大理居反渡東方。
次大殿令獻御使於關白殿給云。今間大將可參
內哉。頃之御使歸參云。人々未參。雖然日景將
斜。早可被參。仍予經東中門廊。於南落板敷上。
欲着履時。大殿被仰曰。懸尻於板敷。下足可着
履。仍予如此着履。
次出中門。別當。實能。右衛門督。宗輔。帥。宣光。等
立中門東面南方。予向大理下尻揖。大理答揖。
本ノマヽ日地濕尻不可下。予出中門之間取尻。於門前乘
車。此間前駈廿人番長等乘馬。車副二人。下﨟
隨身步行。一人假也。別當。右衛門督。帥。已上公卿。皇后宮
亮顯親。中將公能。少將憲俊。少將忠賴。少納言
雅國。左少辨俊雅。若狹守公信。已上殿上人。少納言俊
通。地下。連車。仰不可啓蹕之由於車副。於二條

可程卷簾、自町北行、至大炊御門東行、至高倉南
行。至冷泉院。昇下車。（不解鞦。）相待人々下々車入
東面四足門。欲昇自宮御方中門廊、關白殿被仰
可昇自北臺東向妻戸緣之由。仍昇件所。入妻戸
南腋戸。居妻戸裏。（關白殿御直廬也。南「庇有」北。有（本）地臺置。南北亭也。予五節所屋也。「地臺置南北亭也。予五節所屋也。」）次隨身皆脫褐冠着布衣。此時予可
解劔也。而未任大將之前。勅授帶劔。然者雖避
大將不解之。漸及秉燭。任人沙汰間。奉御使於
烏羽了。未還之由。有大殿御書。任人沙汰之間。
大殿關白殿數度有御使。
及亥刻被始節會。頃之節會了。
此時予於東緣着履下立。此間朝隆來曰。可渡階
前之由。宜奏事由。予答曰。早可奏朝隆奏事由。
經東中門。此間予仰隨身曰。下﨟隨身於右衛門
陣邊相待。退出之時。可相具於番長公治者。經
北面於西中門邊可相待。次經東透廊立寄。當寢
殿東廣庇之南面階下。關白殿此間令立階上給。
予奉習可奏饗祿事之樣。此間朝隆下自日隱間
階。（是非也。）謂予曰、聞命了。次予經宣命版位與宣
命版位之間。出西中門經南庭之間。顯親。憲俊。
執松明前行。自餘人々不見。後聞。人々被難其
人少數云々。出西中門。廻顧番長公治更不見。
仍令使者召卽來。此間殿下仰云。內御方奏慶
時。以中將公能可奏者。仍令尋之處不祗候。若
依別當昇進。在被着替下襲之所歟。以番長公春
遣尋。卽予引下懸劔之下。重房進弓場殿。頃之
公能來。予奏事由。公能參入卽歸來。仰聞食了
由。予舞踏如常。次朝隆云。可召御前之人誰人
哉。爲中關白殿參殿上方。頃之朝隆來示召由。
予又舞踏。經小板敷居殿上小大盤下。卽經上戸
參朝餉北緣。主上御簾中。舉燈被下簾。無圓座。
雖然起居之時有揖。須召晝御座。而南殿淸涼殿
相兼之間。節會御裝束未撤。仍召朝餉也。頃之
被仰可退出之由。仍予起御前如初。出自殿上々

戸立小板敷邊。招五位藏人朝隆申云。公卿以下饗祿給。朝隆歸去。又來答饗了由。朝隆歸來之間。相待徘徊也。朝隆云。實雖未奏主上。御宮御方若實奏聞。定移時刻。仍僞告可許也。仰上卿之時可奏也。即予經本路立宮御方中門。此間雖降雨。予不擁笠。雜人等少々擁之。今度殿上人五六人許在共。或擧松明。番長公春廻自北面來過中門。以顯輔奏事由。顯輔歸來仰聞食了由。予二拜。次顯輔稱召由。上自中門中進簾下之間。女房褰簾。予自此入簾中居茵上。次女房取琵琶與予。予插笏自取之起座。女房如常褰簾。予出簾外。給琵琶於顯輔。拔笏。顯輔下中門召前駈欲給。予於中門中欲着履之時。謂顯輔云。不可給前駈。直可返上御大盤所。顯輔咲不給前駈持歸了。如初歷南庭。出西中門殿上人或執松明。或相從。番長公春如初。廻北面來逢。出中門更南行。又西折出土遣戸。大宮大夫被座陣座。予經陣前之間。下裾過之。大宮大夫示不可下之由。然而予猶下之。共殿上人等自立蔀外來逢。過陣前了。執尻懸劒。

此間雨晴。

出門之時。六位外記史左右前行。予出行於陣座。大裡以扇鳴笏。此時外記居。予立留。外記召召使。召使稱唯。此時予步進。召使前行發前音。下臈隨身等後從。前駈等取松明。二行前行。至二條東洞院。隨身雜色不發前音。予云。已避大將不可發隨身前音(何歟)仍不發雜色前音乎。此時隨身番長以下雜色等。皆發遠也伊前。於二條烏丸乘車。予云。於幔外可乘車也。下人云。幔不見。予以爲參內之時。於二條高倉辻見遣已引幔了。大臣未出之前。撤幔甚以奇怪。次乘車召使等留了。參內之時。未任大臣之前不解靴。今猶在軏。予褰簾問云。車副有四人哉。申候由。予仰可警蹕之由。元二人車副爲上臈。在屋形口今加車副

二人張綱。於二條烏丸警蹕。於二條室町警蹕。於二條町又警蹕。此間予下簾。憚角明神之故也。又於南四足北棟門之間警蹕。至南四足門昇下車。解鞦。歸路。布衣隨身。不論下臈上臈。皆騎馬。下自車入中門。出幔門西行。立松樹西頭。向寢殿。公春取松明相從。他隨身前駈可參進之由。大殿被仰。仍各執松明相從。予以顯親朝臣令申慶由。顯親歸來示聞食了由。予二拜如常。又以顯親令申。顯親來示聞食了由。予二拜。次又欲使顯親申。大殿被仰云。不可申早可昇。

予上自臺南面階至階下。垂之。顯親執下襲尻。經反渡殿參寢殿南簀子。大殿御座寢殿南簀子東第三間。關白殿御座寢殿南東角。予申。大殿云。慶賀可申三所由。先日有御定。而二所如何。大殿被仰云。慶申之日可申女房也。女房者北政所也。次大殿召朝隆令問人々參集否給。朝隆申未參集之由。大殿被仰云。暫可相待參內幷退出儀如此。

大饗儀。大殿。關白殿。相共令敎答拜間事給。予傍階東欄下。顯憲取沓持來。予於階最下級着沓。當階東披柱去四五尺許。向坤立。大殿被仰云。立處猶近。須今少南進。又宜向丁方。卽正笏如敎立之。下重能展。不入溜。大殿被仰顯憲云。可刷下襲。仍顯憲刷之。又被仰云。下臈上臈布衣隨身擧松明可參。隨身參入。去予東方三丈余許。擧松明居。

頃之大宮大夫已下。步出西幔門。此間大殿令入簾中。經關白殿令立隱給。大殿被仰云。布衣隨身等可隱。卽隨身等隱了。上達部漸列立之間。大殿被仰云。立明官人未見如何。五位藏人朝隆催之。立明官人等立池汀。公卿一列。辨少納言一列。皆東上。北面。

予欲拜。大宮大夫猶無可被拜之氣色。予少咳拜。先左膝。諸卿已下皆拜。予立。先右膝。諸卿又立。予又拜。先左膝。諸卿又拜。予漸起。公卿未起。仍

猶如本臥。早起失錯也。次予起。先右膝。諸卿同起。皆起
了後。予刷平緒。
正笏。揖讓大宮大夫。大夫不被見。仍無答揖。又
予少咳揖讓大宮大夫。答揖。又予揖讓大宮大
夫。答揖。又予揖讓大宮大夫。無答揖。不被見
歟。次予右廻北進至砌下。溜南際。更左廻向大宮
大夫揖讓。大宮大夫依不被見無答揖。又少咳
揖讓。此間大夫答揖。又予揖讓。大宮大夫被
離列。予右廻傍階東欄昇一級脫沓。此間顯憲
趍出欲取沓。大殿被仰云。暫不可取。顯憲更
歸。予先右足登階了後。顯憲取沓。
予居親王座。上方揖如常。
次大宮大夫昇南階。自簀子西行。入自西一間被
着奧座。當予座下方。予示可被居上由。大宮
大夫居一圓座。公卿次第着奧座。
參議重通、實親等朝臣着端座。公卿座定後。
召使來取公卿沓。師頼語雅定卿云。大饗之
時。召使必有十人。今日六人非例歟。
次立公卿已上机。雅職取簀薦。五位二人昇机。
每立机居肴物。肴物二。折敷持參。陪膳取之居机。役送持歸折敷。大納言。
陪膳雅職。中納言。陪膳忠兼。參議。陪膳資
兼。机未立了間。新參議忠基着奧座末。拜時必件人運參。近着之。實親雖任日上臈。忠基依位階上臈。忠基
机先立。實親机後立。
机皆立了後。予揖。乍居左廻起座。居一世源氏
座。乾向也。維順取盃。居折敷。持來予前。予立右膝揖
笏取盃。瓶子憲俊。立樞衣裝。入自西一間。歷公卿
座後。居公卿上。坤向。居時有揖。憲俊經簀子來予居所。
是憲俊失禮也。須自奧座後。從予進也。予入酒於盃如入。實不入也。合眼大宮
大夫。大夫目之。予飮。又令入酒。擬大宮大
夫。大夫飮了。又入酒。擬雅定之間。予拔笏揖
右廻。如本歷公卿座後□一間等。至簀子更東
行。此間泰憲取圓座。敷日隱間東棨柱東際。
柱北去二三尺許。予自日隱東柱東着圓座。有揖。向巽方。欲着

之時。以手引寄圓座着之。盃酒公卿座流巡了
至辨座。
此間彈正大弼維順。重範等。舁机立予前。無□□□机□□妻立□之。立机之間。予置笏。維順居肴物。肴物二一。折敷持參。陪膳取之居机。役送持歸折敷。
次二獻。顯親朝臣。國親取瓶。經賓子失禮也。擬大宮大夫。今度
予不受盃。大夫直傳雅定也。此時顯親朝臣取
酌。大夫欲擬雅定之時。入盃流巡如常。大宮
大夫二獻。直流巡。自三獻獻主人土御門右
府。任大臣大饗。經任大納言所爲也。今度可
依彼例。次將可獻。三獻。猶直流。自四獻予
云。自三獻可給也。
二獻了間。立撿非違使床子。卽着。
三獻。公能朝臣取盃。忠兼取瓶。欲經賓子。而關白殿被仰云。須隨勸盃人。經公卿座後也。仍經公卿座後也。仍經公卿座後。合眼大宮大夫。大夫目予。有欲令余取盃之意。予又目大夫。大夫又目再三如此。遂大
夫取盃。欲直下目雅定之時。予示可給之由。

大夫取盃。欲擬予之時。公能取酌。大夫盃大
夫被傳予。予目雅定。卽飮入酒。公能入之。雅定揖
起座。經大夫後來予前。受盃流巡如常。
此間撿非違使起座。卽撤床子。
次居飯。次公卿前。次第居飯。居了居汁并菜。陪膳同前。大納言。陪膳雅職。中納言。忠兼。參議。資
兼。參議實親正笏申事由。予立箸。置敷次立匕。次
人同立之。先取最花食了。直汁土器於机
下。四獻。自此用大土器。以有耳手小土器爲尻居季成朝臣起座取盃。
經賓子居予座上方。入酒合眼予。予目之。季
成飮了擬予。予取之合眼大宮大夫。大夫目
予。飮之令入酒。瓶子取。經時入之。擬大宮大夫。大夫取
之。流巡如常。
次又居汁并菜。維順居之。次居大納言以下。大納言、陪膳雅職。中納言。陪膳忠兼。參議。陪膳資兼。新大納言實能語予云。汁
已了。予答云。參議未申事由。中納言。伊通。又
語予云。已申了。

予已下食了置汁土器於机下。
次五獻。重通朝臣取盃。欲居予座上方。予永可居奥座上之由。仍重通歩過予座上之間。大宮大夫猶示可居予座上之由。重通少歩歸。予猶示可居奥座上之由。仍重通居奥座上。重通入酒於盃。合眼大宮大夫。大夫揖讓予。予又揖讓。如此再三。遂大宮大夫取盃合眼予。予目之。大夫飲了入酒。（瓶子取。公經入之。）被擬予。目雅定。雅定取之復座。流巡如常。
次居蘇。甘栗。枝柹。（已上一折敷。）維順居之。次居大納言以下。（大納言陪膳雅職。中納言陪膳（本被）忠兼。參議陪膳資兼。）予以下不待居了食之。未居蘇甘栗之前。顯頼卿以朝隆申大殿云。六獻可有否。大殿被仰可有之由。次予語顯頼云。可有錄事。卽置箸。（不置匕。）正笏。少顧座下方。（召錄事（本ノマヽ）心也。）錄事遲參。大殿自簾中令仰出云。錄事非三人可催之事。末座人々可催之。四位少將經宗。中務少輔師能參簀子。予仰云。經宗朝臣。師能。辨の座の錄事。兩人奉仰退歸(ニ)。次有成。爲賓。參簀子。予仰云。外記史の座御酒給。奉仰兩人退出。
次立祿案二脚於庭中。
次六獻。大宮中納言（伊通。）被盃經簀子。居予座上方。入酒合眼予。予目大宮大夫。（有欲令大夫取盃之意。）時予目伊通。伊通飲了入酒授予。予合眼大宮大夫。大夫答揖。予飲了。入酒（瓶子取。資賢入之。）授大夫。流巡如常。
此間知家事唱見參。賜召使官掌等祿。（史生各三端。召使各二端。）
次敷穩座圓座於簀子。主人座當階西邊也。次連敷了。五位殿上人。（雅重。）取茵敷階東間西方。爲關白殿御座。
諸卿自下﨟一々起座。予倒箸匕。正笏揖。出自階東間。居東第一圓座。（有揖。北面。）次大宮大夫已下

被着圓座。大夫着圓座之時。仅本ノマヽ南面予問之。是時大夫北面。余云。論語云。過則勿憚改。□□云。漢高祖從殊如順流。大夫微咲。此間上官座取食參來。知信。盃制止了。

次關白殿令着座給。予起座。不揖。侍階第一級。關白殿座定後。予居圓座。無揖。

顯親朝臣先居關白殿御前。諸大夫三人置折敷於土高坏上。居肴物持參。顯親次第取之。居關白殿御前退下。次肴物二本。諸大夫二人敷(取カ)之持來。維順取之居予前。大宮大夫已下無陪膳人。役諸大夫直居之。實能卿已下不居之。役人欲居而被追歸也。肴物關白殿三本。予已下二本也。

次右衞門督宗輔起座。取盃進關白殿御前。入酒合眼關白殿。關白殿令目給宗輔。飮了。又入酒進關白殿。關白殿取盃合眼大宮大夫。大夫暫不被參。仍右衞門督不召由於大宮大夫。大夫參關白殿御前。殿下飮了。入酒瓶子取。五位藏人經親。入之。給大宮大夫。大夫居向予方合眼。予目之。大夫飮了入酒轉予。予置笏取之。目雅定。雅定又目。予飮之授雅定。已下流巡如常。大宮大夫復座。

次召人着座。先是敷其座。

次諸大夫持參管絃具。

次御遊。拍子新大納言。實能。笙大納言。雅定。箏右衞門督。宗輔。横笛新中納言。公教。琵琶宰相中將。重通。已上關白殿被仰。此人々可勤其事之由。資賢爲付歌。令召候寢殿西妻戸西頭。關白殿令申大殿給云。上達部殿上人之中。無篳篥令召人吹如何。大殿被仰云。可然。以召人時定令吹之。先雙調々子。次安名尊。次鳥破樂時。新大納言不被唱歌。次賀殿急。次平調々子。伊勢海。萬歳樂。五常樂急。催馬樂時。雅定時々付之。

五常樂急。欲終之時。給公卿祿。祿法如常。
諸卿起座。
予揖起座。
不進關白殿祿。
公卿祿間。給召人祿。
公卿起間。琵琶覆手破了。其琵琶元興寺也。進關白殿。引出物也。
季成朝臣取予笙。進關白殿。關白殿令起座
給後。進之也。關白殿取笙返給云々。顯憲取
之。是密々返給也。
事了上東臺南 御簾母屋際。無御簾西第一間奥敷高麗端疊一帖。予居之。第二三間端敷公卿座。件座忠基一人居之。知信取杖揷吉書。來予座前。予取文。知信退。此間予置文於前。知信居定 廣廂之後。予先披懸紙。押遣文 於右方。披見了置左方。卷懸紙了。突遣知信方。知信取退下。予猶相待宿申居此處。大殿以顯憲被仰云。宿申不可必乍裝束。聞之早可解脱。
次忠基起座。予起座解就寢。
次宿申云々。
此後降雨。
早旦大殿御牛(黃カ)蓋牛也。一頭。以侍兵衞 大夫義貞爲使。以御厩舍人重延。令牽之。遣大宮大夫許。被仰云。令參內可被用此牛者。後聞。大宮大夫以錦衣。賜御厩舍人重延云々。
今日予前駈。
雅職。忠兼。有成。資兼。家時。顯憲。
爲實。高基。盛家。淸職。盛經。季兼。
爲基。重範。已上藏人。五位。忠正。公長。已上式部大夫。五位。
高階仲行。皇后宮進六位。源隆康。圖書助。橘以長。大殿下勾當。
源盛賢。勾當。
參入辨少納言。
左少辨俊雅。右少辨資信。權右少辨雅綱。
少納言雅國。俊通。節會召云々。
參入公卿。

大納言。師頼「内辨。」雅定。實能。
中納言。宗輔。伊通。顯頼。「給次第。作居座行事。」實光。成通。公教。
參議。重通。季成。忠基。實親。「宣命使。已上四位。」
上官勸盃。
初獻。國親。二獻。季兼。三獻。盛經。
四獻。盛家。五獻。高基。六獻。資兼。
同座陪膳。
重賢。成賢。
辨少納言之陪膳。
家時。
祿。
大中納言。白大褂各一重。四位宰相。赤褂一領。辨少納言。赤衾各一重。五位外記史。赤衾各一帖。六位外記。白疋絹。史。黃疋絹。官外記史生。布各三段。使部。各一段。召人。白褂各一領。
立明官人。各疋絹。
辨少納言祿作法。御遊以前給之。公卿欲起座之間。辨少納言起座。暫立透廊之間。給祿。殿上人取之。辨少納言給緣。下自透廊西階。經西妻出南。列立同屋南砌。東上。北面。小揖退出。或還昇。件辨少納言祿。在座時可給也。而依祿遲々起座給之。
外記史給祿作法。辨少納言祿以前。給外記史可祿也。給祿之後。出南幔門。北上。東面。列立揖退出。
公卿給祿作法。先宰相。自上臈給之。次中納言。自上臈給之。次大納言。自上臈給之。
今日公種被補予雜色長。參內之時在車後。

## 大臣大饗記後深心院關白

永德元年六月廿六日。雨降。今日右大將任大臣。兼宣旨。酉刻參內。於一條邊伺見之。前驅四人。隨身如例。衞府六七人。此內五位一人。扈從公卿洞院大納言。侍從中納言。萬里小路中納言。按察帥中納言。別當中山宰相中將。

殿上人頭辨經重朝臣。頭中將公仲朝臣。山科中將敎冬朝臣等連軒。大將着陣。諸卿同着陣云々。召仰之後。退出之所。可堂上之由有召。於泉殿盃酌數獻云々。入夜退出。於里第定大饗雜事。權辨賴房書定文後。羞饌如恒。三獻云々。二獻常例歟。准后每事被口入云々。

七月廿三日。晴。申刻雨降。卽屬晴。是日任大臣節會也。

太政大臣藤原良基。元前關白。准三后。　內大臣源義—。右大將如元之由。今日卽宣云々。

權大納言藤實冬。　同通定。

權中納言藤爲重。　同季顯。元前宰相中將。

參議源通淸。從四位上云々。通氏卿舍弟。

申刻右大將參內。諸卿連軒扈從云々。及晚。准后被參。被駕唐庇車。隨身官人。左右。番長。左右。近衞六人云々。關白以下扈從云々。有暫被始行節會。內辨左大將實時卿云々。事了太相內府被申慶云々。前後委可尋記。事了太相關白先被向內府第云々。其後內府退出里第云々。于時丑尅許也。

右府今夜爲尊者。可行向內府第也。仍着裝束。色目如恒。螺鈿劔。紺地平緒。有文巡方帶。前駈六人。宗茂朝臣。匡綱。俊重。泰世。宗行。行敏。雜色長下毛野種貞。殿上人左中將嗣尹朝臣。左中將公邦等連軒。到室町第扣駕。諸卿下立中門外云々。其後右府下車。主人下立揖讓如常云云。諸卿堂上。次第儀每事存例歟。可尋記。今夜五獻云々。移穩座之時。相國博陸等。着座自東簀子云々。翌日午斜事了。右府歸宅。

今夜出仕公卿。

相國。博陸。內府。　左大將實時卿。

久我大納言具通卿。　大炊御門大納言宗實卿。

西園寺大納言公永卿。　一條大納言經嗣卿。

洞院大納言公定卿。　新大納言實冬卿。

同通定卿。　中納言中將敎嗣卿。

中院中納言通氏卿。　侍從中納言公時卿。
按察資康卿。　帥中納言仲光卿。
新中納言爲重卿。　同季顯卿。
別當資敎卿。　山科宰相敎言卿。
一條宰相中將公勝卿。中御門宰相宣方卿。
中山宰相中將親雅卿。左大辨宰相俊任卿。
新宰相中將通淸朝臣。

以宮內省圖書寮本謄寫校合畢

雜部百十八

# 建暦二年大饗次第 京極殿儀

節會畢。諸卿相卒向饗所。

入夜時立明官人列立池邊焚篝。

諸卿列立中門外。

公卿一列。藤大納言師經卿。土御門中納言定通卿。四條中納言隆衡卿。新源中納言雅親卿。藤中納言光親卿。宰相中將實氏卿。新宰相顯俊卿。辨少納言一列。左中辨重服。右大辨。右中辨所勞。左大辨宣房朝臣。少納言信定。權左中辨經高。少納言家時。左少辨家宣。右少辨長資。外記史一列。六位如例。大外記師重。師方。大夫史國家。

主人降立南階下。當階西開柱立布衣隨身取松明。進候主人西方公卿進出間。

次諸卿以下入東中門列立南庭。西上北面。

五位家司中宮大進長宗獻御沓。隱座西幔內。

公卿一列。辨少納言一列。外記史一列。

次主客相共再拜。

次主客揖讓。

三讓三辭。主人到溜南頭。又三讓三辭。客離列之間。主人昇南階一級。脫沓着親王座。昇立緣上之後。本役人取沓。

次首客以下參議以上。着堂上座。昇南階經簀子東行。入東第一間。經奧座後着座。大中納言南面。參議對座。

召使十人取諸卿沓。

次辨少納言着座。
昇寢殿巽角北階。經東廣庇各入當間着座。南
上西面。
次外記史着座。
經對代南砌右階昇同南階。經西廣庇着對代
座。北上對座。此間辨官爲奉行人者立座候透渡殿。
廻北相居。
次立公卿以下机。先立之。
信光
先大納言陪膳。取簀薦一々敷之。以竹方爲表。以絹方爲裏。
實清
次中納言陪膳敷之。
次參議陪膳敷之。
已上陪膳一人取之。分簀薦數敷之。
次地下五位二人舁机次第立之。
人別一脚　公卿赤木。辨少納言　黑柹。外記史
朴。
件机先例或兼立之。今度節會若及遲々者。居菓子肴
等立之。建仁例兼可立之。

次居肴物。
人別二折敷役送人持參。陪膳取之。一々居机。
役人持還折敷。已下倣之。
公卿。
大中納言座。手長一人。信光。
參議座。手長二人。奥實清。端業清。
送役宗保以下。
一折敷。菓子。梨。干棗。窪坏。干雉。蒸鮑。
一折敷。生物。鯉。鱸。窪坏。海月。鮨子鱠。酢鹽箸。
辨少納言座。手長二人。行光。業方。
役次五位。久直。景親。康基。淳尚。滿季。重經。
一折敷。菓子。梨。干棗。干物楚。押鮎。
一折敷。生物。鱸。鯉。窪坏物。海月。　年々支裹酢鹽箸。
已上白折敷。料理所。
外記史。兼居菓子肴等。菓子。生物。窪坏。
已上居菓肴等。兼立机。

次酒部所人着幄座入東幔。
着座行事家令一人。下家司一人。諸司二分三人。
次一獻。主人勸盃。於一世源氏座取盃。酒部所獻之。様器有蓋。尻居居繪。折敷役取蓋歟。尻主人取具盃給。
四位家司仲資朝臣傳獻之。
殿上五位宗宣藏人次官取瓶子。白茶垸。
續酌二人宗保親韓。
主人退了。續酌役人參進。取殿上人所取之瓶子。經奥座進盃。及參議座間今一人取瓶子。
盛端座盃已下傚之。
建仁諸大夫文治以後無所見
盃列辨座。奥座次为人可兼行。若次五位歟。
是卽諸大夫取之歟。
上官座同時勸盃。青瓷瓶子。
五位兼敎一人。
先勸外記盃及史。
次五位取瓶子。

公卿盃及辨座間勸之。
此間敷主人圓座。
主人勸盃了退間。五位家司一人取厚圓座一枚。敷南階西間東邊。去東柱二許丈。
次立主人机。赤木一脚。無簀薦。巽乾妻。
四位家司長俊朝臣一人。五位國基一人舁之。四位留候居肴物。
之久居物立之
次居間肴物。二折敷色目同納言。
四位家司建久進居物陪膳。長俊朝臣。
五位有長泰敏二人役送。
次二獻。
殿上四位時賢朝臣右中將勸盃。
諸大夫業資取瓶子。
同人行光續杓一人。
辨座瓶子。奥座役人勤之。

上官座勸盃。諸大夫基邦。
瓶子次五位。久直。
此間撿非違使着座。
先酒部所幄北頭立床子。看督長舁之。
史生已下着座。饗諸國庄西山西。
仰下家司行之
勸盃上官五位二人。
瓶子諸司官人。
次三獻。
殿上四位勸盃。公雅朝臣右中將。
光輔
諸大夫取瓶子。
維房
同人續酌一人。
辨座瓶子。奥座役人勸之。
季忠
上官勸盃。
景親
瓶子。
次撿非違使起座。即撤床子。
次居飯。

先主人。
長俊朝臣
陪膳。
季忠
役送。
信光
大中納言手長。
參議手長。奥實清。端業清。
役送。親輔。光輔。行光。時光。惟房。業賢。長政。重光。經平。
辨座。
仲範
手長。
役送。次五位康基。久直。厚尚。重經。
上官座。無手長次五位直居之。景親。
建久飯後四獻後居之
次居汁菜等。
一折敷。汁膾小鳥燒物。
主人陪膳。
長俊朝臣
四位家司。
兼教
役送五位。

信光
大中納言手長。
參議手長。奥實清。端業清。
役送。政光。宗保。親輔。惟房。光輔。泰忠。行光。時光。業賢。以邦。重光。
辨座手長。仲範。
役送。次五位。
上官座。次五位。不副實。
居了大辨候氣色。
次箸下。
次四獻。用土器勸主人等。客献 新宰相顯俊朝臣
頼資 參議勸盃。諸大夫傳盃重光。
殿上五位瓶子。
續杓二人。奥政光。端親輔。
有長 辨座瓶子。勤奥座瓶子人。
上官座勸盃。
瓶子次五位。景親。
次居汁菜。

一折敷。鶉羹。副鵪頂草。加蝘蓼。鮎燒物。加蝌。
長俊朝臣 主人陪膳。
季忠 役送。
信光 大中納言手長。
參議手長。奥實清。端業清。
役送。親輔。盛親。光輔。行光。時光。維房。業賢。長政。重光。經平。
上官座。次五位直置之。
居了大辨候氣色。
次箸下。
次五獻。勸主人。大宮宰相中將實氏
兼隆中宮大進 參議勸盃。諸大夫傳盃行光。
殿上五位瓶子。
次杓二人。奥行光。端時光。
辨座瓶子。勸奥座瓶子人。
上官座勸盃。
瓶子

次居菓子。
一折敷。菱。柿核。
長俊朝臣
主人陪膳。
基邦
役送。
信光
大中納言手長。
爪止了以七月謂爪取六月無例仍止了
參議手長。奥實清。端業清。
冬甘栗枝柿二種也
役送。親輔。盛親。光輔。行光。時光。維房。業賢。長政。重光。經平。
辨座手長。仲範。
居菓先例如何
役送。次五位。
同如何
上官座。次五位直居之。
不待居了食之。
次仰祿事。
一枚辨上﨟座前
先辨少納言座前敷菅圓座二枚。
有長　基邦
役二人。
以上官座上敷圓座二枚。

役二人。次五位。
次召錄事辨少納言座。
資家朝臣　左中將
殿上四位一人。
爲家　左中將
同五位一人。
上官座諸大夫二人。宗宣子知親。朝經子朝房。
次退後撤各圓座本役人。
其儀主人拔箸取笏召錄事。只顧座下無氣色。在座人傳催之各參進簀子東第三間。主人仰云。其々辨座了錄事各奉仰退歸。向其所上官座仰詞外記史御酒給へ。
次六獻。勸主人。
藤中納言　光親
中納言勸盃。諸大夫傳盃親輔。
知長
殿上五位瓶子。
次杓二人。奥維房。端業賢。
國基
辨座。勸奥瓶子人。
上官座勸盃。

瓶子。次五位。
次主人勸盃于非參議。左大辨宣房大辨。
主人於一世源氏座取盃。
兼隆五位家司傳獻之。
棟基藏人木工頭殿上五位取瓶子。
次給史生以下祿。
先是舁立祿案二脚於庭中。當東一間立之。行
事家司監臨。
次知家事唱見參案主給之。史生各三段。召使官
掌各二反。使部各一段。於本座給之。
次撤一世源氏座敷東廣庇東向戸下。南北妻。
次敷菅圓座於南簀子。主人座上。
諸大夫五位敷之。主人座南階頗東邊。以下次第敷之。
信光。家長。實清。政光。業清。業家。宗保。基邦。泰敏。俊光。
次主人以下移着穩座。
辨少納言候透渡殿邊。上官起座 隱便所公卿

已下先拔箸自上﨟起座移居。南面。
次居肴物。仲資朝臣繪折敷高坏可居北長押上。主人三本。客以下二本。
主人陪膳。
役送。信光。業家。業清。
大中納言以下。直居之。
役。宗保。俊光。仲範。親輔。盛親。光輔。基邦。行光。時光。維房。業賢。兼致。長政。重光。經平。
此間敷召人座 於南階前砌 溜南紫 帖二枚。六位衞府
役之。
次給同衞重。六位衞府役之。人別二前。
次勸盃。新源中納言雅親。傳盃諸大夫。長政。
瓶子殿上人。資經五位。
召人座同勸盃。次五位厚尙。
瓶子。六位衞府。
次居削氷。可居白折敷建仁例繪折敷。
主人陪膳。長俊朝臣。
役送。國基。

公卿役送。信光已下。

次御遊。

先召堪其事。侍臣等合候座末。依主人氣色吹

調子。

呂。安名尊。席田。鳥破。同急。賀殿急。

律。伊勢海。萬歳樂。

先是置其具。兼置祿所。

笛筥蓋。笛。修理大夫公賴卿。篳篥。雅經朝臣。笙。四條中納言隆衡卿。拍子。內藏頭隆仲朝臣。付歌少將實俊。琵琶。二條三位親定卿。箏。頭中將經通朝臣。和琴。中將時賢朝臣。

役四人。國基。有長。季忠。兼敎。

此間給外記史祿。

五位赤衾一帖。

六位疋絹。外記白。史黃。各一卷。

諸大夫取之。

信光。國基。業清。業家。有長。泰敏。季忠。兼敎。

次賜辨少納言祿。

非參議大辨赤袿一領。四位家司取之。

自余赤衾各一重。五位取之。

信光。國基。業清。業家。有長。泰敏。季忠。兼敎。

次辨少納言外記史各降立。自參上路列立南階東腋砌下逼溜。

少納言辨一列。外記史一列。幷西上北面。

復列第一人當前列第一人立。

次各自上﨟一々揖經列前退入。辨少納言或卿昇候透廊邊。外記史直退出。

今度首客以下早起座仍於透渡殿邊立被取祿

管絃終頭給參議祿。

三位烏子重一重。知長　賴賢　爲家　四位赤袿一領。

殿上。四位。五位取之自上﨟給之。

御遊所作有散三位者祿烏子重。

次給中納言祿。

白大褂各一重。時賢朝臣　知長

殿上。四位。宗宣　資經　兼隆　賴資　五位取之自上﨟給之。

次給大納言祿。
　白大褂各一重。左中將實家朝臣　尊者資家朝臣
　　殿上四位取之自上臈給之。
此間給召人祿。白大褂各一領。六位疋絹一卷。親康厚尚康基
　次五位取之公卿祿與同時給之。
次公卿以下退下。
次給立明官人祿。疋絹。□□□多布々。下知政所於中門外給之。
次申政所吉書。家司申之右少辨長資。
　於東對代西廊覽之。公卿一兩候座。
次宿申下家司唱之。
永久朱器饗記軟障入簾帽額下引綱云々。
辨少納言座後廣庇掌燈。永久立之。
　建暦二年六月廿九日。節會丑三剋乃饗始寅剋終辰四剋巳日出
　　家司右少辨長資。
　職事中宮少進以經。
　所司。饗。木工允政章。御裝束。監物家重。

藤中納言。光賴卿。下座。口入居物間事。

# 永享四年大饗定

四月九日。可被行大饗之由令治定。
廿五日。就大饗事萬里小路大納言。新藤中納言。局官務等參會攝政第評定。
　總用三千五百貫許云々。
廿六日。被出家司御點。
廿七日。被補家司以康任朝臣爲職事。
左中將雅永朝臣。少納言爲清朝臣。大藏卿知俊朝臣。頭右大辨忠長朝臣。
左兵衛權佐永豐朝臣。左少辨明豐。權右少辨長淳。勘解由次官高經。左衛門佐資任。左少將雅親。侍從實勝。
五月十五日。被出大饗奉行御點。折紙。
飯尾肥前守。左衛門大夫子　齋藤加賀守。松田對馬守。安飯

威分尾加賀守。總奉行松田八郎左衛門尉。隼人子飯尾大和
守。布施民部丞。治部分飯尾左衛門大夫。
永德度
一總奉行　松田丹後守。
一條々支配奉行
安威新左衛門尉。几帳。祿。
布施民部丞。軟障。祿。
治部左衛門尉。簾。疊。土鋪。圓座。弘
筵。差筵。鎮子。壁代。四尺屏風。垂
布。机。綱。燈臺。
飯尾左衛門大夫。同隼人佐。酒部所。料
理所。幔。幄。床子。撿非違使。
齋藤筑前五郎左衛門尉。松田主計允。盛
物。饗。
今度役宛以是可准知歟。
六月二日。大饗事條々被定。
雜事日時被勘文。

兼宣旨。御參內扈從公卿殿上人御點被出之。
同日御著陣也。
任大臣雜事日
召仰　今月廿四日辛亥
御祈始日　同日辛亥
造宿申簡幷大杖名簿辛櫃日　七月十日丁
卯
始上客料理所日　同日丁卯
始御裝束日　同日丁卯
大饗日　廿五日壬午
六月二日從三位有盛。
御著陣同日兼宣旨扈從御點
公卿
萬里小路大納言。三條大納言。花山院大
納言。洞院中納言。三條中納言。新中納
言。九條宰相。
殿上人

頭中將殿。爲之朝臣。忠長朝臣。公知朝
臣。永豐朝臣。幸房。明豐。長淳。資
任。繁宗少將。雅親少將。資益少將。
十九日大饗方條々
一加補家司四人被定。
大外記淸原業忠。正五位下高階經康。攝政殿候
人。正五位下源友長。九條前關白候人。正五位下平
知定。
已上永德加補家司亦四人也。
一尊者事。
可爲左大臣殿後六條云々。
永德度右大臣殿也。今度右府不快之間可
被申左府云々。
廿三日。於室町殿御著陣兼宣旨御習禮也。攝
政。萬里小路大納言。廣橋中納言。左大辨
宰相。淸房。頭右大辨忠長朝臣。右中辨幸
房。官務周枝宿禰。羽林頭中將殿。山科少
將繁宗。飛鳥井少將雅親已下濟々祗候之。
各直垂大口。
今日可被行小除目之由有沙汰之處。依室
町殿御衰日。納言以下數多宣下。
廿四日。室町殿任大臣兼宣旨幷御著陣。
次於室町殿有大饗定事。御次第殿下御作。
公卿萬里小路大納言。左大辨宰相。
奉行家司頭右大辨忠長朝臣。
陰陽師安倍有盛卿。天文博士有季。
諸大夫康任朝臣經康。
一攝政殿有參內又室町殿儀見物給。
一饗膳不及被立箸被寄懸許也。
一公卿饗各送其人許使有祿云々。
一御次第事。攝政作進之一帖。大將着陣一帖兼
宣旨各眞名假名云々。
一申文事。
右大辨宰相直辨。右中辨座頭官務史盛久

國加賀美作馬科盛久。

一今日奉行。

萬里小路大納言　同下行物御出方御訪等　被出切府。松田美作守以下加判。後自粈井許請取之。大饗方奉行家司頭右大辨御出方同之。武家奉行　松田美作守秀藤。寄人飯尾肥前守爲種。同加賀守爲行。齋藤加賀守基貞。松田對馬守貞淸。飯尾大和守貞連。同左衞門大夫貞元。布施民部丞貞基。

一御祈禱事兼日被仰諸寺諸社云々。

七月四日　室町殿渡御攝政第。聖護院三寶院兩□准后三條大納言別當藤宰相入道參會。料理所始可爲來十日云々。

件在所事中門內南廊除此一間。

十日有上客料理所始。

今日被定大饗雜事始云々。

十九日。於室町殿有御習禮云々。

廿三日。御習禮三箇日同延引。

廿四日。御習禮也。

被出明日床子座御點了。

## 大饗雜具目錄長祿二三十註之

大饗雜具。永享四年七月廿五日差圖定。

一御簾

寢殿南西兩面。母屋七間。庇十二間。西對代。母屋庇合八間。公卿急所。七間。細殿座。三間。祿所南面。四間。

一弘筵

寢殿南庇幷簀子敷。同西庇。對代。南弘庇。

中門廊。五箇間。侍廊。

一差筵

一鎭子

一壁代夏

一同綱
一几帳帷。南面東第一間東南兩面各二帖。
一同手
一軟障五帖
一同綱。三筋歟。
一白布綱。或略之歟。　一濱床。同。
一祿綱一筋。打交。
一耳金。　一在座。
一栗形。在座。　已上鐵。黑漆。
一疊。
親王座一帖。面龍鬢。緣青地唐錦。裏白生絹。　辨少納言座三帖。面國莚。緣兩面。裏布。　一世源氏座一帖。殿上人座六帖。諸大夫座二帖。雜色所衆座二帖。或略之歟。　召人座二帖。裏用美麗布。
已上紫緣。
上官座六帖。緣端。
一地鋪九枚。

大臣料二枚。面龍鬢。緣青地唐錦。裏濃打絹。
大納言以下料七枚。面龍鬢。緣大文高麗。裏白生絹。
員數可依公卿人數。
一茵一枚。面白堅織物。緣東京錦。裏白生絹。
一圓座。面白堅織物。裏白生絹。
大納言料八枚。紫錦緣。中納言料六枚。青錦緣。參議料四枚。高麗緣。
以上員數可依公卿人數。
非參議大辨料一枚。面龍鬢。緣高麗。裏白生絹。
一菅圓座讃岐五十枚。此內厚三枚。
一四尺屛風五帖。
一格子七間料綱十四筋。或略之歟。
一燈臺十四本。
打敷十四枚。金銅盞六口。同盤六枚。同金輪。同箸六。
此外差油料六具許可用意之。
一机

公卿料廿一脚。赤木。牙象足。在金物。面白生絹。
辨少納言料七脚。黑柹。同足。在金物。面同。
上官料六脚朴木。榻足。無金物。面黃絹。
以上員數可依參入人數。
一簀薦廿枚。面如簾編竹裏白絹。公卿机下許敷之。辨少納言上官等不敷之。
一幔。班幔。纐纈幔。　一同柱。
一酒部所幄。二丈。一宇。
柱九本。八イ　棟一支。桁二支。梁二支。杭十二。已上黑漆。覆一帖。十二幅。綱八筋。大小。
一火爐具
鉢一口。金銅。鑵子一口。在金輪。白木臺一脚。修理職造進之。
一酒樽一口。黑漆。
臺一脚。黑漆。緋綱三筋。黑漆杓。
一瓶子四口。白瓷二口。青瓷二口。
一白木二階棚一脚。修理職造進之。
一樣器十五。在蓋居否。
一繪折敷廿枚。白十三枚。青七枚。
一白木床子三脚。修理職造進之。
已上酒部所具。
一上客料理所垂布。白。南北兩面垂之。
一同疊。紫端二枚。或高麗二枚。紫四枚。緣端四枚。
一同棚二脚。各三階或二脚。中央間東西各副壁立之。其中二行敷疊。
一爼二脚。修理職造進之。　一包丁刀二柄。
一懸子。　一國折敷。
一繪折敷。此内廿枚送酒部所。　一綠青折敷。面押白絹。
一鉢。　一鍋金輪。
一長櫃。　一料米。　一炭。
已上料理所具。
一穩座折敷高坏。大臣各三本。自餘各二本。
一同召人衝重。各一前。員數可依人數。
一饗。
史生各一前。官掌同。召使同。使部同。
撿非違使同。立明官人廿人各一前。尊者

雜色車副牛童各一前。
一祿
尊者白大褂一重。以二領爲一重。織物細長。或綾。一領。
大中納言白大褂各一重。參議三位鳥子重。四位赤褂各一重。非參議大辨赤褂一領。辨少納言赤衾各一重。以二帖爲一重。大夫外記史赤衾各一領。六位外記白六丈絹各一疋。六位史黃六丈絹各一疋。史生白布各三段。官掌同各二段。召使同。使部同各一段。召人五位白褂各一領。六位六丈絹各一疋。立明官人廿人六丈絹各一疋。
一尊者引出物馬二疋。餝鞍。
一打出衣。
一御遊具。
笛筥。笛。笙。篳篥。琵琶。箏。和琴。
一所々座
史生。官掌。召使。使部幄。木工寮。大藏省。掃部寮。主殿寮。
檢非違使。立明官人。黑漆臺盤。尊者雜色車副牛童。
一檢非違使床子二脚。木工寮造進之。
一史生祿案二脚。
一侍所臺盤二脚。
一名簿唐櫃一合。
一宿申簡。黑漆。
一侍所簡。白木。
同袋。兩面。裏黃絹。
大概如此。漏脫事追可注進之。
文化八年辛未後二月以水府本書寫校合了

# 續群書類從卷第九百六十九

雜部百十九

## 三條中山口傳第一甲

乘車儀事
褰簾人。　下車儀。　乘下間儀（付。前駈降所儀。御引替時前駈降儀。）　參御車儀（入御後。同人幷侍等徘徊儀。）　御下簾插樣。　褰御簾樣。
高野御幸事
出行事
車。　車副。　前駈。　柄立袋。　行列。
又車。　前駈取松明。　同人不入中門內。
仕丁持雨具。　中大兩童子乘物。　御車副人數。　御車副於片口留警蹕。
牛車輦車人參內事
牛車。　輦車。　下車所。　內裏御參時牛車宣旨以前引入御車。
禁中故實事
前駈幷侍等居所。　不往反所々。
立車事
法勝寺儀。　常御所儀。　陣頭儀。　停者車。

一。（三條）乘車儀事

○褰簾人　子息役之。若無子息(イナシ)。前駈上﨟役(イナシ)之。

○下車儀　立榻人前駈第二人役之。子息取沓者。第一人立之。　取沓人同第一人。有子息者必取之。　取裾人取沓人便取之。

中山○乗下問事　院中儀。五位殿上人立御榻。召次長取傳之。四位院司進御沓。同長傳之。又四位院司立御榻。事(車イ)粗出來之時。其中上﨟立御榻。御簾(イナシ)手卷之役人參事尋常無之。・(手卷イ)大饗尊者移徙。亭主共必有此事。一家公卿幷供奉上首勤此役之時。立車右方褰簾云々。付轅事。御幸時廳官羞(シリゾク)御車。主典代相加之。又院司上﨟二人若一人。相副之(サショス)。乗車時。立御車右方。以右手可持上御簾。下車時。主人手自卷簾。仍無役人。乗車時。御簾役人立右。榻役人立左。下御時。御簾役人立左。榻役人立右。三條可儲之實房公也故入道左府。依脚氣所勞。於榻下被着沓鼻廣。三條御榻役人立榻後。自轅上ヲヨヒテ可開開戸。乗御之時。同人先開開戸。後立御榻。乗御後可閉之。有職(ウシキ)雖勤前駈。房官上﨟可立御榻。置御尻切於榻上時。僧綱進之者。自轅上置之。自同下可置御尻切也。俗家法子息勤・(之イ)此役時如此。前駈ハ不然。只自轅下置之也。仍准中之(也イ)。御尻切役人者。右御榻役人者左也。・(勤イ)此役之時。乍持松明進寄御車邊。捨松明立御榻。下御之後。又取松明可進(追イ)加之。御榻大童子取之。可授房官。御尻切侍取之可獻僧綱。前駈ハ御車止御牛出後。御童子長取榻可授前駈。前駈立之開開戸。引出引懸筵榻(イ衍カ)。房官取御尻切。可授僧綱。入御之後。御車副可下御簾。押入引懸筵出(乗イ)御之時者。前駈立御榻後。下簾一方ヘカキトリテ開開戸。引出引懸筵。下簾ヲ御簾役人ニ授。令乗御之後押入筵閉開戸。前駈於大炊御門辻可降。御引替之時。前駈尤(左イ)可降。但近代不然。前駈中門邊侍御

車宿可徘徊。前駈以車左爲上﨟。後騎以右爲上﨟。降立時同之。

三條○參御車儀　於門外乘御車時。榻下可脱沓。奉懷主君乘御車時。可撤御榻。下之時同前。雖參御車人。不踏御榻。定例也。奉懷主君自御車下ニハ。自後(ウシロ)可降也。但可隨彼命。

○御下簾插樣　二幅アルヲ。右ノ幅ノ左端一尺餘カシモヲ取テ。筒貫ノ端ニハサムナリ。左又同之。其後簾ヲ卷ニ。上七八寸許ヨリ下簾ヲ取加テ卷上也。後方不插之。

○褰御簾樣　御簾ヲ持上ル時。下簾ヲ左右共一方へ引出テ具簾ヲ持上之。榻役人立車左。立了テ榻邊可蹲居也。乘下共以如此。沓役人乘車時自左。下車時自右進之。隨主人之後押沓也。但自轅下又自上。兩樣隨役人有差笠ヲ擁スル役人。下﨟歟。但可隨事也。懸替所ハ後騎ハ下馬。前駈ハ不然。

已上僧役。

一。三條高野御幸事〔イ朱書。高倉院嘉應元。三。十四。後白河院高野二度御幸。出家。〕

○奥院　並敷繧繝端帖二枚。可加唐錦茵敷三枚事。寢殿北面之外無此儀歟。御座後方可立御屏風一帖。今儀三面不可(イナシ)立之。爲上皇(後白河)御座。御所南間南北行敷帖二枚。無絶(緣イ)席。爲御室(覺性)宮(守覺)御座。宮御座。敷御室御座南。以東庇爲公卿座。以西庇爲殿上人座。長承仁安例也。大臣座自北簀子南北行敷瓦之。院中儀總大臣座無絶(緣イ)席。大治長承仁安。拜殿立高座。敷七僧座。仁安七僧座。南北庇正面間敷帖。此儀不打任。敷加母屋帖一枚。令著三人可宜也。橋殿内殿上人猶(イナシ)可先月卿雲客。於橋殿洗足。著拜殿之座之後。御布施以前可下括。於橋殿内有御參會。仁安例也。且其外無便宜之故也。上皇自南面令昇拜殿御者(オハシマス)。御室自東面可宜。砌下御蹲居不可有之。御所御共。自御參會

所至于拜殿。不可盡人數。御藁沓役人各一人。上童侍等許也。但三綱少々隨體可參也。上童侍隨便宜居庭上。僧綱已下可退下也。公卿降立後。上皇同時可有下御。東面南面可依上皇下御便宜。宮兼令降立給者。御室下御之時。可有其禮。但公卿不同。其禮者定無骨歟。然者宮昇降可同御室御進退也。令昇御者。下御東庭之時。卽可令立留其所給。至于御參會(奧イ)之所奉隨給之條不可然。還御者。先宮次御室可宜。御共人多分可候宮御方也。

○御影堂　御座。寛治南庇。(敷様不分明。)天治南庇敷高麗端帖二枚。其上供茵。仁安南庇正面間重敷大文高麗端帖二枚。其左右敷小文帖(イナシ)宮御室御(西イ)兩帖。今度東間供茵爲上皇御座。西間爲兩所御座。公卿殿上人座。寛治以後共不分明。仁安公卿祇候孫庇。侍臣徘徊前庭云々。孫庇座傍南長押一行也。東上也。今度可用此儀。上皇自正面。兩所自西間可令昇御。自後戸令昇御者。同時兩所尤可然。御共人々雖多不可群參。長者進退者。正面爲(イナシ)御座者。自東面可參進。東間儲御座者。自西面可參也。

○金堂　御座寛治不供之。只御入堂許也。天治禮堂正面供之。大治長承不分明。仁安正面間敷高麗端帖三枚。後立御屏風一帖。今度禮堂廻南間可重二枚也。御屏風奧院之外總不可立之。正面西間敷互帖二枚爲兩所御座。南階以東簀子敷帖爲公卿座。先例雖不分明敷之。

○大塔　天治長承不敷御座。御入堂許也。大治雖見有御座。其所不分明。(間イ)公卿侍臣祇候大床。仁安無御參。今度正面外陣閭內儲御座。(可重敷二)枚。其西間敷互二枚。爲兩所御座。南階以東敷公卿座。御誦經導師入北戸自內陣可進退也。

○准胝堂　寛治天治大治無御參。長承雖有御(後白河)參。御座不分明。仁安正面東間。爲上皇御座。西

間爲法(覺性)親王御座。而臨期五宮(守覺カ)召殿上人。令移敷
正面帖於東脇間御。今度不違仁安例。又仁安無(後白河帝御幸也)
公卿座。(進退イ)今度南階以東(東面簀子。)敷之。御導師自西簀
子可參進。
○御巡禮　仁安御影堂。准胝堂。金堂也。今度
可爲其定。於大塔者可隨便路。
○傳法院御誦經　入御之後有御參者。入後
戶經堂內可有著御。
○兩所(御室宮)御參會　院(後白河)御所房官先行歟。
○金堂已下御誦經　導師座於後戶賜祿。仍堂前
座不可有之也。
○長者於御影堂砌(前イ)賜(手イ)祿　降北階。於西庭可
給。無別儀。只取畢卽有職一人進出取之。可給
房官。
○御菴室　御座已下不可有其沙汰。御膳不
可相儲。御贈物御本御護以薄樣裹之。直可被

進。
○御登山御先達祿　乍著藁沓役之。
○御誦經幄　金堂。大塔各別可立。若有便宜
可通用者。可置替御誦經幷案等。
○奧院被埋御經　打任者撿挍自可持之。不
叶者弟子令持。何事有之哉。
○御隨身追御前　總不可有之。
○長者進御引出物　寬治已後代々長者皆持
參也。
仁安以藏人付右兵衞督(兼雅)。進之。今度降立座
後簀子之時。有職取御贈物可獻。(房官傳之。)經公卿座
前。自一座人就御所。北面可進入之。
○宮御誦經日　長者座。奧院北庇正面西脇
間傍南柱東西行可敷帖。御影堂長押著座。(イナシ)可爲
無骨。雖御門弟於當山(高野)尤可有賞翫。無參會可宜
歟。尙可參者。兼可入內陣(僧イ)戶內。可敷菅圓座。此
外所々西脇敷半帖。可座僧・綱。有職各一方尤

可然。上童奥院三綱座後簀子。御影堂同座末可著也。

奥院兩所御座。先例御室（覺性）經綱宮（守覺）大文也。共雖親王已御門弟也。尤可相替。任先例雖可儲兩方。今度御所（兩イ）西相並可儲之。

同御誦經理趣三昧。御布施取可入正面間。金堂御座正面間。傍南重敷二枚。其西間敷一枚。可爲兩所御座。御布施取自東面南戸可置御影堂東間重敷（爲イ）御座。西間一枚。敷宮御座。御布施取自後戸可廻西面。

○御社　宮御方令持幣三（二イ）本。（イナシ）御幣之條難叶者。取分一本御拜。非無准據。雖一本不能御進退者。乍三（二イ）本役人可令扶持之（イナシ）。御幣持立所。壽永自御影堂西庭。三綱持之先行。後日中山內府（忠親）聞之。兼可持立社頭歟云々。尤可然。兼拜殿南北兩所可儲之。不可持進。

○兩所御誦經　一間立案二脚。又傍例也。

○御參向　長承高野御堂（室イ）。令參向中院御。令向大門御事。御供人々相互進退有其煩。相儲中門邊。至于御所。令參給可宜。

○裝束　仁安上童中童子共水干狩襖。房官童部。或同裝束。或染裝束也。今度水干狩襖雖爲先例。染裝束可宜。上童可刷衣者（イナシ）可付花。同從水干小袴立烏帽子可宜。主人雖著染裝束。此式可宜。

○宮御方　上童　路次水干袴。御登山水干袴。御誦經染裝束。同從　路次幷御登山水干小袴。折烏帽子。御誦經同裝束。立烏帽子。不可用脛巾。　中童子　主從其儀同前。

○禪侶幷三綱已下童部　路次幷御登山水干小袴。御誦經當色（官イ）染裝束。

中山一。出行事

○車　毛車　束帶或直衣時乘之。納言以上

懸下簾。參議不懸之。捧蔀車（サヽゲシトミ）號半蔀車。直衣時乘之。（イナシ）但頗刷時可用也。可懸下簾。遠行時不懸之。（襃以下十二字イナシ）千加倍物見車。網代車號。褻時乘之。下簾或懸之。或不懸。

○車副　太政大臣六人。左右内四人。儀同三司之時。可具四人歟。二人歟雖有議。猶被具四人了。（イナシ）

○前駈　無定員數。（イナシ）但不可過二十人。其以下可隨見在。又依事可斟酌。主人束帶時前駈同之。主人直衣時。前駈衣冠或束帶。主人雖著直衣毛車者。可著束帶或衣冠。主人烏帽子直衣時。（イナシ）前駈布衣也。前駈者路頭騎馬在馬車前。主人下車之後皆在後。但秉燭之時猶前行。是近代之法也。古儀。雖秉燭必不前行。少々在前。又在後。大納言八人。中納言六人。參議四人。近代必不存此旨。多少隨故意。中納言參議等尋常出仕之時。不具前駈。不論公私。有晴者必可具之。

成海 前駈平笠　不供奉之時。令持法師原。

成海 柄立袋　晴時隱唐笠中。

○行列　先居飼　次舍人（任イ）。已上共或一行或二行。　一說。左右大將者一行可立之。仕（任イ）一府之故也。給兵仗之人者二行可立之。仕左右之故也。　一說。行幸供奉之日（イナシ）。左右大將相並之時。一行可立也。他時者二行可立之。

次隨身（イナシ）　具一員之時。一員之輩在此列。於府生番長者。在前駈後車前。是近代之法也。古儀。府生番長猶可在一員列。不具一員之時。隨身在前駈後。

次前駈二行相並。以下臈爲先。　次車牛飼持榻。立車左鴟尾邊。　次雜色　次雨皮持仕丁著退紅持之。爲衞府督之人。令衞士持之。近代無此儀。　次笠持大番著白張持之。三條

○車 網代車是也

半蔀御車　晴ニ取テ爲宗事ニ可乘。物見ノ（本座イ）簾可上者。前方計可宜。仍主上御輿張フクラミ

ヲサゲテ可上也。タカクナレハ鳥トヲラヌト
オホユト。白川院仰アリケレ(リイ)ハ。法皇御車四間
ナカラ被上タレハ。サオホユルカ故如此申也。
車副六人四人依時儀。前駈人數幷後車等。又以
同前。
上臼御車(號網代車是也イ頭註)　尋常(時イ)晴儀可乘。車副晴儀六人。內
內四人。前駈已下同前。
ナマシ金物車 長物見。切(イナシ)物見可有用意。榻(撥イ)同金物散物。褻儀也。車
副二人。晴儀四人。前駈後車(イナシ)等同前。
已上可懸下簾。ウネリシリカイヲ可用。
下簾(可イ)可上樣(儀イ) 一本朱書。二幅アルチ。右幅ノ端一尺餘カシモチ取テ。ツヽヌキノハシニハサム也。左又同之 其後簾チマクニ。上七八寸許ヨリ下簾チ取加テ巻上ル也。後方不挿也。
スタレヲヨキホ(左右)トニアケテ。シタスタレノサウヲマキタシテ。
アケ(カイ)テノチ サウヘオシカウヘシ。凡御車簾必
可上。
○前駈取松明事　舊例。御幸之時。殿上人取

松明之外。敢無其役人。而自白川院末鳥羽院御
時歟。召次數十人取松明。二行步列。殿上人不
取之。雖然近代モ刷(ツイロウ)時殿上人取之。關白家法性
寺之時。雜色二人取松明先行。是山科御出連々
之間(時イ)其路嶮難之故。自然出來。其以往不然。但
近代粗被用其儀歟。(一本云。法親王前駈於馬上取松明事。可差笠否事。舊例不取松明。新儀甚無其謂也。)大臣家其儀不然。只前駈松明許也。於陣
中者房官尤可取松明。馬上前駈不取松明。御童
子二行先行。何事有之哉。御幸召次二行先行。
尤可准(列イ)之。前駈於陣口(中イ)下馬。卽取松明。御車之
前可步行。
○前駈不入中門內事　前駈總不入中門內。又
不進軒廊邊。但夜中無人之時ハ强不可有其憚。
三條○仕丁持雨具事　稱親王家。被補勅別當。何
限仕丁不被召仕哉。自今以後。以仕丁可被持雨
皮具(イナシ)令(イナシ)持之可宜歟。

三條○中童子大童子乘物事 朱書ニ云 同下馬事　中童子大童子法式ハ。不能乘馬。但(イ)長途又爭(ナ)不可然(シ)歟。夜陰陣ノ口ニ(內イ)至迄乘馬。强不可及巨難。

○御車副人數事　褻晴。無各別之儀。仕丁數(任本イ)六人也。

三條○車副於片口留警蹕事　關白家子息。近衞官敍三品。拜賀之時。車副一人於片口留警蹕。

三條一。牛車輦車人參內事

中山○牛車　立別但閑院儀。從東陣参上。於二條西洞院隅可下車也　入從上東門。至于式曹子坤角下車。卽立車於此所。

中山○輦車儀(イナシ)　美福門之內裏之辰也　當東西中御門南北大宮　於待賢門移乘輦車。當東西土御門南北　於春華門前下車。

已上俗儀也。至于(イ)僧只今不覺(ナ)悟(シ)。僧侶拜賀之時。參從朔平門之樣。粗覺悟之。且令(イ)引檢可(ナ)(シ)申。自待賢門乘移輦車　庇車也。號雨眉車。諸司二分著束帶引之。　至春華門。里內者於陣外移所乘車引之(稅イ)下車所。牛車輦車ノ人ハ。於二(ニイ)條西洞院辻下也。其以五(可カ)十未滿人於門外不下云々。

中內裏御參時。牛車宣旨以前引入御車於陣口事。左衞門陣也 甚(審イ)不當也。雖然近來必不然。上官之車陣口ニ一兩ニテモ立ツレハ。其上次第ニ立ル間。多及陣口(內イ)事有之。頗無其謂。

一。禁中故實事

○前駈幷侍等居所　無指公事日ハ。陣座ニ可懸尻也。又中門南廊北面緣可宜。自南出戶可入。

○不往反所々　南殿前。殿上小庭。床子座。已上地下。

中一。立車事

如法勝寺ニハ。門ノ左右ニ取テ。御幸ノ成ル方ニハ長吏以下僧車ヲ立ツ。御幸不成方ニハ。攝

政已下公卿等車ヲ立ル也。
常御所ニハ。西足ヨリ北門(小イ)ノ方ヘ。攝政已下俗ノ車ヲ立。假令南面(向イ)御所ニハ。自門北始テ北サマヘ俗車ヲ立テ。自門南始テ南サマヘ法親王以下僧車ヲ立ル也。僧俗必自其方雖不參。引廻テ如此立也。
左衞門陣方若二條面(西イ)ナラハ。置路ヨリハ北。自町ハ西ニ。轅ヲ南ニテ可立也。三條坊門面(西イ)ナラハ。坊門ヨリハ北。自置路ハ東ニ轅ヲ南ニテ可立也。陣頭ニ立車事。所々皆可存陽明門儀也。公卿ノ車ハ彼門ノ北ニ。轅ヲ東ニテ南上ニ立之。宰相ノ車ハ公卿ノ車ニ相對テ。轅ヲ艮ニテ立之。藏人頭車ハ大路中央相當額間。轅ヲ東ニテ立之。殿上人ノ車ハ自大宮東傍近衞大路北。轅ヲ北ニテ西上立之。准之閑院ニテハ公卿車ハ東三條北面ニ。轅ヲ北ニテ西上立之。宰相車ハ西洞院ヨリハ東。置路ヨリハ北ニ。轅ヲ東ニテ西上立之也。自三條坊門西參時ニハ。公卿以下車自坊門ハ北。自置路西。北上立之也。准此等儀者。御車ヲハ東三條北面ニ雖可立之。若關白幷大臣等被參會之時。下部之中不慮之狼藉出來トテ。置路北可宜之由申也。但可隨時事歟。
中山注進　御前向御車事
任本儀。尊者車向門前。(朱書ニ云。又親王令用此儀給。可有何咎哉。且又爲家風隨人不違先例之定法也。於令用來者。此儀者今更不可被改歟。)

# 三條中山口傳第一乙

禮儀事
路頭付押車儀。　陣中。　親王於陣外御(御イ)下車所
閑院儀。　於陣屋幷脇壁外扣車付御院參儀。　東面北(車西イ)
門入時。　入西院門時。　參上若退出間公

卿侍臣降庭親王昇沓脫著尻切又脫禮。　倍侍輩上下禮(付於簀子等行逢儀。)　堂上。　前駈侍等公卿已下參入時禮。　公卿在座上(庭イ)。親王過簀子時禮。　著座間(付正禮著座儀。)　父子禮。

客人來臨事

大臣。　大納言。　職事。　諸大夫。　大外記大夫史。　醫師門生舞人(イナシ)樂人。　茵上座。　若宮入御度々例。　客人來入之時火桶置火儀。　護持僧參內。　下車入門幷輦車所(付車出車兩數事。)

使者禮之事

向其門外告示(イナシ)。　昇居所。　對面時長押上。

上下對面儀事

其座。　奥端座。　長押上下座。　同座。　御簾內外。　申次人(付居樣儀。)　乍立談物。　於座上對面。　昇長押時足進退(付突膝儀。)

一。禮儀事

○路頭　關白幷大臣等奉逢ハ。前駈下馬シテ馬ヲ前ニ引(可イ)カセテ。各車ヲ過テ可乘也。後騎輩又下(僧イ)馬。御車過テ後大臣可遣車也。扈從僧・綱等ハ。大臣車過テ後可遣也。納言已上猶如此。但隨時可依人歟。

三條大臣(朱書ニ云。路頭禮。白河或本自此書之。)　遇攝政大臣扣車テ。前駈下馬シテ車ノ傍ニ可列居。攝政前駈下馬シテ可過。遇大臣。其儀大略同上。下臈之大臣先扣車。上臈又扣之。前駈下馬之事同上。

大納言　遇攝政大臣大納言等。其儀同前。

中納言　(朱書ニ云。遇攝政。遇大臣。遇大納言。遇中納言其儀亦同。)

參議　遇攝政稅駕(攬脫牛也)ヘシ。其儀大略同大臣。(イ傍書云。參議遇大臣之禮。自古有口傳。)

遇(イナシ)大臣有二樣　一ニハ。參議稅駕テ可立榻。立榻之樣有二。(一本頭書。遇攝政參議ハ別不傳之。然而與大臣更不可異也。)　一ニハ。參議稅駕シテ置轅於榻上。是禮之淺也。一

ニハ。欲下車之時之如ニ立榻テ。置沓於其上。實ニハ不下。只表欲下之由計也。此禮深也。一ニハ。不稅駕。只扣車。此禮ハ近代例粗有之。但無謂云々。與大中納言無差別。頗無謂歟。遇大中納言參議等。互扣車。大辨宰相遇大臣時。榻ヲ車ノ前ニ立。殊大辨ハ禮ヲ可深之故也。宰相ハ榻ヲクヒキノ本ニ立也。

藏人頭　遇攝政可下車。遇大臣可稅駕。遇大中納言參議(中納言イ)。可扣車。

辨官　遇大臣參議。大辨ハ同參議禮。非參議大辨ハ稅駕ヲ不下。中少辨ハ下車シテ立轅外。遇大中納言參議扣車。中辨遇大辨。少辨遇中辨。不知其禮。

五位職事　遇大臣稅駕。遇大中納言參議藏人頭扣車。

殿上人　遇大臣。四位ハ稅駕。五位ハ可下。遇大中納言參議藏人頭皆扣車。

地下諸大夫　遇大臣。四位以下可下車。遇大納言。四位ハ可稅駕。五位以下可下車。遇中納言參議。四位ハ扣車。五位ハ不下否可在斟酌。

大外記。大夫史　遇大臣下車テ平伏ス。遇大中納言稅駕。不可下車。遇參議扣車。

中山(イ云此事在別卷中)(已上一卷イ)

外記史等。不論五位六位。於陣中ハ大臣ニハ居レトモ。納言以下ニハ不居。但敷政門之內ニテハ中納言ニモ跪也。陣外一切不致其禮。准之(イナシ)者。綱所輩ハ其禮ノ深カヽルマシキ事歟。可有御計。

俗家法ハ侍ト成ヌレハ。公卿已下公達諸大夫等ニモ立向事一切無之。大外記大夫史非大臣。納言以下ニ不居。然者於侍者一切不可立向。其內戚從頗其儀強不可有事歟。是法務僧正之外難蹲居之故也。

○抑車儀　途中行逢時。四五段許ニ成テ下簾ヲ。抑車人ノ車通之後。暫猶抑之。是殊深禮

也。近遣(進イ)寄テ押之。卽遣過ハ疎遠之儀也。下﨟先ニ遣。上﨟後來。其(于イ)時下﨟車ヲ遣返テ立向テ押之。上﨟通之後。如元又遣返テ行之。雖下﨟押車フ(ツイ)ルニナレハ。必可被(令イ)謝遣之。同位同官又可然。凡僧與僧綱相逢時。凡僧禪僧三綱押車可通(隨イ)僧綱。於師弟父子者。必下車可居轅ノ外也。凡雖同官同位。相互押車令謝遣。是舊儀也。而近代無其禮歟。況三綱僧綱者。必押車可通禪僧歟。凡僧逢僧綱時。又以同之。房官乘馬逢僧綱時。可下馬也。乘車時ハ雖不降。乘馬之時必下之。殿上人與公卿相逢古禮也。近代絕了。於侍者不論僧綱凡僧等。必可下馬。但威從乘車時。押車不可下。乘馬者可有斟酌也。

三條
○陣中　關白被參會者。定テ被立置路外歟。然者前駈去其方。一行可步列。宮又可令經置路外御也。其後前駈又二行可立置(直イ)也。大臣前駈(者イ)・去其方儀同前也。但親王不可令下置路御。納言已下ハ前駈猶二行。主人可令經置路上御。殿上人雖爲英雄。總不可有其儀。自陣口至門內。法親王大臣公卿侍臣等。皆經置路上。

○法親王於陣下御々(イナシ)車所事付關院儀　自二條面若可令入左衞門陣方給者。自町西へ五六段許置路ノ上ヲ可遣入也。

○於陣屋幷脇壁外扣車事付御院參事　於陣屋幷脇壁外扣車。是法式也。又於門脇降御可宜歟。代代御院參引入頸木於門。

中
○東面(西イ)北門入時事　大臣御前ハ出所ニテ蹲居也。

○入西院門時事　大臣御前ハ　經其中之時。跪テ平伏也。

中
○參上若退出之間公卿侍臣降庭親王昇沓脫著尻切又脫禮事　公卿降庭時。尤於地下可著

之。又可脱之。但可依人事歟(也イ)。故入道禪下(忠實公)ハ。宇治左大臣(賴長)已下公卿雖連居庭中。乍著被昇緣上。中院大將ハ。殿上人無逃所降逢時。尚以不被昇(イナシ)沓脱上。是人々思々也。

(三條)○陪侍輩上下禮事　凡僧(有職。禪僧。)非職。遇僧綱。准殿上人遇公卿之儀者。凡僧於堂上見下事不可有。無骨者可立去。無逃所者可降立。非師弟父子儀者不能蹲居。只可揖。三綱僧綱遇禪僧僧綱。其禮雖定。只各可有會釋。三綱僧綱ハ尤可(便イ)揖。凡僧三綱遇僧綱。不謂禪僧三綱。其儀可使禮也。

侍(威從。三綱。非職。)遇僧綱(禪僧。)凡僧(有職。非職。三綱。)　於侍者一切不立向僧綱。雖凡僧皆可蹲居。但於威從者。强不可然。是非法務者。不可蹲居之故也。大外記大夫史非大臣者不平伏准之今所申也。已上。

於簀子等行逢事　非師弟父子儀者。不能居。只偸揖僧綱ヲ可通。但可隨人事也。侍等僧綱ニハ相構テ不可行合。無逃所者又可居之云々。僧綱云凡僧。緣下ヘ下事モアリヌヘシ可依人也。

(三條)○堂上(關白大臣有參者。中門南脇方可立去。)　隨人依時可有思慮也。

○前駈侍等公卿已下參入時其禮　逢大臣時。僧綱(付三綱僧綱。)有職。已上敬屈。房官。侍。已上蹲居。
逢大中納言時　其禮同前。但僧綱有職磬折。
逢宰相已下時　僧綱有職磬折。房官敬屈。侍蹲居。
逢殿上人時　關白息ニハ房官已下蹲居。自餘磬折。侍隨人(庭イ)蹲居。

○公卿在座上。親王遇簀子時禮　納言已上不動座。非無禮儀乍座帖上頗可有揖氣。但或去其座或動座。可計時儀也。

○著座間事　大臣著陣之時。諸卿不動座。公

卿上臈著シタル所ヲ下臈難過。淸涼殿儀。公卿座狹ケレハ。上臈令著座。下臈止(出)殿上。

正禮著座　同官同位人來臨スレハ。中門ニ降立テ相共ニ著座也。僧俗相逢時有此事者。執柄ノ始テ興福寺參賀ニ。別當ノ僧正來入之時。(中)對ノ妻ニ執柄被降立事有之。

○父子禮事　降庭蹲居尤可然。但從事供奉之時。致其禮之條。頗可爲無骨歟。又其時不然者。似無首尾。能々可有斟酌歟。

一。客人來臨事

○大臣來臨時事(イナシ)　客亭第一間對屋主人座。敷高麗端帖一枚。其上加茵。主人座不加之。賓座或不敷之。大臣來。無左右著此座。以子息可申只今候之由。

○大納言已下來者不設此座　大納言來大納言亭者。可設此座歟。

○職事來　暫彷徨中門邊。主人出後隨命著座。大辨者著紫端帖。其外職事者只居板。不著座。

○諸大夫　大臣家者。非家禮人可著障子上。昇中門者非禮。

○大外記大夫史　可居侍所。有可仰事被召之時。候賓亭緣。大納言以下亭猶可候侍所。但可隨人。或候障子上。

○醫師門生舞・樂人(人イ)著座　門生可被召簀子。舞・樂人(人イ)參侍所。近久(多氏)等之外不可及簀子。可候地下。或賜部下。或令敷帖。臨時饗應也。

○茵上著座事　茵上座事勅答之時。納言攝政家ニ向ニハ敷茵。雖然或直座其上。或聊押遣傍著座。人々ノ心也。又御書使參后宮之時敷茵ニモ。其使近衞司也。著座之樣又同前也。草座(僧イ)ハ・相具テ可敷。茵上儲座事ハ本所儲之。

○若宮度々入御例　五宮。二條院。御室。宮。

○火桶置火事　大土器入火。居折敷置之。入(中)御之前後。可隨時儀也。

○護持僧參內　先著弓場殿シテ勅使來向。

護持僧モ職事モ乍立相逢テ。職事申事由。其後
昇長押(禰イ)參二間可宜。昇長橋(押イ)ノ上ニ著了。入見參
之儀無謂歟。然ハ里內裏ニモ先立中門邊。職事
(中)降逢テ。申次以後昇中門廊。直可參二間ナリ。

○下車入門幷輦車間之事　小一條院渡御大
二條殿(于時內大臣)許。於門外下御。雖然執柄尙以如
此。況餘人哉。納言已下諸家晴儀ニモ有渡御
者。雖殿上人許。於門外可令降御。爲密儀者。雖
何所隨亭主命可輦車之。難定法式。

輦出車兩數事　出車數兩在テ車寄狹之時。
自門外被返遣。是先例也。齋院御禊時者。一御
車後上臈參之時。三車ヲ寄テ。自餘皆不下。是
定事也。

一。使者禮事(關白大臣公卿)。

○向其門外告示　此儀雖何所不可然。相待
引導。

○昇居所　關白家立中門廊。可申案內。大臣
家可登中門廊。居連子外緣可申次。公卿以下諸
家入中門廊戶可著座。其內各依申次引導可著
座。

○對面時長押上下　隨亭主氣色可有斟酌。
無定法式。

一。上下對面儀事

親王執柄納言以下殿上人諸道者(儒者明經算道明法醫師陰陽師舞樂人)。

○其所御所(座イ)ニハ公卿座也。無內外之儀ニテ。或
寢殿北面。若褻御所。召入者別事也。不然ト云
テ不可有遺恨。

○奧端座　主人奧。客人端也。親王大臣其禮
ヲ深セバ對座不居(可イ)。

○長押上下座　諸道者之外。長押上下不可
有之。但殿上人參上時。上下又可隨人々(所イ)。不及兼
存知。只可隨亭主命也。大臣家雖進其前。不安

座帖上事有之云々。必不可然歟。
○同座　同位同官。亭主可居奥座。一階上﨟猶以亭主可奥座之中品對座。（倚亭主奥座也。）又上品奥座ニトリテ下方ニ居。又端座ノ下ニ居。
○御簾内外　無法式。臨時有此儀歟。攝政直廬除目。或簾中ニ御。或出御也。又主上於朝餉簾中聞食奏事。是御休息之儀歟。後三條院自午時著御晝御座。職事眼前奏之。以下輩不能其儀也。又古執柄等ハ簾中儀總無之。資仲記ニハ。執柄（乍イ）爲簾中被聞事。無其儀之由。殊腹立氣在之。近代如此被坐簾中歟。是幽玄之由歟。
○中次人　雖大臣納言。房官中次之（候イ）。不可有難事也。攝政家五位藏人役之。所詮依近習勤之歟。
○中次人居様　先突左膝。次右膝。一揖。起座時。可廻左方。
○乍立談物　於侍者一切不可有此儀。僧綱以下地下ナラハ可居。堂上ナラハ立地下中之。有何事哉。
○於座上對面　侍已上皆同長押上ニテ（居イ）可對面。其儀臨時可有斟酌。但威從猶可召上長押上歟。

# 三條中山口傳第二甲

三
貴賤饗應事
公卿（付役送。）　侍臣同。　僧綱有職。　諸道者同。　撿非違使衞府隨身同。　僧綱准公卿有職准殿上人可宜。　公卿殿上人饌色目（僧綱凡僧）可准之。　不用高坏儀。　大臣公卿殿上人諸道者饌色目（付役送。）　著袴元服之外貴客來臨時無饗應（居比目儀。）　（中イ）僧綱以下公卿公達等子息若公等（參イ）。饌色目幷公達諸大夫差別事。　（中）亭主供

膳付於御前可食儀。 色目。 御臺四本儀付打敷。 三本儀同。 懸盤六脚儀。 當家代々饌三本儀。二本儀。 又御臺六本儀。 又三本儀。 又褻樣六脚儀。 六本外追物。 中懸盤六脚幷追物可獻次第。 御飯箸臺御酒盞用土器法。 御酒盞每獻可居。 一座人前可居酒盞。 可用銚子提法。 饗膳名各別法。 調膳樣付菓子大小甘子各用二合事。 交菓子筒甘子栗籠。 食樣。

三、

一。貴賤饗（アルシマウケ）應事

○公卿ニハ高坏四本。役送藏人五位。

○侍臣ニハ二本。役送式部大夫五位 公卿高坏之時。侍臣或有用机之例。是頗有儀之時也。如元服歟。褻時必不可有此儀。

○僧綱有職 可准公卿殿上人。但隨人可有斟酌。

○諸道者 紀傳明經醫陰陽者高坏。明法者折敷。舞人樂人等皆折敷。役送侍也。

○撿非違使衞府隨身等○朱書已上在日時勘文。 被召御前之時。皆折敷。役送侍也。○朱書有職饗可准公卿殿上人歟。尤可被准之次第相叶事歟。

○僧綱ハ准公卿。有職准殿上人。尤可宜。

○公卿ノ饗應ハ。高坏例ノ飯ヲフクラカニ盛テ。神妙菜居廻シテ一本箸臺可有之。汁一本。菜六種若八種可居。 折敷一枚ニ汁又一種ヲモ居テ。其比目一坏ヲ可居加也。

殿上人ニハ飯一本。折敷ニ汁ヲ居テ。比目等ハ可爲如公卿也。僧綱凡僧可爲此定。

○高坏居ニナレハ。高坏本數モ多ク成。又アマリ大樣ナレハ。如此計申也。是又常儀也。

○大臣公卿殿上人諸道者 於御前有此儀者。至于殿上人三綱可役。侍猶以不可然。大臣以下各高坏一本。飯。汁一折敷。不加菜。比目相加汁物可居之歟。御料又以同前。爲無內外之儀者。不可過之。諸道者從便宜所者。高坏一本。汁一折敷

也。

三條○著袴元服之外。貴客來臨之時。全無饗應之比目不居之。無內外之賓來臨之時居之歟。

中○僧綱　公卿子息有職。非職。公達子息有職。非職。若公公卿息。公達息。諸大夫息。(イ諸大夫子孫所可有差別。)　僧綱高坏二本。公卿已下子息一本可宜。公達諸大夫子孫不可有差別。俗家ニハ公達諸大夫座列時。藏人五位雖居其末。以折敷居之。此外差別無之。

中○亭主供膳事　可依其所。大臣家ナラハ尤可被勸由仰之。自餘輩爭於御前可食之哉。又雖爲殊無內外之人。再三不蒙仰者。不可然。

○色目事　御臺四本　一本御飯無蓋。可用銀器臺。木箸一雙也。
菜七種荒菜高盛也。　御箸臺木箸一雙。　一本比目菜八種。箸臺。耳土器。酢鹽各一
口。可用土器。　一本汁菜八種。土器可用之。　一本菓子八種。土器可用之。
御盤三枚　一枚汁菜八種。土器可用之。　一枚醬（コツケ）漬菜二種。土器。　一
枚酒盞。土器可用之。

尋常御膳菓子酒盞可除之。

打敷用織物疊上敷之。先例雖不覺悟。今按可敷之。

臺三本　一本飯菜。七(八イ)種。箸臺。　一本汁菜八種。　一本菓子八種。

盤三枚　一枚汁菜八種。　一枚漿漬菜二種。　一枚酒盞。

打敷織物打敷。

尋常ニハ菓子酒盞可除之。猶可爲三本者。可加比目一本。

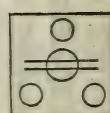
(經中)○綵色懸盤六脚。面織物。　本數不可過六本。
一脚御飯銀器。御箸在臺。　一脚四種。高盛御菜。　一脚御比目菜。　一脚平盛汁物
御菜。　一脚同前。　一脚御菓子。　已上盛銀平盞。

同折敷五枚　一枚御酒盞。　一枚御比目。御菜八種。　一枚
御熱汁物。御菜八種。　一枚御冷汁物。御菜八種。　一枚御湯漬。御菜二種。　已上盛
白土器。

○當家代々饌　臺三本　一本飯菜七種。荒菜。已上銀器。
箸臺木箸一雙。　一本比目菜八種。酢鹽器一口。　箸臺土器。　一本汁一
菜八種。　平盤一枚汁一種菜。　中盤一枚漿漬菜二種。

臺二本　一本飯菜。箸臺。　一本汁菜八種。
盤二枚　一枚汁。　一枚漿。
○御臺六本有打敷。　一御臺居御箸。(有臺)。　二御臺四種。
三御臺窪坏。　四御臺平盛。　五御臺高盛。　六
御臺菓子。　次供御飯居平盤。陪膳之人取之。居一御臺。　次供御汁
物居平盤。加居御菜。　次御酒盞居中盤。　次御酒銚子盛。
○又御臺三本　一御臺御箸一雙。(有臺)。四種二口。　二御臺
御菜等。　三御臺菓子。　次御飯居平盤如先說。　次御汁物同前。
加居御菜等。　次御酒盞同前。　次御酒銚子。　次御湯漬
居盤。加居菜。　次御湯提。
○褻様　一脚飯箸酢器可加居之。　一脚菜。高盛。　一脚比目菜。
一脚汁物菜。　一脚同前。　一脚イモ菓子。
○六本外追物事　御酒盞。薯蕷粥。右兩種之
外不可有之。薯蕷粥入提追供事。雖非法式可隨
體歟。
御酒盞片口銚子。無異儀。

○懸盤六脚幷追物可獻次第事　一脚御飯御箸御酢器可居加之。御箸銀箸幷木箸共置之歟。居様此定也。全分用
銀器之時。加置銀箸。不然之時只木
箸計也。　一脚御菜四種。高盛。有定盛物歟。　高盛也。



非四種歟。定盛物在之。
○御飯箸臺御酒盞事　御飯箸臺。雖酒用銀器。於御酒盞供土器。
○御酒盞事　三獻每度土器可供之。以様器
可下公卿殿上人歟事。不可然。一座人必可居酒
盞。別酒盞事也。
○可用銚子提事　朝覲行幸之時。主上御膳
用銚子。元服著袴等饗。用片口銚子。然者銚子
者存式之日用之。賓客羞膳之時。用銀提。關白
家臨時客。用提者也。
○饗膳名各別事　中山注進本不見　折敷高坏机等謂之饗。高
坏謂之膳。本數不可過六本。比目不居之。(無內外賓客之時居之。イ)
○調膳様事　飯ヲバカタウツケスシテ。マ

ロラカニ可盛。四種器不可入物。高盛平盛可有高下。菓子高盛程也。

餅　四破ニシテ盛之。定事也。又調小餅圓形。盛之。自上古常事也云々。又樣々切盛之交菓子之外不可然。近代他菓子各雖盛一種。限餅盛二合。甚無其謂事歟。

菓餅　三月三日殊用之。其外不然。

菓餅　常不見。但晴時菓子用之。尤可盛椿葉用之。鷄冠木葉ヲ用ハ。不打任事也。

大柑子　袋脱テ聊付皮盛之。甚非也。全分皮ヲ脱。厚方ヲ外ニテ可盛也。

小柑子　半破シテ仰サマニ盛之。

橘　不破不脱。只不變其體盛之。(其イ)春柑子類ヲ爲上(イナシ)々由。兒女子申。全不知之。只隨其色便宜居之歟。

棗　獼猴桃　共不脱盛之。コクハ晴菓子必可盛之。

梨子。柘榴。栗。柹。薯蕷。野老　已上皆脱盛之。梨子ハ乍付莖ムキテ。切重テ可盛歟。但大ナルハ不可叶。大罌ニハムキテ不切。莖ヲ上ニシテ盛居之。取莖テ捧持テ食之也。生栗脱之。搗栗。平栗非其限事也。薯蕷ハ短切テ所々ヲコガシテ可盛也。串柹ハ取實テ可盛。淡柹ハムキテ仰サマニ可盛。又交菓子之外以薄樣等不裹之。

油物　尤可有之。菊花之體ナル物并枝等ノ(類常イ)□□盛之歟。

興米　栃　興米必可盛。切樣共不知其本體。可有人心歟。

甘栗籠　交菓子之外不用之。

山女　晴菓子ニハ不見。内々事歟。食時ニ皮ヲ切棄テ羞之不惡。但稱似蟲不切人在之。居筥立薄樣時。調菓子之儀只同事全不可違二種菓子時。大小柑子各二合。(如イ)殊不然事歟。

○交菓子筥甘栗籠事必然也。

○食樣之事[委曲見于口傳。仍省略之。]　梨子　ムキタル梨子ノクキヲ取テ。捧持テ帖紙ヲ取出テ。口ニアタルホドニ捧持テ。其内ニテ食之。

## 三條中山口傳第二乙

節供事
元日　七日　十五日儀。　歯固。　五節供儀。　節分方違翌朝幷元日羞強飯等之儀。　供飯儀。　居歯固切交鳥和布法。　羞酒儀。　供漿不及汁法。

酒肴間事
賜酒肴座[付各別。]　獻數法[付各別。酒盞用銚子提法。樣器儀。]　酒肴調樣。　居酒肴刻限。　可寄酒肴座由相觸法。　盃酌間作法。　續酌儀。　居酒肴無菓子樣。

湯漬薯蕷粥事
可隨見在作法。　供薯蕷儀。

陪膳役送事
公卿殿上人。　有職。　裝束。　故實。　漬汁。　兼依候御前不起座。　居膳於帖上。

打敷間事
不依本數必可居之哉儀。　可用織物[付兩度通用。]　打敷與懸盤面同色事。

懸盤已下莊嚴綵色事
懸盤机(名イ)各其體。　懸盤面押物。　綵色懸盤面用唐物。　懸盤綵色樣[付稱臺法。]　綵色折敷。　懸盤裏足螺鈿樣。　同綵色樣。

菓子間事
折櫃。　筥。　立紙法。　用菓子物等[付不用二種菓子事。]

贈物間事
可爲引出物。　裹樣[付檀紙。綵色下繪。裹物寸法。下繪打敷結緒錦。]　裹

并打枝。　取贈物故實。　同役人。　請取人。　白本著法服有職不改著鈍色可傳公卿。　以薄樣裹物付打枝樣。　以下繪檀紙敷物樣。　分與檀紙作法。　以薄樣裹絲頭。

進絹樣。　結絹樣。　入長櫃令進物儀。

進御衣儀。　進菓子已下物儀。　進破子儀。

進厨子儀。　雖一夜有宿物者不可及引出物。　送物役人。　自貴所賜牛馬儀。

牽進御馬御牛儀。　七僧法服分送使者（付裝束）。

三 一。節供事

中山 ○元日　七日（打イ）　十五日　　已上折敷。高坏六本。（盛物隨時用之）。有折敷。（生平絹）。陪膳四位家司。役送五位諸大夫。皆著束帶勤之。主人著冠直衣也。

中山 ○齒固　本數打敷等同節供。但非晴儀。內々進置出居邊。

此外三月三日以下節供無沙汰。

○五節供院宮以下諸家皆用之。高坏樣器。今御所中樣如承者。供御菓（藥イ）儀ニ相同。

○節分方違翌朝羞强飯菓子　俗家不可（不達）然之（云々イ）（初イ）。節分翌日元日供强飯事。俗家法元日許也。飯ニハシダ必可敷。

○齒固切交鳥和布（クロメ）。件之三種必可居之。

○酒ハ元日早旦居菓子羞白散。其後供强飯也。

○不及汁。只漿許也。

三 一。酒肴間事

○賜酒肴。彈正尹出居寢殿母屋ノ座　忠已下ヲ召上庇ノ座。賜酒云々。又外記史太政官列參之

三 時。於對座有盃酌。

○三獻（イナシ）一獻事。三獻必可有之。時刻推遷之時。依上首命。略二三兩獻常事也。（年中行事有之）

各別酒盞之條。俗家列見定考之外無其儀。銚子

ハ晴時不出之。可用提。但樣器。酒盞ニハ用土
瓶土器。酒盞ニハ用瓶子。普通酢瓶子也。定法也。
片口銚子　限主人用之。銚子ハ限酒入之。自
餘物不入之。
○酒肴樣或机饗不居飯。號肴物勸酒盃事在之。
諸衛府官參賀時居之。號無飯(イヒナシ)饗。或菓子幷肴物
居交也。官人下部等居之歟。而號肴物用別高坏
之時。居四種肴事無先例。
○兼居之。臨(時イ)其期居之。著座之後居之。普通之
儀也。但除目幷臨時客兼居酒肴。
中○可寄酒肴座由可觸哉條。勸學院幷興福寺參
賀。共雖羞酒肴不觸之。
○盃酌間作法　初獻了又居酒盞。三獻可勸
之。
中○續酌間事　攝政家ハ如諸定事。無次酌事。
中○居肴物無菓子事　大饗穩座事。居肴物無

菓子。

三條一。湯漬薯蕷粥事付供儀。

○湯漬薯蕷粥隨見在供之。若宮入御。二條大納
言被計申之也。
○供薯蕷粥者。入土器可居中盤也。

經仲一。陪膳役送之事

○居公卿殿上人衝重。殿上六位役之。
中○陪膳有職。役送三綱可勤之。
○同裝束事　陪膳役人可上括。但所司可下
括也。
○陪膳故實事　朝覲行幸。雖供御膳。入御以
前必不撤之。無打敷時。可持參第一御臺。
○同人漬汁事　陪膳人漬御汁可獻也。但隨
彼氣色可左右歟。
經仲○同人兼依被祇候御前不起座事　役送取打
敷進陪膳。陪膳雖可取之。不起座。兼祇候御前

之故也。
○居陪膳於帖上事　居膳於帖上事總無之。若無便宜。可居疊上時猶可用打敷歟。

一。打敷間事

○不依本數。必可用打敷哉事　寛治白河院於鳥羽殿御乘船之時。六條修理大夫顯季示送江中納言匡房許云。儲御(總イ)肴物御臺三本也。不可用打敷之由。或人示之如何。答云。用打敷。(可イ)全不依本數。爭不用之哉。又肴物用之先例也。主上・有東宮御對面之時。被居御肴物。卽九本也。打敷在之。令准其儀雖相儲之。御船無便宜者。臨期略本數之體。可宜之旨示送。仍其定用意之由。見彼記。然者肴物本數用打敷事。可准知之。
○打敷　必用織物。又雖兩度通用定事也。
○打敷與懸盤面同色　必同色也。松重蘇芳。面萌黃。裏欵冬等打敷常事也。其面色押懸盤面。

一。懸盤已下莊嚴綵色等事

○懸盤机各(名イ)其體事　懸盤者如高坏面。有四方緣。其面押織物也。裏幷足沉摺貝。松鶴。足者各別也。四角立緣テ。上下ニ有横緣。四方ニ牙象ヲ彫也。足ノ四角內ニ合テ。面ノ下裏ニ保曾ヲ付テ居之也。紫檀地花杏地作之。机者面弘一尺餘。長二尺餘歟。其左右ノ端ニ置緣。其體如常文机。如圍碁局。足四角ニ立之。高九寸許歟。大饗時。納言ハ赤木机。大辨等黑柹机也。各押白生絹。上官朴木机。面押黃生絹也。
○懸盤面押物事　打敷被用織物者。可押同物。織物。
○綵色懸盤面用唐物事　依爲率爾用之。又不可有其難。
○懸盤綵色事付以足稱臺事。　面綵色事總無之。必押面之故也。面四方緣幷足綵色之。可書松鶴也。面與足各別也。仍稱臺。

○綵色折敷事　懸盤足用沉紫檀等之時。折敷面同之。仍准其儀可同(用イ)足色之由所申也。又懸盤裏モ折敷面裏モ同色ニ雖可綵色。只裏ヲハ共塗胡粉。折敷面許ヲ懸盤足ト同色ニ可綵色。可書松鶴也。

○懸盤裏足螺鈿事　足ト同樣ニ沉紫檀等ヲ伏テ。摺貝之時。打敷面ヲモ沉紫檀ヲ伏テ摺貝也。

○同綵色樣事　四角ニ立緣ニ紺青。四角象(面イ)牙幷上下ノ緣ニ綠青。如此可塗也。

一。菓子間事

○折櫃事　古ハ以紺青綠青等青丹(黄イ)二合二色。採色之。其上以金銀泥ダミ繪ヲ書。近代色々ニ染テ散薄タリ。隨時儀可被調之。二色相計(叶イ)古儀。各二合ヲ一色被調可宜也。金銅(銀イ)帶二筋ヲ懸(打イ)テ。上ノ帶ノ上ヲ口ノハタマデ白ミガキニテタヽミタル也。稱伏輪。折櫃ノ口ノハタ許ニ蹔伏輪ハ。無下事也。或上下懸帶不用伏輪。或雖綵色散薄不懸帶。共以不法式。但近代多在之。居筒時彫牙象。或書風流不打任事歟。古ハ無之。近代面々意巧也。

○筒事　古ハ押色々薄樣(繪イ)。懸金銀帶一筋。上方。綵色折敷(櫃イ)ニ違色テ居之。總不及伏輪。只帶一筋許也。又折櫃同繪書之。近代如折櫃色々染散薄。可依時儀事也。折敷(櫃イ)之色ニ違テ可居之也。朝覲行幸已下有限。晴時必居筒。爲法式之時尤可然歟。

○立紙事　云薄樣(繪イ)。云色紙。褻時無差別。但薄樣猶刷時事也。折櫃懸帶伏輪之時。猶立薄樣色紙等。定事(數イ)也。立色紙時同書繪也。

○菓子事　無定(期イ)類只隨時用之歟。但委不知之。法式ハ各一種也。二種菓子不打任事歟。

一。贈物間事

○可爲引出物之物等　絃管之類。其中。和琴。琵琶。笛。笙等多用之。和琴。琵琶者入袋。笛。笙者入函以錦若浮線綾。裹之。付打枝。

手本　以錦裹之。付枝。

本書　一部及數卷之書者。先裹一卷第一卷。付打枝。裹樣同手本。其殘者納櫃追可送之。

帶　入錦袋。或付枝或不付之。或又入箱。

劒　細劒野劒共用之。共可入袋。細劒者或平緖。或不付之。付平緖之時不入袋。付平緖入袋間在之歟。

馬　藏人五位引之。上手下手共五位引之。或下手者衞府引之。或式部大夫五位。或衞府隨身。可有斟酌。不謂月卿雲客。爲華族人者藏人五位引之。自四月一日至九月不著衣。自十月一日至三月可著衣乎。

牛　引牛非尋常儀。但顯隆任大辨拜賀日。參堀川左府被引牛。侍可曳之。衣如馬。

○裹樣事　御本ハ薄樣若檀紙ニテ立サマニ裹テ可押。折檀紙ニハ唐草尾長鳥可宜。裹方ニハ蝶小鳥ヲ間可書也。裹ニハ唐草ノ方ヲ內ニテ可裹。裹物長八尺廣一尺一寸許。錦無定色。下繪松折枝鶴定事也。結緖玉。長九尺五寸許(也イ)。內忠親公府說ニハ本體組也。裹物可隨面色。錦不依時節用打裹也。

中○賜物裹幷打枝。菊打枝事　黃浮線綾付青打裹。可付菊枝。於菊者雖十二月無難也。

中○取贈物故實　持參御前稱物名。授御共人儀ハ。古樣法式也。御幸等モ尙以不然。隨時事也。

中○取贈物人　本所相親人可役之。兼雖置便宜ノ所。本所ノ人(猶必イ)取之。可授御共人也。又儲閑所。還御之時。於便所授御共人歟。勅別當可役之。

贈物　結緒　云玉。云組。用二筋事總無之。
○役人（所イ）　院御方（所イ）　大納言二人。（或大一人。中一人。）
女院御方　中納言一人（或大）。先例也。
贈物ヲ授人ニハ可跪也。又侍ニテアラハ縁上ニ蹲居シテ可傳之。
○請取人　跫御前者。僧綱參上取之。可傳房官也。又還御之時。本所人持出ハ。房官上蕑（凡僧。別當。）昇堂上可請取之。公卿雖取出。房官不可有難。又僧綱可取之。可有御定。朝覲行幸公卿雖勤之。藏人頭請取之。
○（中）御贈物自本著法服。有職改著鈍色。可傳公卿哉　法服尤可宜。公卿蹲居セハ傳人同可蹲居。其儀可隨彼也。
○以薄樣裹物（付打枝事。）　定作法也。故宇治入道慶賀（中納言正三位上也。）時。被參所々之間。上式所引出物ニ（實房公）以薄樣裹之。付打枝云々。故入道左府常此儀神妙之由被示キ。付打枝時ハ。薄樣二重ヲ引違テ裹之。上下ヲ捻也。薄樣ヲ乍重切テ。二重ニ折テ枝ニ結付之。如卷數。又二重ヲ引違スシテチカヘテ卷事モアリ。木ノ高下ニ可依也。薄樣ニテ裹ニ成ハクミニテ結事無之。付枝時。上下ヲハ捻也。不然時ハ上下ヲ折也。文高クハ是モ二重ヲ引違テ可裹。
○以下繪檀紙裹物事　檀紙ハ以下繪方。内ニテ何物（檀イ）ヲモ可裹之。
○分與懷紙作法事　本所武者所之輩。於其座分與之。尋常之儀不可然。本所ヘ送遣之後。各可分賜也。當座分配非法式。
○以薄樣裹絲頭事　雖納手箱可裹。一重ヲ二ニ切テ裹之。不可有難。
○絹　四丈絹可宜。又以連絹積寸法之間。廚子內狹難納之時。各幅ヲ調テ可卷之。所詮有何難哉。

三○結絹事　卷(差イ)別二所可結。又取合一疋。(一疋ニ不結事也)總結猶以不可然。況於十疋勿論也。
○入長櫃令進物儀　可敷莚。還御雖及翌日可相具。不可及先陣。
○進御衣　還御及深更者。翌朝可進入。目六不可有之。
○被進菓子以下物事　菓子二具。各納長櫃一合。已下不可敷莚。薯蕷粥可具歟。今按也。匙提不可然。
○御破子　不被取散者。尤可被進也。
○厨子　入長櫃構切立可持之。可覆繼紙。
○雖一夜有宿者。不可及引出物事　依一夜宿不可及引出物也。
○送物役人　長櫃　仕丁可持也。被進御衣等時。藏人一人廳官一人。尤可相副。
○自貴所賜牛馬事　請取事。自院給御馬之時。公卿者令家司可請取也。四位已下自出請取之。
賜祿事。御使爲諸大夫者。招上中門給祿。古人皆給掛。先公之時如此。近代或有給毛馬。或有給銀鈑。銀鈑者非。不羞盃酌。北面下﨟猶可召上中門。爲隨身者乍立給祿。諸大夫祿ハ自出取之。北面者隨身等者子息取之。
○牽進御馬御牛等事　引出御牛。三綱可役。無本所緣人者。共人役之。不可及巨難歟。下﨟下役也。
持楉(サシナワ)ニハ左手持遣綱。右手持楉。遣綱ヲ可取加也。於御前尤可追廻也。御共三綱可請取。
中○七僧法服分送使事　廳官著衣冠。

# 三條中山口傳第三

中山鋪設裝束事
客亭。　中門廊。　障子上。　侍所。　隨

身所。　又客亭座。　御休所儲物。　打出。
　龍鬢調様。　上莚同様。　疊同様。　邊
敷。　置物廚子置物具様。　臺盤所置物御
廚子。　朝覲行幸時被儲御裝束様。　懸御
衣様。　衣架立様。　帳臺儀。　母屋庇御
座外帖已下敷様。　火桶居所。　薯蕷粥居
様付折敷置物様。　柹浸事。　廚子置物様付火
櫃居所。　瓶子以紙造輪爲土居儀。　菓子合
數幷居様。　楾(ハンザウ)手洗居様。　御廚子置物。
　臺盤所置物廚子置紙檀紙様。　懸裝束於
衣架様。　衣架脚數付裝束懸様。　裝束不具。
　又衣架懸御衣様。　置直垂於御座様。
御枕裹様。置様。　雖獻御衣不進御枕。　屏風几
帳儀。　茵幷圓座儀。　母屋垂御簾時庇不
垂。　濱床。　雖不改御簾用新調御座。
中間明障子用紙。　自兩方覆御簾儀。　庇
鴨居上壁張絹。　殿上人著高麗端。　凡僧
著緑端。　公家(卿イ)帖事。　御聽聞所。　女房
車寄儀付於門降儀。　輿寄所。　火桶(櫃イ)幷燈臺
付炭取置所。燈臺打敷。火桶幷火箸調様。火桶火置於御火桶事。　御廚子御手箱納
物。　二階置檀紙。　御棹調様。　御湯殿
置物具様。　居楾於手洗様。

庭上儀

車宿幔引様。　幔引故實。　幔幕體。　遣
水上敷板敷覆砂事。

稱屋名事

　牓所名。　女院御所不稱御隨身所。

一。三條 鋪設裝束事

○中山 客亭　以對南庇爲賓客座。西第一間北障
子際。敷高麗端帖一枚。爲主人座。其前置脇息
硯筥等。脇息在左。硯在右。　第二間以東南邊。敷高麗端帖
二枚。紫端一枚。爲客人座。無對之時第用二棟
廊。

○中門廊　壁邊敷紫端帖二枚。（此疊或不敷之。家々說異。）車寄戶南梓立倚宿申簡。（戶內在之。）

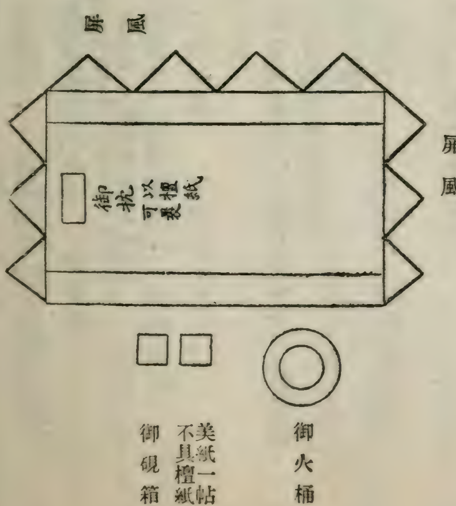
○障子上　敷紫端帖四枚。（二行對座。）北母屋際懸紺垂布。

○侍所　障子上以東敷紫(端イ)・帖六枚。（二行對座。）其間立朱漆臺盤二脚。北庇西遣戶邊通逼長押。立朱漆辛櫃一合。其傍立日給簡幷文杖等。火爐北邊敷紫(端イ)・帖二枚。（東西行。）傍東遣戶敷同帖一枚。（南北行。）爲所司座。其前置硯筥一合。（檜筥。瓦硯。）北庇幷東西遣戶共懸紺垂布。

○隨身所　西壁邊敷高麗端帖一枚。爲別當座。（常不敷之。可倚之。有別當來著(ハチ)事之時敷之。）以東敷黃緣長疊。（與別當座絕席。）其間立撥足臺盤二脚。南庇敷紫(端イ)・帖。爲宿侍所。北庇懸紺垂布。

○客亭座　大臣家。端一行敷高麗末敷紫一(基親已上中山)座。(帖イ)是藏人頭幷大辨座也。大臣家。高麗對座敷之。其對座敷紫(末イ)帖各一枚。爲大夫史大外記等座。大中納言已下客亭ニハ。不敷繧紫。中門廊一行敷紫(端イ)・帖。非常儀假ニハ敷之歟。諸大夫座不打任大臣家ニ取テ事也。其外不敷之。一枚二枚皆一行。依所便也。

○御休所儲物事　法勝寺御幸之時有之。但件御硯張蓋也。爲褻儀也。



○打出事　大臣家以上(イ可打)出之。納言已下不然。院中幷關白家ニハ。元三拜禮尤可出。此外關白家ニハ賀茂詣時。大臣家ニハ祭使ヲ出シ立ル時又出之。但院中ニハ后宮不御時。關白家ニハ北政所無同居時。共不出之。所詮隨女房有無。出彩袖之故也。元三拜禮時。東禮(晴イ)所者。寢殿南面(除階隱間)。同東面。二棟南面每間出之。西禮(晴イ)所可准知之。凡者女房可有所ト見ル方ニ可出之也。居所ニハ主人雖不著色々。祗候輩令出其袖之條。雖似有其謂。先規只今不詳。上西門院法金剛院御堂供養時。御聽聞所西庇ヘ被出彩袖。若本院女房候之歟。將又建春門院女房候所歟。其時寢殿東南二面。每間押出ニテ有カト覺ユ。押出ハ打出ヨリハ褻ノ儀也。當時所著之色々衣ヲ。每間二人出之也。此儀猶以納言已下不然歟。

○龍鬢事　青地錦緣(弘三寸許。四方著之。)濃打裏ヲ付也。白生絹ヲ裏ニ付ル事ハ極非例也。或東京錦緣。裏同前也。后宮御所御裝束時。母屋帳臺外ノ邊敷ノ上ニ敷之。或大文高麗緣裏同前。立后幷大饗時。大臣座敷之。已上寸法ハ皆疊ノ面ト同寸法ニ可調也。敷時ハ四方ヲ所々疊ノ上緣幷上下左右ノ頭ニ閉目ヲ不見之閉付之。

○上莚事　白唐綾二幅ヲ面ニシテ。濃打タル裏ヲ付テ。綿ヲ不久良加ニ入テ。青地錦ノ緣ヲ四方ニ著之。帳臺ノ內上(差イ)敷疊ノ上ニ敷之。四方ヲ所々閉付也。京莚著緣ハ非法式。不用晴儀。只私令按也。

○疊事　繧繝端帖。面京莚。裏ハ白布ヲ付テ。其上白生絹ヲ覆也。紙ヲ付テ絹ヲ覆。非例也。

○大文高麗端帖。面京莚。裏白布三幅可付之。小文高麗幷紫端帖。面國莚。裏白布三幅可付之。已上大文已下布二幅ヲ付ル。非例也。

○邊敷事（ヘンシキ）　東禮所ハ帳臺西南北行敷之。東立大床子之故也。西禮所可准知之。帳臺內疊南北行敷繧繝端帖三枚。一枚上敷。

妙音院
○置物廚子物具置樣事　笛箱　琴。和琴。琵琶。

笛箱　琵琶。琴。和琴。

置物廚子第一層。笛箱。琵琶。第二層。箏。第三層。和琴。

基親
○臺盤所置物御廚子事　立御廚子二脚。其上層除蓋層。居菓子六十合。脚別卅合。下層居薯蕷粥柹浸二鉢。有匕(上イ)。御酒二瓶子。銀提。銚子等。已上二脚相計居之。

○朝覲行幸時被儲御裝束事　北面立廻四尺屛風四帖。敷高麗帖三枚。京莚。其東東西(面イ)可隨御所樣。敷同帖一枚。國莚。其東立衣架一基。懸御裝束等。上層北端懸御直衣裝束。先下懸紅御張袴。其上懸白御衣三領。在御單。其上懸御直衣。如衣盤之。當腋程懸之。南端懸褻御衣三領。無御單。其下先懸紅生御袴。御宿衣被相儲之時。止此褻御衣。懸御宿衣。其下懸御小袖。

中
○懸御衣事　衣架上階御裝束二具。下階中央御直垂。

○立衣架事　副障子件間不可開障子。又敷高麗端帖一枚。可傍敷居。

○帳臺　御障子左右開之。可垂引物。

○母屋庇御座外敷帖否事　院中儀總不敷之。執柄被參御前之時。長押上敷圓座一枚。大臣已下雖參。簀子不敷圓座。

中
○火桶　帖上置之。

中
○薯蕷粥事　入鉢相具提。或不具提事在之。置提時可具匙。鉢上覆折敷一枚。其上可置匙也。居鉢於折敷傍置匙。鉢右方。若鉢大ニシテ折敷無所ハ。別ノ折敷ニ匙一雙(支イ)仰置テ鉢右方並居也。入提時モ居折敷テ匙ヲ右方ニ置也。此時ハ空納ノ提ヲハ不並居。二鉢ヲ居ル時ハ上方(第一イ)ノ鉢ノ右ニ匙ヲハ可置。同時若匙ヲ別ノ折敷ニ

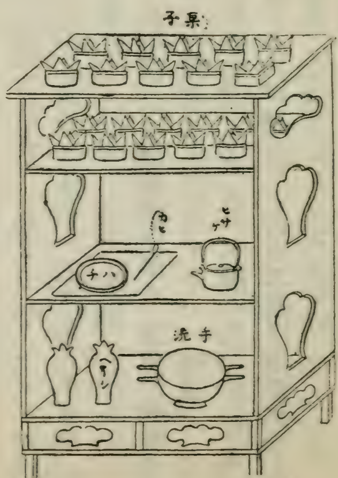
並テ居ハ。粥二鉢カ次可置。提ハ匙ノ折敷ノ次可居也。朝覲行幸御裝束時。如此置之トモ不覺悟。但理之所宜尤可居之歟。

折敷ニ物ヲ置事ハ。木目ヲ横ニシテ。尋常ニ人ノ向樣ニ置之。如此事ニ不限。裹物ヲモ不論大小。此定置樣也。

○柹ヒタシノ事　　其儀同前也。但入鉢居之時。不加居空納提也。

○廚子置物事　　廚子ハ立テ所ノ依便宜。上下ヲ可定也。左方上ナル所ナラハ。菓子ハ餠ヲ左ニ可居也。薯蕷粥鉢ヲハ左方ニ居テ。空納ノ提ヲ右ニ可置也。鉢大ニシテ匙ヲ置別折敷時。鉢與提之間置之。右方上ナル所ナラハ。薯蕷粥鉢ヲ右可居。（是倘折敷右方置之。）空納提ヲ左ニ可置也。匙ヲ別折敷ニ置時。又同前也。瓶子與手洗上下可隨。菓子ノ居樣。上（林御酒薯蕷粥。在提匙等）楾手洗。大盤所立置物廚子可置。其所中央可居火桶。非壺

廚子（第一層有由也。）者。第一層菓子常事也。薯蕷粥入提テ置カバ別提ヲ不可加居。




○瓶子以紙　造輪爲土居事　　不知此儀。又不見之。但今案歟。不倒瓶子事尤大切也。

○菓子合數幷居樣事　　一具ト云ハ（カタメイ）十合也。云畫圖。云白木。共以カハメヲ晴ニ居也。

○楾手洗居樣事　　手洗角向左右。楾口向奧

方置之。尤可入水。
○御厨子置物　御硯箱 檀紙箱等置之。アラハ二檀紙三帖許可置。
○臺盤所置物厨子置紙檀紙事　內院女院入御之時。下層楾手洗傍置檀紙一帖云々。今儀不覺悟。頗無其謂。不可然事歟。
○懸裝束於衣架事　女房裝束　衣ヲハ至于唐衣乍重帖テ。右ヲ上ニテ上ノ層ノ中央可懸。裳ハ衣ノ後方同層可並懸。腰ヲハ上差ヲ上ニテ取重テ。スソヲ下ニテ裳ノ上ニ重懸也。若小腰付タル裳ナラハ。小腰ヲハ下ニ可隱懸也。袴ハ帖タル間ニハ腰ヲ隱テ。下ノ層相ニ當衣下融(トホリ)ニテ可懸。小袖有バ下ノ層ニ袴ノ下ニ可懸。打任テハ小袖ヲ如此晴ニ相具事無之。仍隱懸之由也。衣ヲ帖(タヽム)コト。袖ヲ左右ヘ遣テ帖也。衣架ノ上ニ袖ノ少シ懸ル程ニ可懸也。脇ヲ懸ケ越シツレハ。後ロニ袖ノサガリテ惡キ也。總テ懸衣事ハ。下長ニ懸タルカ能ナリ。西ノ傍ニ衣架ヲ立テハ。左ヲ上ニテ可懸。北向ニ憚之故也。裝束一具アラハ。衣架ノ中央ニ可懸。若二具アラハ可並懸。
男裝束　直衣衣ハ上ノ層重可懸之。奴袴下袴ハ下ノ層重テ可懸之。帶ハ上ノ層衣ノ後ノ方ニ懸之。已上男ノ衣ヲハ左ヲ上ニテ可懸也。東ノ傍ニ衣架ヲ立テハ右ヲ上ニテ可懸。他裝束准之。
○衣架事　寢殿御裝束ニ。並立二脚事在之。懸主人裝束コト。一具アラハ一脚懸之。今一脚モ不撤之。二具アレハ又懸一具。晴ノ裝束ヲハ晴ノ方ニ可懸之。一脚ニ二具ヲ並懸事。又常ノ事也。
○男女裝束相具置事　不然。
○衣架懸御衣事　上ノ層（御直衣御衣已上懸重之。）下ノ層御袴。御衣總テ向北不懸。御帶御衣之後ノ方可

懸。
○置直垂於御座事　上敷ノ北方ニ不帖シテ。妻袖ヲ左右ヘ押遣テ。頭巽方ヘ向タル樣上敷南北行定餘所可准知之。置テ。頸ヲハ引立テ。脱垂タル衣ノ體ニテ可置。袖ハタキヲ下ニナシテ置也。
○御枕事　其體尋常定也。以薄樣可裹之。其色必不定。上敷南端可置。南北行定也。
○雖獻御衣不進御枕事　此定可然。
○屏風几帳事　弘間几帳ハ二本ヲ重テ立之。以左爲上。
御座中央立隔ノ几帳事　准據無之。二帖ヲ立ル屏風ニハ。二帖ヲ引重テ可立。以左爲上。
屏風付几帳帷出樣。打任テハ几帳ノ手ヲ立ル事ナレハ。出几帳ト書ツレハ。隨所便宜閉付タルトモ立手之樣ニテアリ。覆御簾ニハ所立手ナレハ。內ノ方ニ閉付タリ。覆御簾出几帳ト書ツレハ心得ラレタリ。几帳ハ雖弘間。每間一帖出之。
○茵幷圓座事　茵ハ賞人之時用之。母屋ニハ唐錦。庇ニハ東京ト定タリ。又客人座ニハ敷東京。雖然多賞人之時用唐錦。母屋唐錦。庇東京。是大旨也。女主ノ晝御座。母屋邊敷上ニハ加東京錦茵。院中儀。庇帖上必敷唐錦茵。帖上ニハ加圓座事不可然也。
○母屋垂御簾時庇不垂事　母屋垂御簾事ヲ行時。庇ノ御簾ヲ垂事不覺悟。又無其謂。
○濱床事　濱床强テ晴ノ儀モナキニ。此條不然。
○雖不改御簾用新調御座事　雖不改御簾。新調御座常事歟。又御座許ハ自常御所被渡之。定法也。
○中間明障子用紙事　中間明障子爲紙事。常事也。
○自兩方覆御簾事　障子壁格子等。兩方覆

御簾。出几帳帷。是恆例也。五節所各別儲御裝束之間。中障子自兩方覆御簾。又大饗之時。所所裝束隨便宜兩方調之。

○庇鴨居上壁張絹事　大饗之時。庇ノ鴨居之壁ニハ張白生絹。

中○殿上人著高麗端事　法成寺修正幷御八講公卿座末殿上人著座。

○凡僧著緣端事　最勝講ノ講師僧綱座緣端。已講座黃端也。而僧綱人數加增之時。已講ノ座上ニ雖一人可著ニアレハ。同敷緣端已講著其末。是例也。

神泉諸御願寺供養。僧綱座兩面端。凡僧座緣端也。然而且依常儀。且依忌赤色。尤可用緣。僧正參(綱イ)者。必雖敷兩面端。猶可儲歟。

○疊　公卿家無高麗紫。緣端准高麗。黃端准紫端。兩面端准繧繝。其體似錦。

中○御聽聞事　母屋一間之內。儲兩所御座。常事也。

中○女房車寄事　不可及屛風。女房車寄無便宜之時ハ。於門可降也。轅ヲ引入テ。雜色以下可退去。以遣戸用女房車寄。先々在之。可去立蔀也。

○輿寄所事　爲遣戸間者。撤遣戸。覆御簾可用也。輿寄ノ所ニハ不出几帳。不儲物具。侍舁入輿於簾中。可退出。但下御之時。不可舁出歟。此條今按也。

中○火桶幷燈臺事　不敷龍鬢程ノ御所。被儲火桶事。何事在之哉。居火桶者。置物廚子邊可置炭取。杉火桶散薄。火桶不變其體者。火箸可用尋常金銅箸。

置火於御火桶若宮入御之時。兵部卿三位基親被計申之。兩樣(末イ)也。朝覲行幸。北面御所御炭櫃ニハ。入御畢。令渡此

御所給以前置之。近習殿上人役之。或又御對面之時置之。
同近習殿上人不論四位五位置也。土器ニ入火
テ。居折敷持參之。然者已渡御了。未令渡御所
中給以前可被置歟。又後ニモ可置歟。可然有識
可尋之。

火櫃　　尋常之時用之。

中○燈臺打敷事　　淺黃色面生裏練。

中○御厨子御手箱納物事　　下檀紙五帖。懸子
薄樣。若紅梅檀紙三帖許。

中○二階置紙檀紙事　　不可然。

○御棹事　　總不可有御湯殿。棹白木白金。總
定法也。

○御湯殿置物具事　　御湯殿ユマキ置樣ハ。
御湯殿坤高欄中鉤棹。懸湯帷ハ。其下ニ疊テ可
置便宜所。湯帷棹下置之。凡又臨其期與役人。
可宜也。

中○居棖於手洗樣事　　重テ置御棚。褻儀也。二階白
木棚並居之。高三尺餘歟便宜所可立。以棖居手洗上方。

一。庭上儀事

中○車宿幔引樣事　　付柱引之。

左府○幔引故實事　　幔ニ入横板ニ引重所ヲハ可
打付之。幔下三四寸許可上也。紐ヲハ内方ヘ可
押入之。又籠柱可引之。

三條(左府イ)○引幔故實　　一帖ニテ過分所。或疊或折反。
隨所便宜計引之。一帖不足所。不知多少。引違(遣イ)
二帖。定事也。

中○幔幕ノ體事　　幔幕事。幔ハ立サマニ繼タ
リ。幕ハ横ニ繼也。大藏省主殿寮兩所ニ有之二
色ノ幔ト云ハ。紺ト白トヲ立サマニ繼也。幕ト
云ハ紺ノ布ヲ横ニ四幅ヲ繼也。屋ノ砌引ニハ
幔ヲ用。付柱テ屋ニ引ニハ用幕。

中○遣水上敷板敷覆砂事　　定法式也。

一。稱屋名事

○膳所名事　大内ニハ名御厨子所。又號進物所。於御厨子所號者。大内之外不稱之。院中ニハ號進物所。攝政家ハ號贄殿ト。膳所トイフハ無下ノ下劣ノ事也。

中○女院御所稱御隨身所事　不可然。

# 三條中山口傳第四甲

公事間事

僉議付裝束。　公卿取筥。　朝拜儀。　七日節會儀。　大嘗會御禊儀。　立后時請諸卿拜儀。　臨時客立后第二三日公卿殿上人座。

諸役人事

上下格子公卿侍臣參上時。尋常時。　掌燈付供所。　置御遊具。　取大饗尊者祿。　諸寺三綱列參申次。

裝束事

御衣。　公卿。　殿上人。　法服付裳。（裳カ）　鈍色付入裝束次第。　上童。同。　中童子。　狩衣袴調樣付可相具物裹。　院御幸御裝束。　引陪支。　爐蟲襖。　生衣法。　書裝束目錄。　專當裝束可用袍字。　遣賀茂祭出車衣。

布施事

置刻限付退下。　置次第。　院中御布施取進（置イ）所。　以綿爲布施時節。

短冊事

賜之儀。

被物事

平絹綾。

一。公事間事

○僉議事　上臈先例皆著端座。於執柄直廬。被行群議之時。於廊テ有此儀ハ。當二行上横敷

帖一枚。有出御之時。猶端座ニ上藺著歟。於對座(屋イ)ハ主人座ヲ奥第一間ニ敷テ。第二間ヨリ敷公卿座。准院中不可敷御座歟。二行對座ニシテ上首可著端座。仰付人付上藺座上之簀子仰之。定法也。其時上首向上テ仰ヲ奉天。如元捻向ヒ。仰ノ趣ヲ人々ニ示天自上モ定下。又自下可申トモ。隨上首命發言之。仰子細畢ヌレハ。仰次人去其座。祗候便宜閑所。議定畢。出本座之時。上首捻リ向テ申面々之趣。其事有煩者。聞各申狀。可被申ト上首示時。面々之趣ヲ聞テ歸參申之。面々雖聞子細。不向其人々。於本座聞之。仰次人ハ條々多端ナラハ。居定之後可仰御定趣。束帶ノ時ハ龜居。常事也。著指貫時。右ハ片膝ヲ迯テ奴袴ノ括ヲウシロヘ成テ居也。但近來其儀頗古體歟。普通居定可傳仰之。打任テハ於座上簀子可仰(內イ)之。無便宜之時。於座末仰之。常法也。其時於同板敷上仰之。向上首可有氣色歟。於大內職事傳勅定於公卿之時。於殿上長押上仰之。院中又隨便宜不著簀子之故也。殿上ノ上ノ戸無骨之時。自下モ進上下ノ戸隨時事也。

裝束　俗家於布衣被行此事例一切無之。束帶若衣冠也。僧中法會供奉之外不著束帶。

○公卿取笏事(中山)　除目之外一切無其儀。

○朝拜事　日次。大內院宮以下皆元日也。攝政家吉事之時。山階寺。法成寺。平等院已下朝拜。選良辰在之。集會所大內被行其儀時。諸卿參會朝集堂(會昌門外)。行列。但此事中絕經年序。又院宮以下一切無集會所。申次院中公卿別當勤之。又四位院司勤之。

行列。院中拜禮公卿人數多日。其所狹之時。二重立常例也。

○七日節會事　七日節會ニハ。立位記之案。其儀畢撤之。臨白馬時。又撤標以下物等常事也。

○大嘗會御禊事　大嘗會御禊於御大床子被行之。而自中比於前之平座在此事。敬神甚之故歟云々。人以褒美歟。

中○立后時請諸卿拜事　立后時者。著床子。令請諸卿拜定法也。而待賢門院立后之時。白河法皇不令著床子御シテ。傍ニ可令立御之由ヲ令申給。是先儀尚以其恐不少故也。傍令立御事ハ可隨行列。若自左方有列者。床子之右方ニ可令立御歟云々。

中(三イ)○臨時客立后第二三日公卿殿上人座事　公卿ハ奥端對座著之。端座後弘廂殿上人著之。

一。諸役人事

○上下格子役人之事　公卿侍臣參上時於御前見參之時。三綱可役之。公卿參上(强不然氏)著座者。雖無見參。三綱猶可役之。殿上人參上時。侍法師可役。御幸幷行啓間。渡御以前ハ本所侍可役。入御以後ハ一切藏人殿上人之外不可勤之(南イ)。尋常時雖北面(南イ)。爲御所者。三綱可役之。北面以下御所之外皆侍可役。院中儀侍不勤如此役。雖然攝政家以下ハ恪勤侍。御所之外下格子故。如此申也。

○掌燈役人事　御所之外侍僧可役。公卿參上之時。其座ニハ三綱可役也。中門廊ナントニハ自便路侍役之。不可有難。總如此役ヲ三綱幷侍勤事。院中ニハ藏人殿上人。攝政家ニハ藏人五位侍等役之。故准之申也。雖凡僧於別當宮者不可勤之歟。准四位院司藏人頭申也。掌燈ハ公卿座殿上人座下各一本立之。藏人五位可役也。

○置御遊具役人事　箱蓋ヲハ公卿座前ニハ六位可置也。他物具ハ御共侍給砌下可置也。件物具ハ便宜所ニ敷紫端帖一枚。其邊可取置歟。

三○取大饗尊者祿役人事　子息公卿取之。公卿不取公卿祿云々。

○諸寺三綱列參　　申次。以一人用諸寺申次。
有其謂。

一。裝束事

○御衣等事　　御衣裏不可强張。袷御衣不可著。貴人幷宿老人雖著綾衣尙重平絹袷衣。何況志々良綾御衣。不可及綾面。於單衣者有文常事歟。御袴生紅御袴可宜。御服所之說可張云々。御奴袴。立沸雲幷龜甲之外不召之。御直垂。堅文(紋イ)織物。

○公卿　　自四月一日生奴袴。衣ニ生單ヲ重。

○殿上人　　藏人頭更衣後隨之。

○法服事　　表袴。面織物。裏鈍色也。張單ハ八九月用之。可重帷ニ單ハ平絹也。大口ハ八九月尙可張之。可用鈍色。紅色ハ制之內也。平裏ハ不可有其難。可用赤色鈍色又何事在之哉。衣筥者中陰・墨(張イ)染(漆イ)歟。草鞋ハ可押平裏切也。但近代用錦。何有其難哉。

兵部卿

法服裝束裹(裏カ)夏用生織物。赤色。青色。何物モ裹(裏カ)ハ夏冬以打物通用之。

○鈍色裝束事　　單ハ八九兩月共可張可重帷。張單ハ調平絹。衣ハ九月上旬之故。可用生。衣ハ不可有單。可重帷之。生ノ衣ニハ可調平絹也。爲練衣者可重練單也。奴袴ハ不可有生ノ儀。平裹(裏カ)ハ法式ハ織物也。

入裝束事次第　　下袴衣(キヌ)指貫衣(コロモ)如次重之。其上裳袈裟扇帶。鈍色裝束。至于三月可用一重。自四月帷不可及張單。

○上童(ウヘワラハ)裝束事　　八月中可用比邊木。不可重帷。白キ生ノ衣重帷。無單帶。白生絹ヲ帖テ可用。平裏ハ白絹。號假裏。　入樣　　下袴表袴狩衣如次重之。其上扇夏。帶沓。

上童裝束。至于三月可用一重。自四月練衣。一領ハ生單。

上童　　著染裝束時。祭以前一重ヲ可著也。祭

以後幷五月八月九月引倍支ニ生單衣ヲ可重也。但可隨寒暑也。六七兩月ハ單衣ヲ不可重。可重帷。十月一日以後一重。或二ッ衣ニ單衣ヲ可重。著水干狩袴ノ時。四月ニハ袷衣ヲ可著也。五月幷八月放生會以後ハ生衣ヲ可著。六七兩月ハ帷ヲ可著。十月一日以後衣ヲ可著。總テ單衣ヲ不可著。又生衣ニハ女房著之外綿ヲ不入也。又四月幷八月放生會以後。生ノ衣幷袷衣ニ帷ヲ重可著之。五六七月ハ可著帷也。不可及生衣。但唐茜(アカネ)紅花等衣不可著之。十月(理イ)一日ヨリ雖著衣。不可重單衣。二ッ衣猶以無其謂。

著水干袴時　其儀(式イ)同前也。是ハ先説也。説事ニハアラス。四月ノ袷衣ニハ唐綾類。或隨寒暑。或依其色可用之。濃色ハ冬殊相應ノ物也。少人ハ水干袴ニハ二ッ衣ヲ著。常事歟。

○中童子裝束事　八九月共可用帷。不可及生衣。白生絹平(裹カ)裏。童裝束至于三月可用一重。自四月一日可用帷。

定頼卿
水干裝束事　袴ハ絹綾唐綾常事也。帷ハ絹裝束料。紺布ノ地白ニテ文大ナル紺ヲ可用之。裏ハ雖絹裝束用布ハ定事也。水干袴冬卷(各カ)之。二卷ヲ一結ニスヘシ。檀紙ヲ細ク切テ。一重ニタタミテ。各中(イナシ)一所ヲ取合テ。上下二所ヲ可結。白木櫃ニ付革緒可納之。件櫃内可押紙歟。但必無本説事也。

○衣袴調樣事　女郎花生衣紅單。其上可重紅打引倍支。打衣ハ八分許入テ可重之。單衣ハ紅單也。二寸餘及三寸可出之。帷ハ不可具之。下袴ハ張合。帶ハ錦。雖何色可用之。以薄樣可裹。扇ハ夏扇歟。以薄樣可裹。沓ハ不可有之。禁色人用織物。其外練絹用之。裏ハ假裏定事歟。刷ハ顯文紗可宜。

中
○院御幸御裝束事　神社御幸之外。尋常之儀。皆御直衣也。

三
蒴黄引倍支事　蒲萄(エヒソメ)染。欵冬。紅濃。此外尋常不用之。以平絹可調之。

○比倍支(成海(引一))　四季共練之。端ニ在折目。綿(錦イ)衣ノ面許ヲ令著之由也。著法服之時用之。其時不必折目。出端事如單衣。夏著帷之間。依令透用之。

單衣(成海)　夏生冬練。端在捻目。

○櫨蟲襖(ハシムシアヲ)事　兩種共ニ秋色也。是ハ皆元三ニモ皆令著之歟。

○生衣　若人ハ生衣重單著之。オトナシキ人ハ。ハダヌキトテ單ヲ不重シテ著之。宿老人ハ平絹ヲ黄生ノ衣ニ單ヲ不重シテ著也。最上晴ノ引倍支。中品晴ニハ生衣。此外事見于裝束抄。仍不書之。

○(中)書裝束目錄事　單帷兩種。各別事也。(書之イ)裝束ニハ重可入之。或折紙或立紙書之。時ニ端書之。(イ此注ナシ)

○專當裝束　可川袍乎。

○遣賀茂祭出車衣　納打出ヲ長櫃。寸法皆存知之。莚二枚ヲ違ヘテ其上ニ衣ヲ仰テ置之袖引立之。長櫃立切(折イ)立。覆蓋加鼻栗太組腹懸杍(チコ)等。覆莚二枚。雨皮。爲用意ノ內相具之。別人夫令持之。打衣表著唐衣。如次著重之。懸棹時同之。裳并袴衣ノ下ニ袴ヲ入。裳ヲハ衣ノスソノ方ニ疊入也。使ノ侍只逢家主ノ侍。中此由許也。不取出衣也。家主ノ侍乍長櫃請取之。使雜色同前也。

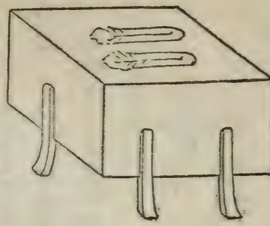
本所ノ使不撤蓋。只付御消息并目錄。或書折紙。

| | |
|---|---|
| 一色唐衣 | 一領 |
| 一色表著 | 一領 |
| 一色打衣 | 一領 |
| 一白袿 | 五領在單 |
| 白腰裳 | 一領 |
| 紅張袴 | 一腰 |

月日

或折紙 立紙ニ書之時。二(界イ)偈ニ書之。

長櫃ハ留置之。自彼人許事訖入テ返之。覆莚雨皮ハ持歸之。送遣人夫爲用意。相具之人夫可持長櫃。



此定入長櫃也

中

一。布施事

○刻限事　賜布施時還列。尤可有舞以前賜布施。(調入イ)入調之間。著座堂前。何可有其難哉。自脇退下之條雖爲先規。甚不可然歟。

○置布施ニハ。講師置于左ノ方。呪願以下散花。次庇座置于右方。三禮以下堂達。次庇座可置之。

中

○院中御布施　於中門裏被(取進イ)達之。

中

○以綿爲布施。四月以後雖無其謂歟。先例多在之。

中

一。短冊事

○插布施褻儀也。於便宜所廳官賜之。普通事也。又如此御佛事必無之。

一。被物事

○法式之所押平絹也。中古多僧綱綾。凡僧平絹也。

## 三條中山口傳第四乙

諸祿法事

驗者。　物付。　醫師。　以布絹爲祿時調樣。　召御前賜別祿其色。　爲祿引牛馬法。

預祿儀。

纏頭間事

七寶塔事

七寶異說事
可聞三佛名事
鎭間事
奉幣事
御幣。　散米。　取祝師樣役人付裝束。　軾
布。　同祿。
消息間事付仰護持僧儀二合ノコト
吉書間事
可行吉書事等。　覽下儀。　西院吉書。
諸寺往來持參事
日時勘文事
硯間事
持參硯箱儀。　撤同箱儀。
封間事
書封樣。　切封餘紙樣。　御封開。
百首和歌事
封樣。　書名字。　立文法。　位署書臣上
儀付應製事。　題書樣。
定文事
大內儀。　院中儀。
諸詞事
還宮詞。　行幸御輿寄。　樂船詞。　上卿
詞。
中陰間事

一。諸祿法事

○驗者祿　御衣幷御裝束類可宜。雖夏中賜
御直垂恒事也。被物三重。御直垂御小袖若御裝
束一具可宜歟。被物三重絹(進イ)五疋布十段過分也。
三非發心地等揭焉事者。不及牛馬。
三○物付祿　及五七箇日者。絹五疋許可宜也。
中○醫師祿　雖夏中於綿者賜之。
○絹布爲祿物調樣　上下紙ヲ宛テ可結之。
○召御前賜別祿　被物無謂可給御衣。在家

二八賜女房裝束。

三〇爲祿引牛馬法　上臈ハ馬。下臈ハ牛也。

三〇預祿儀　可懸左肩。近代必不懸之。取右腕歟。

一。纏頭間事

〇理之所至者。我可著之衣也。

一。七寶塔事

〇法華經第四云。有七寶塔。高五百由旬。縱廣二百五十由旬。從地涌出。任在空中。種々寶物而莊挍之。五千欄楯龕室。千萬無數幢幡。以爲嚴餝。垂寶瓔珞寶鈴萬億而懸其上。四面皆出多摩羅跋栴檀之香。充遍世界。其諸幡蓋以金銀瑠璃車渠馬腦眞珠玫瑰七寶合成。(イ高至四天王宮三十三天雨曼陀羅華)

一。七寶異說事

〇義疏第十二(二イ)云。七寶不同。涅槃經以金象馬神珠玉女主藏臣主兵臣爲一如是。輪王之七不通餘人。又恒水式經明世有七寶。謂金銀珊瑚眞珠車渠明月摩尼。智度論第十六云。金銀瑠璃車渠馬腦珊瑚眞珠爲七。此羅(經イ)所別(引イ)第七。是琥珀眞珠非七種。又寶塔品云。金銀瑠璃車渠馬腦眞珠玫瑰。有經云。正寶有七。雜寶有七(本イ)歟。而二十種。陀羅尼集經第十二云。寶者一金二銀三眞珠四珊瑚。五琥珀。六水精。七瑠璃。無量壽經上云。金銀瑠璃珊瑚琥珀車渠馬腦。大阿彌陀經上云。一寶者白銀。二寶者黃金。三寶者水精。四寶者瑠璃。五寶者珊瑚。六寶者琥珀。七寶者車渠。是爲七寶。

一。可聞三佛名事

〇七卷章云。慈恩。此土衆生宜聞釋迦。彌勒。彌陀。

一。鎮間事

〇地鎮　鎮壇　大結界　以上限堂宇可行之由。本說分明也。

鎮宅　裳衣鎮　以上限人屋行之。
八字文殊鎮　怪異之時修之。
地鎮堂舍造立以前行之。廣有外廊鎮。　鎮壇造堂以後供養日寅刻。或兼日有此事。　御願寺供養。專有地鎮。小御堂等用鎮壇。但可在時儀。或地鎮鎮壇行其一。或共有之。先例相分。陀羅尼集經第十二云。當結界時。任阿闍梨。心檀遠近。寬狹爲界。
大結界　興福寺南圓堂有 大師結界。高野被用此鎮。見于高野建立壇場結界啓白文。
東大寺同前　圓宗寺 成尊僧都鎮之。醍醐流殊祕藏之。
鎮宅　安鎮法云。安鎮家國。令無衰患。又云。王宮乃至百官黎庶人民所居。安置此像。元仁元年七月十八日 成就院僧正於仁壽殿修之。元永元年七月三日同人於白川新御所行之。

一。奉幣

○御幣　仕丁門內ニ持立。入御後祝師參進之時。四位院司取之廳官傳之。可持參入也。其後主典代持膝突布可敷也。共可跪之。
諸社御幸。女院儀。御幣仕丁一人兼可持立。便所祝師參進之時。四位院司持進御幣。廳官傳之。於御前相共膝突可授之。于時主典代持參軾布敷之。不可有散米。
○散米　尋常儀無之。
○祝師祿　四位院司著布衣可役之。手長廳官也。
○膝突布　尋常白布也。
○同祿　大褂一領。定法式也。

中一。消息事

○進上　人々御中　猶以直進之樣也。不書上所シテ人々御中可宜也。
○四條殿　封文之時。此定可書也。居所ヲ用上書事ハ褻儀也。
○書祇候人名事　能敬時書(事イ)也。裏ニハ恐々謹言月日ナト許アル。見苦事也。二行許ハ尤可

書也。況月日許ハ更不可書。面ノ奥マテ書ツメツレハ。上所ヲ略シテ不書ハ常事也。裏マテ不書消息ヲハ一行ヲ折テ卷之。裏マテ書タルヲハ更不折。自奥卷也。假名消息ハ裏マテモ書ヨセ不書深ク押折テ卷之。眞名消息ニモ以二枚立文常事也。切ニ別紙ニ封スル事ハ。不可依人之上下也。切禮紙之端ヲ封スル也。ウルハシクハ如此也。切懸ハ褻儀也。

總テ人ノ許ヘ遣ラン消息ニハ。禮紙ニハ物モ不書シテ。消息ノ端ニ書端書。是禮紙ニ返事ヲカヽセン料也。

消息ノ中ヲ結ハ褻儀也。上臈之御消息サルヘシト云事ハ不可然。御室ナトヨリ被進院之消息ニハ。以此趣可被洩申之狀如件ト可有也。如件之次ニ恐々謹言トハ不可有也。人ノ許ヘ可申次ト云フ詞ナレハ。恐々謹言トハアマリノ事也。又不可有表書。只名許可宜也。親範入道說ニハ。切別紙封事ハ。上ヘ進スル書ニカクスト云ヘリ。僻事也。

上書ハ知行之中。以爲宗寺被用之。御室遣關白家上書ニハ關白殿。遣攝政家上書ニハ攝政殿。御消息ニ被用御判。不可有傍難。凡ソ名幷作名及判。此三無差別。自達上之時用判。何況等同哉。但於二合名者。自上給下之時用之。

大臣送大臣狀　　左大臣殿。右大臣在判無上所。

大中納言進大臣狀　　左大臣殿大納言某。中納言同之。某小路殿大納言某。中納言同之。公事之時雖須書大臣殿。然而近代不書之。但可依人。或有書之。或用進上字。或又不書上所。

參議進大臣狀　　進上某小路殿　　參議。進上子息名。或家司名。

參議進大中納言狀　　進上某大中納言殿　參議。或用謹言上字。可隨人。

職事進大臣家狀　　進上子息名。或家司名。

同進大中納言狀　藏人頭用謹上字。或用謹
謹上字。可隨人歟。五位職事。進上某大納言殿
書之。
○進上殊致敬狀。謹々上次。謹上等輩。謹奉顏下劣人。
三
奉次。居劇官之人用一紙。非指口傳。今案歟。
○消息間事　抑字　平出ニ書事。不可然
也。
恐々　之狀如件之下ニ恐々謹言ヲ書加ハ。
ウヤマウ時ノ事也。如件ヲ不書シテ某恐々謹
言トモ書。同體事歟。裏ニ引返テ如件謹言月日
名上所等許ヲ書事。不可然也。
上所　一枚カ奧無其所之時。不書之。
卷樣　一枚ニ書餘ル時ハ。紙ヲ卷續テ可書
之。奧一行許ヲ抑折テ卷之。若奧マテ書詰(極イ)ツレ
ハ不折シテ卷之。
懸紙　懸紙ヲハ一寸許書札ニ引重テ可卷之。
紙ノ面ヲ內ニスヘシ。懸紙シタル文ヲハ懸紙
ニハ不籠也。立文ニハ取雙テ可立文也。
封樣　紙ヲ細切テ四五分許懸紙ニハサミテ。
右サマニ反シ卷テ。懸紙ノ端ニ相當テ上サマ
ヘ折テ。自下ニ二反サシトヲシテ。封紙ノ下キ
ハヨリ切ヘキ也。切懸テ封事ハ褻儀也。
封書樣　書片名ヲ意見以下奏書ニハ書之。
書封尋常作法也。
白封　尋常勘文此儀常法也。
引墨　褻事也。但非祕藏之書者不書封シテ
引墨也。
立文　以紙面爲外卷之。上ヲハ少分短。下ヲ
ハ少分長スヘシ。捻目ヨリ平ラカニスヘシ。
封文上所　不書之。
同位署　同前。
奉書　一枚書之。
請文　二枚書之。
奏書　檀紙ニ書。普通之事歟。

私書札　二枚。可隨人事歟。

中
○仰護持僧儀　仰護持僧事ハ。職事蒙勅命遣御敎書之外ハ。全無別儀。件御敎書ニハ。打任不書年號。請文モ可然也。凡ソ書年號ハ。慥ナラムト思事ニハ消息ニモ定書事也。御敎書ニ雖無年號。請文ニ書年號不可苦云々。御敎書年號不及其難歟。

一。吉書事

○可行吉書事　年始　慶賀　移徙　嫁娶。

○覽下儀　當日年預下家司著衣冠。付封戶解文於年預家司。解文多載加賀國或美濃。播磨等。其解文。書樣下家司皆存知也。家司著束帶。著冠侍所披見之後。插杖覽之。主人著冠直衣。著客亭披見畢。返給之。家司取之還著侍所。書下書其書樣可成返抄。別當官位姓名。解文端書畢。還給下家司。下家司成上返抄。家司加判返給畢。

中
○於西院吉書　執當於三綱座兼書之。入筥蓋持參長者前。下臈一人持硯從之。西院預一人持印鎰櫃同從之。置長者座前退出。長者取吉書加判返與執當。執當吉書ヲヒロケテ捺印。納櫃之後。如元吉書ヲ入筥蓋。少時蹲居。于時賜祿。被物一重。僧綱取之。硯持單一領。役人同前。其後預テ參進テ取印櫃。各退出。

三
一。諸寺往來持參事

○持參官符史蒙賞翫。被召上之時給祿。

一。日時勘文事

○陰陽師持參勘文之時。於障子上令人進之。入筥。或召前之時。染筆直書之。

中
一。硯間事

○持參硯筥事　陣ニテハ外記一人ハ置例文於上卿前。一人ハ置硯於參議前。又如僧名定。史二人如此。

○撤硯箱間事　外記撤　如此文之時。上卿前ナル取筥ヲ。至テ參議ノ後ニ。硯上ニ置筥重テ

取テ退也。又大將著陣之時。少將兩度撤之。先撤硯事除目其例也。

一。封間事 中

○書封間事　封紙年月日書付事。七大寺勅封倉ニ。此定ニ御之樣雖覺悟。久罷成テ僻事ニモ候覽。但年號尤可也。

廿元建　一三久

〔一本〕三廿一　建久元

○切封餘紙間事　外記ノ文ヲ上卿前ニテ封之時。小刀ヲ懷中シテ取出テ切之。

○御封閇事 中三ミフアク　政ニ印ヲ着スナレト申御可思寄候歟。

一。百首和歌事 三條

○封樣切別紙テ。其端ヲ少分禮紙ニ籠テ。右サマヘ二反許卷テ重禮紙端封之。封紙ハ下ヲ迫テ可切也。

○書名字。封目ノ上禮紙ノ端ニ封紙ノ上下ヲ兼テ。普通ノ字ヨリハ頗小ク名ノ上ノ一字ヲ書也。

○立文法。以使遣之者。以禮紙可立文ニ。以消息遣者。禮紙之外卷加可立文。

○位署ニ臣上ト書ハ。應製之時事歟。上字ハ可有之歟。

○題書樣ハ。如下給題書樣可宜歟。

一。定文字 中

○大内之儀。大辨必書之。硯ヲ官ニ召。于時塗硯箱ニ物具幷續紙ヲ入テ持參也。

○於院中書之時。或殿上硯ヲ用。白木箱。入續紙 又盛折敷。或盛柳筥。置續紙二卷於硯左。無懸紙用之。召藏人方之時盛柳箱。置加續紙 進之。藏人持參。置末座人前。其仁不堪者。堪能人可書之。

一。諸詞事

○還宮詞事　最勝光院供養次第。還御與還宮各別作之。如次第者。法會之御ニハ還御ト

書。入御于內裏之後。於被行法會間事時。還宮ト書尤可然事也。

○行幸御輿寄スル事ヲ書ニハ。開戸ヲ開閉ト書之。

○樂船詞事　古次第云。船樂進出池邊。奏樂又樂船云々。尤可也。

○上御詞事　院ニハ上卿之詞不可然。雖院事於公家事沙汰者。可有上卿之詞。

一。中陰間事

○中陰間裝束用布。是准俗家所申也。扇冬ノハ灑(サラシ)。夏ノハ無薄也。自四月著生奴袴ヲ。冬ニナレトモ不練。自九月ハ著練奴袴。夏ニナレトモ不用生。是著始タル物ヲ一周忌之間不改儀也。關白口入粗有先規歟。衣幷奴袴可用平絹。懺法次行恒例御佛供養日。中陰修臨時佛事。是定事也。著素服者群居簾中不露顯。重服時上齒固之外。云強飴。云節供事。不違例。又吉事猶可行。又不可乘新車。著服人元三出仕。雖無先例。只不可指出歟。又元三裝束吉服不可有巨難。又彼事役人勤御陪膳事。尤可被除之。雖除服猶御月忌等ニハ著墨色。先例不可勝計。

# 三條中山口傳第五

三　公家御祈事

後七日法請。　請取御衣儀付酒肴儀。　十五
日勅使酒肴。

東寺灌頂

上卿參議辨等座　殿上人座　式部彈正幄
上官座　上卿召外記問諸司參否儀　打
參會鐘役人　當日饗訖供手水儀

中　神泉御讀經

中央間覆莚奉懸佛　佛供机重行詞(調イ)　上卿

座　辨座　圖書寮座　堂童子座　鐘　幔
引樣　取火舍人　同立所　仰度者役人
上卿問諸司幷僧參否儀
公家御祈結願事
法會儀事
七僧法會。　仰度者。　同申次。　(圓イ)同座。
仰度者役人。　中神今食間遣度者使。　行
香机幷重行地鋪敷樣。　名香間樣。　佛前
机幷磬臺等置物。　讃衆持物。　中樂行事立
所付故實。　散花問菩薩已下列立。　中伶倫參
向。
中氏長者於法成寺行御誦經儀。
置誦經物於堂內　無幄時小莚時儀　此時
不儲殿上人座　中置御誦經儀
堂達取御誦經文。　中御誦經幷度者有無。　仰
御願趣付刻限。　中撤草墪代。　撤舞臺上草墪
代幷行香机刻限。　賦花箱役人。　堂童子
裝束。　迎衆僧儀。　衆僧參上時省寮留立
標下付立標役人。　三最勝講時從僧參儀。　僧
侶退下。　中近衞司不從追福佛事儀。　中幡懸
樣弘莚敷儀。　中立列事。　列立。　退出。
拜事
拜儀。　中賀茂御拜。　春日詣氏公卿列座拜
付御幣事。
三絃管事
御遊和歌會前後。　笙竹名。　橫笛穴名。
篳篥圖。　和琴袋。
雜談事
手箱可敷物。　中折敷置物樣。　打扇樣。
枕。　扇不露顯。　中劍袋。　著藁沓葦立莚
道上。　紙捻。　平出字。　狀上書。　汁
書樣。　諷誦文書樣。　御祈藥種銘書樣。

朝覲行幸御見物。

一。公家御祈事

○後七日法問事　伴僧請書ハ。東寺ト書シテ。月日之下ニ東寺三綱ノ名ヲ書シテ。(下臈ハ月日ノ下ニ書シテ。其ヨリ次第ニ上臈ナ可書也。)上判長者加署。法式之所差也。長者許ハ無謂歟。或書密ニテ何モ無テハ中々アリナム。但別當ナントハ聊非無所存歟。宮中眞言院ト書スレハ無其理。使者ハ以東寺職事可催也。非寺務長者觸一長者。可請受歟。伴僧請書立文事不打任。只一枚ニ書シテ禮紙モ立文モ不可有之。

○請取御衣事　勅使藏人來。有職等出逢申案内。大阿闍梨著鈍色裝束。於南面以件有職招入勅使。勅使持御衣(在筥)。進來。置大阿闍梨前。退著座。有職(或大行事)。出來取御衣。賜大行事。安道場机上。其後羞酒盃。先肴物一高坏。次菓子一高坏。次酒盃(居折敷)。次酒。(入提銚子。褻事也。)長者侍等ハ可役之。別陪膳アラハ能歟。同品ノ人モ其上臈ノ陪膳スルハ定事也。略時一獻。打任三獻也。酒盃を折敷ニ居テ置時。本ノ酒盃ヲ取替テ被出ヘキ也。肴ハ毎度ニ可居也。(酒盃ニ一坏可居具一坏ハ略儀也。)

○十五日事　勅使來後。先肴物。次小豆粥。(如菜何事之有哉。)次菓子。次酒盃。此定可居也。小豆粥ヲ勅使ノ前當テ可居也。

○東寺灌頂事　上卿參議辨等座　副西壁敷高麗端帖二枚。以南爲上卿座。以北爲參議座。傍作合東御簾紫帖爲辨座。

殿上人座中門東腋歟。(以西爲上。)

式部彈正幄。灌頂堂門外南腋。(省北臺南。)

上官座。中門西腋歟。(以東爲上。)

上卿召外記。問諸司參否。外記磬(畢イ)折事跪砌外。

集會鐘事。可仰中綱打也。

中(イナシ)東寺灌頂。當日饗訖。供手水儀事。長者著集會

幄供手水。三綱一人取手洗授陪膳人。有職。陪膳人取之置長者前。三綱一人取手巾。折敷置之。又授之。取之置手洗右邊。又一人取棙又授之。同取之撤蓋可供之。撤却次第。先自棙次第授三綱。色衆(衣イ)進幄邊。三綱一人持棙。一人持手巾。置折敷。色衆(衣イ)作立洗手。

中○神泉御讀經事　中央間覆莚奉懸佛。如此所以莚爲其隔。諸司之習也。佛供机重行。調(詞イ)立一脚。又同立之。重行調(詞イ)定事也。

上卿座　佛面西間南庇廻南柱東西行敷絲端帖。

辨座　同庇西一間廻西柱。南北行敷黃端帖。

圖書寮座　去南砌一許丈佛(面イ)西(西イ)東面間ニ當テ。敷小莚各一枚。

堂童子座　其南去三許尺南北行。敷黃端帖各一帖。

鐘　圖書寮鐘懸棟木。

幔引様　去東西北砌一許丈引之。三面屋皆柱外引廻幕。

火舍取人事　圖書寮官人同立所隨行香人々立廻。其所狹者當行香人無定法。

仰度者　近衞中少將共勤之。

上卿問諸司幷僧參否　召外記問僧參否　外記跪砌外。召辨問僧參否。自座前參進。

成海○公家御祈　不被引御馬。

一。法會儀事

○七僧法會事　周忌堂供養。七僧法會定事也。近則法性寺堂供養也。

○仰度者事　進高座南頭可氣色也。

○司(圓イ)申次事　南面御簾前ニ跪テ可申之。

○同座事　度者誦經。兩使用同圓座。

○仰度者事　近衞次將仰之云々。儒士所作習。以中將爲亞相。以少將爲次將。古次第不然哉。近衞將仰之許可書也。近來中山說ニハ。中少將通名也云々。

賜度者事ハ。爲大阿闍梨賞翫也。

（中）○神今食間遣度者使事　神今食間。上卿ヲ被遣程事也。度者使不可及儀歟。就中外記日記。新嘗會以所被行御印之由。賴業所申也。全不可依神今食。隨先例有之。

（三條）○行香机幷重行机地鋪敷樣名香間事　行香ニハ堂達就机下。移置奩於火舍一方事。非法式。綱所樣樣シリ仕歟。行香ヲ公卿取之。授次座人時儀ハ。東禮所ハ左手ウツフセテ取之。右手ヲ仰テ取テ授次人。香ヲ僧手ニ入ニハ一匙也。僧請香ニハ仰手請之。入火舍ニハ無指樣。重行机地鋪ヲハ引重可敷之。名香裹者長一丈餘。簀子一尺許打置程可宜。弘一尺一寸也。同紐ハ隨裹色可用五重。裹五筋也。可准知之長一丈六尺歟云々。其色必不定。織物浮線綾可用。裹樣ハ藥裹之體也。自左右卷寄テ以紙捻先結之。裹絹ハ二折ニテ裹之。若短時寄片方裹之。（門跡イ）以紐結樣ハ。裹テ卷アハセタル方ヲ。モロカキニ結テ。三四寸許ワナヲアラセテ。ソレニ皆ムスヒヲナカクシテ二三寸許サケテ。又短ク結也。名香ヲ鳥口ノ內ニテ。裹絹ヲ外ニテ行香机ニハ倚立也。紐ヲハ傍鳥口テ垂之。插時鳥口ノ下ヲ結緖紐ヨリサシトホス。第一故實也。

○佛前机幷磬臺事　佛前脇机左机置塗香（ツカウ）灑水器。在散杖。右机置御經御願文。磬臺ハ立末座僧前。

○讚衆持物事　諸御願寺供養式次第等。音頭持鉢。自餘持花筥云々。舍利會次第。音頭持鉢。自餘持香爐云々。讚衆音頭持鉢。自餘持香爐。

○樂行事立所事　第二ノ菩薩ニ傍テ可立之。但御所ノ前ヲ過時。菩薩ヲ御所ノ方ニ立ル。是故實也。

○散花間菩薩已下列立事　出立樂屋前。可向堂前。諸僧降階時。發樂可進左右。若堂前庭狹者二重可立也。

○伶倫參向事　法勝寺大乘會御幸時。樂人宇治參向。以堂爲前。入御時大鼓持可爲御車傍而俊明卿大納言高國子也奉行此事時。下﨟前引還打壹鼓。微行人以褒美云々。有行幸時。其日御幸參向不可然歟。法勝寺堂供養之時。近衞院御在位之時行幸幷新院御幸在之。

○氏長者始行法成寺御誦經事　置誦經物於堂內。

無幄時小莚事　猶可具之。興福寺上棟。氏公卿下向之時。各置諷誦物居案上。相具小莚付寺家也。

氏長者法成寺始行誦經事　件時不設殿上人座。

執柄始法勝寺修誦經事　南廂座東西行。小文高麗二帖置(敷イ)事有之。導師布施之間。自後戶經廂置之。家司役之。

○堂達取御誦經文事。　堂達進於簀子。取御誦經文時跪也。又綱所跪後。可降長押也。

○御誦經幷度者有無事　雖有誦經。無度者使事多有之。有度者無誦經事。先例只今不覺悟。

○仰御願趣事付仰度者刻限事。　辨仰御願趣。起座就導師左邊仰之。先觸上卿。辨起座跪上卿御座前。可仰趣ヲ示ス也。是定法式也。就中散所佛事ニハ必可

然。
○仰御願趣幷度者事　必表白ノ中間也。
中○撤草墪代事　大法會ニハ樂人之下臈撤之。是又可然歟。菩薩十二天退下之時可撤之。
中○撤舞臺上草墪代幷行香机刻限事　撤舞臺上草墪代幷行香事。古次第ニ法會後入調舞前撤之。胡蝶舞了。撤草墪代。法會後撤行香机之條。何事有之哉。有准據。
○賦花筥役人事　成菩提院御念佛之時ハ。御法事ノ花筥ハ堂童子令散ハ。自御所被取出。殿上人賦之。本所雖去殿上人歟。
三條○堂童子裝束事　自四月朔至于九月晦ハ。左二藍打。右青朽葉打也。自十月朔至于三月晦。左躑躅右柳。
三○迎衆僧儀事　迎衆僧幷導師ニハ。治部玄蕃先行之。
○衆僧參上時。省寮留立標下事付立標役人　衆僧參上時。省寮留立左右標下。件標外記立之。
三條○最勝講時從僧參儀事　最勝講時。從僧夜御戸ノキハマテ參上。不爲難之。
○僧侶退下事　僧侶退下時ハ。自脇可退之。
○近衛司不從追福佛事事　近衛司不從追福佛事。且六條關白爲法性寺入道被修佛事之時。院別當官雖臨其庭。不取布施。但近來粗供奉。云々。
中○幡懸樣弘莚敷儀事　幡季御誦經已下。限母屋懸之常法也。弘莚事。御佛名之外。限母屋多有敷儀。
中一。立列事
○列一行參進可宜。
○列立重行普通事也。退出上臈前也。

一。拜事

○俗拜。僧三度也。法家皆以三拜也。突額可拜。

○賀茂上下　皆於堂上有御拜。

○春日詣時。氏公卿列座一拜也。御幣等社司各取之。

三條

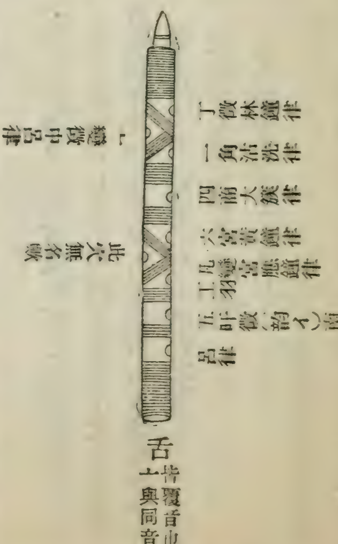
一。絃管事

○堀河院始御幸之比。於白川院御所御遊連日事也。先和歌會。次絃管。其後被羞酒盃之時。顯輔卿庖丁。是常事也。

○笙竹名　千。十。下。乙。工。美。一。八。也。言。七。行。上。凡。乞。毛。（亻。亡）。比從端短竹起。

○横笛穴名　六 第一穴名　中 第二　夕 第三　ユ 第四　五 第五　亍 第六 但除口穴定　丁 第七　丁音 六夕兩穴共開音　丁由 開夕穴叩六穴音　口音皆塞音　口穴次穴名

○篳篥圖




○和琴袋　一方ヲ折反テ付紐。定事也。總不限和琴。如弓袋以紐結之。不打任樣也。

三

一。雜談事

○手箱可敷物哉　不可敷之。總紙裹テ結タル物ヲ入櫃事無之。

○折敷置物樣事　折敷ニ置物ニハ。木目ヲ横ニテ。布知ノ違目ヲ上ニテ置之也。

○打扇樣事　不打疊。不打手。必可打板。甲

乙四度ヲ可打也。猶人不聽ハ兩段(股カ)ヲ可打。扇ヲ持右手。末ヲ左ニ遣テヒラメテ可打。

三○枕事　鳥羽白川兩法皇。殊北枕御。又攝政家以南方爲枕。是南都歸敬之故也。

○扇不可露顯也。

中○劒袋事　細キ袋ノ類ヲハ折反サスシテ。以紐結之樣。被調メヅラシク見歟。

○着槖沓韋上立莚道上事　甚不當也。又無先例。

○紙捻有二說　一者捻續テ。其續目ヲ一結。一者只別ニ捻ニ結續。其中央捻終ノ方ヲ結也。

○平出字事　公家中之外無書平出。而近來院宣若殿下。猶以平出書之。

式部大輔遠賴記

○狀上書　其(從イ)返書某事承元四。正。十八到來。奏狀ニハ陪膳ノニハ押テ書之。某申其職。其外人ニハ札ヲ付。

成海○汁有寒溫　冷汁溫汁ト可書也。

○諷誦文　細筆ニ可書。卷數ヨリモ太ク可書也。例狀ニハ略敬白兩字。例狀ト右諷誦所請如件ト書也。二枚ヲ重可書也。

○御祈香藥銘　金銀名香丁子。中央ヲ計テ極テ細筆(小歟)ニ白書ニ可書也。

左府○朝覲行幸　上皇召御車御覽之後。從閑門入御定事也。

拜借一條殿下御藏書謹拜寫之。兩册內牛令紀氏辰早之。

右三條中山口傳二册桃花前殿下之御本而所以御廚子所預前備前守之謄寫也深祕雖不許他見以孝盛。親炙之日尙故得之實蓋世之珍書堅藏而不可出閤外者也。

元祿十六年三月八日

從五位下宮內權少輔平朝臣孝盛

〔丹鶴本附錄〕

以下在一本 近衞基熙公奥書御本。奏吉書之次。有此條々。無西院吉書以下之文。

東大寺證誠事

御下向令用船。一隻。於木津 令移乘御車。□可宜。如此時雖少々前駈可有之。件輩四位等著狩衣袴可宜。又著水干裝束輩少々相交。不可有苦歟。

神泉御讀經事

一衆僧集會所。以西可爲上歟。佛□□□卿座儲西之故也。

一上官座之外。行事官座不可儲歟。但近例之由見綱所記。然者偏不(可イ)停止事歟。諸司事。可被尋外記。

一僧侶集會幄之外。又儲休息所。無謂歟。

一諸御願寺供養。僧綱座 兩面端。凡僧座 綠端也。然而且依常儀。且依忌寺。色尤可用綠。□□僧正座者必雖敷兩面前。尙可儲綠歟。

一任宜不(被イ)圖之。其上召差圖。不載之。覺後圖可宜歟。

一用綠幔。尤可然歟。

宮御院參間事前駈可下立所事　於大炊御門辻可降也。

御車引向門前可有下御事　北面引立可有下御。但聊可有向門氣也。

公卿座可御歟事　可然。

御共僧綱候所事　中門廊 東面簀子。殿上廊障子西可候歟。

門外立御車方事　南掖可宜歟。

御引替時。前駈可下歟事　尤可下也。但近代不然也。

前駈侍等可 徘徊所事　前駈中門邊。侍御車宿歟。

摺墨事摺時不動其臂。　以袖端引覆手上摺之。若

硯動有聲者。以左手押硯摺之。摺間三度許見墨末。見被摺之程心也。摺了如本置筆臺。次取筆染墨。乍二管染之。見其鋒置筆臺。隨其善惡。可用之筆置硯方也。

捻紙有二說事　一者捻續テ。其捻・目(續イ)ヲ一結。一者只別々捻結續其中。(イ捻糸ノ方チ云也アリ。)

建久六年十月廿五日白川

爲眞言御傳受。御參內間事。

御裝束事先例宿裝束。　如仰御法服尤可宜。

於褐下令差鼻廣如何事　故入道左府。依脚病所勞被用此儀。此條不可及難歟。

可被用庇御車事　尤可然。

付轅輩事　御幸之時。廳官輩御車。主典代相加之。又院司上臈二人□ハ一人相副也。准之歟。侍付轅之條。非無其謂歟。已下在右。

公卿(-綱イ)僧綱交座事。如然御會ニ參程。公卿又應召僧・強憚交座人不可有歟。各隨便宜可居也。宰相ノ僧都之下ニ可居ニテコソアレトモ。其定ニ被居スハ。定無饗應儀。又イカニソヤアリヌヘシ。然者或一行或雖居。臨期可斟酌事也。總テ居事ハ。必定俗ヲ先可□□可隨人。別當ナム參上之時ハ。如威德寺ナトハ去モ□□俗姓不可准。他尤最前可居也。人不可難事也。有職與殿上人。同事可候云々。

如此御會。三綱僧幷三綱等不立座事。□可□□□垸飯事。打任テハ不可然事也。□皆□□□此事强不可停止事歟。依參會人。又隨所可□□□□也。

□□□事

役人事

諸入道交座事。□□□會尺可左右。又於饗應儀者。以前ニ不可有相違事也。有職僧綱准據同前也。例儀アラハ。非人入道以下尤可立其座。三綱僧綱幷三綱等ハ。無內外御會ナラヌハ尤可

立事也。
□□□事中山。文治四年正月日。
上下格子役人事　公卿侍臣參會時。於御前見參之時者。三綱可役之。公卿又參上シテ被著其座ハ。無見參トモ三綱(僧イ)向可役之。殿上人參上之時ハ。强不然トモ侍・法師可勤時役也。
御幸幷行啓之間。渡御以前ナラハ。本所侍可役之。入御以後ハ。一切藏人殿上人之外不可勤之。
尋常時雖北面御所ニテアラハ。三綱可役之。南面御所之外皆侍僧可役。院中儀。侍不勤如此役。雖然攝政家已下恪勤之侍。御所之外下格子之故如此申也。□
ナトニハ自便路(侍イ)・役之。不可有其難事也。□□如此役ヲ三綱幷侍勤事ハ。院中之藏人殿上人。攝□家ニハ藏人五後位侍等。如此役ヲ勤之故。准之由也。然者雖凡僧。別當官者不可勤此役事歟。四位院司藏人頭ニ准シテ。□□□□□□□宣旨以前引入御車陣口事。甚不當事也。雖然近來必可然上多官之車。陣内ニ一兩ニテモ立。ソレハ□□□立ル間。多及陣内事有之。

中山口傳抄。以家門累代古本。令新寫之。所所舊損等。以善本可再校者也。

元祿二臘天日　基熙

以下原本在卷首

近衞殿下基熙公御本端書

於或所卒時寫之。定狠藉事多々(イナシ)歟。此内於膳故實者。非當家之說。僻事多々歟。不可爲指南。

一條殿御本目錄

三中口傳第一甲第一乙　第二甲第二乙

三中口傳第三第五　第四甲乙

同御本端書

寫本云。於本者爲甲乙丙丁〻〻〻〻八帖也。但今度寫本以新儀令寄集之。緘合二冊之儀。後難有其恐歟。追而可淸書而已。

大永五年秋八月二十有三日

從一位（花押）

一條殿
後妙華寺關白冬良公御判也。

以宮內省圖書寮本謄寫
以同一本及丹鶴本校合了

# 續群書類從卷第九百七十

雜部百二十

## 諸藝方代物附

近年諸藝方賣買代物事

一きぬ。　一小袖。
一わた。　一へに。
一ねりぬき。　一くれなゐの花。
一ぬの。　一こんや。
一そめ物。　一はくうち。
一こてさいく。　一さけ。同やなき。
一しやの染ちん。　一みそ。
一ゐほし。　一こゆい。　一うるし。

一ひきはた。　一らうそく。　一あふら。
一たゝみ。　一しほ。　一からかみ。
一むしろ。
一きぬの代。加賀上品は一疋三貫。或は二貫七百。八百。六百。五百。中は二貫二百。三百文。
美濃上品は二貫二三百。中は一貫六百。七百。下は一貫二百。自余同前。
一小袖の代。町おり物三貫余。北野物二貫五百。六百。以下小袖によて不定。かけもへき二貫計。中程の小袖云々。梅染其外色々同前。
一わたの代。錦小路中。三條町も同前。

一みの上品一貫七百。八百。二百文目。下一貫四五百。坂東上品一貫五百。百廿五文目。下一貫二百三百。越中皆同一貫百。百廿文目。

一へにの代。御はかまの染ちんは一兩。別紅の代四百文宛。御小袖御裏分。上は八百。中は四百文。其外は代によて染也。

一ねりぬきの代。上の代四貫五百。四百。中は三貫五百。下は二貫三百。四百。或は二百。練貫大夫性雲雨人申。

一くれないの花の代。上は廿七八貫。下廿五貫。

一ぬのの代。上品は一貫八百。七百。六百。或は一貫五百。中は一貫三百。四百。下一貫。

一こんやの代。あさきは百廿文。ひやうもんは百五十文。二ゑ物かちんましり三百文。まき八百。或は一貫。ひやうもんは代不定。

一そめ物の代。おもてはかり。かけもへき。梅そめ。倉谷物。小野物以下色々。上は一貫五百。四百。中は一貫。下は一貫より内ニ入。

一はくうちの代。金はくの色吉百文別ニ五枚半。或は五枚宛。銀はく百文別ニ十六枚宛。

一こての代。いゑはかり。上は三貫。或は二百。五百。中の上二貫。一貫五百。下は八百文。

一さけの代。本の代古酒は百文別ニ五杓宛。新酒は百文別ニ六杓。吉分。次は七杓。

一やなきの代。古酒百文別三杓。新酒百文別四杓。

一しやの染ちん。一たん六丈五尺染ちん六百文宛。袈裟三衣一染ちん五百文宛。

一みその代。五十〆目を五十文ニうり候。

一ゑほしの代。百文。たゝし近年染ニよて高下あり。

一こゆいの代。こうはいましりの三色くみ三百文。たゝの三色くみ二百五十文。與三七郎

申分。
一うるし。一駄は四桶。一桶分六升。本は十六貫つゝにうり候。近年高直ニよて一駄卅貫。或は二貫。三貫に及候て高直に成候。去年就彼問屋被召出一駄別ヲ廿四貫宛ニ申成に候。柳三らはうるしの代。時ニより高下候間難定由申。
一ひきはたの代。近年商賣。上一貫二百。百。中八百。九百。下五百。六百。
一らうそくの代。らう一きんにて三廷らうそく七廷かけ申候。六廷らうそくは十四廷。四廷は九廷。五廷は十二廷。
一あふらの代。一荷は二斗　七貫宛。やすき時は六貫宛。
一たゝみの代。六尺五寸間。面除四百文　衣かうらいの二重へり。面共ニ四百八十文。(三ヵ)面除三百文　布かうらいの三わり。面共ニ二百五十文。同四わり面共ニ二百卅文。面除百五十文。
一しほの代。百文ニ四五升。問屋ニよて升高下候間不定。
一から紙し。すゝし百文別ニ四枚宛。こすゝしは百文別ニ八枚宛。かきからかみ八百文ニ廿五枚宛。
一むしろの代。備後上は一枚百五十文。中は百卅文。下は百廿文。丹波豊嶋は上一枚八十文。下は七十文。
一おり物の代。よのつねのは六貫。かうしは七貫五百文。唐織物は十五貫。四貫壹分。たたし御文けつこうの時は代不定。
一しやの代。文しや上品。長六丈五尺。一端六貫文。下は四貫。すしや。上は四貫。長五丈五尺　下は三貫三百文。ろは上九貫。八貫。下六貫文。
一しゆの代。上は一兩八十文宛。下。ほうれい。四十文。

一きつ付の代。上皆具。金具除。一貫四百文。大あせりまで。中一貫二百文。下八百文。
一くらうち。二貫五百文。一口分。
一あをかいし。くら一口のつめてかた文一を。上一貫二百。三百文。下七百。八百。刀さや一尺五寸はかり。上六百。
一かみすき。とりのこ一枚。上は十六文。中十二文。下八文。打くもり一枚。上廿文。中十六文。うすやう。一束三百文宛。
一いとの代。但馬丹後丹波糸十杷。一貫六百文目。三十五貫文。加賀越前越中は同前。卅三貫。二貫文。
一ぬい物し。　観音堂つし
上二貫。中一貫五百。下一貫。たゝし文による間代不定。
一しろい物の代。はんのけと申器物ニ一はいを二百五十文宛ニうり候。たゝし水金未到來時は又高直ニて候。到來時はやすし。
一まきゑしの代。手箱一。上品五十貫。中三十貫。下廿五貫。
一かみの代。引合。上品一束七百。中五百。下四百。杉原。上品八百。六百。中四百。下三百もかした五十文。檀紙。上二百。下百計。薄白。上五十文。中四十文。
一しんさやの代。上品二百。下百五十文。
一すみの代。小野すみ一かい三束。三月三日より九月までは百卅文宛。十月より二月まで八百五十文宛。
一かはらけの代。十と入は百ニ五。七と入は百ニ十四。五と入は百ニ廿。あひの物は百ニ四十。三と入は百ニ百。
一くろ木の代の事。一そく八十文。或は七十文。

以宮内省圖書寮本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百七十一

雜部百二十一

## 出雲國風土記

國之大體。首震尾坤。東南山。(宮イ)西北屬海。東西一百卌七里一十九步。南北一百八十三里一百九十三步。□

一百步。□

七十三里卅二步。(誤イ)□

得而難可詳。

老細思㆓枝葉㆒。裁㆓定詞源㆒。亦山野濱浦之處。鳥獸之棲。魚貝海菜之類。良繁多悉不㆑陳。然不㆑獲㆑止。粗擧㆓梗槩㆒。以成㆓記趣㆒。所㆓以號㆒出雲㆒者。八束水臣津野命。詔八雲立詔之。故云㆓八雲立出雲㆒。

合神社參佰玖拾玖所。

壹百捌拾肆所。在㆓神祇官㆒。　貳佰壹拾伍所。不㆑在㆓神祇官㆒。

玖郡。鄉陸拾壹。里一百七十九。　餘戶肆。驛家陸。神戶柒。里一十。

意宇郡。鄉(壹)拾壹。里三十。餘戶壹。驛家參。神戶參。里六。

嶋根郡。鄉捌。里廿五。餘戶壹。驛家壹。

秋鹿郡。鄉肆。里一十二。神戶壹。里。

楯縫郡。鄉肆。里一十二。餘戶壹。神戶壹。里。

出雲郡。鄉捌。里廿二。神戶壹。里二。

神門郡。鄕捌。里廿二。餘戸壹。驛家貳。神戸壹。里。
飯石郡。鄕柒。里一十九。
仁多郡。鄕肆。里一十二。
大原郡。鄕捌。里廿四。
右件鄕字者。依靈龜元年式改里爲鄕。其鄕名字者。被神龜三年民部省口宣改之。

意宇郡
合鄕壹拾壹。里卅。餘戸壹。驛家參。神戸參。
母理鄕本字文理　屋代鄕今依前用
楯縫鄕今依前用　安來鄕今依前用
山國鄕今依前用　飯梨鄕本字云成
舍人鄕今依前用　大草鄕今依前用
山代鄕今依前用　拜志鄕今字林
宍道鄕今依前用
以上壹拾壹鄕別里參
餘戸里　野城驛家　黑田驛家　宍道驛家

出雲神戸　賀茂神戸　忌部神戸

所以號意宇者。國引坐八束水臣津野命詔。八雲立出雲國者。狹布之稚國在哉。初國小所作。故將作縫詔而。栲衾志羅紀乃三埼矣。國之餘有耶見者。國之餘有詔而。童女胸鉏所取而。大魚之支太衝別而。波多須々支穗振別而。三身之綱打掛與。霜黑葛聞々耶々爾。河船之毛々曾々呂々爾。國々來々。引來縫國者。自去豆乃折絕而。八穗米支豆支乃御埼以。此而堅立加志者。石見國與出雲國之堺有名佐比賣山是也。亦持引綱者。薗之長濱是也。亦北門佐伎之國矣。國之餘有耶見者。國之餘有詔而。童女胸鉏所取與。大魚之支太衝別而。波多須々支穗振別而。三身之綱打挂而。霜黑葛聞々耶々爾。河船之毛々曾々呂々爾。國々來々引來縫國者。自多久乃折絕與。狹田之國是也。亦北門良波乃國矣。

國之餘有耶見者。國之餘有詔而。童女胷鉏所取而。大魚之支太衝別而。波多須々支穗振別而。三身之綱打挂而。霜黑葛聞々耶々爾。河船之毛々曾々呂々爾。國々來々引來縫國者。自ニ宇波縫折絕一而。闇見之國是也。亦高志之（都之イ）都乃三埼矣。國之餘有耶見者。國之餘有詔而。童女胷鉏所取而。大魚之支太衝別而。波多源（マヽ）々支穗振別而。三身之綱打挂而。霜黑葛聞々耶々爾。河船之毛々曾々呂々爾。國々來々引來縫國者。三穗之埼。接引綱者。夜見島。固堅立加志者有ニ伯耆國一火神岳是也。今者國者引訖（詑イ）而。意宇杜爾御杖衝立而。意惠登詔。故云ニ意宇一。所謂意宇社者。郡家東北邊田中在塾是也。周八步許。其上有ニ木以茂。

母理鄉。郡家東南卅九里一百九十步。所造天下大神大穴持命。越八口平賜而還坐時。來ニ坐長江山一而詔。我造坐而命國者。皇御孫命平世所知依奉。但八雲立出雲國者。我靜坐國靑垣山廻賜而。玉珍直（置カ）賜而守詔。故云ニ文理。神龜三年改ニ字母理一。

天乃夫比命御伴天降來坐伊支等之遠神天津子命詔。吾淨將坐（志）社詔。故云レ社。神龜三年改ニ字屋代一。

楯縫鄉。郡家東北卅二里一百八十步。布都怒志命之天石楯縫直（置カ）給之。故云ニ楯縫一。

安來鄉。郡家東北二十七里一百八十步。神須佐乃烏命天壁立廻坐之。爾時來ニ坐此處一而詔。吾御心者安平成詔。故云ニ安來一也。卽北海有ニ邑日賣埼一。飛鳥淨御原宮御宇天皇御世。甲戌年七月十三日。語臣猪麻呂之女子。逍遙件埼。邂逅遇ニ和爾一所レ賊不レ歸。爾時父猪麻呂所賊女子歛ニ買上。大發苦憤。號天踊地。行吟居嘆。晝夜辛苦無レ避ニ歛（歛カ）所。作是之間經ニ歷數日一。然後興ニ慷慨志。麻呂。箭鋭鋒撰便処居。卽擿訴云。天神千五百萬。地祇千五百萬。並當國靜坐。三百九十九社及海

若等。大神之和魂者靜而。荒魂者。皆悉依給猪麻呂之所乞。良有神靈坐者。吾所傷和爾給。以此知神靈之所神者。爾時有須臾而。和爾百餘淨圍繞一和爾。徐率依來從於居下。不進不退。猶圍繞耳。爾時擧鉾而及中大一和爾殺捕。已訖然後百餘和爾解散。殺割者女子之一脛屠出。仍和爾者殺割而挂串立路之垂也。安來鄕人語臣與之父也。自爾時以來至于今日經六十歲。

山國鄕。郡家東南卅二里二百卅步。布都努志命之國廻坐時來坐此處而詔。是土者不止欲見詔。故云山國也。卽有正倉。

飯梨鄕。郡家東南卅二里。大國魂命天降坐時。當此處而御膳食給。故云飯成。神龜三年改字飯梨。

舍人鄕。郡家正東廿六里。志貴嶋宮御宇天皇御世。倉舍人君等之祖。日置臣志毘。大舍人供奉之。卽是志毘之所居。故云倉(舍カ)人。卽有正倉。

大草鄕。郡家南西二里一百廿步。須佐乎命御子。青幡佐久佐日(之イ)古命坐。故云大草。

山代鄕。郡家西北三里一百廿步。所造天下大神大穴持命御子。山代日子命坐。故云山代也。卽有正倉。

拜志鄕。郡家正西廿一里二百一十步。所造天下大神命。將平越八口爲而幸時。此處樹林茂盛。爾時詔。吾御心之波夜志詔。故云林。神龜三年改字拜志。卽有正倉。

宍道鄕。郡家正西卅七里。所造天下大神命之追給猪像南山有二。一長二丈七尺。高一丈周五丈七尺。一長二丈五尺。高八尺周四丈一尺。追猪犬像長一丈。高四尺。周一丈九尺。其形爲石。无異猪犬。至今猶在。故云宍道。

餘戶里。郡家正東六里二百六十步。依神龜四年編戶立一里故云餘戶。他郡山如也。

野城驛。郡家正東二十里八十步。依野城大神坐故云野城。

黑田驛。郡家同所。郡家西北二里有黑田村。土

體色黑。故云黑田。舊此處有是驛。卽號曰黑田驛。今東屬郡家。今猶追舊黑田號耳。
宍道驛。郡家正西卅里。（說名如鄉。）
出雲神戶。郡家南西二里廿步。伊弉奈枳乃麻奈子坐。熊野加武呂乃命。與五百津鉏々猶所取々而。所造天下大穴持命二所大神等依奉。故云神戶。（且如之。他郡等神戶）
賀茂神戶。郡家東南卅四里。所造天下大神命（祖イ）之御子。阿遲須枳高日子命。坐葛城賀茂社。此神之神戶。故云鴨。（神龜三年改字賀茂。）卽有正倉。
忌部神戶。郡家正西（南イ）廿一里二百六十步。國造。神吉詞望參向朝廷時。御沐之忌玉。故云忌部。卽川邊出湯。出湯所在。兼海陸。仍男女老少。或道路駱驛。或海中沼洲。日集成市。繽紛燕樂。一濯則形容端正。再沐則萬病悉除。自古至今。無不得驗。故俗人曰神湯也。
教昊寺。在舍人鄉中。郡家正東廿五里一百二十步。建立五層之塔也。有僧。教昊僧之所造也。（散位大初位下上腹首押（押イ）猪之祖父也。）
新造院一所。在山代鄉中。郡家西北四里二百步。建立嚴堂也。無僧。置君自烈之造所也。（出雲神戶。置君鹿（猪イ）麻呂之祖也。）
新造院一所。在山代鄉中。郡家西北二里。建立教堂。（住僧一軀。）飯石郡少領出雲臣弟山（承イ）之所造也。
新造院一所。在山國鄉中。郡家東南廿（卅イ）一里一百廿步。建立三層之塔也。山國鄉人。置部根緒之所造也。

| | | |
|---|---|---|
| 熊野大社 | 夜麻佐社 | 賣豆貴社 |
| 加豆比乃社 | 由貴社 | 加豆比乃高（守イ）社 |
| 都俾（得イ）志呂社 | 玉作湯社 | 野城社 |
| 伊布夜（白イ）社 | 支麻知社 | 夜麻佐社 |
| 野城社 | 久多美社 | 佐久多社 |
| 多乃毛社 | 須多社 | 眞名井社 |

布辨社　斯保彌社　意陀支社
予(市イ)原社　久米社　布吾彌社
宍(寄イ)道社　野代社　賣布社
狹井社　同(由イ)狹井高(守イ)社　宇流布社
伊布夜社　田宇社　布自奈社
同布自奈高社　野代社　佐久多社
意陀支社(社イ)　前社　田中社
詔門仕　楯井社　速玉社
石坂社　佐久佐社　多加比社
山代社　調屋社　同社　以上四十八所。並在神祇官。
宇(由イ)田比社　支布佐社　毛社乃社
那布(富イ)乃夜社　支布佐社　國原社
田村社　予穂社　同予穂社
伊布夜社　阿太加夜社　須多下社
河原社　布宇社　米那爲社
加和羅社　笠柄社　志多備社

食師　以上一十九所。並不在神祇官。
長江山。郡家東南五十里。有水精。
暑垣山。郡家正東八十步。有烽。
高野山。郡家正東一十九里。
熊野山。郡家正南一十八里。有檜檀也。所謂熊野大神之社坐。
久多美山。郡家西南廿三里。有植(卜イ社イ)。
玉作山。郡家西南廿二里。有植(社イ)。
神名樋山。郡家西北一百廿九步。高八十丈。周六里卅二步。東有松。三方並有茅。
凡諸山野所在草木麥門冬。獨活。石斛。前胡。高良姜。連翹。黃精。百部根。貫衆。白朮。薯蕷。苦參。細辛。(商)高陸。藁本。玄參。五味子。黃芩。葛根。牡丹。藍。漆。薇。藤。李。檜。字或作檜。杉。字或作椙。赤桐。白梧。楠。椎。海榴。字或作椿。楊梅。松。柏。字或作榧。蘗。槻。
禽獸則有鵰。晨風。字或作隼。山鷄。鳩。鶉。鶬。字或作離黃。鴟鴞。作橫致功鳥也。熊。狼。猪。鹿。兎。狐。飛鼯。字或作猵作蝠。獼猴之族。至繁多不可題之。

伯太川。源出仁多與意宇二郡堺葛野山。流經母理。楯縫。安來三鄕入于海。有年魚。伊久比。

山國川。源出郡家東南卅八里枯見山。北流入伯太川。

飯梨河。源有三。一水源。出仁多大原意宇郡堺田原。一水源。出枯見。一水源出仁多郡玉嶺山。三水合。北流入于海。有年魚。伊具比。

筑陽川。源出郡家正東一十里一百步荻山。北流入于海。有年魚。

意宇川。源出郡家正南一十八里熊野山。北流入于海。有年魚。伊具比。

野代川。源出郡家西南一十八里須我山。北流入于海。

玉作川。源出郡家正西一十九里（南イ）毛志山。北流入于海。有年魚。

來待川。源出郡家正西廿八里和奈佐山。西流至山田村。更折北流入于海。有年魚。

宍道川。源出郡家正西卅八里幡屋山。北流入于海。無魚。

津間抜池。周二里卅（拱イ）步。有鳧。鴨。芹菜。　眞名猪池。周一里。北入于海。門江濱。伯耆與出雲二國堺。自東行西。　粟島。有椎。松。多年木。小宇竹島等葛。　砥神島。周三里一百八十步。高六十丈。有椎。松。莘。薺頭蒿。都波。師太等草木也。　加茂島。既礒。　子島。既礒。　羽島。有椿。比佐木。多年木。蕨。薺頭蒿。　鹽楯島。有蓼螺子。永蓑。　野代海中蚊島。周六十步。中央濕土四方並礒。中央有手掬計木一株一葦。曰礒有蓼螺子。海松。　自茲以西濱。或峻堀。或平土。並是通道之所經也。　道通國東堺手間剗。卅一里一百八十步。通大原郡堺林垣峰。卅二里二百步。通出雲郡堺佐雜埼。卅二里卅步。通嶋根郡堺朝酌渡。四里二百六十步。前件一郡入海之南。此則（北イ）國務也。

郡司主帳無位海臣

少領從七位上勳業出雲臣

主政外小初位上勳業林臣

概(權カ)主政無位出雲臣

嶋根郡

合鄕捌。里廿五。　餘戸壹。驛家壹。

山口鄕今依前用　　朝酌鄕今依前用

手染鄕今依前用　　美保鄕今依前用

方結鄕今依前用　　加賀鄕本字加々

生馬鄕今依前用　　法吉鄕今依前用

以上捌鄕別里參

餘戸里

千酌驛家

所三以號二嶋根一者。國引坐八束水臣津野命之詔而(負イ)順給名。故云二嶋根一。

朝酌鄕。郡家正南一十里八十四步。熊(緒イ)野大神命詔。朝御饌勘養。夕御饌勘養。五贄結之處定給。故云二朝酌一。

山口鄕。郡家正南四里二百九十八步。須佐能烏命御子都留支日子命詔。吾敷坐山口處在詔而。故山口(負イ)順給。

手染鄕。郡家正東一十里二百六十四步。所レ造二天下一大神命詔。此國者丁(順イ)寧所レ造國在レ詔而。故丁寧負給。而今人猶誤謂二手染鄕一之耳。卽在二正倉一。

美保鄕。郡家正東廿七里一百六十四步。所レ造二天下一大神命。娶二高志國坐神。意支都久辰爲命子。俾都久辰爲命子。奴奈宜波比賣命一而令レ産二神。御穗須々美命。是神坐レ矣。故云二美保一。

方結鄕。郡家正東廿里八十步。須佐(能烏イ)素命御子。國忍別命詔。吾敷坐地者國形宜者。故云二方結一。

生馬鄕。郡家西北一十六里二百九步。神魂命御子。八尋鋒長依日子命詔。吾御子平明不レ憤詔。故云二生馬一。

加賀鄕。郡家北西二十四里一百六十步。佐加比比賣命闇岩屋哉詔。金(全イ)弓以射時。光加加明也。

故云加々。
法吉鄕。郡家正西一十四里二百卅歩。神魂命御子。宇武賀比比賣命。法吉鳥化而飛度。靜坐此處。故云法吉。
餘戸里。說名如意宇郡。
千酌驛。郡家東北一十九里一百八十歩。伊佐奈枳命御子。都久豆美命此處生。（坐イ）然則可謂都久豆美。而今人猶號千酌號耳。

布自伎彌社　多氣社　久良彌社
同速都武志社　川上社　長見社
門江社　横田社　加賀社
爾佐社　爾佐加志能爲社　法吉社
生馬社　美保社以上十四所。並在神祇官。
大埼社　大崎川邊社　朝酌社
同下社　奴奈彌社　椋見社
大井社　阿羅波比社　三保社
多久社　蜛蝫社　同蜛蝫社
質開比社　方結社　玉結社
川原社　虫野社　持田社
加佐奈子社　比加夜社　須義社
伊奈須美社　伊奈阿氣社　御津社
比津社　玖夜社　同玖夜社
田原社　生馬社　布夜保社
賀茂志社　一夜社　小井社
加都麻社　須衞都久社以上三十五所。並不在神祇官。

布自枳美高山。郡家正南七里二百一十歩。高二百七十丈。大周一十里。
女岳山。郡家正南二百卅歩。
虱野。郡家西南三里一百歩。無樹木。
毛志山。郡家北一里。
大倉山。郡家東北九里一百八十歩。
糸江山。郡家東北卅（卅イ）六里卅歩。
小倉山。郡家正東（西イ）廿四里一百六十歩。凡諸山野所在草木。白朮。麥門冬。藍。漆。五味子。苦參。

獨活。葛根。薯蕷。卑解。狼毒。杜仲。芍藥。柴胡。
百部根。石斛。藁本。藤。李。赤桐。白桐。海柘榴。
楠。楊。松。栢。禽獸則有鷲。字或作鵰。隼。山鷄。雞イ鳩。
鴙。雉イ猪。鹿。猿。飛鼯。
水草川。源二。一水源。出郡家北三里一百八十歩毛志山。一水源。出郡家西北六里一百六十歩同毛志山。二水合南流入于海。有鮒。
長見川。源出郡家東北九里一百八十歩。大倉山東流。
丈島川。源出郡家東北一十二里一百一十歩。暮野山。南流二水合東流入于海。
野浪川。源出郡家東北廿六里卅歩。糸江山。西流入于大海。
加賀川。源出郡家正北廿四里一百六十歩。小倉山。北流入于大海。
多久川。源出郡家正北廿四里一百六十歩。小倉山。西流入秋鹿郡佐大水海。以上六川。並少少有魚川也。
法吉陂。周五里深七尺許。有鴛鴦。鳬。鴨。鮒。鯉。須我毛。當夏節尤有美菜。
前原陂。周二百八十歩。有鴛鴦。鳬鴨等之類。
張田池。周一里卅歩。匏池。周三里一百六十歩。生蔣。美能夜池。周一里。口池。周一里一百八十歩。有蔣。鴛鴦。敷田池。周一里。有鴛鴦。除水南入海。自海行西。
朝酌役戸。東有通道。西有平原。中央渡。則筌亙東西。春秋入出。有大小雜魚。臨時來湊筌邊。駈駭風壓水衝。或破壞筌。或製白鹿。於鳥被捕。大小雜魚。濱藻家閙。市人四集。自然成鄽矣。自茲東東。至于大井濱之間。南北二濱。並捕日魚水深也。
朝酌渡。廣八十歩許。自國廳通海邊道矣。
大井濱。則有海鼠。海松。又作陶器也。
邑美冷水。東西北山。並嵯峨。南海澶漫。中央鹵灠磷。男女老少時叢集常燕會地矣。
前原埼。東北並巃嵸下則有陂。周二百八十歩。深一丈五尺計。三邊草木自生涯。鴛鴦。鳬鴨。隨時常住。陂之南海也。即陂與海之間濱。東西長

一百步。南北廣六步。肆松蓊鬱。濱鹵淵澄。男女隨ㇾ時叢會。或愉樂歸或耽遊忘ㇾ歸。常燕喜之地矣。

蜛蝫嶋。周一十八里一百步。高三丈。古老傳云。出雲郡杵築御埼。有㆓蜛蝫㆒天羽合鷲掠持飛燕來。止㆓于此嶋㆒。故曰㆓蜛蝫嶋㆒。今人猶誤號栲嶋耳。土地豐渡。西邊松二株。以外茅沙薺頭蒿蕗等之類生靡。即有ㇾ牧(牧イ)。去ㇾ陸三里。

蜈蚣嶋。周五里一百卅步。高二丈。古老傳曰。在㆓蜛蝫嶋蜛蝫㆒食(食イ)㆓來蜈蚣㆒。止㆓居此嶋㆒。故云㆓蜈蚣嶋㆒。東邊神社。以外皆悉百姓之家。土躰豐渡。草木扶疎。桑麻豐富。此淵所ㇾ謂嶋里是矣。去ㇾ津二里一百步。即自㆓此嶋㆒達㆓伯耆國郡內夜見嶋㆒。磐石二里計。廣六十步計。乘ㇾ馬猶往來。鹽滿時。深二尺五寸許。鹽乾時者。已如㆓陸地㆒。

和多太嶋。周三里二百廿步。有㆓椎海石榴白桐松芋菜薺頭蒿蕗都猪鹿㆒。去ㇾ陸渡一十步。不ㇾ知㆓深淺㆒。

美佐嶋。周二百六十步。高四丈。有㆓椎橿茅葦都波薺蒿㆒。

戶江剗。郡家正東廿里一百八十步。非ㇾ島陸地濱耳。伯耆郡內夜見島將㆓相向㆒之間也。

西江埼。相㆓向夜見島㆒促戶渡。二百一十六步。埼之西入海堺也。凡南入海所ㇾ在雜物。入鹿。和爾。鯔。須受枳。近志呂。鎭仁。白魚。海鼠。鰝鰕。海松等之類至多。不ㇾ可ㇾ令ㇾ名。北大海。埼之東大埼堺也。猶自ㇾ西行ㇾ東。

鯉石嶋。生㆓海藻㆒。

大嶋。磯。

宇由比濱。廣八十步。捕㆓志毘魚㆒。

盗道濱。廣八十步。捕㆓志毘魚㆒。

澹由比濱。廣五十步。捕㆓志毘魚㆒。

加努夜濱。廣六十步。捕㆓志毘魚㆒。

美保濱。廣一百六十步。西有㆓神社㆒。北有百姓之家。捕㆓志毘魚㆒。

美保埼。周壁峙崇定岳。

等々島。禺々當住。

土嶋。磯。

久毛等浦。廣一百步。自東行西。十船可漕。黑嶋。生海藻。這由（田イ）
濱。長二百步。比佐嶋。生紫菜海藻。長嶋。生紫菜海藻。比賣
嶋。礒。
結嶋門。周二里卅步。高一十丈。有松薺頭蒿都波。
御前小嶋。礒。
質開比浦。廣二百廿步。南有神社。北百姓之家。卌船可泊。
久宇嶋。周一里卅步。高七尺。有椿椎白木小竹薺頭蒿都波芋。
加多比嶋。礒。
船嶋。礒。
屋（匡イ）嶋。周二百步。高廿丈。有椿松薺頭蒿。
赤嶋。生海藻。
宇氣嶋。同前。
黑嶋。同前。
栗（粟イ）嶋。周二百八十步。高一十丈。有松芋茅都波。
玉緒濱。廣一百八十步。有碁石。東邊有唐砥。又有百姓之家。
小嶋。周二百卅步。高一十丈。有松茅薺頭都波。

方結濱。廣一里八十步。東西有家。
勝間埼。有二窟。一高一丈五尺。裏周一十八步。一高一丈五尺。裏周二十步。
鳩嶋。周一百廿步。高一十丈。有都波苡。
皀嶋。周八十二步。高一十五丈。有皀栢。
黑嶋。生紫菜海藻。
須義濱。廣二百八十步。
衣嶋。周一百廿步。高五丈。中鑿南北船猶往來
也。
稻上濱。廣一百六十步。有百姓之家。
稻積嶋。周卅（卌イ）八步。高六丈。有松木鳥之栖。中鑿南北船
猶往來也。
大嶋。礒。
千酌濱。廣一里六十步。東有松林。南方驛家。北方百姓之家。西北廿九里廿步。此則所謂度隱岐國津定矣。
如志嶋。周五十六步。高三丈。有松。
赤島。周一百步。高一丈六尺。有松。
葦浦濱。廣一百廿步。有百姓之家。

黑嶋。生紫菜海藻。

鰐嶋。生紫菜海藻。

附嶋。周二里一十八步。高一丈。有椿松薺頭蒿茅葦都波。其薺頭蒿者。正月元日生長六寸。

蘇嶋。生紫菜海藻。中鑒(鑿イ)南北船猶往來也。

眞屋嶋。周八十六里。高五丈。有松。

松嶋。周八十步。高一丈。有松林。

立石嶋。礒。

瀨埼。礒。所謂瀨埼戍是也。

野浪濱。廣二百八步。東邊有神社。又有百姓之家。

鶴嶋。周二百一十步。高九丈。有松。

間嶋。生海藻。无イ

毛都嶋。生紫菜海藻。

川來門大濱。廣一里一百步。有百姓之家。

黑嶋。有海藻。

小黑嶋。生海藻。

加賀神埼。即有窟。・一(高イ)十丈許。周五百二步許。

東西北道。所謂佐太大神之所產生處也。所產生臨時。弓箭亡坐。爾時御祖神魂命之御子。枳佐賣命。願吾御子麻須羅神御子坐者。所亡弓箭出來願坐。爾時角弓箭隨水流出。爾時所產子詔。此者非弓箭詔而。擲廢給。又金弓箭流出來。即待處之坐而。闇鬱窟哉詔而射通坐。即御祖支佐加比賣命社坐此處。今人是窟邊行時。必聲磅礚而行。若密行者。神現而飄風起。行船者必覆

御嶋。周二百八十步。高一十丈。中通東西。有椿松栢。

葛嶋。周一里一百十步。高五丈。有椿松小竹茅葦。

櫛嶋。周二百卅步。高一十丈。有松林。

許意嶋。周八十步。高一十丈。有松林茅澤。

奥嶋。周一百八十步。高一十丈。有松。

比羅嶋。生紫菜海藻。

黑嶋。生紫菜海藻。

名嶋。周一百八十步。高九丈。有松。

赤島。生紫菜海藻。

大埼濱。廣一里一百八十步。西北有着百姓之家。

須々比埼。有白朮。

御津濱。廣二百八步。有百姓之家。

三嶋。生海藻。

虫津濱。廣一百廿步。

手結埼。濱邊有二(卅イ)檜。

窟高一丈。裏周廿步。

手結浦。廣四十二步。船二計可泊。

久宇島。周一百卅步。高七丈。有松。

凡北海所捕。雜物志毘。朝鮐沙魚。烏賊。蜛蝫。

鮑。魚螺。蛤貝。(字或作蚌菜。)蕀甲蠃。(字或作石經子。)甲蠃蓼螺子。(字或作螺子。)蛎子。石華。(字或作蚄犬脚也。或蠣於脚者勢也。)白貝。海藻。海松。紫菜。凝海菜等之類至繁。不可令稱也。

通道通意宇郡朝酌渡一十(七イ)一里二(一イ)百卅(八イ)步。之中海八十步。通秋鹿堺佐太橋一十五里八十步。

通隱岐渡千酌驛家湊一十一(九イ)里一百八十步。

郡司主帳無位出雲臣

大領外正六位下社部臣

少領外從六位上社接(部イ)石臣

主政從六位下勳業蝮部(朝イ)臣

秋鹿郡

合鄕肆(里十二。)神戸壹。

惠曇鄕(本字惠伴)　多太鄕(今依前用)

大野鄕(今依前用)　伊農鄕(本字伊努)

以上鄕肆別里壹。

神戸里

所以號秋鹿者。郡家正北。秋鹿日女命坐。故云秋鹿矣。

惠曇鄕。郡家東北九里四十步。須作能乎命御子。磐坂日子命。國巡行坐時。至坐此處而詔。此處者國權(稚イ)美好。有國形如畫鞆哉。吾之宮者是處造事者。故云惠伴。(神龜三年改字惠曇。)

多太鄕。郡家西北五里一百卅步。須佐能乎命御子。衝杵等乎而留比古命。國巡行坐時。至坐此處詔。吾御心照明正(眞イ)冥成。吾者此處靜將坐詔而靜坐。故云多太。

大野鄕。郡家正南(西イ)一十里卅步。和加布都努志能命。御狩爲坐時。卽鄕西山狩人立給而追猪犀。北方上之至阿內(河イ)谷而。其猪之跡亡失。爾時詔。自然哉猪之跡亡失詔。故云內野。然今人猶誤大野號耳。

伊農鄉。郡家正西一十四里二百步。出雲郡伊農鄉坐。赤食(衾イ)伊農意保須美比古佐和氣能命之后。天甕津日女命。國巡行坐時至坐此處而詔。伊農波夜詔。故云伊努。神龜三年改字伊農。

神戸里。出雲之說名如意宇郡。

佐太御子社　比多社　御井社

垂水社　惠梯毛社　許曾志社

大野津社　宇多貿貴社　大井社

宇智社　以上一十所。並在神祇官。

惠曇海邊社　同海邊社　奴多之社

那牟社　多太社　同多太社

出嶋社　阿之牟社　田仲社

彌多仁社　細見社　下社

伊努社　毛之社　草野社

秋鹿社　以上一十五(六カ)所。並不在神祇官。

神名火山。郡家東北九里卌(卅イ)步。高二百四(三イ)十丈。周四里。所謂佐太大神社。卽彼山下也。

足引山。郡家東北七里。高一百七十丈。周一十里二百步。

女心(嵩イ)高野山。郡家正西一十里廿步。高一百八十丈。周六里。土體豐渡。百姓之膏腴之園矣。無樹木(林イ)。但上頭有樹木。此則神社也。

都勢野山。郡家正西一十里廿步。高一百一十丈。周五里。無樹林。嶺中有澤(潭イ)。周五十步。蘿。藤。萩。葶(笲イ)等土物叢生。或叢峙或伏。水鴛鴦在也。

今山。郡家正西一十里廿步。周七里。凡諸山野所在草木。白朮。獨活。女委。苦參。貝母。牡丹。連翹。茯苓。藍。漆。女青。細辛。蜀椒。薯蕷。白斂。芍藥。百部根。薇蕨。薺頭蒿。藤。李。赤桐。椎。椿。楠。松。栢槻。禽獸則有鵰晨風。山鷄。鳩。雉。猪。鹿。兎。飛猵。狐。獼猴。

佐太川。源二。東水源出島根郡所謂多太川是也。西水源出秋鹿郡渡村。二水合南流入佐太水海。卽水海周七里。有鮒(鯔イ)。水海通入海。湖長一百五十步。廣一十步。

山田川。源出郡家西北七里湯大(火イ)。南流入于海。

多太川。源出郡家正西一十里女心高野(嵩イ)。南流入于海。

大野川。源出郡家正西一十三里磐門山。南流入于海。

草野川。源出郡家正西一十四里大繼山。南流入于海。

伊農川。源出郡家正西一十六里伊農山。南流入于海。

長江川。源出郡家東北九里卅步神名火山。南流入于海。以上七川。並無魚。

〔惠曇池〕(本字惠伴イ)改惠曇字參。陂周六里。有鴛鴦鳧鴨鮒。四邊生葦蔣菅。自養老(天平イ)元年以往。荷葉自然叢生。太多。二年以降自然至失。都無莖。俗人云。其底陶器瓺甋等類多有也。自古時々人溺死。不知深淺矣。深田池。周二百卅步。有鴛鴦鳧鴨。杜(原イ)石池。周一里二百步。峰埼池。周一里。佐久羅池。周一里一百步。有鴛鴦。南方入海。春則有鯔魚。須受枳。鎭仁。鯿鰕等大小雜魚。秋則有白鵠。鴻雁。鳧鴨等鳥。北大海。惠曇濱。度(廣イ)二里一百八十步。東南並有家。惠曇西野北大海。即自浦至于在家之間。四方並無石木。猶白沙之積。大風吹時(則イ)。其沙或隨風雪零。或居流蟻散。掩覆桑麻。即有彫鑿盤壁二(三イ)所。一所厚三丈。廣一丈。高八尺。一所厚二(一イ)丈二尺。廣一丈。高一丈。其中通川北流入大海。川東島根郡也。西秋鹿郡內也。自川口至南方田邊之間。長一百八十步。廣一丈五尺。源者田水也。上文所謂佐太川西源是同處矣。凡渡村田水南北別耳。古老傳云。島根郡大領社部臣訓麻呂之祖波蘇等。依稻田之澇所彫掘也。起浦之西礒。盡楯縫郡堺。自毛崎之間濱。壁等崔嵬。雖風之靜往來船。無由停泊頭矣。

白島。生紫苔菜。御島。高六丈。周八十步。有松三株。都於

島。小磯。著穗島。生海藻。凡此海所在雜物。鮎。沙魚。佐波。烏賊。鮑魚。螺。貽貝。蚌。田螺子。石華。驎子。騂イ海藻。海松。紫菜。凝海菜。

通道通島根郡堺佐太橋八里二百歩。通楯縫郡堺伊農橋一十五里□□□歩。

郡司主帳外從八位下勳業日下部臣

大領外正八位下勳業刑部臣

權任少領從八位下蝮部臣

## 楯縫郡

合鄕肆。里一十二。餘戸壹。神戸壹。

佐香鄕今依前用　楯縫鄕今依前用

玖潭鄕本字忽美　沼田鄕本字努多

以上肆鄕別里參。

神戸里　餘戸里

所以號楯縫者。神魂命詔。五十足天日栖宮之蹤縱横御量。千尋栲繩持而。百結結。八十結結下而。此天御量持而。所造天下大神之宮造奉詔與。御子天御烏鳥イ命楯部爲而。天降給之。爾時退下來坐而。大神宮御裝楯造給所是也。仍至今楯桙造而。奉於皇神等。故云楯縫。

佐香鄕。郡家正東四里一百六十歩。佐香河内百八十神等集坐。御厨立給而。令釀酒給之。卽百八十日喜燕解散坐。故云佐香。

楯縫鄕。卽屬郡家。說名如郡。卽北海濱業梨磯有窟裏方一丈半。高廣各七尺。裏南壁有穴。口周六尺。徑二尺。人不得入。不知遠近。

玖潭鄕。郡家正西五里二百歩。所造天下大神命。天御飯田之御倉將造給。竟巡行給。爾時波夜佐雨久多美乃山詔給之。故云忽美。神龜三年改字玖潭。

沼田鄕。郡家正西八里六十歩。宇乃沼比古命以爾多水而。御乾飯爾多食坐詔而。爾多負給之。然則可謂爾多鄕與今人猶云努多耳。

神龜三年改二字沼田一。

神戸里。出雲也。說ゝ名如三意宇郡一。　餘戸里。說ゝ名如二意宇郡一。

新造院一所。在二沼田鄉中一。建二立嚴堂一也。郡家正西六里一百六十步。大領出雲臣大田之所レ造也。

久多美社
多久社
佐加社（香イ）
乃利斯社
御津社
水神社
宇美社
許豆社
同社　以上九所。並在二神祇官一。
許豆乃社
又許豆社
又許豆社
久多美社
同久多美社
高守社
又高守社
紫菜嶋社
鞆前社
宿努社
猗田社
山口社
葦原社
又葦原社
田田社
峴之社
阿牟知社
葦原社
田田社　以上一十九所。並不レ在二神祇官一。

神名樋山。郡家東北六里一百六十步。高一百卅丈五尺。周卅一里一百八十步。嵬西有二石神一。高一丈周一丈。往側（則イ）有二小石神百餘許一。古老傳云。阿遲須枳高日子命之后。天御梶日女命。來二坐多久村一。產二給多伎都比古命一。爾時敎詔汝命之御祖之向位欲生（坐イ）此處宜也。所謂石神。卽是多伎都比古之命之御佗。當畢已雨時必令レ零也。

阿豆麻夜山。郡家正（西イ）北五里卅（卌イ）步。

見椋山。郡家西北七（五イ）里。四十步。

凡諸山所在草木。蜀椒。漆。麥門冬。茯苓。細辛。白歛。杜仲。人參。升麻。薯蕷。白朮。藤。李。檜。楡。椎。赤桐。白梧（桐イ）。海榴。楠。松。槻。禽獸則有二鵰。晨風。鳩。山鷄。猪。鹿。兎。狐。獼猴。飛鼯一。

佐香川。源出二郡家東北所謂神名樋山一。東南流入二于海一。

多久川。源出二郡家東北同神名樋山一。西南流入二于海一。

都宇川。源二。東川源出二阿豆麻夜山一。西川源出二見椋山一。二水合南流入二

于海。
宇賀川。源出同見椋山。南流入于海。
麻奈加比池。周一里一十步。大東池。周一里。
亦市池。周一里二百步。沼田池。周一里五十
步。長田池。周一里一百步。南入海。雜物等
者。如秋鹿郡說。北大海。自毛崎。秋鹿與楯縫二郡堺。崔嵬松栢叢鬱。即有農之桁。
佐香濱。廣五十步。己自都濱。廣九
十步。御津島。生紫菜。御津濱。廣三十八步。能
呂志島。生紫菜。能呂志濱。廣八步。鐪（鎌イ）間濱。廣一
百步。彌豆椎（島カ）。長（周カ）里二百步。廣一里。周。嵯峨。上有松菜芋。
許豆島。生紫菜。許豆濱。廣一百步。出雲與楯縫二郡之界。凡此
海所在雜物。如秋鹿郡說。但紫菜者。楯縫郡尤
優也。
通道通秋鹿郡堺伊農川。八里二百六十四步。
通出雲郡堺宇賀川。七里一百六十步。
郡司主帳无位物部臣
大領外從七位下勳業出雲臣

小領外正六位下勳業高善史

出雲郡
合鄉捌。里廿。神戶壹。里。
健部鄉 今依前用　漆沼鄉 本字志司沼
河內鄉 今依前用　出雲鄉 今依前用
杵築鄉 本字寸付　伊努鄉 本字伊農
三談鄉 本字三太三　以上漆鄉別里參。
宇賀鄉 今依前用　里二
神戶鄉　里二
所以號出雲者。說名如國也。
健部鄉。郡家正東一十二里二百廿四步。先所以號宇夜里者。宇夜都辨命其山峰天降坐之。即彼神之社。至今猶坐此處。故云宇夜里。而後改所以號健部鄉者。纒向檜代宮御宇天皇。勅不忘朕御子倭健命之御名。健部定給。爾時神門臣古禰健部定給。即健部臣等。自古至今。猶

居二此處一。故云二健部一。
漆沼鄕。郡家正東五里二百七十步。神魂命御子。天津枳値可美高日子命御名。又云二薦枕志都沼値一之。此神鄕中坐。故云二司志沼一。神龜三年改二字漆沼一。
卽有二正倉一。
河內鄕。郡家正南一十三里三百九十步。(一百步イ)斐伊大河(野イ)此鄕中北流。故云二河內一。(郡イ)卽有レ優。長一百七十丈五尺。七十一(五イ)丈之廣七丈。九十五丈之廣四丈五尺。
出雲鄕。卽屬二郡家一。說レ名如レ國。
杵築鄕。郡家西北廿八里六十步。八束水臣津野命之國引給之後。所レ造二天下一大神之宮。將奉與。諸皇神等。參二集宮處一。杵築。故云二寸付一。神龜三年改二字杵築一。
伊努鄕。郡家正北八里七十二步。國引坐意美豆努命御子。赤衾伊努意保須美比古佐倭氣命之祖(社イ)。卽坐二鄕中一。故云二伊農一。神龜三年改二字伊努一。
美談鄕。郡家正北九里二百四十步。所レ造二天下一大神御子。和加布都努志命。天地初判之後。天御領田之長供奉坐之。卽彼神坐二鄕中一。故云二三太三一。神龜三年改二字美談一。卽有二正倉一。
宇賀鄕。郡家正北一十七里廿五步(卅イ)。所レ造二天下一大神命。誂二坐神魂命御子綾門日女命一。爾時女神不レ肖(肯イ)。逃隱之時。大神伺求給所。是則此鄕。故云二宇賀一。卽北海濱有レ磯。名腦磯。高一丈許。上生レ松(芸イ)。若至レ磯里人之朝夕如二往來一。又木枝人之如二攀引一。自レ磯西方有二窟戶一。高廣各六尺許。窟內有レ穴。人不レ得レ入。不レ知二深淺一也。多至二此磯窟之邊一者必死。故俗人自レ古至レ今。號云二黃泉之坂黃泉之穴一也。
神戶里。郡家西北二里一百廿步。出雲也。說レ名如二意宇郡一。
新造院一所。在二河內鄕中一。建二立嚴堂一也。郡家正南三里一百步。舊大領置部臣布禰之所レ造。今大領佐宜麿之祖父。
杵築大社　御魂社　御向社

出雲社　御魂社　伊努社
意保美社　曾伎乃夜社　牟久社
審伎乃夜社　阿受伎社　美作伎社
伊奈佐乃社　彌太彌社　阿我多社
伊波社　阿具社　都牟自社
久佐加社　彌努婆社　阿受枳社
宇加社　同阿受枳社　布世社
神代社　加立利社　來坂社
伊農社　同社　同社
鳥屋社　御井社　介豆伎社
同社　同社　同社
同社　同社　阿受枳社
同社　同社　同社
同社　同社　同社
同社　同社　來坂社
伊努社　同社　同社
彌陀彌社　縣社　斐提社

韓銍社　加佐伽社　伊自美社
波禰社　立虫社（以上五十八所。並在二神祇官一。）
御前社　同御埼社　支豆支社
阿受支社　同阿受支社　同社
同社　同社　同社　同社
同社　同社　同社　同社
同社　同社　同社　同社
同社　同社　同社　同社
同社　同社　同社　同社
同社　同社　伊努社　同伊努社
同社　縣社　彌陀彌社
同彌陀彌社　同社　同社
同社　同社　同社　同社
同社　同社　同社　伊爾波社
都牟自社　同社　彌努波社　山邊社
同社　同社　間野社　布西社
波加社　佐支多社　支比佐社　神代社

同社　百枝槐社以上六十四所。並不レ在ニ神祇官ニ。

神名火山。郡家東南三里一百五十步。高一百七十五丈。周一十五里六十步。曾支能夜社坐。伎比佐加美高日子命社。卽在ニ此山嶺ニ。故云ニ神名火山ニ。

出雲御崎山。郡家正北廿七里三百五十步（六イ）。高三百六十丈。周九十六里一百六十五步。西下所レ謂所レ造ニ天下ニ大神之社坐也。

凡諸山野所レ在草木萆薢。百部根。女委。夜干。商陸。獨活。葛根。薇。藤。李。蜀椒。楡。赤桐。白桐。椎。椿。松。栢。禽獸則有ニ晨風。鳩。山雞。鵠。鶴。猪。鹿。猨。兎。狐。獼猴。飛鼺ニ也。

出雲大川。源自ニ伯耆與ニ出雲ニ二國堺鳥上山ニ流。出ニ仁多郡横田村ニ。卽經ニ横田。三處（三イ）。澤。布勢等四鄕ニ。出ニ大原郡堺引沼村ニ。卽經ニ來次。斐伊。屋（經イ）代。神原等四所ニ。出ニ出雲郡堺多義村ニ。河內。出雲二鄕ニ。北流更折西流。卽經ニ伊努。杵築二鄕ニ。入ニ神門水海ニ。此則所謂。斐伊河下也。河之西邊。或土地豐渡（饒イ）。土穀桑麻。稔欵。百姓之膏腴薗。或土休豐渡草木叢生也。則有ニ年魚。鮭。麻須。伊具比。魴鱧等之類ニ。潭湍双泳。自ニ河口ニ至ニ河上横田村ニ之間。五郡百姓便レ河而居。出雲。神門。飯石。仁多。大原郡也。起ニ孟春ニ至ニ季春ニ。挍ニ材木ニ船沿ニ泝河中ニ也。

意保美小河。源出ニ出雲御崎山ニ。北流入ニ大海ニ。有ニ年魚少少ニ。　土負池。周二百卅步。須々比池。周二百五十步。　西門江。周三里卅（一百五十八イ）四步。東流入ニ于海ニ。有レ鮒。　大方江。周二百卅四步。東流入ニ于海ニ。有レ鮒。二江源者。並田水所レ集矣。東入海ニ二方並平原遼遠。多ニ有山雞。鳩。鳧鴨。鴛鴦等之族ニ也。

東入海。所レ在雜物如ニ秋鹿郡說ニ也。　北大海。宮松埼。有ニ楯縫與出雲郡界ニ。　意保美濱。廣二里一百廿步。　氣多嶋。生ニ紫菜海松ニ。有ニ鮑堺秋贏ニ。　井吞濱。廣三十二步。　太保濱。廣三十五步。　大前嶋。高一丈。周一丈。廣一百五十步。生ニ海藻ニ。　腦嶋。生ニ紫菜海藻ニ。有ニ松竹ニ。　鷺濱。廣二百

步。（生紫菜。）里嶋。（生紫菜。）手（米イ）結濱。廣二十步。爾比埼。長一里卌步。廣卄步。埼之南本（山イ）。東西通戶船猶往來。上則松叢生也。宇禮保浦。廣七十八步。（船廿許可泊。）山埼。高卌九丈。周一里二百五十步。（有椎楱椿松。）子負嶋。（磯。）大椅濱。廣一百五十步。御前濱。廣一百二十步。（有百姓家。）御嚴嶋。（生海藻。）御厨家嶋。高四丈。周二十步。（有松。）等々嶋。（有鬘古花。）怪聞埼。長三十步。高三十二步。（有松。）意（信イ）能保濱。廣一十八步。粟嶋。（生海藻。）里嶋。（生海藻。）這田濱。廣一百步。二俣濱。廣九十八步　門石嶋。高五丈。周四十二步。（有鷲之栖。）薗長三里一百步。廣一里二百步。松繁多矣。卽自神門水海。通大海。潮長參里。廣一百二十步。此則出雲與神門二郡堺也。凡此海在雜物。如楯縫郡說。但鮑出雲郡尤優。所捕者所謂御埼海子是也。

通道通意宇郡堺佐雜村。一十三里六十四步。通神門郡堺。出雲大河邊。二里六十步。通大原郡堺多義村。一十五里卌八步。通楯縫郡堺宇加川。一十四里二百二十步。

郡司主帳無位若倭部臣

大領外正八位下置部臣

小領外從八位下大臣

主政外大初位下□部臣

神門郡

合鄉捌。（里廿二。）餘戶壹。驛貳。神戶壹。

朝山鄉（今依前用）里貳
置鄉（今依前用）里貳
塩冶鄉（本字止屋）里參
八野鄉（今依前用）里參
高岸鄉（本字高峯）里參
古志鄉（今依前用）里參
滑狹鄉（今依前用）里貳
多伎鄉（本字多古（吉イ））里參
餘戶里
狹結驛（本字最邑）
多伎驛（本字多古（吉イ））
神戶里

所以號神門者。神門臣伊（熊イ）賀曾然之時。神門負之。故云神門。卽神門臣等。自古至今。常居此

處。故云神門。

朝山鄉。郡家東南五里五十六步。神魂命御子。眞玉着玉之邑日女命坐之。爾時所造天下大神大穴持命。娶給而。每朝通坐。故云朝山。

日置鄉。郡家正東四里。志紀嶋宮御宇天皇之御世。日置伴部等。所遣來宿停而爲政之所。故云置鄉。

塩冶鄉。郡家東北六里。阿遲須枳高日子命御子。塩冶毗古能命坐之。故云止屋。（神龜三年改字鹽冶。）

八野鄉。郡家正北三里二百一十步。須佐能袁命御子。八野若日女命坐之。爾時所造天下大神大穴持命。將娶給爲而。令造屋給。故云八野。

高岸鄉。郡家東北二里。所造天下大神御子。阿遲須枳高日子命。甚晝夜哭坐。仍其處高屋造可坐之。卽建高椅可登降養奉。故云高岸。（神龜三年改字高峯（岸イ）。）

古志鄉。卽屬郡家。伊弉那彌命之時。以日淵川築造池之。爾時古志國（人イ）等。到來而爲堤卽宿居之處。故云古志。

滑狹鄉。郡家南西八里。須佐能袁命御子。和加須世理比賣命坐之。爾時所造天下大神命。娶而通坐時。彼社之前有磐石。其上甚滑之。卽滑磐石哉詔。故云南佐。（神龜三年改字滑狹。）

多伎鄉。郡家南西廿里。所造天下大神之御子。阿陀加夜努志多伎吉比賣命坐之。故云多吉。（神龜三年改字多伎。）

餘戶里。郡家南西三（八イ）十六里。說名如意宇郡。

狹結驛。郡家同所。古志國佐與布云人來居之。故云最邑。（神龜三年改字狹結也。其所以來居者。說如古志鄉也。）

多岐驛。郡家西南一十九里。說名（卽如多伎鄉也イ）改字如鄉也。

神戶里。郡家東南一十里。

新造院一所。在朝山鄉中。郡家正東二里六十步。建立嚴堂也。神門臣等之所造也。

新造院一所。在古志鄉中。郡家東南一里。刑部

臣等之所レ造也。木ニ立嚴堂一也。
美久我社　阿須理社　比布知社
又比布知社　多吉社　夜牟夜社
矢野社　波加佐社　奈賣佐社
知乃社　淺山社　久奈爲社
佐志牟社　多支枳社（村イ）　阿利社
阿如社　國持社　奈賣佐社
阿利社　大山社　保乃加社
多吉社　夜牟夜社　同夜牟夜社
比奈社（治イ）以上廿五所。並在ニ神祇官一。
塩夜社　火守社　同塩冶社
久奈子社　同久奈子社　加夜社
小田社　波加佐社　同波加佐社
多支社　多支々社　波須波社
以上十二所。並不レ在ニ神祇官一。
田俣山。郡家正南一十九里。有ニ梍枌一。
長柄山。郡家東南一十九里。有ニ梍枌一。

吉栗山。郡家西南廿八里。有ニ梍枌一也。所レ謂所レ造ニ天下一大神宮在狹造山也。
宇比多伎山。郡家東南五里五十六歩。大神之塒屋也。
稻積山。郡家東南五里七十六歩。大神之稻積也。
陰山。郡家東南五里八十六歩。大神之御陰也。
稻山。郡家正東五里一百一十六歩。東有ニ樹林一。三方並磯也。大神之御稻。
杵山。郡家東南五里二百五十六歩。南西並有ニ樹木一。東北並礒也。大神之御杵。
冠山。郡家東南五里二百五十六歩。大神之御冠。
凡諸山野所レ在草木。白歛（蘞イ）。桔梗。藍漆。龍膽。商陸。續斷。獨活。白芷。秦椒。百部根。百合。卷柏。石斛。升麻。當歸。石葦。麥門冬。杜仲。細辛。伏苓。葛根。薇。蕨。藤。李。蜀椒。檜。杉。榧。赤桐。椿。槻。柘。楡。蘗。楮。禽獸則有ニ鵰。鷹。晨風。鳩。山鷄。鶉。鵑。猨。猪。鹿。兎。狐。獼猴。飛鼯也。
神門川。源出ニ飯石郡琴引山一。北流卽經ニ來嶋。波

多。須佐二郷。出神門郡餘戸里間士村。卽（ホイ）神戸。朝山、古志等郷。西流入水海也。則有年魚。鮭。麻須。伊具比也。多岐小川。源出郡家西南卅三里多岐山。流入大海。（有年魚。）宇加池。三里六十步。來食池。周一里一百四十步。（有菜。）笠柄池。周一里六十六步。（有菜。）刾屋池。周一里。水海。神門水海。郡家正西四里五十步。周卅五步七十四步。裡則有鯔魚。鎭仁。須受枳。鮒。玄蠣也。卽水海與大海之間有山。長卅二里二百卅四步。廣三里。此者意美豆努命之國引坐時之綱矣。今俗人號云薗松山。地之形體壤石並無也。白沙耳積上。卽松林茂繁。四風吹時沙飛流。掩埋松林。今年埋半遺。恐遂被埋已（云イ）與。起松山南端美久我林盡石見與出雲二國堺中島崎之間。或平須。或凌礒。凡此海所在雜物。如楯縫郡說。但無紫菜。

通道通出雲郡堺出雲河邊。七里卅五步。通飯石郡堺掘坂山。一十九里。通同郡堺與曾紀村。卄五里一百七十四步。通石見國安農郡堺多伎伎山。卅三里。（路賞有列。）通同安農郡川相郷。卅六里。住常引不有但當有政時權置耳。（前件伍郡並大海之南也イ。）

郡司主帳無位刑部臣
大領外從七位上勳業神門臣
擬小領外大初位下勳業刑部臣
主政外從八位下勳業吉備部臣

飯石郡

合郷漆。里十九。

熊谷郷今依前用　三屋郷（本イ）今字三刀矢
飯石郷本字伊鼻志　多禰郷本字種
須佐郷今依前用　以上伍郷別里參。
波多郷今依前用　來嶋郷本字支自眞
以上貳郷別里參（貳カ）。

所㆓以號㆓飯石㆒者。飯石郷中。伊毘志都幣命坐。故云㆓飯石之郷㆒。

熊谷郷。郡家東北廿六里。古老傳云。久志伊奈太美等與麻奴良比賣命。姙身及㆓將㆑產時㆒。求㆑處㆑生之。爾時到㆓來此處㆒詔。甚久々麻々志枳谷在。故云㆓熊谷㆒也。

三屋郷。郡家東北廿四里。所㆑造㆓天下㆒大神之御門。卽在㆓此處㆒。故云㆓三刀矢㆒。神龜三年改㆓字三屋㆒。卽有㆓正倉㆒。

飯石郷。郡家正東一十二里。伊毘志都幣命。天降坐處。故云㆓伊鼻志㆒。神龜三年改㆓字飯石㆒。

多禰郷。屬㆓郡家㆒。所㆑造㆓天下㆒大神。大穴持命。與㆓須久奈比古命㆒。巡㆓行天下㆒時。稻種墮㆓此處㆒。故云㆑種。神龜三年改㆓字多禰㆒。

須佐郷。郡家正西一十九里。神須佐能袁命詔。此國者雖㆓小國㆒。國處在。故我御名者。非㆑着㆓木石㆒。詔而。卽己命之御魂鎭置給之。然卽大須佐田（小須佐田イ）㆒定給。故云㆓須佐㆒。卽有㆓正倉㆒。

波多郷。郡家西南一十九里。波多都美命天降坐家在。故云㆓波多㆒。

來嶋郷。郡家正南卅六里。伎自麻都美命坐。故云㆓支自眞㆒。神龜三年改㆓字來島㆒。卽有㆓正倉㆒。

須佐社　河邊社　御門屋社
多倍（位イ）社　飯石社 以上五所。並在㆓神祇官㆒。
狹長社　飯石社　田中社
多加・毛利社（イ二加社字爲二）　兎比社　日倉社
井草社　深野社　託和社
上社　葦鹿社　粟谷社
穴見社　神代社　志々乃村社
以上十五（六イ）所。並不㆑在㆓神祇官㆒。

燒村山。郡家正東一里。
穴原山。郡家正南一里。
笑村山。郡家正西一里。

廣瀨山。郡家正北一里。
琴引山。郡家正南卅五里二百步。高三百丈。周一十一里。古老傳云。此山峰有窟。裏所造天下大神之御琴。長七尺。廣三尺。厚一尺五寸。又有石神。高二丈。周四尺。故云琴引山。有鹽
石穴山。郡家正南五十八里。高五十丈。
幡咋山。郡家正南五十二里。有知欲。(紫草イ)
野見。木見。石以。三野。並郡家南西四十里。有紫草。
佐比賣山。郡家正西。五十一里一百四十步。石見與出雲二國之堺。
堀坂山。郡家正西卅一里。有杉松。
城垣野。(山イ)郡家正南一十二里。有紫草。
伊我山。郡家正北一十九里二百步。
奈倍山。郡家東北廿里二百步。
凡諸山野所在草木。萆薢。升麻。當歸。獨活。大薊。黃精。前胡。薯蕷。白朮。女委。細辛。白頭公。白恐。赤箭。桔梗。葛根。秦皮。杜仲。石斛。藤。李。榾。赤桐。椎。楠。楊梅。槻。柘。楡。松。榧。蘗。猪。禽獸則有鷹。隼。山鷄。鳩。雉。熊。狼。猪。鹿。兎。獼猴。飛鼯。
三屋川。源出郡家正東一十五里多加山。北流入斐伊川。有年魚。
須佐川。源出郡家正南六十八里琴引山。北流經來嶋。波々多。須佐三郷。入神門郡大門立村。此所謂神門河上。有年魚。
盤鉏川。源出郡家西南七十里箭山。北流入須佐川。有年魚。
波多小川。源出郡家西南二十四里志許斐山。北流入須佐川。有鐵。
飯石小川。源出郡家正東一十二里佐久禮山。北流入三屋川。有鐵。
通道。通大原郡堺。斐伊河邊。廿九里一百八十步。通仁多郡堺溫泉川邊。廿二里。通神門郡堺

與曾紀村卅八里六十步。通同郡掘坂山卅一里。通備後國惠(宗脱カ)・郡堺荒鹿坂。卅九里二百步。徑常有剗。通三以郡三坂。八十一里。徑常有剗。波多徑須佐徑。剗但志志都美徑。以上三徑常無剗。但當有政時權置耳。並通備後國之。

郡司主帳無位置首(臣イ)
大領外正八位下勳業大弘造
少領外從八位□出雲臣

仁多郡

合鄉肆。里十二。

三處鄉今依前用　布勢鄉今依前用
三津鄉今依前用　横田鄉今依前用

所以號仁多者。所造天下大神。大穴持命詔。此國者。非大非小。川上者。木穗刋加布。川下者。阿志波布這度之。是者爾多志枳小國在詔。故云仁多。

三所鄉。卽屬郡家。大穴持命詔。此地田好。故吾御地古經(徑イ)。故云三處。

布勢鄉。郡家正西(東イ)一十里。古老傳云。大神命之。宿坐處。故云布世。神龜三年改字布勢。

三津鄉。郡家西南廿五里。大神大穴持命御子。阿遲須伎高日子命。御髮八握于生。晝夜哭坐之辭不通。爾時御祖命。御子乘船而。率巡八十嶋。宇良加志給鞆。猶不止哭之。大神夢願給。告御子之哭由。夢爾願坐。則夜夢見坐之御子之辭通。則寤問給。爾時御澤申。爾時何處然云問給。卽御祖前立去於坐而。石川度坂上至留。申是處也。爾時其津水治而。御身沐浴坐。故國造神吉事奏。參向朝廷時。其水治出而用初也。依此今產婦彼村稻不食。若有食者。所生子亡云也。故云三澤(御カ)。神龜三年改字三澤。卽有正倉。

横田鄉。郡家東南廿一里。古老傳云。鄉中有田

四段許。形聊長。遂依レ田而故云二横田一。卽有二正倉一。以上諸鄕所レ出鐵堅尤堪レ造二雜具一。

弐澤社　伊我多氣社以上二所。並在二神祇官一。

玉作社　須我乃非社　湯野社

比太社　漆仁社　大原社

(仰イ)御支斯里社　石壺社以上八社。並不レ在二神祇官一。

鳥上山。郡家東南卅五里。伯耆與出雲之堺。有二鹽味葛一。

室原山。郡家東南卅六里。備後與出雲二國之堺。有二鹽味葛一。

灰火山。郡家東南卅里。

遊託山。郡家正南卅七里。有二鹽味葛一。

御坂山。郡家西南五十三里。卽此山有二神御門一。故云二御坂一。備後與出雲之堺。有二鹽味葛一。

志努坂野。郡家西南卅一里。有二紫草少少一。

玉峰山。郡家東南一十里。古老傳云。山嶺在二玉上神一。故云二玉峯一。

城紲野。郡家正南一十里。有二紫草少少一。

大内野。郡家正南廿二里。有二紫草少少一。

菅火野山。郡家正南四里。高一百廿五丈。周一十里。峯有二神社一。

戀山。郡家正南廿三里。古老傳云。和爾戀二阿伊村坐神玉日女命一而上到。爾時玉日女命。以レ石塞レ川。不レ得レ會レ所レ戀。故云二戀山一。

凡諸山野所レ在草木。白頭公。藍。漆。藁本。玄參。百合。王不留行。薺苨。百部根。瞿麥。升麻。牧莽。黄精。地楡。附子。狼牙。離留。石斛。貫衆。續斷。女委。藤。李。檜。椙。樫。松。栢。栗。柘。槻。蘗。楮。禽獸則有二鷹。晨風。鳩。山鷄。雉。熊。狼。猪。鹿。狐。兎。獼猴。飛鼯一。

室原川。源出二郡家東南卅六里。鳥上山一北流。所レ謂斐伊大河上。有二年魚少少一。

横田川。源出二郡家東南卅五里。室原山一北流。此則所レ謂斐伊大河上。有二年魚麻須魴鱧等類一。

灰火小(マヽ)小川。源出二灰火山一入二斐伊河上一。有二年魚一。

阿伊川。源出二郡家正南卅七里。遊託山一北流。

入斐伊河上。（有年魚麻須。）

阿位川。源出郡家西南五十里。御坂山。入斐伊河上。（有年魚麻須。）

比太川大。源出郡家東南一十里。玉峰山。北流。意宇郡野城河上是也。（有年魚。）

湯野小川。源出玉峰山西流。入斐伊河上。

通道通飯石郡堺。漆仁川邊廿八里。卽川邊有藥湯。浴之則身體穆平。再濯則萬病消除。男女老少。晝夜不息。駱驛往來。無不得驗。故俗人號云藥湯也。（卽有正倉。）通大原郡堺辛谷村。一十六里二百卅六步。通伯耆國日野郡堺阿志毘緣山。卅五里一百五十步。（常有剗。）通備後國惠宗郡堺遊託山卅七里。（常有剗。）通同惠宗郡堺。此市山。五十三里。（常無剗。但當有政時權置耳。）

郡司主帳外大初位下品治部

大領外從八位下蝮部臣

少領外從八位下出雲臣

## 大原郡

合鄕捌。（里廿四。）

神原鄕（今依前用）
屋代鄕（本字矢代）
屋裏鄕（本字矢內）
佐世鄕（今依前用）
阿用鄕（阿イ）（本字河欲）
海潮鄕（本字得塩）
來次鄕（今依前用）
斐伊鄕（本字樋）

以上捌鄕別里參

所以號大原者。郡家正西一十里一百一十六步。田一十町許平原。號曰大原。往古之時。此處有郡家。今猶追舊號大原。（今有郡家處。號云斐伊村。）

神原鄕。郡家正北九里。古老傳云。所造天下大神之御財積置給處。則可謂神財鄕。而今人猶誤故云神原鄕耳。

屋代鄕。郡家正北一十里一百一十六步。所造天下大神之垜立射給處。故云矢代。（神龜三年改字屋代。）卽有正倉。

屋裏鄕。郡家東北一十里一百六十步。古老傳

云。所レ造二天下一大神。令レ殖レ矢給處。故云二矢內一。神龜三年改二字屋裏一。
佐世鄉。郡家正東九里二百步。古老傳云。須佐能袁命。佐世乃木葉頭刺而踊躍爲時。所レ刺佐世木葉墜レ地。故云二佐世一。
阿用鄉。郡家東南一十三里八十步。古老傳云。昔或人此處山田佃而守之。爾時目一鬼來而。食二佃人之男一。爾時男之父母竹原中隱而居。之時竹葉動之。爾時所レ食男云二動々一。故云二阿欲一。神龜三年改二字阿用一。
海潮鄉。郡家正東一十六里卅三步。古老傳云。宇能活比古命。恨二御祖須我禰命一而。北方出雲海潮神止。漂二御祖之神一。此海潮至。故云二得塩一。神龜三年改二字海潮一。即東北須我小川之湯淵村川中溫泉。不レ用レ號。同川上毛間林川中溫泉出。不レ用レ號。
來次鄉。郡家正南八里。所レ造二天下一大神命詔。八十神者不レ置二青垣山裏一詔而。追廢時此義迢以生。故云二來次一。
斐伊鄉。屬二郡家一。樋速日子命坐二此處一。故云レ樋。神龜三年改二字斐伊一。
新造院一所。在二斐伊鄉中一。郡家正南一里。建二立嚴堂一也。在二僧五軀一。大領勝部君虫麻呂之所レ造也。
新造院一所。在二屋裏鄉中一。郡家正北一十一里一百卅步。建二立層塔一也。有二僧一軀一。前小領額田部臣押島之所レ造。今少領伊去美之從父兄也。
新造院一所。在二斐伊鄉中一。郡家東北一里。建二立嚴堂一。有二尼三軀一。斐伊人。樋伊支知麻呂之所レ造。

矢口社　宇乃遲社　支須支社
布須社　御代社　汙乃庭社
神原社　樋社西イ　樋社
佐世社　世裡陀社　得鹽社
加多社以上一十三所。並在二神祇官一。
赤秦社　等等呂吉社　矢代社
比和社　日原社　情屋社

春殖社　船林社　宮津日社
阿用社　置谷社　伊佐山社
須我社　川原社　除川社
屋代社以上一十七所。並不ㇾ在二神祇官一。

菀原野。郡家正東。卽屬二郡家一。

城名樋山。郡家正北一里百步。所ㇾ造二天下一大神大穴持命。爲ㇾ伐二八十神一造ㇾ城。故云二城名樋一也。

高麻山。郡家正北一十里二百步。高一百丈。周五里。北方有二樫椿等類一。東南西三方並野。古老傳云。神須佐能袁命御子。青幡佐草日子命。是山上麻蒔給。故云二高麻山一。卽此山岑坐。其御魂也。

須我山。郡家東北一十九里一百八十步。有二檜杉一。

船岡山。郡家東北一里一百步。阿波枳閉委奈佐比古命。曳來居船則此山是也。故云二船岡一也。

御室山。郡家東北一十九里一百八十步。神須佐乃乎命御室令ㇾ造給二所宿一也。故云二御室一。

凡諸山野。所ㇾ在草木。苦參。桔梗。菩加。白芷。前胡。獨活。萆解。葛根。細辛。茵芋。白芨。說月。白斂。女委。薯蕷。麥門冬。藤。李。檜。杉。栢。樫。櫟。椿。楮。楊梅。梅。槻。蘗。禽獸則有二鷹。晨風。鳩。山鷄。雉。熊。狼。猪。鹿。兎。獼猴。飛鼯。

斐伊川。郡家正西五十七步。西流入二出雲郡多義村一。有二年魚麻須一。

海潮川。源出二意宇與大原二郡堺矣(笑イ)村山一。北自海潮西流。有二年魚麻須一。

須加小川。源出二須我山一西流。有二年魚少少一。

佐世小川。源出二阿用山之一。北入二海潮川一。無ㇾ魚。

幡屋小川。源出二郡家東北幡箭山一。南流。無ㇾ魚。

水日氷合西流。入二出雲大川一。

屋代小川。出二郡家正東正除田野一。西流入二斐伊大川一。無ㇾ魚。

通道通二意宇郡堺木垣坂一。廿三里八十五步。通二仁多郡堺峯谷村一。廿三里一百八十二步。通二飯石

郡堺斐伊川邊。五十七步。通出雲郡多義村。一十一里二百二十步。

前件參郡。並山野之中也。

郡司主帳無位勝部臣

大領正六位上勳業勝部臣

少領外從八位上額田部臣

主政無位置臣

道度

自國東堺去西廿里二百八十步。至野城橋。長卅丈七尺。廣二丈六尺。（飯梨川。）又西廿一里。至國廳意宇郡家北十（字カ）字街。卽分爲二道。（一正西道。一枉北道。）枉北道。去北四里二百八十步。至郡北堺朝酌渡。（渡八十步。渡船一。）又北一十里一百卅步至島根郡家。自郡家至北一十七里一百八十步。至隱岐渡千酌驛家濱。（渡船。）又自郡家西一十五里八十步。至郡西堺佐太橋。長三丈廣一丈。（佐太川。）又西八里三百步。至秋鹿郡家。又自郡家西一十五里一百步。至郡西堺。又西八里二百六十四步。至楯縫郡家。又自郡家西七里一百六十步。至郡西堺。又西一十里二百廿步。出雲郡（家イ）東邊。卽入正西道也。摠枉北道程九十九里一百一十步之中。隱岐道。一十七里一百八十步。正西道。自十字（家イ）街西一十二里。至野代橋。長六丈廣一丈五尺。又西七里。至玉作街。卽分爲二道。（一正西道。一正南道。）正南道。一十四里二百一十步。至郡南西堺。又南廿三里八十五步。至大原郡家。卽分爲二道。（一南西道。一東南道。）南西道。五十七步。至斐伊川。（渡廿五步。渡船一。）又南西廿九里一百八十步。至飯石郡家。又自郡家南八十里。至國南西堺。（通備後國三次郡。）摠國程一百六十六里二百五十七步也。東南道自郡家去廿三里一百八十步。至郡東南堺。又東南十六里二百卅六步。至仁多郡家比比理村分爲二道。一道東八里一百廿步。至仁多郡家。一道

南卅八里一百廿一步。備後國堺至遊託山。正西道。自玉作街。西九里。至來待橋。長八丈。廣一丈三尺。又西廿三里卅四步。至出雲郡家。又自郡家西二里六十步。至郡西堺出雲河。渡九十步。渡船一。又西七里廿五步。至神門郡家。即有河。渡廿五步。度船一。自郡家西卅三里。至國西堺。通石見國安農郡。摠者國程一百五十四里二百卅四步。

自東堺去西廿里一百八十步。至野代驛。又西廿一里。至黑田驛。即分爲二道。一正西道。一渡隱岐國道也。隱岐道。去北卅四里一百三十步。至隱岐渡千酌驛。又正西道卅八里。至容道驛。又西方廿六里二百廿九步。至狹結驛。又西一十九里。至多岐驛。又西一十四里。至國西堺。

圍意宇軍團。即郡家。熊谷軍團飯石郡家東北廿九里一百八十步。神門軍團郡家正東七里。馬見烽出雲郡家西北卅二里二百卅步。土椋烽神門郡家東南一十四里。多夫志烽出雲郡家正北一十三里卅步。布自美烽。島根郡家正南七里二百一十步。暑垣烽。意宇郡家正東廿八里八十步。宅波戍。神門郡家西南卅一里。瀨埼戍。島根郡家東北一十九里一百八十步。

天平五年二月卅日勘造秋鹿郡人神宅臣金太理

國造帶。意宇郡大領外正六位上勳業出雲臣廣島。

右出雲國風土記以屋代弘賢本校合畢

文政七年四月廿二日以關口之本一校了

忠寶

以宮內省圖書寮本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百七十二

雜部百二十二

## 風土記　肥前國

郡壹拾壹所。鄕七十。里一百八十七。驛壹拾捌所。小路。烽貳拾所。下國。城壹所。寺貳所。僧寺。

肥前國者。本與肥後國合爲一國。昔者磯城瑞籬宮御宇御間城天皇之世。肥後國益城郡朝來名峯。有土蜘蛛。打猴。頸猴(ナシイ)二人。帥徒衆一百八十餘人。拒捍皇命。不肯降伏。朝廷勅遣肥君等祖健緒組伐之。於茲健緒組奉勅悉誅滅之。兼巡國裏。觀察消息。到於八代郡白髮山日晩止(宿イ)峯。其夜虛空有火。自然燎稍々降下就此山。燎之。時健緒組見而驚怪。參上朝廷奏言。臣辱被聖命。遠誅西戎。不霑刀刃(鏡イ)。梟賊自滅。自非威靈。何得然之。更擧燎火之狀奏聞。天皇勅曰。所奏之事。未曾所聞。火下之國可謂火國。即擧健緒組之勳。賜姓名曰火君(ナシイ)健緒純。便遣治此國。因火曰火國。後分兩國。而爲前後。又纒向日代宮御宇大足彥天皇。誅球磨贈於。而巡狩筑紫國之時。從葦北火流浦。發船幸於火國。度海之間日沒。夜冥不知所着。忽有火光遙視。行前。天皇勅棹人曰。直指火處。應勅而往果得着崖。天皇下詔曰。何謂邑也。國人奏言。此是火國

八代郡火也。但不知火主。于時天皇詔群臣曰今此燎火非是人火。所以號火國。知其爾由。

基肄郡。鄕陸所。（里七十。）驛壹所。（小路。）

昔者纒向日代宮御宇天皇。巡狩之時御筑紫國御井郡高羅之行宮。遊覽國內霧覆基肄之山。天皇勅曰。彼國可謂霧之國。後人改號基肄國。今以爲郡名。

長岡神社。（在郡東。）

同天皇自高羅行宮。還幸而在酒殿泉之邊。於此薦膳之時。御具甲鎧光明異常。仍令占問卜部殖坂。奏云。此地有神。甚願御鎧。天皇宣。實有然者。奉納神社。可爲永世之財。因號永世社。後人改曰長岡社。其鎧貫緒悉爛絕。但冑幷甲板今猶在也。

酒殿泉。（在郡東。）

此泉之。季秋九月。始變白色。味酸氣臭。不能喫飮。孟春正月變而淸冷。人始飮喫。因曰酒井泉。後人曰酒殿泉。

姬社鄕。

此鄕之中有川。名曰山途川。其源出郡北。山南流而會御井大川。昔者此門之西有荒神。行路之人多被殺害。半凌半殺。(阿イ)于時卜求祟由。兆云。令筑前國宗像郡人珂是胡祭吾社。若合願者。不起荒心。覓珂是古令祭神社。珂是古即捧幡祈禱云。誠有欲(敬イ)吾祀者。此幡順風飛往墮願吾之神邊。使即擧幡順風放遣。于時其幡飛往。墮於御原郡姬社之社。更還飛來。落此山途川邊之田村。珂是古自知神之在。家其夜夢見。臥機（謂久郡毘枳。）絡垛（謂多利。）儛遊出來壓驚珂是古。於是亦織女神即立社祭之。自爾已來行路之人不被殺害。因曰姬社。今以爲鄕名。

養父郡。鄕肆所。（里十二。）烽壹所。

昔者纒向日代宮御宇天皇。巡狩之時。此郡佰姓。擧部參集。御狗出而吠之。於此有一產婦臨見。

御狗卽吠止。因曰犬聲止國。於此訛謂養父郡
也。
鳥樔郷。(在郡東。)
昔者輕島明宮御宇譽田天皇之世。造鳥屋於此
郷。取聚雜鳥。養馴貢上朝廷。因曰鳥屋郷。後人
改曰鳥樔郷。
日理郷。(在郡南。)
昔者筑後國御井川渡瀨甚廣。人畜難渡。於玆纏
向日代宮御宇天皇。巡狩之時。就生葉山。爲船
山。就高羅山。爲梶山。造備船。漕渡人物。因曰
日理郷。
狹山郷。(在郡南。)
同天皇行幸之時。在此山行宮。徘徊曰。望四方
分明。因曰分明村。(分明謂佐夜氣志。)今訛謂狹山郷。
三根郡。郷陸所。(里十七。)驛壹所。(小路。)
昔者此郡與神埼郡。合爲一郡。然海部直嶋。請
分三根郡。卽緣神埼郡三根村之名。以爲郡名。

物部郷。(在郡南。)
此郷之中有神社。名曰物部經津主之神。曩者小
墾田宮御宇豐御食炊屋姬天皇。令來目皇子爲
將軍。遣征伐新羅。于時皇子奉勅到於筑紫。乃
遣物部若宮部。立社於此村。鎭祭其神。因曰物
部郷。
漢部郷。(在郡南。)
昔者來目皇子爲征伐新羅。勅忍海漢人。將來
居此村。令造兵器。因曰漢部郷。
米多郷。(在郡南。)
此郷之中有井。名曰米多井。水味鹹。曩者海藻
生於此井之底。纏向日代宮御宇天皇。巡狩之時。
御覽井底海藻。卽勅賜名曰海藻生井。今訛米
多井。以爲郷名。
神埼郡。郷玖所。(里二十六。)驛壹所。寺壹所。(僧寺。)
昔者此郡有荒神。往來之人多被殺害。纏向日代
宮御宇天皇。巡狩之時。此神和平。自爾以來無

更有レ悚。因曰二神埼郡一。

三根郷。在二郡西一。

此郷有レ川。其源出二郡北山一。南流入レ海。有二年魚一。同天皇行幸之時。御船從二其川瀨一來。御二宿此村一。天皇勅曰。夜素(裏イ)御寢。甚有二安穩一。此村可レ謂二天皇御寐安村一。因名二御寐一。今改二寐字一爲レ根。

船帆郷。在二郡西一。

同天皇巡狩之時。諸氏人等。擧落葉船擧レ帆參二集於三根川津一。供二奉天皇一。因曰二船帆郷一。又御船沈石四顆存二其津邊一。此中一顆。高六尺。經五尺。一顆。高四尺。經五尺。無レ子婦女就二此二石一。恭禱祈者。必得二妊產一。一顆。高四尺。經九尺。一顆。高三尺。經四尺。亢旱之時。就二此二石一雩。幷祈者。必爲二雨落一。

蒲田郷。在二郡西一。

同天皇行幸之時。御二宿此郷西一。薦二御膳一之時。蠅甚多鳴。其聲大囂。天皇勅云。蠅聲甚囂。因曰二囂郷一。今謂二蒲田郷一訛也。

琴木岡。高二丈。周五十丈。在二郡南一。

此地平原元來無レ岡。大足彥天皇勅曰。此地之形。必可レ有レ岡。卽令二郡下(丁イ)一。起二造此岡一。造畢之時。登レ岡宴賞。興闌之後。豎二其御琴一。琴化二爲樟一。高五丈。周三尺。因曰二琴木岡一。

宮處郷。在二郡西南一。

同天皇行幸之時。於二此村一奉レ造二行宮一。因曰二宮處郷一。

佐嘉郡。郷陸所。里十九。驛壹所。寺壹所。

昔者樟樹一株生二於此村一。幹枝秀高。莖葉繁茂。朝日之影蔽二杵島郡蒲川山一。暮日之影蔽二養父郡草横山一也。日本武尊巡幸之時。御二覽樟茂榮一曰。此國可レ謂二榮國一。因曰二榮郡一。後改號二佐嘉郡一。一云。郡西有レ川。名曰二佐嘉川一。年魚有レ之。其源出二郡北山一。南流入レ海。山川上有二荒神一。往來之人。半生半殺。於レ茲縣主等祖大荒田占問。于レ時有二土蜘蛛一。大山田女。狹山田女。二女子云。取二下田村之土一。作二人

形馬形。祭祀此神。必在應和。大荒田卽隨其辭。祭此神。神歆此祭。遂應和之。於茲大荒田云。此婦如是實賢女。故以賢女欲爲國名。因曰賢女郡。今謂佐嘉郡訛也。又此川上有石神。名曰世田姬。海神。年常。(謂鰐魚。)逆流潛上到此神所。海底小魚多相從之。或人畏其魚者無殃。或人捕食者有死。凡此魚經二三日。還而入海。

小城郡。鄉柒所。(里二十。)驛壹所。烽壹所。

昔者此村有土蜘蛛。造堡隱之。不從皇命。日本武尊巡幸之日。皆悉誅之。因號小城郡。

松浦郡。鄉壹拾壹所。(里二十六。)驛伍所。烽捌所。

昔者氣長足姬尊。欲征伐新羅。行於此郡。而進食於玉島小河之側。於茲皇后勾針爲鉤。飯粒爲餌。裳絲爲緡。登河中之石上。捧鉤祝曰。朕欲征伐新羅。求彼財寶。其事功成凱旋者。細鱗之魚吞朕鉤緡。既而投鉤。片時果得其魚。皇后曰。甚希見物。(希見。謂梅豆羅志。)因曰希見國。今訛謂松浦郡。所以此國婦女。孟夏四月常以針釣年魚。男夫羅釣不能羅之。

鏡渡。(在郡北。)

昔者檜隈廬入野宮御宇武少廣國押楯天皇之世。遣大伴狹手彥連。鎭任那之國。兼救百濟之國。奉命到來至於此村。卽娉篠原村(篠謂志奴。)弟日姬子成婚。(日下部君等祖也。)容貌美麗特絶人間。分別之日。取鏡與婦。婦含悲啼渡栗川。所與之鏡緖絶沈川。因名鏡渡。

褶振峯。(在郡東。烽家名曰褶振峯。)

大伴狹手彥連。發船渡任那之時。弟日姬子登此用褶振招。因名褶振峯。然弟日姬子與狹手彥連相分。經五日之後。有人每夜來。與婦共寢至曉早歸。容止形貌似狹手彥。婦抱其怪。不得忍默。竊用績麻繫其人襴。隨麻尋往。到此峯頭之沼邊。有寢蛇。身人而沈沼底。頭蛇而臥沼壅。忽化爲人。卽訶云。志努波羅能。意登比賣(篠原弟姬)

能古袁(子)。佐比登由母(眞一夜)。爲禰弖(率寢)牟志太夜(時節)。伊幣(家)爾久太佐牟(將下)也。于時弟日姬子之從女。走告親族。親族發衆昇而看之。蛇幷弟日姬子並亡不存。於茲見其沼底。但有人屍。各謂弟日女子之骨。卽就此峯南造墓治置。其墓見在。

賀周里。(在郡西北。)

昔者此里有土蜘蛛。名曰海松橿媛。纏向日代宮御宇天皇。巡國之時。遣陪從大屋田子。(日下部君等祖也。)誅滅時。霞四含不見物色。因曰霞里。今謂賀周里訛之也。

逢鹿驛。(在郡西北。)

曩者氣長足姬尊。欲征伐新羅。行幸時。於此道路有鹿遇之。因名遇鹿驛。驛東海有鮑。螺。鯛。海藻。海松等。

登望驛。(在郡西。)

昔者氣長足姬尊。到於此處留爲雄裝。御臂之鞆落於此村。因號鞆驛。驛東西之海有鮑。螺。鯛。雜魚。海藻。海松等。

大家嶋。(在郡西。)

昔者纏向日代宮御宇天皇。巡幸之時。此村有土蜘蛛。名曰大身。拒(恒イ)皇命不肯降伏。天皇勅命誅滅。自爾以來。白水郎等就於此嶋造宅居之。因曰大家嶋。嶋南有窟。有鍾乳及木蘭。廻緣之海。鮑。螺。鯛。雜魚。及海藻。海松。多之。

値嘉嶋。(在郡西南之海中。有烽家三所。)

昔者同天皇巡幸之時。在志式嶋之行宮。御覽西海。海中有嶋。煙氣多覆。勅遣陪從阿曇連百足。令察之。嶋有八十餘。就中二嶋。嶋別有人。第一嶋名小近。土蜘蛛大耳居之。第二嶋名大近。土蜘蛛垂耳居。自餘之嶋。並人不在。於茲百足。獲大耳等奏聞。天皇勅且令誅殺時。大耳等叩頭陳聞曰。大耳等之罪。實當極刑。雖被戮殺。不足塞罪。若降恩情。得再生者。奉造御贄。恒貢御膳。卽取木皮。作長鮑。鞭鮑。短鮑。陰鮑。羽割鮑等

之樣。獻於御所。於茲天皇垂恩赦放。更勅云。此嶋雖遠猶見如近。可謂近嶋。因曰値嘉嶋。則有檳榔。木蘭。梔子。木蓮子。黑葛。篁。篠。木綿。荷。莧。海則有鮑。螺。鯛。鯖。雜魚。海藻。海松。雜海菜。彼白水郎富於馬牛。或有一百餘近嶋。或有八十餘近嶋。西有泊船之停二處。（一處名曰相子之停。應泊二十餘船。一處名曰川原浦。應泊一十餘船。）遣唐之使。從此停發。到美彌良久之濟。（即川原浦之西濟是也。）從此發船指西度之。此嶋白水郎。容貌似隼人。恒好騎射。其言語異俗人也。

杵嶋郡。鄉肆所。（里一十三。）驛壹所。

昔者纏向日代宮御宇天皇。巡幸之時。御船泊此郡磐田杵之村。于時從船牂牁之穴。洽水自出。（一云。船泊之處。）自成一嶋。天皇御覽詔群臣等曰。此郡可謂牂牁嶋郡。今謂杵嶋郡訛之也。郡西有湯泉出之巖。岸峻極人跡罕及也。

孃子山。（在郡東北。）

同天皇行幸之時。土蜘蛛八十女。又有此山頂。常桿（掃イ）皇命不肯降服。於茲遣兵掩滅。因曰孃子山。

藤津郡。鄉肆所。（里九。）驛壹所。烽壹所。

昔者日本武尊。巡幸之時。到於此津。日沒西山。御船泊之明旦遊覽。繫船於大藤。因曰藤津郡。

能美鄉。（在郡東。）

昔者纏向日代宮御宇天皇。行幸之時。此里有土蜘蛛三人。（兄名大白。次名中白。弟名小白。）此人等造堡隱居。拒皇命不肯降服。爾時遣陪從紀直等祖穉日子。令以誅滅。於茲大白等三人。但叩頭陳己罪過。共乞更入奉主人。因曰能美鄉。

託羅鄉。（在郡東臨海。）

同天皇行幸之時。到於此鄉。御覽。海物豐多。勅曰。地勢雖少。食物豐足。可謂豐足村。今謂託羅鄉訛之也。

鹽田川。在郡北。

此川之源。出郡西南託羅之峯。東流入海。潮滿(漸細イ)之時逆流。潮滿流勢大高。因曰潮高滿川。今訛謂鹽田川。川源有淵。深二許丈。石壁嶮峻。周迊如垣。年魚多在。東邊有湯泉。能愈人病。

彼杵郡。鄕肆所。里四。驛貳所。烽參所。

昔者纏向日代宮御宇天皇。誅滅球磨噌唹之時。天皇在豐前國宇佐海濱行宮。勅陪從神代直遣此郡速來村。捕土蜘蛛。於茲有人名曰速來津姬。此婦女申云。妾弟名曰健津三間。住健村之里。(四)此人有美玉。名曰石上神之木蓮子玉。(而イ)愛而固藏不肯示他。神代直尋覓之。超山逃走落石岑。郡以北之山。卽逐及捕獲。推問虛實。健三間云。實有二色之玉。一者曰石上神木蓮子玉。一者曰白珠。雖比礪砆。願以獻之。亦申云。有人名曰篦簗。住川岸之村。此人有美玉。愛之固秘。(固極イ)定無服命。於茲神代直迫而捕獲問之。篦簗云。實有之。以貢於御。不敢愛惜。神代直捧此三色之玉。還獻於御。于時天皇勅曰。此國可謂具足玉國。今謂彼杵郡訛之也。

浮穴鄕。在郡北。

同天皇在宇佐濱行宮。詔神代直曰。朕歷巡諸國。既至平治。未被朕治有異徒乎。神代直奏云。波煙之起村。未猶被治。卽勅直遣此村。有土蜘蛛。名曰浮穴沫媛。捍皇命甚無禮。卽誅之。曰浮穴鄕。

周賀鄕。在郡西南。

昔者氣長足姬尊。欲征伐新羅行幸之時。御船繫此鄕東北之海。艫舳之兆試(充而イ)化而爲磯。高二十餘丈。周十餘丈。相去十餘町。突出嵯峨。草木不生。加以陪從之船。遭風漂波。於茲有土蜘蛛。(ナシイ)名欝比袁麻呂。救濟其船。因名曰救鄕。今謂周賀鄕訛之也。

速來門。在郡西北。

此門之潮之來者。東潮落者西涌登。涌響同雷音。因曰連來門。又有杉木。本者着地。末者沈海。海藻草生。以擬貢上。

高來郡。鄕玖所。里二十一。驛肆所。烽伍所。

昔者纏向日代宮御宇天皇。在肥後國玉名郡長渚濱之行宮。覽(列居イ)此郡山曰。彼山之形。似於別嶋。屬陸之山歟。別在之嶋歟。朕欲知之。仍勅神大野宿禰遣看之。往到此郡。爰有人迎來曰。僕者此山神。名高來津座。聞天皇使之來奉迎而已。因曰高來郡。

土齒池。俗言岸爲比遲波。在郡西北。

此池東之海邊有岸。高百餘丈。長三百餘丈。西海波濤常以瀰漭(濫觴イ)。緣土人辭。號曰土齒池。池堤長六百餘丈。廣五十餘丈。高二丈餘。池裏縱横二十餘町許。潮來之常突入。荷。菱。多生。秋七八月。荷根甚甘。季秋九月。香味共變。不中用也。

峯湯泉。在郡南。

此湯泉之源。出郡南高來峯西南之峯。流於東。流之勢甚多熱。異餘湯(和イ)。但和冷水。乃得沐浴。其味酸。有流黃白土及松。松其葉細有子。大如小豆。令得喫。

印本奥書

右一册者肥前國長崎人大冢惟年所齎來書也。原本謬誤尤多矣。寛政十一己未年三月。於京師旅寓校正之加訓點畢。蓋依城戸千楯長谷川菅緒等之需者也

皇太神宮權禰宜從四位下

荒木田神主久老(花押)

以宮内省圖書寮本幷印本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百七十三

## 雜部百二十三

### 常陸太田文

常陸國太田文事。任被仰下之旨一卷寫進覽之候。以此旨可有御披露候。恐惶謹言。

延文六年五月三日　散位詮國(花押)

進上御奉行所

〔初闕〕

同宿内永江六丁八段三百步。同宿内林十九丁一段半。同宿内小位三丁四段大。同宿内保立十丁九段六十步。同宿内山上二丁。同宿内片野二十五丁八段小。同宿内安宗名七町三段小。下宿内守眞名二丁二段半。下宿内久淸二十五丁三段半。同宿内國忠名三十丁八段三百步。同宿内阿前十三丁五段。同宿内宮武吉名十三丁七段小。同宿内貞國名七十三(丁カ)百步。同宿内國正名三十二町九段小。同宿内猿小河八丁五段三百步。同宿内五郎丸三丁六段小。同宿内平濱三十丁七段小。同宿内高濱七丁六段六十步。同宿内筒井三丁五段。同宿内泉河三丁五段。同宿内矢田部十五丁四段小。同宿内矢田葦前三丁。同宿内嶋前五十七丁三百步。

北條德宿鄕五十四丁八段三百步。同鄕神谷五十九丁少。

同宮田鄕五十六丁九段少。十八丁一段六十步。古河。

白鳥鄕内中務四郞跡三十(三イ)九丁二段少。二十七丁五段。

志崎武家村以下在之。同鄕内家吉末遠。十六丁八段三百步。

同鄕内家吉武國。十六丁四段。同鄕内。七丁九段大。

下妻庄三百七十町。

東鄕。吉原四丁三段小。(今茨有〻村)。福原十八丁六段小。

稲田社十七丁小。(茨有上下ゝ村)。赤澤十四丁一段半。鹿嶋神領。(茨有ゝ村)。野尻二丁二段小。本殿廿丁五段。大藏省保五十一丁二段大。大淵九十四丁二段六十歩。(茨有ゝ村)。黒栖四十二丁五段。(茨有來栖村)。方庭四十七丁三段。(茨有片庭村)。石井原七丁八段。(茨有ゝ村)。大藏庄五十一丁二段大。

中郡庄三百八十二丁六段小。

眞壁郡。長岡十五丁二段六十歩。谷貝十五丁。亀隈二十三丁四段六十歩。細柴三丁一木(本ヵ)二丁八段。紀三郎名三丁二段。(同國風土記云つくば川にかゝれるいさかはしを渡ると云々)伊佐々五丁一段。山野宇十二町。山田二十二丁。羽鳥十三丁一段三百歩。椎尾國貞十丁三段。同貞則十八丁八段。同助貞十一丁二段。塙廿六丁四段三百歩。中村四丁四段小。源法寺六丁一段。窪八丁五段六十歩。田村十丁。白井廿丁大。櫻井十七丁。大國玉社三十丁九段大。大曾禰百十二丁四段六十歩。光行五十四丁二段大。松久五十八丁一段大。小幡四十二丁七段。竹東八丁二段六十歩。

伊勢御厨小栗保三百二十丁。

關。西郡南條百八丁五段三百歩。

伊佐。同北條九十九丁六十歩。以東四十八丁大。以西五十一段半。

筑波北條三百四十八丁一段。

郡分百十丁一段半。大澤三十七丁半分保。國松五十七丁一段三百歩。隆得三十四丁六段。石前廿二丁五段三百歩。酒依三十丁五段大。熊野保。筑波社五十六丁六十歩。本納廿四丁五段大。加納三十一丁四段六十歩。

同南條栗野廿四丁五段大。

河内郡廿七丁七段半。足高一丁八段大。酒嶋一丁一段半。大井四丁一段六十歩。小薹二丁半。鷲栖一丁七段。羽原一丁九段大。岡見一丁八段。蒲田八段三百歩。遠山二丁二段。田却三丁七段。

南條方穗庄九十一丁二段。

村田庄二百六十丁。

田中庄五百丁。

大井庄七十二丁一段。

信太東二百七十丁二段大。

信太庄六百二十丁內。

北郡二百七十二丁四段六十歩內。河俣二十一丁六十歩。大多良一丁二段。柿岡三丁九段。菅間七丁三段大。上曾十三丁小。田子共四十四丁五段大。瓦屋七丁二段小。吉生十一丁七段半。大增尾六丁六段。大田七丁一段三百歩。小瓦四

丁。高倉十二丁。片岡四段半。倉差十一丁六段半。林十一丁。宇治會十八丁三段。村上二十(丁カ)四段三百歩。片野三十二丁九段。沼田六丁二段大。青田五十丁。横山尻大。小幡三丁。加納二十丁。

小鶴庄四百丁。

南野牧千百九十一丁九段大。

南郡。小河四十一丁一段。（今小川村）。志筑三十七丁五段。（今小川村ニ志筑橋ト云アリ是地ナルベシ）。大枝十三丁大。（今下玉里村ニ大井坪アリ是ナルベシ）。田木谷十二丁八段半。（田木谷村今存）。小井戸七丁八段。野寺七丁。野田一丁四段大。竹原十五丁。田余七十三丁七段。上吉影六丁五段半。下吉影十一丁五段半。荒張一丁一段。大谷六丁。土田一丁一段三百歩。高濱田四丁二段。鹽橋一丁八段。市河七丁。松延九段半。國分寺十三丁。府郡分六十一丁九段三百歩。

在廳名百五十四丁四段三百歩。常安佐谷二十七丁。稲久二十八丁七段六十歩。加茨城定。石光三十六段三百歩。稲貞八丁二段三百歩。米吉五丁九段三百歩。石宗十六丁二段。香丸三丁。金丸三丁五段。稲國七丁五段三百歩。元久四丁小。稲富二段。延吉三段。恒岡二丁三段。

別名。福眞三丁五段。三郎丸五丁。大橋十四丁七段半。弓削十八丁三段大。柴高一丁七段六十歩。子野代二丁三段六十歩。久吉二丁一段。

一奥郡。多珂郡百五十三丁四段三百歩。

久慈東三百八十丁二段半。

同西二百四十八丁八段百四十歩。

那珂東百四十五丁七段三百歩。安福四十二丁一段半。中村七丁九段六十歩。田谷東方十五丁。同田谷西方十五丁、青柳十丁。枝河九丁六段。津田十二丁。今泉十一丁。

那珂西百五十二丁五段小。

佐都東二百八十九丁八段三百歩。東岡田十五丁。西岡田十丁。根本四丁。大森七丁。泉三十五丁。今泉十五丁。千根二丁。波田三十五丁。小澤五十五丁三段半。

佐都西二百五十六丁三段小。小野崎十八丁半。中小野崎四丁五段。阿久津八丁五段。小野二十三丁二段。西河内五丁二段三百歩。吉津三丁。磯部十六丁三段大。石神十一丁五段。鎌田三丁。東河内五丁一段小。額田八十一丁半。大田白岩八十丁三段小。世谷四十二丁二段六十歩。大橋加津見澤十丁。國井保二十六丁五段大。

右弘安二年作田惣勘文大略注進如件

（秀按。是即下卷ニ見ヘタル常陸太田文ナルベシ。今但馬美含郡帝釋寺ニ存スル太田文モ弘安八年ト見ヘタリ。スベテ是頃注進セルモノナルベシ。）

據楓軒文書纂抄出本一校

# 淡路國太田文

淡路國二郡

注進　國領幷庄薗田畠地頭注文事

合

津名郡

國領。都志郷田二十一町八反百五十歩。前地頭女房六條殿。新地頭佐野太郎。除田五十反六十歩。殘田十六丁七反九十歩。

畠十三丁二反六十歩。除畠二十二反六十歩。

殘畠十一丁六十歩。

浦一所。

郡家郷田三十丁三反。地頭駿河入道殿。除田十一丁七反二百四十歩。殘田十八丁五反百廿歩。

畠二十丁九反百八十歩。除畠二丁八反六十歩。殘畠二十丁一反百六歩。

一宮社一所。同神宮寺一所。

賀茂郷田廿五町六反廿歩。地頭左馬允經範難波官兵衛依其身一門勞不備合戰下向仕了。除田三丁六反百廿歩。殘田廿一丁九反二百六十歩。三斗代六十二反一斗。

畠九丁五反百三十歩。除畠一丁。殘畠八丁五反百廿歩。

山田保田三十町六十歩。即保地頭長尾平內。前地頭女房三條殿 柳澤草加 地頭駿河入道殿。除田四丁六反十歩。殘田廿五丁三反百五十歩。三斗々代三丁四斗代三丁。

畠七丁四反六十歩。柳澤草加分。除畠一丁二反。殘畠六丁一反六十歩。

浦一所。草加分。

室津保田廿一町七反二百歩。前地頭左馬允忠道。同御家人 新地頭讃岐右

衞門六郎。除田三丁。殘田十八丁七反二百步。三斗代五丁二百步。
畠五丁百三十步。除畠一丁九十步。殘畠四丁四十步。
石屋保田六丁七反百四十步。五イ 前地頭中務入道殿。新地頭常守護所。除田三丁九反。殘田二丁八反百四十步。
畠五丁二百十步。除畠一丁一反半。殘畠三丁九反三十步。
石屋宮一所。浦一所。
三之崎保田廿七町百九十步。地頭三澤右馬允。除田二丁九反半。殘田廿四丁一反七十步。
畠廿六丁三反三十步。除畠三反。殘畠廿六丁三十步。
庄分。
西宮御領
廣田庄。地頭大和中務丞。田六十町。畠。
歡喜少院御領 マヽ
內膳庄。地頭藤內家次兵亂時於國逝去仕。依禁忌子息等守駈所賜暇不上洛跡候。田三十町。畠。

御室御領
物部庄。前地頭四郎國御家人。但無誤由訴申。新地頭宇佐見五郎兵衞殿。田七十丁。畠。浦一所。
禪林寺新熊野領
由良庄。前地頭賀加兵衞佐。新地頭木內二郎。田二十丁。畠。浦一所。
同御領
筑佐庄。地頭同。田二十丁。畠。
八幡宮御領
炬口庄。前地頭刑部丞經實。同御家人。新地頭相馬小次郎。雖賜依領家訴地頭領家御沙汰之。田四十丁。畠。浦一所。
一院御領
安平庄。地頭領家御沙汰。田四十丁。畠。浦一所。
勸修寺御領
鹽田庄。前地頭刑部丞範能。國御家人新地頭藤田兵衞尉。田四十町。畠。浦一所。
新熊野領
志々庄。前地頭源三太郎義、。國御家人。當時相摸守殿御領。田百町。畠。浦。
上賀茂御領
生穗庄。前地頭太郎重助。國御家人。新地頭三澤右馬允。田四十町。畠。浦。
松枝僧正御、御領
來馬庄。地頭木河二郎。田六十丁。畠。浦一所。

伊勢宮一所。
最勝四天王院御領、浦　庄。地頭駿河入道殿。(マヽ)田二十六丁。畠。浦。
六條御堂御領、穗　庄。前地頭有喜不知。小畑年來一圓領家近退所申候。新地頭家之所、領。田六十丁。畠。浦一所。
北野御領鮎原庄。前地頭權守垣用。(マヽ)國御家人。但兵亂以後不隨守護所下知者也。田三十二丁。畠。
八幡宮御領枝石庄。前地頭源次通。國御家人。新地頭佐野七郎入道給云々。田十三町。畠。
三原郡。
國領。笑原保田六十町一反二百五十步。前地頭前守護所中務入道殿。新地頭當守護所。除田二十七丁一反三百五十步。
殘田三十二丁九反二百六十步。此內石廳打名加之。
畠二十九丁七反七十步。除畠八丁七反百三十步。殘畠二十丁九反三百步。
八木村。
鹽濱村。

八太村。笑原宮一所。開旦寺一所。成相寺一所。二宮社一所。同神宮寺一所。椙尾寺一所。
東西神代鄕。前地頭前守護所中務入道殿當守護所領。
西神代鄕田四十八町(三十四丁イ)三百三十步。志知此內也。但有馬允、、、也。中外田中無志知庄也。除田二十三丁四反百八十步。殘田二十四丁六反百五十步。此內石廳打名略之。
畠二十二丁五反八十步。除畠五丁三反百八十步。殘畠十七丁一反二百六十步。
湊村。藥師堂一所。伊勢宮一所。佐亂尾宮一所。
東神代保田二十六町五反四十步。除田五丁七反。殘田二十丁八反四十步。一斗五凡(マヽ)代二丁八反三丁。三斗代三丁。
畠二十四丁一反百二十步。除畠七反。殘畠二十三丁四反百廿步。寄進二丁二百四十步。
風伯社一所。
上田保田五十六町二反。前地頭前守護所中務入道殿。新地頭當守護所。
除田二十丁九反五百廿步。殘田三十五丁二

反四十步。此内石聽打名略之。
畠四十一丁八反三十步。除畠七丁六反三百
五步。殘畠三十四丁一反四十步。
榎、村。圓鏡寺一所。法輪寺一所。八幡宮一
所。同神宮寺一所。野邊宮一所。惣社宮一所。
長田村田三町一反三百四十步。地頭船越左衛門尉。除田一
丁一反百二十步。殘田二丁二百二十步。
畠四反二百步。
掃守保田四十三町八反百四十步。大膳供御領地頭矢部二郎。
除田一丁二反。殘田四十二丁六反百七十步。
畠。
庄分。
得長壽院幷八幡宮御領
阿萬庄。前地頭兵衛尉次忠。國御家人。新地頭木村太郎。田百三
丁。本庄百丁。沼島三丁。畠。浦二所。諭鶴羽山一所。熊野權現本山。
安野實持院御領
賀集庄。前地頭右近將監忠光。國御家人。新地頭船越右衛門尉。田百二十
丁。畠。

同御領
福良庄。前地頭兵衛尉次忠。國御家人。新地頭船越右衛門尉押領。田二十丁。
畠。浦一所。
鳥羽勝金剛院領
國分寺庄。本下司公文雖爲忠通。先祖相傳職近重領家押領之間。付本證文傳領次第令申憲法使之。田三十三町。畠。
最勝四天王院御領
津井伊賀新庄。前地頭刑部丞光盛。國御家人。新地頭平二郎子一人。田十九
町。畠。浦。
弘誓院御領
掃守庄。前地頭刑部丞光盛。國御家人。新地頭矢部又二郎。田十二町。
修明門女院御領
慶野庄。地頭船越右衛門尉。田六十町。畠。浦。
八幡宮御領
鳥飼庄。前地頭葭三守兵。國御家人。新地頭佐野七郎入道。田三十町。畠。
浦一所。
右大略注進如件。但於庄薗者任建立最前立券
文旨注進仕之間有不審歟。於國領者付當時文
書之旨令可注進申候。仍言上如件。
貞應二年四月　日　散位藤原朝臣花押
散位凡宿禰花押

散位掃守宿禰花押
右馬允藤原朝臣花押

此注進之狀無一事偏頗。但於國領田畠者付當任撿注員數令注進之。於庄田者付根本文書令注進之間不知委細。畠者自元無注文。此外若虛言注申者。三城鎭守諸大明神當國鎭守十一箇所大明神々罰冥府在廳等身可蒙候者也。仍爲御不審起請文以解。

貞應二年四月卅日　散位藤原朝臣花押
散位凡宿禰花押
散位掃守宿禰花押
右馬允藤原朝臣花押

右一卷寄合者川森之助所藏なり。文化十年九月廿一日摸寫して不忍文庫に納畢。其先長治淡路守藤原宗政。淡路國守護職。同國地頭職たりしかは。當時傳へし所顯然たり。兩職たりしことは寛喜二年の讓狀に見えたり。その狀及ひ種々の文庫は別冊にうつしをけり。　源弘賢

雜部百二十四

# 豐後國圖田帳

弘安八年十月十六日自國府被立脚力畢。豐後國田代之事。國中寺社佛神領等並權門勢家莊園領公田領家領所地頭弁濟使等交名之事。

宇佐宮御神領千六百餘町。由原宮御神領二百四十六町。鶴見社御神領十五町餘。宇佐彌勒寺領千町餘九十三町。安樂寺領五百餘町。一本六十餘町。蓮華王院領三百餘町。金剛院領五百餘町。城與寺領二百七十餘町。權門莊領千三百八十餘町。國半不輸(輪カ)領六百八十餘町。公田八百五十餘町。府警門田十八町。府濟物弁國官物定田二百五十六町。豐後國莊公弁領主等之事可委細注進言上由。今年二月廿日雖被成御書候。德政之御使依下向。去正月以來直人相共昇向博多候間未尋究處御使參洛候。其後依兩社造營延引候。此程令歸國雖致其沙汰不能巨細候歟。雖然若急速御用候者可違期候之間直人等粗令注進狀一卷內々爲御存知今進上候。但此狀者無四度計候。追進之時可被替取候。謹言上。

弘安八年九月晦日　沙彌道忍裏判

謹上　信濃判官入道殿
豐後國直入等記申
當國八箇郡分。國崎速見直入大分海部大野日田玖珠田數領主等之事。
國東郡千六百三十八町。
武藏鄉三百町。宇佐宮領領主神官名主等。
本鄉二百五十四町八段。地頭職大友兵庫入道殿。
久吉名十六町。重藤名八町。同人。
池内永吉名二十一町。地頭職忠左衛門尉惟景跡當知木工助三郎景允。法名道念。
安岐鄉三百町。宇佐宮領。一本二百町。
余名三十六町。領主神官名主等。
弁府十町。地頭日田彌三郎永基。法名法基。
弘永名三十町。同人。
成久名三十七町。相摸七郎殿母御前辻殿。
朝來野浦十四町。地頭朝來野彌三公平。

守江浦三町。戶次太郎時賴。法名道恵。同次郎公繼宇憚在。
米繩鄉三百町。宇佐宮領。
本鄉并余名二百七十七町。鄉司來繩妙惟房智恩院主筆（榮）範神官名主等各分領難存知。
吉久二十九町。地頭職大炊三郎藏人能泰。
久末五町。法名道喜。地頭職小田原彌次郎賴景。
田原鄉六十町。宇佐宮領。
本鄉四十町。本守護所豐前大炊助入道女子持明院別當之後室之跡。而豐前六郎藏人泰廣或號借上賀券。或買得相傳之由申處辻雜掌論之。
小野鄉一萬名十町。伊賀國住人八十島左衛門太郎賴忠爲私領六郎藏人泰廣借上之。
田染鄉九十余町。宇佐宮領。
本鄉四十二町。弁府二八　領主大藏卿法眼有

寛。小田原五郎景泰。法名寂佛。論之。
吉丸名二十一町。名越尾張入道殿。
糸永名三十町。肥前國御宗人曾禰崎淡路法
橋慶僧。
櫛來浦十五町。地頭職大炊判官次郎親元。
大田原別十五町。小田原次郎重道。法名道佛。
伊美鄉七十町。宇佐彌勒寺領。一本作八十餘町。地頭
伊美兵衛次郎永久。法名道應。
都甲莊七十町。宇佐彌勒寺領。地頭職 都甲
左衛門入道四迎跡子息五郎左衛門惟近相
續云。法名寂妙。舍兄四郎左衛門惟信依無足奉
守護云々。
香地鄉六十町。地頭川越安藝前司。
眞玉莊七十町。宇佐彌勒寺領眞玉左衛門次
郎惟重跡。嫡子又次郎惟有。法名願信。大貳房寛
秀五郎惟村各知行之處豐前大炊入道殿跡六
郎太郎能重論之。

草地莊二十五町。地頭職大友兵庫入道殿。
竹田津二十町。領主竹田津兵衛允惟永。法名連佛。
臼杵莊二十五町。宇佐彌勒寺領所司等有名
數人。
岐部浦十五町。領主岐部三郎成末。法名圓妙。
姫嶋三町。彌勒寺領寺家之所司等。

國領

國東鄉三百町。領家松殿二位中將御跡地頭
職信濃伊勢入道殿跡而在。
速見郡千町餘五町。石垣莊二百町。
本莊百四十町。宇佐領領主神官名主等。
別府六十町。地頭職名越備前左近大夫殿。
朝見鄉八十町。宇佐宮領。地頭職 土肥一王
丸。
竈門莊八十町。宇佐彌勒寺領。一本作百餘町。
本莊五十三町。地頭職竈門次郎貞繼。法名道喜。

小坂村十七町。大將家法花堂別當僧都御房。
平陽立小野村十町並鶴見。加納大友兵庫入道殿。
大神莊百七十町。
日出津嶋七十町。地頭職相摸守殿。
近部藤原井手村七十町。戸次太郎時賴。法名道惠。
眞奈井野木乃井之村三十町。同人并利根次郎賴親。
八坂莊二百町。宇佐彌勒寺領。
下莊百町。領家八幡撿校法印女子。
本莊五十五町。御家人八坂五郎左衛門惟繼跡彌五郎。
若宮名五十町二段。大友兵庫入道殿。
新莊四十五町。八坂五郎左衛門跡。五郎親盛跡。彌次郎忠繼惟經嫡孫而相續云々。

山香鄉二百町。鄉司家思迢轉之後當知行未分明。
本鄉百町。大友兵庫入道殿。
立石村四十餘町。豐前九郎入道明眞跡彥四郎。
下倉成名十六町。肥前國御家人綾部小次郎道明跡後家善阿女子小田原五郎景鄉配分爲知行云々。
廣瀨六町六段大。遠江國御家人內田工藤三致淸彌三郎致時相續。
一王名三町三段小。大友兵庫入道殿。
日差村三十町。大炊判官代太郎賴元。法名道佛。當國住人日差左衛門後家論之。
由布院六十町。戸次太郎時賴。法名道惠。三郎重親相續。
鶴見村十五町。領家延曆寺地頭大友兵庫入道殿。

直入郡二百七十町。地頭職大友兵庫入道殿領
家安樂寺御神領。
二百七十町內莊百町。入田三十五町。領家
清涼寺。
朽綱鄕四十町。地頭朽綱兵衞允泰親。法名善心。
田北村朽綱號畑。
大分郡千百八十九町。一本作千三百八十餘町。
植田莊三百二十五町二段。領家大納言二位
御局。
上義名五十六町六段。大輔房有秀。
乙犬名六十町八段。同人。
吉藤名四十町。豐前大炊次郎藏人能泰。法名道善。
永富名十六町一段三百二十步。同人。
行弘名三十七町一段。
松武名十六町二段半。松尾彌次郎惟泰跡當
知行未分明。

千歲名十八町七段。相摸國御家人川村新五
郎清秀。西名。戒重今戒本云。
重國名十五町三段。植田八郎有綱跡四條侍
從殿知行而當國住人長谷圭入道信覺。
光吉名五十二町。大友兵庫入道殿。
福重名十八町二段大。利根次郎賴親。
戶次莊九十町。本家宜秋門院御跡地頭職戶
次太郎時賴。同次郎重賴。利根次郎賴親各
知行難存知。
高田莊二百町內百八十町。領家城興寺地頭
職三浦介殿。
牧村二十町。領家三浦介殿地頭御家人牧三
郎惟行。法名念昭。大炊六郎能重論之。
賀來莊二百三十町。
本莊二百町。領家一條前左大將家室家。地
頭職賀來五郎惟永。法名賴連。
平九名三十町。領家山法師備後僧都幸秀。

地頭同前。

阿南莊八十町。領家室大納言。地頭職守護所並挾間尼公生蓮孫忠用鬼九傳領今又四郎直親云々。

松富名三十九町。地頭職挾間尼公生蓮之跡(同カ)內前。

光一松名十二町。肥後國御家人菊地三郎武弘。

松武名三十六町二段內。一本作三十町。

本名八町五段。松尾彌三郎跡。當知行未分明。

吉藤名七段。畠山十郎重末。

松永名一町八段。大友左近藏人殿。

六郎丸名六町六段。小原六郎賴。

則末名一町。大津留次郎能氏。法名成佛。

安藤名六町六段。

武宮村四町九段。肥前國住人長與右馬次郎家繼。

森村一町六段。原田三郎左衛門良忠跡。當知行不分明。

宗門名三町三段小。橋爪兵衛允守景。法名法師。

石丸名一町六段大。大友兵庫入道殿。

津守莊百七十町。領家勸解由小路中納言家。

五名九十六町內。

光永名十六町八段九十步。

別作二十一町七段九十步。

片島二十六町九段大。

岩屋二十町九步。地頭職御所女房輔御局。

句保四十六町一段三百步。地頭職句兵衛次郎惟益。法名智行。同藤左衛門尉尙泰。法名行日。

福成名二十七町八段三十步。敷戸小次郎眞直。法名寂蓮。

國領荏□鄉百六十町。地頭職大友兵庫入道

殿。
國領判太郷三十町。
笠和郷百七十町。領家德大寺中納言殿地頭職兵庫入道殿。
永興國分寺二十三町八段內。
十三町八段。永興寺。
十町。國分寺地頭甲斐國住人市川左衛門宗清。法名蓮任。五郎。
內梨畑大略依爲畠地代不分明。地頭相摸四郎。
海部郡八百三十一町。一本紫山村十餘町。左近大夫殿。
臼杵莊二百町。領家一條前殿下御跡地頭職。
丹生莊百五十町。領家高倉宰相駿河前司入道殿。
佐伯百八十町。領家毛利判官代孫四郎殿地頭職大友兵庫入道殿。

本莊百二十町。地頭御家人佐伯彌四郎政直。法名道清。
堅田村六十町。內十五町領家。
三十町。佐伯八郎惟資。法名道法。
七町一段。堅田左衛門次郎惟光。
四段。小田原次郎重直。法名道佛。
國領佐賀鄉百五十町。地頭職龜谷刑部大輔。
毛井村十町。信濃國御家人平林彌入道女子。
大野郡八百七十町。一本作九百十餘町。太郎親繼。
大野莊三百町。一本作三百三十餘町。領家三聖寺。
中村七十六町。地頭職戶次三郎重賴。
下村百町內六十九町九段小。大野太郎基直女子相續。
五町一段三百步。同民女善修理亮廣衛妻。
三町一段。輔阿闍梨良慶死去後子息鶴丸。

上村五十一町内二十五町五段。橫尾局跡御所女房按察御局。

二十五町五段。大知太郎兵衛入道孫鶴丸連慶撿校。

志賀村七十三町内三十六町五段。詫摩別當能秀。法名寂尊。同次郎時秀。同新三郎資秀。同四郎太郎泰長配分。

三十三町一段小。志賀太郎泰朝。法名阿法。嫡子藏人太郎貞朝貞親烏帽子繼天。

三重鄉百八十町。新田陸奥守殿。

國領野津院六十町。地頭職 野津五郎賴宗。法名阿一。

井田鄉八十町五段。地頭職相摸三郎入道殿女子。

緒方莊二百八十町。地頭職大友兵庫入道殿。

日田郡五百六十町。他本云七百六十餘町。亦云七百町。又云六百町。

日田莊五百町内。領家三條輔入道殿御跡。

四百五十町。地頭職日田彌三郎永基。法名法基。

竹田別府二十町二段。領家冷水谷大納言家跡。地頭職豐前大炊入道殿 女子持明院別當室家跡。小田原次郎景泰。法名寂佛。同五郎景鄉買領之由申。

田嶋由布石井今泉二十二町。冷水谷大納言跡。

得善名六町。宇佐彌勒寺領。

大肥莊六十町。領家安樂寺 別當御房。地頭職上野國御家人 大鷹四郎賴□跡。當知行不分明。本ノマヽ

玖珠郡三百三百八十町。

長野鄉七十町。郡内之爲押亂惣鄉間田代未分明。雖反□無其實云々。郡内本鄉爲露顯定田代合三百三十五町。

本鄉百町。領家職城興寺。

新鄕二百三十五町。領家職本家安嘉門院御
跡。
山田鄕八十町。本村十二町三段。新村十三
町。
山階村二十五町三段。內地頭職小田左衞門
尉重成。法名連西。橫尾十郎成資跡。橫尾公知
行。領家城興寺。
魚返村一町六段三百二十四步內。
新莊。魚返次郎通秀。法名定秀。同三郎通資。法名念西。
同彌六通直跡。弟九郎政綱相續。同小次郎
通近。各分領不分明。
同村戸幡田蒲迫五町四段六十步。新村云。
肥前國御家人平田部藥王丸。
栗本名八町新莊。肥後國御家人原田七郎種
秀。
古後鄕八十町。本家安嘉門院御跡。
本鄕七十町三段小。古後左衞門通重。法名心源。平
井彌六重信。同次郎恭通。志津利小次郎通
廣。同九郎通重。同十郎通繼。原口四郎通
村。今村五郎高能。各分領不分明。
平井名。名內石神六町六段大。矢部源次郎
太郎入道。法名心佛。
帆足鄕八十町。地頭職本家安嘉門院御跡。
大隈三十町。地頭職大友兵庫入道殿。
久富名十七町六段。地頭職帆足六郎左衞門
通貞。法名西蓮。
森村十二町四段。地頭職森三郎朝通。法名道願。
片平田村七町。地頭職朝通。同片平田淸六
通直。法名西信。
岩室村十三町。地頭職岩室六郎良信。
飯田鄕七十町。新莊領家職一乘寺。本莊領
家職城興寺。
惠良村二十三町不見三段小。
惠良本村十六町□段小。肥前國御家人長與

右馬次郎家繼。
飯田本名九町五段。
新莊九町。美良津名ト云。地頭職 大友兵庫入道殿。
相藤名六町五段。新莊ト云。地頭職 野上次郎資直。右田四郎盛明。松木三郎言光。
書曲村十町。新莊豐前大炊入道殿女子持明院別當入道室家之跡。小田原次郎賴宗買得由中。
檀村七町。地頭職 橫尾十郎成貧跡。今城輿寺知行。
都合田代六千八百七十三町。
沙彌道忍在判

(圖書寮本奧云)
文化四年丁卯仲春。以豐後國日田森春樹之本書寫之。應右京上田百樹主之需矣。
筑紫　青柳種麿(花押)
文化元年九月傳領　伴信友(花押)

豐州油布院之內大境四方指圖之事
先以□東者燒原。同自豐左者自二椿下一嚢神ニ見渡。自レ其小岩ヲ蹈渡。小鹿嶽之北外。津留見嶽之閤ノ□。同山外ヲ立石ト申ヨリ見渡。大平之儘蹈 牛洗之地嶽共云。紺之地嶽共云。上ノ外レヲ自レ其見渡。赤岩之藥師之上。原牛分通路渡。赤水之迫ノ儘。高澤水赤イトヲヨリ見渡。自石堺申酉ノ外レヲ。赤葛ト申ヨリ蹈渡。板之平ノ谷分見渡。堀切ト申ヨリ河平ノ河分見テ。瀨中ノ尾ヨリ見渡。喉ト申石ヨリ見渡。餘山ノコトク蹈渡鞍峠ヲ見渡。鷹鼻及也。是者又北ニ指處也。柳カ尾ト申也。彼所ニ者柳ノ炭ヲ置タル故也。自其以來者眞盛トモ申也。自此左者。四郎塚ト申ヨリ見渡。人見カ嶽ヨリ見渡。平石カ峠ヨリ蹈渡。傍爾力小野ノ儘見渡。ジル谷平堂ト申山ノ平ニ上テ。半分通ニ見渡。枕飯處ノ東ノ外レヲ蹈。道者石ノ尾辻ノ儘。イマクエノ赤ハテ木

之松ヲ境ニ指。カタニタノ道ノ儘見渡。三州ヲ通。端山ノコトクシテノ廻（迫歟）リヨリ。大道ノ尾ノ雨塘及也。是ハ又西ニ指境ナリ。諭田藪ト申也。自是左者野稲ノ河分也。夫ヲ見渡立石ヲ境ニ指□石ト中石在。自北蹈下テハ道ヲ境ニ蹈也。自此花合野ニ借水ト申モ道及也。自其中津□ノ上ニ糞神在。此ヲ境ニ指テ見　田伏　層ノ水口山ノ面立也。北ハ南ニ指境也。蒲カ題ト申也。自是右ハ堀切ノ上ノ大道ヲ境テ大藤ヲ見渡ヲタナシ山ヨリ河分ニ水ノ枝河ヲ下テヨシトノ川アリ。ムクロウジカ木ノモトヨリ見渡。烏帽子カ城ノ腰ノ儘蹈渡。自其鞍木ノ陳ノ尾ノ儘タノ迫ヲ見渡。大平ノ原ヲ通。窪カ峠ノコトク蹈通。小塚ノ尾ハ子ヲ戸ノ下ニヲリテ。自是蘆ノ迫ノ谷分ニ見渡。自其シテ燒原ノ谷分落合及也。

文治三年丁未三月十五日

仍ニ此境ニ出合見人數之事

先以東畑山ノ口三郎衞門
同蘆迫太郎左衞門
河原四郎次郎
木嶋次郎衞門
寺藪左衞門太郎
津留見駿河
天間太郎左衞門
布苅太郎
萱籠新左衞門
塚原新五
寒水次郎
小平源太郎
岩原次郎左衞門

右田　親家　在判
親增　在判

下北平　源二郎
花合野　神左衞門
扇山八郎
內山　太郎左衞門
小平戸上　新太郎
小袋次郎四郎
武宮ノ本ノマヽ　平澤水
同　官田佐藤次郎
池本ノマヽ　水地原　新左衞門

松小野兵部　同奥畑神左衛門
荒木原四郎次郎　伊福田三郎
井手脇太郎左衛門　妙品源右衛門
烏帽子四郎次郎　山崎西太郎二郎
野屋近次郎　八川上馬場
野稻　九郎　並柳四郎
瀧上四郎次郎　尾留ノ内（二字本ノマヽ）薙尾孫三郎
堀田三郎
以上
右四方指之事爲後日覺一筆如件

（圖書寮本奥云）
右墨付三枚 豐後國 油布院之內 大境 四方指圖。文治三年三月所記之文書也。以近藤守重主之珍藏本課男信近令書寫比校了。
文政二己卯年三月朔旦　伴信友

雜部百二十五

# 承和二年東寺領國判

下田所了勘申文面也。

如件

副□□（ムシ損）民部省合員幷相傳圖文狀

四至八常荒地八十三町餘。川成地卅五町。

公田妨返領。

□□町餘。川成立浪人。私治田隱作二十四町五段餘。熟田卅七町餘。例領熟田□九町五段餘步。施入田地陸拾陸町。相傳田貳拾壹□□段佰肆拾步。例領百八十伍町玖段佰捌拾步之外□在飯野多氣兩郡。

拾壹條。位山下里。壹墍俣田肆段參佰步。公貳佰捌拾步也。荒寺田肆段貳拾步。貳坪捌段佰參拾貳步。「公也川成伍段布勢親王治東寺」（朱）圖合

拾貳墍俣田壹段拾柒步。東大寺田。（朱）圖合

拾參墍俣田陸段。治同東大寺田。（朱）圖合

拾肆墍俣田玖段。治布勢內親王東大寺田。

拾伍墍俣田壹町壹段。公二百六十一段百步東寺。（朱）圖合

貳拾貳捌段。公二段六十七荒五段百十東寺。

貳拾參船守田壹段佰捌拾步。治東寺田。（朱）圖合

貳拾肆船守田伍段佰伍拾步。東寺田。（朱）圖合

貳拾伍貳段貳佰陸拾玖步。內親王家東寺田。(朱)圖合
貳拾陸壹段佰陸拾步。內親王東寺田。(朱)圖合
貳拾柒船守田參段□拾步。三段百步東寺。坂本親王治三百步。
參拾肆川原田柒段。公四段二百步已荒二段六步東寺(朱)圖合
參拾伍川原田貳段佰步。公一段百七十步。一段七十步東寺(朱)圖合
參拾陸川(岸崩)峯田肆段柒拾步。公四段卌步。卌步東寺。(朱)圖合
陸井於里。壹坪壹町貳佰步。公三段百步。七段百廿步東寺。(朱)圖合
貳坪伍段貳佰拾肆步。公二段百廿步。三段九十四步東寺。(朱)圖合
參坪參段貳佰參拾步。三段十步東寺。二百廿步坂本親王。(朱)圖合
肆坪柒段柒拾步。公五段八十步。一段三百五十七步東寺。
玖坪壹段捌拾伍步。東寺。(朱)圖合
拾參(坪脫カ)段貳佰拾步。東寺。(朱)圖合
拾壹玖段百步。治二百八十步。八段二百步東寺。(朱)圖合
拾貳陸段貳佰步。東寺。
拾參坪壹町。東寺。(朱)圖合

拾肆坪壹町。東寺。(朱)圖合
拾五坪壹町參。公二段三百步。八段東寺。(朱)圖合
拾陸坪肆段捌拾肆步。東寺。(朱)圖合
拾柒坪陸段貳佰步。東寺。(朱)圖合
拾捌坪捌段佰貳拾步。公七段百廿。一段東寺。(朱)圖合
拾玖坪捌段肆拾步。一段五十步東寺。公六段二百五十步(朱)圖合
貳拾坪壹町。□段□東寺。(朱)圖合
貳拾(壹脫カ)坪壹町肆步。東寺。(朱)圖合
貳拾貳玖段參佰拾貳步。公百五十二步。九段六十步東寺。(朱)圖合
貳拾三坪捌段。公二段三百廿六步。五段百四步東寺。(朱)圖合
貳拾肆坪壹町。東寺。(朱)圖合
貳拾伍坪壹町。東寺。(朱)圖合
貳拾陸坪壹町。東寺。(朱)圖合
貳拾柒坪玖段陸拾□。東寺。(朱)圖合
貳拾捌坪壹□。東寺。

貳拾玖坪捌段貳佰參拾步。公六段二百卌。二段東寺。〔朱〕圖合
參拾坪壹町伍拾步。公一段七十步。八段八十步東寺。〔朱〕圖合
參拾參坪陸段貳佰步。公二段。四段二百步東寺。〔朱〕圖合
參拾肆坪肆段佰步。東寺。
參拾伍坪貳段佰□拾參步。東寺。〔朱〕圖合
參拾陸坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
柒井於里。壹坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳坪伍段捌拾步。東寺。〔朱〕圖合
拾壹坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
拾貳坪壹町。東寺。
拾貳條
陸中村里。拾蛭田陸□佰貳拾步。公五段百廿。一段東寺。
〔朱〕圖一町。百五反百十步。一反東寺三段二百步大安寺。
拾壹坪肆段貳佰。公貳百步四段東。
〔朱〕圖一町。公二十步四段東寺。五段百六十步大安寺。

拾貳坪參段佰步。東寺。〔朱〕圖合
拾參坪陸段佰參拾步。東寺。
拾肆坪伍段。東寺。
拾五坪玖段佰步。公二段百步。八段東寺。
貳拾壹坪捌段貳佰步。二段二百步。東寺治六段。
貳拾貳坪參段。東寺。〔朱〕圖五町。三反東寺。七反口寺。
貳拾參坪玖段參□拾步。東寺。〔朱〕圖合
貳拾肆坪捌段佰步。東寺。〔朱〕圖合
貳拾伍坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾陸坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾柒坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾捌坪玖段。東寺。〔朱〕圖合
參拾參坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
參拾肆坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
參拾五坪壹町。東寺。〔朱〕圖合

參拾陸坪壹町。東寺。(朱)圖合
柒伊世羽里。壹坪捌段佰步。東寺。(朱)圖合
貳坪玖段參佰步。東寺。(朱)圖合
參坪玖〔段〕參佰步。東寺。(朱)圖合
肆坪捌段佰步。東寺。(朱)圖合
伍坪肆段佰步。東寺。(朱)圖□町。
陸坪貳段拾步。治一段三百廿。百五十步東寺。
柒坪陸段。東寺。
捌坪壹町。東寺九段百六十步。治二百步。(朱)圖合
玖坪陸段肆拾貳步。公一段六步。五段二百九十六步東寺。(朱)圖合
拾坪伍段佰參拾□步。公一段百九十步。三段二百步東寺。(朱)圖合
拾壹坪伍段參拾步。公一段。四段百卅東寺。(朱)圖合
拾貳坪柒段。公百六十步。六段二百步東寺。
拾參坪壹町壹段肆拾步。公六段二百四步。(朱)圖合
拾肆坪壹町。八段二百八十步。荒〔東寺押紙也。〕段八十步東寺。

拾伍坪壹町貳段玖拾步。公九段。三段九十步東寺。(朱)圖合
拾陸坪柒段伍拾□□(ムシ損)。東寺。(朱)圖合
拾柒坪陸段參佰貳拾陸步。東寺。
拾捌坪貳佰柒拾參步。勘益二百六十七步。定三段百八十步東寺。
拾玖坪貳段參佰參拾捌步。公二段。三百卅八步東寺(朱)圖合
貳拾坪玖段貳佰參拾陸步。公三段二百步。六段卅一步東寺。(朱)圖合
貳拾壹坪壹町。公一段。九段東寺。(朱)圖合
貳拾貳坪玖段參□步。公三段。六段三百步東寺。(朱)圖合
貳拾參坪玖段捌拾步。東寺。(朱)圖合
貳拾肆坪肆段貳百貳拾玖步。東寺。(朱)圖合
貳拾伍坪壹町。東寺。
貳拾陸坪捌段玖拾步。東寺。
貳拾柒坪捌段玖拾步。東寺。(朱)圖合
貳拾捌坪壹町。東寺。(朱)圖合
貳拾玖坪壹町。公二百步。九段六十步東寺。(朱)圖合

參拾坪玖段佰步。公三段。六段百步東寺。〔朱〕圖合
參拾壹坪捌段拾步。公五段。二段八十步東寺。〔朱〕圖合
參拾貳坪肆段貳佰肆拾步。勘益三段三百廿四步。定八段二百八十步東寺。〔朱〕圖合
參拾參坪肆段貳佰肆拾肆步。勘益百八十步。定五段七十二步東寺
參拾肆坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
參拾伍坪玖段。東寺。
參拾陸坪肆段參佰步。東寺。
捌野田里。貳坪肆段佰步。東寺。〔朱〕圖合之、、、勢田親王ヽ弘仁三年。
參坪玖段貳佰步。東寺。〔朱〕圖合
肆坪壹町。東寺。
伍坪佰拾陸步。東寺。〔朱〕圖一町
陸坪參段拾捌步。東寺。〔朱〕圖一町七反東寺。
柒坪壹町。東寺。
捌坪壹町。東寺。〔朱〕圖合

玖坪玖段。東寺。〔朱〕圖合
拾坪肆段佰步。東寺。〔朱〕圖一町。「東寺四反百步。大安寺□□二百廿」
拾柒坪壹町。東寺。
拾捌坪壹町。東寺。
拾玖坪壹町。東寺。
貳拾坪壹町。東寺。
貳拾壹坪貳段。東寺。〔朱〕圖合
貳拾貳坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾捌坪貳段。東寺。〔朱〕圖合
貳拾玖坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
參拾坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
參拾壹坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
參拾貳坪陸段貳佰步。東寺。〔朱〕圖合
參拾參坪陸段貳佰步。東寺。〔朱〕圖合
九野田里。〔朱〕弘仁三年十一月七日奉勅施入東寺。

肆坪陸段參佰歩。東寺。〔朱〕圖合

伍坪壹町。東寺。〔朱〕圖合

陸坪壹町。東寺。〔朱〕圖合

柒坪柒段。東寺。〔朱〕圖合

捌坪肆段。東寺。〔朱〕圖合

拾參條。〔朱〕之贈□□内親王〻｜六坪成川原七町仍不注載。

伍川原里。柒坪伍段貳歩。公三段二百歩。二段東寺。〔朱〕圖合

拾參坪玖段貳佰歩。治田六段二百歩。東寺寺田三段。〔朱〕圖一町。

拾肆坪伍段貳佰歩。東寺。〔朱〕圖一町。

拾柒坪貳段。東寺。〔朱〕圖一町。「一反東寺。五反大安寺」

拾捌坪捌段。東寺。〔朱〕圖一町。「八反東寺。二反大安寺」

拾玖坪捌段貳佰。東寺。〔朱〕圖

貳拾坪陸段佰歩。東寺。〔朱〕圖一町。「六反百歩東寺。三反二百六十歩大安寺」

貳拾壹坪陸段。東寺。

貳拾貳坪捌段貳拾歩。東寺。〔朱〕圖一町。

貳拾參坪捌段佰歩。東寺。〔朱〕圖一町。「一反百歩東寺。一反二百歩｜｜寺」

貳拾肆坪壹町。東寺。〔朱〕圖合

貳拾伍坪玖段參□歩。東寺。〔朱〕圖合

貳拾陸坪柒段伍拾歩。東寺。〔朱〕圖合

貳拾柒坪捌段貳拾歩。東寺。〔朱〕圖合

貳拾捌坪壹町。東寺。

貳拾玖坪捌段伍拾歩。東寺。〔朱〕圖一丁。

參拾坪壹町。東寺。〔朱〕圖合

參拾壹坪捌段貳□貳拾歩。東寺。〔朱〕圖一丁。「六反二百廿歩東寺□百六十歩大安寺」

參拾貳坪壹町。東寺。〔朱〕圖合

參拾參坪玖段參佰歩。東寺。〔朱〕圖合

參拾肆坪玖段參佰歩。東寺。〔朱〕圖合

參拾伍坪柒段貳佰歩。東寺。〔朱〕圖一丁。「七反二百歩東寺。一反百｜｜」

參拾陸坪參段貳佰歩。東寺。〔朱〕圖一丁。「三反二百歩東寺。五反百六十

步」

陸大國里。壹坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳坪玖段佰步。東寺。
參坪柒段佰步。東寺。〔朱〕圖合
肆坪捌段貳佰伍拾步。東寺。〔朱〕圖合
伍坪捌段參佰步。東寺。〔朱〕圖合
陸坪玖段貳佰步。東寺。〔朱〕圖合
柒坪柒段陸拾步。公二段二百廿步。四段二百步東寺。〔朱〕圖合
捌坪肆段貳佰步。東寺。〔朱〕圖合
玖坪肆段參佰步。東寺。〔朱〕圖合
拾坪玖段拾步。東寺。〔朱〕圖合
拾壹坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
拾貳坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
拾參坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
拾肆坪玖段貳佰拾捌步。東寺。〔朱〕圖合

拾伍坪肆段貳佰伍拾步。公三段百步。一段百五十步東寺。〔朱〕圖合
拾陸坪壹段玖拾[ ]步。公二百步。百五十一步東寺。〔朱〕圖合
拾柒坪貳段參佰拾步。東寺。〔朱〕圖合
拾捌坪肆段參佰參拾步。公三段。一段三百卅步東寺。〔朱〕圖合
拾玖坪捌段貳步。東寺。
貳拾坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾壹坪伍段。一段東寺。公三段荒。〔朱〕圖合
貳拾貳坪壹町。〔朱〕圖合
貳拾參坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾肆坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾伍坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾陸坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾柒坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾捌坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾玖坪壹町。東寺。〔朱〕圖合

參拾坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
參拾壹坪肆段伍拾步。東寺。〔朱〕圖合
參拾貳坪參段貳佰步。東寺。〔朱〕圖合
參拾參坪陸段佰步。東寺。〔朱〕圖合
參拾肆坪陸段。東寺。〔朱〕圖合
參拾伍坪陸段。東寺。〔朱〕圖合
參拾陸坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
柒大國。
貳坪壹段。東寺。〔朱〕圖一丁。「九反寺。一反東寺」
參坪肆段。東寺。〔朱〕圖合
拾肆條。伍井於里。
參坪肆段貳百肆拾步。公二段二百卅步。二段東寺。〔朱〕圖合
陸坪柒段貳佰步定段。七段公。一段二百步東寺。〔朱〕圖合
柒坪玖段佰陸拾步。東寺。
捌坪捌段貳佰捌拾步。公四段百步。四段百八十步東寺。

拾參坪壹町。東寺。
拾陸坪捌段貳佰捌拾步。公三段二百五十步。五段十步東寺。〔朱〕圖合
拾柒坪捌段佰肆拾步。公二段卌步。六段百步東寺。〔朱〕圖合
拾捌坪壹町。治五段。五段東寺。
貳拾坪壹町。東寺。
貳拾壹坪壹町。東寺。
貳拾貳坪伍段。公四段。一段東寺。
貳拾參坪玖段貳佰步。公四段二百步。五段東寺。〔朱〕圖合
貳拾肆坪參段佰伍拾步。〔朱〕圖一丁。「一反—步東寺一反—寺」
貳拾伍坪壹町。東寺。
貳拾陸坪肆段。東寺。〔朱〕圖合「四反東寺。六反寺」
參拾坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
參拾壹坪參段拾步。公二段十步。一段東寺。〔朱〕圖一丁「公六反十步□反—」
參拾貳坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
參拾□坪壹町。東寺。〔朱〕圖合

參拾伍坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
參拾陸坪柒段。東寺。〔朱〕圖合「七反。二反—」
陸井於里。壹坪伍段。東寺。〔朱〕圖一丁。
貳坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
參坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
肆坪柒段。東寺。〔朱〕圖合
伍坪貳段。東寺。〔朱〕圖合
柒坪貳段。東寺。〔朱〕圖一丁。「二反東寺。八反寺」
捌坪玖段。東寺。〔朱〕圖合
玖坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
拾坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
拾壹坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
拾貳坪陸段。東寺。〔朱〕圖一丁。
拾參坪肆段貳佰步。東寺。〔朱〕圖一丁。「四反二百步東寺。五反百□□步寺」
拾肆坪柒段參佰步。東寺。〔朱〕圖一丁。「七反三百步東寺。一反六十步寺」

拾伍坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
拾陸坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
拾柒坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
拾捌坪肆段佰步。東寺。〔朱〕圖一丁。「四反百—東寺。二反二百——步寺」
拾玖坪肆段佰步。東寺。〔朱〕圖一丁。「四反百步東寺二反二百—步寺」
貳拾坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾壹坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾貳坪肆段。東寺。〔朱〕圖一丁。「一反—。六反—」
貳拾柒坪伍段。東寺。〔朱〕圖一丁。「五反東寺。五反寺」
貳拾捌坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
貳拾玖坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
參拾坪肆段貳佰步。東寺。
參拾壹坪伍段佰步。東寺。〔朱〕圖一丁。「五反百步東寺。四反二百—寺」
參拾貳坪壹町。東寺。〔朱〕圖合
參拾參坪壹町。東寺。〔朱〕圖合

參拾肆坪參段參□步。東寺。（朱）圖一丁。東寺。「二反三百步 ──」

四條。高橋里。

拾參坪壹町。以東寺領大國庄內相交日相傳之施入東寺庄田。（朱）圖合

肆坪柒段參佰肆拾步。入東寺庄。（朱）圖合

拾柒坪壹町。入東寺庄。（朱）圖合

伍垣邊里。陸坪壹町。東寺庄。（朱）圖合

拾伍條肆鎌田里。貳拾柒坪參佰參拾步。入東寺庄。（朱）圖合

伐扠處墾田拾捌坪柒段參佰參拾步。入東寺庄。（朱）圖合

拾參條。一川原里。拾參坪拾肆坪壹町。東寺。（朱）圖合　一十

十二十三
、、

拾伍拾陸坪壹町。東寺。（朱）圖合

貳拾伍貳拾陸兩坪壹町。東寺。（朱）圖合以上。守丹墀眞人。（花押）

二兄國里。

貳坪貳段。東寺。（朱）圖一丁。「一反一八反一」

參坪壹町。東寺。（朱）圖合

肆坪壹町。東寺。（朱）圖合

拾坪壹町。東寺。（朱）圖合

拾伍坪肆段。東寺。（朱）圖合

貳拾貳坪陸段。東寺。（朱）圖合

貳拾肆坪參段。東寺。（朱）圖合

貳拾陸坪肆段。東寺。（朱）圖合

貳拾柒坪壹段。東寺。（朱）圖一丁。「一反一九反一」

參拾參坪參段。東寺。（朱）圖合

參拾肆坪伍段。東寺。（朱）圖合

參拾伍坪伍段。東寺。（朱）圖合

三大分里。參坪壹町。東寺。

肆坪貳段。東寺。（朱）圖一丁。「一反一」

拾坪壹町。東寺。（朱）圖合

拾壹坪伍段。東寺。（朱）圖一丁。「、反一」

拾貳坪伍段。東寺。（朱）圖合

四川田里。捌玖兩坪貳段。東寺。
玖拾兩坪參段。東寺。〔朱〕圖合
拾參坪貳段。東寺。〔朱〕圖合
拾肆坪貳段。東寺。〔朱〕圖合
貳拾捌玖參拾貳、肆箇坪陸段。東寺。〔朱〕圖合
拾伍條。參岡前里。
拾參坪壹町。東寺。施入田。
拾肆坪伍段。定一町三段。公二段社。東寺五段。
貳拾貳坪壹町。入東寺庄田。
貳拾參坪壹町。入東寺庄田。〔朱〕圖合
貳拾肆坪壹町。入東寺庄。〔朱〕圖合
貳拾伍坪壹町。入東寺相傳庄田。〔朱〕圖合
貳幡里。貳拾壹坪壹段。入東寺相傳庄田。
拾陸條。玖□前里。
拾參坪壹町。入東寺相傳庄田。

拾玖坪陸段。入東寺相傳庄田。
同條。一井內里。
參拾坪壹町。入東寺庄田相傳之。
拾參坪壹町。入東寺相傳之。〔朱〕圖合
參疋田里。
肆坪壹町。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
參拾肆坪壹町。入東寺田相傳之。〔朱〕圖合
肆疋田里。
肆坪壹町。入東寺田相傳之。
貳拾柒坪壹町。入東寺庄田相傳之。
參拾肆坪壹町。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
伍相可里。
拾坪壹町。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
拾壹坪壹町。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
拾柒條。貳判田里。

拾捌坪壹町。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
參拾陸坪貳段。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
參拾壹坪壹町。入東寺庄田相傳。〔朱〕圖合
肆條。壹速田里。
壹坪捌段。入東寺田相傳之。
貳坪柒段佰捌拾步。入東寺庄田相傳之。
參坪貳佰捌拾步。入東寺庄田相傳。〔朱〕圖合
同條。西里外。
貳拾伍坪貳段。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
貳拾陸坪伍段。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
參拾伍坪壹町。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
參拾陸坪陸段。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
伍條。壹川原里。
伍坪參段。入東寺相傳之。〔朱〕圖合
陸坪陸段貳佰步。入東寺田相傳之。〔朱〕圖合

同條。西里外。
參拾坪貳段。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
陸條貳贄田里。
拾貳坪貳佰步。入東寺田相傳。〔朱〕圖合
玖坪參段參佰貳拾步。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
陸山田里。
參坪壹町。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
拾坪壹町。入東寺田傳相之。〔朱〕圖合
捌條。拾山里（マヽ）田。
參坪壹町。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
拾貳坪貳段。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
貳拾坪貳段參佰伍拾步。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
貳拾肆坪陸段陸拾步。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
貳拾陸坪柒段。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
貳拾柒坪肆段參佰步。入東寺田相傳之。〔朱〕圖合

貳拾捌坪參段貳佰步。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
貳拾玖坪壹段參佰步。入東寺庄田相傳之。〔朱〕圖合
參拾坪壹段。入東寺田。
參拾參坪肆段貳佰步。入東寺田。〔朱〕圖合
貳池上里。
肆坪肆段陸拾步。入東寺庄田。〔朱〕圖合
伍坪貳段參佰步。入東寺田。〔朱〕圖合
玖條。壹山田里。
拾捌坪柒段。入東寺庄田。〔朱〕圖合
拾玖坪參段。入東寺田。〔朱〕圖合
拾貳條貳川田里
拾貳坪參段佰□。東寺田相傳之。〔朱〕圖合
拾參坪參段。入東寺田相傳之。〔朱〕圖合
拾肆坪壹町。入東寺田相傳之。〔朱〕圖合
拾伍坪壹段參佰步。入東寺田相傳之。〔朱〕圖合
貳拾參坪壹町□。東寺田相傳之。〔朱〕圖合
貳拾肆坪肆段佰捌拾步。入東寺田相傳之。〔朱〕圖合
貳拾伍坪壹段參佰步。入東寺田相傳之。〔朱〕圖合
貳拾陸坪參段佰陸拾步。入東寺田相傳之。〔朱〕圖合
參拾陸坪壹段佰步。入東寺田相傳之。〔朱〕圖合

右被太政官今月九日符偁從二位大納言兼皇太子傅藤原朝臣宣奉勅以件東寺田處處鄉算散在貳拾壹町貳段佰肆拾步大國庄田壹佰捌拾伍町玖段佰捌拾步坪坪之內相交公田相傳同賜東寺庄家宜承知依宣行國宜承知依件符到奉行

承和二年四月十五日

少輔從五位下□□□正六位上行少錄出雲宿禰祜副

判

件東寺田任民部省符幷在國文面勘狀元　領掌於彼寺之□□□

守從五位上丹□眞人法□

右田文東寺觀智院所藏也文政二年丁卯五月寫之

撿挍保己一

以內閣文庫本謄寫校合畢

〔本書有印影二百箇今略之〕

# 續群書類從卷第九百七十六

雜部百二十六

## 遠江國御神領記

永起請進所領遠江國鎌田御厨內艮角新開在家田畠等事

合半分者

右當御厨事去建久年中殊經沙汰。就記錄所勘奏之狀。任治承宣旨停止國妨。可爲神領之由。正治元年雖被下　宣旨。□宣國司寄事於左右無施行之間送年月之處。依注進神宮大訴之內可停止國妨之旨。建保二年被　宣下□。雖然給主等未申達於國司。仍爲外宮權禰宜度會神主彥仲沙汰。任度度　綸言。依代々國司施行、中成國司免判幷關東將軍家御下文□□□神領給主等令知行者。各得分之內半分能惡平均可分□也。但於有限神役者。付得分依傍例無懈怠。可有同□沙汰□□可及違亂。凡云當時知行之族。云將來相承之輩。相互守此狀莫令違背。起請二通之內。一通者加判可返給之。一通者可被留之。仍爲備兩方後代之證據也。若沙汰不成熟者□□詳恨之狀如件。

天福元年十月十日　僧□□

僧□□

定　永財沽渡治田新立劵文事
合壹枚者（但貳段内付東）
在高柳御薗内
四至本劵面具也
直錢壹貫捌百文請納了
右件治田者傳々知行无他妨。而今依有直急用。限上件直物相副次第手繼文等。定永財所沽渡于大中臣惟貞也。仍爲後代新立劵文以辭。
文永二年六月廿七日　領主大中臣惟道
故前五殿御處分案
分行　小財物等事
合
自余分略之。
嫡男禰宜益房神主給物
一通御薗鹽濱内先人御來分□□□□□
鹽濱在家壹宇
自余略之。
右狀同略之。

建治三年丁丑六月三日　豐受太神宮前禰宜正四位上度會神主（在御判）
故四殿御處分狀案文
永處分小財物等事
一嫡子希房神主分
參河國伊良胡御厨。自親母御手處分給所之濱津田畠在家荒野等。但於田畠者隨便宜他方へも遣事有歟。可存此旨給可□物之中。有遺漏之物者件者なりとも。嫡子希房神主可令致進退知行也。
自余略之。
正應五年五月五日　外宮禰宜正四位上度會神主益房（在判）
佐伯立與子處分充給小財物田畠等事
合
一戸田壹段半　新家忠貞戸授給内宇寺窪者。但外大内人兼永請戸内也。
一治田貳杖□。在上粟田字小粟田内上乃世町之内。付南方破定者。

一畠地佰貳拾歩。在上宇羽西□□□大□□□
□□但蓮福寺領。
一畠地壹杖。同村字大多良畠者。
一畠地貳佰歩。在上宇羽西村字上野畠者。
右件田畠者□□佐伯立與子所處分充給也。任
此旨無相違□□□退狀如件。仍爲後代處分永
以辭。

年三月十二日　親父權宮掌佐伯近重判
親母度會氏子判
□□袈裟子判

嘉曆元年十月
妙樂寺別當代朝眞與僧惠觀訴論松木住坊敷地
以下等事。訴陳及再往理非究淵源。令裁許惠觀
之處。圓然背度々下知不止押住云々。仍使等之
散狀如此。所詮早止押住之儀。可令致沙汰給之
狀如件。
嘉曆元
十月廿八日　神祇權大副御判
外一御館

神宮使散狀
使等
言上妙樂寺別當代朝眞與僧惠觀訴論松木
住坊敷地以下等間事
副進
一通　惠觀重申狀
右去十月廿八日總官御書俑。妙樂寺別當代朝
眞與僧惠觀訴論松木住坊敷地以下等事。訴陳
及再往理非究淵源。令裁許惠觀之處。圓然背度
度下知不止押住云々。仍使等之散狀如此。所詮
早止押住之儀。可令致沙汰給之者。神宮廳宜俑
取詮總宮仰下之旨如此。子細見狀也。早任其旨
可令止押住之儀。者隨郎任其旨致告知沙汰之
處。圓然答申云。本訴事質劵之間於奉行所。已
下承伏令容隱其狀之間。難致沙汰者也。□□田
(宅カ)宄□永領法之上者。惠觀難進退隨而妙樂寺一
分別當職契狀□□□。圓然之上者不帶寺務。正
曆幷文永施入本坊敷地等無質劵狀□就何儀非

可申競望者也。中□□□之間 惠觀重所捧申狀也。仍爲上裁相副注進言上如件。以解。

嘉曆元年十二月廿日　權禰宜度會神主貞李
權禰宜度會神主家國

永　奉寄進畠地事

合

畠地壹段。字箕曲鄉小坂福王子賣地。延慶二年十二月九日。吹上寺江且爲羅漢供。且爲法界衆生也。於所當者每年參百文寺家江可上之。同貞彥神主命。以後者下地共可渡進也。

延元五年庚辰五月四日
權禰宜副御鹽燒度會神主藤重在判

伴良志等解申請畠地事

合□段者

在繼橋鄉阿多氣村

右件畠地□全□ 相傳所領居住也。而定永財船江太郎太夫殿 所沽渡進也。而依有便宜所申請也。爲作人所當雜公事等。無懈怠□□可辨進。若雖一事有對 捍之時者。愷作手可召上之狀如件。仍爲後代請文。以解。

文治三年十月三日　伴良志
女子伴孫犬
夫橘淸次

謹辭　定永財沽渡進畠地新立劵文事

合壹段者　所在字安竹畠地壹段者

四至 限東六良大內人地 限南大河 限西殘地 限北河

直八丈壹絹疋請納畢

右件畠地先所相傳私領也。雖而依直急用有。上件限直物 永沽渡進所實正明白也。只八丈絹一疋定永沽渡進所 掃守末光如件。仍爲後代沙汰新立劵文。以解。

承元四年庚午十二月廿五日

紀武末(花押)
貴母大原氏子(花押)
依雇筆 取僧(花押)

永奉相傳吹上光明寺領屋敷畠地事

合壹段四杖者

在所沼木郷小坂村之西北字八王子

四至限東路幷茶薗　限南他領之田
限西他領畠　限北他領之畠

右件畠地者。自度會神主範雄之手。令買得與吹上光明寺領櫟木村屋敷奉相傳所也。雨方相副於本證文上者。後日更不可有違變。改動之義。若又於彼畠地□ヶ年之內不慮之煩出來者。與寺領之屋敷可替返申者也。雖然於彼畠地不可有自餘之違亂煩。仍爲後日相傳之狀如件。

文安六年己巳卯月廿九日　相傳主櫟木住番匠屋逆次郎

服次吉

定　永財沽渡進畠地事

合一段者

在繼橋郷□□多氣村四至本劵面具也

直錢五貫文請取了

右件畠地□先祖相傳私領也。爰依有直急用定。彼直物限永財相副次第手繼文等。所沽渡進于僧淨慶實正也。雖至末代更以不可有煩。仍爲永代劵文如件。

寛元三年三月十日

壬生用安

堤長福大夫殿之□狀之案爲後杲也

永奉相傳田地之事

合壹段者

在所度會郡宮崎字牛村山北牛者雄町　相合壹段也

具四至堺本證文之面也

右件田地者買得知行無相違地也。雖然吹上光明寺領北堤之所在。畠參段仁以此田地壹段卸料足三貫文。相副□□證文等。永□相傳之所實正明白也。此上者雖爲子々孫々。於彼田地成□□輩出來者。訴時之公庭可被處罪科者也。仍爲後日替狀如件。

永享十一年〔己〕未二月廿八日　北堤長福大夫
替主權禰宜荒木田

謹辭　定永地沽渡治田立劵文事

合百捌拾步　在二見郷字濱浦者

四至本劵文面具也

直物米壹石柒斗請納了（花押）
右件治田。元者從度會行末之手。親父御巫內人
度會光永買得之。後恒光進退領掌間全無他妨。
爰依有急用。定上件直米手次文相副。所沽渡於
散位壬生用任也。仍爲後代立劵文。以辭。
承安五年四月十日　御炊內人度會（花押）

分行　少財物事
合
次男權禰宜康光神主分
一畠地
同□□□□日讓料僧二人可供養也
壹段繼橋鄕大河原村大道南專行房等沽地
右狀云々具也。
天福貳年五月七日　次男權禰宜從五位下度會神主在判
嫡男官符權禰宜正五位下度會神主在判
家女度會億壽子在判
豐受太神宮權禰宜從四位上度會神主在判
此壹段之內今付北百八十步禰劵也。取役一段也。半分。

定　永財沽渡空閑默地內畠地新立劵文事
合壹處內畠壹段者故光貞作付東方者
在度會郡湯田鄕下栗野村
四至本文書面具也
直捌文絹貳疋見米壹斛請納畢（花押）
右件畠地。從往古之時爲空閑默地。進退領掌之
間敢無他妨。而依有直物要用。限上件直所沽渡
於大春日氏澤如件。雖須相副本文書。依爲連劵
不能副渡。仍爲後代新立劵文。以辭。
承久元年十二月十七日
領主　僧（花押）

永寄進福貴上寺田畠等事
合六段餘茂仲沒收領幷常樂院別當職四分一下番供僧職一口分供料田畠等者
所在坪付鄕劵大具也
右件別當職幷下番供僧職及六段畠地等者。爲
犯人筑前五郎茂仲跡之沒收領。進退領掌之間
更無違亂之者也。而爲先考成佛直因慈母現生

安全。相副彼郷券案文等。(於正文者爲連署之間止之。)永所令寄
進福貴上寺也。且又於茂仲者沉梟惡逢蠢害之
間。寄此沒收之小地。爲資彼出離之覺路而已。
仍奉寄如件。
建武元年十二月廿七日
領主(花押)

謹辭定永財沽渡進治田立券文事
合貳段者
在繼橋里十二坪內字枌前
四至(限東大畔道　限西字佐田大畔　限南宮前寺領田　限北箕豐寺領田)
直八丈絹肆反請納了(花押)
右件田。元者正房先祖相傳私領也。然則無年來
進退領掌之間他妨者。依有直急用。限件直物所
於永沽渡進之官玉串大內人吉貞如件。雖可本
文書相副。依連券不渡。仍爲後代新立券。以辭。
久壽二年二月廿七日
領主外官官符權禰宜度會神主(花押)

(裏書)依忌判所不請進也
永　相傳渡進畠地立券文事
合佰捌拾步者
在繼橋郷字鳴津畠地壹段內付北方也(氏繼□□垣內也)
四至本券面具也
在替畠地箕曲郷內字河副佰捌拾步(但備後□□□)
右件畠地。元者故權禰宜大內人氏延之領□□
□。以治承四年十月十日處分。嫡男氏繼從彼氏
繼手。去養和元年十二月之比。限直物所傳領
也。隨領知之間敢無異論。爰有便宜□□□本
文書等所相傳渡進於僧慶範也。□□末代不可
有互相違。仍新立券文。以辭。
元暦二年五月廿二日
豐受太神宮權禰宜從五位上度會神主

定永財沽却渡畠地事
合貳杖余步者
在所粟野村桑原垣內者

四至 限東同道　限南常隆寺領
　　 限西大道　限北同地

直錢壹貫五百文請納畢

右件畠地者。從故親父之手處分給進退領掌之間敢无他妨。而今依有直物急用所。於中臣守支沽却渡也。雖須本文書等相副。依爲連劵不相副之。仍爲後代新立劵文。以辭。

仁治四年三月五日　領主度會犬子

相知嫡男山下金石丸

□□□□□□□地事

合□□□者

□□□鄕上宇羽西村字大井畠

四至本劵具也

右件畠地者。先祖相傳之私領也。然大中臣清眞號親父故成俊讓。擬令押領間。彼爲合(令カ)停止清眞結搆謀書。於沙汰料一處之內。付東之北字三郎先掌大郎作。於壹段者本領主氏子等可令領知。至殘者權禰宜度會神主滿種仁沙汰料永放劵之處也。沙汰成就之後。至將來止毛更不可有他妨之狀如件。仍爲後代放劵。以辭。

貞應三年九月廿五日　一女子新家氏子

二女子同氏子

廳宣　權禰宜基光神主

可早致沙汰法常住院領雜掌度會有長訴申。爲三重郡船橋住人乘光。以同郡所在平松神田二段。任意用々割取間。云神役。云寺役。令闕怠無謂由事。

副下　訴狀具書

右件事。如狀者彼乘光不憚嚴重神田任雅意用用割取。彼神田二段之內云々。太不可然。早且止割取自由且實撿地本可令注進之狀所宣如件。以宣。

永仁四年八月十八日

禰宜度會神主(花押)

禰宜――(花押)

禰宜度會神主（花押）
（花押）
（花押）
（花押）
（花押）
（花押）

永讓渡進鹽濱事
合壹段之內百八十步者
在度會郡繼橋鄉鹽濱副北半者
右件鹽濱者。自村主吉宗之手。讓得之後令（今カ）無相違然依有直物要用。直錢限千捌百文。永所讓渡於掃守光末實正明白也。但有限次第 讓狀等相副之處也。仍讓狀如件。
文永九年壬申二月十五日　度會久弘

合
笠延包處分渡少財田畠等事
一戶田壹段佰捌拾步者
在飯野郡四條四高橋里廿五坪 井手鄉加知買田
四至本券面具也相副本文書
自余不注之。
右件少財物等 雖不幾隨有所令處分也。各任分給之狀 無論可令進退哉□□。背此旨輩者可爲現世後生不敎子。不可充謂類身之□段步如件。
仍爲後代處分如件。
仁治三年十一月廿八日
親父笠眞包在判
男子笠延包
女子笠乙女
相知親母笠氏在判

永　沽却渡畠地事
合壹段者
所在二見鄉中松原御薗之內
四至 限東類地 限南堺 限西他領 限北堺
直錢七百文請取畢
右件畠地者。相傳知行之間敢無他妨。而今依有直物急用限上。件直錢相副本文書等 所沽却渡

秦氏子也。雖至末代更以不可有□□者也。仍爲後代新立劵文如件。

正應五年潤六月十七日　　掃守氏子

嫡子中臣龜益

粟中島之本劵也

定　永財沽却渡進畠地新立劵事

合壹段

所在粟中嶋内櫻御薗

四至境具本劵面也

直錢捌貫文請納畢

右件畠地者。自比丘尼正善御房御手合而後知行于令(今カ)無相違者也。爰依有要用限上。件直錢相副次第手繼證文等沽却渡進山田岩淵三日市庭大夫次郎殿處寔正明鏡也。但正善讓狀者。依爲連劵□□□□間。雖有德政地起加樣非常之煩出來全於此地不可有違變之儀。又□□□外不慮煩出來慥可返弁本直申者也。仍爲後代沽劵之狀如件。

文安五年十月晦日　　賣主長江紺屋六郎太郎(花押)

謹辭　定永財沽渡進畠地立劵文事

合壹段者

在二見郷内字大會禰北畠付地東壹段者

四至　限東太郎宮掌垣根　限南同地類
　　　限西同地類　限北大道

直錢壹貫百文請取畢

右件畠地。元者自大中臣氏子手限直物爲傳得之。後所爲進退領知。更無他妨。爰依有直急用。定上件直物。永所相副傳得文。沽渡進於伊勢字四郎如件。雖須可相副本文書等。依爲連劵不相副渡。仍爲後代新立劵文。以辭。

寛喜四年壬辰三月三日　　領主大中臣氏子

相知夫源末守

謹辭　定永財沽渡進治田立劵文事

合貳段百八十歩者

在度會郡沼木郷上山幡村宮道御薗内字瀧本者

四至本券面具也
直錢伍貫伍百文請納畢
右件治田者。從故親母之御手處分得領掌處。敢無他妨。而依有直急用。限件直物□□地所沽渡進於能登殿也。於手繼文者□□連券。相副案文新立券文。以辭。
安貞貳年正月廿日　僧俊玄
敬白
吹上寺奉施入畠地事
在度會郡箕曲鄉河邊村字泉屋敷壹段者
右施入之。元者爲先考閑阿先妣𨚫阿成佛得道。兼者。爲鏡長命子現當所願成就圓滿乃至法界平等據濟也。敬白。
元德貳年卯月六日　鏡長命子敬白(花押)
□□□定永地沽渡畠地事
合壹段者
在箕曲鄉下船饗村字三角畠
四至限東大道　限南中垣
限西外宮大內人正元之領地　限北殘地破目
直八丈絹貳疋請取畢(花押)
右件畠地。依便宜故親父與故親弘神主相傳末貞居住。而爲親父御處分之內領知之間敢無他妨。爰依有直要用。相副本文書等。所沽渡於太神宮權神主忠遠也。爲後代新券文如件。
永曆貳年二月廿二日　佐伯氏命子(花押)
件畠地沽渡事實正明白也。者任次第文書等破定。加證署在地刀禰之。
豐受太神宮權禰宜正六位上度會(花押)
□□□□沽渡進戶田立券文事
合壹段者
在繼橋鄉神主廣隣戶授給田內
鳴津里卅六坪三段二佰
直八丈絹貳疋米本斗貳斛請納
右件戶勞職先祖相傳私領也。代々承繼領掌之間敢无他妨。爰依有直急用。定永財所沽渡於僧

隆賀也。但件戶外宮大內人度會國房請見不輸
□勞也。仍彼職內壹段所當勞料相具。永所放劵
如件。仍爲後代新立劵文。以辭。
永萬貳年四月廿日　權禰宜度會神主(花押)
件戶劵文明鏡也。仍在地加證署如件。
總刀禰
豐受太神宮官符權禰宜正五位下度會神主(花押)

處分任職案
注　所領二宮職幷司中職等目錄事
合
一外宮職分
官符權禰宜彥國神主職。本季俊所帶依不仕改補在次第任符等。件職。
伊蘇前司公宗入道放劵。在次第任符。長寬三年五月十五日劵。
自餘不書之。
右件職等目錄如件。
建久參年十一月十三日　權禰宜度會神主在判

定　永作沽渡進名田畠新立劵文事
合壹段者
在度會郡湯田鄕字羽西村內極樂寺西畏(マヽ)町。
本一段次也。
四至本劵面具也。
直錢貳貫九百文請納事
右件名田畠者。次去永仁元年十月廿五日自菅
原兒子等手買得後。進退領掌之間敢無他妨。而
令(今カ)依直急用。限上件直物。永所沽渡進于日置氏
子。如件。相副次第手繼證文等。等有限萬□事
者。任先例無懈怠可勤仕者也。仍爲後代新立劵
文。以辭。
永仁六年十二月廿三日　名主菅原氏子
相知夫伊勢貞(畧押)

處分目錄
合
一彥行神主分
外宮符權禰宜彥國神主所帶任職。壹畑內。大段一文
分法之□可知行也。

一箕曲郷尾野德治戸田二段□□□□
自余不書之。
右且目錄大略如此。
寛喜三年辛卯十月廿七日　權禰宜度會
□男龜王丸分
治田壹段。字田中垣內。畠壹段。字浦之前付東。
四間二面屋一宇。但北屋。從者壹人。字松女。
□略所處分也。未分物也。副戸田半。外於井原付南方
也。
文永三年九月五日　坂合部末氏在判
□□此故父總目錄許注量天末書□間。於嫡子
後家之爲沙汰。如判所書渡也。仍爲後代狀如
件。
文永十年十二月廿八日　後家清原氏子
嫡子坂合部末行
□永財沽渡進畠地新立劵文事
合壹段者
在度會郡湯田郷下粟野村內字浦之前付東
四至本劵面具也
直參貫五百文請納了
右件畠地者。以去文永三年九月五日自故親父
□□賜處分之後。進退領知之處。敢無他妨。爰
依有直急用。定永財相副次第手繼文等。沽渡於
飯高氏子也。仍爲後代新立劵文。以辭。
建治元年五月廿九日　領主坂合部末村
□分田畠所從等事
合
一女子分田畠
小表生壹町參段。居住畠伍段。故藤禮次郎冠者
居住畠貳段。
自余略之。
右狀略之。
寶治二年十一月十四日
領主沙彌在判　嫡子神祇權大祐大中臣朝臣在判

家女大中臣氏子（このまゝにあるへし）
田知新大夫殿放券狀安東郡横枕三月二日神田一段事
定永財放劵渡神田事
合壹段者壹斗代此外汗段別壹升米使料也
在安東郡所在三月三日神田之内字横枕者（作人河道住人左近□□所由）
直錢五百請納畢（花押）
右件神田者故庭春神主代々相傳之地也。而彼神主無一子之上。當神田爲末分遺漏財之間。任後家之契狀。兼永之亡父兼元神主爲庭春之養嫡子。年來進退領掌之處。敢無他妨。爰亡父又末分他界之間。愚官爲家嫡。多年領知之處。今依有要用。限上件直錢。所放劵渡于權禰宜玉串大内人度會神主基光也。雖須相副前々手繼證文。未撰出之。追可撰渡也。於式日神役者。淸酒壹瓶子可被勤之也。兼又後日若不意之煩出來者。可致同心沙汰也。其上猶及違亂者。可返渡進本直也。仍且副亡父之記錄。放劵之狀如件。

永仁四年二月廿三日　權禰宜度會神主（花押）

納　任料勘合料事
合貳佰伍拾捌文者
右外宮權禰宜玉串大内人淸光請戸之内得治戸一段劵主之御代官國元弁所納如件
正安三年三月廿一日　光倫（花押）

ながくうりわたしまいらするはたけの事
合いたん（さい所ませのやしろのまへ）
右件はたけは。ゐいにん四ねん三月廿三日□□□のうちの子らかてより。はいとくさうてんのあいた。ねんらいちきやう。たのさまたけなし。しかるに。あたひよう〳〵あるによりて。ほんもんそうをあいそへ。八貫六百もんにかきりて。わたらひのうちに。なかくうりわたしまいらするところ也。もしこの事に。わつらいいてきたらは。□□□（ほんちか）くをかへしまいらすへきなり。よて後代のために。うりけんの狀如

件。
元徳二年廿一日　はたのさたやす（花押）
處分
戸田壹段佰捌拾歩
在飯野郡四條四高橋里廿五坪井手郷□知國□□
右各任處分之狀。無相違可進退領掌也。全可渡
□□處。縱有要用之時者。相觸互可隨其命也。
背此旨。又將來致異論之輩出來者。言上時公不
可充段步者也。仍所起請如件。
建仁三年十二月十三日
親父大内人度會包在清判
男子笠眞包在判
女子笠閉子在判

定永財沽渡進田畠新立劵文事
合壹段者
在伊蘇郷袴田村字麻績垣内
四至 限東小溝 限南類地閇宮子分 限西大溝 限北類地光永分

直錢三貫伍百文請收畢（花押）
右件田畠者。自親父之御手給處分之後。更無相
違而依有要用。限上件直錢。永相副次第證文
等。所沽渡于三郎大夫殿實正也。更々不可有違
亂。仍爲後日新立劵文。以辭。
應長元年七月廿九日　領主度會氏子（花押）
口入人右兵衛尉爲益

永讓進畠地事
合壹段者三角垣内
右件畠地。爲代々相傳私領。敢無他妨。而依有
所存子細。所讓渡進下野法橋御房實正也。雖致
末代更不可他妨之狀如件。
弘安四年六月十日
岩淵五郎大夫
領主權禰宜俊（花押）

永奉施入世木光明寺畠地事
合壹段余者
在繼橋郷内字三角垣内壹段余也。

四至具于本文書之面也

右奉施入之意(趣歟)起者。紀氏女沒後以每年忌景日
每月月忌日等爲預御訪也。猶雖可奉施入。先隨
令買得之。相副次第手繼本文書等。且永所奉施
入于世木光明寺實正也。仍件意趣。爲預御訪奉
施入之狀如件。敬白。

延文元年丙申十月廿日　領主紀氏女(花押)

權禰宜度會神主家與(花押)

□永財沽渡進治畠地立券文事

合百八十步者

在下粟野村內字桑原畠者本二段壹文々中□
付西□□□□

直錢二貫百文請納了(花押)

右件畠地者故親父領地也。而未處分死去之間。
諸子等後家共分知行之處。敢無他妨。而今依有
直急用。限上件直物。永相副次第手繼證文。所
沽渡于物部字孫王九如件。仍爲後代新立劵文。
以辭。

嫡子大中臣字藥王次郎(略押)

一女子同字立與宮(略押)

後家山下氏子

小高下鄉補任狀案文

在判

下　遠江國小高下御廚
盛行ハ當一禰宜息也

補任御上分米口入神主職事

權禰宜度會神主盛行

右以人所爲彼職也。御祈禱事殆可致丁寧之勤
者。御廚官等宜承知。敢勿違失。故下。

建武二年九月十五日　左兵衛尉康長在判

定　永財沽却渡畠地立劵文事

合壹枚者

在下粟野村內字桑原垣二段壹杖中內彌陀寺
敷地。

四至本劵具也。　壹段內付東方壹丈也。

直錢壹貫文請納畢(略押)

右件畠地者。自領主度會犬子之手買得之。後進退知行之處。敢無他妨。而今依有直急用。限上件直。相副次第證文等案。永所沽却渡于日置兒子之許。須雖可相副證文正文。依爲連券。所副渡案文也。仍爲後代新立劵文。以辭。

弘安七年四月十二日　領主大中臣守支(署押)

緣妻山下氏子(署押)

女子大中臣氏子(署押)

奉施入伊勢國度會郡光明寺田地事

合

治田半久志本　織橋鄕内字内津

右件田地者。比丘尼如乘知行所領也。□□八月廿三日逝去了。爰可寄進當寺之由。令書置之間。任其旨所奉施入如件。

建武五年戊寅九月廿七日　僧眞禪(花押)

宣住房寄進狀正文延文五年十一月十八日死去

永奉施入光明寺田地事

合壹段者字尾上

右件田地者。爲寂俊僧之沒後追善。相副次第手繼本文書等。永所奉寄進吹上光明寺也。更々向後不可有違亂煩者也。仍施入之狀如件。

延文六年□月十二日　菅原氏女(署押)

處分少財物等事

合

自余略之

三女子乙子給物(マヽ)

田地四杖字中島富田

畠地壹段世木村河邊吉田畠半度會氏子沽地 半荒木田權禰沽地

青菜所壹處一女子給子細同前

所從節女鬼太郎一女子

自余略之

右件少財物等。隨有所令分給也。各相互無異論可令進退知行也。若有沽却思之時者。可相觸于一族中。而於遺漏之物者。貞見神主可進退者也。仍爲後日處分之狀如件。

康永三年甲申正月廿九日　嫡男權禰宜度會神主貞見裏判
豐受太神宮權禰宜大物忌父度會神主貞兼在判

伊勢國末同藤則仁承賣渡進字御鹽田事
合百八十了者。
但依當用在八丈絹貳疋四文仁賣了。
四至 限東同地□　限南大澤
限西同地□　限北クルカ
右件田元者。依國末之手藤則仁承賣渡所實也。但不可他妨。爲後代註文書以申所如件。
安元元年九月十日　伊勢國末在判

氏繼居住畠地劵文
謹辭　定永財沽渡進畠地立劵文事
合佰捌拾步者
在繼橋鄉字□津畠地壹段內付東方也。卽居住垣內
四至本劵面具也
直見米貳斛請納畢
右件畠。元者去長承四年四月三日　親父氏延限直物。定永財買得之。後所處分給男氏繼也。相副彼本劵幷親父處分文等。限件直。永所沽渡進於主君相可　次郎太夫殿如件。仍爲後代新立劵文。以辭。
養和元年二月日　權禰宜大內人度會(花押)

嫡子權禰宜大內人氏繼處分渡畠地事
合百八十步者
四至本劵面具也
右件畠地者。從氏子之手所傳得也。隨年來領掌之間。敢無異論。但件畠地壹段之內付北方者。氏繼當時居住之內也。仍爲後代相副本劵文書。永所處分與之狀如件。
治承四年十月十日　權禰宜大內人度會氏延(花押)
依雇執筆僧(花押)

かはらの畠地みなみのかた上のもんそ
伊蘇鄉內村弘氏前新田畠荒野壹所事。四至放劵狀具也。若於彼新田畠有違亂煩者。於總領而令祕計可止妨。又自當年作麥可進退者也。至百姓職者可爲買主之計。弘氏已下作人等號發令

違亂作主職者。加下知可止違亂也。且上分已下
不可有他役。仍狀如件。
延元三年十一月二日　　使永吉(花押)
領主假名名磯部枝久(花押)

永沽却渡新開畠地荒野等事
合壹所者弘氏前
所在度會郡伊蘇鄉同村
四至 限東弘氏居住乃畠止彥太郞垣內止乃阿井乃久根乃通於□(須ヵ)久仁河へ通天定限南大河當時河 限西無世井太郞之西世古乃通於須久仁川へ通于乃定 武益弘等居住乃畠等
直錢貳貫五百文請納畢(花押)
件新開畠者。爲伊蘇袴田兩村之總領而任先規傍例。進退管領所無相違也。然者全無他妨。爰依有直急用。限上件直錢。所令沽却于度會菊子實正明白也。但彼四至內仁先日安恒仁放劵地在之。於件地者除之。其外雖爲立針云作云荒野可令一圓不愉管領者也。仍爲末代新立劵文如件。
延元三年寅十一月二日
領主假名磯部枝久(花押)　左衞門尉永吉(花押)
嫡子大中臣(花押)　在地刀禰益家

永沽却渡田地新立劵文事
合四段者
所在袴田御園內小麥生 自南四段目 五段目 六段目 七段目
右件田地者。以去永仁五年二月七日自僧良朝之手讓得之後。進退領掌敢無相違地也。爰依有直要用。限上件直物。永作主職共所沽渡于道妙房□□□□□□爲連劵。案文相副之。此手繼之中有相殘文書者。以□□悉可取渡也。若付彼田地等事。稱有一紙之證文成違亂輩出來者。即訴公庭可被召行盜犯之所科也。此上者雖至子子孫々更不可有他妨者也。仍爲後代新立劵文。□□。
建武三年二月廿八日　嫡子大中臣(花押)
領主假名磯部枝久(花押)　御使藤井弘氏(花押)
此前滅
治田貳枚右上宇羽西村

但大光寺正月行米三升五合可勤也
名田壹段在森田村國澤居住西方者
右件田畠等隨有男女子等所處分充如件。仍爲
後代處分文了。
正治二年壬二月九日　親父大中臣光里在判
嫡子大中臣光延在判

神田四枚田之賣券
定　永財賣渡進田地事
合肆枚者
在所織橋鄕字神田村社垣內
四至 限東畠 限南報恩寺敷地 限西路 限北穴井半分付此田
直錢陸貫伍百文慥請取事
右田地者。以去永享十年戊午三月十七日自僧淨心之御手買得相傳。當知行于今無相違地也。雖然依有要用之子細。限上件價直。賣渡山田吹上之光明禪寺進處實正明鏡也。相副次第證文等賣進上者。於後日不慮之煩出來者。不遂地利之勘定。慥可返進於本錢者也。仍爲後證新立券文如件。
長祿四年庚辰八月十二日　嫡子神田五郎(花押)
沽主神田五郎兵衛息女姬石(花押)
口入久志本馬次郎(花押)

定　永財沽渡進畠地事
合半者
在度會郡織橋鄕乃瀨古乃所在也
直現錢肆貫文慥請納畢
右件畠地者。道圓法師依殺害竊盜犯科。粥見總官御時。正應三年御沒收之□□被定□使分畠地也。爰有子細御使弘雄讓渡于中臣近光□□定然則云總官御下知云。弘雄讓狀相副□定證文。永所沽渡進藤原重能實正也。雖至永代。以總官御下知弘雄讓狀。定本文書可有相傳知行者也。後日更不可有他妨。若又於此畠□有他妨令不領給者。本直慥可返進也。仍爲永代新立券文如件。

正應六年四月十二日　大中臣近光(花押)

沒收言上大袋殺害以下條々罪科犯人筑前八郎跡田畠等事

合

一田地

壹段前田作人觀音□□
壹段烏帽子形作人石若次郎
壹段四郎宮掌作
壹段半四丁田作人小法師
壹段小馬渡□堀田坂三郎作
三丈余十妙前付北
壹段北垣內付西大世古次郎作
壹段南万町辻作人物忌作
半牛庭作人藤次郎
壹段石橋作人□□次郎□□

一畠地

壹段屋敷付東
二段半屋敷後大垣內
二丈北畠作人石若次郎
壹段□坊□□內田□□□在之作人岩淵鶴大夫
壹段緣音前道副
壹段大垣內
壹段西垣內作人□□
三丈久志本作人箕曲三郎大夫
三丈久志本禪師大夫作
鹽濱三丈

山一所尾上寺東坂所分止中分之

右件事。任被仰下之旨所令沒收言上也。仍狀如件。

元德三年三月十日　紀　景　實在判

使撿非違使新家判

永奉沽渡畠地壹段事

字三角垣內者

直錢五貫伍百文請納畢

右件畠地。本領主貞末神主所領也。而於未處分死去之間。後家藤原氏子男女子共同心被行處分之。時三角垣內爲末弘得分知行之間。依□要用相副彼處分正文。永所奉沽渡□權神主俊彥也。爲永代新立劵文如件。

貞永二年二月十三日　度會末弘(花押)

執筆　僧(花押)

沽度進畠地立劵文事

合佰捌拾步

在繼橋郷字鳴津畠者

四至（限東大道　限南同地破目／限西大汀　北限同破目）

直捌文絹二疋請納了同(花押)

右件畠地。親母領地也。而承繼領掌之間。無他妨。爰依直物要用。於豊受太神宮權禰宜度會氏延所沽度進姿(不審)。而處分・(脫アルカ)相副如件。仍爲後代立券文了。

長承四年四月三日

月讀宮副物忌中麻海(花押)

相　知　物　部(花押)

依　屋　筆　取　之　度　會(花押)

定永作讀(マヽ)渡進名畠新立券文事

合五杖者　但鹿薗寺御領也

在度會郡湯田鄉宇羽西村字上野畠者。

四至（限東大道　限南大道／限西同地破目　限北同地破目）

直錢壹貫六百文請納了

右件名畠者。自父掃守吉光御手處分給天知行處仁。更無他妨。而今依有直急用。定永作所沽渡於物部俊弘如件。仍爲後代讓狀。以辭。

弘安八年四月四日　名主掃守市若丸(略押)

二男掃守龜王丸(花押)

三男同能若丸

處分小財物等事

合

一男僧眞西給物

湯田鄉物部□□□□□□□津々是二段內西方撿非違使康明

自余是注　可爲劵

右件物等。隨有所處分也。若得分物有放劵之思者。可相觸子孫中也。於未分物者。家女幷男□眞中分可進退也。兼又先祖氏寺新光寺破損也。得分預輩一角可修造狀如件。

承元三年九月廿四日　撿非違使新家(在判)

家女度會氏子(在判)

讓辭　定永財沽度進田畠事

合壹町者
在三重郡河後郷專當則□居住垣內者
右件田畠。故親父御領也。而故佰祭主殿被行之
日高元處分□□□被判定也。爰依有直用財。限
直八丈絹拾疋之代。所沽渡進大中臣。仍爲後代
相副處分文案文。立劵文。以辭。
大治五年十一月八日
豐受太神宮權禰宜度會神主(花押)

得子戶田貳段助則任職事賴行兄弟姉妹等出證文
二見乃石連德子戶授給田事
合字津伊橋坪貳段者但作人佘行伉(ヤヽ)也。
右件戶田。任職遠相共改(故カ)母御處分之目錄之內。
八男賴行之得分永給事具也。但雖及末代。此子
孫等之中。敢不可有相論狀如件。但助則請□□
□雖然□於文書目錄者。封納之內有□明白也。
又男女子等之雖可連判ヲ皆加取。依二人者遠
所有不取狀如件。
建久九年十二月廿一日　二女子
一女子ふちはら
八男藤原(花押)
四男僧(花押)
七男藤原(花押)
三男藤原
二男藤但改姓也

定　永財沽渡進畠地新立劵文事
合壹段者字松木角垣河原畠地者
四至具于本劵面也
直錢參貫伍百文請取畢(花押)
右件畠地者。本領主廣光神主以天福貳年正月
七日二女子鶴宮子仁處分。鶴宮子夫雅繼神主
夫婦同心仁。以建長六年五月十一日女子龜王
子仁處分。龜王子法名仙阿以德治三年壬申六月廿七日。
二女子寂阿仁處分。從寂阿手以去元亨貳年壬戌五
月二日圓如買得相傳知行無相違。而依有直要
用。限上件直錢。相副次第手繼證文等。永所沽

渡于權禰宜盛光 神主實正也。更雖至末代不可
有其□。但彼地爲光明寺修正料間。他人不可知
行之。則爲廣光神主子孫□者全知行。可被勤所
役者也。仍爲後代新立劵文如件。以辭。

正中參年丙寅四月十一日　權律師圓如(花押)

權禰宜度會神主彥光重申
欲早任證文 於下部者被返付。遂奉作全供用
備。於專當得分者。任亡父遺言被中分。爲
能光神主改替彥光相傳赤坂半小世古半丁
部職。令假掠申專當分田由。剩不分與專當
得分物無謂事。

右如能光二答狀者。任亡父氏光神主 存生遺言
之間。以忠孝之儀祖母一命之間。令持知行了云
云。陳狀之旨神妙也。可守氏光遺言者。豈可被
弃康光神主遺言哉。其故者。當職者外祖父是包
相傳所職也。而是包 無男子之間。讓給 女子之
刻。爲以康光(清光)神之名字給。任符了。康光遺言云。
於專當奉行者。氏光致沙汰。至得分物者與母可
中分之旨。令申置了。仍母一期之間。□專得分
了。此上者。母今以後者彥光□可得分之條勿論
也。所詮氏光一身可□□□之由令處分歟。被召
出手繼證文者。不可有其隱者也。就中爲母未分
遺財之上者。爭任法不分給之哉。是一。次以丁部
職相傳治田。稱專當分田掠申子細之條。不相應
之間。先度立申西郡傍例了。隨而祖母一期知行
之條能光承伏之。此上者用捨信上裁者也。是二。
次無代々手繼□事。是又非彥光結構。云是包云
母不與手繼之間。不帶之條有何難哉。專當奉行
方猶以不貼手繼歟。限下部職不能難申者哉。是
三。此外雖有所存暫閣之。所詮條々被召陳狀。爲
預御成敗重言上如件。

正中三年四月日

權禰宜度會神主彥光重申
欲早任相傳旨。被返付丁部職。遂奉作全供用

備爲能光神主。以彦光相傳安東郡御常供田内赤坂半小世古口半丁部職。令俄掠申專當分田不返付。彼丁部職無謂事

副進

二通　建保弘長買劵差符等先進了

右當郡權專當職者。外祖父是包相傳所藏也。而彦光等母(是包娘康光妻)入隨分大切彼所藏事令申達之間。於彼職者彦光母相傳之。康光神主他界之時。有申置子細之間。於專當奉行者氏光神主致沙汰。至得分物者。氏光與母令中分畢。其時更不及丁(下歟)部職之違亂。氏光神主他界之後。又以母知行無相違。母率(卒歟)去之後彦光相傳知行送一兩年之□。無是非改替之條。雖不可然期事次自然罷過畢。然而依難默止先度粗言上畢。背康光神主遺命不分充專當得分之上。剩相傳丁部職改替之條存外次第也。何寄事於其光神主可遁沙汰哉。以前備進狀成不審問書渡畢。此上者早爲蒙御成敗重言上如件。

正中三年四月□日

□□□財沽渡進畠地新立劵文事

□□段者字松木角畠

四至具于本劵面也

直錢三貫五百文請取畢(花押)

右件地者。以去正中三年丙寅四月十一日自圓如律師手買得□□知行無相違。爰依有直要用。限上件直錢。相副次第□□□等。永所沽渡進于梅北如海御房實正也。雖至末代更不可有他妨。若貳拾年内違亂煩事出來者。本直於惜可返進者也。但此地者世木光明寺修正料也。毎年五月十一日白米□□□代文栄二種可被送光明寺也。此外更不可有他役者也。仍爲後代新立劵文如件。以辭。

□弘元年十月廿八日　權禰宜度會神主盛光(花押)

一女子物部兒子永處分充給少財物等事
合
畠百八十步付西也　四至本劵面具也
自余除之
右件田畠等。隨有員男女子等所處分給也。各無
異論可知行之狀如件。仍爲後代處分文。以辭。
文永六年四月十五日　親父散位物部弘房(在判)
親母物部氏子(在判)
同　成房(在判)
同　光弘(在判)
同　兒子(在判)
僧　祐覺(在判)

□□□却渡小俣御薗内荒田代新立劵文事
合□段者
□度會郡湯田鄕小俣御薗内字上窪者
四至 限東久留　南限清近後家領
限西溝　限北久留
右件小俣御薗者。先祖相傳所領也。進退領知之
間全無他妨。爰直依有要用。限上件直。永沽却
渡處於大中臣熊丸如件。但於次第證文者。依爲
連劵不副渡。相副案文沽却渡處也。仍爲後代新
立劵文如件。
延應元年九月十三日　預所(署押)
領主大中臣氏(花押)

定　永財沽渡進所領治田新立劵文事
合壹段者
條里四至見于本文書也
直見米陸斛玖斗請納畢(花押)
右件治田者。去建保四年四月十三日自本領主
之手買得領掌之處。敢無他妨。而令(今カ)直依有急
用。限上限直物。定永財相副王(手歟)繼本文書。所沽
渡進于□□□度會神主雅繼也。但件地者常蓮
寺□□□□□□米六升可被勤仕。若籠窄出來
者。可返本直也。仍爲後代新立劵文如件。以解。
寛喜參年二月八日　度會氏子(花押)

相知撿非違使新家(花押)
定　永財沽渡畠地事
合百八十步者(花押)
在度會郡繼橋鄉蒜田村元資兼和與地內也云々
直錢壹貫文請納畢(花押)
右件畠地者。以去觀應二年三月卅日。自沙彌圓福字度會福益寺之手。以源十郎名字買得相傳當知行無相違之所領也。爰依有直急用。限上件直錢。相副次第手繼本證文等。永所沽渡于度會正繼實正也。若於此地十箇年中不慮之違亂煩出來者。不勘定年々所作之地利。慥可返辧本直者也。仍爲後代龜鏡沽劵狀如件。
延文元年十月十八日
領主左衞門尉源守安(花押)
□□鬼源守繼(花押)
□□□□□郎(花押)

蛭坂合部土與石子永處分少財事　土與石
合
治壹段　在度會郡沼木鄉上山幡村宮道御薗
壹處內付下方字瀧本者在本劵
右雖乏少。任故亡妻在存之趣旨。所充渡也。更更不可有相違。仍爲後日之狀如件。
正應二年七月廿六日　沙彌法佛(花押)
嫡子沙彌蓮阿(花押)

永進上田畠事
合貳段者
在繼橋鄉內
畠地壹段半□瀨村　自余略之
副進　二親處分文二通
右合進上。元者信濃國萩長御厨。去々年分所濟子息兼行無沙汰之間。依被□□資兼募彼代所令進上也。但今年許自關東於令現進者可返預也。不慮之事不出來任□□旨令合期者。今年中可令進濟也。插邪心令難濟者。奉始　二所太神

宮總可蒙　日本國中大小神祇冥道神罰冥罰者
也。更不存等閑之儀。若不思議出來。今年中不
進濟者募彼所濟可有御知行。縱有要人□放劵
不可憤申。仍相副二親處分文如件。
文永二年九月廿六日　左近將監藤原資兼裏判

永分充行所領田畠事
合貳段者
一繼橋鄉池町村所在字前田壹段□□□內
件田地二段半內。於百八十步者。□弘兼之沙
汰令放劵要人云々。其直物成私用。不充賜母
之間。所入弘兼得分內也。
一同鄉蒜田村所□居住內付東方□步
件畠地。當時屋敷之內壹段半也。但未糺定步
數之間。任本文書面。如此雖令注載之。令破
定之旨。若利余分□資兼可知行也。
一自余略之。
右件田畠。隨有所處分與於一男左近將監藤原
資兼也。但我現存程者。致治半之沙汰可分給。作
毛半分於母也。抑於次男弘兼之分者。當時雖不
書與文契。至于其得分貳段者令定□□□不致
存日之養育。有不忠子細者。見事之體爲□□□
其事。有養育懈怠者。一向資兼領掌可勵微功
也。凡不令知于母。以所領或入質劵。或乍治(沽歟)却
要人不配分。直物偷令私用之條。背本懷之故。
寮後日令起請置也。且又件田畠本文書等。置于
正家之處。讓舍宅於弘兼未尋記文書也。早付弘
兼可合撰也。若成慳惜者。准不孝不可充段步得
分之狀。爲後代處分文契如件。
正元元年七月九日　親母伴氏子判
相知
件田畠任處分旨。不可有違亂。又弘兼得分
事。如當時若尙猶有不法不忠之子細者。依
起請文契。資兼同可領知也。
親父散位在判

男女子幷孫等處分財物等事

合

一嫡男經元神主分

二段 小坂當安本居住 定智作月澤等

自余雖多不注之。

右件財物各處分如此之云々。具也之狀如件。

仁治二年辛丑二月六日

禰宜荒木田神主御在判

謹辭　定永財沽渡畠地立劵文事

合壹段者付西方也

在度會郡箕曲鄉小坂村內 定智作貳段之內 付西方壹段

直錢肆貫貳佰文請納了在判

右件畠地。以去仁治二年三月六日。自親父御手處分給之後。進退領掌敢無他妨。而本貳段之內。付西方壹段。依直急用。限上件直錢。永所沽渡于僧定慶也。雖末代更不可有煩。仍爲後代新立劵文。以辭。

寶治元年六月廿九日

領主在判

謹辭　定永財沽渡進畠地立劵文事

合貳段者

右度會郡箕曲鄉小坂村內常安本居住也

直錢肆貫捌百文絹陸疋代請納了在判

右件畠地貳段。以去建永二年七月一日。自本領主度會氏子等之手買得。年來進退領掌更無異論也。而今依有要用。限件直物。定永財所沽渡進於假名藤井久吉也。仍爲後代相副文書等。新立劵文。以辭。

寬喜四年二月十三日　男　僧　定　慶在判

權宮掌內人縣月澤在判

定　永財沽渡進治田立劵文事

合貳段百八十步者

在度會郡沼木鄉山幡村宮道御薗內字瀧本者

四至本劵面具也

直錢六貫文請納畢(花押)

右件治田者。去安貞貳年正月廿二日自能登殿之手讓得之後。年來知行之間敢無他妨。而依有直急用。限上件直物。相副次第手繼文等。定永財所沽渡進于比丘尼幸阿彌陀佛明白也。雖至末代更不可有異儀。仍新立劵文如件。

弘安貳年五月廿日　執筆僧(花押)

領主比丘尼善性(花押)

定永財沽渡進畠地新立劵之事

合百八十步者

在上字羽西村字栗林垣者

四至本劵面具也　在野畠　百八十步一段內東方付者自餘不注

直錢壹貫五百文請納畢

右件畠地者。先日女子源兒子雖處分給充。依有急用取返。依有直物急用。相副(可脫歟)彼本劵文案文等。所於物部貞光沽渡進也。但雖・處分文相副依有連劵不副進。仍爲後代新立劵文。以辭。

正元元年十一月十一日　領主父源國元

奉施入世木光明寺畠地事

合貳段者

在度會郡箕曲鄉世木村字風垣內三段內東貳段也

四至具于本文書之面也

右奉施入之意趣者。氏子沒後以每年忌景日每月元忌日等爲預御訪也。猶雖可奉施入先隨分買得之。相副次第手繼本文書七通。且永所奉施入于世木光明寺實正也。仍任意趣爲預御訪奉施入之狀如件。敬白。

文和四年乙未八月廿二日　領主紀氏子(花押)

權禰宜度會神主家與(花押)

定　永財沽渡畠地立劵文事

合壹段壹杖者　東通四尺道者此屋敷畠內也

在所粟中島內櫻御薗

四至　限東細世古　限南榎木　限西□□□作畠　限北□□次郎作畠

直錢拾貫文請納畢

右件畠地者。以往文書者壹段云々。其後中古半充雖令相分之□□[不審]用末代半充令傳得之。合壹段兩度相傳之後代々相續於于今者壹段壹杖也。而自故外祖父延友神主手。故親母讓得之。其後自親母手處分給之。後舊領當知行敢無他妨。爰有急用。限上件直物。相副次第手繼也。於故延友讓狀者。依爲連券副渡案文者也。若十箇年內不慮煩出來者。不遂地利勘定。本直物可返弁也。更々雖至末代不可有相違。仍爲後日沽劵狀如件。

應永十六年己丑十月十日

領主度會神主康宗(花押)

親父度會神主康家(花押)

口入 高向二郎彥松太郎(略押)
同所住笛次大夫郎(略押)

敬白

奉施入伊勢國飯野郡長四郷安養院田地事

合戸田貳段者之中　自余不注之

壹段在度會郡箕曲鄉尾野得治戸授給內字山田矢田職共也。當時補者玉串大內人清光。條里坪付本文書七枚面具也。子細見彼荒木田定用[本名末光]沽劵。

右施入之意趣者。亡女度會千松子[法名戒日]領也。而無所□而於盛□早世之刻爲雙親計。以上件田地等奉施入當院。可被訪沒後追善之由令遺言之間。任彼素意。相副調度本文書等。所令施入。也。仍今年嘉元二年甲辰四月九日未時閉眼畢。然則早忌日月忌守所出分法爲長老御計。迄至世々末代可被訪也。若當長老御□□之後。有不法之事者。戒日之親類定歎申子細歟。且依此忠塁□定得脫無疑矣。且爲四恩法界平等利益也。仍施入如件。敬白。

嘉元貳年甲辰四月日　父權禰宜晴秀 敬白在判

母比丘尼西阿彌陀佛 敬白在判

謹辭　定永地沽渡進治田立劵文事
　合元貳段內五分壹町者
　在繼橋鄉下津山里卅五坪內
　直捌文絹壹疋請納了同(花押)
右件治田。元者從山安淸之手。相副次第文書等
所買得也。而依有直物急用。定件直。於度會壽
一子所沽渡如件。仍爲後代注子細。立劵文已
畢。以辭。
　大治元年五月十五日　常明寺所司僧(花押)

□□□文事
　在度會郡□□□禮部村故千與枝居住
　四至限東禮部大夫領　限南守賴神主領
　　　限西故須前大夫領　限北中垣根
　直八丈絹肆疋慥請了(花押)
右件畠地者。自親母之御手於處分給之後。進退
領掌之間。敢無他妨。而依有直急用。定永財限
上件直物。於藤原氏子所沽渡進也。雖須相副本
文書等。依爲連劵相副代々相傳文書案文等。所
沽渡進如件。仍爲後代新立劵文。以辭。
　元仁貳年二月廿九日　領主物部
　　　　　　　　　　　一男　僧(花押)

定　永財沽度進畠地新立劵文事
　合壹段者
　在度會郡箕曲鄉禮部村字柚木垣內者
　四至本文書等之面具也
　直錢肆貫五百文請取畢
右件畠地者。買得相傳于今無相違地也。爰直依
有要用。限上件直物。所沽渡下市庭大夫三郎殿
實正明白也。雖爲末代更不可有他妨。若十箇年
之內不慮煩出來者。可奉返本錢也。仍爲後代新
立劵文如件。
　文和四年九月廿二日　沙彌戒阿(花押)

定　永財沽渡畠地新立劵文事
　合壹段余者字吹上三角垣內

在繼橋鄉內見本文書等
件畠者。年來代々相傳知行之間更無他妨。而依
有直急用。限代錢伍貫文。相副次第本文書等。
永所奉沽却于沙彌定佛實正也。但此地十箇年
內若出來不慮之煩者。勘本錢與地利所當可弁
返之。猶有違變者。以常直知行之古田三段余內
畠壹段。可入立申之。曾不可有一口子細哉。仍
爲後代新立劵文如件。
文和四年乙未九月廿六日　使虎熊丸(花押)
領主權禰宜度會神主常直(花押)
口入人權禰宜末用(花押)
度會氏子(花押)
處分目錄畢
合
一嫡子菅原則貞充給物等事
自余不注之
一名田畠壹段字中田

右件田畠等。或依甲乙人々手。限□□□或平等
院末寺極樂寺領。或天台山□□□寺領也。而隨
有員男女子等。所處分□□□不可有他妨異論。
各爭亂可□□□□□□處分目六。以辭。
□保五年□月□日　親母少長□□
嫡子菅原□□
次男菅原□□
一女子菅原
二女子菅原
三女子菅原
合
柴田公文秀俊注文嘉元三年
注進　柴田鄉野田御薗內一分御方田數事
五條六烏立里卅二坪四段九十四斗代除段別一升井料
同條同里卅□坪四段半四斗代除段別一升井料
同條同里卅四坪一段四斗代除段別一升井料
四條八田〻里一坪一段大三斗二升代除段別一升井料
同條□□里八坪二段三段三斗二升代除段別一升井料

段別一升燒米（自餘去之）
右注進之狀如件。
　嘉元參年十二月十八日　公文淸海秀俊

定　永財沽渡進畠地立劵文事
　　合壹段者
在度會郡湯田鄉下粟野村內字桑原垣內總二
段一丈之中
四至（限東久禰　限西旦地破目）（限南光放劵破目　限北同地破目）　內先放劵殘也
　直錢六貫文請納畢
右件畠地者自度會犬子等之手買得。進退領知
之處。敢無他妨。而先日放劵殘北東の（トチリチ）。
限上件直。相副次第證文等案。永所沽渡于物部
字孫王丸之如件。仍爲後代新立劵文。以辭。
弘安七年十二月廿日　領主中臣守支（略押）
　　　　相知妻山下氏子（略押）
　　　　大中臣字立與官子（略押）
　　　　字大中臣養王四郎

□□□少財物等事
一嫡子撿非違使新家眞經給物
　物□□子女戶（牟烟）（不脫歟）
　自余是・注
右件少財物等。隨有各所令處分也。但得分預之
輩。同心合力於嫡家。可致忌日勤也。又有得分
物要人放劵之思者。可相觸于嫡家也。背此旨輩
者。訴申公庭。爲不敎之者。可令停止也。兼又於
末分之物者。嫡家可尋知。仍爲後代處分如件。
　建仁三年正月十六日
　　　　前撿非違使新家眞用（在判）
　　　　度會氏子（在判）
　　　　嫡子撿非違使新家眞經（在判）
　　　　依雇取筆官符權禰宜度會（在判）
荒木田王壽子處分渡畠地事
　合壹段者
在箕曲鄉牛庭村故久志本居住四段內付東壹

段

右件畠地者。自源氏子御子。限直物錢四貫文而賣得之後。敢無他妨。然間福阿彌陀佛之所生之女子荒木田王壽子仁。定忌日料。限永代處分渡處實也。若背此命不致忌日報恩之□。更不可知行者也。仍爲後代之證文注置狀如件。

建長二年庚戌二月吉日　悲女福阿彌陀物(マヽ)

定　永財沽却渡進畠地事

合壹段者

在所箕曲鄕內字落合

四至 限東大道 限南細路 限西西河原辻殿領 限北八日市庭大夫大郞作

直錢柒貫文請納畢

件畠地者。以應永卅二年四月八日。自善等房兄弟□連判之狀。雖令相傳。依有直急用。限上件現□。相副次第手繼文書等云々。仍爲後日沽劵之狀如件。

應永卅二年乙巳六月廿九日　沽主有淳

女子姫松子處分渡田地事

合百八十步者

在度會郡沼木鄕內宮前一段之內付西方

右件少財物。隨有處分渡互無異論歟・可令知行。若致違亂輩出來者。可被處敎令違犯之科者也。仍爲後代處分狀如件。

建武元年十二月五日　親母大中臣氏子(花押)

定　永財沽渡小俣御薗內荒田代新立劵文事

合壹段者

在度會郡湯田鄕小俣御薗內字上窪□

四至本劵而具也

直錢二百文請納畢

右件田代者。先祖相傳地也。而進退領掌無相違。依直物急用。相副手繼等。永所沽渡字孫王大郞實正也。仍爲後代新立劵文。以辭。

正應六年六月二日　領主僧道(花押)

なかくうりわたすはたけの事

合いたんてゐり
所さいおまかりの御所のゝうちませやし
ろのまゐ
あたいのせにいくわん百もんうけおさめ
ぬ(花押)
右くたんのはたけは。けんとくにねん二月廿一日。はたのさたやすかてより。さうてんのゝち。いまにちきやうさをいなし。しかるにあたいきうようあるによりて。したいもんそうをあいそゐて。ませのいかの四郎とのに。あたいのまゝに。いくわん百もんにかきりて。うりわたすところ。しちなり。もしいらんわつらい。十かねんのうちに。いてきたらは。ほんちくをたしかにかへすへきもの也。よて。こたいのために。うりけんのしやう。くたんのことし。
ゐんけん三年七月廿六日
りやうすわたらいのうちの女(花押)　はけ事ニみや のつかいあみ

ふた
永財沽渡進治田立劵文事
合百捌拾步
在二見郷字濱浦者
四至本文書面具也
直現米捌斗請納畢(花押)
右件治田者。自親父用任之手處分結(給歟)之。年來進退領掌之間。敢無異論。而今依有直物要用。相副本文書。永所沽渡進縣時包也。雖須相副親父處分文。依爲連劵不能相副。仍爲後代新立劵文。以辭。
承元五年四月三日　壬生氏子(花押)
定　永財沽渡治田新立劵文事
合百捌拾步者
在繼橋郷下□里卅二坪之內付東方者
直捌文絹壹疋代現米壹石伍斗請納畢
右件治田。舍兄從僧寬□之手得相傳之後。敢無

他妨。而依有直物急用。限上件直物。相副次第調度文書等。永所沽渡二女子大原岩牛子實正也。但件田付女年八月廿四日小坂聖知識勤四□外居雜事二種致末代不可懈怠。依爲後代新立劵文如件。

建保四年丙子正月廿八日　慈父大原國末

池町田本領主貞永二年二月三日注之

大中臣

道衡―女子―男吉重改名道國―男滿犬―僧智善
　　　　　　　　―男道宗―男道家―男當村小句□

以宮內省圖書寮本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百七十七

雜部百二十七

## 貞治七年宮田前大宮司家領記

宮田前大宮司殿文書唐櫃一合。預置之處。去年貞治六十二月十六日。山田大路大燒亡之時。爲照住宅燒失之剋。彼文書唐櫃令紛失畢。仍後證狀如件。

貞治七年二月六日權禰宜度會神主爲照(花押)

前大宮司忠緒朝臣代伴朝幸立申紛失日記事

合

一田地捌段。飯野郡宮田所在字仲仁。此内南副貳段久守寺領貳次陸段。

一田地五段。同所在字泉。

一田地貳段。同所在西野屋敷門田。

一田地陸段肆杖。同所在字波多社。平四郎入道鶴石孫八等作。但此内壹段畠地。

一田地參段。同所字金。妙法作。

一田地貳段。同所在字大田壹段右馬五郎作。壹段孫次郎作。

一田地壹段半。同所在小墓。市法師宮掌作。

一田地壹段貳杖。同所在字脇田孫八作。

一畠地壹段。同所在新良鶴石垣内。

一田地五段貳杖。飯野郡立利所在字市田。「參段貳杖菊法師入道作。貳段丈石大夫作。」

一田地壹段。同所在字景姫。藤内大夫作。

一畠地壹段半。同所在字堂前盾挺三郎屋敷。

一田畠壹段半。同所在字柿木垣内。

一田地貳段。同所在字道副秋松宮掌作。
一田地貳段。同所在字幡摩垣內。
一田地壹段。同所在字橋爪八太孫六大夫作。
一田地壹段。同所在字泉田菊法師入道。
一田地參段。飯野郡西黑部所在字西新開。四至「限東道。限西被出堤。限南大畔。限北堤。」
一田地半。同所在字北新開。
一田地參段。同所在字龍德田。
一田地肆杖。同所在常光寺行田。
一田地壹段。同所在字横枕。
一林壹所。同所在牟山土三昧北。四至「限東溝。限西溝。限南田。限北田。」
一林壹所。字北庭牟山土三昧堂西。四至「限東川。限西龍瀨。限南川。限北道。」
一田地參段半。所在和屋西字大田。
一田地參段。所在和屋南小柳四郎入道作。
一田地壹段。所在和屋西字唐子。
一田地貳段。土田所在字柚木原。
一田地肆杖。豐原所在字樋下。
一畠地貳杖。櫛田所在金入道作。

一田地壹段。七見所在字波志「淨福寺畔(手イ)牛東畔本孫三郎左近允作。」
一田地壹段半。三佐田黑塚坪「東畔本前野十三坪彦三郎大夫作。」
一田畠參段。飯野郡長田鄉字中士。三條曾禰里十八坪內。「但於十六歩者十六坪內四副也。」
一田地壹段余。同郡同鄉三曾禰里二坪內字樋下。
一田地壹段。同郡同鄉三玉津里廿四坪於南畔本壹段次壹段也。字幡摩垣內。
一畠地貳段。同郡同鄉三條四火所里廿九坪內盜人社西。
一田地壹段。同郡黑田鄉三條三曾禰里廿四坪內西畔本貳段置次也香子戶。
一田地參段。同郡同鄉七條三匚井里十八坪。
一田地壹段。字七見興乃木坪北畔本貳段次。
一畠地壹段。字橘垣內久保又五郎作。
一田地貳段。飯野郡立利所在字鍛冶成。
右田畠幷林等者(或イ)我先祖相傳之地。我速々(或イ連イ)買得之所領也。仍舊領當知行無相違。而去曆應元年(戊寅)七月晦日。玉丸城軍勢等寄來宮田村放火之間。忠緒朝臣宿所炎上之時。所帶田畠等文書依紛失。同年八月十一日所立置紛失日記。幷自余以降相傳田畠文書等。納唐櫃壹合預置葉若幸

若大夫爲照許山田押世古。之處。去年貞治六十二月十六日。山田大路大燒亡之時。彼爲照宿屋燒失之刻。件文書等令紛失之段。爲照狀具也。若後日號有此文書輩出來者可被處盜犯之重科者也。早任先規傍例賜御證罰爲備後代龜鏡紛失之狀如件。

貞治七年戊申二月七日　(花押)伴朝臣

領主前大宮司從五位上大中臣朝臣忠緒(花押)

判

件田畠林等文書事葉若幸光大夫爲照神主預置之處去年十二月十六日山田大路大燒亡之時彼爲照神主宿屋同燒失之刻紛失之段證狀分明也依爲後代證判如件以判

沼木鄉刀禰權禰宜度會神主延友(花押)

判

件文書紛失之事小刀禰證判分明之間與判如件

二禰宜度會神主(花押)

判

件文書紛失事沼木鄉刀禰證判分明上者仍署判如件

權禰宜度會神主良勝(花押)

權禰宜度會神主貞茂(花押)

權禰宜度會神主時春(花押)

權禰宜度會神主晨延(花押)

權禰宜度會神主長彥(花押)

權禰宜度會神主忠香(花押)

權禰宜度會神主延春(花押)

件紛失事　證判明白之上者仍加署之

宮田惣刀禰(花押)

郡判

件文書紛失事分明上者仍加署判所也

大領郡司兄國宿禰(花押)

# 弘長元年下總國小野織幡地帳

注進　葛原牧内小野織幡地帳事

合　高房里　十一月四日

一坪六反小内。金丸五反。良反小。中太郎判官代。　二坪良二反。中平神主。　三坪金丸反。同人。　四坪金丸一反小。關田五郎入道。　五坪金丸二反。定使。　六坪金丸三反内。一反關田五郎入道。一反六太安平次。　七坪金丸一反。六斗五升代。ツハラサキミスミタ津原太郎。　八坪金丸一反。藤次郎。多田女子。　九坪金丸三反小内。鹿嶋神田次郎神主。二反津原太郎。　十坪良二反。津原。　十一坪金丸小。神拜田。八人。　十二坪金丸二反。タ・彦次郎。　十三坪金丸二反。六斗五升。ツハラサキチイサウチ津原次郎。　十四金丸大。文五郎。　十五金丸一反。六斗五升代。甲田津原次郎。　十六金丸半。八人。　十七金丸三反。中三郎入道ヒチヤ。　十八私吉上合反。祭料田。八斗代。八人。　十九金丸二反。一人。　廿吉直私二反。ムツ、タ唯心房ツハラ。　廿一良三反内。反半介太郎ツハラ。半才守彌次郎タタ。半與一六郎同。半平三太郎同。　廿二延成私一反小。彌五郎入道ツハラ。　廿三金反一反。六斗五升ツハラサキ代。八人。　廿四助直私四反。介太郎ツハラ。　廿五合力五反内。二反大文三郎祝。二反小才守入道後家。　廿六合力一反。藤四郎入道ツハラ。　廿七金丸一反小。五斗五升代。才次郎祝。　廿八金丸三反内。一反小次郎太郎タ、。二反藤四郎入道タ、。　廿九金丸二反。キカチタテキ四斗五升代。才次郎祝。　卅金丸半。惣神田ヲカケタ。又太郎検校ヨシワラ。　卅一坪金丸小。六斗五升代。介太郎ツハラ。德力作。　卅二坪金丸一反。甲田。八人。　卅三坪金丸一反小。津原太郎。　卅四坪金丸二反田。六斗五升代。一反平三入道。　卅五坪金丸一反。六斗五升代。多田女子分。　卅六坪金丸一反。十一月四日御祭料コカスノツ・ミネ中太郎判官代。

二里

一坪金丸半。皆不。津原次郎。　二坪金丸一反。コカスノツ・ネ中平神主。　三坪金丸一反大。ツハラサキ四斗五升代。土器判官代。　四坪金丸二反小。コカスノカハツク不一反大作大。津原次郎。　五坪金丸半。フクワタ皆不。八人。　六坪金丸二反。三郎太郎ナワカイ。　七坪金丸三反内。一反京樂法師二反平四郎ミタラシ。　八坪金丸二反。四斗五升代。介太郎ツハラ。　九坪金丸一反。ナシラヌマ四斗五升代。津原太郎作ヨシハ

ヲ。四郎丞。　十坪金丸一反小キカケタ。三郎次郎。フカキヨシハラ。　十一坪金丸一ツナ
反。惣神田十。　十二坪金丸三反。平次郎。ミヤモト。　下略
サコ、六郎祝。
地平紙ト申
十三坪金丸大。藤次五郎作フカキ。三郎次郎。　十四坪金丸二反内。
一反行事次郎ナカヘ。　十五松吉私一反。覺性房。斤寺。　十六爲
一反源平次。
里私一反。太補房作。斤寺爲。　十七坪金丸一反。平四郎。ミタラシ。　十八
坪金丸二反。一反彦三郎神夫。一反播摩庄。　十九坪金丸二反半。五
四郎。ナカヘ。　廿坪金丸大。六斗五升代。大神主。　廿一坪金丸一反チシラ郎
メマ大。四郎次郎。　廿二坪金丸一反小クリカチ。四斗五升代。五郎太郎タ、。　廿三坪金
丸小ヲナサコ。六斗五升代。大神主。　廿四坪金丸一丁二反内。六斗五升代。二
反七郎次郎。一反小才守彌次郎。一反舟三入道。一反小津原
次郎。一反小六郎太郎入道。一反四歩太郎次郎タ、。一反一歩
又太郎入道タ、。二反□□三郎ツハラ。　廿五金丸一反小。六郎入道ナカヘ。　廿六坪金
丸一反。彌五郎入道。　廿七坪金丸一丁三反。□□□。　廿八坪
金丸一反小。四郎丞ヨシハラ。　廿九坪金丸二反。三郎太郎入道。斤寺。
卅金丸一反。ヲ、カタ。彌源次ミヤモト。　卅一坪金丸二反内。一反藤太
入道ヨシハラ。一反舟三郎入道。　卅二金丸三反。三郎太郎入道。斤寺。　卅三坪金

丸一反半マタキ。源藤次入道。　卅四坪金丸二反小内。二反平三太郎ミムセシ。一
反小平五郎細上。　卅五坪金丸三反。大川下神田。源藤次入道。　卅六坪金丸
一反大。四斗五升代。文マタキハ平三入道ツハラ。

三里

一坪金丸五反内。五斗五升代。一反次郎太郎タ、。一反マタキハ五郎太郎ダ・カネ。二反彌五郎ツソラ。
二坪金丸五反。請田斗五升代。彌五郎ツハラ。　三坪金丸一反小。
六斗五升代。斤寺殿結。一人。　四坪永吉私二反マタキハ。津源太郎。　五坪金丸
三反。一反彌五郎入道チナツ。二反□□□。　六坪金丸一反。彌源次。
七坪金丸一反ヲウタ。三郎太郎入道。斤寺。　八坪金丸一反。彌源次ミヤモト。
九坪金丸一反。禰宜太郎ミヤモト。　十坪金丸一反半内。一反　下略
小六十。禰宜太郎。　十一坪金丸四反。三斗五升代。六郎祝。　十二坪金丸
二反。彌源次。　十三坪金丸一反半。教圓房ミヤモト。　十四金丸
一反。善力法師。宮本。　十五坪金丸二反内。一反教圓殿。一反祝四郎入道ニ八。
十六坪金丸三反。教圓房。　十七坪金丸二反。彌次郎ヲハ、ワ。　十八
坪金丸一反小内。一反教圓房。　十九坪金丸半。禰宜太郎。

廿坪金丸五反内。カコカシタ四反惣神田。源三郎。　廿一金丸一反。彌源次。
廿二坪金丸一反。四斗五升代。舟三郎入道。　廿三坪金丸一反大内。ヘリタ
大善力法師宮本。一反菊善法師タヽ。　廿四坪金丸大。四斗五升代。舟三郎入道。　廿五坪
眞遠私三反。六郎祝。　廿六私吉私一反半。藤大入道ヨシハラ。
廿七利助私一反大。彦太郎。　廿八坪金丸一反。能登房タヽ。
廿九坪金丸四反内。三反ハイタ藤太郎入道ヨシハラ。一反カムロ多田殿。　卅坪良
一反。ハイタ彌三郎ヨコウ。　卅一坪金丸一反小。マヽタ五郎四郎。　卅二坪金丸
二反。一反三郎次郎。ツカキ一反彌四郎ヨシハラ。　卅三坪利助四反。二反又次郎。一反道密房。
介太郎。　卅四錄司代私三反小内。二反彌五郎入道。一反小津原四郎。　卅五
坪二藤祝私一反小。平太郎タヽ。　卅六金丸半。タキノミリ惣神田。六郎祝。

四里

才禰宜當知行
一坪利助二反。五郎檢校。　二坪金丸二反。平次三郎ミヤモト。
三坪金丸二反半。彌源次ミヤモト。　四坪金丸一反。三郎太郎入道
斤寺。　五坪金丸一反。細工入道ナカヘ。　六坪金丸一反。大夫
三郎マチ。　七坪金坪二反。才太郎。　下略　八坪金丸三反内。一反

才三郎。一反尖治房。一反源次郎。　九坪金丸一反半。六斗五升代。五郎檢校。　十
坪良二反。五斗五升代。三郎四郎コウカキ。　十一坪金丸五反。二反藤次五郎。一
反大夫三郎。一反彦三郎。一反伊與殿。　十二坪金丸三反。此内反地本モトヤ。才次郎ヨシハラ。
十三坪金丸七反内。二反彦太郎。半三郎二郎。一反孫太郎。二反半石見房。二反半内一反五郎六
郎。　十四坪金二反小内。馬場田一反番一反小平次郎。一反中太郎。　十五坪金丸
一反大。大夫三郎。　十六金丸一反。彦三郎神大宮本。　十七金丸一
反。一人。　十八金丸三反。六斗五升代。別當太郎。　十九坪金丸二
反。孫三郎。　廿坪利助三反。マテカ一反五郎入道タヽ。一反のとはう。一反小次郎太郎。
廿一坪利助二反半。才禰宜。　廿二坪延成私四反内。一反孫三
郎。一反小藤太入道。一反彦太郎。　廿三坪金丸五反。一反孫次郎。一反彦三郎。二反長平後家。
三反中太郎。　廿四金丸二反。才次郎。　廿五坪金丸三反。五斗五升代。三
郎次郎コウヤ。　廿六金丸三反。伊與房斤寺。　廿七坪金丸二反内。一反
才次郎。一反源三郎。　廿八坪金丸二反小。平六大夫テノ。　廿九坪安久二
反小。一人。　卅坪六丸半。才三郎。　卅一坪良二反。一人。
卅二良三反。五斗五升代。藤四郎入道。　卅三坪重技四反半内。三反平藤

四郎入道ツハラ。一反德力法師。　卅四師松私二反小內。一反六丁彌五郎。一反六丁六郎祝。
卅五坪永吉五反內。三反介太郎。一反四郎丞。一反文平三入道。　卅六永吉
五反內。二反藤四郎入道。一反德力法師。一反別當太郎。一反地本無申シ候。

五里

一坪利助三反內。一反朝智房。一反才彌宜。一反文平二入道。　二坪金丸
一反小內。一反又次郎殿。小彌太郎入道。　三坪金丸一反內。五斗六升代。　五坪
牛別當太郎。牛文平三入道。　四坪金丸一反。五斗五升代。藤次郎入道。
金丸小。案三郎。　下略　六坪有木二反大。藤次郎入道。　七坪利
助三反。才彌宜。　八坪良三反大內半。一反大大夫三郎。小次郎後家。一反
鍛冶入道。牛惟圓房。　九坪金丸一反大。太郎兵衛ミヤモト。　十坪金丸
二反。飯津嶋殿。　十一坪金丸大。次郎太入道。　十二金丸三反
小。一人。　十三坪金丸四反。三反才次郎。六十內平四郎。牛京樂法師。　十四坪
金丸一反小。三斗五升代。舟三郎入道。　十五坪重技二反。一人。　十六
三反內。金丸一反。四郎太入道。一反五木三郎。　十七金丸一反小。五斗五升代。此
內一反地本被卜申候。四郎太入道。　十八七反內。天神之田 一反六郎太郎。三反津原四郎。二反德力法師。一反
舟三郎入道。　十九坪宗吉私三反。舟三入道。　廿坪重技三反。
又太郎入道。　廿一坪金丸小。六斗五升代。一人。　廿二坪金丸大。藤太入道。

織幡

一坪金丸二反。六斗五升代。源七入道。　二坪金丸二反小。平四
郎入道。　三□金丸四反。一反彥太郎。一反才太郎。二反彌次郎。　四坪金丸
一反大。別當四郎。　五坪金丸二反。ツクタ大夫三郎カチム。　六坪有
木三反。一人。　七坪富永二反。一人。　下略　八坪
富永二反。常樂法師。　九坪安久私三反內。一反半又次郎殿。一反半
常樂法師。　十坪安久三反。大次郎殿。　十一坪金丸小。一人。
十二坪永吉三反。平四郎入道。　十三坪安久一反。刑部房。　十四
坪金丸二反。彌藤次。　十五坪金丸二反。左近五郎。　十六坪眞
吉私一反小。彌太郎入道。　十七坪安久三反。刑部房。　十八坪
吉房私二反大。一人。　十九爲里一反大。一人。　廿
坪四反內。良二反大六三郎。金丸一反彌太郎。有木一反才守彌太郎。　廿一坪若宮神
田四反小內。一反小介三郎祝。三反太六三郎。　神宮寺修正田 廿二坪爲直私大。九郎殿。

廿三坪良一反。一人。　廿四坪直遠私一反小。彌太郎。
廿五坪直遠私二反大。大神主。　廿六直吉私二反。副島ヲリハタ。
廿七坪利助私六反内。三反大神主。三反四郎太郎。　廿八坪二藤祝
私五反内。二反平三郎。一反四郎太入道。二反彌次郎。　廿九坪良四反大。六三
郎。　卅坪守安私一反小。才守入道。　卅一坪延成一反
小。平三郎。　卅二坪安祝私二反。一人。　卅三坪金丸一
反。七郎次郎。　卅四坪金丸三反小。藤次神夫。　卅五坪金丸大。
四郎太郎。　卅六坪安久二反。一人。

二里

一坪金丸（スタ）七反内。一反行事次郎。一反才三郎。一反三郎四郎。一反別當太郎。二反六郎入道。
一反才次郎。　二坪良三反。七郎次郎。　三坪金丸二反。又次郎殿。
四坪金丸三反。請田三斗五升代。大別主。　五坪金丸二反。
鍛冶入道。　下略　七坪大丸二反小。六斗五升代。六郎次郎。　七坪
大丸三反半。六斗五升代。大神主。　八坪金丸二反内。一反六十
入道。一反次郎太入道。　九坪金丸四反。四郎殿。　十坪金丸一反

大内。一反左近五郎。大源六郎入道。　十一坪金丸一反大。三郎次郎。　十二
坪金丸二反半。六斗五升代。大夫四郎。　十三坪金丸二反。四郎神主。
十四坪友清私五反。一人。　十五坪金丸小。小藤太入道。
十六坪金丸四反半。六斗五升代。跡。　十七坪金丸（河ナカコ）。本二反。二反。平三郎。
十八坪金丸二反。三位房。　十九坪金丸二反内。二反。二反。御
倉入。三郎殿給分。彌平太入道。　廿坪金丸（河ナカコ）二反大。三位房。　廿一坪
金丸三反小。孫三郎。　廿二坪金丸一反。長宮三下神タ、。大三郎彌五郎。
廿三坪富永三反。小藤太入道。　廿四一丁内三反内。一反半小
治一郎。一反半二郎大郎ヲ、クラ。　四反同。利助一反才三郎。金丸二反太入道ヲリハタ。　金丸
（二カ）六反内。一反又次郎。一反三位房。三郎太郎。　廿五坪金丸大。古気四郎。　廿六
坪金丸六反内。四反五郎四郎。一反中太郎。彦太郎。　廿七坪金丸二反。
小野尼御前給□あてヨリ。等覺阿闍梨。　廿八坪金丸小。六斗五升代。介太郎。　廿九
金丸二反。次郎太郎。　卅坪守安私八反内。三反彌平太。二反才三郎。
三反別當太郎。　卅一坪（アウタ佐養沒神田神主ヲリトタ）一丁五反内。七反六郎太郎。一反津原四郎。一反四郎太入道。一反
才二郎。五反勢至殿神田道密房。　卅二坪甲丸三反。撿非違使（吉貞）。　卅三坪金丸

三反。小藤太入道。(ナハシロタ)　卅四坪金丸三反内。二反次郎太入道(ナカヘ)。一反彌次郎吉原。
卅五坪金丸小。六斗五升代。別當太郎(チリハタ)。　卅六坪金丸小。小藤太入道(チリハタ)。

三里

一坪直吉私二反小。七郎太郎(チノ)。　二坪吉房私二反。大御前。　三坪金丸二反。小藤太入道。　四坪金丸二反内。一反善太入道。一反小藤太入道。　五坪金丸一反。津原四郎。　六金丸。飯津嶋入道。　七坪利助一反(イトタ)。九郎殿。　八坪合力三反内。一反九郎殿。二反次郎大夫(チリハタ)。　九坪重技二反半。才守入道。　十坪金丸一反。願成房。　十一坪金丸二反内。一反善太入道。一反別當四郎。　十二眞吉私二反。才守入道。　十三金丸一反小。又次郎殿。　十四坪金丸六反内。五反九郎殿。一反大五郎二郎。　十五坪吉永私一丁内。久九郎殿。二反彌三郎。　十六坪金丸二反小。安平四郎入道(チリハタ)。　十七坪金丸二反大。天神田。彌三郎。　十八坪有木三反。五郎四郎。　十九坪金丸一反小。彌三郎。　廿坪金丸一反小。九郎殿。　廿一坪金丸四反。五郎四郎。　廿二坪金丸二反小。一人。　廿三坪眞吉私二反小内。一反小源太郎。一反大夫四郎。　廿四坪守安私一反半。大夫四郎。　廿五坪金丸一反。安藝殿女房(チリハタ)。　廿六坪有木二反内。一反藤三郎。一反又太郎入道。　廿七坪眞吉私二反。三位房。　廿八坪金丸三丁大内。七反大脇鷹。三反天宮神神田。　廿九爲里一反。九郎殿。　卅坪金丸一反。一人。　卅一坪金丸吉房一反小。鍛冶入道。　卅二眞吉一丁内。七反鍛冶入道。一反三位房。二反内「一反四郎丞一反道密房。」　卅三坪金丸一反。大鍛冶入道。　卅四坪清大夫私二反半。九郎殿。　卅五坪眞吉私九反内。一反小又次郎殿。三反平三郎。二反半安平四郎。一反半藤太。　卅六坪金丸大。安平四郎。

四里

一坪爲里私六反内。一反才守入道。一反三位房。二反半六大夫。二反才守入道。　二坪金丸一反。三位房。　三坪金丸二反。刑部房。　四坪安私三反内。一反天神田。二反才學入道。　五坪司二反(ヲサタ)。照念房作隱田。建治二踏出。三位房。　六坪金丸二反大。土藏四郎。　七坪金丸二反内。一反大六三郎。六斗五升代。二反願成房。　八坪眞遠私二反。一反又次郎殿。

一反鍛冶入道。　九坪金丸三反內。一反又五郎。二反安五郎七郎。　十坪節
私小。又五郎。　十一金丸三反小。六斗五升。別當太郎。　十二坪金丸
二反大。彌藤次。　十三重枝三反。九郎殿。　十四有木三反小。
才守入道。　十五坪守安私五反內。二反小太郎。三反別當太郎。　十六坪金
丸三反。舟次郎。　十七坪金丸二反小。大夫四郎。　十八坪節弘
二反內。一反性圓房。一反因幡房。　十九坪節弘二反。又次郎殿。　廿坪
節弘四反。　一反天神又太郎入道。一反四人。二反平二郎。　廿一坪守安私二
反內。一反小德力法師。大大夫四郎。　廿二坪富永三反小。安五郎七郎ヲリハタ。
廿三富永二反。土藏四郎。　廿四坪金丸一反。一人。　廿五坪眞
吉私一反小。藤太入道。　廿六坪金丸大。里長。當九郎殿。　廿七坪
吉房二反大。祭料田(フチクラ)。蓮乘後家。　廿八坪節弘三反。大夫三郎。　廿九
坪眞吉私三反。彌平太。　卅坪吉房私一反小。別當太郎。
卅一坪金丸吉房私二反小。才守。　卅二坪金丸小內。
一反六十步平次郎。一反六十步惠丸。　卅三坪四反小內。吉房三反。□□兒立神田大神主。金丸一
反小九郎殿□有檢田米。　卅四坪眞家四反內。二反半彌三郎。一反半性圓房。　卅五

坪守安私四反。三反九郎殿。一反又五郎。　卅六坪重枝三反。才守。

五里

一坪金丸二反。又次郎殿。　二坪金丸小。六斗五升代。舟次郎。
三坪金丸一反。甲阿神田。大御前。　四坪金丸一反大。一人。
五坪金丸一反。七郎太郎。　六坪金丸三反小。平六大夫。
七坪節弘平。一人。　八坪一丁。天宮神田。

小野

一坪重枝三反。三位房。　二坪金丸一反半。四郎神主。　三
坪金丸一反大。五斗五升。因幡房。　四坪金丸大。五斗五升代。三郎太
郎ヲノ。　五坪金丸二反小。小大夫。　六坪金丸一反。一人。
七坪金丸三反內。六斗五升。一反次郎大夫ヲリハタ。二反性圓房。　八坪吉
千與私五反內。五斗五升。二反六郎大郎入道。一反五郎二郎。一反願成房。一反五郎四郎。
九坪金丸三反。十一月膳料。田冷。　十坪金丸三反。四郎殿。　十一
坪利助三反。田冷。　十二金丸二反。十一斗御膳料。一人。　十三
坪金丸。六斗五升。文五郎。　十四坪金丸三反。六斗五升。二反光蓮後家。一反五郎

檢校。　十五坪金丸一人。光蓮後家。　十六金丸一反半。介太郎。
十七坪金丸一反半。宇佐善二郎ヲリハタ。　十八坪金丸一反。長作。彥太
郎。　十九坪金丸一反。三郎次郎。　廿金丸一反。次郎六郎ナカヘ。
廿一坪金丸二反內。一反觀教房介寺。一反六郎入道。　廿二坪金丸大。文五
郎。　廿三坪金丸半。五斗五升。介太郎。　廿四坪金丸小。五郎檢校。
廿五坪金丸大。一人。　廿六坪金丸一反。六斗五升。十人。願成房。
廿七坪金丸一反小內。大平太郎。大平三五郎。　廿八坪金丸小。七郎
六郎。　廿九坪金丸二反。才三郎。　卅坪金丸二反。五斗五升。性圓
房。　卅一坪金丸一反。德石女ヲリハタ。　卅二坪金丸一反半。六郎
太郎多田。　卅三坪金丸一反。五斗五升代。德石女ヲリハタ。　卅四坪金丸二
反內。一反大六郎。一反又太郎。　卅五坪金丸一反小。源六。　卅六金
丸二反。才三郎。

二里

一坪天宮神田二反。舟次郎。　二坪金丸一反小。才三郎。
三坪安久一反。刑部房。　四坪甲丸二反。舟次郎。　五
坪利助二反。才禰宜當知行。一人。　六坪重枝二反內。一反次郎
大夫。一反七郎太郎テノ。　七坪大半子神田七反。平六大夫入道。　八坪
金丸二反。大野須賀女房。　九坪松吉私一反半。藤太入道。　十
坪金丸一反。無俾申。大野須賀女房。　十一坪（弓田）金丸一反。六斗五升。四郎
丞。　十二坪金丸一丁內（弓田）。「六反。一反彌四郎。一反德力太郎入道。二反平太。二反源五郎。」
四反。「一反教圓房。一反彌四郎。一反禰宜太郎。一反源三郎。」　十三坪金丸七反內。一反三郎
殿。二反中太郎。一反三郎太郎。二反彌源次。一反彌次郎。　十四金丸一反小。教圓房。
十五坪金丸一反半。一人。　十六坪金丸一反小。禰宜太郎。
十七坪（弓田）金丸二反半。三郎太郎。　十八金丸三反。五斗五升。藤太入道。
十九坪金丸大。一人。　廿坪金丸一反。一人。　廿一坪
金丸一反小。七郎太郎。　廿二坪金丸一反小。當作才次郎。孫三郎。
廿三坪金丸三反內。脇鷹神田。二反撿非違使。一反彌四郎。　廿四坪金丸
小。介丞入道。　廿五坪金丸大。彌四郎。　廿六坪金丸一反。介寺殿。
廿七坪金丸一反小。才禰宜作。才三郎。　廿八坪金丸二反。一反彌源
次。一反才太郎。　廿九坪金丸二反。宮太郎。　卅坪金丸一反小

内。一反大御前。小藤田次郎。　卅一坪金丸小。里長。　卅二坪金丸二
反。六斗五升。彌入道。　卅三坪金丸一反。里長。　卅四坪金丸二
反。一反舟次郎。一反中大夫入道。　卅五坪金丸一反半。因幡房。　卅六坪金
丸一反半。平六大夫入道。

三里　司大　六四郎

一坪金丸大。平六大夫入道。　二坪金丸一反。大賓城房介寺。　三
坪金丸一反。一人。　四坪金丸一反。一人。　五坪
金丸一反。大平次三郎。　六坪金丸一反。才次郎。　七坪金
丸大。撿非違使。　八坪金丸七反内。三反細工ナカヘ。二反介三郎。二反行平次郎。
九坪金丸二反。印鎰里長。　十坪有木一反。大夫四郎。
十一坪利助三反。才彌宜。　十二利助二反。一人。　十三坪
有木二反。一反平太次郎。一反次郎太郎。　十四坪利助三反。才彌宜。　十五
坪利助一反。十一人。　十六坪金丸二反。孫三郎。　十七坪金
丸二反小。六斗五升代。神平太。　十八坪金丸一反。五斗五升代。彌平太。
十九坪金丸二反。道密房。　廿坪金丸一反。五斗五升代。彌平太。

廿一坪金丸大。祝次郎。　廿二坪金丸二反。平四郎入道。　廿三坪
利助直私一反小。舟次郎。　廿四坪金丸二反。九郎殿。　廿五
坪金丸一反半(カネタ)。五斗五升。津原次郎。　廿六爲里二反。長ヒチヤ。
廿七坪金丸一反。請田三斗五升。因坊房ヒチヤ。　廿八坪金丸半。彌三郎入道。
廿九坪金丸半。五斗五升。三郎大夫。　卅坪金丸二反。彌三郎入道。
卅一坪金丸三反。惡王子神田。二反中六。一反一人。　卅二坪金丸二反。
惡王子神田。一人。　卅三坪金丸。祝次郎。　卅四坪金丸三反。一人。
卅五坪金丸大。一人。　卅六金丸一反。宮太郎。

四里

一坪金丸三反。一反別當太郎。一反次郎太郎。一反性圓房。　二坪利助。才彌
宜。三反平五郎入道。　三坪金丸二反半。大御前。　四坪金丸一反
小。五郎四郎。　五坪金丸三反。六斗五升。平七郎入道。　六坪金丸
三反内。六斗五升。一反平五郎。一反三郎。一反六郎太郎。　七坪合力一反。介三
郎祝。　八坪金丸二反。一人。　九坪合力三反。彌宜五郎祝。
(十カ)
小爲里三反。藤次郎。　十一坪吉直私八反内。二反四郎丞。三

反孫三郎。三反禰宜五祝。　十二坪金丸一反。彌四郎。　十三助直私八反。二反大介太郎。五反小性圓房。　十四坪有木二反。平五郎。　十五坪金丸二反。平三郎入道。　十六坪二反半內。六斗五升。一反又次郎。一反藤太入道。　十七坪金丸二反半。大御前。　十八坪金丸一反半。藤內入道。　十九坪金丸二反半。中平次。　廿金丸二反半。因坊房。　廿一坪金丸一反。土器細工。　廿二坪金丸二反。同前一人。　廿三坪金丸二反。中三郎。　廿四金丸一反小。四郎兵衛。　廿五坪金丸二反。源入道。　廿六坪金丸二反。文五郎。　廿七坪金丸一反。大王子神。三位房。　廿八坪有木一反小。中三郎。　廿九坪有木一反小。丈五郎。　卅坪金丸二反。大細工。　卅一坪金丸三反內。二反四郎神主。一反四郎丞。　卅二金丸五反內。二反禰宜太郎。二反酒司。一反御子別當。　卅三坪金丸一反大。大御前。　卅四坪金丸一反。五郎太郎。　卅五坪金丸三反內。一反。一反五郎四郎。一反細工入道。　卅六金丸二反。太郎大夫。

五里

一坪金丸四反半。平五郎入道。　二坪金丸三反。三郎太郎。　三坪金丸一反大。津原四郎。　四坪金丸三反。四郎兵衛。　五坪金丸小。大細工。　六坪金丸二反內。一反大祝二郎。小彥大夫。　七坪金丸三反內。大御子神田。一反大細工。一反小文平三入道。　八坪金丸二反小內。一反六十步文平三。一反六十步又次郎。　九坪犬丸三反內一反介平殿。一反五郎四郎。一反介丞。　十坪爲里三反。又次郎。　十一坪金丸一反半。　十二坪金丸一反。中平次入道。　十三坪金丸一反。孫三郎。　十四坪金丸二反內。一反小平三太郎。大津原太郎。

弘長元年十月廿五日

# 應永六年香取諸名帳　田所文書

大禰宜殿帳建長。　錄□□帳ハ弘安。　田所帳ハ文保。　安主帳ハ弘安。　□彼四帳□應永六年ニ社家地頭公人寄合テ爲後證□□□□置也。敢

勿疑矣、此外可有注漏候追可注進作。

注進　應永六年卯月十六日

香取九ヶ村諸名帳事 四帳合

合

一坪司神拜田五反內。二反五藤三郎。田□□。二反目代。一反大祝。　二坪吉次私二反。手。　三坪金丸二反內。一反小神□□。六藤太太郎。　四□吉清私一反小。檢校。　五坪利助二反。同人。　六坪司一反小。神有吉。　七坪吉千代私二反內。大六次。一反小撿非違使。　八坪有吉私大。ソハタカノ神。　九坪吉千代私一反小。八人女名。藤太太郎。　十坪□中神司大。マシキ次郎。　十一坪大。八人女名。藤太太郎。　十二坪良二反內。一反藤太三郎入道。一反法願。　十三坪良一反。六郎太郎。　十四坪良三反。檢校。　十五坪司大。夜中神。平太郎入道エノキヨ。　十六坪司脇鷹神二反。大祝。　十七坪吉清私二反大。藤四郎。　十八坪吉千代私五反內。一反金丸御手。　十九坪夜中神司大。　廿坪五反內。細工分田。司三反御手。金丸二反田一反土器。　廿一坪司二反大。次郎丸一ツホタ。小平太作。　廿二坪三反大內。吉千代私。神大。フクサク手。　廿三坪良四反。藤平次入道。　廿四坪吉以私一反小。阿僧祇。　廿五坪眞吉私五反內。一反大祝。三反六郎太郎。一反牛若子。　廿六坪御名六反。同人。　廿七坪行事禰宜私三反。手。　廿八坪行事禰宜私二反。同人。　廿九坪田所三郎私七反。又二五藤太衛門尉。　卅坪今吉御名吉清三反。　卅一坪清里御名吉清四反。　卅二坪行事禰宜私三反。千田手。　卅三坪金丸一反小。瀰三郎入道。　卅四坪金丸二反小。丹次郎入道。　卅五坪吉千代私一反小內。大六郎次郎。大大六四郎。　卅六坪吉千代私二反。サカタ□□願。　卅七坪吉千代私森田三反。手。

二里

一坪實命私一反大。ホツカハノ池藤平次入道。　二坪寺別當一反小。　三坪六反內。御燈田五反。藤平次入道安久一反。　四坪良一町。丁古殿。　五坪重枝手一町內。二反權擬祝。八反丁古地頭分。　六坪

利助八反。　七坪行事禰宜私二反小。手。下イナケ。　八坪淸里私吉安私一反小。六郎二郎。　九坪安久二反内。一反マホリチノ神。一反田所。　十坪金丸一反小。法忍。　十一坪金丸三反大内。一反民部房。二反神加賀房。　十二坪行事禰宜私二反半。手。　十三坪吉安私幹綱二反大内。大八神。手。　十四坪金丸三反小。左入道。　十五坪金丸二反内。一反酒司。一反女子。　十六坪淸里私二反大。神主。　十七坪金丸二反内。一反行事禰宜。一反次郎太郎。　十八坪淸里私三反内。一反祭料田。民部房。二反鶚鷹燈田。　十九坪金丸分田二反。民部房。　廿坪司調用田三反。一反加賀房。二反檢校。　廿一坪安久二反小。ヱコタ又五郎入道。　廿二坪利助祭料田一反小。民部。　廿三坪師松三反。いや三郎入道。　廿四坪吉千代私五反。五郎三郎。五郎四郎。　廿五坪淸里私一反。三郎次郎。　廿六坪有吉私二反小。手。　廿七坪有吉私二反。手。　廿八坪金丸二反。藤四郎。　廿九坪金丸八反内。六反中四郎。二反丁古房。　卅坪寀女作祭料田二反。　卅一坪金丸三反。手。　卅二坪重枝御名二反。いや三郎入道。田所。　卅三重枝御名二反小。丁古。　卅四良三反半。御手。　卅五坪空追御名三反大。山田大神主。　卅六金丸三反小。左入道。

三里

一坪金丸一町五反。手。　二坪安久三反内。一反神手。　三坪安久御名八反田。手。　四坪合力二反。法忍房。　五坪眞延私五反。丁古房。　六坪中四郎私三反。カタシホ手。　七坪安久二反。平六入道。　八坪安久御名二反。いや三郎入道。　九坪中四卜私一反。キ祝。　十坪金丸五反。手。　十一坪安久四反内。二反新平六。二反平三郎。　十二司半。平六。　十三寺實命四反。手。　十四司大。四郎三郎。　十五坪安久一反小。いや四郎。　十六坪師松四反内。一反金丸キ祝。　十七坪安久三反内。一反孫次郎。二反キ祝。　十八坪安久三反内。一反物申五郎。手。　十九坪司一反。新三郎入道。　廿坪中四郎

私三反。權守。　廿一坪金丸三反。中三郎入道。　廿二坪金丸
八反。手。　廿三金丸三反內。一反平六。二反新藤。　廿四坪利助
三反。手。　廿五坪四反今吉。吉宗。　廿六坪眞吉合力
經田二反。　廿七坪司合力大。丹次郎入道。　廿八坪吉宗私
大。三郎次郎。　廿九坪司合力大。別當六。　卅坪吉清私三
反。田中內六次。　卅一坪吉清私二反。後家尼。　卅二坪中四良
私二反。權守。　卅三坪安久三反。檢校四郎。　卅四坪金丸
二反。手。　卅五坪師松御名三反。赤馬。四郎三郎作。　卅六金
坪丸二反。檢校四郎。　卅七坪御名二反。次郎太郎。

四里

一坪眞吉御名四反。手。　二坪金丸大。平次郎。　三
坪吉清三反內。司二反。大神田一反。　四坪今吉御名二反。四郎。
三郎。　五坪司半。檢校。　六坪金丸三反。手。　七坪
金丸三反。八郎太郎(チイノ)。　八坪吉千代私五反內(カイタ)。三反大祝。二
反田所。　九坪司乙金大。神主殿。　十坪司大。御手。　十一

坪金丸二反。いや次郎。　十二坪吉千代私二反內。一反神。
十三犬丸二反。後家。　十四坪良吉次大　十五坪良二
反吉千代。神。　十六坪五藤禰宜作吉宗一反(ホソタ)。　十七
坪惣神々田大。出羽殿。　十八坪良二反。神。闕戸入道。　十九坪
司寺三反(サヽハラノ)。闕戸入道。　廿坪犬丸三反。行事禰宜。　廿一坪金
丸一反小。手。　廿二金丸一反大。長次郎神夫。　廿三坪金丸
一反。手。　廿四金丸一反小。濁中太作手。　廿五坪寺一反
大。成道尼。　廿六坪司一反小。長次郎神夫。　廿七坪上分大。正月
マワ物。同人。　廿八坪安久二反小。トマキ。手。　廿九坪今去二反。
手。　卅坪司大。御手。　卅一坪金丸二反。手。　卅二坪
上分四反內。大八闕戸入道。　卅三上分大。闕戸入道。　卅四坪吉
清私一反小。豊前殿。　卅五安久一反小。同人。　卅六安久
大。源次郎作。　卅七坪實命私三反。藤平次入道。

五里

一坪上分大。荒次郎。源次郎作。　二坪上分三反。同人。　三

坪良大。別當三郎。　四坪上分大。同人。　五坪金丸四
反。荒次郎手。　六坪金丸二反。同人。　七坪司一反
小。御手。　八坪七良作御手三反。　九坪乙金二
反。三郎六郎。又乙金二反大。大禰宜四郎。　十坪御名三反。岩見公。　十一坪
七郎私二反小。　十二坪犬丸三反。手。　十三乙金三
反。神主殿。　十四上分四反。堀口神主。　十五有木三反。手。
十六合力二反。檢校四郎。　十七坪岩同大。檢校。　十八安久
三反大内。一反御名。福田作。　十九坪寺四反内。二反寺手。二反關田入道。
廿坪安久二反。檢校。油井。　廿一坪安久二反。手。　廿二坪
司一反。四郎太郎入道。　廿三吉清私一反。同人。　廿四實命
一反大。藤平次入道。　廿五合力大。同人。　廿六寺實命大。四郎
太郎。　廿七安久寺三反。後家。　廿八坪有木五反内。二反
大神田。　廿九坪安久二反。手。　卅安久一反小。手。
卅一安久一反小。同人。　卅二安久六反。手。　卅三良四
反。手。　卅四良四反。六郎三郎入道。　卅五金丸大。同人。　卅六

良一反大。三ノ作手。
六里
一坪眞吉一反小内。小御名中五郎。　二坪金丸一反。中五郎。
三坪節戸四反。同人。　四郎師松四反。手。　五
坪實命三反。兵部。　六坪藤次郎祝大。　七坪重
枝手大。　八坪師松手二反。　九坪吉清私御名
手。　十良一反小。中五郎。　十一良大。新平作。　十二良小。平
六。　十三良大。權守入道。　十四良大。四郎三郎。　十五吉清私御
名二反小。六郎入道殿。一反御名。　十六吉清私小。六郎次郎。　十七眞
吉私御名二反大内。　十八御名三反。關田。　十九實
命松一反半。　廿師松三反。權守三郎。　廿一師松二反
半。平六入道。　廿二實命松大。彥四郎。　廿三吉清私二反。三郎
太郎。　廿四安久二反。六次郎。　廿五藤四郎私一反。平太番匠。
廿六實命三反小内。一反小吉清。　廿七金丸三反。立三郎入道。
廿八司小。四郎三郎。　廿九司一反小。大井戸平六入道。　卅坪司御

名五反。藤四郎。　卅一坪司大。御ハライ。權守入道。　卅二司神二反。
御ハライ。　卅三司御名半。立三郎。　卅四御名一反小。中五郎。
卅五司半。藤次郎。　卅六司大。平六。

七里

一坪實命私二反。藤三三郎。　二坪實命一反。藤平次。　三
坪安久三反。手。　四坪司一反。吉清神。　五坪御名
一反半小。大輔殿。　六坪御名一反半。文次郎入道。

佐平原

一坪師松五反。丁古殿。四郎神主。　二坪司二反半。佐原禰宜。
三坪司二反。四郎三郎。　四坪安久一反大。新三郎。　五坪
金丸三反。園田殿。　六重枝御名二反小。平次郎。　七坪
良二反。新次郎。　八坪司一反。平次郎。　九坪安久大。やい
太郎。　十御名三反。三郎太郎入道。　十一司小。早田四郎太郎。　十二御
名岩同二反。大輔。　十三岩同二反。六郎四郎。　十四安久
御名二反。大輔殿。　十五御名一反。井料。録司代。　十六安久三
反。同人　十七司三反。大輔殿。　十八司三反。檢校。　十九良
二反大。次郎太郎。　廿司二反内。一反神。大輔殿。　廿一司一反。
平次郎。　廿二司二反。源太祝。　廿三司三反。文三郎祝。　廿四合力一
反半。權太。　廿五合力一反半。源太祝。　廿六金丸一反。
檢校。カラス。　廿七合力二反。四郎太郎。　廿八岩同二反。大輔殿。　廿九
司二反。いや次郎。　卅司一反。大輔殿。　卅一司吉宗私一反。
四郎太郎。　卅二金丸二反内。一反井料。大輔殿。　卅三金丸二反。平太
郎。　卅四金丸一反。三郎太郎。　卅五金丸二反。六郎太郎。ケンチヤウ。神。
卅六金丸三反。中四郎。

二里

一坪吉宗一反。小ハ御名。　二坪御名二反内。一反ハ井料。大輔
殿。　三御名二反。檢校。　四御名一反。ケンチヤウ。四郎太郎。
五御名三反。四郎太郎。　六御名五反内。二反若狹。三反大輔殿。
七坪御名二反。大輔殿。　八坪御名二反。にしとう。　九
坪司一反。瀬二郎。　十坪司三反。小四郎太郎。　十一司三反。

又次郎。　十二司一反。同人。　十三合力一反半。檢校太郎。　十四金丸三反。又次郎チイノ。　十五司二反。中太作。　十六金丸二反。又次郎サワラ。　十七岩同二反。同人。　十八坪金丸二反。同人。　十九司二反。權三郎。　廿合力三反。又次郎。　廿一御名四反。藤九郎入道。　廿二御名六反。藤九郎。　廿三司二反。若狹殿。　廿四安久一反小。藤四郎。　廿五坪安久二反。權三郎。　廿六吉千代私二反。藤四郎。　廿七師松二反小。三郎太郎。　廿八安久二反小。安平次作。　廿九安久吉淸三反。　卅安久吉淸一反。同人。　卅一司二反。大輔殿。　卅二吉千代松二反小。大輔殿。　卅三御名二反。七郎三郎。　卅四司三反。ナスヒ三郎太郎入道。　卅五司三反。中三郎。　卅六司二反。同人。

三里

一坪司經田三反。別當。　二坪司三反。同人。　三坪司岩同大。若狹。　四坪司大。同人。　五坪司一反。シノハラ彥次郎。　六坪師松七反。手。　七坪司小。源太祝。

八坪有木三反大內。合力一反。　九坪司經田三反。越後屋。　十坪司經田大。平次郎。　十一坪司合力大。彌太郎。　十二司小。若狹。　十三司上。中三郎。　十四司一反。福田作平三。　十五坪司小。大輔殿。　十六司小。若狹。　十七司大。大輔殿。　十八司半。平次郎。　十九司二反小。中三郎。　廿司大。五郎四郎。　廿一坪司小圓智作。七郎太郎。　廿二御名三反半。權太。　廿三司小福田作。又次郎。　廿四司合力大。若狹。　廿五坪良大。七郎三郎。　廿六寺實命七反。源太祝。三印。手。　廿七司合力一反大。彌太郎。　廿八安久御名一反大。手。　廿九乙金御名二反小。八郎太郎。　卅師松四反。平太三郎。　卅一司合力一反小。又次郎。　卅二合力小。いや太郎。　卅三司半。中太。　卅四司半。大輔殿。　卅五合力六反半。別當。　卅六司合力六。若狹。

四里

一坪合力一反半。別當作。　二坪司合力小。若狹。　三

坪合力小。七郎太郎。　四坪司一反小。次郎太郎。　五坪司大。吉宗平次郎。　六坪司吉宗一反。小次郎太郎。　七坪司一反。吉宗平八。　八坪金丸二反内。一反合力。法明房ホウ。　九坪金丸半。中太。　十坪寺三反。三郎五郎。　十一坪司寺大。大和殿。　十二坪金丸二反。神。申祝。　十三司二反小内。二反越後。小若狹。　十四司二反。神。檢校。　十五坪司一反。内神。藤作入道作。

新部

一坪良中五郎松二反小。　二坪御名三反。手。
三坪良三反。大和房。　四坪寺二反。別當六。　五坪寺一反小。大和房。　六寺一反小。大和房。　七寺二反コシキタ。六郎太郎。
八寺二反小。唯智房。　九寺一反小。唯智殿。　十寺御名二反小。大輔殿。　十一一反小内。大合力。大寺。　十二寺手一反小。　十三大内。神。一反檢校次。小八寺。小合力。越後殿。　十四合力寺一反内。半合力。半寺。　十五坪寺一反小。平八。　十六寺四反。同人。　十七司末千代二反。　十八坪司經田一反。大和殿。

十九坪良一反小。五郎太郎神。　廿坪司一反。惣神々同人。　廿一坪御名四反。若狹。　廿二錄司代私二反小。藤四郎。　廿三良四反。禰宜四郎。　廿四御名三反。同人。　廿五爲里御名三反。平四郎入道。　廿六金丸一反小。同人。　廿七良二反。同人。　廿八司一反小。周防殿。　廿九司一反。同人。　卅良三反。同人。　卅一坪司一反半。大神主。　卅二司大。平五郎。　卅三司一反半。祝五郎。　卅四司小。いや七。　卅五司三反半。又三郎祝。
卅六司二反半。檢校平四郎。　卅七司二反半。

二里

一坪司半。矢田部作。いや太郎。　二坪司二反。五郎太郎神主。　三坪司一反。中野作。源平太。　四坪司三反。神。平一郎。　五坪司半。大井土三郎太郎。　六司二反。大夫次郎。　七坪合力一反。檢校太郎。
八坪司一反。六十郎新平。　九坪司一反。權祝。　十司一反小。神。丹次郎。　十一司一反。八郎王子。四郎太郎。　十二司一反小。同神。孫次郎。　十三利助二反。權三郎。　十四司半。大井土。藤四郎。　十五

坪良二反小。檢校入道。　十六良三反。四郎神主。大神主カサマツリ　十七
良三反。小長手。　十八司小。大工作。四郎太郎。　十九司一反小。
田冷私丹次郎。　廿金丸一反小。大ハ神。長次郎。　廿一司三反大。三郎太郎。
廿二司金丸二反小。カチノ修理料・大神主。　廿三司一反小。平六。
廿四司一反小。神拜田。酒司。　廿五司一反六十歩。大井土。次郎太郎。
廿六司小。中野作。平太郎。　廿七司大。平所作。　廿八司二反。大夫
次郎。　廿九司一反小。神酒司。　卅司一反半。中祝。　卅一
司半。神。中平神。　卅二司一反。八郎王子。作。四郎太郎。壻四郎　卅三司一
反。惣神主。荒野祝。同人。　卅四司一反小。新三郎。　卅五司一反小。
トシタテ田冷。　卅六司一反小。カサノカツチ神子別當。

三里。

一坪司小。丹次郎。　二坪司小。雉判官代。　三坪司一反
小。六郎太郎神。　四司小。新三郎。　五坪金丸一丁三反。手。
六吉直二反内。一反小吉直。大御名。手。　七良四反小内。吉直小。
御手。　八司半。いや七。　九坪司一反。浄圓房。　十司二反。

次郎太郎。　十一坪司二反。祝四郎。　十二司二反。長作平六。　十三司
一反。中次郎。　十四司二反。平太郎。　十五司一反。三郎祝。　十六
利助二反。三郎祝。　十七司小。吉宗いや三郎。　十八司大。吉宗。次郎
太郎。　十九坪司一反小。吉宗四郎神。　廿坪乙金二反。闕田入道。
廿一爲里三反小。七郎六郎。　廿二司三反。同人。　廿三司
大。判官代。　廿四良二反小。長。　廿五良二反。藤四郎。　廿六良
二反大。太郎殿作。　廿七助直二反小。ケンチヤウ吉原檢校。　廿八良五
反。大神主。　廿九利助一反。大神主。　卅吉千代私二反。
大神主。

苅馬

一坪合力一反小。手。　二坪合力二反。三郎太郎作。　三
坪合力二反大。平太郎。　四坪寺大。別當六作。　五坪寺二
反。別當。　六坪寺二反半。別當。　七坪合力手三
反。　八坪燈田三反。彌三郎。　九坪良二反。又次郎。　十
坪寺五反。手。　十一安久三反。蓮實坊。　十二寺一反。篠本

作。　十三安久一反半。法明房。　十四坪安久三反内。神、小
平太郎。　十五安久二反半。松山命婦。　十六今吉一反小。平太郎。
十七爲里御名一反小。四郎三郎。　十八合力四反。手。
十九寺御名一反小。次郎太郎。　廿寺二反。三郎太郎。　廿一司
一反半。手。　廿二司二反。手。　廿三司三反壬。手。
廿四良二反小。四郎三郎入道。　廿五良二反。八郎王子神平太郎。　廿六良
三反半。馬場殿神。追野殿。　廿七良三反大。副祝。　廿八金丸二
反。田冷中四郎。　廿九富長御名三反半。大長手。　卅坪良大。
田冷。　卅一富長（永）私一反小。手。　卅二富永私二反半。
二仲作手。　卅三富永私一反半。ツヽミ六十歩。案主。　卅四富永私三
反。文三郎祝。　卅五富永御名三反。三郎太郎。

鍬山

一坪金丸七反。手。　二利助五反。手。　三坪助吉
直二反小。權次郎祝。　四利助私二反。手。　五坪上分
三反半。平三郎。　六坪犬丸大。源三郎。　七坪金丸一反。

勢次郎。　八司一反小。手。　九犬丸一反小。小次郎。　十
坪金丸三反。藤次郎。　十一坪安久一反大。權次郎祝。　十二金
丸一反小。手。　十三犬丸一反大。手。　十四良一反
小。中三郎。　十五金丸三反。平三太郎。　十六上分二反大。權次
郎祝。　十七上分四反。たけたゝ。　十八司一反小。手。　十九甲
丸二反小。いや四郎。　廿司二反。手。　廿一司三反。手。
廿二吉千代經田二反。法忍房。　廿三利助二反大。手。
廿四犬丸一反大。小藤神夫作。　廿五金丸一反小。別當三郎。　廿六
利助一反半。手。　廿七甲丸私一反小。愛鶴。　廿八甲
丸私三反。手。　廿九司吉宗一反小。左入道。　卅利助
三反半。手。　卅一良二反。検非違使。　卅二吉千代私二反。
法忍。　卅三甲丸一反。平太次郎。　卅四利助一反小。平太次郎。
卅五利助二反小。六郎祝。　卅六眞吉五藤次神夫一反
小。

二里

一坪二藤祝私一反半。中三郎。　二坪今吉四反小。
中平神。　三坪成吉私二反。五藤四郎。　四坪良二反。十郎。
五坪吉千代私七反。　六犬丸四反。五藤四郎。　七
中平神私二反小。手。　八坪成吉私三反。目代。
九坪金丸二反。手。　十坪分田二反。小長手。　十一坪
二反内。こもしきのふん　一反五郎四郎神夫。一反こものおさ。　十二犬丸二反。手。　十三
金丸一反半。彌中太。　十四金丸一反小。手。　十五金丸
三反。神藤神夫。　十六金丸二反。平次郎。　十七金丸二反。若狹。
十八利助二反。手。　十九金丸二反小。中太。　廿金丸
一反。藤次郎。　廿一良利助一反。手。　廿二犬丸二反小。
手。　廿三司小。手。　廿四良二反小。今八五郎祝。六郎祝。　廿五永
吉二反小。イツイシク權次郎祝。　廿六犬力一反。中次郎。

上相根

一坪今吉五反。權三郎。　二坪司大。同人。　三坪今吉
二反小。二仲太。　四司小石丸一反小。彌二郎。　五坪司
一反小。平太。　六司小石丸一反大。平太。　七坪
司小石丸二反。同人。　八坪司二反。六郎二郎。　九坪
司二反大。今宮神。同人。　十司半。いや四郎。　十一坪司大。平四
郎。　十二司小石丸三反。中四郎入道。　十三司二反。返田神。中次郎入
道。　十四司御名一反半。又五郎。　十五坪司二反。平四郎入道。
十六司小石丸二反。大三郎太郎。　十七坪御名四反。平次郎。
十八坪司一反小。同人。　十九坪司御名一反半。同人。
廿司二反小。孫次郎。　廿一司房丸一反半。中次郎入道。　廿二
司三反。六郎太郎入道。　廿三司一反大。辻彌三郎。　廿四安久六
反。大夫三郎入道。　廿五司一反。辻彌三郎。　廿六小石丸。彌五郎。　廿七
司一反半。中次郎入道。　廿八司小石丸三反。紀平四郎。　廿九司
御名三反小。又五郎。　卅司小石丸四反。手。　卅一司
大。平三太郎。　卅二御名五反。手。　卅三小石丸一反大。紀平
次郎。　卅四鎌司代私二反小。又五郎。　卅五司半。三郎次郎。　卅六
司御名二反。いや四郎。

二里

一坪司御名三反。淨願房。　二司小石丸四反大。山中平次
太郎。　三坪司反大。六五又太郎。　四司二反小。又五郎。　五
坪司御名一反半。いや四郎。　六司小石丸七反。手。
七坪司小石丸三反。（三月舞田一反）藤三郎。　八坪司小石丸二反。十郎
入道。　九坪司一反。六郎二郎。　十坪司一反。同人。　十一
坪司二反。孫次郎。　十二坪司小石丸三反。平次郎。　十三司
小石丸大前歳。

大相根

一坪小石丸（なからけしり）七反。手。　二坪司小石丸一反。同人。
三司小。中次郎入道。　四司小石丸二反。手。　五坪司
小。辻いや三郎。　六司大。辻彌三郎。　七坪司小石丸三反。前
歳。　八司半。辻いや三郎。　九坪司小。平太太郎。　十司四反。
中次郎入道。　十一坪司一反。いや三郎。　十二司小石丸二反。黒田
四郎入道。　十三司小石丸三反。前歳。　十四司小石丸二反。
丹次郎入道。　十五司一反大。六五又太郎。　十六司一反大。同人。
十七司二反。民部。　十八司小石丸二反。彌五郎。　十九司
小。六郎次郎。　廿司御名（小石丸）一反。又五郎。　廿一司吉次二反
小。中五郎。　廿二司一反小。大夫五郎入道。　廿三司小石丸四
反。三郎太郎入道。　廿四司二反。大夫五郎入道。　廿五司小石丸三
反。手。　廿六司一反小。いや四郎。　廿七司次郎丸六反內。
三反山中。三反平五郎。　廿八司一反半。くろ田四郎入道。　廿九司一反大。
山中。　卅坪司小石丸一反大。實樂。　卅一司二反。
山中次郎。　卅二司二反。六五又太郎。　卅三司小石丸一反。淨觀房。
卅四司一反。丹次郎入道。　卅五司一反小。丹次郎。　卅六司一反。
三郎太郎入道。

二里

一坪司一反。三郎太郎。　二坪司二反。孫太郎。　三司小石
丸小。平次太郎。　四司二反。四郎太郎。　五坪司一反。いや三郎。
六司一反。五郎四郎入道。　七坪司一反。大夫五郎入道。　八司

一反。次郎太郎入道。　九坪司二反。大夫五郎入道。　十坪司半。黒田入道。　十一司小石丸一反六十歩。黒田入道。　十二坪司小石丸三反。同人。　十三司三反。天宮神。同人。　十四司一反小。同人。　十五司二反。同人。　十六司一反小。彦太郎入道。　十七司二反小。黒田三郎。　十八司二反。いや太郎入道。　十九司小石丸二反小。彦太郎。　廿司小石丸二反。三郎太郎。　廿一酒司私二反。實樂。　廿二司寺小。實樂。　廿三司小石丸二反。彦太郎。　廿四金丸二反小。いや四郎。　廿五司小石丸一反小。中次郎入道。　廿六司小石丸一反半。三郎太郎入道。　廿七司一反小。同人。　廿八實樂私三反小。三郎太郎入道。　廿九實樂私二反小。三郎太郎入道。　卅司小石丸一反半。又次郎。　卅一司實樂二反大。民部。　卅二金丸二反。三郎太郎。　卅三安久實樂三反。越後河。　卅四司小。中次郎入道。　卅五司一反半。六五又太郎。　卅六司大吉次私。中三郎入道。

三里

一坪司三反大。御手。　二坪司大。六郎二郎。　三坪司一反。丹次郎入道。　四金丸三反。六郎二郎。　五坪金丸二反。丹次郎入道。　六司小石丸大。丹次郎入道。　七坪金丸二反。中次郎入道。　八坪金丸一反半。又次郎。　九坪金丸二反。いや三郎。　十金丸二反。丹二郎。　十一坪司小石丸二反。山中。　十二坪司一反。いや三郎。　十三司一反小。平三三郎入道。　十四金丸一反。いや三郎。　十五司三反。八人女。黒田四郎入道。　十六司一反。彦太郎。　十七司二反。平五郎。　十八司二反。山中平二郎。　十九司一反。彦太郎。　廿司大。いや太郎入道。　廿一司大。三郎太郎。　廿二司小。いや三郎。

返田

一坪司三反内。一反半彌平太。一反半新平三。　二坪金丸。中六。　三坪司小。源平太。　四金丸大。いや三郎。　五司二反。神。中六。　六司一反小。いや三郎。　七司一反。神。中六。　八金丸一反小。六郎二郎。　九金丸分田三反。次郎神。　十坪司一反。

若宮神。祝四郎。　十一金丸三反。田冷。　十二爲里御名二反半。神。田次郎。　十三司大。神。中五郎。　十四司半。七郎次郎。　十五小石丸一反半。平四郎入道。　十六司小石丸一反半。平四郎入道。　十七司大。七郎次郎。　十八司二反。蓮道彌三郎。　十九御名一反小。三郎祝。　廿司分田三反。たなかし。　廿一司小石丸三反。いや三郎。　廿二大細工分田一町三反。神。大細工。　廿三司二反。辻いや三郎。　廿四御名二反。黒田三郎。　廿五金丸三反。同人。　廿六司二反半。又五郎。　廿七金丸四反。次郎神。　廿八司方丸二反。いや六作。　廿九金丸二反小。手。　卅次神分田四反。次郎神。　卅一今吉御名一反大。平次郎神。　卅二利助三反。二月一日祭料田次郎神。　卅三助直方丸二反小。□□。　卅四司方丸一反半。四郎入道。　卅五金丸三反。源三郎入道。　卅六合力三反。手。

二里

一坪犬丸二反。小長□。　二坪金丸三反。檢校三郎入道。　三吉直方丸三反。さはう。　四吉直三反。同人。　五吉直三反。又太郎。　六富永二反大。返田神。　七吉安二反。祭料。藤四郎。

右爲後證社家地頭公人同心更不存私。應永六年注置處也。若此之條僞申候者。當社大明神御罰於各々身上可罷蒙候。仍所定如件。

應永六年五月日　案主在判

田所在判

錄司代在判

宮□代紀右近三郎左衛門尉在判

大禰宜兼□宮司散位長房在判

□原

合力　胤幹　一久御名下ひ同人。

〔一〕秀野長分　死亡跡

□□胤幹二反カ子タ同。　二反經田同。　畠二反長内同胤幹。

〔一〕權次郎祝分
田一反クワ山安久寺コフナツ
〔一〕□堀口神主分
(田カ)四二反ウマツチ胤幹。
一□三郎祝分
(田カ)四二反司津原崎椿阿彌。畠二反御名津原胤幹。
畠大金丸津原同。中半御細工田胤幹。田一反經
田同。田二反マミアナ金丸同。
一文三郎祝分
田二反カマスカ胤幹。二反佐原大ワシ同。畠大津原同
胤幹。
一權禰宜分
田一反丁古サヽハラ三郎兵衛跡。
一高藏目代分幷庶子等迯死亡跡
伊勢阿闍梨死亡。
□人ムナタカ三郎兵衛跡。畠一反サツラ同人。田

一反小ヤナカ十一月初酉鎮守神同人。□□ケナケ谷本入道跡。
田半ヤナキタ三郎兵衛跡。

ツギメ

□□ナケ三郎さへもん。田一反ヤナクキタ。
□クトタシノ下大方跡。
宗實孫四郎庶子他所死亡。
田六反リヤツ小内三反中村三郎左衛門三反小大鷹寺大大クワタ三郎さへ
もん。大ヱタキヤ大方跡。一反小カトケラ中村三郎さ
へもん。一反小ミヱタ不ハ畠ナリ同人。大ジニタ大方跡。
畠一反ヒキチ小ヤシキアリ平三かもとやしき中村三郎さへもん。畠
三反サマツハタカノ神同人。畠大ミスミ同サマ大鷹寺。畠二反タマタチ
キノサマ中村さへもん。屋敷一宇三郎さへもん今の同小三郎入道屋幷小畠三所アリ三郎
さへもん。山一クキ號坊山ト天鷹寺知行。其外散
在野畠等所々ニアリ。
五藤内同正月內
田二反スクキ大鷹寺。二反小内一反安久寺ヤトクラノ一反小大鷹池祭神
田十一月廿二日ノマツリ。

畠一反(サヽハラ)大鷹寺。畠一反(アミタ堂ノウシロ)大鷹寺。
屋敷一宇并(又小屋敷合)二ケ所同三郎兵衛跡。
　孫五郎入道跡死亡
田四反(エタキヤ)大方跡。大(大クワタ)大鷹寺。屋敷一
所(ハナワノタテ。平三郎カヤシキ。)目代惣領分押領。田二反小(丁古アカ
タ)胤幹。田五反(ムシタ谷本入道跡。五郎次郎內。)
田二反(アカタクワ山ノ入)中村胤幹。屋敷一所(スクキ畠在)山野內
細路一所(ネマアチ)內藥師堂屋(并畠山野等古今ノ屋共ニ)同。畠
一所(アサキヤ)中村三郎さへもん。
　右此外散在野畠等所々ニアリ
(ツギメ)
一田所分庶子關戸尼死亡跡
畠二反(クホノシト)屋敷一所安久寺。田一反小良(西ノ井土)安久
寺。
田小(ニシノキト七郎カ跡)大鷹寺。田一反(同坪)同大鷹寺。田
一反太郎(同坪)追野寺。
田一反(ニシノキト)吉清名。同一反大(同坪)中村三郎さへ
もん。
　田所惣領分田二反(ヌマカチ)下地中務跡。田一反小
　(赤馬下地サキ)同中務跡。
田二反(佐原所務)胤幹。一反小(ヒラタ所務)同人。畠一反小(ヒチヤ所務)同人。
畠二反(ヨシハラ所務)同人。田二反(丁古イヒタ)下地已上同胤
幹。
　檢校分(丁古)
屋敷一所并細路一所(并山野畠等アリ。)平內入道屋畠一
所。(尺ナト)大善ノアト。
畠一反(エタキヤ)大方跡。
　弊所祝分
堂(カナクホノ)ノアトヨリ西エ道(ヲカキル)。南ハ道。北ハホリヲカキ
ル。胤幹。
一油井檢校分。畠一反(油井ノキハタ追野。)
右注進如件。雖有散在所々注漏追可申也。

今吉名事丁古
廿六坪。今吉御名大。物忌。
四里。四坪今吉私二反。手。
廿九坪。今吉二反。手。一里今吉御名三反。物
忌。
苅馬。
(ツギノ)
□坪。今吉一反小。平太入道。
鍬山。
二里。
三坪。今吉調用田分田四反小。中平神作。
八女名。九坪。吉千與私一反小。八女名藤太郎。
十一坪。八女名大藤太郎。
十五坪。吉千與私。八女名三反。次郎太郎入道。
桶(本ノマヽ)栢判官　烏(本ノマヽ)檢校　一圓死亡逃亡
(ツギメ)
一　大和分
□□□□田(ツトノヤツ)胤幹。イクサ田(大井土油 平内屋)同人。畠一
反小(大畠已上カ キノ木畠)同人。
□十六□一反六十歩(ツハキタ)胤幹。一反半助□(クレタ)
相良。一反小(寺ノ下)胤幹。
中祝分
□二反(王子神 ミエシリ)胤幹。一反小(ホツト神 津原クホイト)同。二反(シホカヤ)同。
神。畠一反半同。畠小胤幹。已上。
副祝分同權祝分
□反(ヌクキ)胤幹。二反(クハ山)同。胤幹堀内五日市
場ヨリ。
□ノウノ外城皆押領。
畠二反吉氏私大畠胤幹。田一反小(丁古サヽハラ)中村三
郎兵衞跡。
畠一反半屋敷一宇胤幹。畠一丁三反(新部)同。畠
一反(水ハミ)同。
畠大(ミツハミ)胤幹。田一反半同。畠大(新部)同。畠二
反(大畠)同。
田小(荒野 上臺)胤幹。畠二反(ヨコウ 若宮神)同。畠一反小(新部)同。

畠二反津原同。
一里
　物中祝分
□一反佐原コマタ内胤幹。七里三反三坪イロイロミフノ山ノコシ同。畠二反ツハキ山チイノ同。
畠三反カヽワヤ中務跡。畠二反同中務跡。
　同庶子七郎跡死亡
□反半イロ井クチ。一反大ハタ。屋敷一宇。畠二反。
細路一とをり。同ツノミヤ
上
□□胤幹一圓押領。
一　鍜治屋檢校分
田一反六十歩マキノサキ　胤幹。
　次郎神主分
屋敷一宇。中里ノアン。
一　小長手分
鏑山一クキ畠良大内小ハ畠小ハ茶寺ムカヘ胤幹。
大長手分

田小寳幢院ノムカヘ下同。畠一反小大畠胤幹。已上。
一　大細工分
田半日御子神新部胤幹。畠一宇新部同人。
畠半津原寺。
一　行事禰宜分
田一反ヤナカ丁古中村三郎兵衞跡。田二反カイタ丁古道野寺。畠小ヱヌキヤ丁古中村左衞門。畠二反丁古内クホノシト中村三郎兵衞跡。
　六郎神主分
畠一所ヨコウ今ノ胤幹城是也。
一　田冷分
田一反カラヘタ胤幹。二反ニツシヤウタ同人。三反イチノシリ返田下同。二反王子神ツハキタ同。一反サハタ同。畠三反大畠村同。畠二反ノフト王子神同。畠二反王子ノ下已上。同胤幹。
一　擬祝分
ツギメ

四反丁古(ナカタ)三郎兵衞跡。半(チハリタ)内山中務跡。半(ムカヘヌマ)胤幹。
一反半(カタシホ)胤幹。三反(中ヌマ)同人。畠小(カタシホ)三郎左衞門丁古。
一吉原檢校分
田一反(クホイト)中村三郎左衞門。畠五反(大カキウナヨシハラ)同三郎左衞門。
一正檢非違使分
畠半(ヨシハラ下地)胤幹。畠半丁古三郎兵衞跡。
一押領使分
田二反(宮下神)相良。二反(アキヨ)同。三反(ナミウチ)同。司二反(エノオタ)同。一反(シハサキ)同。一反(ヤナカ)同。二反(ナミウチ神)同。一反金丸(馬打)同。一反金丸(ウマウチ)同。二反金丸(イケノシリ)同。大田(神)同。一反(イケノシリ神)同。一反小(ナミウチタキノシリ)同。
同畠分二反屋敷分(ニハナキノ分)同人。一反屋敷(御燈分)同。一反(ニハナキノ分)同。二反(キタノサマ)同。二反宮ノ下同。一反小(ハタ)同。三反(ミタラシ)同。一反(神ヤシキノウシロ)同。一反。(名婦内屋敷)同。大(小太郎かさく)同。已上同相良知行。
一土器判官代分
田三百歩(ウマウチ十一月五日土器分田)胤幹。一反(四月五日御田殖御神田)同人。畠一反(ヨコヽワノ内)胤幹城。

ツギメ

一神子別當分
一反(チカワタ)胤幹知行。
一小井土神主分
□大(シホカヤ)胤幹。田大(カマスカフナツケト)同人。畠二反(ミソケハライノ神)同。茶畠小同人。神已上。
孫大夫分死亡跡
□□一反司(大畠)胤幹。畠一反司(同坪)同人。畠一反小(同坪)同人。
畠(同坪)一反司同。畠一反(同坪司)同人。田一反金丸(カミセチレ)。同。
田一反小(上セチレ)已上同胤幹。

一□檢非違使分
田三反カトタ胤幹。田四反□ヤマ同。田小宮ウシロ神同。
□大マスハラ同。小カヤモト同。二反小タマタ同。□
□花ノ井同。二反サワラ同。二反ウサキヌマ同。□□
トウラ□□ウチ同。二反シヲウ三郎ヌマ。同。
畠分司大ツルシレタウ同。司二反同。屋敷一宇ウサキ內津宮同。
□□□一宇津宮田□已上同胤幹。
□□□林菴分
□□□半歩安久名丁古二郎兵衛跡。

## 正應四年香取檢田帳

注進正應四年辛卯十一月日加符檢田取帳事

合

一坪御名オ三百歩二段オ大又六十歩小二郎入道。卅三郎入道。三郎太郎。 二坪司一反同大オ小口□。同人。ツクリ。 三坪司□三セ歩一反半。オ十三十歩不八十歩。
同人。ソミヤ。 四坪金丸三反內オ一反。一反別當五郎。一反淨意房。
五坪金丸五反內十一反。一反花井川。二反小手大彌平八。□□□郎ツクリ彌四郎。 六
坪司同一反手二反手。藏入道。 七坪司同一反六十歩
三反小又六十歩一反。左衛門二郎。 八坪司同三百歩二郎丸
一反小オ手內三百歩。中七入道。 九坪司四反オ大
オ一反半又小內二反七郎次郎。二郎太郎。 十坪
司二反オ半オトオ一反中七入道。 十一坪司一反小
オ小同小淨德ツクリせい六。 十二坪司一反半內半オ小
ソ大原三郎。 十三坪司御名四反小オ一反半オ一反大
四郎三郎入道。 十四坪司一反小オ三セ歩同人。 十五
坪司小オ六十篠塚入道太郎二郎。二郎太郎。 十六坪
司御名三反內オ一反別當次郎ツクリ一反中七二反花井。 十七坪司二反內
オ大。一反中七。一反淸六入道。 十八坪司小オ六十歩分官使明婦淸六入
道。 十九坪司オ一反二反オ大四郎二。小彌平太。 廿坪御名二反內オ小
四郎太郎。一反。 廿一坪司御名三反內オ一反。金二郎平太郎一反
オ六。左衛門次郎二反オ小。平太女子一反。 廿二坪節弘三反內オ一反半。左衛門次郎オ六一

反才小。中三郎一反。木入。廿三坪司大才十歩。彌七入庭一反。木入四郎五郎ツクリ。四郎三郎入道。廿四坪司一反小才半又六十歩此内王二郎。手。廿五坪司御名三反内一反半才半丹二郎入道。二反半才半彌太郎入道。廿六坪司一反才半同小篠塚又次郎。廿七坪司一反小才半タ、五郎太郎。三郎次郎御年ワキ。廿八坪司御名三反内才一反。一反才小源三郎。一反才小手。一反才小上庭。廿九坪司二反才大又六十歩篠塚入道。卅坪司根田一反小内小才六十歩左衛門次郎。卅一坪根田小才廿分半□□二郎。卅二坪司根田二反才大六□□□篠塚。卅三坪二反。七郎次郎。卅四坪節弘三反才一反六十歩又六歩、才大。四郎太郎入道。卅五坪節弘二反才三百歩。源三郎。

二里

一坪節弘二反才三百歩中七入道。又太郎。二節弘一反半才三百歩才半カ大タ、。三郎二郎ひこ二郎ツクリ。三坪節弘三反内才小同半一反才小中三郎入道タ、。四坪司一反小二反大。同半。四反不六十歩。才大四郎太郎。クロカテ。五坪司二反半内。同大一反九十歩同大安六郎。一反九十歩同大四郎入道スケ房ツクリ。六坪司一反小。才大ソ小源三郎。七坪金丸二反才大舟三郎入道。八坪司一反小。大六郎サチミ大左衛門次郎。九坪金丸小。才六十歩七郎□□。十坪金丸二反。四郎五□□□太郎。十一坪司一反小才半四郎太郎入道。十二坪司一反小才大同半四反一反小。手。別當五郎。十三坪司一反小才半内小篠塚入道。十四坪司四反小同半三百歩才二反又小篠塚入道。太郎二郎ツクリ。十五坪合力三反内才一反。一反藤四郎入道。一反上繩尼。十六坪合力三反内才一反。大七郎次郎。二反小四郎六郎。十七坪節弘三反才反。手。十八坪節弘ヨコマノラ二反才大。彌平太。十九坪甲丸五段内才二反二反半四郎三郎。二反半七郎二郎。廿坪忠吉私五段大内才二反才一反小三反才一反大藏入道。二反大才一反淨得。廿一坪節弘一反半イナ才半才小清六入道。廿三節弘二反半内一反九十歩才半安六郎。一反九十歩才半彌次郎。廿四坪節弘□□四反大夫田一町五段□□ト才三反。廿五坪司根田。三反才大□□□□。廿七坪司二反小才大才一反六歩才半四郎太郎入道。廿八坪司二反大内一反小御本三郎太郎。一反小コ本彌五郎。廿九坪司四反小同一反大才一反四反不小ソ一反大篠塚。卅坪司三反才一

反法橋。卅一坪司二反不篠塚。卅二坪司一反小半同
同又半不六十歩彌七入道。卅三坪氏文神五反内一反細工二反四郎三郎
一反光蓮房アト一反内作。卅四坪司二反内一反才小又六十歩又太郎法橋。一反三郎太郎。卅五
坪司一反才大彌四郎。卅六坪司一反才小才六十歩平
次郎。

三里

一坪司半才六歩四郎太郎（ムシナ）。
二坪司御名大才六十歩別□□。三坪司二反才大
□□□。四坪有木四反半。二反九十歩大藏次郎入道二反御手　五
坪有木一反小才三百歩。六坪有木一反大圓才半
平三郎。七坪有木三反内合戸作才一反一反才小三郎太郎。二反大御手。
八坪司二反内才大一反才十手三郎。才半一反才小六十歩平次三郎。九坪司二
反才大法橋。十坪司一反半。三郎天神之田けん
三郎。十一坪金丸二反一反才小清六。十二坪金丸二
反才大一反明泉作スケ房一反。十三坪司三反内二反才「同三百
歩六郎。三百歩四郎三郎」一反才小中七入道。才一反半十七。十四坪司大才
六十歩同六十歩淨意房。十五坪司一反小半同小　又次郎。

十六坪司一反内小才六十歩又太郎入道。十七坪司大
才六十歩□□□清家中三郎。ツクリ。十八坪司一反小才十□六十ㄨ
四反不小□□□郎次郎又太郎。十九坪御名三反才一反
御手左衛門太郎作。廿坪單山神田一町二反。
廿一坪司大才六十歩中三郎。廿二坪一反小内才小十六
平四郎大才六十歩。大才六十歩。廿三坪司長田二反小内一反六十歩中六彌
平太郎。一反六十歩彌七入道作中六一反十才。廿四坪司次郎丸一反大内三百歩才
小同小又次郎御手才小。三百歩才小同十四郎三郎大くら才六十歩。廿五坪忠吉私二反。才
小才大手。廿六坪司二反才大三百歩彌七入道。廿七坪
一反小才半又才大六十歩小彌平太。廿八坪司相摸田
二反大有王太郎。廿九坪忠吉私三反内才一反孫太郎。一反
反彌次郎。卅坪司御名二反半内。才三百歩。四反。不小同大二反才大平太入道。半
才六十歩中三郎入道。卅一坪司不六十歩二反半才三百歩同一反半又六
郎入道。卅二坪司細工分四反内二□二□□郎二郎。
卅三坪司正月始酉神一反□□□。卅四坪御名三反内一反小四郎三郎。
一反大中六。卅五坪司御名大安子方平次郎。卅六
坪司御名一反小才六十歩分官使手。

四里

一坪司三反内一反才「四反六十歩同半」五郎入道。一反丹三郎御手。一反小次郎。　二坪司二反半内。一反九十歩才同斷。平太郎。一反九十歩同斷。彌法師。　三坪金丸二反半丹三郎入道。　四坪司大同小才六十歩平太入道。　五坪司一反小才小彌七入道。　六坪司大才六十歩平四郎入道。　七坪良二反小才半同人。　八坪重枚二反才小大藏殿手。　九坪重枚二反一反三郎□□。一反才小彌□□□。　十坪重枚七反内才□□□□□□□□□□反大藏殿手。　十一坪秋山田二反大五郎殿姬御前。　十二坪司大才小才六歩御圓房安三郎作。　十三坪司半才六十歩別當太郎作御手安三郎。　十四坪司大内。才六十歩能前房安三郎小才六歩。　十五坪御名二反五郎殿御前。　十六坪助松三反才一反才大一反聖忍房。五郎太郎二反平次太郎入道。　十七坪助松一反内一反才六十歩聖忍房。一反同小明智房。一反才安三郎。　十八坪氏直分田三反内田冷藤四郎入道別當五郎。　十九坪司四反才反大才一反分飯司。　廿坪勢至殿神田三反四郎太郎。　廿一坪油田三反内一反檢校才六十歩。一反能登□□。一反□□□。　廿二坪司勢至殿御菜田二□　廿三坪司二反小才半□　廿四坪司三反才一反才□　廿五坪司鬼丸五反大内□　廿六坪司二反小内不小才半又太郎□　廿七坪司一反才小才小同小明智房□　廿八坪司二反内不小一反平三郎。一反四郎太郎御手一反□　廿九坪司二反同人。　卅坪司三反才一反六十歩末利小人かし。四反不六十歩二反六十歩。　卅一坪司二反小才半夕夕中三郎入道。　卅二坪司二反才六又太郎。　卅三坪司一反まこ太郎。

以香取分飯司藏本書寫了

以宮内省圖書寮本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百七十八

雜部百二十八

## 東大寺越前國桑原莊券第一

(田地雜物 坂井郡) 天平勝寶七年

越前國使等解　申勘定桑原莊所雜物事

合野地玖拾陸町貳段壹佰壹拾陸步。見開卅二町。(主大伴宿禰開九町。今開加廿三町。)　未開六十四町三段一百一十六步。

合稻伍仟伍佰陸拾參束。自足羽郡大領生江臣東人所受四千七百八束。去年賣田九町。價稻七百廿束。(町別八十束。)租一百卅五束。

合舍陸間。　草葺板敷東屋一間。(長三丈三尺五寸。廣一丈七尺六寸。)更作着庇二間。(各長三丈三尺五寸。廣一丈二尺。)　板葺屋一間。(長三丈一尺五寸。廣一丈七尺。)右二物。自足羽郡遷運造作立。　板倉一間。(長一丈八尺。高一丈二尺。廣一丈六尺。)　右一物。樣工等功食充給未作畢。　草葺東屋一間。(長三丈。廣一丈五尺。)　草葺眞屋一間。(長二丈三尺。廣一丈六尺。)　草葺東屋一間。(長二丈七尺。廣一丈五尺。)右三物。雪押伏更遷修理立。

合雜用稻肆仟肆佰柒拾柒束陸把。　買屋二間。價三百六十束。　開田廿三町。　功稻二千三百束。(町別一百束。)

合造作幷修理舍八箇。　單功九百七十四人。　充功稻九百七十四束。(人別一束。)　食料三百八十九束

六把。人別四把。板倉一間。運作工幷夫三百五十人。功充三百五十束。人別一束。買草葺東屋一間。價二百束。運作夫二百人。功充稻二百束。人別一束。買板葺屋一間。價一百六十束。運作夫一百六十人。功充稻一百六十束。人別一束。更作署庇二間。作夫六十人。充功稻六十束。人別一束。修理東屋一間。作夫一百人。充功稻一百束。眞屋一間。作夫三十人。充功稻卅束。東屋一間。作夫五十人。充功稻五十束。作垣一條。長一百五十丈。作夫十四人。充功稻十四束。

合買雜物廿一物。價稻四百五十四束。釜一口。受二斗五升。直十束。鈩二柄。直十束。柄別五束。手鈩二柄。直四束。柄別二束。鎌二柄。直四束。柄別二束。鈴二柄。直四束。柄別二束。鍬廿柄。直六十束。柄別三束。鉏十柄。直卅束。柄別三束。席十枚。直卅束。枚別三束。折薦十枚。直廿束。枚別二束。簀十枚。直十束。枚別一束。明櫃十合。直十束。合別一束。折櫃十合。直五束。束別二合。水平氣十口。直五束。束別二口。田筒一百合。直十束。束別十合。木佐良一百口。直十束。束別十口。檜一口。直五束。宇須一要。直五束。箕一舌。直二束。瓺四口。二口各受三石。二口各受二石五斗。直一百卅束。二口各卅束。二口各卅束。缶廿口。直卅束。口別二束。田坏二百口。直十束。束別廿口。

殘稻壹仟捌拾伍束肆把。自大伴宿禰所勘受物。野地九十六町二段一百一十六步。見開九町。未開八十七町二段一百一十六步。草葺屋三間。東屋二間。眞屋一間。釜一口。受二斗五升。缶三口。碓一要。水麻笥一口。樋十三口。長一三丈。廣三尺。一長一丈。廣二尺。十一長七尺。各廣一尺八寸。

以前。被去四月五日符偁。撿進解文。彼此參差。共不連署。仍還勘如件。加以曾禰乙麻呂。與生江東人二人。一事以上。共量便宜。毎事施行。獨任乙麻呂。勿令專當。以去六年二月七日。五月

十四日符下已訖。而何故存意。不承行。事有參差。宜知此狀。專雄足率而件二人。彼開墾田數。幷庄所造作倉屋。及所用雜物。子細勘注。卽附便使。早速申送者。謹依符旨。勘定申送如件。仍具事狀注。以解。

天平勝寶七歲五月三日

田使曾禰連弟麿

足羽郡大領生江臣東人

勘史生安都宿禰雄足

右藏在東大寺油藏

## 嘉保二年大江仲子解文

大江仲子解申請　院聽　裁事

請被特蒙　鴻恩。任次第文書理裁下。散位有經朝臣推妨大和國山口。相摸國早川庄等子細狀。

副進次第文書等。

祖父廣經朝臣自筆讓狀案一枚。

件讓狀旨。廣經存生。去永保二年六月五日。以大和國所領公驗等。且所宛渡亡父公仲朝臣也。其內山口庄有誰可傳領之文。全以不見者也。

同廣經朝臣處分案一枚。

件處分者。廣經存生以去寬治三年九月廿一日五箇所領各別公驗。所充行男女子及□(孫カ)等也。彼曰以二箇所處分有經。山口庄早川庄者。爲公仲分。有經可成後論之狀更以不見。又件處分文以藤原盛仲爲執筆令書之由。有經執申云々。稱何狀何狀哉。尤不審也。至于此狀者。非盛仲之書。亡公仲之筆已筆跡之顯狀也。無實不隱者歟。

亡父公仲朝臣惣處分案一通。

前右馬頭兼實入道書狀案二枚。

件案者。公仲不慮坐事赴配所之時。去嘉保二年

正月十日所書置也。京都之家地田舍之庄薗。皆作分法所宛行也。非唯妻子子孫。雖他人於有志之輩者。不漏其分。具注其由。公仲以自筆作案袖書云。案文爲後證所進置于右馬頭殿也。者右馬頭者兼實入道也。然間。公仲幸逢恩免。肆（歸歟）洛之後。於件處分正文者先返所了。而公仲住宅燒亡之次爲灰燼了。仍又所返取彼案文也。雖案文袖書狀公仲之自筆也。何異正文哉。爰有經稱同案文。所出案也。似有加筆之事。兼實所返之案。依有嫡々之理讓與男 以實了之狀許也。有經所進之案。公仲一生之後可讓與以實之由有故。嚴君之命 仍無改易讓與之者。以此文稱有祖父廣經之讓云々。又有經於仲正文者。有經住所燒亡之失了者。件等子細見兼實入道兩度之返報云。正文返了。案文如此者。又云有經所帶之案文內於廣經朝臣 命案不知給者。彼兼實入道者與公仲非偏成師弟之義。後示結陳雷之契。故得處分

能知子細人之也。然則有經所進之案文。可謂謀書歟。其李奏事不實之罪何狀待裁定而已。

同公仲山口庄處分自筆狀案一枚。

件庄者以康和 四年十月七日判。相傳本公驗幷祖父廣經處分狀等。仲子所讓與也。件狀云。縱雖成□論本修所相存日處分。證據灼然者。令不可有相違。仍自書讓狀成制。本家御下文所宛行也旨。同日彼下文云。件庄公仲朝臣相傳領也。今讓仲子之由令申者。彼朝臣之讓狀 以仲子永爲領可 令沙汰庄務者。抑件下文者盛仲之所書也。廣經處分之由。盛仲答。爲執筆者豈可然哉。唯作還遠而已。

同公仲自筆惣處分狀案一通。

件狀云。爲絕沒後牢籠存日從所宛行也。男女子族宜守此旨。但先年下向隱岐之時。實子未生之前。雖斷處分。今已沒。定左右財主之最也。誰敢可致異論。予然猶依恐末代之作法。重申請使廳

之下文。以件下文可爲讓據也。有經者非實子。本名以實雖立嫡子。不運無才突道給爵然而從㳫撫育。其義難忍。因玆分宛京家地。又沽却庄一處。以其直物令成六位受領功了。縱雖實子得分了裡不可過之。復何有他黨哉者。

明法勘文案一通。

件勘文者。去永久三年九月二日所勘申也。狀云。山口早川庄牧等公仲初讓與有經。後改宛他子。如戶律之說者。處分之後不悔違法。依鬪律之文者。子深不可違執敎。令然者。公仲設雖改定。有經豈可違執哉。爰有經所迎公仲總處分目錄案云。依經廣之命。處分有經可定件目錄。依爲案文。難備勘決者。先如書上依廣經之命處分有經之由。疑殆猶多。謀計之甚也。

宣旨案一枚。

件宣旨者。去保安三年十一月廿七日所被下也。右少史三善行仲仰偁。左中辨藤原朝臣 爲降傳宣大納言藤原朝臣宗―宣。奉勅。大江仲子與同有經相論山口早川庄等事。宜令法家勘申彼此理非者。

明法重勘文案一枚。

同三年十二月十三日勘申云。件事去永久三年九月有經不可背報文。公仲朝臣命仍仲子得理之由勘申。理非先―重可十宗裁定者。就彼勘文可被裁決者。

右件兩庄者。祖父前件（伊勢歟）務守廣經之所領也。

右狀如言上。雖得次第文書之理。猶於傳領牢籠之愁。永久之頃裁定之遲。仲子者雖進相傳之公驗。非蒙裁許。若不及公驗之對決歟。有經者雖無一紙之文書。稱蒙裁許。若得有文書之證據歟。但祖父之不注先父之所注。云其正文云其案文。仲子皆所得也。有經豈又傳哉。然者無不帶之公驗。尤有其謂者也。通所乞者案文也。況示於入詔事哉。有文書與無文書。實子養子。謂其居別非同日論。凡又田地領掌之通。以文書爲

先。如仲子者爲實子之長女。得亡父之處分。加之使廳(聽)下文領定蒙其裁許。法家法家勘狀。先後得其理。致彼法家者勘天下之理非世以懸其脣吻。使廳者裁者天下之罪過人。以依其以定明時之用法令。自古而然。實誰更辨之。誰文天連之者乎。今至于背文命者。可謂有理哉。可爲無罪哉。有經不存此等之旨。永久年中以蒙綸言。推致此妨。非常之甚言語同斷也。是以去保安三年注子細。經奏聞之處。被下宣旨。於法家重可令勘申。理非者兩度之勘文。仲子得理實。永久宣旨之日。理致若蠢公遲之僉議。去保安言上之時。裁定重及法家之勘狀哉。而件勘狀未被覆奏之間。言優不下丹心如病後符破先符者例也。望請長者殿下　裁任次第文書理。早令停止有經之妨可令仲子領掌之由被下　宣旨者。將仰聖化之無偏實。仍勤存狀謹解。

大治五年　月　日　大江仲子

處分目錄

一坊城地壹町。在左京四條一坊二町。

丑寅角捌戶主。西三四行。北一二三四門。

建板葺五間四面寢屋一宇。東北二面有孫庇。

四間二面廊二宇。

五間二面雜舍一宇。

三間倉代一宇。但在西地分可移渡。

三間一面車宿一宇。但在南地分。同可移渡。

此外有六間四面屋一宇。於件屋者所分宛男以實也。隔中垣之日可渡南地乎。

領田貳拾貳町。在伊勢國。郡鄉條里坪付見公驗。

右件地。元者故云左前司忠季入道領也。以他處相傳傳領之後。所逹舍屋也。於伊勢領日者。故巖君在任之間。限價直所買得也。其後年來領掌各无他妨。而今依有所思讓與室家大江氏已畢。但至地本公驗者仍有類地。不能副渡。抑下官无過處重科不慮坐配流。宿運之拙可耻可悲。雖在

遠所現在之間。相待歸京不成他心耳矣。被變改者互又違約歟。努力々々莫企二醮之思。倘背此旨者。縱雖悔返不可有其怨矣。此外處々小領注別紙。奉預室家。於件等處者。先人故伊州各可被分給下官之愚息等也。其由具裁注文狀。而下官在存分之間。雖在遠所各以所出地利。可宛室家之用途也。

同地辰巳角捌戶主。西三四行。北五六七八門。

建板葺四間。書倉一宇。

六間三面屋一宇。但在北地。分隔中垣之日運渡也。

已上所分宛男以實也。

同地未申角捌戶主。西一二行。北五六七八門。堂敷地也。

同地戌亥角捌戶主。西一二行。北一二三四門。分宛女子。

一美福地壹町。在左京七條一坊八町。建三間四面屋一宇。

西三條地壹町。在右京三條一坊六町。建三間四面屋一宇。

件貳箇所。先年之頃各從領主手。限價直所買得也。子細具見劵文。而傳領之後。建屋裁樹堀池洒泉。屢爲避着（暑歟）納涼之地。自留遊與慶翫之思。定有輪廻之餘。□□爲恐々々。仍□量佛堂用途千僧供等料。若會恩免早歸京者。身自可遂其懇懷。不然者子孫之中孝心之輩可果之。努力々々莫違失而已。

一石田。在山城國。

件所先祖相傳所領也。隨□一先人故伊州所宛給曾孫持□丸也。不可改易矣。

一梅津。在同國。

件所相傳領也。隨亦故伊州所宛給愚具廣言也。不可改易矣。

一藤泰庄。在同國。

件庄故伊州從僧春照之手負物之代所被傳領也。隨亦可宛給愚息以實也。不可改易焉。

一河埼庄。在攝津國。

件庄元者天安寺領也。故伊州買領之後。所被宛給公仲也。而今依有所思。相副本公驗等。永讓

與彈正小忠藤原盛仲畢。是入室弟子之上。禮義之至歟。如子姪不得心之輩不可爲奇耳。
一無那庄。在大和國。
一池邊庄。在同國。
件二箇所分宛小僧範海畢。
一國府庄。在大和國。本名池尻。
件庄分宛男以實畢。
一淡路庄。在大和國。
一生坂庄。在同國。
已上貳箇所宛給男廣言。而下官遠行之間。廣言可相伴。仍於件等庄地子幷佃米者。可宛室家大江氏及下官女子月料。至庄公驗者暫預男以實者也。廣言歸洛之後可尋取也。
一小高庄。在遠江國。
件庄親父故伊州從本主之手相副調度文書可被傳領也。而無使請國判。從以爲荒野。仍任本公驗爲被沙汰立。相副公驗等。去年春獻上右馬頭殿畢。若如本被立券預者。試勵和力招集浪人。欲令每年年貢。若遂開發之功者。永爲公仲領。相傳子々孫々可令領執行之由。所申彼殿也。定以無相違歟。
一山口御庄。在大和國。
早川御牧。在相摸國。
件貳箇所各相傳所領也。而祖父故遠州爲募御勢。所被寄可進故民部卿殿也。隨則故九條前太政大臣殿相傳知食之間。依有嫡々之理子孫相續。又無他妨所領知也。公仲一生之後。可讓與以實之由有故嚴君之命。仍無改易。讓與畢。於事之沙汰者任先例可申本家也。
以前處分大略如右。公仲遠行之間。若有橫妨者。早可許申右馬頭殿也。申付其由。忝有恩諾。不異季布歟。殊致愚謹深所奉憑也。事之子細各見所帶公驗而也。
嘉保二年正月十日　大江在判

慶長十六年

# 信濃國水內曲橋勸進帳

敬曰南閻浮提大日本國信州水內郡水內橋勸進帳

夫以者。有信州于二大河。一者謂千曲河。一者稱犀川。千曲川者地形平而水漫々。然間船安筏穩也。犀川者地形險而急洌如瀧落。漲流水勢忽忽乎。傳聞不異天竺晨旦之堺于流砂川。依之船筏摧折。故河南北之人民至牛馬野獸之類。通路斷絕。成目前于隔萬里之愁思乎。爰當國先方之士將。忝　清和天皇之裔孫滋野朝臣高坂覺法入道。哀嘆之。召集數萬之杣夫。鍛工々匠。而水面徑度一十丈。橋之高六丈有餘尺。一百餘之欄檻固如秋虹。疑見臥龍于波上歟。陰霧埋山川。其幽巧奇魯般於雲梯。陽霞充宇宙。其不測妙天竺於石橋乎。橋成道通者。遠境近里。道俗男女。欣々然如得千金萬玉。其餘慶著而武運長久。子孫繁昌二十餘代也。經幾春秋之后。曝雪霜。朽風雨。雖摧壞。頃年都鄙劇亂。公臣不安。民力困勢。積日累月。朽陷廢頹。又往還斷絕。三十餘年矣。祝々茲年　慶長十六曆　龍集辛亥正月吉日。當方之住人高坂仁左衛門宗廣。鹽入志摩安貞。新井丹後直盛。合體同心而渡橋如往日。雖欲令川南川北關東關（西歟）而荷擔驛馬往來自由。履地如水蹈水如水。自行化他如意滿足。財力微少不叶心緒。因之隣鄉他郡賴億萬人之力。欲遂僕等願望。雖似招人口之譏。不顧大行於細謹之謂也。一錢半絲助成之輩者。現世除却三灾八難。生熟千吉萬祥。受無比快樂。後生消滅十惡五逆。出離生死苦海。至（彼脫カ）岸菩提有何疑哉。雖然。有如斯功德於來信人乎。誠聞過去久遠。却有佛出世。名曰普光如來。會中有持地菩薩佛弟子。道路險隘不如法。自平塡々或作橋梁。或負沙土。又車

牛溺泥。以神力爲推輪。拔其苦惱。後毘舍浮佛出世國王延彼佛設齋。爾時地持菩薩平地待佛。卽蒙毘舍如來摩頂卽身成佛。作三界大導師普賓天上人間共登覺場於三國如青天白日也。今日之衆各乘此成度橋之助力者。今世安穩後生善所。子孫繁榮福壽增長。家門安全不可有疑者也。仍制橋勸進之旨趣如件。

慶長拾六辛亥年正月吉祥日　本願主敬白

# 播磨國大部庄公文職舊記

達失以下。

嘉祿元年三月十二日

院別當法眼和尚位在判

東南院家政所下　大部庄公文職事

補任　藤原久信

右補任如件。

文永三年十一月十五日

院別當法橋上人位在判

補任東大寺領播磨國大部庄両公文職

王久光

同戒法師跡王若壽女

右以人所被補任彼職也。有限之所役。以寺家之所命無殊子細者。向後更不可有者。滿寺衆議如斯。庄家宜承知。勿□□補任之狀如件。

永仁三年二月廿八日

有司大法師在判

年預大法師在判

着到

播磨國大部庄公文性阿代古世彌次郎。

右爲對治。山田丹生寺凶徒等今月一日馳參陣候。着到如件。

曆應二年八月一日
石塔殿
承了在判

播磨國大部庄公文尼性阿代孫二郎助申軍忠事。御對治山田丹生寺凶徒□□軍忠之上者。去六月五日合戰時者。就□令發向樫尾谷。被晝夜合戰上。今月二日合戰時者。同樫尾谷面抽至極軍忠□□□者也。此等次第　福三郎左衞門尉並間嶋彥五令見及也。然者爲後證可賜御判候。□□□御披露候。恐惶言上如件。

曆應三年七月四日

進上　御奉行所
赤松入道
承了在判

播磨國大部庄公文尼性阿代三郎朝親事。去八月四日大將軍男神山御出之被御陣驚固勤畢。同十三日押部庄神澤左城御發向之間。同被軍忠致士迄于彼城靜謐功畢。同廿日山田御發向時。於志武禮山致散□日追落山田之城山城。追籠御敵於詰城御坐之陳令驚固。至于今所致日夜軍功也。後證可下賜御一見判之由相存候。以此旨可有御披露候。恐惶謹言。

曆應二年十一月日

進上　御奉行所
承了在判
關新大夫

着到
播磨國大部庄公文尼性阿代彌次郎。
右今月五日發向山田合戰。就御手分於詰城尾谷陳勤厚候。仍着到如件。

曆應三年六月廿七日
承了在判
侍所代

着到
播磨國大部庄公文尼性阿代彌次郎助。
右今月十三日爲致軍忠馳參。山田廻城之麓谷谷驚固役所候畢。仍着到如件。

暦應三年六月日
承了在判小嶋

# 讃岐國萬農池後碑文

此原本摸寫而頗有古色今不改誤脫點畫依
舊膽寫重可考訂者也

傳燈滿位僧眞勝入寺。東太此池者 大寶年中國守道守朝臣之所築也。舊記不注位名空以嗟歎。古人傳云。此堤前 世頽破。 然而文書 論亡其實誰知。近曾弘仁九年流破。再下□(官歟)使三千內乃築成。仁壽元年之秋天下大水超堤上。少刻之間掃底而流 國中之池大小悉破 二年春有丈二□。又苊饑今茲旱魃八十餘日。國既虛耗民無所據。秋八月權守正□位下弘宗王含朝之倫旨。莅(サカシマイル)殘害之百姓。 卽巡諸郡。撿察損物。 兼尉(慰歟)撫愁苦之民間。潤八月朔始發使(役歟)夫二千餘人手築堤本。五日而上□□□十月上旬發大于以下輸博介築并破水門磐石。此苦咎築諸群破堤。三年二月朔大發役夫六千餘人。限約十日。㔟(力歟)介築。十一日午刻大功已畢。爰水門猶高。不可無言。是以明年春三月役夫二千餘人。更增一丈吾(五歟)尺。通前八丈。其成事之躰。以俵薦六萬八千餘枚。裹沙土塡深處。由此其功早遂。古(聲歟)滿天下惣土夫單一萬九千八百餘人之所用物數一十二萬餘束。凡見聞之 記大綱 細々之事不題注。老僧忝應圓諸卒隨三僧 自始迄終作法練行。於是依蒙佛力夫民無恙。國司欣悅。申上諸官。聖主務愍。幸施滿海岳之恩。非本所望 守賢君宥衣勤公食疲口唱秘密眞言。□□遍內外處分之事。內國樂分之中。民富可謂海岳者。須實賴王詳。

寬仁四年歲次庚申

以宮內省圖書寮本謄寫校合畢

# 續群書類従卷第九百七十九

雜部百二十九

## 日本得名 又國名風土記

△大日本帝王系之圖

○第一神武天皇 治七十九年

第二綏靖 治卅三年

第三安寧 治卅八年

第四懿德 治卅五年

第五孝昭 治八十三年

第六孝安 治百二年

第七孝靈 治七十六年

第八孝元 治五十七年

第九開化 治六十年

第十崇神 治六十八年

十一垂仁 治九十九年

十二景行 治六十年

十三成務 治六十一年

日本武尊

十四仲哀 治九年

十五神功 治六十九年 仲哀后

十六應神 治四十三年

十七仁德 治八十七年

十八 履中（マヽ）治六年
廿四 顯宗 治三年
廿五 仁賢 治十一年 ― 廿六 武烈 治八年
十九 反正 治六年
二十 允恭 治四十二年
廿一 安康 治三年
廿二 雄略 治廿三年 ― 廿三 淸寧 治五年
隼総別皇子 ― 大大迹王
私斐正（宇非王カ） ― 彦主人王
廿七 繼體 治廿七年
廿八 安閑 治二年

廿九 宣化 治四年
三十 欽明 治卅二年
卅一 敏達 治十四年 ― 押坂大兄皇子
卅二 用明 治二年
卅三 崇峻 治五年
卅四 推古 治廿六年 敏達后
茅渟王
卅七 孝德 治十年
卅六 皇極 治三年 ― 卅八 齊明 治七年女帝 皇極重祚
卅五 舒明 治十三年
四十 天武 治十五年

舍人親王 — 四七 廢帝 治六年

草壁太子

四四 元正 治九年

四二 文武 治十一年 — 四五 聖武 治廿五年

四六 孝謙 治十年 — 四八 稱德 治五年 孝謙重祚

卅九 天智 治十年

四一 持統 治十年 天武后

施基皇子

四三 元明 治七年 草壁妃

四九 光仁 治十二年 — 五十 桓武 治廿四年

五一 平城 治四年

五三 淳和 治十年

五二 嵯峨 治十四年 — 五四 仁明 治十七年

五五 文德 治八年 — 五六 清和 治十八年

五七 陽成 治八年

五八 光孝 治三年 — 五九 宇多 治十年

六十 醍醐 治卅三年

六一 朱雀 治十六年

六二 村上 治廿一年

六三 冷泉 治二年

六十七 三條 治五年
六十五 花山 治二年
六十四 圓融 治十五年
六十六 一條 治廿五年
六十九 後朱雀 治九年
六十八 後一條 治廿年
七十 後冷泉 治廿三年
七十一 後三條 治四年
七十二 白河 治十四年
七十三 堀河 治廿一年
七十四 鳥羽 治十六年
七十五 崇德 治十八年
七十六 近衞 治十四年
七十七 後白河 治三年

七十八 二條 治七年
七十九 六條 治三年
八十 高倉 治十二年
後高倉
八十五 後堀河 治十年
八十六 四條 治十年
八十一 安德 治三年
八十二 後鳥羽 治十五年
八十四 順德 治十一年
八十三 土御門 治十二年
八十七 後嵯峨 治四年
八十八 後深草 治十三年
九十一 伏見 治七年
八十九 龜山 治十五年
九十 後宇多 治十三年

九十三 後二條 治六年

九十五 後醍醐 治十三年

九十二 後伏見 治三年
　九十七 光明 治十二年
　九十六 光嚴 治五年

九十四 花園 治十一年

九十九 後光嚴 治廿年
　百一 後圓融 治十一年

百一 後小松 治三十年
　百二 稱光 治十六年

九十八 崇光 治三年
　大通院

後崇光
　百三 後花園 治卅六年後小松ノ爲皇太子

百四 後土御門 治卅六年
　百五 後柏原 治廿六年

百六 後奈良 治卅一年
　百七 正親町 治廿九年

陽光院
　百八 後陽成院 治廿五年

百九 後水尾 治十八年

百十 明正 治十年

百十一 後光明 治十一年

百十二 後西院 治八年

百十三 太上皇帝
　百十四 東山院 治廿三年

今上 萬々歳

## 日本記之內國名

第一　畿內五ヶ國

第二　東海道拾五ヶ國

第三　東山道八ヶ國
第四　北陸道七ヶ國
第五　南海道六ヶ國
第六　山陽道八ヶ國
第七　山陰道八ヶ國
第八　西海道九ヶ國
付　嶋二有

○畿内五ヶ國者

山城　大和　河内　和泉　攝津　是ナリ。

畿内トハ。都ハ國ノ中ナル故ニ。今ノ五ヶ國ヲハ。日本ノ中央ト云ナリ。日本紀ノ持統紀ニモ。畿ノ字ヲ近ト讀ム事。都ニ近キ國ナルユヘニ。畿内ト云ナリ。又畿字廻トモ讀リ。都ヲ中ニヲイテ四方ヲメクル國ナリ。問。日本國ヲバ八ツニ分ルトキ。七ヶ國ニ道ノ字アリ。何シテ畿内ニハ道ノ字ナキコトゾ。答曰。畿内ハ日本ノ中ニシテ。都ニチカキ國ノユヘニ。道ノ字不付ナリ。東海道ナト、號ス。是ハ畿内ヲ中ニシテ。勅使諸國ヘ下サル、順道名ナリ。依之畿内五ヶ國ト云ヘリ。

山城國ト者。昔用明天王ノ王子厩戸王子ノ御時。四天王寺ノ材木ヲ取トキ。處ハ今ノ平ノ京迹ナリ。總シテ材木ヲ取處ヲ。杣人ノ言ニハ山開ト云ナリ。然バ彼ノ處ヲ。昔ハ山開ト書リ。其後山城ト書事ハ。物ノ種ヲ蒔處ヲ代ト云フナリ。苗代ウヱ代ナド、如云ナリ。如其今ノ材木取置タリシ處ナレバ。山代ト云ナリ。開ト云字ヲ代トヨムベキニアラズ。又城ノ字ヲ書テシロトヨム事ハ。天武天皇大友王子ニ位諍ヲナサレ。至山城ノ國ヲ通リ玉フ時。大友王子ノ軍兵待カケテ討奉リケレバ。御背ニ矢立ニケリ。仍其處ヲ矢背里ト云。然ニ兵トモ又俄追懸奉ル間。北山ノ奥ニ城ヲカマヘ。タテコモ

リ給ヒシ。御馬トモヲ鞍置ナガラツナギヲキシユヘニ。其處ヲ鞍馬トナヅクナリ。此時ヨリ山城ノ城ノ字ヲ書ナリ。次ニ皇子ノ方ノ軍兵破レテ後。天武天皇ハ伊勢大神宮ニ爲ニ御祈禱誓「御參宮アリ。其時又皇子方ノ軍兵於ニ鈴鹿山待カケタテマツル。天王コノコトヲキコシメシテ。美濃國ヘマワリ玉フニ。其時鏡ノ大君討玉フテ。其塚ヲツキタル處ヲ。近江鏡山ト號ス。又皇子方ノ軍兵破レテ。天皇方ノ軍兵ハ不レ破。其處ヲ不破關トナツクナリ。其后美濃國ニ至ル。有河ニテ御身ノ垢ヲ雪セ玉フ。時ニ山城ニテ負ハセ玉ヒシ御背ノ疵治ケル。其トキコノ河ヲ苦醫瀨河ト號ス。苦ヲ治醫河ト宣ベ玉フ故ナリ。

大和國者。日本ノ惣名ナリ。シカルヲ一國ニ呼也。又大和ト云事ハ。混沌割分レテ。世界未ニ建立ニ泥土未レ乾トキ。昔人山ヲ栖トセシカハ。山ニ人ノ迹多見ヘタリ。仍山迹國ト日本ヲ號ス。大和歌。大和言。式嶋。大和空津ナト、說ク。今カンガウルニ不レ違。巨細日本記ノ釋ニ見ヘタリ。

河內國トハ。神武天皇御宇銀河ヲ遷給シ。其內ノ河ナレハ。彼處ヲ河內ト號ナリ。然故天河ト云處。今モ有ルナリ。

和泉國トハ。彼國淸水多ク出ル處ナレハ。和泉國ト號ス。泉ハ水ノ名ナレハナリ。

攝津國トハ。天照太神ノ饒尊ヲ。天ヨリ地ヘクダシタテマツリ玉フ時。天探女尊付テ下サセ給時ニ。カノ探女天ノ鳥舟ニノツテ翔シ。其渡シ。高津ト號ス。ユヘニ此國ヲ攝津ト號ス。カノ鳥舟ノ心ヲ歌ニ云フ。▲トビカヘル天ノ探女ノ岩舟ヲ泊シ高津モアゼニゲルカナ。次問曰ク。何攝津トカイテ津國ト云ナリ。答曰ク。

コノ國ハ舟ノツキトマリヲヲシ。シカルニカノ高津ニ多ク津ヲ攝タルユヘニ。攝津トカクナリ。問テ曰。又攝津國ニ武庫郷ト云トコロアリ。ソノユヘ如何。答テ曰ク。是レ仲哀天皇ノ后キ神功皇后。三韓ノ夷國ヲ打隨テ皈朝シ給シトキニ。其兵具ヲヲサメウズミヲキ玉ヒシトコロナリ。其上ニハ法堂ヲ建立シ。本尊觀音金色ニシテ御座ス。神功皇后ハ應神天王ノ御母后トカヤ。又夷國追伐ノ樣ハ。筑紫筑後ノ國高良ノ縁記ニアリ。

○東海道拾五ケ國ト者

伊賀　伊勢　志摩　尾張　三河　遠江　駿河
伊豆　甲斐　相摸　武藏　安房　上総　下総
常陸

伊賀者　天照太神。素盞烏尊ヲ地ヘ下シ給シトキ。コレヲ以テ惡魔等ヲ鎮メ玉フトテ。十握劒ヲアヅケ玉ヒキ。其后尊ト地神手摩乳ノ娘ニヲホシメシツキ玉ヒテ。政道ニ及バザルニ仍テ。太神御怒リ有テ。其ヲ忽チニ返セトコイ玉フトコロニ。尊ト其劒稲田姫カタク所望ノアヒダアタヘ玉フ。太神イヨ〳〵イカリ玉フニ依テ。詮方ナフシテ尊申ク。吾ニ最愛ノ寵姫アリ。是ヲ劒ノ代ニタテマツラント。言上如件而太神承諾給キ。ソノ後ハ約束計ニヨッテ。齊宮ノ沙汰ニヲヨバザルアヒダ。太神ノ御處種々ノ物怪トモ有シカハ。崇神天皇ノ御代。姫宮ヲ伊賀國ヘ祝タラマツリ。齊宮ノ御殿ヲ建立セラル。コレニヨッテ太神イカリノ御コヽロヲヤメ給ヒテ。カヘツテ御賀アリ。シカルアヒダ其處ヲ伊賀ト號ス。

伊勢國トハ。其後齊宮ノ御神殿。太神宮ヨリ遠キユヘニ御イカリアリシ。齊宮ノ御殿ヲ山田ノ北ノ里ニウツシタテマツル。御劒ヲモ御イカリノユヘニ齊宮ニウツシ玉ヒ。其時太神伊

勢ニ御座シカバ。コレヲ伊勢ト號ス。次問テ曰ク。伊勢國神風ト申スイカン。答テ曰。ソノシサイ異儀ニコレアリ。一義ニハ。御裳洗河ニ神力瀨下ト云アリ。是ハ天照太神常下涼給瀨也。故神風トモ云。一義ニハ。天照太神威光ヲ風ニ喩也。一義ニハ。陬訪大明神。天照邊ニ擯給時。神風ハト云コトアリ。是等日本記ノ明證也。又神風ハ陬訪大明神ノ眷屬ナリ。故ニ風神祭ニ筒ヲ切テ風ヲアヲキ入レテ。風イテザルヤウニ口ヲフサキテ。深ツヽンテ土ニウズムナリ。

志摩國トハ。假名字カキナリ。伊勢嶋ト號。コレハ別ノ地ヲハナレテ海中ニイツル嶋ナリ。シカルヲ國ノ名ニワクルナリ。

尾張國トハ。日本武尊東夷ヲシタカヘテ後。信濃國神ノ御坂ヲトヲリテ都ヘ御上リアリシトキ。東國下向ニ召具セラレシ源太夫ノ娘橘姬ノ事ヲ思召イタシ。山路ノ傍ニヲリイサセ玉フ。彼ヒメノスミ玉ヒシ東海ノカタヲ見像蹲居。ワカツマヤワカツマヤトナゲキ玉フニ依テ。其御言ニツケテ。上州信濃ノ塚ノ山ヲワカツマト號ス。アカツマトモ云ナリ。蹲居タマヒシトコロハ。ウスイノ峠ト號ス。而シテカノヒメノ源太夫ノ宿所ニタチイラセタマヒツヽ。其トコロヨリ白鳥トナッテ西ヲサヒテトヒサリ玉ヌ。其鵠ユキヲチツキタリシ山ヲ鷺坂山ト號ス。山城國ニ有レ之。カノ尊崩御イゼンニ。大神宮ヨリ給ヒシ村雲ノ劒ヲ先タテテ大神宮ヘカヘシ玉ヒシカ。尊ノ崩御ノ事ヲ。コノ劒聞テ。伊勢國ヨリトビキタリテ。尾張ノ海邊ナル楠木ニカヽリテナゲキ燒ルユヘニ。楠木トモニヤケニケリ。其木倒レテ田ニ入シカハ。田水ワキテ熱湯ノゴトシ。コレニ依テ其トコロヲ熱田ト號ス。又其劒ヲ件ノ楠木ニ入テ納タテマツル。其トコロヲ祝タテマツル熱

田大神是ナリ。カノ劍ハ素盞烏尊ノトキ。出雲大虵ノ尾ヨリ取リタリシ劍ナリ。スナハチカノ虵ノ尾ノ劍ナリ。カルカユヘニカノトコロヲ尾張ト號ス。但張ルト云字ヲ書テハリトヨムコトハ。虵ノ尾ニ有シトキ。コノ虵ノ針出シトキ。カノ肉張テイツルユヘニ張ノ字ヲ書ナリ。而シテコノ國ハ。美濃國南ノ端海際ニ入リ海水落ルニシタカツテノボリテ國トナルナリ。仍テ後ニハ張カ入ルハ國トモ云。張字ヲモチヒテ尾張トカキタル義アリ。又此國ハ。伊勢ノ安濃津ヨリ尾張ノ國ノチマタノ峠マテヲキワタル。其道一日半計遠淺トナル時ニ。涯遙ニイツルトコロナリ。

三河トハ。此國ニ三ツノ河アリ。一ニハ男河。二ニハ豐河三ニハ矢作河是ナリ。コノ三ノ河ニ依テ名テ三河ト云。又男神トハ河上ニ山神アリテ。女神男神一トコロニハスミ玉ワスタチヘダヽリ。其名ヨリ出ヲ男神河ト云コノ神世俗ニハ白鬚ノ明神ト申ストカヤ。次豐河トハ。市盛長者アリケル。カレヲミレバコノ河上ニスミ居玉フナリ。人屋サカンナル事卄里ナリ。彼民家豐ニサカンナルユヘニ。ソノナガレヲ豐河ト號。又矢作河ハ日本尊東ニ下向シ給ヒシ時。夷ノ兵トモ高石山ニテマチカケタテマツリシ由ヲキコシメシ。カノトコロニテヲヽク矢ヲ作玉ヒシユヘニ。ソノトコロヲ矢作トモ。河ノ名ニモツケ玉フナリ。

遠江國トハ。遠江トカイテ讀ユヘハ。近江國ニ都アリシマデ。彼ノ名ナカリケリ。ソノノチコノトコロヲ近江。遠キ國ナレハトテ遠江ト號ス。江ノ字ヲ近江トヨミ。又佐々那トモヨムユヘナリ。シカレバ遠津江トカケトモ。遠江トカキテ遠トフミトヨメリ。

駿河國トハ。昔ハ洲流河トカイテスルガトヨ

ム。ソノユヘハ葛絡級河ノ湊。漂洲アリ。彼ノ洲浪ノウツニシタカツテ。此方彼方ヘユク。然ラハ駿河ト云ハ。コノ河。ハヤキユヘニ駿ノ字ヲ付ナリ。富士ノ南海ニユラレ。浮ンテ平地不定ナルトキ。浪ノ打ヨセテ。コノ國ニヲケハヨツテウチヨル。駿河トモ號ス。又駿ノ字ヲ駿トモヨムコト。駿摩ノ二字ハ。洲ノ字相通ナリ。ユハウノ字連聲ナリ。ムノ字ハルノ字ト連聲ナリ。横モ一句ナリ。次駿ト其アリトコロヲカユル事ナリ。

伊豆國トハ。假名カキナリ。字ニハ出ノ名國ト可レ書ナリ。ソノユヘハ。東ノワキニ相模ノ國。西ハ駿河國。其中間ヨリ豆州ハ。ハルカニ海中ニ出ヘサシイデタル山ノ崎ニテアルナリ。故ニ出ノ國トガウス。一義ニハ。伊豆御山ニ出ル湯アリ。伊豆ノ權現ハ。コノ國ノ鎮守ニテ御座。コノ神ハ湯ヲ愛シタヱズ湯ノウヘヲハシリアスビ玉フナリ。シカレバ走湯出ツトモ準テ伊豆國トカナカキニ號スナリ。

甲斐國トハ。昔ハ富士山ノフモトニ。竹取ノ翁トテ竹ヲ種テアキナイケル者アリ。彼ヲキナ薗生竹林ニシテ。鶯ノ卵ヲ見付タリ。暖置ソノノチ程ヲヘテ是ヲミレハ。容顔優ナル寵姫トナリケリ。シカルニカレヲ養子トス。タケシ後ニカノ翁ガ田作リケルトキニ暇ナクシカバ。養母ノ訟ヘテイハク。隙ナキ時ニシモ。何トカヤ手助トナリ給ワザルトナサケナク云ケレハ。鶯姫コレニ怒ヲナシテ。富士山ノミネニノホリテ。岩ヲ蹴破テ湯ヲ走ラカシ。田ツクル人カレヲミナ燒石トナル。件ノ祖父祖母ハニゲテ白根ガミネヘユキ。又彼ノ田カケル馬モニゲテ。信州駒カミネニスミケル。其駒主ヲワスレズ。ツネニナレシカバ。カノ馬ヲコヽロニ入テ飼シユヘナリ。此ノトコロソノ飼國ト云。シ

カルヲナガキニ甲斐トカクナリ。黒駒ト云モ甲斐ヨリイヅルナリ。

相摸國トハ。足輕明神ハ。昔狩人ニテ御座ケルガ。寵愛ノ妻ニハナレテ。形見ニ其鏡ヲミルニ。他人ノ形ハナク。吾形ノミ見ヘケルハ。人無シテ己カ身アルト云ケル。其ヨリコノトコロヲ相摸ト號ス。其ユヘハカノ鏡ニ戀シキ人ノ形ヲ相摸ト云ナリ。本歌云。▲足カラノサカミニ行シ玉鏡箱根ノ山ニ明シアシタニ。次ニ問テ曰ク。彼ノ明神ノマシマストコロヲ足輕ト申スコトハイカン。答テ曰ク。昔コヽニ羽白熊ト云强キ山賊ノアリテ。人ヲモ馬ヲモ皆ヲヒワズラハカス。マタ岩山ヲ人馬モカヨワザヽル處ニ。岩ノカドニソノ綱ヲカケツケテタクリ上リテ。其ニ栖ケリ。山輪(サンリン)ヲハカケリ山ト云リ。後日本武ノ尊。當國下向ノ時ニ山賊イケトラレ奉ツテ。罪科アルノマヽニ白狀シケルニヤ。尊ノ御言ニ足カルク赴タリト仰ラレテ。カノ足輕ガスミケル山ヲ足輕ト號スナリ。コノ山ニテ舟ツクレハ。足カルクハヤク走ルトテ。足輕ノ小舟トモ號スナリ。

武藏國トハ。當國秩父ノ嵩(ミネ)ハ。其鎧武者ノイカリタツル體ナリ。コレニ依テ。此國ノ人ノ心タケキナリ。日本武ノ尊東夷ヲ追討ノタメニ下リ給シトキ。カノミネヘ詣テ御覽シテ。吾朝ノ人ノ心武事。コノミ子ノユヘナリ。依テ吾レト凶徒ヲシタカヘル大將軍タリシカレハ。御祈禱ノタメトテ所持シ給ケル。兵具ヲ彼ノ妙見大菩薩ノ御嵩ニヲサメ。ウズミヲキ玉フナリ。彼ノ武具ヲ岩藏籠(イワニテサメ)ラル。故ニ號シテ武藏トイフ。又武具サシヲクト仰有ケルニ云ヽ爾歟也。

安房國トハ。海上リタ處。又水上ニ白キ物ヲハ淡ト云。コノ國ハ干涯(キシ)ニテ水ヨリ上ニミユル

故安房(アハ)ト云リ。カナカキナリ。淡(アハ)ノ國ナリ。上総。下総トハ。ヅサトハ木ノ枝ナリ。昔カノ國ニ長サ百丈ノ楠木生タリ。時御門是ヲキコシメシアヤシキコトトテ。勅使ヲタテ見セラレテ。吉凶ヲ勘サセ給ケルニ。天下調伏ノ箒木(ホウキ)(ハライキ)也ト申ス。依テ彼ノ木ヲ切ラセシカハ。南方ヘ倒レリ。故ニ上(ツ)枝ノ伏ルトコロヲ上総ト云。下(ツ)枝ノ伏ル所ヲ下総トナヅクルナリ。

常陸國トハ。コノ國ハ塩得(サシ)満テ。民ノ家居煩ヒアリ。依曰汐干立テ常(トコシヘ)ニ陸トナラハ可レ宜。後ハ塩遠ク上ラズ。民安穏ナリ。故(ニ)ヒタチヲ常陸トカケリ。常ノ字イツモト云コヽロナリ。陸ノ字ヲクカトヨムナリ。陸地ト云コヽロナリ。又一義ニハ。日本武尊下向ノトキ。筑波根ノフモト新針懸(ニイハリカケ)ト云處ニ。新井(アラタニ)ヲ堀ラセ。自御袖ヲキヨメ給フ。カルガユヘニ衣手ノ漬(ヒタス)ノ國トモ號ス。カレハ是陸地ニ相應スルヲヤ。

〇東山道八ヶ國。又中山道トモ云。

近江　美濃　飛彈　信濃　上野　下野　陸奥　出羽

近江國トハ。湖水ノ名ナリ。近ノ字ヲ用ルヿハ。天智天皇ノ御時ミヤコヲ大津ニタテラル。其トキ大内ニ近キ湖ナルヲ以テ。近キ江ト云ナリ。問テ曰ク。近江ヲ又東々浪(サヽナミ)ト云ヿイカン。答テ曰ク。大津宮ノトキ。戌亥ノ方ニ當ツテ。山ノ洞ニ優婆塞有テ。經行念誦ス聲タヘズ。勅使此ヨシヲ奏ス。依天智天皇行幸ナル。彼トコロノ名并優婆塞ノ名ヲ御尋アリケルニ。答云。古山靈窟伏藏化々浪(ケヽナミ)長等山ト唱テ。ミヅカラ名ヲハコタヘズ。カキ消スヤウニ失ニケリ。其ヨリ近江國名ヲ佐々名實(サヽナミ)ノ國トモ云ナリ。サテモ其前寺ヲ建。崇福寺ト號ス。然ヲアラタメテ園城寺ト號ス。夫ヲ又智證大師ノアラタメテ三井寺ト號ス。初ハ御井(ト)號ス。是

天智天王御時也。四十代〆ノ天武天王ノ御產湯ニモチヒ玉フユヘナリ。其智證大師此御本尊ニ彌勒菩薩ニテマシマスユヘニ。三會ノ曉出世ノトキ。初湯ニ當心ニテ。三井ト名ヲツケテアラタメ玉ヒシナリ。又問テ曰。カノ仙人ノ近江ヲ佐々浪ト云シコヽロハイカン。答テ曰ク。ナミノナガレタツコトハ大海ノ如ク也。コノ湖水ハヒロシトイヘ圧。大海ニヲヨバズシテ。アマタ小ナミタツコトナリ。湖水江水ト云江湖ト云ナリ。

美濃國トハ。日本武尊東ヨリ還御ナサレ玉フトキ。素盞烏尊ノコロシ玉フ大虵靈怒ヲナシテ。大虵ノ形ヲ現〆路頭ニフセリ。依テソノ山ヲ伊鉡氣山ト號ス。カノ虵ノ道ニ伏シタリシ背ノヒレニ。尊ノ御足ヲフミアテ給シトキ。ソノマヽ痛五體ヲ責タテマツルニ依テ。其靈有ニコソ。水ニ御足ヲ冷シ玉フ。其清水ヲ醒井ト云。サテソノ虵ノ難ヲサラントシ玉フ爲。アトヘカヘシ玉フテ。又清水ニ御足ヲヒヤシ玉フ。コノ水ハハジメハ少シアリケルカ。尊御足ヒヤシ玉フトキヨリ。此井ニ水ミチタツタリ。此トキヨリソノトコロヲ足井トモ號〆。御足ノイタミ治シタリ。御足無痛。サテ其トコロヲ得美ト號スニ依テ。コノ國ヲ美濃ト云。一義ニ云。崇神天王ノ御トキ。東夷蜂起シケルニ。御門足井ノ東ノ原マテ行幸アリ。依テソノトコロヲ御野ト號ス。當代ハカシハバラト號スナリ。

飛駄國トハ。始ハ美濃國ノ內ナリ。然ニ近江ノ大津ニ城ヲタテラレシトキ。材木ヲエラミシニ美濃國ヨリマイリタリシ大工申テ云ク。カノ國ノサカイナル杣ニコソ。ヨキナル節モナキ用木ヲヽキトコロナレ。彼ヨリ宮木ヲメシアツメサセ玉フベキ物ヲト申ス。シカレバソ

レヨリ材木ヲ取イダサセ。大津ノ馬トモニテ。數萬駄ヲハコバセ玉ヘバ。トブガゴトクマイルトテ。讃テ飛駄ト號シ玉フ。次ニ杣人木道等ヲモ飛駄人ト號ス。宮木名所ナレバトテ。司ヲ下サル丶。其山ヲ位山ト號スルナリ。

信濃國トハ。木ノ中ニ級ト云木アリ。彼木ノ皮ハキワメテ白シ。中ニモコノ國ノ級ノカワハ。スグレテシロキナリ。是ヲ以テ。陬訪ノ御裝束ニ前後ニ用ヒラルナリ。依テ又級ト云義ニ二ツアリ。一ニハ級。二ニハ白ト云。コノ二義トリアワセ品ト云フナリ。日本記歌ニ曰。▲イモト我タチモヤラレヌ白駒ノ其アシウラノ土ハナシトモ。是ハ世俗ノ言ニ。芦毛馬ノカケルホドハ子上テ落チタル土ナリ。男女ナニニテモ寤シタニヲキヌ。保曾ニシノビテ付レバ。久ク子ルトナン。又信濃國ハ風ハゲシク。極テ寒國ナレバ。草木モ白ク霜枯ト云フ。本歌ニモ▲ミクサカル信乃ノ眞弓我引ハ馬人サヒスイナントゾヲモフ。一義ニハ。三草トハ枯ル丶コトナリ。三方變ノコトバナリ。コノ歌ノコ丶ロハ。三草トハ實成ル草ナリ。秋ノ草コレナリ。秋ノ草實ナツテ後カル丶。白ク成ルユヘニ白ト云ナリトテ。カルシナノトツヾケテ云。カルトハ枯コトナリ。次ニ信乃眞弓ト云コトハ。コノ國ヨリ木出始リ。日本武尊越前國鳥坂城ヘ征夷ノタメニ下向ノ御トキ。信濃國ノアル山中ニ宿リ玉フ。夜深キトキコシメシ玉フ。弓ノ絃ル打スル音アリ。尊コレヲアヤシミタマイテ。翁ニ是ヲ乞取給テ。スナハチ迯テ弓ト成シ玉フ。征夷ノ後還御ノトキ。弓ノ威勢ハ太キ由ヲ。サキノヤドノ翁ニ仰ラルトキニ。翁申スヤウ。其弓ノ在トコロヲ見セタテマツラントテ。南ヲハルカニ山中ノ大ナル湖水ノ鰭ニイタリ。又爰ノ兩頭ノ大虵ニ絃ヲ以テ。兩ノ口ニクワヘサセ

給ヘカシト申。尊メサレタリシ紫ノ御帶ヲトリイダシテ。大蚍ニナゲカケ玉フトキニ。大蚍兩頭ノ口ヲ以テ。彼糸ヲクワヘテ張タリ。ソノ体則ハチ弓ノゴトシ。カノ翁ハ諏訪大明神ナリ。大蚍ハ諏訪ノ御母ノ體ナリト云々。依テカノ弓ヲ信(シナ)ヲ乃弓(ノユミ)トモ。信乃眞弓𪜈號スルナリ。上野。下野。カノ兩國ノ中ノアイダニ。佐野笠ガケ野トテ。二ツノ野バラアリ。ソノ野ナカニ一ツノ河アリ。ワタル瀬ト號ス。又佐野ノ中河トテコレアリ。コノ二ツノ河ノ名ニツイテ。フカク祕スルコトアルナリ。次ニコノ野ドモヲ一方ニヨスレバ國セバキユヘニ。彼兩野ノ中ナルワタル瀬ト堺テ兩國ニワカツ。依テ河ヨリ西ヲバ上野ト云フ。河ヨリ東ヲバ下野ト云ナリ。又野ノ西ヲ上付(カミツケ)。野ヨリ東ヲ下(シモ)ニ付シカバ上野下野ト云ヘリ。タヾシ野ノ字ヲツケトヨムニ本文ハアラズ。ツケノヨミハ。カナカキノヨミナリ。又義ニヨミテツケト云ナリ。

陸奥國トハ。ミヤコノホカ近江國ニイタルヲ分トメタリ。中山道トハ。近江。美濃。信乃。上野。下野。奥。コノ六ケ國ナリ。依テ奥州ハコノ國ノ奥ナリ。又六ツノ字ヲ後ニ陸(ムツ)ト書テ。陸字ヲハミチ𪜈ヨムベシ。

出羽國トハ。奥州ノウチナリ。シカルニ允恭天王ノ御代ニ。鷲ノ羽ヲ度々御調物ニソナヘタテマツリケルニ御褒美アツテ。カノ羽ノイヅルトコロニナゾラヘ。出羽ノ國ト名ヅケ玉ヒシナリ。又カノ國中ニ平賀(ヒラカ)。鷹千島ナト云。鷲會(クワイ)シテスムナリ

上終

○北陸道七ケ國

若狹　越前　加賀　越中　越後　能登　佐渡

若狹國トハ。雄畧天王御時。美女諸國ヨリ尋テノホセヨト勅使下向ス。或形姿不足ナリ。或ハ老女樣々キラヒ玉フニ。彼國ヨリタテマツル女ハ。形貌モウツクシク年ノヨハイモ吉ケレハ。御門コレヲ御覽シテノ玉フハ。カタチウツクシクワカサモヨシト仰ラル、ニ依テ。國ヲ若狹ト號ス。又一義ニハ。龍宮城ヨリ男女二人若クヨリ來テ多年住居シケリ。シカレトモ不老。イツモ十八計ナリ。見ル人皆不思義ニヲモヒ。イツモ見ルニ汝ノ若サヨト云ケル。ソレヨリコノ國ヲ若狹トモ云ナリ。カノ男女二人ナカラ死シ。コノ人ナクシテ後ニハ神トナリ。上下ノ宮ト號ス。若狹ノ一宮ト申。是上下ハ夫妻ナリ。

越前。越中。越後者。神武天王元年ニ。日本ノ國見ントテ御下向アッテ。神武天王ノ大內ハ。大和國畝火山ノ戌亥ノ地ナリ。橿原ノ宮也。ソレヨリ山城近江ヲ經テ荒血山ヲ越玉フ。都ノホカ北陸道ヘ越ハシメ給フ山ナレバ。前ヘ越ルトコロヲ越前ト號ス。次ニ利並山ノ中コロ越ルトコロヲハ越中ト號ス。後ニ越トコロヲ越後ト號ス。是等ヲ三越路ト號ス。シカレハ景行天王ノ御代。カノ通路山嶮ノ峯ニ川武多シテ。國々ノ使ノ煩有シ故ニ。越前國ノウチ。江沼ノ郡。高松郡ナトヲワケテ江沼國ト號ス。日本武尊諸國ヲ廻リ（給カ）ノ時。荒血山ヲ越テ北陸道ヲ下リ給フニ。尊ノ兄大碓皇子ヲモハク。北陸道ハ難處ナリ。尊ノ勢スコシニシテハ。サダメテ夷等ニヲトサレナントテ。數萬ノ軍兵ヲ引卒シテ。カノ江沼國ニテ追付タテマツルニ。尊ヨロコヒ給テ。コトナルコトナシ一ノ賀ナリ。御方ノ御勢加ル二ノ賀ナリトテ。賀ト云ナリ。賀ヲ加ヘタリト仰セケルユヘ。江沼ヲアラタメテ加賀ト號スルナリ。

能門國ト者。コノ國ハ西ハ越前。東ハ越中ノ間ニシテ。ハルカノ海中ニシテ指イデタル國ナリ。シカルニ北國上下往來ノ船トモ。此國ヲ泊リ宿トス。故ニ能キ門ト云ナリ。海上ナル塩合ノ名ナリ。シカレハ能門ナリトテ能門國ト號ス。其ヲ今ハ登ノ字ニ改ルナリ。

佐渡ト者。都ヨリコノ國ヲ東ヘ下ニハ。カノ國ハ左ナリ。然ニ海舟爰左ニシテ渡リ行國ナレハ。佐渡ト號ス。今ハ佐ノ字ニカク也。

○南海道六ケ國

紀伊　淡路　阿波　讃岐　伊豫　土佐

紀伊國ト者。本來ノ國ト書ク。孝靈天王ノ御代ニ。熊野權現來ノ國塩崎ト云トコロニウツラセ玉フ。其トキ老翁老女二人ノ者ヲ引ツラネテイリ玉フトキニ。土民向テ云。汝等ハ何ナル人ソ。老翁ノ答テ云。我ハ奇異ノ人ニ誘引セラレテ。是ニ來ト云。其ヨリコノトコロヲ紀伊ノ國ト號ス。シカレニ紀ノ一字ニシテ足ヌスヘシケレトモ。伊ノ字ヲ加ルハ。キトイト連聲ノ五音ニ依テ云ツラナルナリ。又カノ翁ハ紀國造ノ先祖ナリ。熊野權現ノ御名覽ナリ。

淡路トハ。伊弉諾尊大海原サクリ給シ鉾ノ滴リ。混堅テ一國トナレリ。伊弉諾尊コレヲ覽初メ。アハヂヨト仰セラル丶ニ依テ。アワヂト號ス。其ヲ淡路トカクコトハ。鉾ノ滴淡堅ルユヘナリトハ。浪ノ上ニハ道ナシ。シカルニ浪上ニ陸イデハジマルナリ。故ニ路ノ字ヲ書ナリ。路ハ陸ニアルガユヘナリ。次四國トハ。伊弉諾伊弉冉ノ命。淡路國ニ下リテ居給テ。一女三男ヲ生ミ玉フ。先ツ小國ヲ作リ。四人ノ尊ヲ居ヘ奉ルトコロナリ。

阿波者。蛭子ノ宮ノ御座國ナリ。蛭子トハ手足モナク。目鼻モナク。骨モナク。出入息計ナリ。ケイキアワト見ヘ給キ。シカレハコノ尊御座

國ナレバ。阿波ト號スルナリ。
讃岐國ト者。天照太神ノ初御衣カヘ玉フ故云爾也。別ノ御コロモニ服アラタメ玉フヨリ產(サント)云詞ヲアゲタテマツリ。コノ讃ノ字ヨミニヨツテ。讃岐トカキテ。是ヨリ横句ノ連聲ナルヨミナルユヘナリ。
伊與國ト者。カナカキナリ。爰ニ月神ノマシマス國ナリ。カノ國月神ノ光リ日神ニモヲトリ玉ワストキ。諸神達ホメタテマツテ日神ニヲトリ玉ハヌ。イヨ〳〵光明ナリトノ玉ヘハ。依テ其國ヲ伊與ノ國ト號ス。本字ハイヨ〳〵トカク。今伊與トカクナリ。
土佐國トハ。素盞烏尊マシマス國ナリ。此尊ハコヽロトク武(タケク)。器量モ兄ノ尊達ニハ勝タリ。時ニ神達尊ヲ奉レ譽。彼尊心ノ利サハ兄ノ尊達ニハ勝玉フト仰セアリシユヘニ。ソノ國ヲトサト號ス。土佐トハカナカキナリ。俊(トサ)ハ早ク利武(トクタ)クルナリ。

○山陽道八ケ國。是ヲ山陽道トハ。山ノ陽ト云義也。又中國トモ云也。

播磨　美作　備前　備中　備後　安藝　周防
長門

幡摩國トハ。神功皇后ノ御トキ。夷國爲ニ征罸一。攝津難波浦ニテ御舟ヲツクラセ玉フ。ソノトキ舟ヲ大海ニイタサンタメ。態(ワザ)ト江堀ヲホラセラル。爰ヲ難波ノ堀江ト號ス。カノ浦ヨリ舟ヲタテ室ノ泊ニ着キ給キ。御ウラノ玉木ヲワスレサセ玉ヒテ。御舟ヲ又難波津ニ漕還(コギモト)ス。依レ之彼ウラヲ大輌トモ號ス。大トハ國王ノ玉木ナレハ敬ヘリ。輌ハ玉木ノ名ナリ。次ニ大輌ノ御津トハ。尊ノ御舟ノ泊リナリシ故ニ申ナリ。又カノ津ヲ三津トモ云。其故ハ敷津。高津。難波津。是ヲ加テ號スルナリ。左テ又カノ御舟イタサントスルニ。霖雨。暴風。連日ヤマサリケリ。サレトモ有ル日ノ晴間ニ御舟ヲヲシイダ

シテ。的涯ト云トコロニ着キ玉フ。霖雨ノハレマニ。爰ニ御渡給シトコロナルユヘニ。カノトコロヲ晴間ノ國ト號ス。シカルニハレヲハリト書コトハ。竪ノ一句相通ナルカユヘナリ。又幡摩ト云ハ。皇后コノトキ武庫藏ニシテ御幡ノ手ヲ開キ上サセ給シユヘニ。其ナニ應シテ云ナリ。

美作國トハ。天武天皇ハ天智天皇ノ御弟ナリ。大友ノ王子ハ天智ノ御子ナリ。又天武ノ后ハ大友ノ王子ノ御姉宮ニシテマシマス。御息處ニ成玉ッテ後。持統天王ト申タテマツル。トキニ天智ノ御子大友ニハクライヲスグニ讓リ玉ハス。御舎弟ノ天武ニ代ヲ讓給テ崩御成ル。然ルアヒタ大友ノ王子吾レコソ代ヲタヽシクハ持ベキ者ナレトモ。御伯父天武天王ヲレ奉打シ給ニ。天武ノ后コノコトヲキコシメシ。御弟大友ノ謀叛ヲ發シ給フ由ヲ。大ナル堅田鯉ノ中ニカクシヲサメ。天武天王ニツカイ告シラセ玉フニ依テ。アチコチニ隱レ行キ玉ヒケルトキ。彼國ハ隱家多キトコロト聞召シテ。彼處ノ山中ニ迷入ツ。疲レニ臨ゾミ玉フトキ。有山賤ノ舊家ニ立ヨラセ玉ヘハ。老翁老女有テ。折節酒ヲ造ケルホトニ。美甘間ナル酒ヲ美ナカラソナヘタテマツルニ。天武天王御感有テ。カラ計美甘酒ヲ作ケル主カナト仰ケルニ依。其處ヲ美作ト云ナリ。ミマトハ實ウマシト云義ナリ。然ルヲ美シト云文字計ヲ美トヨムコトハ義ヨミナリ。サカトハ酒ナリ。カトケトハ相通一句ナルカユヘナリ。依テ作ノ文字ヲカキナラフナリ。

備前。備中。備後ハ。神功皇后難波津ヨリ幡摩國ヲ過。牛窓ノ津ヘ着玉ヘルトキ。其トコロノ長マイリテ。マヅ供御ヲ備ヘタテマツル。次又備フ故。前ヘニ供御ヲ備タル處ヲ備前ト號ス。

次備トコロヲ備中ト云。其后備ヘルトコロヲ備後ト號ス。其ヨリ打ツレテ供御ヲ備ヘ奉ル。餘リシゲカリシトキニ。マウハヤ供御ニ飽タリト仰有シ處ヲ安藝國ト號ス。是ハカナカキナリ。サテ其トキ御舟備後國ヲ過サセ給シトキ。御鞆舟中ニ有リケルガ。御舟ノトモベニトビ上リケレハ。ソノトキカノ鞆ハ夷國ヘ越トテコソ有ラントテ。御舟ヲヨセ玉ヒ。依其處ヲ鞆ノ津ト號スナリ。

周防國トハ。昔カノ國ノ海浦浪風荒フシテ。イサゴヲヽク打アゲ。イソ山ト成テ後ハ。左右無ク浦風モアタラサル程ナリケレハ。其名ヲ沼防國ト云。其ヲ周防トカクコトハ。一國海邊連テ浪ノウツニ似ユヘニ。周ノ字ヲ用タリ。本字ハ沼防トカクナリ。

長門國トハ。山陰道ノ龍王ノ中ニ。赤目トテ眼ノ赤魚龍アリ。大龍王ナリ。勅使ニ山ノ陽海ヘユクコトアリ。然ルニ爰ヨリ奥ノ國ヲ廻レハ。海路ハルカナルヘキユヘニ。直ニ國ノ中ヲ蹴破テ水ヲ通シ。佐テコソ通リケリ。カルガユヘニ其處ヲ赤目國ト云。ソレヨリカノ處。舟着ナリヨキマト定メ。赤間津ト號ス。赤間カ關ト云トコロ是ナリ。然ハ赤目トモ書ナリ。彼赤目ノ魚龍。此處ヲ南海ナレハ。ウラ〳〵マテ住吉カルベシト。ツイニ彼浦廻門ニ住ケリ。コノ赤目命ノ長キ物。住サカヘル門ナレハトテ。其處ヲ長門國ト號。又爰ニ赤門ト云ントキモ。目ノ字ヲカクヘシ。マシテ堅ノ相通同句ナルユヘナリ。

○山陰道八ケ國

丹波　丹後　但馬　因幡　伯耆　出雲　石見　隱岐

丹波國者。篠村ノ東。大江山ノ西麓大ナル池アリ。昔彼池大蛇アリテ。近邊行來ノ人ヲ多ク害

シ食ス。或トキ優ナルイキ、マレノ女。皮池（彼カ）緒ヲ通リケルニ。大蛇是ヲ見付テ則飲ケリ。依彼女ノ夫。忽ニカノ池ニ呌入ル。大蛇又出合テ此男ヲ呑タリ。男腹中ニテ刀ヲ以。大蛇ノ五臓ヲ寸々ニ切割ク。大蛇コラヘズシテ大血ヲ咄間。カノ男生ナカラ咄出サレタリ。然ニ其池ノ水紅ニシテ。土マテモ赤ク成。荒波ヲタヽヘタリ。去間カノトコロヲ丹波國ト號ス。カノ池ノ山ノ際ヲ大江ト云。ソコナル江マテ血ノ波立滿タリ。彼男ノ郎徒トモ。主ノ男ハ蛇ノ口ヨリ血ニ染テ咄イダサレナガラ。狸々ノ面ノ如ク歸リケルカ。有野中ニテ行アフテ郎徒其主ニ向テ。何クニ行玉フゾヤト問ヘバ主此由ヲシカシカト語リ聞セケリ。郎徒トモ云ケルハ。サレトモ御身生テ別コトナシト云。此トコロヲ生野ト名ツケタリ。

丹後國トハ。カノ國ノ後ナルユヘニ云ナリ。又日本國ノ體ハ。南ハ前。北ハ後ナル故ニ。丹後ト云ナリ。

但馬國トハ。昔應神天王ノ御代ニ。高麗國ヨリ初テ馬ヲ獻スル。然トモ是ヲ飼ベキ樣ヲ不知。山ニ放タルニ依テ。彼山ヲ生馬山ト號ス。又其後高麗ヨリ人渡テ申。岩石峯。海邊。塩風當處放置飼ヘハ。駿馬ト成テ吉ト申ス。依テサアリヌヘキトコロ尋ルニ。コノ國ノ海岸ニカカル處ヲ求得テ馬ヲ追放ゾ。其後子トモヲヽク生ケレハ。馬ノミコノ國ニ充滿シケリ。故ニ多馬ノ國ト號ス。又其ヲ立馬ト云コトハ。允恭天王ノ子。木梨子輕ルノ王子。餘リニ物惡クマシマシケレハ。打奉ントテ宣旨ヲ下サル。大泊瀨皇子是ヲ襲。輕ノ王子逃テ多馬國到給ニ。御馬痛テ不レ行。故ニ立馬國ト云也。彼馬ヲ捨給テアユミ行ヲチサセ給トテ。皇子ノ御言多クノ處マテ落行ベキナリ。但シ馬無シテ歩行ナ

リトモ。敵ノナキ處ヘタニモ行ナハト仰有シ
ニ依テ。其ヲ因幡ノ國ト號ナリ。
伯耆國トハ。地神手摩乳足摩乳ノ娘ハ。八岐大
蛇ニ飲レントスルニ依テ。彼ノ稻田姫山深逃
テ遠處行トテ。姫ノ詞ニ父御聞御座有ヘシ。不
レ然者計女人ノ御身トシテ。其方ニ居玉フ大蛇
ニ飲レ給ナヨ。母ハ來給ヘヨト呼ブ處ヲ。母來
ノ國ト號。伯耆トハカナカキナリ。
出雲國トハ。彼大蛇スミシトコロ。常ニ八重雲
ノ立シ故ニ。出雲ノ國ト號ナリ。手摩乳栖シ處
手摩闇ト云ナリ。又云出雲國ニ御母サクサト
云處アリ。伊弉諾伊弉冉ノ御座ストコロナリ。
其間ニ稻田姫ノ宮。八重垣ノ明神アリ。其前ニ
小川アリ。夫レヲ簸ノ河ト云ナリ。其上ヲ八戸
ノ坂ト云ヘリ。又淵トモ夫レヨリ龍出ルナリ。
石見國トハ。コノ國ニハ。高角山。岩崎山。十三
山ナト云テ。何モ高名山ニテ。國モミヱ渡サル
ニ依テ。石見國ト號ス。彼岩山モハルカノ奥ニ
アリシヲ。赤目ノ龍蹴破テノチハ。海中ニ岩計
處々ニタツテ見ヘル故ニコソ石見ト云ナリ。
隱岐國者。昔石見方遠ク陸地連テ。奥中マテ有
ケリ。其後魚龍ノ王。赤目長門ノ國ヘ通トテ。
山岳ヲ蹴破シ時。陸地連テ一嶋ト成。故ニ沖ノ
國ト號ス。今ハカナカキナリ。

○西海道九ヶ國。九州鎭西トモ云。又筑紫トモ云也。

筑前　筑後　豐前　豐後　肥前　肥後　日向
大隅　薩摩
二島　壹岐　對馬也

筑前。筑後。肥前。肥後。日向國ハ。景行天王ノ
御代ニ。夷國征罸ノタメ發向トテ。紀伊國ヨリ
御舟ヲヲシイタシテ。筑紫ノ地ヲ指漕渡玉フ
ニ。海上出日暮レ夜ニ入峯遠山邊更ニミヘズ。
ホトリヲシラサルユヘ舳艫前後ヲ失フトキ
ニ。左ノ後ニアタリテ星ノ如ナル火ノ光リ見

へ。又前ヘノ艫ニ當リ。大ナル火幷テ見ヘケレハ。尊梶取ニ向ノ玉ク。彼ハ何火ゾヤ。船頭申サク。シラサル火ナリ。爰ニ知ヌ人ノ火ニアラズ。依テシラヌ火ノツクシト仰。舟其方ニワタルニ。難風俄ニ吹キキタツテ。御舟ヲ磯ニ吹付リシカラハ左右ヘ押イタスナリ。漕渡ニ。又荒磯ニ吹付タリ。依テ前ニ御舟着トコロヲ筑前ト號ス。後ニ付タル處ヲ筑後ト云。ツクチク同シ。ツトチト相通一句ナルユヘナリ。又御舟押浮テ。彼ノ火ノ見ヘントコロヲハ。代懸ニ漕付。依テ前ニ火ノ見シ方ハ火前ト號ス。後火ノ見シ處ヲ火後ト號ス。シカルヲ後ニ火ノ字ヲ改メテ肥ノ字ニカクナリ。又御舟ノ面ニ火ヲ向漕シ方ヲ火向ト云シヲ。後ニ火ノ字ヲアラタメテ。日ノ字ニカクナリ。其故カノ國ハ本向ノ國マテ日ニ向。故日向ノ國ト云ナリ。サテ御舟カノ浦ニ付テ御覽スルニ。三人ノ翁有テ。コノ火ヲ燒。天皇汝ハ何ナル者ソト御尋アルニ。翁答テ申サク。我是伊弉諾伊弉冉命。晩宿リ給トキ。上津瀬ニ手洗トコロノ沼神ト成玉ヒテ。又東國ニ有テ諏訪大明神是ナリ。中津瀬ニテ給處奥沼神ト成テ。又東國ニ有ル鹿島大明神コレナリ。下津瀬ニテ洗給トコロノ長沼靈神ト成給テ。住吉一皇子是ナリ。カノ三兄弟。上筒雄。中筒雄。底筒雄ト號ス。吾身ハ足也云々。天皇言ク」汝等ノ助ニ依テ。我命全キコトヲ得タリ。彌天顏近付テ皇基ヲ守ルヘシト詔給フ。依テ櫓原ヨリ攝津國ニ遷リ海岸ニ着タマフ。則住吉トテ鎮座シ給フ。サテ住吉ノ郡ト號シ。社ハ件ノ三翁ナリ。四宮三輪ノ明神ナリ。住吉四所ト號ス。又明神住吉ヘ遷給シトキ。日比受給トコロノ藤ヲ海ニ取浮テ。彼寄タラン所ヲ。我社ト領スヘシト誓給。カノ藤付タル所ヲ藤津。藤崎。藤代ナト云。皆住吉社領ナリ。然トモ藤代ハ紀

國造是也。我靈ノ領トテ。接(マヽ)津國熊崎ト云トコロニ立代ヘリ。藤代其處ナレハトテ藤代ト號。又彼藤代替地ヲハ熊崎ト云ナリ。サレハ藤代ハ熊野ノ社領ナリ。攝津熊崎ノ里ハ。住吉ノ社領也。クマサキハ本クマ野領也。次住吉ノ明神本ハ日向領座シ給シ間。ソノ本意忌レ玉ハテ。今モ西向ニ御社ヲ造給ヘルナリ。又住吉四所ノ明神ノ内一社ハ。玉津嶋ノ明神ニテ。和歌ノ三尊ト示現シ玉フナリ。

豐前。豐後國トハ。景行天王彼國ニ大内ヲ建テ給。依之民家富貴セリ。國中豐ナリ。然トモコノ國ハ便宜惡キ樣ナレハトテ。都ヲ西ヘ引テ建ラル。ユヘニ前ニ宮造セシトコロ豐前ト云。後ニ宮造シ處ヲ豐後國ト號ス。又大内ノ宮ヲ豐津(トヨツ)ノ宮ト申ナリ。

大隅國トハ。三角ニ嶋崎アリ。カルカユヘニ大角(スミ)ト號ス。角與隅同字ナリ。

薩摩國トハ。昔地神ノ代ニハ。早人(ハヤヒト)ノ神通リシ時。カノ國ヲ颯(サツ)ト蹴割(サキ)テ。直グニ其間ヲ通ラント云シヨリ。今ハ颯間(サツマ)廻門(マワリト)ト云テ。廣五六十町長百餘町ナル□有ナリ。

壹岐國トハ。彼早人(ハヤヒト)神颯間(サツマ)ヲ蹴割(ケサキ)通テ。海路ヲ遠ク行タルトコロナリ。カルカユヘニ行キ(ユ)ノ國ト云ヲ。カナカキニ壹岐ト云ナリ。

次問云。九州ヲ筑紫ト號スル故イカン。答テ曰。允恭天皇ノ御代ニ。異國ヨリ日本紫ヲタテマツル。依紫付島(テムラサキツキシマ)ト云。シカルニ紫生野(ムラサキノ)ト云ナリ。山城國ニヲナシ名アリ。又鎭西ハ。カノ國ニテ昔異國ヲ防シナリ。日本ト高麗トハ云敵國ナリ。依之高麗國ノ亂ヲ防キ鎭西ナリ。日本記。風土記曰。怨敵鎭ル兵(ツハモノ)筑ト云ナリ。鎭ハシヅムルトモヨムナリ。西トハ新羅。高麗。百濟コノ三ケ國ハ。日本國ノ西ニアタルユヘナリ。

○都ヲウツサレシ事

神武以來四十二度ウツスナリ。其次第。神武ヨリ景行マテ十二代ハ。大和國都ヲタテ。他國ヘハウツリ玉ハス。　成務元年近江國志賀ノ郡ニ都ヲ立テ玉フナリ。　仲哀天王二年ニ長門豐浦ノ郡ニ都ヲ立テ玉フナリ。　應神天王大和國輕嶋豐明宮住玉フナリ。　神功皇后ヲナシ州磐余稚櫻宮ニ居シ玉フ。　仁德天王元年ニ攝津國難波ニウツリ。高津ニ宮住シ玉フナリ。　反正天王二年河内國ウツヽテ丹比柴籬宮住シ玉フナリ。　允恭天王和州ニウツヽテ。飛鳥八鈎宮住シ玉フナリ。　雄略天王廿五年ニ同州泊瀬朝倉宮ニ住玉フナリ。　繼體五年ニ山城綴喜ウツヽテ十二年。其後乙國宮ニウツリ。其後磐余玉穗宮住。　宣化天王元年大和國ニウツヽテ。郡々ニ都ヲ立テ　他國ヘハウツリ玉ハス。　孝德天王大化五年攝津國長柄ニ遷テ。豐崎宮住シ玉フナリ。　齊明天王大和國岡本宮ニ住玉フ。　（天カ）大智十年近江大津宮住。　天武御宇飛鳥淸見原宮住。　持統天王。文武二代。藤原宮住シ玉フナリ。　元明。元正。聖武。孝謙。廢帝。稱德。光仁七代。奈良ニ立テ玉フナリ。　桓武天王延曆三年十月二日奈良春日里ヨリ長岡京ウツヽテ。十年シテ　正月大納言藤原ヲ。小黑麻呂紀小佐美ノ大僧都玄珍等ヲツカイテ。當葛野郡宇多村ヲ見セラル。四神相應ノ地也ト申ス。依テ爰ヲ愛宕ノ郡ニ御座。延曆十三年十一月廿一日長岳京ヨリ京ヘ遷テ。帝王三十代星霜三百八十年也。蓋謂又其後八十代高倉院時。兵庫福原ニ京有ル也云々。

風土記下終

以異本今往々訂正之梓者也。

寛永五戊子年九月吉旦　中村孫兵衛　藏板

以宮内省圖書寮本謄寫校合畢

# 續群書類從卷第九百八十

## 雜部百三十

### 正元二年院落書

年始凶事アリ　國土災難アリ　京中武士アリ
政ニ僻事アリ　朝議偏頗アリ　諸國飢饉アリ
天子二言アリ　院中念佛アリ　當世兩院アリ
ソヽロニ御幸アリ　女院常ニ御產アリ　社頭回祿アリ
內裏燒亡アリ　河原白骨アリ　安嘉門白拍子アリ
持明院牛アリ　將軍親王アリ　諸門跡宮アリ
攝政忌アリ　前攝政進從アリ　左府ニ官運アリ
右府ニ果報アリ　內府ニヽヽアリ　花山出家後悔アリ
四條權威アリ　アマリ　按察使ニカシラアリ　大弁ニ院宣定アリ
除目僧事ニ非據アリ　嵯峨殿ニハケ物アリ　祇園ニ神輿アリ
五條殿ニ天狗アリ　園城寺ニ戒壇アリ　山訴訟ニ道理アリ
寺法師ニ方人アリ　前座主冥加アリ　當座主治山ニ驕事アリ
高橋宮ニ嘉壽アリ　綾小路ニシソクアリ　大僧正ニ月蝕アリ
正僧正察會アリ　圓滿院亂僧アリ　櫻井ニ酒宴アリ
聖護院ニ穩便アリ　東寺行遍アリ　南都ニ專修アリ
大乘院馬アリ　學生ニ宗源僉範アリ　武家過差アリ
聖運ステニスヱニアリ

正元二年庚申正月十七日院御所落書云々

# 延陀丸おとし文

物このむくせ。老のひかみに。猶まさり侍る事こそ。返々我なから。もとかしくおほゆれと。昔よりこのみたき事の一つあるを。いまた好出し侍らぬる。此世の恨とも。こん世の障ともなるへき也。馬牛よろつの鳥獣。涯分求いたす事もありき。茶香の具足はやる比は。伊勢物風情尋出て。茶のひ口つ大葉あつめて。からみたてたるも。心一つには物好の數とも。思ひなし侍るへし。井のうちの蛙の水をたのしみて。宮殿樓閣とおもひたるも斷也。大鵬といふ鳥の一羽は。千里をかけるも。斥鷃とて夢はかりなる鳥の。一二寸をとふも。たた其たのしみは。同し事とかや申せは。心一つを慰事は。誠に不足なくや。すへてこのむになき物は人にて侍る也。わつか成。家の内の事を。あはせんとおもふたに。其器はなし。ましてことひろく。人をも世をも。たすけ侍るほとの人を好み出して。帝にまいらせたくおほゆる事の。いまたかなはぬに。其外の物このみは。ものうく侍る也。中比も匡房邦綱なと云し人々は。皆攝籙大臣の家のうちに。賤きなりしかとも。後は天下の重寳となりき。彼邦綱の大納言は。武家さまの事をも。偏に我心にまかせはからひき。又廣元なと云し人は。いやしく。數ならぬものにて有しかとも。鎌倉の右大將。いとおしくせられて。日本國の事をもはからひ申て。今の世に地頭なと。をかれたるも。此人の申なされたるとそ承侍し。かやうの人を尋出してこそ。物このみの灌頂とも云侍るへけれ。さりなから。人をしる事は。唐物茶香の具足なとには。似るへからす。何として。よしあしをも。やかてわきまへしるへきと申人の有し。それはまことに。大事にて侍るにや。さてこそ昔より。人をしらせ給御門をは。聖主ともかしこき御代共申し。人をしらせ給はぬ御時は。みたりかちなる事のみ侍る也。大かた臣をみる事君にしかす。子をみる事父にしかすと申侍れは。なしかかみとして。しもを御覧せぬ事は侍るへき。たゝわろしとはおほしめせとも。しりそけらるゝ事もなく。よしとおほしめせとも。賞らるゝ事のなきにてこそ侍らめ。又人をこのみ。賢を求め給つゝ。やかて人の善悪はあらはるへきにや。唐物鳥獣なとをもてあそふ人も。其事になれてこそ。物のよしあしはおほゆへけれ。佛と神との境界。聖と聖一度目をあはせ。蓋をかたふけて。胸の中のしらるゝ事は。さいにあるましき事也。只よのつねの人のよしあしは。世わかくれなき物をや。十の目のみる所。十の指のさす所。なしかかくれはて侍るへき。孟子といふ人の申たるは。

左右の人のよきと申共。又惡きと申共。用ゆへからす。只天下の人の。同し口にいふを。もちゆへしとかやとぞ侍るなる。けにも物のよしあしは。さすかに名譽による事也。世の末は。惡き事もよくなり。よき事もあしくなる事あれとも。物の上手人の稽古なとは。かくれぬものぞかし。唐の文にも。我國の日記にも。讒言といふ事を。あさましき事に申侍る也。白を黒く。くろきをしろく。申なし侍るをは。蠅といふ虫の塗物なとにはこをしかけ。しろき物には。はこを黒くしかけ侍るに。たとへたるにや。唐國にも。さしもめてたかりし成王と申御門たにも。周公旦とて。いみしき聖人の。めてたく國を治侍りしを。あしき弟の二人ありて。讒奏申しに。帝誠におほしめして。しりぞけられき。其時雨風あらく。世の中さはがしくて。草木も枯しほみ。秋の田のみもそんせしうへ。周公旦。成王の父武王の命にかはらんといふ願書を。物の中より求出されて。是程に忠ある人なりけりとて。やかてめしかへされて。讒奏したるおとゝ二人は。誅せられてこそ。世はめてたく侍し。源氏大將。繼母のあく后。惡大臣なとの猜にて。須磨へなかされ給ひし時。雨風やます。世さはかしくて。めしかへされし事は。この周公旦の例を。つゆもたかへす。書たるこそいみしき女の才覺とはおほえ侍れ。又めてたきためしに申延喜御門も。時平のおとゝの讒奏によりて。北野の御事も出來し事也。鎌倉の右大將の時は。梶原景時か讒によりて。あまた人の損して侍るとかや。後には景時もあさましき死して侍けめ。人のあしき事は。何よりも讒臣にて侍とかや。人はとのならひにて。したしくうときによりて。其けちめ有事は。つねの事なれとも。たゝ心のたくにまかせて。さは〳〵と。虚言なと申侍る事は。淺ましき也。まめやかの道理なとを。ひか事に申なさんは。只其事はかりにても有ましき也。頓て國の政のたかひて。佛神の御心にも。かなふましけれは。まことに心をかれ侍るへきにこそ。かやうの事。やかてきは〳〵となけれとも。意得ぬれは。すへて其人にははかされ侍らぬ事也。狐狸なといふものも。それとしりつれは。あやまちのなき事にて侍とぞ承し。扨又人の世のならひ。名利思はぬ事はなし。寶物もほしく。官位もねかはしく侍れは。それに付て。をのつから。人をもつゐせみなとする事は。つねのならひ也。されはとて。まさしきひか事を。道理にいひたてゝ。其よに物を多とらんは。たゝたゝすくに。盜人なと申ものは我身一つにてこそあれ。よそをはそこなふ事有へからす。かやうならん輩は。たちまちに國をも人をも損し侍へけれは。よく〳〵。其器を定らるへきにや。世の事には誠

に慾もなく。名聞もなき事は。有ましけれとも。さすはしらひたらむ人は。さほとの道なき事は有ましけれは。淺深厚薄に付て。沙汰あるへきとそおほえ侍る。さて又人の恩をしらす。不儀に過分なる事の。世の末には多侍るにや。臣として君をかたふけなとし。子として父をあやまつ程の事は。尋常なき事なれは。申に及はす。上を輕しをのれをさきとする。たくひのみ多侍にや。大形恩を思はさるは。鳥獸にをとり侍るとそ申。心なきたくひ猶恩を報事おほし。人として。いかてか思ひしらさる事有へき。むかし韓信と云し人。わかくては。あさましくまつしかりしかは。釣なとをもしけるにや。浦人の家に行たりけるに。飢にのそみ侍るにやとて。さまさまにもてなしたりけるに。此韓信後に御門にめし出されて。國の管領なとに成て。此海人の家に行て。色々の寶物をもたせて。昔の心さしを報せんと申けるに。浦人申けるは。只貧をあはれみて。奉りしにこそあれ。必報を報せられ侍るへしとは。更に思はすとて。寶物をも皆返してとらさりけり。韓信も一度のもてなしをむくひけるも。やさしく。又浦人の心さしも。誠に有かたきためしにそ申つたへたる。一飯も必むくふとは是也。此比のやうは。我身のかなしきおりは。手をすり足すりをして。其事やみぬれは。やかてあくる日より。さる事の有しとたにも。思ひ侍らぬ事。いと心うきわさ也。もとより。心もあり。世にもなれたる人なとは。さる事あるましけれ共。人にもましらぬものゝ。俄にいみしくもなりぬれは。やかて心おこりせらるゝ事にて侍にや。されは虞舜に初は民にて有しか。帝の位につきて後もたゞ。もとの民の心をうしなはて。世をもめくみ。人をも恐れやすけれとも。あやうきを忘ぬとこそ申侍れ。當時の人は。やかて奢心地侍るこそ。返々も詮なくおほゆれ。大形唐國にも。大臣公卿以下定りて。其位にあたりたる祿のあれは。さのみ法をこえて。朝恩なとたふ事はなし。末のをもきものは。必おるとて。根よりも枝葉の刻たる事は。常はわろき事と申侍れは。かまへて上に下のまさる事は侍るましき事にや。いくらも申度侍れ共。先さしあたりたる事はこれらにて侍る也。又諸の道を。能々あきらめ給ふへき也。男はいか程も稽古才覺あらん人。僧はいかにも祈行淸淨にて。驗有てたうとからん人。其外詩歌管絃に至迄。一道の堪能ならん人をは。誠にめくみ給へきにや。さてこそ人も稽古をし。もろ〳〵の道も興る事也。扨も人のよしあしは。いかなるをさため申へきにか。をろかなる心にては。わきまへかたく侍ると。唐の文五經三史なとを初として。聖人達の書をかれたる物には。皆人のよしあしを。

手を取てをしへ侍る也。今更事あたらしき事なれと。彼文なとをみさらん人のため。はかなき女房。おさなき人の爲に申侍也。先人の本とは。聖人を申也。是は獸にたとへは。麒麟。鳥にたとへは鳳凰のことし。すへて世に出る事のかたく侍ことくに。今はさる人も有ましけれは。中々細に申ても詮なし。堯舜夏禹殷湯王文王周公旦孔子なとより外は。まさしき聖人と。世にもゆるし。人も用る事なけれは。愚なる詞にて。とかく申へきにあらす。我國も聖德太子大師達なとをや。さも申へからむ。此聖人と申程の人は。萬かけたる事なく。天地と心さしをひとしく。日月と德をならへたる程の事なれは。とかく申に及はす。只尋常は。先賢人君子のふんさいをこそ。よき人とは申侍らめ。是たに今は。有ましきこそ無念に覺侍れ。賢人なとの位になる程の人は。更に我身といふ物を思ふ事有へからす。偏に國のため。民のために心を碎き。をのれによりて。あしき事をはかゝる事もなく。うときによりて。よき事もかくす事もあるましき也。只道理と云事一つを。いさゝかの偏頗もなくおこなひて。世をしつめ人をめくむ也。天をあかめ親をうやまひ。兄弟の道をたかへす。朋友の禮をみたらす。よきをえらひあしきを捨て。忠あるものを賞し。科あるものを罪するも。皆そのふんさいに。たかふましき也。名利をこのます。財寶をおもくせす。もとより國のたから賢人君子也。金玉の類をもてあそふ事なし。かやうなる人は。賢者とも君子とも。いはれ侍るへきにや。是程の事も。今の世には返々あるましけれは。只よのつねの人の。ちと神佛を心かけ。國をも民をもたすけ。さのみ我身をさきとせす。賄賂獻芹にふけらす。よろつの事道理といふをさきとして。私のなからんに。今の世には返々よき人とも申へき。大形三皇の代に。至極よろき人と申しは。末の世には又よき人にてあるへしと。唐の文にもみえたり。かやうにのみ成ゆかは。人いかにとか。なりゆかんと覺侍れとも。政によりて國の興る時は。又すへて昔にもたち及ふ事のあるへき也。五百年に一度。聖人は出侍るとかや申せは。あはれ其時に。あひ侍らはやと覺る。又才覺のいみしくて。唐大和の事をしりたる人も。それによりて。心のよき事はあるましき也。たとひ何もしらぬ人にてありとも。をのつから。道理をしりたらんそ。學問したる人とは申へき。いかに才覺ありとも。道理に背きたらん人をは。學問せぬと申へしとこそ。孔子も仰られけれ。北條の時政より。九代たもちたる事も。都て才覺なとの。すくれたる事はなかりしにや。僅に貞觀政要。御式條なといふ物はかりを覺て。私なくおこなひ侍し程は。すへて

世もしつかに。國もめてたくそ侍し。僅なる家の内を。おさめ侍らん事たに。たやすからす。まして日本國の事を。執沙汰し侍らん程の事は。誠に人の器量をも選はるへきにこそ。それも私と云事たにも。さい／＼となくは。わつらひ有ましきとそ。ふるき人は書置たる。人の内には諫臣とて。常にわろき事を。申侍る人の有か。何よりもめてたき事にて侍る也。薬はにかけれとも。つねに身をたすく。毒は甘けれとも。後に病をなす。昔の賢き御門は。よき諫言を聞ては。其人を拜し給ひて。賞翫せられし也。さりなから此比の人は。いかによき事なれ共。我心にたかふ事をは。わろしといひ。わろき事なれ共。我心にかなふ事をは。よしと申侍へし。かやうならんいさめことは。只我心に任て。いふ事なれは。すへて國の爲も。其しるし有へからす。誠わたくしなからん人の。君の御志もふかく。ふた心なく申侍らん言の葉や。けに世のたすけとも成侍らん。先人を能々心得給ふへき也。其人の心の中をも振舞をも。御覧しすまして。今は心やすき程に。おほしめして後こそ。政をもはからせ。世をもあつけ給ふへき事なれ。されは堯と申御門は。舜をめし出しては。先萬の事をせさせて。至極こゝろみて後。天下の政をはあつけ申されし也。聖人猶かくのことし。ましてよのつねの人の。やかてよしあしを。御覧し定る事は有ましき也。うへは穏便にて。したの利根なる人の。過分になからんは。世のためも人のためも。よかるへきと覺侍るあまりに。いたつら事申侍るついてに。ちと女の有様をも申侍るへし。大かた女といふものは。わかき時は父にしたかひ。人となりては男にしたかひ。老ては孝（マヽ）にしたかふ物なれは。我と身をたてぬ事とそ申める。いかほとも。やはらかになよひたるか。よく侍る事にや。此日本國は和國とて。女のおさめ侍るへき國也。天照大神も。女體にてわたらせ給ふうへ。神功皇后と申侍しは。八幡大菩薩の御母にて。わたらせ給ふそかし。新羅濟（マヽ）をせめなひかして。此盧原國をおこし給ひき。ちかくは鎌倉の右大將の北方。尼二位殿は。二代將軍の母にて。大將の後は。ひとへに鎌倉を管領せられ。いみしく成敗有しかは。承久のみたれの時も。此二位とのゝ仰とてこそ。義時は大名にも下知せられしか。されはとてあなつり申へきにあらす。昔は女體の御門の。賢くわたらせ給ふのみこそおほく侍しか。今も誠にかしこからん人のあらんは。世をもまつりこち給ふへき也。又おんなの事。色なる事共は。光源氏にこまかに申侍れは。今更申に及はぬ事也。雨の夜のしなさために。ことつき侍るへし。是も心おさまりたらん人をこそ。家とうしともさためて。誠のよるへ

ともし侍るへけれと。くれ〳〵かゝれたれは。只男も女も。うか〳〵しからす。正直に理をしりたらん人より外は。何事もいたつら事にて侍るにや。裝束する人の一切の衣文をは。わきへかき入るとかや申やうに。萬の事は。道理といふ文字にこもりて侍るとそ。慈鎭和尙と申人も書をかれ侍る。いと有かたき事也。今申たる事は。皆かしこき文共のむれを。假名に書なし侍れは。いさゝかも私の言葉はなき也。又外道とて。世にひか事なる事あるにや。弓矢取人は約と云事の。かたく侍るへきとそ承し。承久の亂の時。院宣をうけ文にも。武士は約を變せぬよしをそ。義時朝臣もかゝれたりし。唐國には盟と申て。牛の血をのみて。起請なとのやうに。契約せし也。今も一族なと申ては。かやうなる事侍るにや。大形君子は比せすとて。よき人は黨をたつる事有ましき也。唐國にも。くにのみたれし時より。牛の血なとをのみけるにや。三皇五帝なとの代には。さる事もあらしとそおほえ侍る。唯上をのみあふきて。私の一族なとはなきこそよき事なれ。小人は比すと申て。わろきものゝあつまりて。黨をたてゝよき事なとも。申やふりなとする事は。返々あしき事也。盟と申侍る事も。只合戰の時のわさにてあはれ。今もさやうの時は。一族もさも有ぬへき事也。さしたる事もなき時。私の契約は。詮なき事とそおほゆる。抑近比浪風さはかしかりし秋津嶋のうち。今は人の國まて。居なから遠きをしたかへ給ふ時になりぬ。彼漢高か三尺の劔も。これにはしかしとそおほゆる。末の世には。今の時をこそ。又めてたきためしも引侍るへけれは。いよ〳〵かしこき御政もあれかしと。老のあらましにはし侍れは。螢のさえつりとかやのやうに。初もはてもなき事を申侍る也。さ夜のねさめに。思ひのこさぬふし〳〵を。曉の灯のかすかなるねやに。おき居て書つけ侍也。

この一巻は。ある歌書の奥に侍しを。何となくよみて見侍れは。君をいさむる心のいたりは。仁賢のをしへにそむかす。書つられたる筆のあやは。詞仙の詠にも似たり。なをさりのものゝ所爲にあらし。是をひらきみるより。みつからなとか見て。目をなくさむるはかりは何のかひなし。天下國家のためにかきたり。おほやけの御たからやと思ひて。門下の書生助六に書うつさしめ。

防州公に奉り侍。さためて作者の心にもかなひ侍へし。又此書の名も作者もしれす侍れは。今此書をおとし文とや名付侍へからん。君にみせまほしき心かよひたれは。さも侍なんかし。

寛永十二季冬上旬　　延陀丸上

# 拾烈集

第一　景物十

春山花盛　秋林紅葉　穿夜澄月　重山込霞

波上巖船　秋暮嵐葉　美女笑顏　走船風緣

客前猿樂　有闘音曲

第二　在曲物十

競馬勝負　上半射平　御前相撲　上馬振舞

高名咒師　帝王行幸　花時鞠遊　殿上儀式

調半簺闋　僧綱法服

第三　哀物十

深夜琴音　花中笛聲　慈家松風　浪上管絃

吹物詠聲　霞下鶯音　山郭一聲　秋夜鹿音

後夜鈴音　曉月要文

第四　貴物十

道人聖僧　深山行人　極樂迎接　美音讀經

山中香煙　曼陀羅供　止寛仕僧　智者論義

道者説法　後夜念佛

第五　心細物十

遠國船路　幻(幼カ)稚孤子　深山獨住　貧家月光

遠渡小舟　戀思人別　遠旅絶粮　獨身遁世

無藥病人　老耄無使

第六　畏物十

渡海雷鳴　山宿狼犬　大疫發熱　夜計強盜

隣家追覆　師主物狂　天狗山寺　髻離刀突(ツキ)

合戰先陳　高人惡事

第七　樂物十

長者獨子　富貴聟取　在家富貴　能治國司

上戸大酒　名酎心地　富貴無病　高家活計

諸道得仁　春野走馬

第八　悅物十

主君深思　所望得官　慮外代官　念子藝能

疎人有情　師祖心吉　戀人道連　願物忽得

得利買賣　敵人降參

第九　惜物十

智者短命　美女若死　學匠無道　清僧落墮
一從者死　美人顏疵　吉物失亡　一子無能
吉馬馳死　草木花萎
第十　梟物十
深泥長袴　無氏仁立　人妻憑男　無音歌好
無力腕持　河立自讃　木登自嘆　朝高讀經
食時口立　日暮遠路
第十一　愼物十
大事意見　愚者教化　不習醫道　上下人短
下戸數盃　夜行多言　隔心推參　貴賤奇合
遠路財寶　無心所望
第十二　惡物十
女性公人　貧者見物　出仕雜談　衆會大食
陳頸睡眠　酒狂物談　老者出仕　上臈市立
武士臆病　法師腕立
以上
天神御作分也

## 十番物あらそひ

わかき女あまたすむあたりに。いとすき心あるおとこなん。常はかよひすみ。たちきゝなとし給ふな。内にはいかておもひよるへき。うちとけ物かたりし侍り。いとわかきこゑにて。かすめる空けしき。いとえんなるよの有さまかな。あはれむかしの光けんし。とうの中將ならんおとこに。青海波まはせて。又さころもの中將のやうならん人に。ふえふかせ。なのなのさうそくかつけなとして見はやといふに。又かはなる人我は。たゝ六條院の御かた〳〵の。物のね聞給ひしやうに。ことにもむらさきのうへは。あくまてにほひくわゝりて。露のまよりさき出たる。かはさくらなみる心ちして。和琴なつかしうかきならし給ふに。あかしのうへは。いとさまようもてつけ。さ月まつはな橘の花も實もくして。なしおりたるなみるともいふへきに。つかひなしたるひはのはち音。めつらしう聞ゆるに。女三の宮は。きさらきはかりのあなやきの。はつかにしたりはしめたらん心地して。うくひすの羽風も。みたれぬへきふせいにて。きんひき給ふ。女御の宮は。おなしやうなるなまめきすかた。すこしにほひくわゝりて。御もてなしよし有て。かたはらにならひ。はなきやうにおほえ

て。さうの御ことひき給ふ。あはれにすみのほりてきこゆるに。又大將の御子のきんたちの。ふえあはせ給ふ。ふえの音のおひさきおもひやられて。たの〳〵おもしろう。めつらしき御あそひを。あわれかたはらにて。きかはやといふを。又すこしあされはみたるこゑにて。それをかたはらにてきゝゐたらんは。中々うらやまし。何事もわかみにあらぬは。何のかひかはあらん。思事聞えてあかはん。女御君も中々心くるし。關白の北のかたなといはれて。なんし三人嬢三人もちて。一人をは女御にたて。玉の臺にすゝをき。又あるはやむことなき人にもてなさせ。なとこをはとり〳〵に殿上させ。きよけなる出入をみたらんは。いかにうれしく。おかしうもあらんかしといへは。うしろなる人。それはあまりにつくりつけたらんすくせのやうにて。いさゝかおかしきふしも有へからす。たとへは光けんしにても。在五中將にても。いひつたへしやうに。かたちなまめいたらん人におもはれて。すこし都はなれたる所にすへをかれ。しつかなる春の明ほの。さひしき秋の夕へには。そらふく風峯にみゆらんとなかめくらし。たゝならぬおきのうは風に。心をうこかし。更ゆくかれをうらみ。まつ夜なからの月をかこちなとして。たまさかにまちいたらん心ちは。いかにめつらしうもあかす。あはれにもあらましといへは。また居たるかとあひみたる中のちきりは。なか〳〵うしろめたきおり〳〵も有へし。かたちはあはん人のとし月をへて。おもひわたらん人を。つれなくのみもてなし。さすかに情なからす。さるへきおり〳〵は。一くたりをもみせ。又みつからも。うちしきらんおりは。きかせんに。猶かくてはやましと。おもひわひくらしかたらん春の日。あかしかれたる秋の夜。在明からにも。あなかちにしのひかきつらんと。こと更よしはみ。かみのかなともなへてならぬを。うちしめりたるはなのえたに。露もをとさて、あさほらけのほとに。ちいさきわらはなとして。さしをきたらんをひきときてみんに。なけきわひれぬよの月になと。さま〳〵かきつくしたる文のかすつもらは。おかしうあわれにもあらんかしといふに。又かたはらより。かれはあまりにこは〳〵しうれちけたるわさ成へし。なへて夕へになれ。あしたにわかれ。かふりのひたい。くつの音。かり衣の袖。さしぬきのつま。そのうつりかの有さまなと。さま〳〵におもひくらへ。信太よりのちえの葉のかすをつくし。かほかたちすこしおとろへなは。伊勢をのあまに身をやつし。ありかさためすうかれ出て。或時は大原。高を。さかの山・伏見。深くさ。こはたやまゝかちにてゆかんうちのさと。かた野のまし

はおり敷て。よとの河せの月もみむ。今はたおなしなにはか
た。かのゆきひらの中納言の。もしほたれにしすまのうら。
光けんしの大將の。たひねのとこのあかしかた。ふれさしと
めむ淡路しま。こゝろつくしのもしのせき。ひれふる山を松
うらかた。わかみこそとしはおひぬれわかのうら。しほさし
出のはまちとり。すみよしはつせよしの山。はなのふるみち
分つゝも。さひしきけふのゆふまくれ。飛鳥の寺のかれのこ
ゑ。名もおそろしや。しら浪のたつたの山路をしなへて。に
しき織かく神なひ山。むかしのことを思出て。引手あまたの
ふたみかた。かの齋宮の御息所の。ふりすてゝとよみ給ひし
鈴鹿川。やかせの浪をうちわたり。いせのはま荻はる〳〵と。
行かへる人にあふさかや。せきのいはかとふみならし。しか
のからさきうち出のはま。かのたゝのりの詠しけん。むかし
なからのやまさくら。うつろふかけの色もかも。今はかひな
きかゝみやま。みのゝ中山なか〳〵に。荒ぬときゝしふはの
せき。きよみかせきやたこのうら。たち出てみんするかな
る。うつの山邊のつたのみち。なをはる〳〵と分て行。心の
すへにさても猶。思そひつるふしの山。もえしけふりもいま
はゝや。たえてそやみしみちのくの。信夫のさとの(マヽ)のはてま
ても。命あらんかきり。なかめありき侍へらはゝおもしろか

ろへしといへは。又ある人。あまりにそれはうきたるやうな
らん。我はたゝしなたかく。おもしろく。さるへき人に。みえ
しなからのそのまゝに。ほかゆく事もなく。夜かれなく。も
ゝとせにひとゝせたらぬほとまても。おもかけははなれす
かはゝやといふを。又おとなしやかなるこゑにて。あな心や
すの御すくせや。しのふの山にまよはんこそおもしろから
め。おほろ月夜の内侍のかみ。木からしのふくにつけつゝ。
まちしまになとおとろかし。女三の宮のけふりくらへ。かや
うにわりなく。命もたゆとこひわひて。袖のしからみつゝみ
かれ。まくらにたにも。しらせしと思こそ。あはれもあさか
られといへは。あな心くるし。我はたゝ人にもみえし。世に
すまは。春ははなのもとにて日をくらし。夏はいつみに臨て。
すゝしき木かけのした。やみのほたるをあはれみ。秋はたの
むのかり。山の鹿っ野邊のまつむし友とせし。月をあふきて夜
をあかし。嵐にたへて琴をしらへ。たつた浪ふくかせにうた
をよみ。あとなくあらんといふに。又かたはらより。それは
あまりに物さひしや。しなにもよらしかたちをもいはし。つ
りするあまのおきななりとも。よろつのたからにあきみち
て。思事なくあらんほとの。おもひ出やあるへきといふもあ
り。またおくのかたより。うちなきたるこゑにて。五障三せ

うの身をいかにしても。たすからんとはねかひ給はて。たゝうつゝともなきことを。の給ふこそはかなけれ。電光朝露のうちに。なにものかあらんとて。

かせさはくをさゝかうへの玉あられしはしもみえぬ世をはなけかて

といふを。かはにてあくなるあまの君なん。あなゆゝし。かくおほしよれることに。さらは御返事きこえさせんとて。たすくへき身とはたさらにしらねとも。たかためにかは世をもいとはん。といふに。みな物いはすなりぬめりとそ。ころはやよひのすへつかたの事なれは。花はのころ木々もなくふりくれて。ものさひしかるよひのほと。御まへよりすへりて。うちまとろまんとしけるに。人四五人ならひゐて。さまさまはかなき事なと。かたり侍りけるついてに。くちをかしき人の有けるか。あはれうつくしき人もかな。このさしきになきて。言葉をかはして。なくさまはやなといふほとに。われも人もいわきならねは。思ひのおもひことにて。心のいとの。みたれかはしきふしを。みしかき筆のすさひにしるしつけて。左右にわかむ。そのかち劣をさため給ふへし。

一番　　左

しなにもよらし。みるめもいはし。心つかひゆへ有て。きやしやにやさしく。何となくほれ〳〵として。月雪はなもみちのおり〳〵。あはれなるゆふへ。かなしきあしたの心にも。なさけあること葉を。水くきのあとにまちみむ時は。われも心つかひせられて。返ことはいかゝなとおもひて。はつかしかるへき人そおもしろからん。

右

おらはおちぬへきはきの露。ひろはゝきへぬへき玉さゝのあられは。心をかれてたのもしからす。たゝなさけのかたふかくして。松山の浪こえさらん人の。みるめあく事なく。うつくしくして。春のあけほのゝ。かすみのひまの。かはさくらを。みる心ちせん人に。ちとせ萬代とちきらはや。

判云。ひたりの月雪。みきのかすみあけほの。とり〳〵にて。いつれとさためかたけれとも。霞のうちのかはさくらの色をくれんこそ。はなのなこりにやと。れんなき心ちして。

二番　　左

わつらはしく。心とりにくき人はうるさし。何事もやす〳〵として。おかしく物いひ。はなやかにて。にき〳〵としたる人によかるへき。

みき

その人に。ひとりをさしてはむつかしと。きくにしたかひて。ともかくも有なむ。其うちに心とまりて侍らん人の。さしもぬしつよくて。せきもりのひまをまちて。うちぬるよな〳〵。心をつくして忍山にまよはむほとは。おもしろからん。

左けにもとは覺れとも。まよはむ柱の心つくしまさりぬ。

三番　左

みるめはおくれたりとも。おくゆかしうしめやかにもてなして。こと葉すくなに殘おほく。心ふかけならん人はすくれて覺ゆへし。

右

さのみ心ふかけなる人もむつかし。たゝみるめたによくは。引てあまた成とも。われをつゐのよるせにして。いとゝ心にくゝは。うきもつらきもわすれて覺ゆへし。

このつかひは左かちとや申へからん。

四番　左

ふりもみるめも。思ふやうになくとも。心つかひしと〳〵としてこゝろやすく。ゆく涙の音きかさらん人そ。うちとけられぬへし。

右

としの程は廿に過。三十にたらぬ人の。ふりかゝりしんしやうに色このみにて。いかにも上らうしき人そよかるへき。

左はうちとけ過。右はまたあまりに。けつゝいたる人のふり。にくけなりとも申すへし。

五番　左

ぬしつよき人を心つくして。一夜のゆめの枕をならへ侍らんは。わかかたふかくなりまさりて。思ひ川のしからみを。こゆる涙の音こそきかまほしけれ。

右

人にとかめられすして。色あるおち葉ひろはゝや。おもひ川のしからみを。こえんなみのおと。引かへたる落葉の色こそ。めつらしく候へ。

六番　左

同様なる人はめつらしくもなく。つきのうちなるかつらは。およはぬえたなれとも。雲のかけはしわたるみちあらは。たくひなき光を袖にうつして。一夜のちきりをむすはむこそ。此世のほかまての思出成へけれ。

右

およはぬえたは。おらんもてつゝなり　かけのした草とて。思ひくたされんも　心ちあしかるへし。おなしほとなる人こ

そ。よかろへけれとも。いつもそはん事はいかゝ侍へらん。又あま衣のまとをならんも。袖のしほたれかちなるへし。吹かふ風の音つれをもきかて。とこのちりのつもらぬほとに。なれまほしくこそ侍れ。

ひたりは。雲井まてあかりて。たくひなき月のひかりに。袖をかされん事。まことにこの世の外までの。おもひ出成へし。右の下くさの色も。ことはりしられておほゆれは。これもかちまけいつれと申かたし。

七番　左

いまた人のむすはて。うらわかきはつくさに。まくらかりては。露の情わすれつへしともおもひえす。

右

もりのした草おひぬとも。世なれたる人のおくふかくかと有て。うらむへき事をも。にくからぬほとに。うちかすめかこつへきことをも。なをさりにもてなして。心ある人にとりのれをきかてありたくこそ候へ。

左はなりひらのあそむの。人のむすはん事をうれへけむはつくさの色。たれもさこそとをしはかられておほゆ。又かゝろ人となれて。過けんもりのかけくさもゆかしくおほゆれは。此草あはせも。いつれと申かたし。

八番　左

せゝのむもれ木。あらはれはてゝのちはあやなし。あふ夜まれなる閨（闇カ）のうちにまよひて年月をふるとも。よそのみるめはゝかり。かりそめにも。涙のにほ鳥。したにのみかよふへき心ちおもしろからん。

右

色も香もこのましからす。たゝひたすらに。我よりもほかをしらさらん人に。たちはなるゝおもかけもなく。そひとけはやとこそおもひぬれ。

ひたりはあまりにことのみたるやうなり。右は又人めもおもはぬけしき。にくけなりとも申へくや。

九番　左

すかたみめならぬ人あまたあらんは。いつれもめうつりしておもしろかるへし。おなしところにへたてなくましりゐて。さかつきめつくらして。思さし思ひとりにて。あくるをもくるゝをもしらて。こうたましりにあそはゝや。

右

たとへは光けんしのやうに。色このみなる人に。むらさきの上の御ほえのことくにて。世はたくひなくおもはれはや。むらさきの色はくたけて覺ゆれとも。また人あまたの中にゐ

ては。めうつりせん事けにもなり。さりなから。その人とさしておもはぬことは。うか〳〵しき色とこそ思候へ。

十番　左

おなしえに。つなかるゝたななしをふれ。いかにそや。たゝいつとなく。よせてはかへるなみのうき舟に。まくらをして。ねなん人こそおもしろからめ。

右

かす〳〵の御ことの葉とものほかは。なにと申へきふしもなし。たゝこの御ねかひともを。ひとつものこさす。身にしりてすきはや。

ひたりはよせてはかへるうきふねは。あまりにあたなみたかく候て。たのもしからすや。右ののこりなき御ねかひは。よしあしわかれとも。ありて世中はてしなければ。のこさす身にしりてすきなん事。けにもおもしろかるへくこそ候へ。

さても此一帖は。御宮つかへのくるしみを。わすれんために。すちなきくちすさひを。しるしつけけるなるへし。たれ人のみ侍りて。批判のこと葉はそへられけるそ。あらうつゝなのくちすさひともや〳〵。

おもひよりたのむかひなきもしほくさかきあつめてももくつはかりそ

返し

もくつとはたれかおもはむたくひなくみるめかひある筆のすさひを

# 四十二のものあらそひ

むかしならのみかとの御ときにや。折ふしとうくうの御方へならせおはします。二月中の六日の比なるに。なんてんのさくらは。夕はへにあかぬ色をそへ。みきはの柳は。もへきのいとをみたしたるかとうたかはれ。よろつなかめおはします。とうくうに仰らるゝは。春と秋と何れをとらぬことなれとも。猶ものゝあはれをとゝめ。ことにふれてかなしきは。秋の夕にそ侍ける。もろこしには春をあわれみ。わか國には秋をあはれむとこそ見えて侍れ。いかにさため仰らるゝにやと仰けれは。中宮の御かたより。みとりのうすやうに。

大かたはあらそふ比としりなから心ひとつを秋にさためむ

と遊して。小しうの君して奉り給ふ。御門是を御らんして。女はうは秋をあはれむこと。まことにとてわらはせおはし

ます。うへもいつよりも。つれ〲に覺しめすほとなれは。是をはしめとして。四十二ものあらそひあるへしとて。御前にさふらはぬないしのめん〲に。御使にて有けれは參り給ふ。いろ〲のうすやうともに。さま〲の事をあそはして。中くうの御かたをはしめとして。今四十一なれは。くきやうてん上人女ほうたちも。かほうちあかめてさふらひ給ふ。

上より

　　　　月の夜と

　　　　雪の朝と

ふる雪はつもらぬかけもあり明の

　月そくまなき冬の山里

東宮の御かたより

　　　　にし山と

　　　　ひかしの山と

月かけの出つる山もわすられて

　入るたにすむ我こゝろかな

東宮の御母きさいの宮より

　　　　しくれと

　　　　松かせと

わきて猶あはれなりしを松かせの

　時雨のをとにかよはさりせは

兵部卿の宮より

　　　　ころもうつをと（マヽ）

　　　　夜ふれこくと

ころも打やとにはゆめもかよひけり

　ねられぬものは夜ふれこくをと

御門の御をとゝ中務の宮より

　　　　やまひにくすりを得たると

　　　　こひしき人にあへると

うれしさはいつれも同し色なれと

　戀しきかたにひくこゝろかな

弘徽殿の女御より

　　　　かせになみよる柳と

　　　　露にしほるゝすゝきと

青柳のかけふむ道にやすらはん

　まれ〱すゝきはさもあらはなれ

清涼殿の女御より

　　　　おきと

　　　　はきと

むらさきの露もあたなるなかめより
身にしむものはおきのうは風

桐つほのみやす所より
てと　うたと
はま千とりそれとも見えぬあとそうき
わかのうらにはまよひはへとも

皇后宮の宮より
かひおほひと
てまりと
くろかみのみたれてさはくまりよりも
かひにたほへる袖そなつかし

東宮の御おほち右のおとゝ
うくひすと
ほとゝきすと
うくひすのさへつる春のあしたより
なためつらしきほとゝきすかな

大將
うとまるゝ身と
あかぬわかれと
かはる身はうきに戀むかたもあり
あかぬわかれのみちそ悲しき

關白の御ちやくし平大納言殿
あか月の戀と
夕へのおもひと
あか月の袂の露もかすならす
夕への袖のぬるゝけしきは

二條の中納言
えたに色こきもみしと
淋しき庭の落葉と
紅葉はなさそふあらしもつらからす
庭のにしきにしくものはなし

九條の宰相
みめと
しほと
しほやかぬうらそ淋しきからさきの
松のすかたも何にかはせん

宰相の中將
みめのよきと
ありかのあると
かつらきの神はよるともちきりけり

しらすありかたつゝむならひは

近衛の大將

花と

紅葉と

もみしはのちりゆく秋の夕より

花にものうきかせをうらみん

三ゐの中將

たのめてとはぬ夕暮と

かへるあしたのなこりと

あか月のわかれの袖の露よりも

とはぬうらみそやるかたもなき

頭の中將

うらみあると

思へと叶はぬと

なからへはせめて逢ふせもありぬへし

おもはぬ人をまつそくるしき（かなイ）

六條院の中納言

菊と　梅と

白きくはうつろふ色を見るもうし

のきはの梅のかをやしのはん

四位の少將

みねにさけふさると

鹿のなくねと

うきことはまくらの夢に聞そへて

つまとふ鹿のねこそつらけれ

右衛門督

みねにわかるゝよこ雲と

とふさとのけふりと

とを里のひとすしたてる夕けふり

みねゆく雲にまかふものかは

五條の宰相

ゆめと

文と

はかなしや稀にまちみる玉つさは

みし夜の夢を何にかはせん

花山院の侍從の君御年十一にて

いはれの木々と

軒のしのぶと

さひしさはいはれのまつやまさるらん

のきのしのぶはあまりみなれて

常盤の大将
上陽人か恨と
王昭君か悲しみと
なけき行道の草はの露よりも
まと打雨やそてぬらすらん
堀川の大将
しうとめと
まゝはゝと
むさし野のゆかりのくさもつらけれと
なをうきものはおやならぬなや
中宮のしうと
鹽燒の翁と　つりするあまと
しほかまの烟になるゝ衣より
つりするあまや袖ぬらすらん
内侍のかみ
女郎花と　なでしこと
おみなへししほるゝ野へにましれとも
なをうとまるゝやまとなてしこ
雲ゐのかりと　みぎはのなしと
はかなしやみきはのなしのうき枕
雲井の雁におよふへきかは
逢てあはぬ戀と　ひたすら逢さる戀と
逢みての後の心にくらふれは
むかしはものをおもはさりけり
ふじと　やまふきと
池水のそこさへにほふ藤なみに
たとへてみしはきしの山吹
卯の花と　つはきと
玉つはきやちよふりたる色見えて
よをうの花もなにゝかはせん

かやうにあらそひ遊しける所に。ゐんのさいしやうまいり給ひて。此よしをそうし給いければ。とりあへすに。にようゐんともにわたらせおはします。御かと思ひもよらぬ只今のきやうかう。何事にかとおとろきおはしましけるに。つれつれに侍る折ふし。かゝる御遊ひと承はりて。まいり侍と仰らるゝ。いまた神の御あらそひは侍らすとて。

伊勢と　加茂と
久かたの天てる月のひかりより
あらそふものはかものみづかき
やはたと　熊野と

いわしみつ淸きなかれもわすれれと
身にしむものはみくま野のうら

らいさんと　せつほうと

なむちゝん(イニしらん)よりすちりたる夢よりも
乙女かなれやていしていさん

其後御かとより仰らるゝは。みめよくしなたかき上らうの。よもきがむぐらにとちられて。淺ましくすたれてなくさむものとては。くわんけんなしうたをよみて。日を暮たへかたからんと。又としより老たる翁の。せにのうへにたはらによりくかゝりて。おきなかものこそわかものよと。わなゝきふるはんと。いつれなるへき。若き女房の御方へとて。御すゞり下りければ。ないしのすけとて。中宮の御かたの女ほう。

あしきなしとみの小川の流れより
こけむすやとの月をなかめん

かうきてんのみくしけとの。同し心を

流れあるとみの小川にすみなれて
こけむす宿はよそになかめん

源氏の女三の宮。かしは木の右衞門督の父を。しとれの下より。みなられてあさましきと。又うきふれの兵部卿の御事を。かほる大將にしられ奉りて。すへの松やまと。かきつかはされたりしこゝろと。何れかつらかりける。

みやうふの君

うきふれの身をこかしけるおもひより
しとれの下にしくものそなき

おほろ月夜の內侍のかみに。こうきでんのほそ殿にて逢そめし源氏のこゝろと。おちはの宮に。夕霧の大將のをのにて見そめしわりなさとは。いつれなるへしとおふせけるとなん。

東宮の御めのとご大納言のきみ

おきそめし落葉かうへの露よりも
をほろ月夜のかけそ悲しき

手のよからんと　詞のたらひたらんと

しき島や大和ことはのあれぬれは
みるかひもなし水くきのあと

戀と　すかたと

よそに見る花のすかたを忍ひても
逢みぬことそしつこゝろなき

柏木のゑもんのかみのむなしくなりしおもひと　有明の大將の山ふかき悲しさと

おもひ入月はこん衣を頼むとも
きえしけふりの行かたそなき

これまて四十二首になりぬれけ。色々にさためおはします中にも。ときはの大将の上陽人かうたにて。まつてんかゝりけるへ（マヽ）くけるへき十一首に。てんかけおはします。そのゝち御さかつき上りけるに。十六夜の月なれは。やう／＼すみのほりけるに。いろ／＼の御そ。色々のなをし。かりきぬのすかたにて。とり／＼にひきものふきもの給りて遊しけり。中宮の御かた。唯今二十一にならせをはします。しろき御こそてに。柳のいろのきぬ。おかしけに着なし給ひて。さうの御琴によりいさせおわします。唯ならぬことにて。このころさとへいてをはしますへきを。御門はあかすかなしく覺しめしけり。兵衛の君なをしけさしはなやかにて。よこふゑふき給ふ御さま。うつくしともおろかならぬは。中宮の御かほによくかよひけるも。ことはりなりと。御門は御羅んしける。御門は御琵琶。院の御かたわこん。りちのしらへにて。なりおもしろくきこゆるに。右のおほいどの御子。あさくらうたひてさうがし給ふ。東山院の御子小侍従のきみ。いまたわらはすかたにて。ひちりき吹給ふ。女院のくれないの御きぬかつけさせ給ひけり。かりそめの御あそひとおもへとも。こと更身にしむはかりおもしろく。やう／＼あけかたになりゆけは。御門もくわんぎょならせおはします。ときはの大將は内侍の君のおもかげ。かたときもわすられすをほしこかれ給ふ。そのゝちあさからぬことにそきこへぬ。

四十二のものあらそひ終

以宮内省圖書寮本謄寫校合畢

大和田五月
藤倉喜代丸
三宅松之允
尾崎明憲
校

昭和二年九月廿五日印刷
昭和二年九月三十日發行
昭和十六年九月三十日六版發行



發行者　東京市豐島區池袋二丁目一〇〇八番地
續群書類從完成會代表者
太田藤四郎

印刷者　東京市豐島區西巣鴨二丁目二五七四番地
丹羽誠次郎

印刷所　東京市豐島區西巣鴨二丁目二五七四番地
忠義堂印刷所

發行所　東京市豐島區池袋二丁目一〇〇八番地
續群書類從完成會
振替東京六二六〇七・電話大塚七一八

（配給元　東京市神田區淡路町二ノ九　日本出版配給株式會社）